

茨城県教育財団文化財調査報告第295集

こも かむり きた  
菰冠北遺跡  
すみ やき ど ひがし  
炭焼戸東遺跡

主要地方道筑西つくば線バイパス道路  
改良事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 20 年 3 月

茨城県筑西土木事務所  
財団法人 茨城県教育財団



炭焼戸東遺跡・菰冠北遺跡全景



炭焼戸東遺跡出土遺物集合

## 序

茨城県は、県内の主要な都市間をおよそ60分で連結する道路網の整備を目的とする「県土60分構想」の実現のため、高速道路やこれを補完する国道、主要地方道等の幹線道路網の整備を進めております。

主要地方道筑西つくば線バイパス道路改良事業も、そうした交通体系の整備と県土の一体的な振興を図るために計画され、整備が進められているものです。

この事業予定地内には、埋蔵文化財包蔵地である菰冠北遺跡及び炭焼戸東遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県筑西土木事務所から埋蔵文化財の発掘調査事業の実施について委託を受け、平成18年8月から平成19年3月まで発掘調査を実施しました。

本書は、菰冠北遺跡及び炭焼戸東遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県筑西土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、筑西市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成20年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 人見實徳

# 例 言

1 本書は、茨城県筑西土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年度に発掘調査を実施した、茨城県筑西市（旧真壁郡明野町）田宿字菰冠312番地2ほかに所在する菰冠北遺跡、同市（旧真壁郡明野町）松原字炭焼戸628番地ほかに所在する炭焼戸東遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

## 調 査

菰冠北遺跡 平成18年11月1日～平成19年3月31日

炭焼戸東遺跡 平成18年8月1日～平成19年3月31日

整 理 平成19年4月1日～平成20年3月31日

3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

## 菰冠北遺跡

首席調査員兼班長 川村 満博

主任調査員 市村 俊英 平成18年11月1日～平成19年3月31日

主任調査員 小川 貴行 平成18年12月1日～平成19年3月31日

## 炭焼戸東遺跡

首席調査員兼班長 川村 満博

主任調査員 小澤 重雄 平成18年8月1日～平成19年3月31日

主任調査員 照山 大作 平成18年11月1日～平成19年3月31日

主任調査員 市村 俊英 平成18年8月1日～平成18年10月30日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、主任調査員市村俊英が担当した。



# 凡 例

1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、菰冠北遺跡は $X = +28,920$  m,  $Y = +18,520$  mの交点、炭焼戸東遺跡は $X = +29,320$  m,  $Y = +18,040$  mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1区」「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j, 西から東へ1, 2, 3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」「B 2 b2区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。





遺構 S I - 住居跡 S B - 掘立柱建物跡 S A - 柵跡 S D - 溝跡 S K - 土坑 S E - 井戸跡  
S F - 道路跡 P G - ピット群 P - ピット S X - 不明遺構 S Y - 炭焼窯跡 K - 攪乱  
遺物 P - 土器・陶器・磁器 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品  
M - 金属製品・古銭 T - 瓦  
土層 K - 攪乱

3 遺構及び遺物実測図の掲載方法については次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土, 施釉, 赤彩, ガラス質  炉, 火床面  
 竈部材, 粘土, 炭, 炭化材, 黒色処理  柱痕, 柱のあたり, 煤, 油煙, タール  
●土器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品・古銭 - - - - - 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記については次のとおりである。

(1) 計測値の（ ）内の数値は現存値を、[ ]内の数値は推定値を示した。計測値の単位はm, cm, gで示した。

(2) 遺物観察表の備考欄は、残存率、写真図版番号等、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物観察表中における土師質土器の胎土については、産地同定の見地から、「雲母」のうち金色および赤みがあった金色をしたものを「金雲母」と表記した。

6 「主軸」は、竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る主軸とし、他の遺構については長軸・長径を主軸とみなした。「主軸・長軸（径）方向」は、主軸・長軸（径）が座標北または南からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。なお、推定値は[ ]を付して示した。

# 抄 録

ふりがな	こもかむりきたいせき		すみやきどひがしいせき					
書名	菰冠北遺跡		炭焼戸東遺跡					
副書名	主要地方道筑西つくば線バイパス道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第295集							
著者名	市村俊英							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310 - 0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2				TEL 029 - 225 - 6587			
発行年月日	2008 (平成20) 年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
こもかむりきた 菰冠北遺跡	いばらきけんちくせいし きゅうまかべぐん 茨城県筑西市 (旧真壁郡 あけのまち たしゅくあざこもかむり 明野町) 田宿字菰冠312番 地2ほか	08227   502066	36度 15分 35秒	140度 02分 25秒	26m	20061101 ) 20070331	4,864㎡	主要地方道 筑西つくば 線バイパス 道路改良事 業に伴う事 前調査
すみやきどひがし 炭焼戸東遺跡	いばらきけんちくせいし きゅうまかべぐん 茨城県筑西市 (旧真壁郡 あけのまち まつばらあざすみやきど 明野町) 松原字炭焼戸628 番地ほか	08227   502061	36度 15分 44秒	140度 02分 12秒	26m	20060801 ) 20070331	18,307㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
菰冠北遺跡	集落跡	縄文	陥し穴 土坑 ピット群	2基 21基 1か所	縄文土器 (深鉢・浅鉢), 石器 (石鏃)			
		古墳	竪穴住居跡	3軒	土師器 (坏・高坏・甕・甌・ ミニチュア土器), 土製品 (支脚)			
		中・近世	掘立柱建物跡 井戸跡 土坑 柵跡 溝跡 道路跡 ピット群	2棟 2基 1基 1列 6条 3条 5か所	土師質土器 (鍋・焙烙), 陶 器 (碗・片口鉢・播鉢・甕), 磁器 (碗), 石器 (鏃)			
	その他	不明	土坑 ピット群	163基 5か所				
炭焼戸東遺跡	集落跡	縄文	陥し穴 土坑	5基 1基	縄文土器 (深鉢)			
		古墳	竪穴住居跡	1軒	土師器 (坏・高坏・甕・甌・ ミニチュア土器), 須恵器 (甕)			
		中世	掘立柱建物跡 方形竪穴遺構 井戸跡 土坑 溝跡 柵跡 不明遺構 ピット群	32棟 4基 43基 246基 80条 2列 4基 4か所	土師質土器 (小皿・内耳鍋・ 播鉢), 陶器 (碗・皿・卸 皿・鉢・花瓶・香炉・水滴), 石器 (石臼・茶臼), 石製 品 (硯), 銅製品 (鞘金具・ 煙管), 古銭			
	墓跡	近世	土坑	3基	磁器 (碗)			
		中世	火葬土坑 墓坑	4基 10基	鉄製品 (釘), 古銭, 人骨			
	生産跡	近世	炭焼窯跡	1基	土師質土器 (焙烙)			
	その他	不明	土坑	377基	陶器, 磁器, 鉄製品 (包丁)			
要約	<p>菰冠北遺跡は、古墳時代の集落を中心とする縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。古墳時代の住居跡は後期の3軒で、集落の外周部にあたると想定される。</p> <p>炭焼戸東遺跡は、15世紀から17世紀にかけての、上層農村民層あるいは在地領主層の集落と考えられる。遺跡中央部の溝跡は生活域と墓域を区画するためのものと想定され、溝に囲まれた内部には、無数の柱穴があることから建物が数期にわたり建て替えられている。また、当遺跡の南には中世の遺跡である海老ヶ島城跡があり、関連がうかがえる。</p>							

# 目 次

序  
例 言  
凡 例  
抄 録  
目 次

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 菰冠北遺跡	7
第1節 調査の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 縄文時代の遺構と遺物	8
(1) 陥し穴	8
(2) 土坑	9
(3) ピット群	14
2 古墳時代の遺構と遺物	16
(1) 竪穴住居跡	16
3 中世の遺構と遺物	23
(1) 掘立柱建物跡	23
(2) 井戸跡	25
(3) 土坑	26
(4) 柵跡	27
(5) 溝跡	27
(6) 道路跡	31
(7) ピット群	32
4 その他の遺構と遺物	38
(1) 土坑	38
(2) ピット群	51
(3) 遺構外出土遺物	59
第4節 まとめ	61
第4章 炭焼戸東遺跡	65
第1節 調査の概要	65
第2節 基本層序	65
第3節 遺構と遺物	68
1 縄文時代の遺構と遺物	68
(1) 陥し穴	68
(2) 土坑	71
2 古墳時代の遺構と遺物	72
(1) 竪穴住居跡	72
3 中世の遺構と遺物	75
(1) 掘立柱建物跡	75
(2) 方形竪穴遺構	103
(3) 井戸跡	108
(4) 火葬土坑	139
(5) 墓坑	142
(6) 土坑	148
(7) 溝跡	177
(8) 柵跡	228
(9) 不明遺構	230
(10) ピット群	233
4 近世の遺構と遺物	234
(1) 土坑	235
(2) 炭焼窯跡	236
5 その他の遺構と遺物	238
(1) 土坑	238
(2) 遺構外出土遺物	268
第4節 まとめ	273
写真図版	

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

茨城県は、筑西市（旧真壁郡明野町）松原地区において、主要地方道筑西つくば線のバイパス道路改良事業を進めている。

平成17年9月15日、茨城県筑西土木事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、主要地方道筑西つくば線緊急地方道路整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。

これを受けて茨城県教育委員会は、平成17年9月15日及び10月4日に現地踏査を、平成17年11月8～11日に試掘調査を実施し、菰冠北遺跡、炭焼戸東遺跡の所在を確認した。平成17年12月2日、茨城県教育委員会教育長は茨城県筑西土木事務所長あてに、事業地内に菰冠北遺跡及び炭焼戸東遺跡が所在する旨、回答した。

平成18年1月31日、茨城県筑西土木事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成18年2月10日、茨城県筑西土木事務所長に対して、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成18年3月3日、茨城県筑西土木事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、主要地方道筑西つくば線バイパス道路改良事業地内に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成18年3月7日、茨城県教育委員会教育長は茨城県筑西土木事務所長に対して、菰冠北遺跡及び炭焼戸東遺跡についての発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県筑西土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成18年8月1日から平成19年3月31日まで菰冠北遺跡及び炭焼戸東遺跡の発掘調査をすることとなった。

## 第2節 調査経過

炭焼戸東遺跡の調査は、平成18年8月1日から平成19年3月31日まで実施し、菰冠北遺跡の調査は、平成18年11月1日から平成19年3月31日まで実施した。以下、その概要を表で記載する。

炭焼戸東遺跡（平成18年8月1日～平成19年3月31日）

	8	9	10	11	12	1	2	3
調査準備 表土除去 遺構確認	■			■				
遺構調査	■							
遺物洗浄 注記作業 写真整理	■							
補足調査 撤 収								■

菰冠北遺跡（平成18年11月1日～平成19年3月31日）

	11	12	1	2	3
調査準備 表土除去 遺構確認	■				
遺構調査		■			
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■		
補足調査 撤 収					■

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

菰冠北遺跡は、茨城県筑西市(旧真壁郡明野町)田宿字菰冠312番地2ほか、炭焼戸東遺跡は、同市松原字炭焼戸628番地ほかに所在している。

筑西市は、茨城県の西部、筑波山の西麓に位置している。旧明野町の地形は、西側に小貝川、東側に桜川が流れ、その大部分は両河川に挟まれた真壁台地に占められている。町域の西側には小貝川によって形成された沖積低地が南北に広がり、中央から東側にかけては洪積台地が続いている。町域南部の台地は小貝川から延びる支谷が入り込み、中央の台地や東側の台地縁辺部も、桜川に合流する観音川や大川などの中小河川によって開析されている。台地上は主に畑地として利用され、低地は水田として利用されている。洪積台地と沖積低地の比高差は4～6mである<sup>1)</sup>。

旧明野町の地質は、第3紀層である砂礫層の上に、青灰色から灰色を呈する粘土及び砂質粘土層の常総粘土層、その上に関東ローム層が堆積し、最上層は腐植土層となっている<sup>2)</sup>。

両遺跡は、東に流れる観音川と西に流れる大川などに開析された標高26mほどの舌状台地の中央部に立地している。調査前の現況は畑地である。

### 第2節 歴史的環境

ここでは、当遺跡の所在する旧明野町域の主な遺跡について概観する。

縄文時代の遺跡は町域全域に分布しているが、主に台地の縁辺部に多く確認されている。中妻(倉持)遺跡<3>・向台遺跡<4>など3か所で早期の土器が採集され、大地遺跡では、前期の土器が確認されている。中期になると、中妻(倉持)遺跡、天神遺跡<5>・久保山遺跡<6>・宮北遺跡<7>など遺跡が増加してくる。その中でも中妻(倉持)遺跡では、住居跡のほか、骨粉が検出された埋甕が調査されている。また山王堂遺跡<8>では、中期中葉から晩期の土器が確認されており、長期にわたって集落が継続して営まれた様子がかがえる。一方後期になると、鶴田石葉山遺跡・台山遺跡<9>など8遺跡とやや減少し、この後、晩期から弥生中期までの間、当町域で遺跡は確認されていない。

弥生時代後期の遺跡としては、平成10年度に当財団が調査した赤町(中根)十三塚遺跡<10>や、平成12年度に調査した館野遺跡<11>などがあげられる。前者からは住居跡が3軒<sup>3)</sup>、後者からは住居跡が5軒調査されている<sup>4)</sup>。これらのほか、鷲島遺跡・宮前遺跡<12>では、後期の土器が採集されている。

古墳時代になると、遺跡数は増加に転じるが、調査が行われた事例は少ない。前期の遺跡は、天神遺跡・中妻(倉持)遺跡・稲荷前遺跡<13>・台山遺跡・久保山遺跡・宮北遺跡・倉持前畑遺跡<14>・鍋山東原遺跡<15>などがあり、そのうち平成16年度に当財団が調査した鍋山東原遺跡では、管玉や紡錘車を伴った前期から中期の住居跡が16軒調査されている<sup>5)</sup>。中期の遺跡は、天神遺跡・中妻(倉持)遺跡・原久保遺跡<16>・山王堂遺跡・北浦遺跡<17>・石倉西遺跡<18>・中根(赤町)十三塚遺跡などが挙げられる。そのうち中根(赤町)十三塚遺跡では、住居跡が1軒調査されている<sup>6)</sup>。後期の遺跡は、台山遺跡・西明遺跡<19>・屋敷付西遺跡<20>・館野遺跡などがあり、館野遺跡では住居跡2軒が調査されている。古墳時代の遺跡の分布を見ると、前期は台



地上で、中期からは低地部に移住するようになったと考えられる。

古墳の築造は、中期頃から見られるようになり、<sup>とうかやまこふん</sup>灯火山古墳や<sup>だいはたこふん</sup>台畑古墳など大型の前方後円墳が築造される。後期になると、<sup>みやまこふんぐん</sup>宮山古墳群〈21〉・<sup>やさかじんじやこふん</sup>八坂神社古墳〈22〉・<sup>いなりづかこふんぐん</sup>稲荷塚古墳群〈23〉・<sup>ふじづかこふんぐん</sup>藤塚古墳群、鍋山東原遺跡などのように径10mほどの円墳が群集墳として増加する様子が見えてくる。当町域におけるこのような状況は、中期に地域を治める首長層が出現し、後期に有力者層にも古墳の築造が拡大したものと考えられる<sup>7)</sup>。

奈良・平安時代になると、当町域周辺も律令体制の枠組みの中に取り入れられていく。旧明野町域周辺は白壁郡に属し、延暦4(785)年に真壁郡へと改称され<sup>8)</sup>、当遺跡周辺は大林(大村)郷に属したとされている<sup>9)</sup>。また石田地区には、平将門の伯父平国香の居館があったと伝えられ<sup>10)</sup>、古代常陸国における有力者との関わりが深い土地柄でもある。この時代の遺跡には、天神遺跡・館野遺跡・炭焼戸東遺跡〈②〉などがあり、館野遺跡では、竪穴住居跡29軒、掘立柱建物跡11棟が調査されている<sup>11)</sup>。また、平成18年度に筑西市が調査した炭焼戸東遺跡(当財団調査区の南側)からは、平安時代の住居跡9軒、掘立柱建物跡6棟が調査され、住居跡および溝から「院」「寺」と書かれた墨書土器が出土しており、寺院の存在が想定される<sup>12)</sup>。

中世は、今回調査した炭焼戸東遺跡の中心となる時代である。この時代の遺跡としては、<sup>やしきつきみなみ</sup>屋敷付南遺跡〈24〉・<sup>たじゆくすみやきど</sup>田宿炭焼戸遺跡〈25〉・<sup>えびがしまじょうあと</sup>中根十三塚遺跡・海老ヶ島城跡〈26〉があり、土師質土器や陶器が採集されている。海老ヶ島城跡は、炭焼戸東遺跡の南に位置し、室町期に築城された平城である。結城秀千代が居城した1467年から佐竹氏国替えとなる1602年までの間に、城主は結城方・小田方・佐竹方と変遷し、国内の群雄割拠の流れとともに当地域もめまぐるしく変化しながら、徳川政権の支配下となっていく。

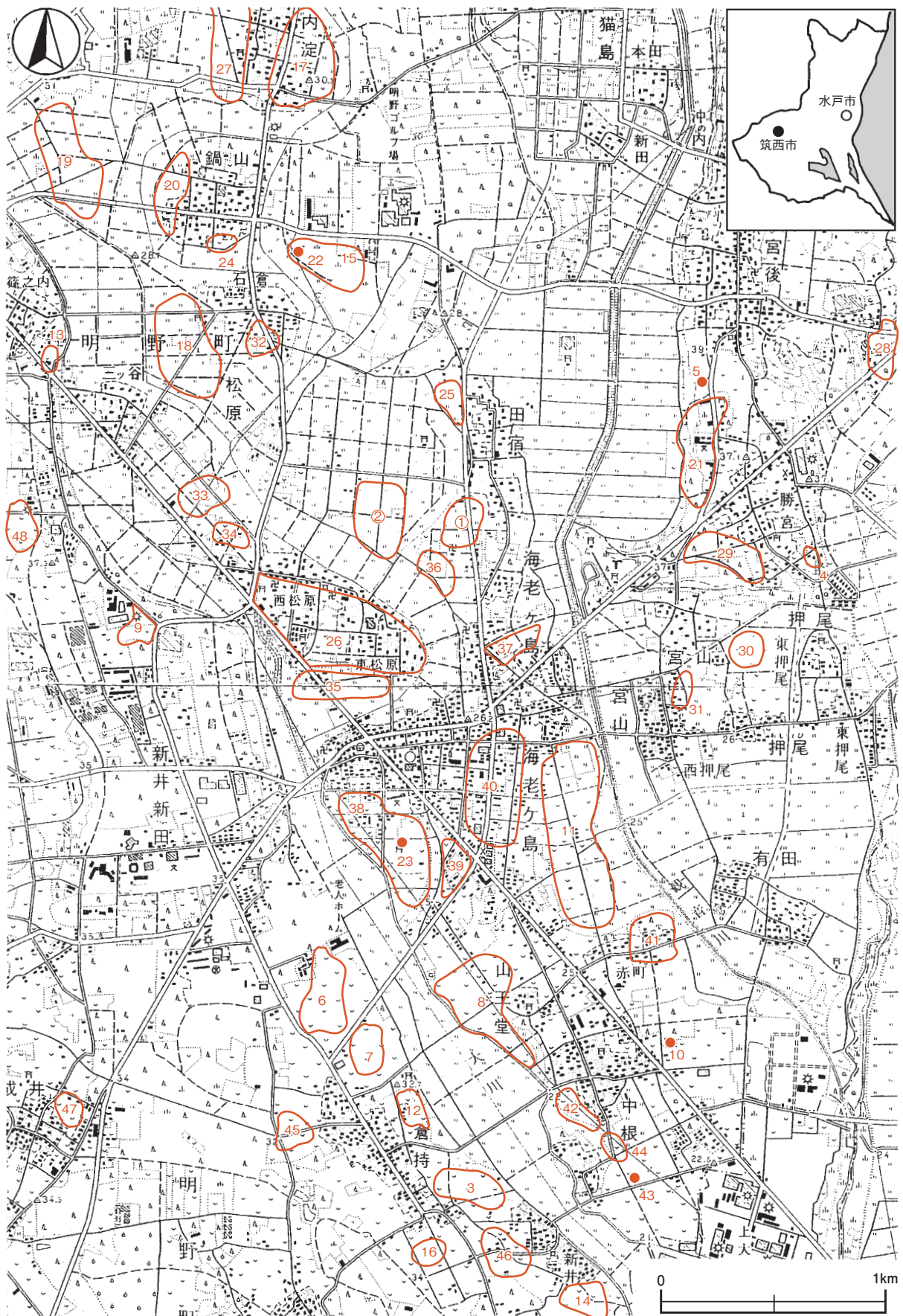
※ 文中の〈 〉内の番号は、第2図及び表1の該当遺跡番号と同じである。

#### 註

- 1) 明野町史編さん委員会『明野町史』明野町 1985年7月
- 2) 蜂須紀夫『茨城県地学ガイド』コロナ社 1986年11月
- 3) 野田良直「中根十三塚遺跡 主要地方道下館つくば線緊急地方道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第154集 1999年7月
- 4) 茂木悦男「館野遺跡 主要地方道下館つくば線緊急地方道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第189集 2002年3月
- 5) 照山大作「鍋山東原遺跡 つくば明野北部工業団地地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第266集 2006年3月
- 6) 註3)と同じ
- 7) 註1)と同じ
- 8) 池邊 彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』吉川弘文館 1981年2月
- 9) 中山信名『新編常陸国誌(復刻版)』崙書房 1978年12月
- 10) 註1)と同じ
- 11) 註4)と同じ
- 12) 折原洋一・松田政基「炭焼戸東遺跡 県営ほ場整備事業(経営体)松原地区関連遺跡発掘調査報告書1」『筑西市埋蔵文化財調査報告書』第2集 2006年9月

#### 参考文献

- ・『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- ・『明野町の遺跡と遺物』明野町史編さん委員会 1983年7月

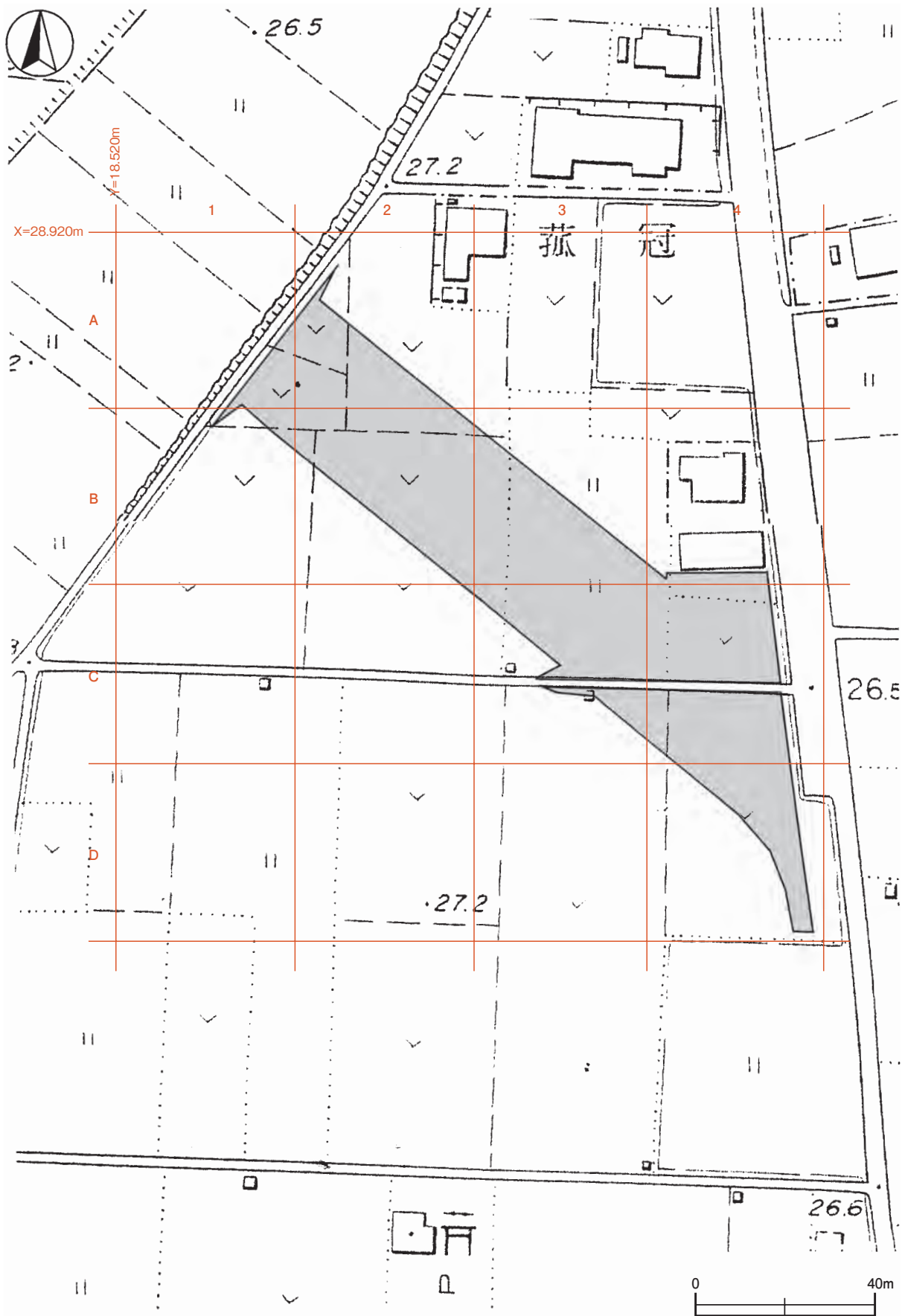


第1図 菰冠北遺跡・炭焼戸東遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院2万5千分の1「真壁」「筑波」)

表1 菰冠北遺跡・炭焼戸東遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	菰冠北遺跡		○		○	○	○		25	田宿炭焼戸遺跡						○	
②	炭焼戸東遺跡		○			○	○		26	海老ヶ島城跡						○	
3	中妻(倉持)遺跡	○	○	○	○	○	○		27	内淀西遺跡				○	○	○	
4	向台遺跡				○	○			28	宮後金井遺跡				○	○		
5	天神遺跡		○		○	○			29	碓西遺跡		○		○	○		
6	久保山遺跡		○		○	○			30	矢尻遺跡					○	○	○
7	宮北遺跡		○		○	○	○		31	坪内遺跡					○	○	
8	山王堂遺跡		○	○	○	○			32	石倉東遺跡				○	○		
9	台山遺跡		○		○	○			33	中根遺跡				○	○		
10	赤町(中根)十三塚遺跡					○	○	○	34	新堀遺跡				○	○		
11	館野遺跡		○		○	○	○		35	城ノ内遺跡					○	○	
12	宮前遺跡			○	○	○			36	菰冠南遺跡				○	○	○	
13	稲荷前遺跡				○	○	○		37	戸張遺跡				○	○	○	
14	倉持前畑遺跡				○	○			38	岡山遺跡		○		○	○	○	
15	鍋山東原遺跡		○		○	○			39	久保新田遺跡				○	○	○	
16	原久保遺跡		○		○	○			40	海老ヶ島東原遺跡				○	○	○	
17	北浦遺跡				○	○			41	赤町遺跡				○	○	○	
18	石倉西遺跡				○	○			42	狭間遺跡				○	○	○	
19	西明遺跡				○	○			43	台遺跡				○	○	○	
20	屋敷付西遺跡				○	○			44	堂前遺跡					○	○	
21	宮山古墳群				○				45	水落遺跡				○	○	○	
22	八坂神社古墳				○				46	富士山遺跡		○		○	○	○	
23	稲荷塚古墳群				○				47	十三塚遺跡		○		○	○	○	
24	屋敷付南遺跡						○		48	原遺跡				○	○	○	





第2図 菰冠北遺跡調査区設定図

## 第3章 菰冠北遺跡

### 第1節 調査の概要

菰冠北遺跡は、茨城県筑西市（旧真壁郡明野町）田宿字菰冠312番地2ほかに所在しており、観音川と大川に挟まれた標高26mほどの台地上に立地している。調査区は、この台地上を北西から南東に設定されている。調査面積は4,864㎡で、調査前の現況は畑地である。

調査の結果、縄文時代から近・現代までの遺構・遺物が確認されている。検出された遺構は、縄文時代の陥し穴2基、土坑21基、ピット群1か所、古墳時代の竪穴住居跡3軒、中世の掘立柱建物跡2棟、井戸跡2基、土坑1基、柵跡1列、溝跡6条、道路跡3条、ピット群5か所、時期不明の土坑163基、ピット群5か所である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に5箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢）、土師器（坏・高坏・甕・甑・ミニチュア土器）、土師質土器（鍋・焙烙）、陶器（碗・片口鉢・挿鉢・甕）、磁器（碗）、土製品（支脚）、石器（鏃）などである。

### 第2節 基本層序

調査区中央部のB3e4区にテストピットを設定し、基本土層の堆積状況の観察を行った。テストピットの地表面の標高は26.2mで、地表から約1.7m掘り下げた。土層は多層に分層され、観察結果は以下のとおりである。

第1層は、黒色の耕作土の層である。粘性はふつうで締まりは強く、層厚は10～14cmである。

第2層は、褐色で、腐食土層からソフトローム層への漸移層である。層厚は12～20cmである。

第3層は、黄褐色のソフトローム層であり、層厚は20～30cmである。

第4層は、褐色のハードローム層で、第1黒色帯と考えられる。層厚は5～10cmである。

第5層は、明黄褐色のハードローム層で、ATを含む層と考えられる。層厚は12～22cmである。

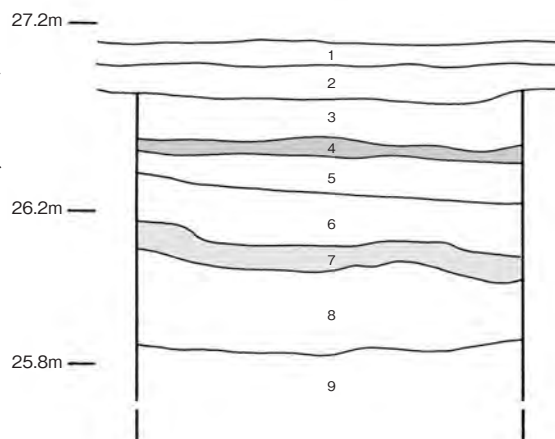
第6層は、黄褐色のハードローム層であり、層厚は18～35cmである。

第7層は、にぶい黄褐色のハードローム層で、第2黒色帯層と考えられる。層厚は5～17cmである。

第8層は、にぶい黄褐色のハードロームから白色粘土への漸移層で、砂粒を中量含んでいる。層厚は38～63cmである。

第9層は、明黄褐色の礫層である。下層が未掘のため、本来の層厚は不明である。

なお、遺構の多くは第3層上面から確認された。



第3図 基本土層図



### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、陥し穴2基、土坑21基が確認されている。これらの遺構は、標高26.5～27.1mの台地平坦部から緩斜面部に位置している。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

##### (1) 陥し穴

##### 第1号陥し穴（第4図）

**位置** 調査区東部のC4c5区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 中央部の覆土上層を第1号溝に掘り込まれている。

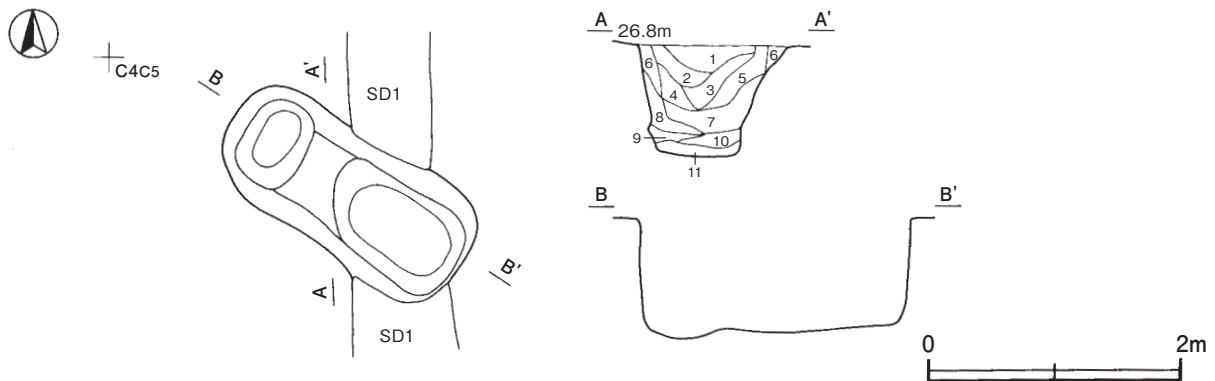
**規模と形状** 長軸2.16m、短軸0.95mの隅丸長方形で、長軸方向はN-56°-Wである。深さは95cmで、壁は長軸方向で直立し、短軸方向では外傾して立ち上がっている。横断面形はU字状で、底面はほぼ平坦である。

**覆土** 11層からなる。南北方行からの投入を示す人為堆積である。

##### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	7 暗オリーブ色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック微量	8 暗オリーブ色	赤色粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子少量	9 暗オリーブ色	赤色粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量	10 暗褐色	ローム粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量	11 黄褐色	粘土粒子少量
6 オリーブ黒色	ローム粒子微量		

**所見** 規模や形状から縄文時代と考えられる。



第4図 第1号陥し穴実測図

##### 第2号陥し穴（第5図）

**位置** 調査区北西部のA2f1区、標高26.5mの台地緩斜面部に斜行して位置している。

**重複関係** 北西部の覆土上層に第3号道路が重複している。

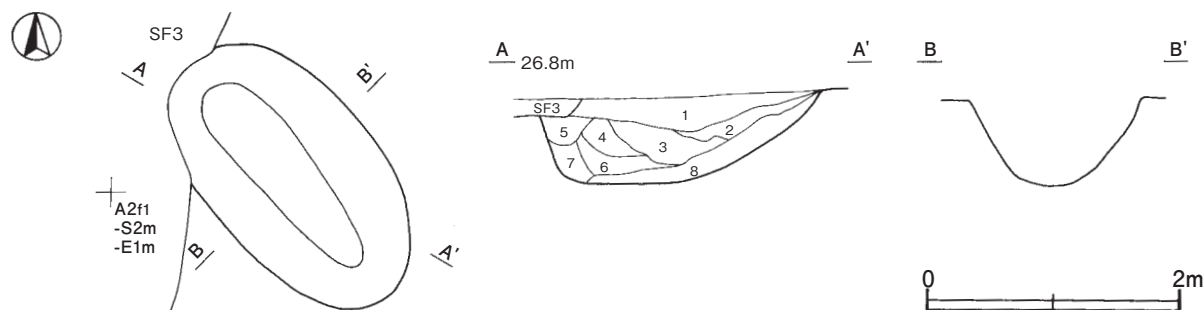
**規模と形状** 長径3.07m、短径1.70mの楕円形で、長径方向はN-53°-Wである。深さは85cmで、壁は長径方向・短径方向とも緩やかに外傾し、底面は皿状である。

**覆土** 8層からなる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

##### 土層解説

1 黒色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	5 明黄褐色	ロームブロック多量
2 黒褐色	ローム粒子少量	6 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・黒色粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量	7 褐色	ロームブロック多量
4 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	8 褐色	ロームブロック中量

所見 西側に南北に延びる小谷津があり、その谷津に沿った緩やかな斜面部の上方に斜行して配置されている。規模や形状から縄文時代と考えられる。



第5図 第2号陥し穴実測図

表2 陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面図形	規模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ (cm)					
1	C 4 c5	N-56°-W	隅丸長方形	2.16 × 0.95	95	外傾	平坦	人為	—	本跡→SD1
2	A 2 f1	N-53°-W	楕円形	3.07 × 1.70	85	外傾	皿状	人為	—	本跡→SF3

(2) 土坑

当時代の土坑は、21基である。遺物の出土した土坑5基については、実測図と土層解説等を個別に掲載し、その他は実測図と土層解説に掲載した。

第115号土坑 (第6図)

位置 調査区中央部のB 2 e6区、標高27.1mの台地平坦部に位置している。

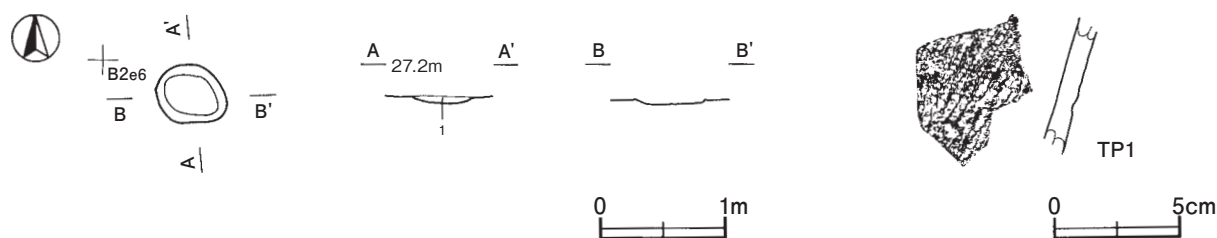
規模と形状 長径0.60m、短径0.48mの楕円形で、長径方向はN-61°-Wである。深さは6cmで、壁は緩やかに外傾している。底面は皿状である。

覆土 単一層である。自然堆積の状況を示している。

土層解説  
1 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片1点 (TP1) が、北部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半以降と考えられる。性格は不明である。



第6図 第115号土坑・出土遺物実測図

第115号土坑出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部にLRの単節縄文施文	覆土下層	中期後半

第121号土坑（第7図）

位置 調査区中央部のB 2 d6区，標高27.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第200号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.71m，短径0.47mの楕円形で，長径方向はN-90°である。深さは21cmで，壁は緩やかに外傾している。底面は皿状である。

覆土 2層からなる。自然堆積の状況を示している。

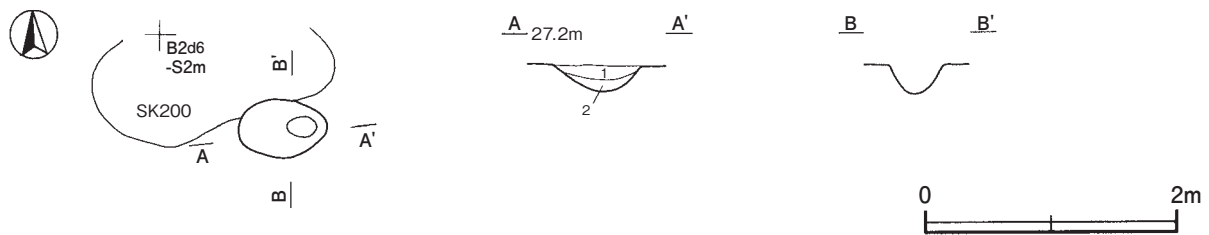
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片1点が覆土中から出土しているが，細片のため掲載できない。

所見 時期は，出土土器から中期後半以降と考えられる。性格は不明である。



第7図 第121号土坑実測図

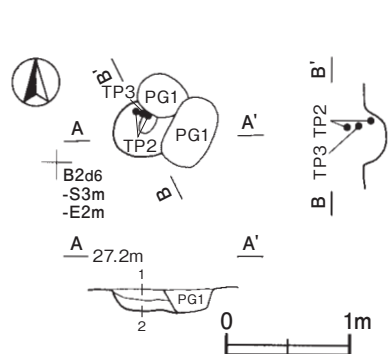
第165号土坑（第8・9図）

位置 調査区中央部のB 2 d6区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 径0.46mほどの円形と推定され，深さは17cmである。壁は外傾し，底面は皿状である。

覆土 2層からなる。自然堆積の状況を示している。



土層解説

1 褐色 ロームブロック微量

2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片2点が，覆土中から出土している。TP 2は，覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したもので，TP 3は覆土中層から出土したものである。

所見 時期は，出土土器から中期後半と考えられる。性格は不明である。

第8図 第165号土坑実測図



第9図 第165号土坑出土遺物実測図

第165号土坑出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP2	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部無文 胴部にLRの単節縄文施文	覆土上～下層	中期後半
TP3	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部にLRの単節縄文施文	覆土中層	中期後半

第166号土坑（第10図）

位置 調査区中央部のB2e6区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.92m、短径0.75mの楕円形で、長径方向はN-48°-Eである。深さは66cmで、壁は緩やかに外傾し、北側に1か所ピット状の掘り込みが見られる。底面は皿状である。

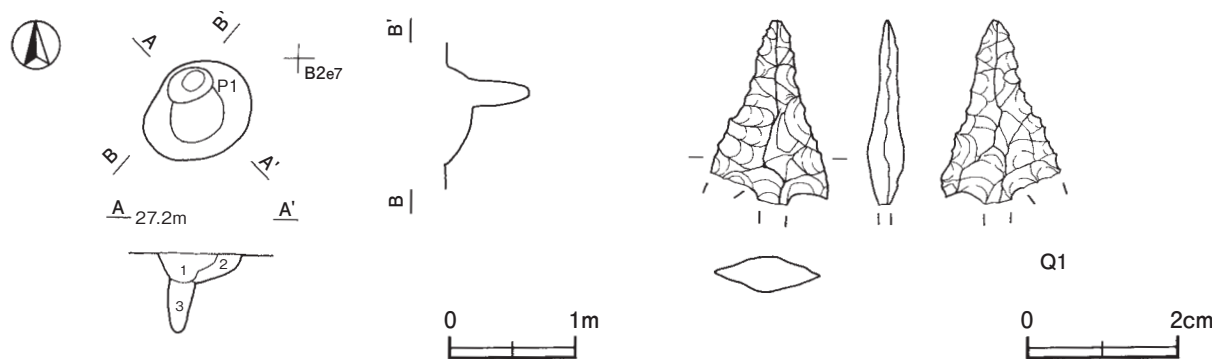
覆土 3層からなる。自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 石鏃1点（Q1）が、覆土上層から出土している。

所見 時期は、縄文時代と考えられるが明確ではなく、性格も不明である。



第10図 第166号土坑・出土遺物実測図

第166号土坑出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石鏃	(2.4)	(1.6)	0.5	(1.1)	チャート	有茎 両面押圧剥離 基部の抉りは浅い 側片部に緻密な調整加工	覆土上層	PL6

### 第200号土坑（第11図）

位置 調査区中央部のB 2d6区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第121号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.95m、短径0.85mの不整楕円形で、長径方向はN-80°-Eである。深さは52cmで、壁は緩やかに外傾し、3か所にピット状の掘り込みが見られる。底面は凹凸である。

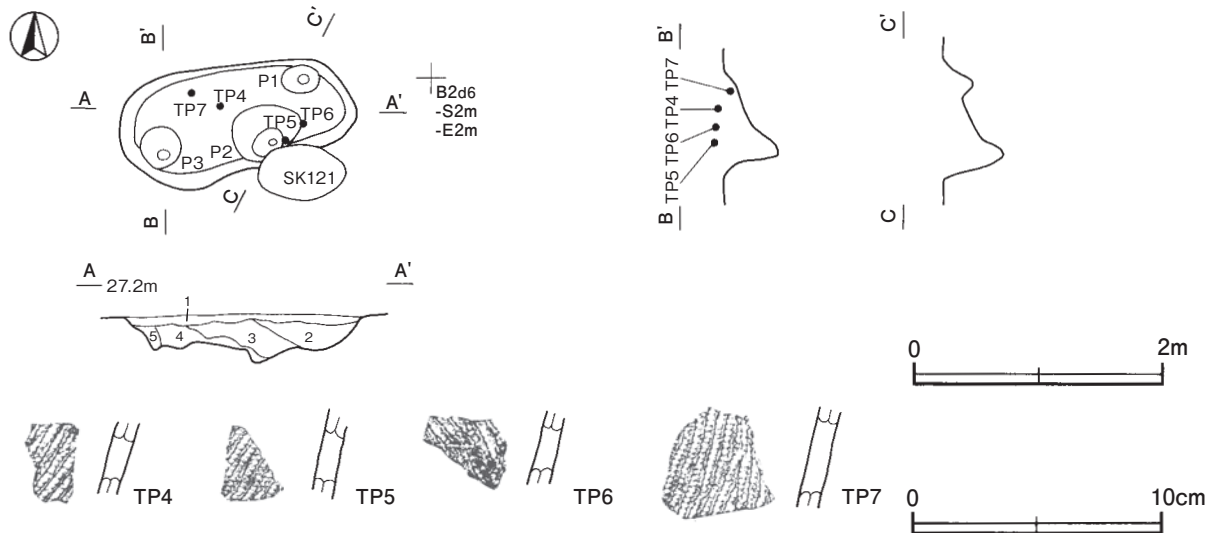
覆土 5層からなる。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。第1層上面は、赤変している。

#### 土層解説

- |   |        |                        |   |        |                        |
|---|--------|------------------------|---|--------|------------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 4 | にぶい黄褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色     | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 | 黄褐色    | ロームブロック多量              |
| 3 | 褐色     | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |   |        |                        |

遺物出土状況 縄文土器片4点が、覆土中から出土している。TP4~6は覆土上層、TP7は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。性格は不明である。



第11図 第200号土坑・出土遺物実測図

### 第200号土坑出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP4	縄文土器	深鉢	—	(2.9)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胴部にLRの単節縄文施文	覆土上層	中期後半
TP5	縄文土器	深鉢	—	(3.6)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胴部にLRの単節縄文施文	覆土上層	中期後半
TP6	縄文土器	深鉢	—	(3.0)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胴部にLRの単節縄文施文	覆土上層	中期後半
TP7	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部にLRの単節縄文施文	覆土中層	中期後半

#### 第113号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 黒色粒子少量, ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子微量
- 7 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 8 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 9 黒褐色 ロームブロック少量
- 10 黒色 ロームブロック微量
- 11 黄褐色 ロームブロック多量

#### 第114号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

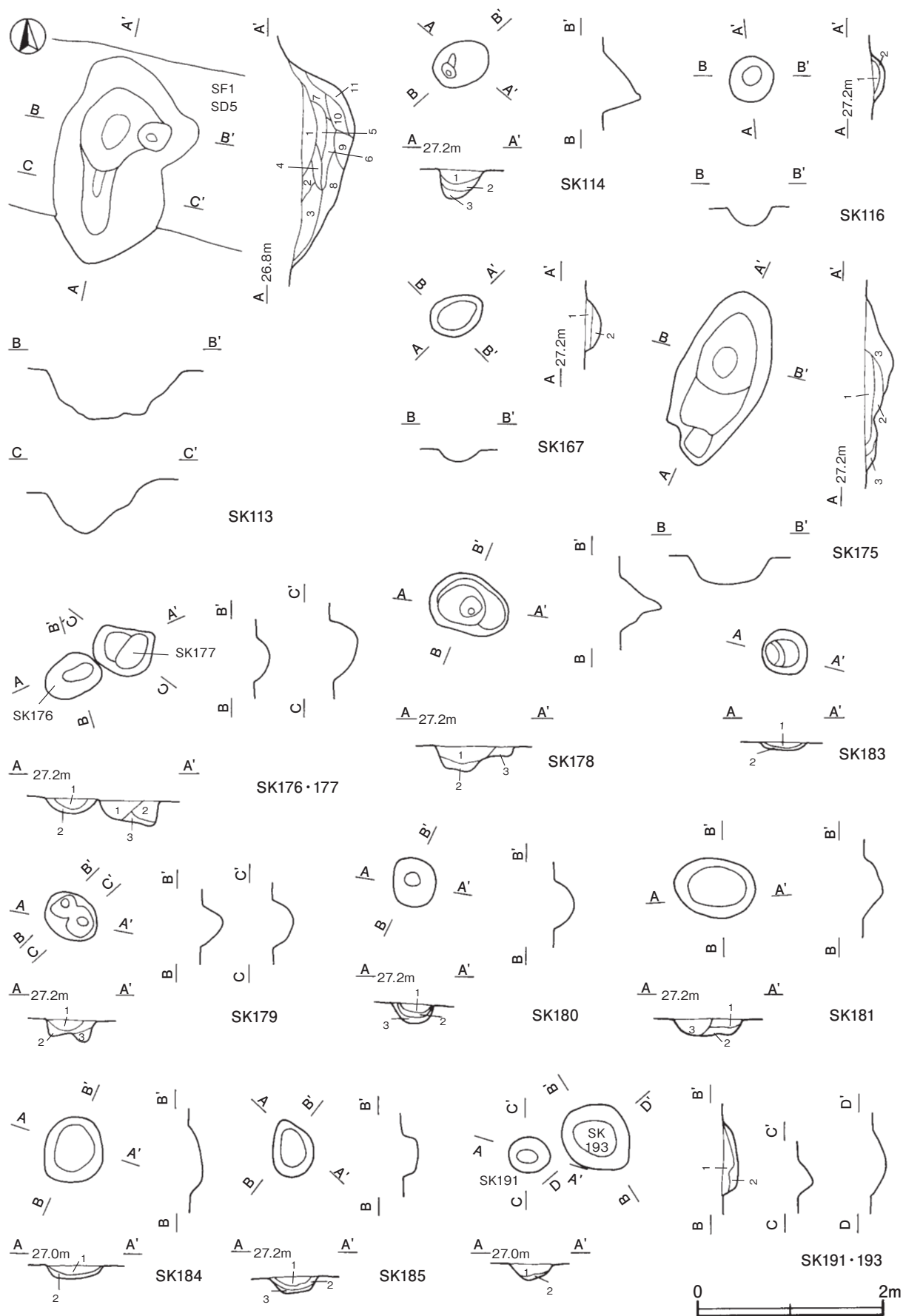
#### 第116号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

#### 第167号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量





第12図 縄文時代土坑実測図

第175号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第176号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第177号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第178号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第179号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第180号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第181号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量

第183号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第184号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第185号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第191号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

第193号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

表3 縄文時代土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ(cm)					
113	C 3 c7	N-12°-E	不整楕円形	2.31 × 1.45	59	外傾	凹凸	人為	—	本跡→SD5・SF1
114	B 2 a5	N-47°-E	楕円形	0.65 × 0.50	43	外傾	皿状	自然	—	
115	B 2 e6	N-61°-W	楕円形	0.60 × 0.48	6	外傾	皿状	自然	縄文土器	
116	B 2 d6	—	円形	0.50 × 0.48	15	外傾	皿状	自然	—	
121	B 2 d6	N-90°	楕円形	0.71 × 0.47	21	外傾	皿状	自然	縄文土器	SK200→本跡
165	B 2 d6	—	円形	(0.46) × 0.46	17	外傾	皿状	自然	縄文土器	本跡→PG1
166	B 2 e6	N-48°-E	楕円形	0.92 × 0.75	66	外傾	皿状	人為	石鏃	
167	B 2 e7	N-57°-E	楕円形	0.61 × 0.42	17	外傾	皿状	自然	—	
175	B 2 e7	N-23°-E	不整楕円形	1.85 × 0.95	28	外傾	平坦	自然	—	
176	B 2 e7	N-57°-E	楕円形	0.64 × 0.44	16	外傾	皿状	自然	—	
177	B 2 e7	N-53°-W	不整楕円形	0.64 × 0.56	32	外傾	皿状	人為	—	
178	B 2 f6	N-61°-W	楕円形	0.87 × 0.63	45	外傾	皿状	自然	—	
179	B 2 e7	N-48°-W	楕円形	0.61 × 0.49	24	外傾	皿状	人為	—	
180	B 2 f7	N-25°-E	楕円形	0.53 × 0.47	22	外傾	皿状	自然	—	
181	B 2 e6	N-90°	楕円形	0.90 × 0.65	18	外傾	皿状	人為	—	
183	B 2 d7	—	円形	0.52 × 0.48	7	外傾	皿状	自然	—	
184	B 2 g8	N-22°-E	楕円形	0.75 × 0.67	10	外傾	皿状	自然	—	
185	B 2 e7	N-22°-W	不整楕円形	0.65 × 0.48	20	外傾	平坦	自然	—	
191	B 2 g7	N-47°-W	楕円形	0.86 × 0.73	17	外傾	皿状	自然	—	
193	B 2 g7	N-83°-W	楕円形	0.46 × 0.40	18	外傾	皿状	自然	—	
200	B 2 d6	N-80°-E	不整楕円形	1.95 × 0.85	52	外傾	凹凸	人為	縄文土器	本跡→SK121

(3) ピット群

第1号ピット群 (第13図)

位置 調査区北西部のB 2 c 4～B 2 g 8区, 標高26.7～27.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第165号土坑を掘り込み、第2号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北20m、東西20mの範囲から、61か所のピットが確認された。平面形は、径18～82cmの円形や楕円形で、深さは9～60cmである。

覆土 いずれも暗褐色土で、締まりはやや強い。

所見 時期は、出土遺物がほとんどないため明確ではないが、周囲の遺構や堆積状況や土質などから縄文時代と考えられる。



第13図 第1号ピット群実測図

表4 第1号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)		
		長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ
1	楕円形	49	43	21	22	楕円形	51	36	17	42	楕円形	56	43	15
2	不定形	76	(29)	29	23	楕円形	32	28	12	43	楕円形	40	27	19
3	楕円形	56	31	15	24	楕円形	56	36	19	44	円形	53	51	16
4	円形	54	50	25	25	楕円形	55	44	10	45	楕円形	38	31	27
5	円形	30	30	11	26	円形	39	38	12	46	円形	47	47	18
6	楕円形	46	38	10	27	円形	20	19	60	47	楕円形	46	35	17
7	楕円形	53	35	16	28	円形	24	24	18	48	円形	30	29	11
8	円形	30	29	17	29	楕円形	31	27	20	49	円形	39	36	14
9	円形	41	39	14	30	楕円形	51	43	15	50	楕円形	40	36	15
10	楕円形	37	33	19	31	円形	48	46	10	51	円形	31	29	12
11	楕円形	38	30	11	32	円形	25	23	13	52	楕円形	55	42	46
12	円形	32	30	14	33	楕円形	32	26	30	53	円形	36	34	12
13	楕円形	35	29	11	34	楕円形	33	26	19	54	[楕円形]	(50)	49	55
14	楕円形	55	44	11	35	円形	29	27	17	55	楕円形	82	58	16
15	楕円形	47	37	14	36	円形	44	40	23	56	楕円形	71	52	29
16	楕円形	36	27	18	37	円形	33	32	22	57	円形	39	38	9
17	楕円形	52	41	19	38	円形	40	37	19	58	楕円形	51	42	19
18	楕円形	(38)	34	29	39	楕円形	48	38	14	59	楕円形	61	49	15
19	楕円形	30	23	12	40	楕円形	45	40	18	60	楕円形	46	38	17
20	楕円形	54	46	22	41	楕円形	35	28	10	61	円形	52	50	28
21	楕円形	25	18	27										

## 2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡3軒である。これらの遺構は、標高26.0～27.0mの台地平坦部に位置し、時期は6世紀後葉から7世紀前半と推定される。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

### 第1号住居跡（第14・15図）

**位置** 調査区の北西部A2j5区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第234号土坑に掘り込まれている。そのほか、東西方向に耕作による攪乱を多く受けている。

**規模と形状** 長軸5.54m、短軸5.42mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は4～6cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、南東部の壁際から竈にかけての中央部が踏み固められている。壁溝は、竈部を除く壁下に巡っている。壁溝の幅は9～15cm、深さ5～10cmで断面形はU字状である。

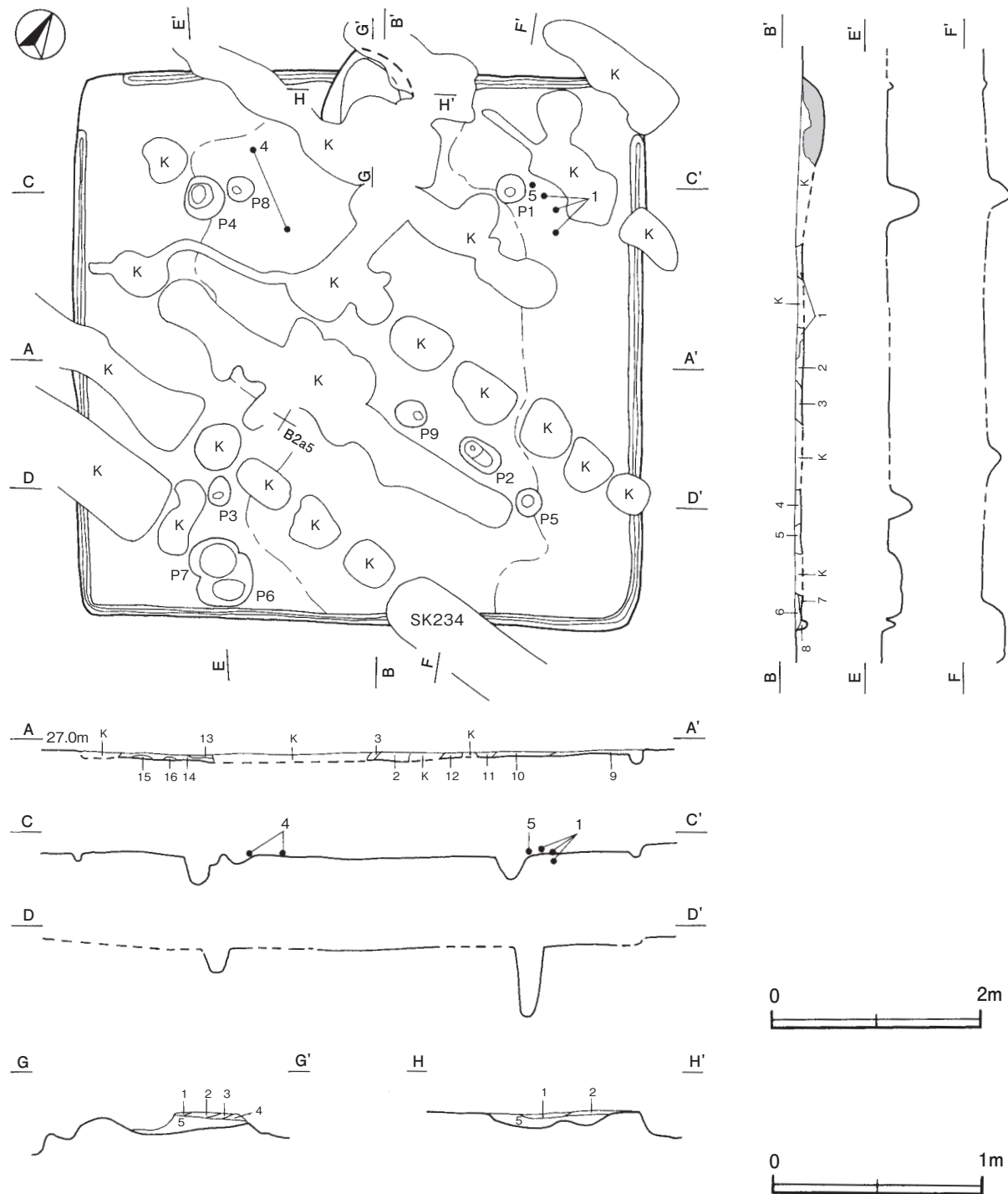
**竈** 北西壁の中央部に付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部にかけて56cm、袖部は削平と攪乱により残存していないが、袖部幅は推定で最大45cmである。火床面は5層上面で、床を8cmほど掘りくぼめている。

竈土層解説

- |       |                        |      |                          |
|-------|------------------------|------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量   | 4 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色  | 炭化物・焼土粒子少量, ローム粒子微量    | 5 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量   |
| 3 褐色  | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子少量 |      |                          |

ピット 9か所。P1～P4は深さ25～70cmで、配置から支柱穴と考えられる。P5～P9は深さ10～28cmで、補助柱穴とも考えられるが明確でない。

覆土 16層に分層される。堆積状況は、層厚が薄く攪乱も多いため不明である。



第14図 第1号住居跡実測図

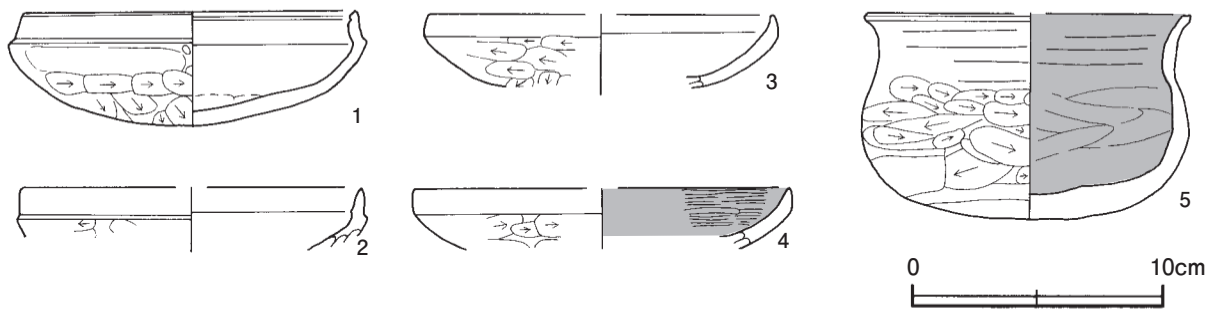


土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
2	黄褐色	ロームブロック多量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量	10	黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子中量
3	黒褐色	ローム粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量	11	黒褐色	炭化粒子中量, ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物少量	12	黄褐色	ロームブロック多量
5	褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量	13	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量	14	黄褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
7	黄褐色	ロームブロック・炭化物中量	15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	16	黄褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片32点(坏26, 椀2, 甕類4)が出土している。ほとんどが破片で出土していることから、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。ほかに混入した陶器片4点, 瓦質土器片2点も出土している。1・4・5は床面, 2・3は覆土中からそれぞれ出土している。遺物は、竈の両袖付近から多く出土している。また、東コーナーから西コーナーにかけての床面から、炭化材や焼土塊が点在して確認されており、焼失住居の可能性が高い。

所見 覆土上層から床面にかけて炭化材や焼土塊が確認されていることから、廃絶に伴い焼失した住居と考えられる。時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第15図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.1	4.5	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上部ヘラナデ・下部ヘラ削り 底部内面指頭痕	覆土下層	70% PL5
2	土師器	坏	[13.6]	(2.5)	—	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上部ヘラ削り	覆土下層	5%
3	土師器	坏	[13.8]	(2.9)	—	雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上部ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	覆土下層	15%
4	土師器	坏	[15.0]	(2.4)	—	石英	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上部ヘラ削り後ヘラナデ 内面黒色処理	覆土下層	10%
5	土師器	椀	[12.8]	8.2	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 体部内面ヘラナデ 内面黒色処理	覆土下層	70% PL5

第2号住居跡 (第16~18図)

位置 調査区の北西部B 2 c5区, 標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号ピット群を掘り込んでいる。

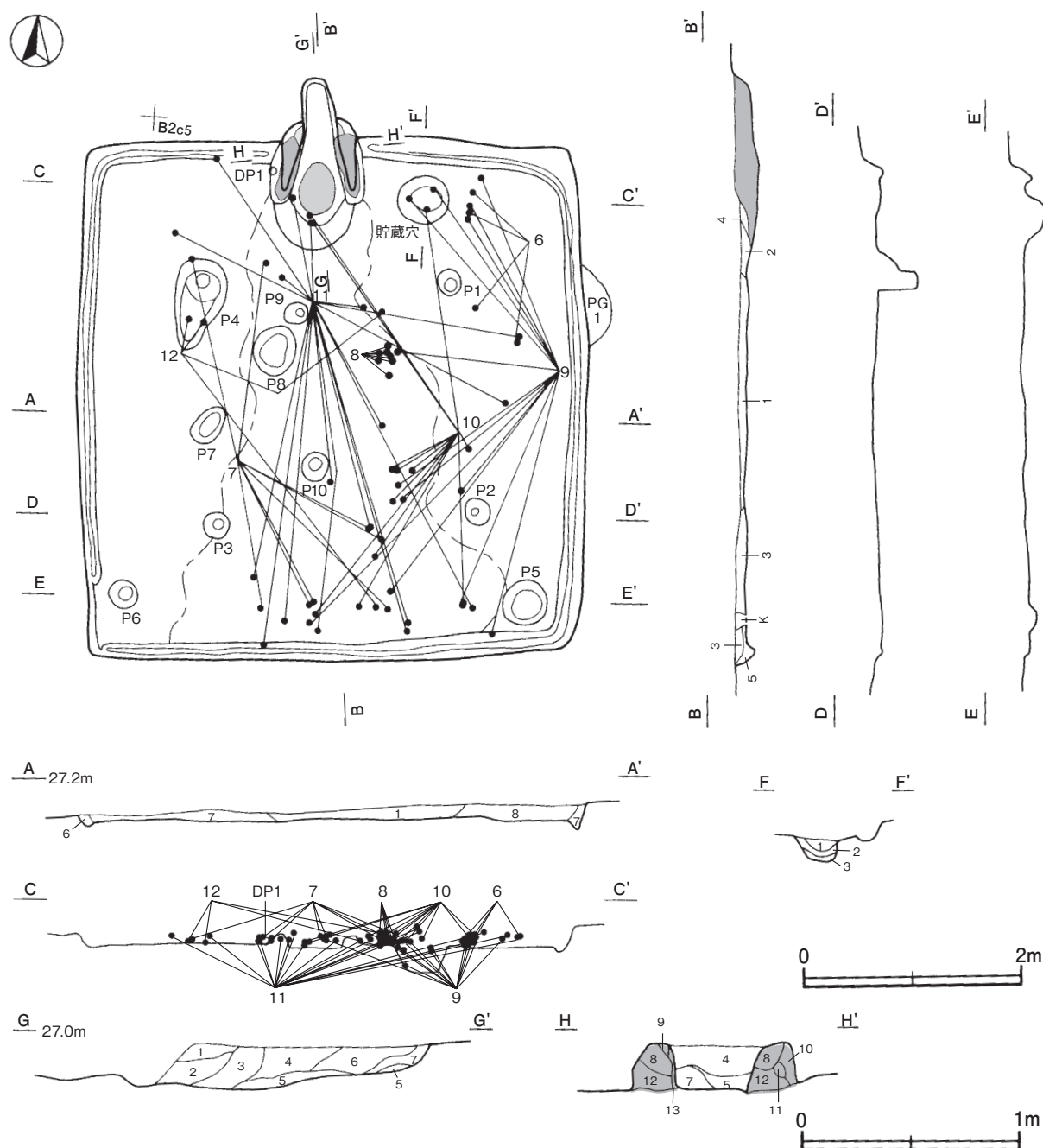
規模と形状 長軸4.79m, 短軸4.6mの方形で, 主軸方向はN-4°-Wである。壁高は6~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 南部の壁際から竈にかけた中央部が踏み固められている。壁溝は, 竈部と南西コーナー部を除いた壁下で確認されている。壁溝の幅は15~20cm, 深さ3~7cmで断面形はU字状である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部にかけて122cm、袖部幅は87cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの地山面に焼土・細礫の混じった黒褐色土を基部とし、その上に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は、床面を10cmほど掘りくぼめて褐色土を埋め戻し、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁を56cmほど掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

電土層解説

- |          |                             |           |                        |
|----------|-----------------------------|-----------|------------------------|
| 1 暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子微量                | 8 灰褐色     | 砂質粘土粒子多量, 細礫少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色    | 焼土粒子少量, ローム粒子微量             | 9 褐色      | 砂質粘土粒子・黒色粒子少量          |
| 3 暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子微量                | 10 褐色     | ローム粒子・焼土粒子・黒色粒子少量      |
| 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量         | 11 にぶい黄褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量, 焼土粒子微量   |
| 5 褐色     | ロームブロック少量                   | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量      |
| 6 暗赤褐色   | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量         | 13 暗褐色    | 焼土ブロック中量, 炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 7 褐色     | ロームブロック少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子・細礫微量 |           |                        |



第16図 第2号住居跡実測図

ピット 10か所。P 1～P 4は深さ35～51cmで、配置から支柱穴と考えられる。P 5～P 10は深さ5～28cmで、補助柱穴と考えられるが明確でない。

貯蔵穴 竈の右に位置している。径45cmの円形で、深さは26cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- |         |         |       |           |
|---------|---------|-------|-----------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子微量 | 3 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |       |           |

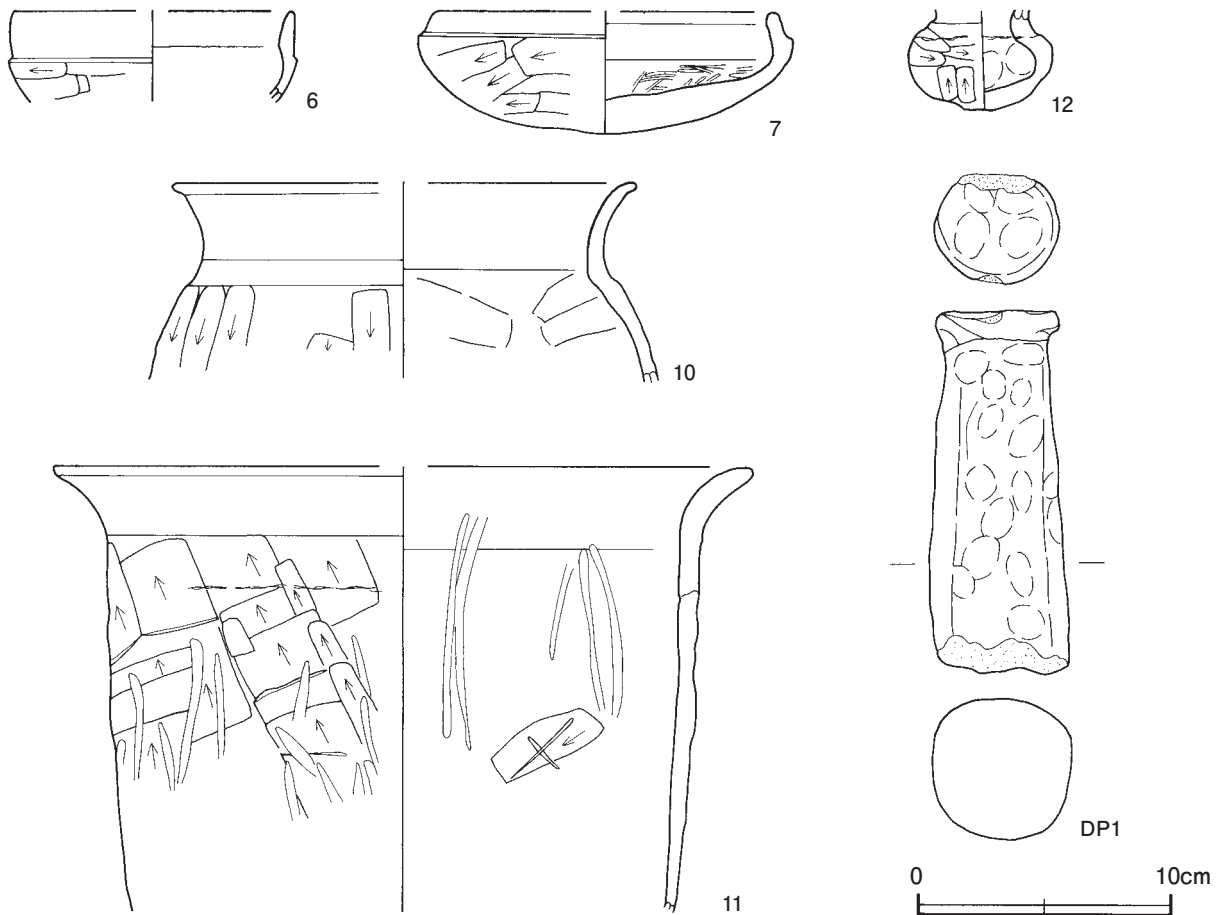
覆土 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

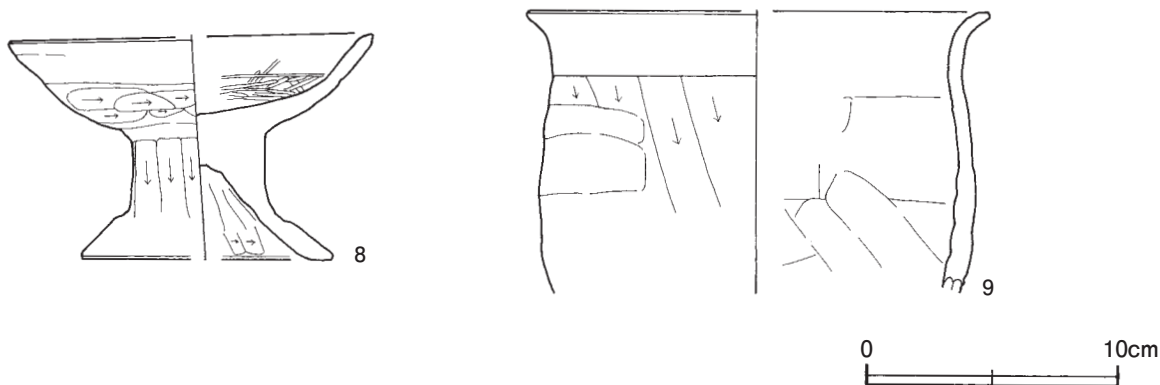
- |         |                     |         |                |
|---------|---------------------|---------|----------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量      |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 褐 色   | ロームブロック少量      |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子微量        | 7 暗 褐 色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 暗 褐 色 | ローム粒子少量        |

遺物出土状況 土師器片19点（坏7，高坏，甕類9，甌，ミニチュア土器），土製品1点（支脚）が出土している。ほかに混入した縄文土器片5点，土師質土器片1点，陶器片3点も出土している。遺物はいずれも破片で、覆土上層から床面にかけて散在して出土している。8は中央部の床面からまとまって出土している。6～12はいずれも破片が接合したものである。DP 1は竈の左袖外側から出土している。

所見 土器片は覆土上層から床面にかけて出土している。時期差が見られることから、住居廃絶後継続的に投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第17図 第2号住居跡出土遺物実測図（1）



第18図 第2号住居跡出土遺物実測図(2)

第2号住居跡出土遺物観察表(第17・18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
6	土師器	坏	[11.0]	(3.6)	—	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上部へラ削り後へラナデ 内面へラナデ	覆土下層	30%
7	土師器	坏	[13.2]	4.9	—	石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 体部内面へラミガキ	覆土下層	60% PL5
8	土師器	高坏	[14.5]	9.1	[10.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部外面・脚部内外面へラ削り 坏部内面へラミガキ 脚部ナデ	覆土下層	60% PL5
9	土師器	甕	[18.4]	(11.2)	—	長石・石英・雲母・細礫	褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上部へラ削り後へラナデ 体部内面へラナデ	覆土下層	40% PL5
10	土師器	甕	[18.2]	(7.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面へラナデ 体部外面へラ削り	覆土下層	15% PL6
11	土師器	甕	[27.6]	(17.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後へラ磨き 体部内面へラ磨き へラ記号「×」カ	覆土下層	30% PL5
12	土師器	ミニチュア土器	—	(4.0)	—	長石	にぶい黄橙	普通	口辺部外面横ナデ 体部外面へラ削り・ナデ・体部内面指頭痕・輪積み痕 内面紅付着	覆土下層	50% PL6

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	支脚	14.5	5.5	5.0	511.0	土製	断面隅丸方形 上部つまみ上げ 上・外面指頭痕	竈左袖部外	95% PL6

第3号住居跡(第19図)

位置 調査区の北西部A2i2区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.93m、短軸4.64mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。確認された壁高は3cmである。

床 平坦で、南部の壁際から竈にかけて中央部が踏み固められている。壁溝は、北西コーナーから西壁にかけて確認されている。壁溝の幅は6~14cm、深さ2cmで、断面形はU字状である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は不明である。火床部は、床面を10cmほど掘りくぼめて褐色土を埋め戻して構築されている。

ピット 10か所。P1~P3は深さ37~45cmで、配置から支柱穴と考えられる。P4~P10は深さ17~41cmであるが、性格は不明である。

ピット土層解説

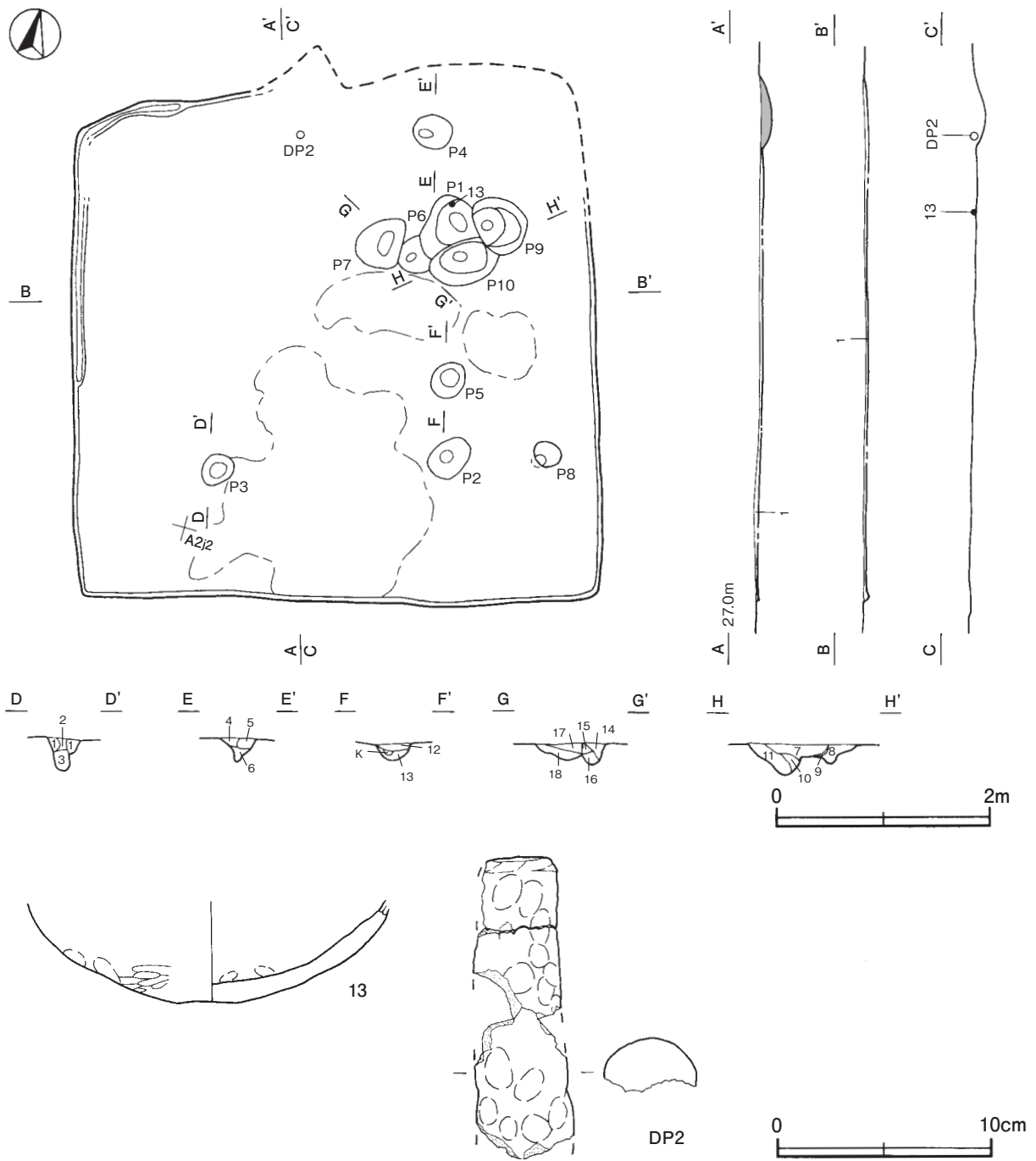
1 黄褐色	ロームブロック多量	10 黒褐色	ローム粒子中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量,炭化粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック・ローム粒子中量,炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	12 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量,ロームブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子少量	13 黄褐色	ロームブロック多量
5 黒褐色	ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子少量	14 灰黄褐色	炭化材・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6 褐色	ロームブロック中量	15 明黄褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	16 にぶい黄褐色	ローム粒子・炭化粒子少量,焼土粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	17 明黄褐色	ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子少量
9 褐色	ロームブロック多量	18 にぶい黄褐色	ロームブロック中量

覆土 確認された覆土は1層であり、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黄褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片12点(坏7, 壺, 甕類4), 土製品1点(支脚)が出土している。出土遺物は、ほとんどが細片で、P6・P7の覆土中から多く出土している。13は床面上, DP2は竈の火床部から出土している。  
 所見 削平を受けた床面の一部が残存しているだけであるが、時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀初頭と考えられる。



第19図 第3号住居跡・出土遺物実測図



第3号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
13	土師器	壺	—	(4.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部内・外面指頭痕 内面ナデ 外面ヘラ磨き	床面上	30%

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴			出土位置	備考
DP2	支脚	(14.2)	(4.8)	(3.1)	(154.0)	土製	断面円形	上部横ナデ	外面指頭痕	竈火床面	60%

表5 住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口	ピット	竈・炉	貯蔵穴			
1	A 2j5	N-30°-W	方形	5.54×5.42	4~6	平坦	[全周]	4	—	5	竈	—	不明	土師器(坏, 碗, 甕)	本跡→SK234
2	B 2c5	N-4°-W	方形	4.79×4.60	6~20	平坦	全周	4	—	6	竈	1	人為	土師器(坏, 高坏, 甕, 甗, ミニチュア土器), 土製品(支脚)	PG1→本跡
3	A 2i2	N-17°-W	方形	4.93×4.64	3	平坦	一部	3	—	7	竈	—	不明	土師器(坏, 壺, 甕), 土製品(支脚)	

### 3 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡2棟、井戸跡2基、土坑1基、柵跡1列、溝跡6条、道路跡3条、ピット群5か所が確認されている。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

#### (1) 掘立柱建物跡

##### 第1号掘立柱建物跡（第20図）

**位置** 調査区東部のC 4d2区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第97号土坑に掘り込まれている。第5号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行4間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向はN-3°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.6m、梁行3.9mで、面積は17.94㎡である。柱間寸法は、東桁行が北から1.1m、2.0m、1.5m、西桁行が北から1.0m、1.0m、1.5m、1.1m、北梁行が西から1.9m、2.0mである。

**柱穴** 10か所。深さは、10~58cmである。柱のあたりは6か所に見られる。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

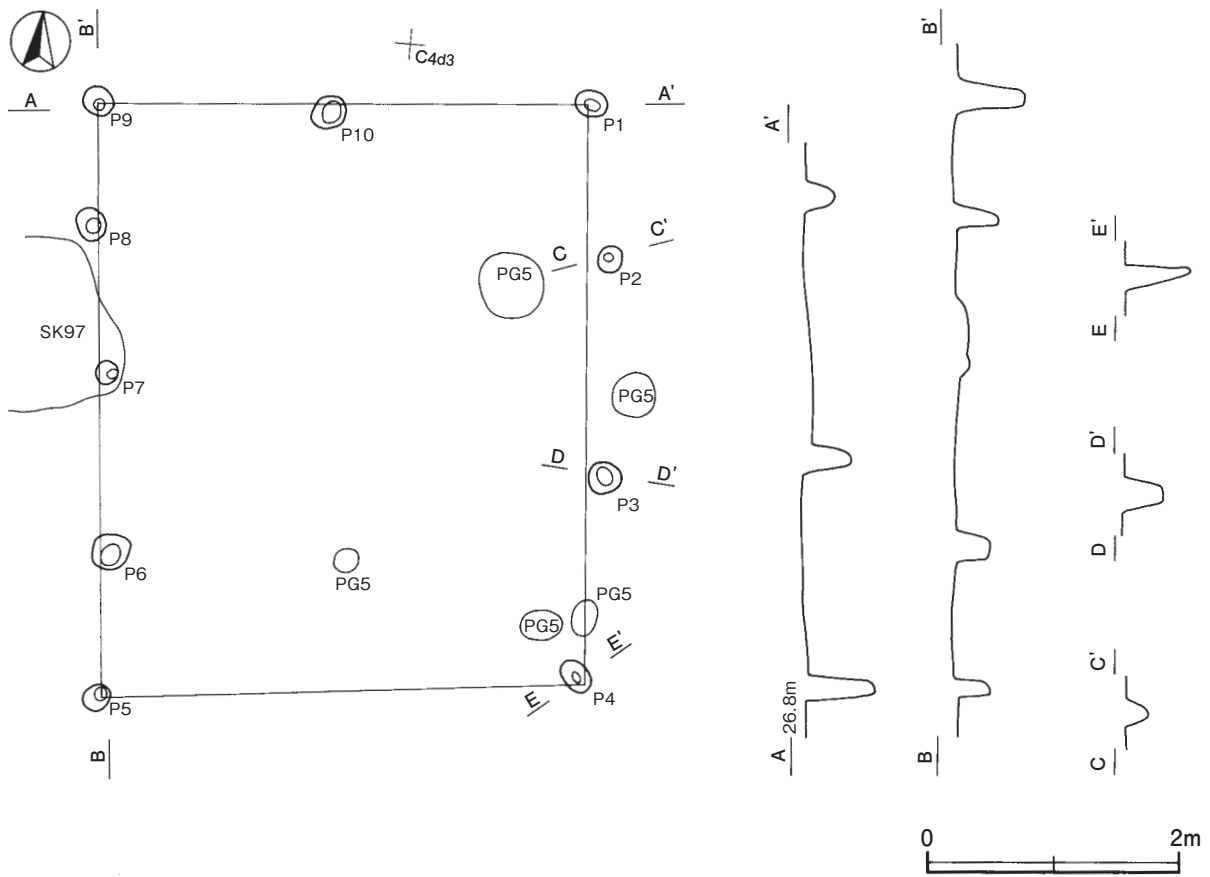
**所見** 本跡は、第1号溝跡のコーナー内側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものと考えられる。性格は不明で、時期は16世紀から17世紀と考えられる。

##### 第2号掘立柱建物跡（第21図）

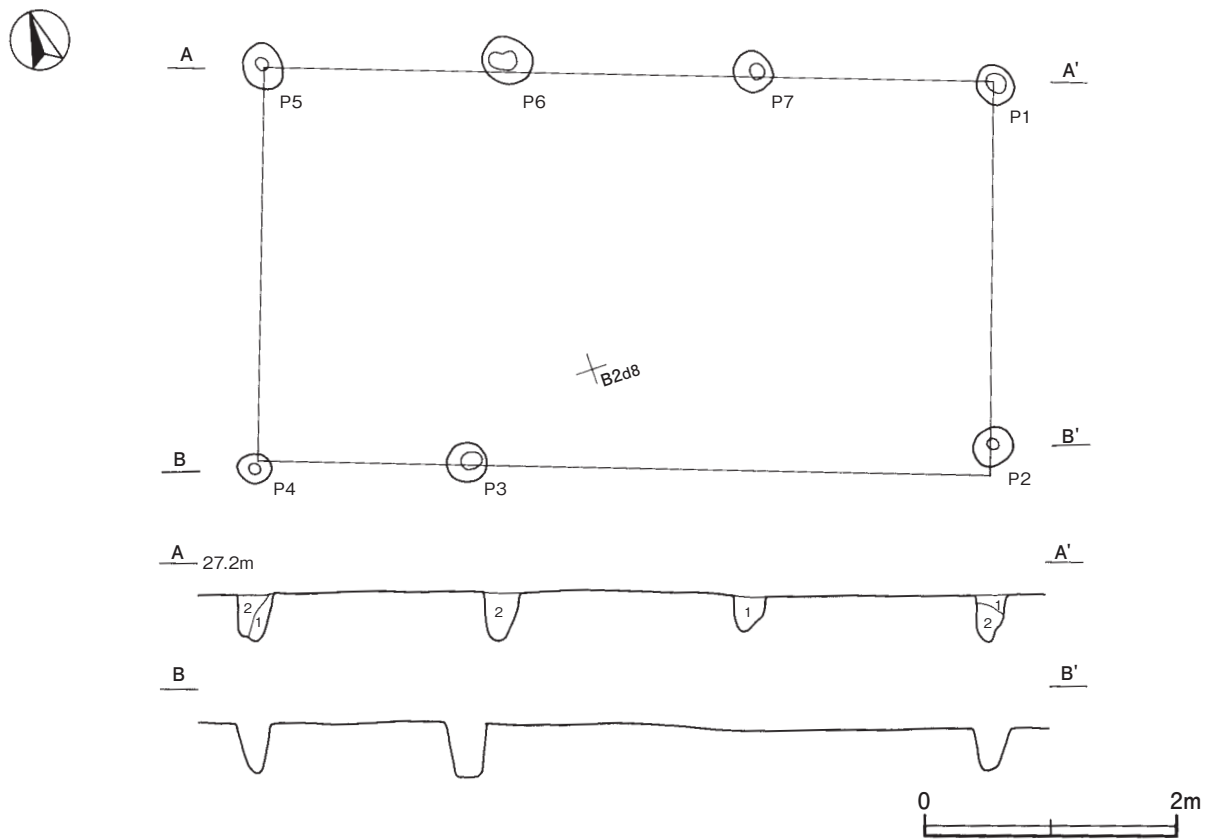
**位置** 調査区西部のB 2c8区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

**規模と構造** 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向はN-65°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.7m、梁行3.1mで、面積は17.98㎡である。柱間寸法は、東桁行が1.9mを基調として等間隔に並び、西桁行は北から1.7m、4.0mである。梁行は3.1mである。

**柱穴** 7か所。深さは25~40cmである。第2層は柱抜き取り痕であり、柱のあたりは不明瞭である。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。



第20图 第1号掘立柱建物跡実測図



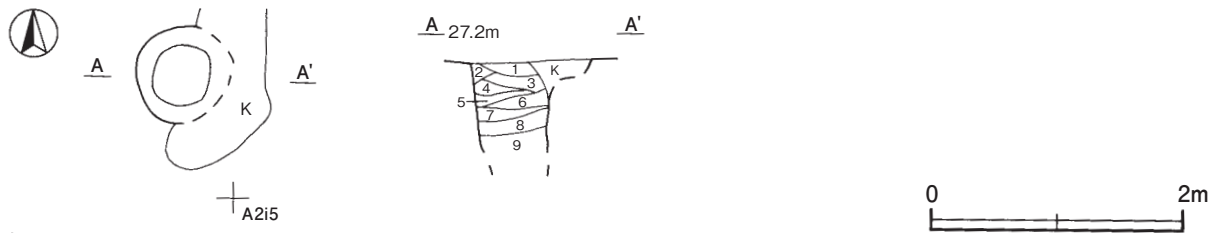
第21图 第2号掘立柱建物跡実測図



- |   |   |    |           |   |        |           |           |
|---|---|----|-----------|---|--------|-----------|-----------|
| 5 | 黒 | 色  | ローム粒子微量   | 8 | にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |           |
| 6 | 黒 | 褐色 | ロームブロック少量 | 9 | 黒      | 色         | ロームブロック少量 |
| 7 | 黒 | 色  | ローム粒子少量   |   |        |           |           |

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が覆土中層から出土している。そのほか、流れ込んだ縄文土器片3点、土師器片1点も出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第23図 第2号井戸跡実測図

表7 井戸跡一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)					
1	B 2e9	—	円形	0.85 × 0.80	1.50	垂直	平坦	人為	土師質土器	
2	A 2h4	—	円形	0.79 × [0.76]	(1.13)	垂直	不明	人為	土師質土器	

(3) 土坑

第187号土坑 (第24図)

位置 調査区北西部のA 2h3区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.42m、短軸1.16mの隅丸長方形で、長軸方向はN-12°-Eである。深さ64cmで、底面は平坦で、壁は直立している。

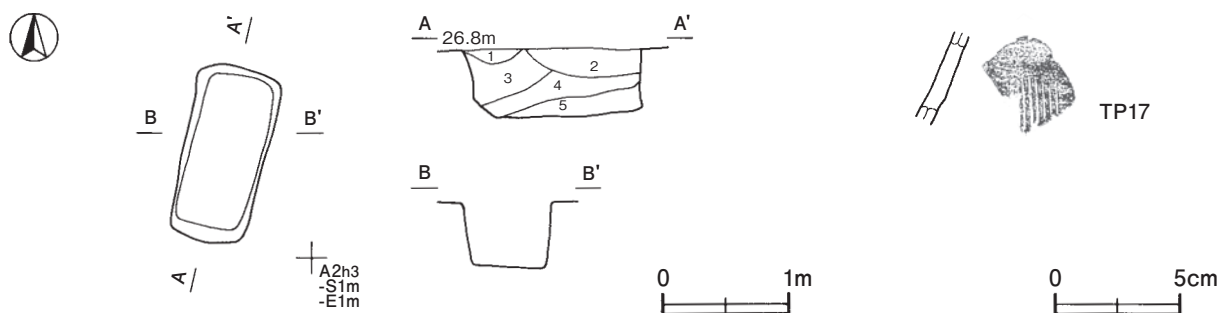
覆土 5層に分層される。一方向からの堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |   |     |     |                |   |   |    |           |
|---|-----|-----|----------------|---|---|----|-----------|
| 1 | 黒   | 褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 黒   | 褐色  | ロームブロック少量      | 5 | 暗 | 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 | にぶい | 黄褐色 | ロームブロック中量      |   |   |    |           |

遺物出土状況 覆土中層から陶器片1点(挿鉢)が出土している。

所見 時期は、出土遺物から中世と考えられる。



第24図 第187号土坑・出土遺物実測図

第187号土坑出土遺物観察表（第24図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP17	陶器	播鉢	—	(3.7)	—	緻密 鉄釉	暗赤	普通	播り目8条を1単位	覆土中層	瀬戸・美濃

(4) 柵跡

第1号柵跡（第25図）

位置 調査区南部のB 3 j2～C 3 a3区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

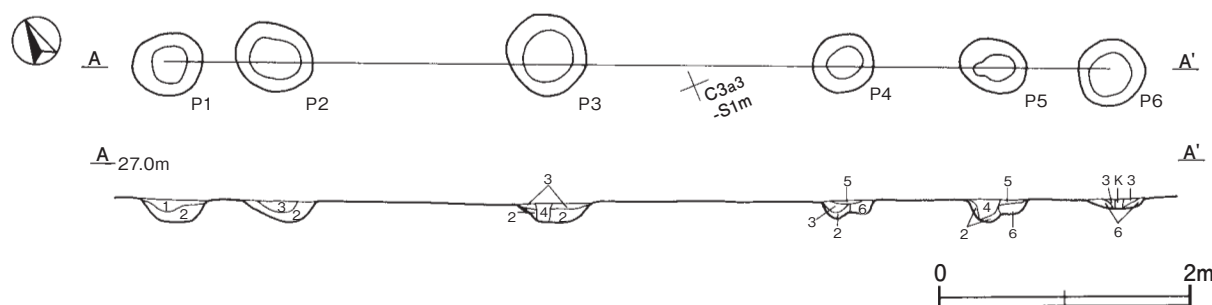
規模と形状 確認された長さは8.14m、方向はN-68°-Wで柱間寸法は0.9～2.4mである。

柱穴 6か所。平面形は長径48～65cm、短径45～60cmの円形または楕円形である。断面形はU字状及び皿状で、深さは9～17cmである。第1層は柱抜き取り後の混入した土層で、第2～6層が埋土と考えられる。

土層解説

- |       |         |          |           |
|-------|---------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色    | ローム粒子微量   |
| 2 褐色  | ローム粒子中量 | 5 褐色     | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |

所見 第1号溝跡と第5号溝跡及び第1号道路との間に同じ軸線で位置していることから、同時期に機能していた可能性が想定される。時期は、周囲の遺構との関係から16世紀から17世紀と考えられる。



第25図 第1号柵跡実測図

(5) 溝跡

中世から機能していたと考えられる溝跡は、6条確認されている。以下、遺構の特徴について土層断面図及び一覧表を掲載し記述する。平面図は遺構全体図に示す。

第1号溝跡（第26・56図）

位置 調査区中央部から南東部にかけてのB 3 i9～D 4 c5区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号陥し穴を掘り込み、第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 B 3 i9区から南東方向（S-80°-E）のC 4 b5区へほぼ直線状に延び、そこからL字状に屈曲し、南方向（S-0°）のD 4 c5区に向かって直線状に延びて調査区域外に至っている。確認された長さは98.8mで、上幅0.6～1.0m、下幅0.2～0.4m、深さ21～39cmで、断面形は逆台形状である。底面は平坦で、B 3 i9区からC 4 b5区、さらにC 4 f5区に向かって緩やかに傾斜している。



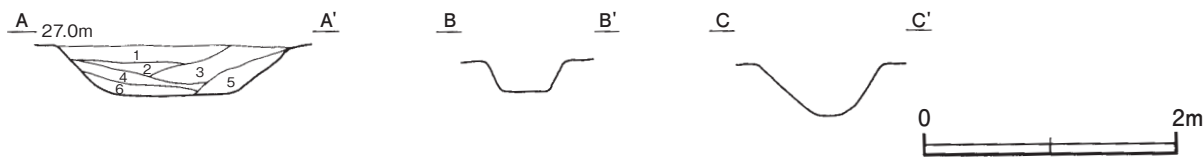
覆土 6層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |              |       |                 |
|-------|--------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量         |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量      | 5 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量    | 6 暗褐色 | ロームブロック少量       |

遺物出土状況 土師質土器片1点(鍋), 陶器片4点(碗, 甕3)のほか, 流れ込んだ縄文土器片2点, 土師器片2点も出土している。底面から常滑産の甕が出土しているが, 細片のため掲載できない。

所見 居住域の周囲を掘り込んだ, 排水及び居住域を区画するための溝であると考えられる。溝の内側には, 第1号掘立柱建物跡や第1号柵跡, 第5号溝跡などが確認され, 同時期に機能していたものと想定される。時期は, 出土土器から15世紀後半から16世紀代と考えられる。



第26図 第1号溝跡実測図

第2号溝跡 (第27・56図)

位置 調査区中央部のB 2g7~B 2b0区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第203号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 B 2g7区から北東方向(N-25°-E)のB 2b0区へほぼ直線状に延び, 調査区域外に至っている。確認された長さは58.7mで, 上幅0.6~0.8m, 下幅0.4m, 深さ22~24cmである。断面形は箱状及び逆台形状であり, 底面は平坦で高低差は見られない。

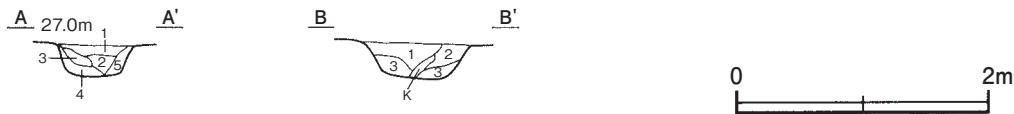
覆土 5層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |         |          |           |
|-------|---------|----------|-----------|
| 1 黒色  | ローム粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子中量  | 5 灰黄褐色   | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物少量   |          |           |

遺物出土状況 磁器片1点(碗)のほか, 流れ込んだ縄文土器片1点, 土師器片1点も出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 周囲の遺構との関連から, 居住域を区画するための溝と考えられる。溝の両側には, 第2号掘立柱建物跡や第1号井戸跡などが確認され, 同時期に機能していた可能性がある。時期は, 出土土器から16世紀から17世紀前半と考えられる。



第27図 第2号溝跡実測図

第3号溝跡（第28・56図）

位置 調査区南東部のD 4 a8～D 4 d7区、標高26.6～26.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 D 4 a8区から南西方向（S-15°-W）のD 4 d7区へ直線状に延び、調査区域外に至っている。確認された長さは6.2mで、上幅0.6～0.8m、下幅0.5～0.6m、深さ20～23cmである。断面形は逆台形状であり、底面は平坦で東から西に向かって緩やかに傾斜している。

覆土 2層に分層される。周囲からの土の流入を示した自然堆積である。

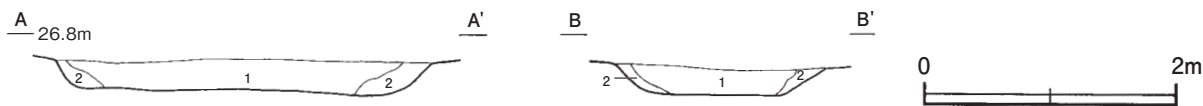
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片4点（鍋）、陶器片1点（碗）が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第28図 第3号溝跡実測図

第4号溝跡（第29・56図）

位置 調査区南東部のD 4 e8～D 4 d8区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 D 4 e8区から北東方向（N-14°-E）のD 4 d8区に直線状に延び、調査区域外に至っている。確認された長さは2.4mで、上幅0.3m、下幅0.2m、深さ18～20cmである。断面形はU字状であり、底面は平坦で傾斜は見られない。

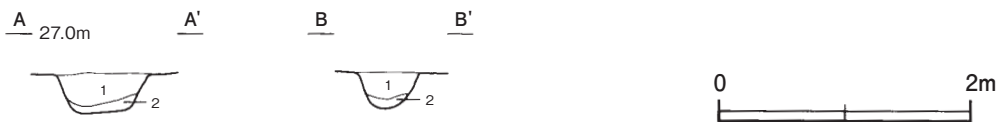
覆土 2層に分層される。周囲からの土の流入を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

所見 時期は、周囲の遺構との関係から16世紀から17世紀と考えられる。



第29図 第4号溝跡実測図

第5号溝跡（第30・56図）

位置 調査区中央部のC 3 c9～C 3 b4区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第113号土坑を掘り込み、第2号ピット群に掘り込まれている。覆土上層には第1号道路が構築されている。

規模と形状 C 3 c9区から北東方向（N-75°-E）のC 3 b4区に直線状に延びている。確認された長さは25.5mで、上幅0.5～2.2m、下幅0.1～0.4m、深さ20cmである。断面形は浅いU字状であり、底面は北東方向に緩やかに傾斜している。

覆土 3層に分層される。周囲からの土の流入を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片1点(鍋)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第30図 第5号溝跡実測図

第6号溝跡(第31・56図)

位置 調査区北西部のA1h0~A2h5区、標高26.5~26.9mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 A2h5区から西のA1h0区にほぼ直線状に延びている。確認された長さは21.2mで、上幅0.1~1.4m、下幅0.05~0.4m、深さ2~40cmである。断面形は浅いU字状であり、底面は西に向かって緩やかに傾斜している。

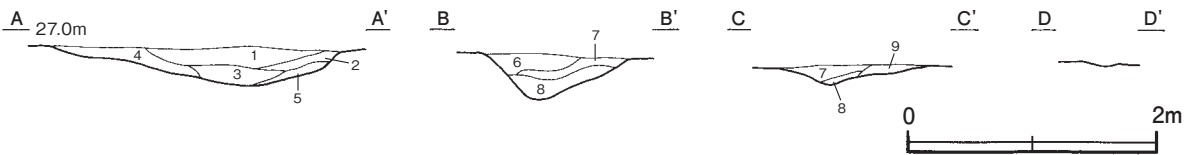
覆土 9層に分層される。不規則な堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片2点(鍋)、陶器片1点(甕)、磁器片2点(碗)、土製品1点(置き竈)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 時期は、出土土器から16世紀から17世紀と考えられる。



第31図 第6号溝跡実測図

表8 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	B3i9~C4b5~D4c5	N-80°-E S-0°	L字状	(98.8)	0.6~1.0	0.2~0.4	21~39	外傾・緩斜	平坦	人為	土師質土器、陶器	第1号陥し穴→本跡→PG2
2	B2g7~B2b0	N-25°-E	直線状	(58.7)	0.6~0.8	0.4	22~24	外傾	平坦	人為	磁器	本跡→SK203
3	D4a8~D4d7	S-15°-W	直線状	(6.2)	0.6~0.8	0.5~0.6	20~23	緩斜	平坦	自然	土師質土器、陶器	
4	D4e8~D4d8	N-14°-E	直線状	(2.4)	0.3	0.2	18~20	外傾	平坦	自然	—	本跡→PG11
5	C3c9~C3b4	N-75°-E	直線状	25.5	0.5~2.2	0.1~0.4	20	緩斜	U字状	自然	土師質土器	SK113→本跡→SF1, PG2
6	A1h0~A2h5	N-90°-W	直線状	(21.2)	0.1~1.4	0.05~0.4	2~40	緩斜	U字状	自然	土師質土器、陶器、磁器、土製品	

(6) 道路跡

中世から機能していたと考えられる道路跡は、3条確認されている。以下遺構の特徴について土層断面図及び一覧表を掲載して記述する。平面図は遺構全体図に示した。

第1号道路跡（第32・56図）

位置 調査区中央部のC3c9～C3a2区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号溝跡の上層に構築されている。

規模と構造 C3c9区から北西方向（N-75°-W）のC3a2区へ直線状に延び、調査区域外に至っている。

確認できた長さは26.2mで、上幅は0.5～1.9mである。

構築土 単一層である。締まりの強い土層である。第1層上面が路面として機能していたと考えられる。

土層解説  
1 黒色 ローム粒子少量

遺物出土状況 覆土中から土師質土器片1点（鍋）が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 掘り込みがほとんどなく第5号溝跡の覆土上面が硬化していることから、第5号溝跡の廃絶後に道路として利用されたと考えられる。時期は、出土土器や重複関係から16世紀から17世紀と考えられる。



第32図 第1号道路跡実測図

第2号道路跡（第33・56図）

位置 調査区北西部のA2g1～A2e2区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

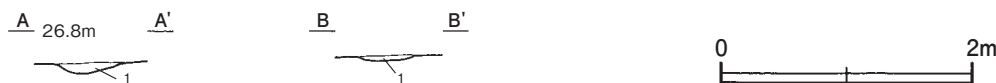
規模と構造 A2g1区から北東方向（N-3°-E）のA2e2区へ直線状に延び、調査区域外に至っている。

確認できた長さは8.9mで、上幅は0.2～0.6mである。断面形は皿状である。

構築土 単一層である。締まりの強い土層である。第1層上面が路面として機能していたと考えられる。

土層解説  
1 褐色 ロームブロック多量

所見 台地平坦部と谷津を往来したことによって、硬化したものと考えられる。隣接する第3号道路跡と形状が似ていることや、主軸方向がほぼ同じことから、第3号道路跡とは同じ目的で使用された可能性がある。第3号道路跡とは機能時の時間差があるが、時期は16世紀から17世紀と考えられる。



第33図 第2号道路跡実測図

### 第3号道路跡（第34・56図）

**位置** 調査区北西部のA1g0～A2e1区，標高26.4mの緩斜面部に位置している。

**規模と構造** A1g0区から北東方向（N-5°-E）のA2e1区へ直線状に延び，調査区域外に至っている。確認できた長さは9.6mで，上幅は0.7～1.4mである。断面形は皿状である。

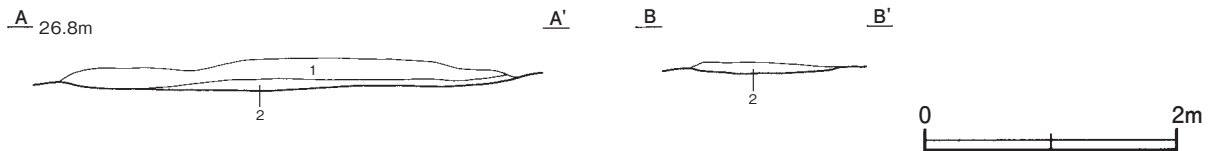
**構築土** 2層からなる。締まりの強い土層である。第1層上面が路面として機能していたと考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量      2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 覆土中から土師質土器片3点（鍋），陶器片1点（碗），磁器片1点（碗），土製品1点（土管）が出土している。ほかに混入した土師器片2点，須恵器片1点も出土している。遺物は細片のため掲載できない。

**所見** 台地平坦部と谷津を往来したことによって，硬化したものと考えられる。時期は，出土遺物から16世紀から17世紀と考えられる。



第34図 第3号道路跡実測図

表9 道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模			断面	構築土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				確認長(m)	上幅(m)	厚さ(cm)				
1	C3c9～C3a2	N-75°-W	直線状	(26.2)	0.5～1.9	2.4	皿状	人為	土師質土器	SD5→本跡
2	A2g1～A2e2	N-3°-E	直線状	(8.9)	0.2～0.6	1.8～2.4	皿状	人為	—	
3	A1g0～A2e1	N-5°-E	直線状	(9.6)	0.7～1.4	2.0～4.8	皿状	人為	土師質土器，陶器，磁器，土製品	

### (7) ピット群

#### 第2号ピット群（第35図）

**位置** 調査区中央部のB3j1～C3b3区，標高26.7mの台地平坦部に位置している。

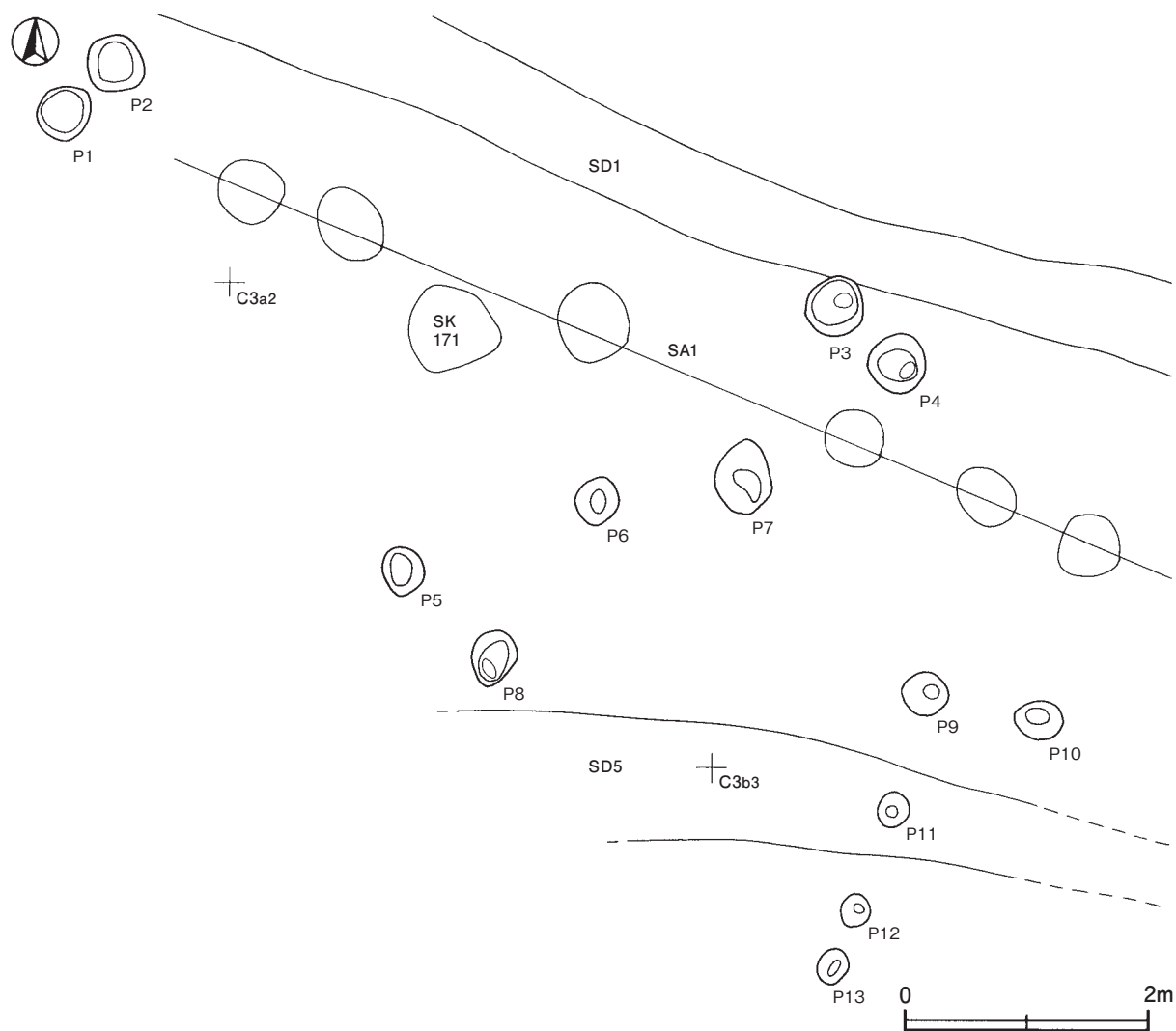
**重複関係** 第1・5号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南北12m，東西12mの範囲から，13か所のピットが確認された。平面形は径24～65cmの円形または楕円形で，深さは14～36cmである。

**覆土** 黒褐色土または暗褐色土で，締まりは普通である。

**所見** 第1号溝跡と第1号柵跡や，第5号溝跡と第1号道路跡が検出された周辺に位置しているが，配置に規則性がなく，性格は不明である。時期は，周囲の遺構から中世と考えられる。





第35図 第2号ピット群実測図

表10 第2号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模 (cm)			ピット番号	形状	規模 (cm)			ピット番号	形状	規模 (cm)		
		長径	短径	深さ			長径	短径	深さ			長径	短径	深さ
1	楕円形	48	42	25	6	楕円形	42	36	22	10	楕円形	41	34	19
2	円形	46	45	25	7	楕円形	65	47	18	11	円形	28	26	30
3	円形	50	50	36	8	楕円形	47	36	18	12	楕円形	29	24	14
4	円形	50	49	22	9	円形	36	34	20	13	楕円形	28	24	14
5	楕円形	40	34	15										

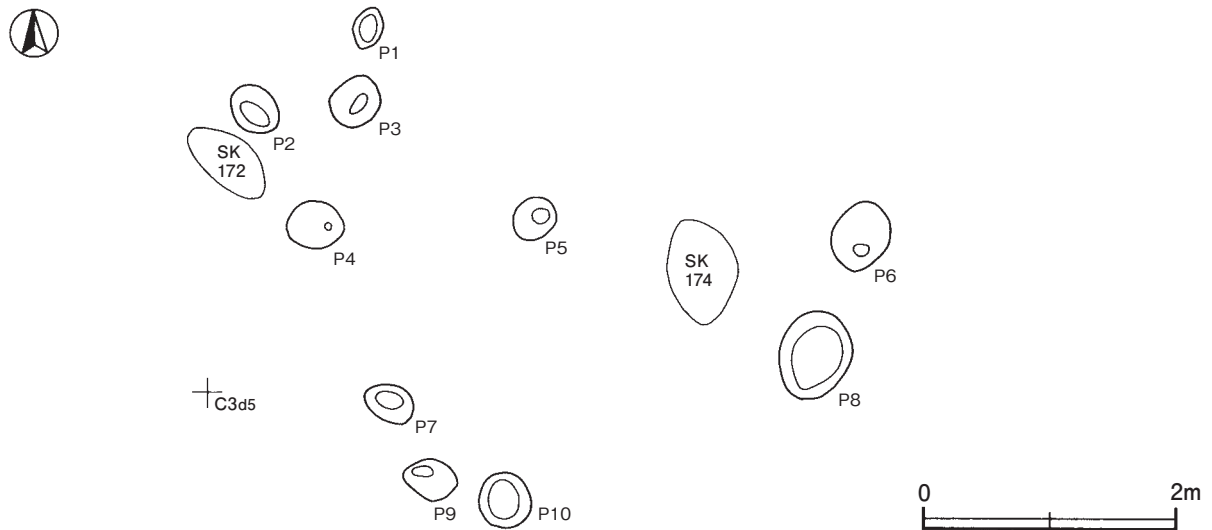
第3号ピット群 (第36図)

位置 調査区中央部のC 3 c5～C 3 d6区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北8 m、東西8 mの範囲から、10か所のピットが確認された。平面形は径23～71cmの円形または楕円形で、深さは10～30cmである。

覆土 黒褐色土または暗褐色土で、締まりは普通である。

所見 第5号溝跡と第1号道路跡が検出された南側に位置しているが、配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、周囲の遺構から中世と考えられる。



第36図 第3号ピット群実測図

表11 第3号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模 (cm)			ピット番号	形状	規模 (cm)			ピット番号	形状	規模 (cm)		
		長径	短径	深さ			長径	短径	深さ			長径	短径	深さ
1	楕円形	34	23	15	5	円形	36	33	19	8	楕円形	71	54	14
2	楕円形	44	34	13	6	楕円形	58	44	26	9	楕円形	55	32	16
3	楕円形	40	35	30	7	楕円形	42	29	14	10	円形	43	43	10
4	楕円形	45	36	23										

第4号ピット群 (第37図)

位置 調査区南東部のC 3 d0～C 4 e1区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

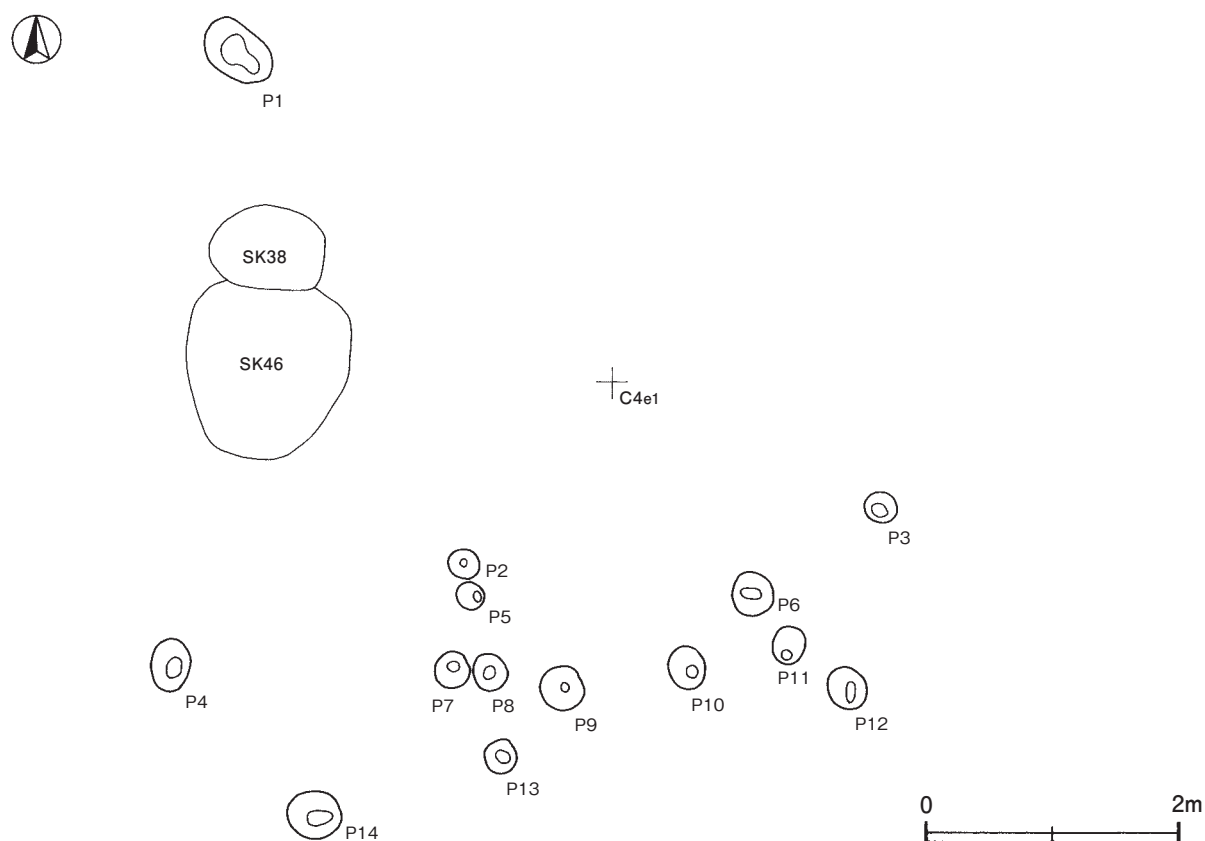
規模と形状 南北8m、東西8mの範囲から、14か所のピットが確認された。平面形は径21～61cmの円形または楕円形で、深さは16～32cmである。

覆土 黒褐色土または暗褐色土で、締まりは普通である。

所見 第1号掘立柱建物跡の西側に位置しているが、配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、周囲の遺構から中世と考えられる。

表12 第4号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模 (cm)			ピット番号	形状	規模 (cm)			ピット番号	形状	規模 (cm)		
		長径	短径	深さ			長径	短径	深さ			長径	短径	深さ
1	楕円形	61	49	16	6	円形	35	35	32	11	楕円形	31	28	26
2	円形	25	25	26	7	楕円形	30	27	25	12	楕円形	37	31	19
3	円形	25	25	27	8	円形	29	27	31	13	円形	27	26	22
4	楕円形	43	32	29	9	楕円形	38	34	32	14	楕円形	44	39	22
5	楕円形	25	21	22	10	楕円形	33	29	23					



第37図 第4号ピット群実測図

第5号ピット群 (第38図)

位置 調査区南東部のC 4 c1～C 4 e5区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11・12号土坑を掘り込み、第205号土坑に掘り込まれている。第1号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴の重複は見られず新旧関係は不明である。

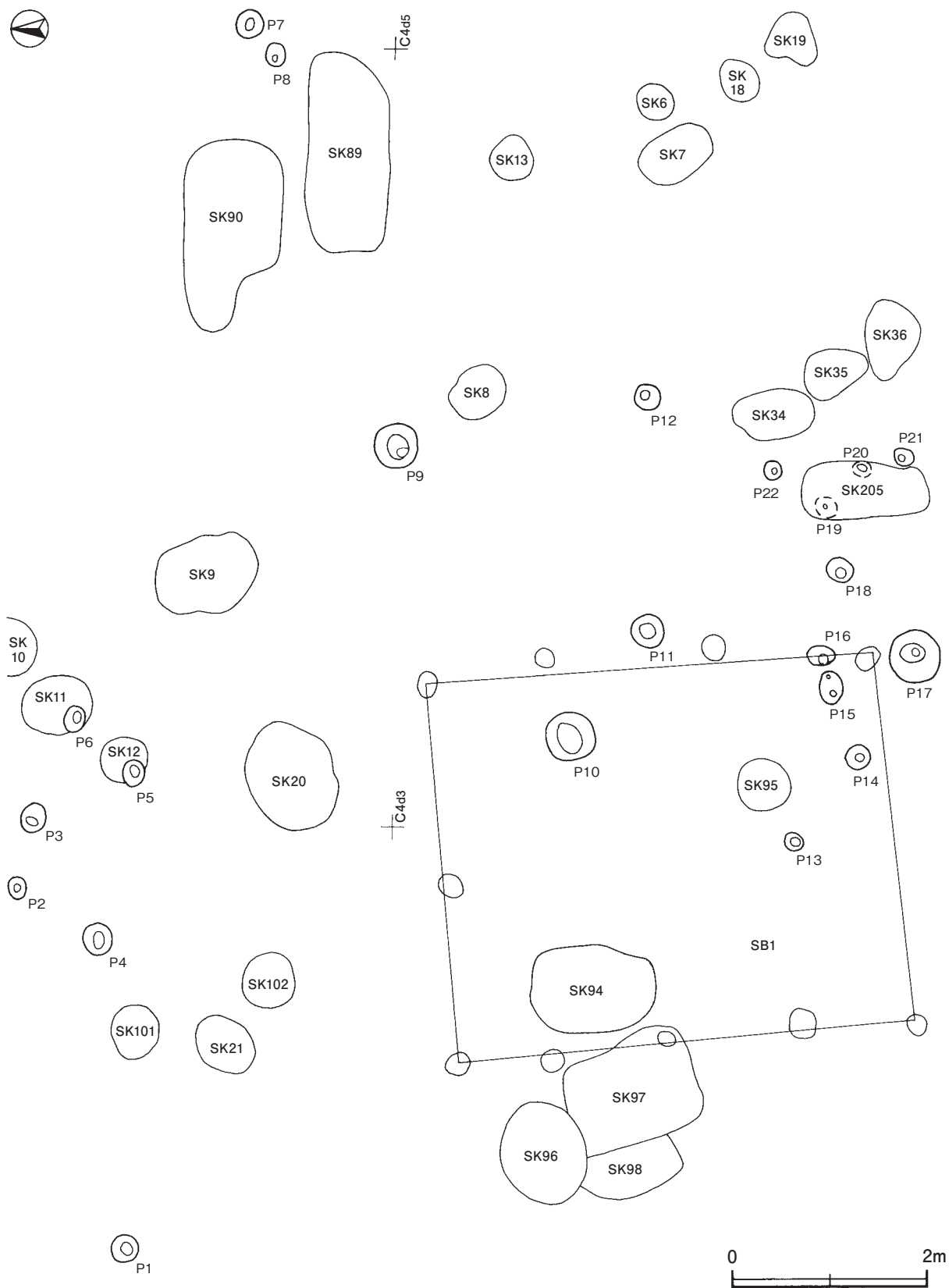
規模と形状 南北12m、東西20mの範囲から、22か所のピットが確認された。平面形は径15～57cmの円形または楕円形で、深さは8～59cmである。

覆土 黒褐色土または暗褐色土で、締まりは普通である。

所見 第1号掘立柱建物跡の周辺に位置しているが、配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、周囲の遺構から中世と考えられる。

表13 第5号ピット群ピット一覧表

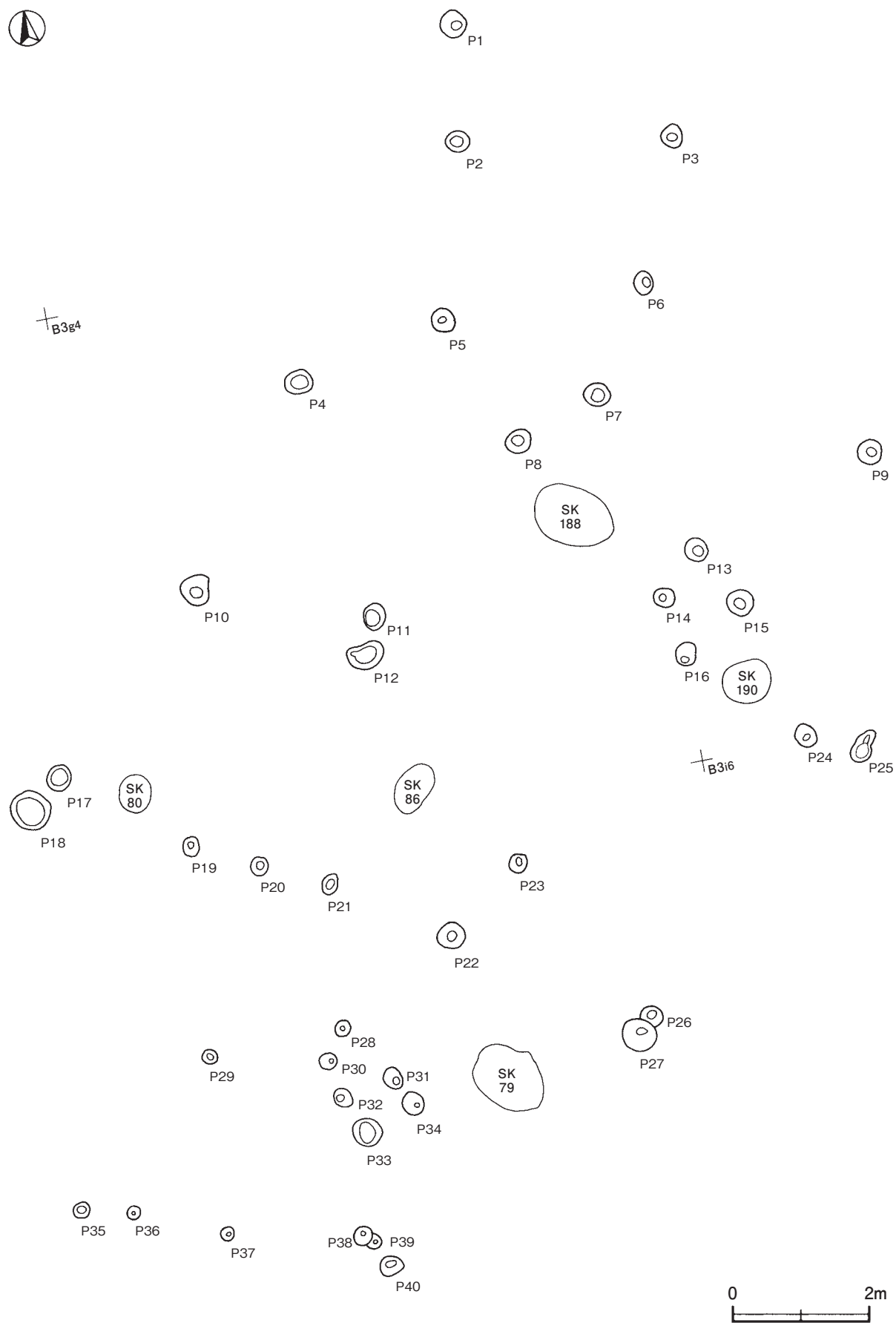
ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)		
		長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ
1	円形	28	28	19	9	円形	47	47	27	16	楕円形	30	21	35
2	楕円形	24	20	23	10	円形	53	53	8	17	円形	57	52	39
3	円形	27	25	19	11	円形	35	35	15	18	楕円形	28	25	25
4	円形	33	30	15	12	円形	27	27	29	19	円形	23	22	59
5	楕円形	30	24	28	13	楕円形	21	17	17	20	楕円形	20	15	34
6	楕円形	27	21	18	14	円形	27	27	22	21	楕円形	22	19	29
7	楕円形	32	26	33	15	楕円形	35	25	24	22	楕円形	20	18	41
8	楕円形	25	20	46										



第38図 第5号ピット群実測図

第6号ピット群 (第39図)

位置 調査区中央部のB 3 f3~B 3 j6区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。



第39図 第6号ピット群実測図

規模と形状 南北20m, 東西16mの範囲から, 40か所のピットが確認された。平面形は径19~60cmの円形または楕円形で, 深さは9~50cmである。

覆土 黒褐色土または暗褐色土で, 締まりは普通である。

所見 第1号溝跡の北側に位置しているが, 配置に規則性がなく, 性格は不明である。時期は, 周囲の遺構から中世と考えられる。

表14 第6号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)		
		長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ
1	円形	40	39	29	15	円形	39	38	18	28	円形	23	21	24
2	円形	35	32	13	16	円形	36	33	50	29	楕円形	23	29	10
3	円形	33	32	21	17	円形	37	34	12	30	円形	24	23	29
4	楕円形	40	35	17	18	円形	60	55	18	31	楕円形	32	28	27
5	円形	37	35	22	19	楕円形	30	24	19	32	楕円形	30	26	37
6	楕円形	35	28	17	20	円形	27	25	24	33	楕円形	45	40	19
7	円形	37	36	17	21	楕円形	33	24	9	34	円形	33	31	40
8	楕円形	38	34	15	22	円形	40	38	21	35	円形	25	23	15
9	円形	35	35	16	23	楕円形	29	26	25	36	円形	22	20	11
10	円形	46	44	13	24	楕円形	33	29	20	37	楕円形	22	19	15
11	円形	37	34	38	25	楕円形	50	29	34	38	楕円形	30	24	34
12	楕円形	53	37	19	26	[楕円形]	37	(22)	26	39	[円形]	24	(18)	28
13	円形	34	31	16	27	楕円形	49	44	21	40	楕円形	34	28	34
14	円形	32	30	21										

表15 中世ピット群一覧表

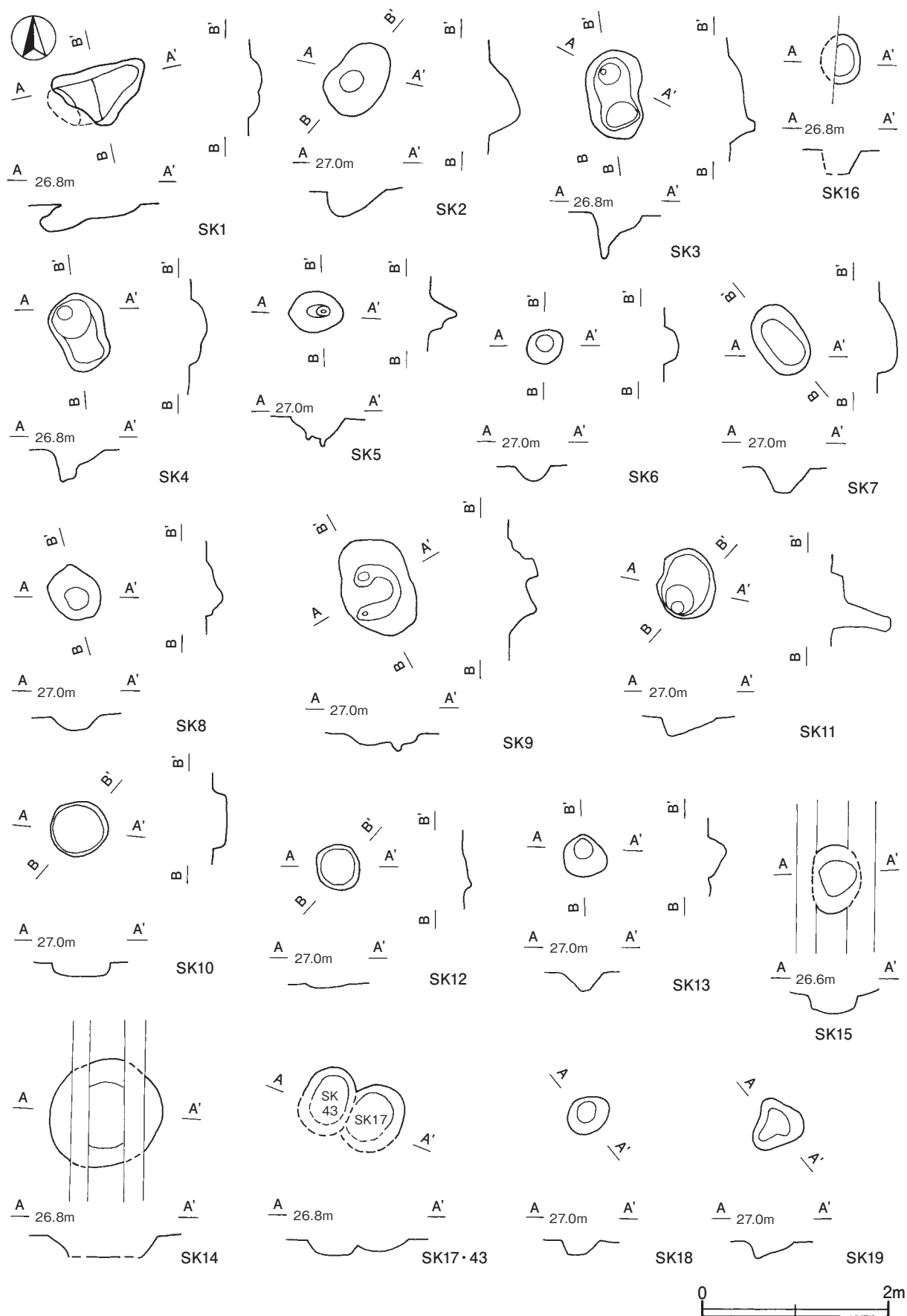
番号	位 置	柱穴 (長さの単位はすべてcm)					主 な 遺 物	備 考 重複関係 (古→新)
		柱穴	平面形	長径 (軸)	短径 (軸)	深 さ		
2	B 3 j1 ~ C 3 b3	13	円形・楕円形	28~65	24~50	14~36	—	SD1・5→本跡
3	C 3 e5 ~ C 3 d6	10	円形・楕円形	34~71	23~54	10~30	—	
4	C 3 d0 ~ C 4 e1	14	円形・楕円形	25~61	21~49	16~32	—	
5	C 4 c1 ~ C 4 e5	22	円形・楕円形	20~57	15~53	8~59	—	SK11・12→本跡→SK205
6	B 3 f3 ~ B 3 j6	40	円形・楕円形	22~60	19~55	9~50	—	

#### 4 その他の遺構と遺物

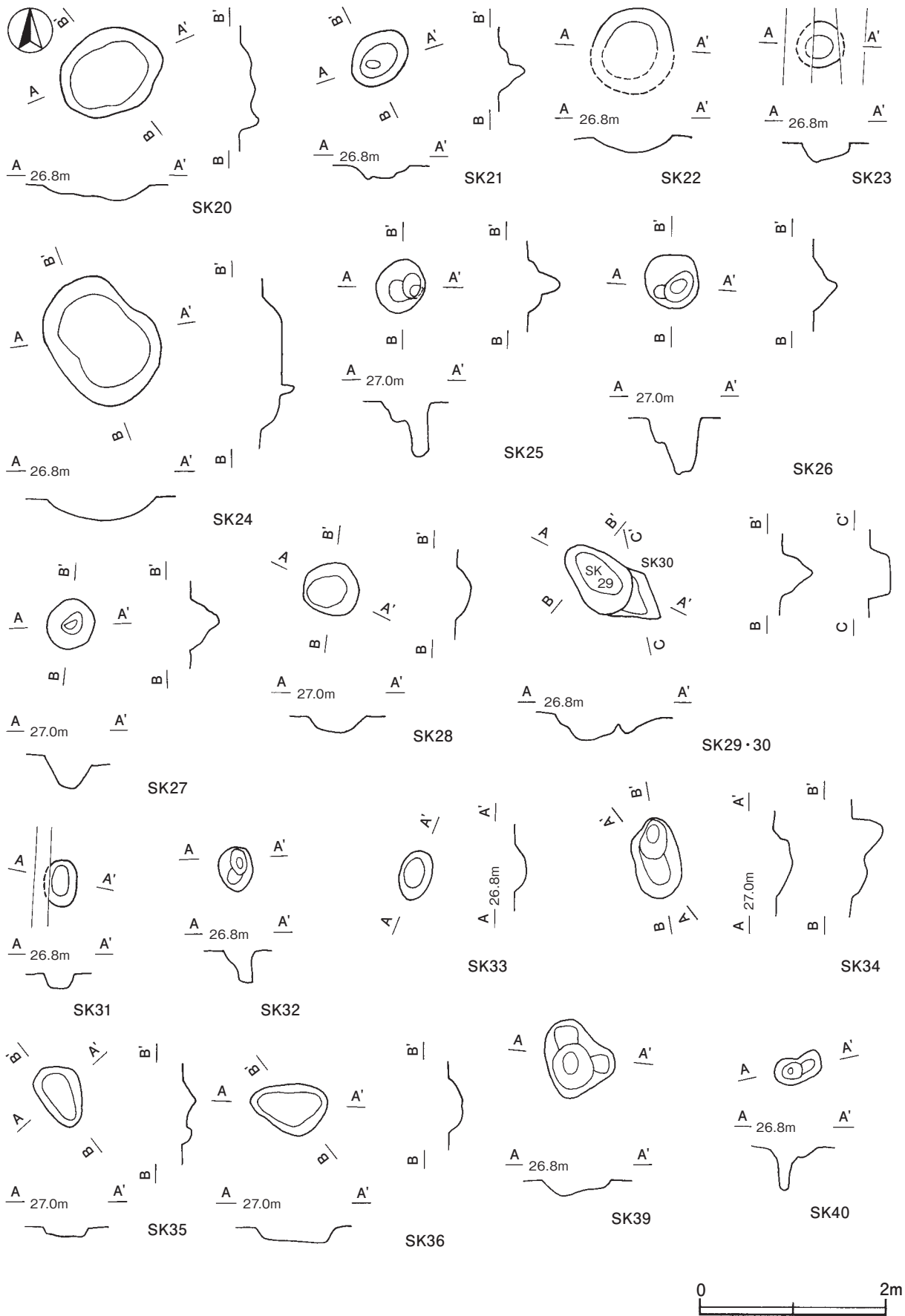
##### (1) 土坑 (第40~48図)

時期不明の土坑163基を検出した。以下, 実測図及び一覧表で示す。そのうち41基の長方形土坑は, 堆積状況, 形状, 掘削位置から芋穴とも想定されるが, 明確ではない。

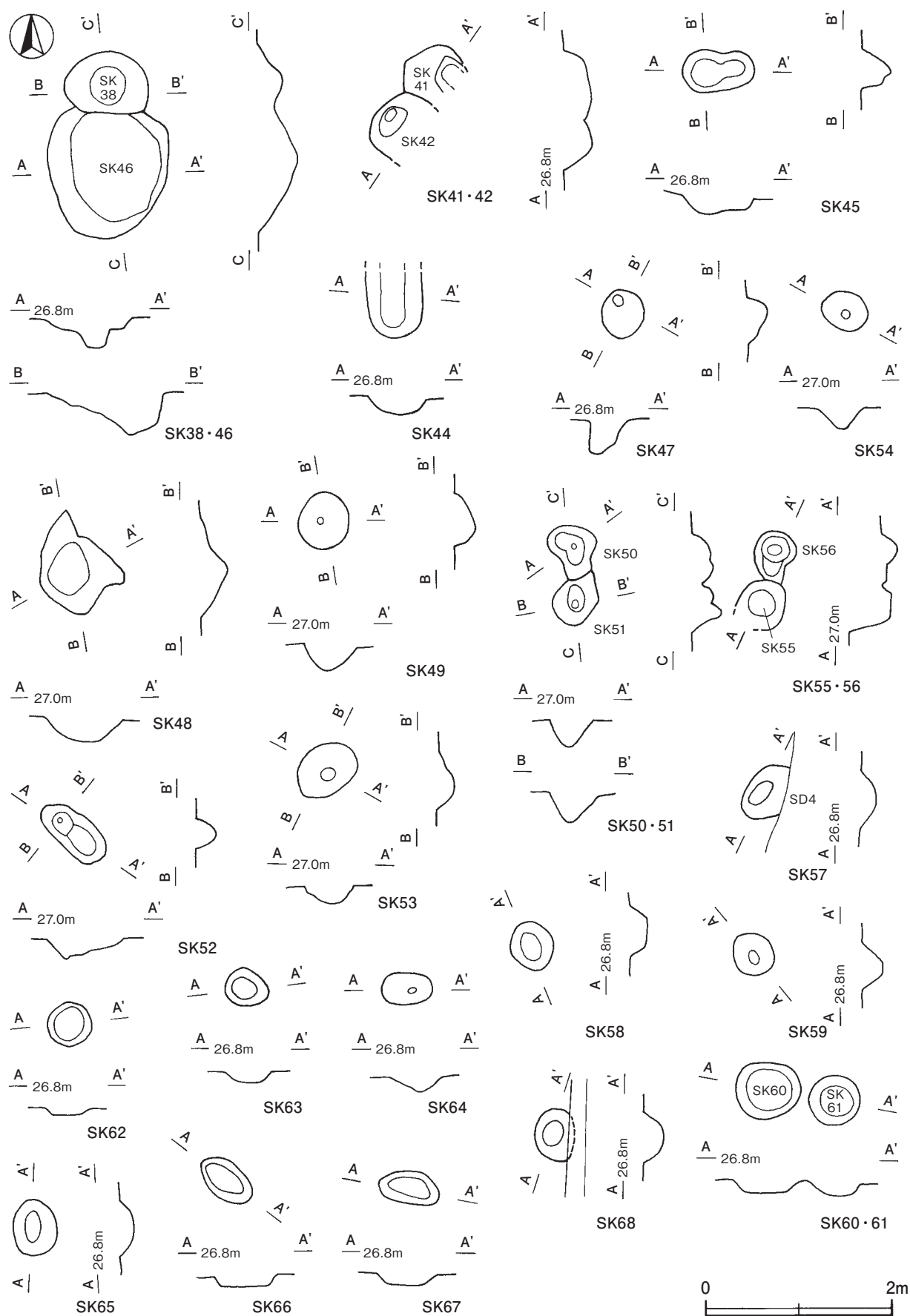




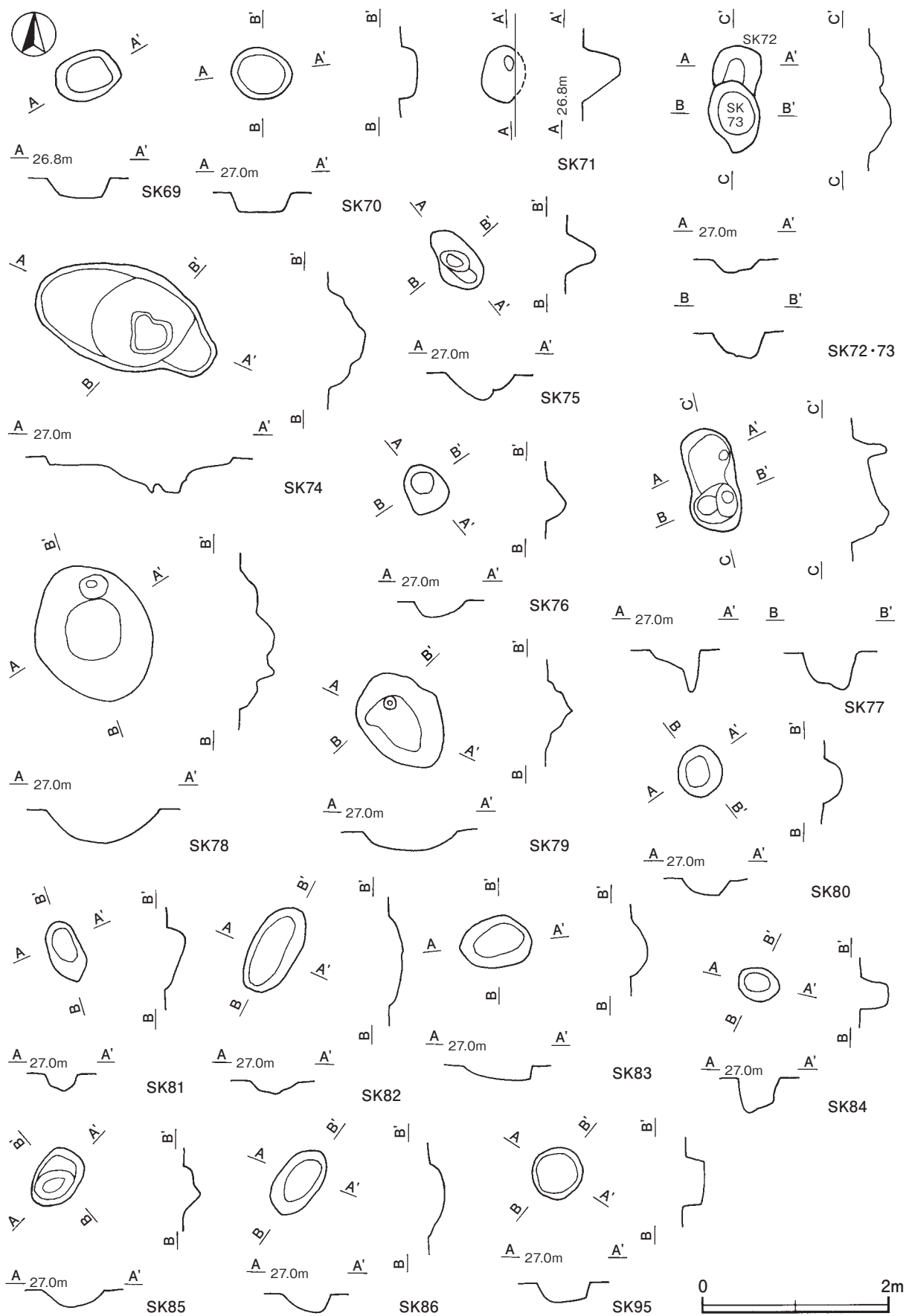
第40図 時期不明土坑実測図 (1)



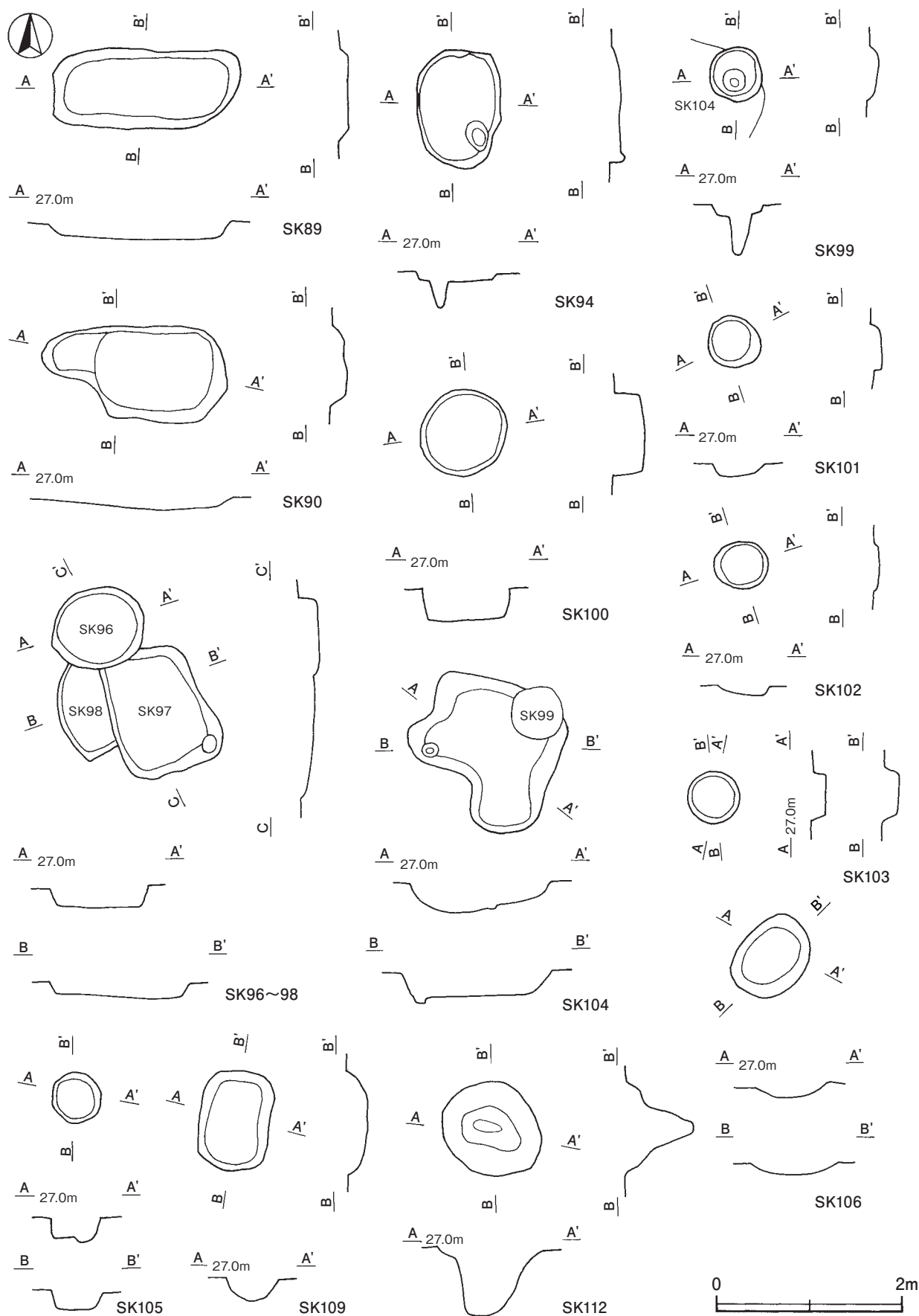
第41图 时期不明土坑实测图 (2)



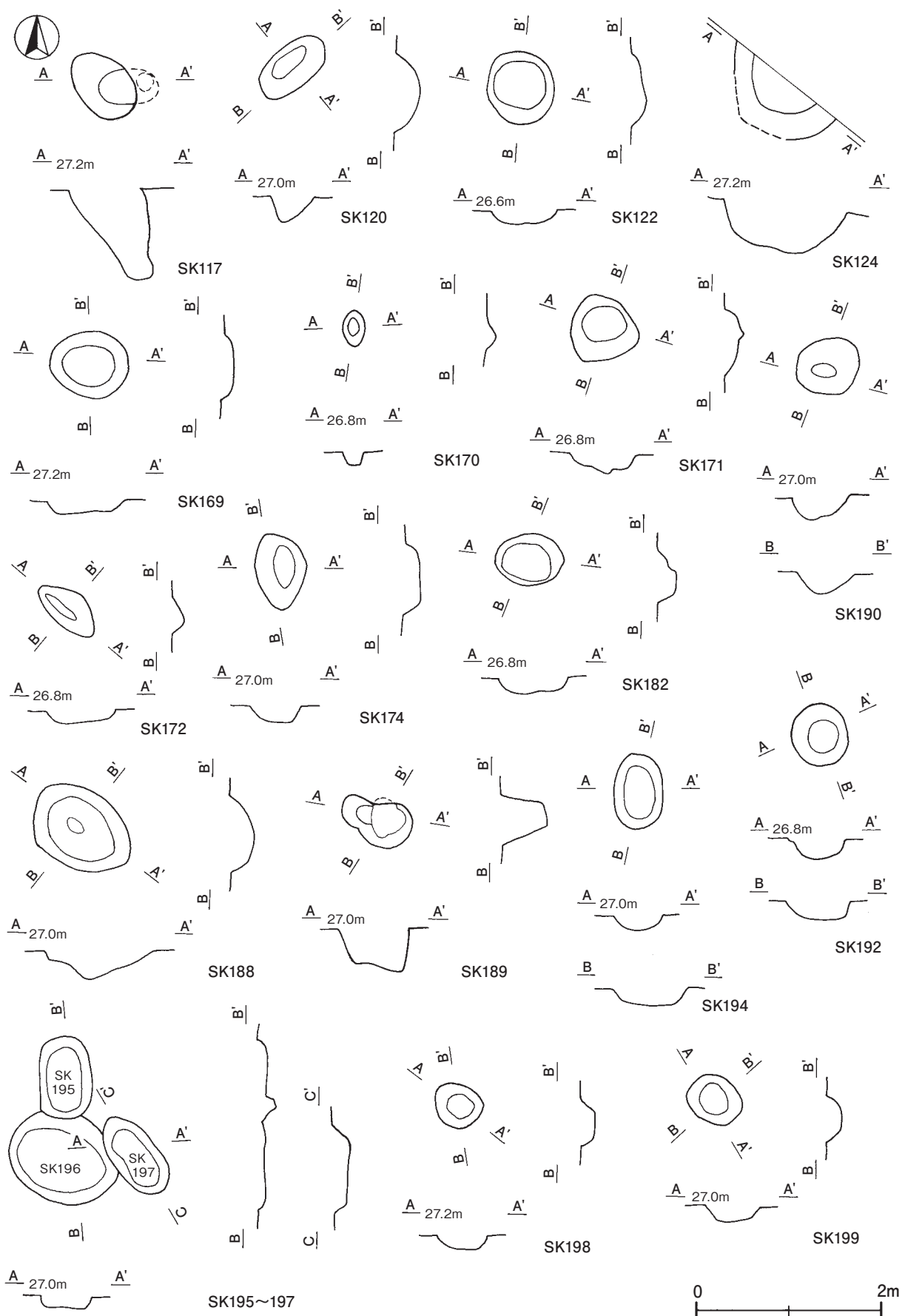
第42図 時期不明土坑実測図 (3)



第43图 时期不明土坑实测图 (4)

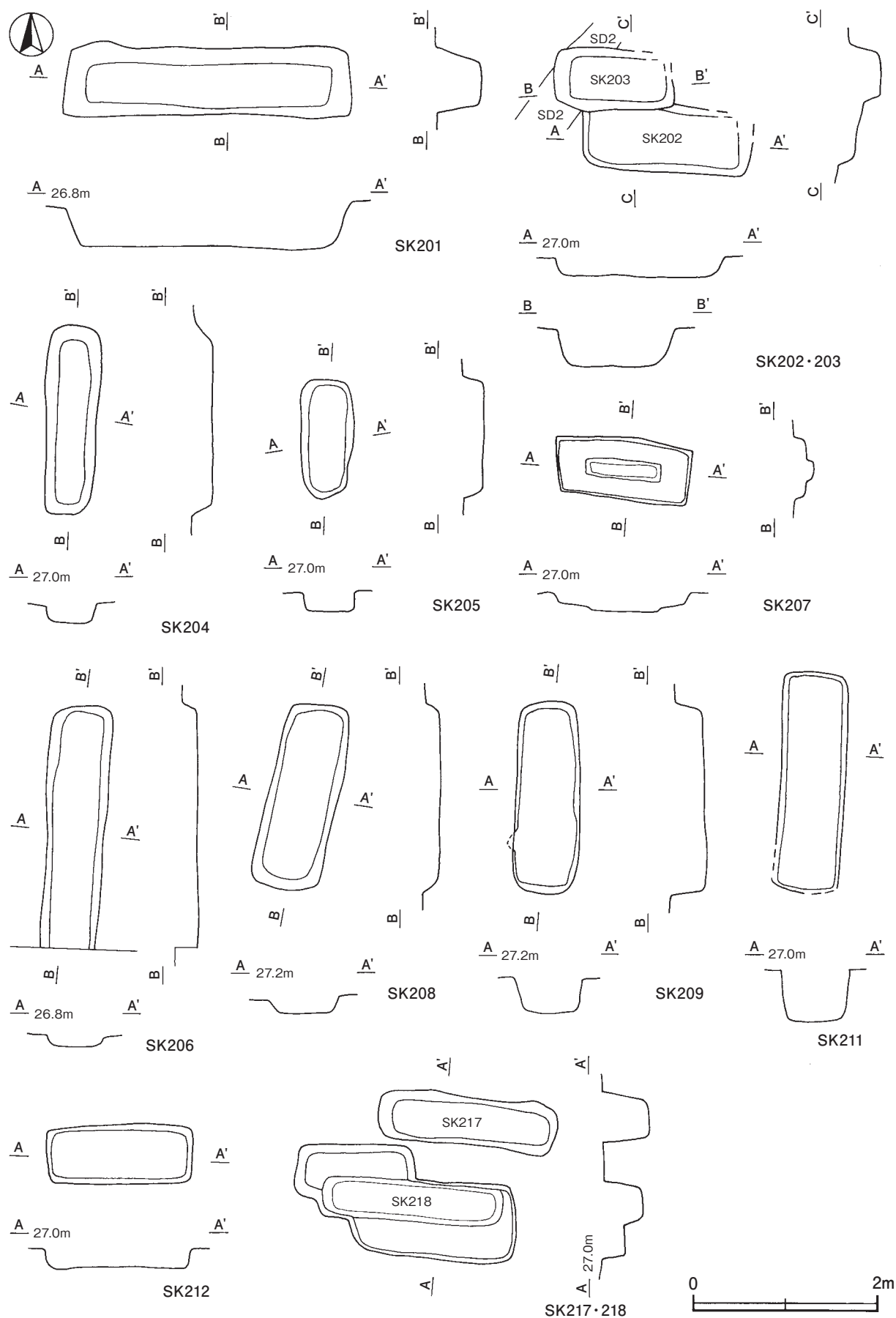


第44図 時期不明土坑実測図 (5)

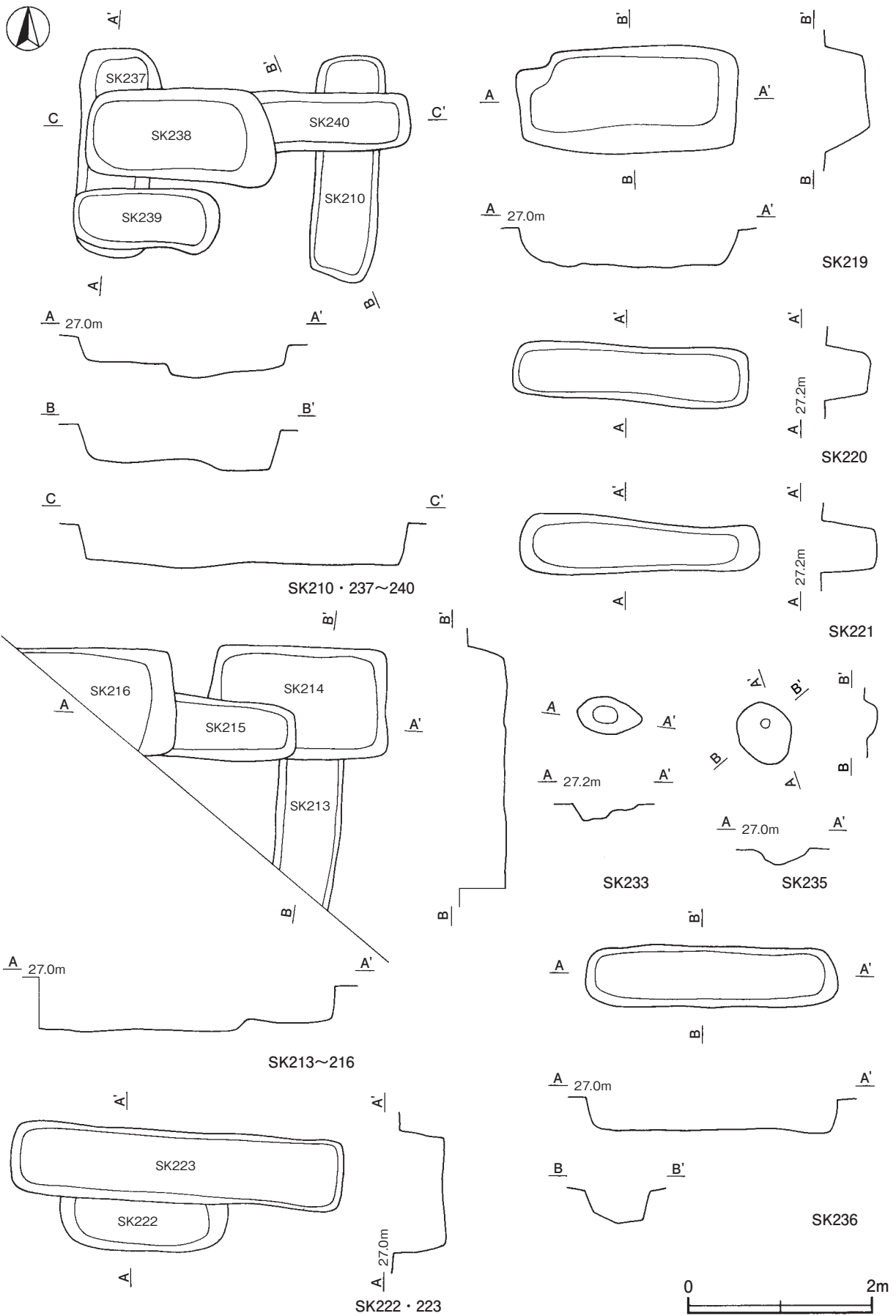


第45图 时期不明土坑实测图 (6)

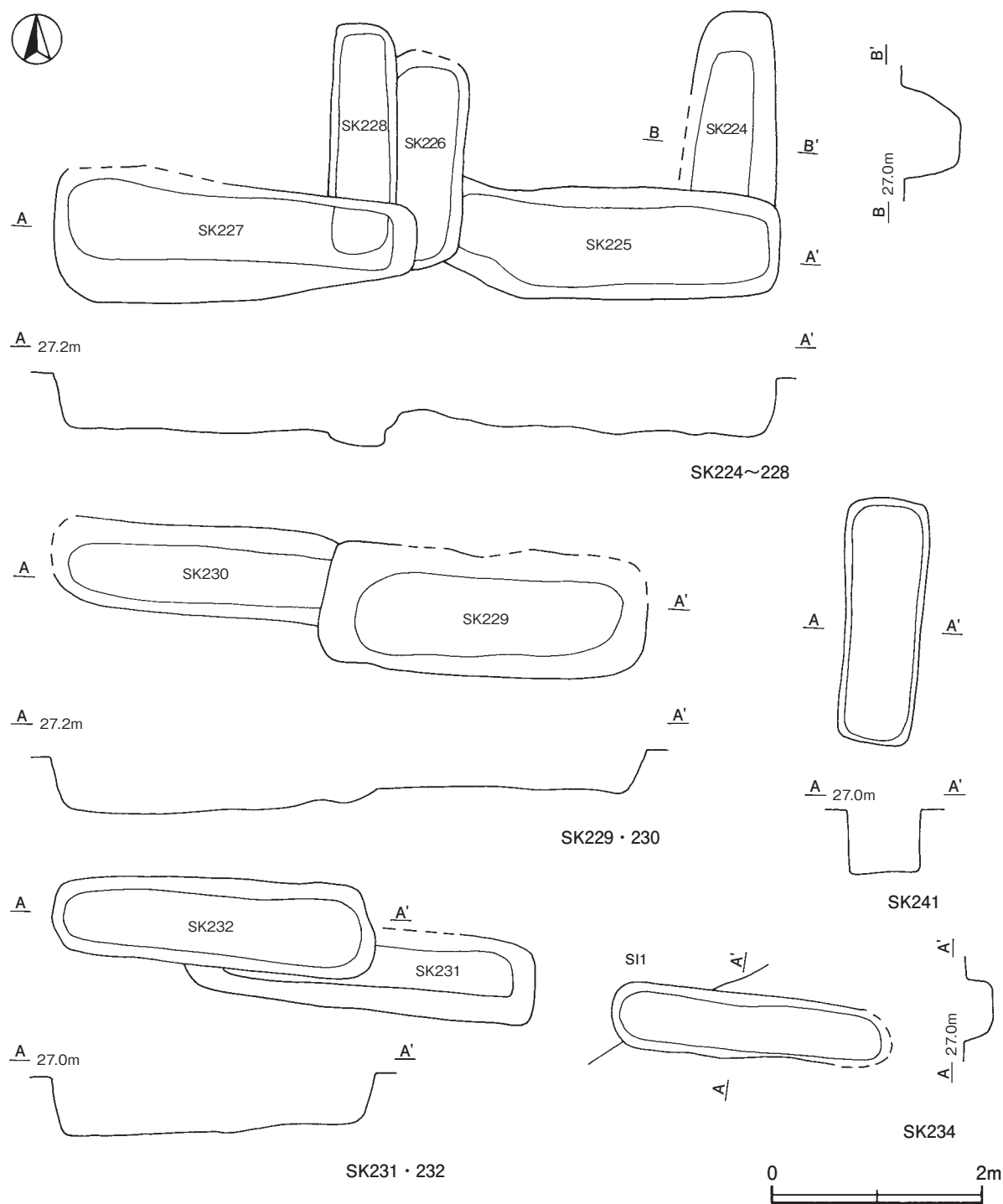




第46図 時期不明土坑実測図 (7)



第47图 时期不明土坑实测图 (8)



第48図 時期不明土坑実測図 (9)

表16 時期不明土坑一覽表

番号	位 置	長軸(径)方向	平面形	規 模 (m)		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出土遺物	備 考 重複関係 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ (cm)					
1	D 4 a6	N-80°-E	不定形	1.15 × 0.64	27	外傾・内彎	凸凹	人為	土師質土器	
2	C 4 a5	N-40°-E	楕円形	0.86 × 0.60	34	緩斜・外傾	皿状	人為	—	
3	C 4 b6	N-12°-W	楕円形	0.97 × 0.62	47	緩斜・外傾	皿状	人為	—	
4	C 4 b6	N-19°-W	楕円形	0.83 × 0.61	32	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
5	C 4 d6	N-89°-W	楕円形	0.60 × 0.43	30	外傾	平坦	人為	—	
6	C 4 d4	N-58°-E	楕円形	0.41 × 0.37	17	外傾	皿状	自然	—	
7	C 4 d4	N-35°-W	楕円形	0.80 × 0.50	20	緩斜・外傾	平坦	自然	—	
8	C 4 d4	N-40°-W	楕円形	0.59 × 0.50	13	緩斜	平坦	人為	—	
9	C 4 d3	N-26°-W	楕円形	1.10 × 0.80	30	外傾	傾斜	自然	—	
10	C 4 c3	—	円形	0.62 × 0.60	15	垂直	平坦	人為	—	
11	C 4 c3	N-4°-W	楕円形	0.75 × 0.61	62	外傾・垂直	平坦	人為	—	本跡→PG5
12	C 4 c3	—	円形	0.52 × 0.48	6	緩斜	皿状	人為	—	本跡→PG5
13	C 4 d4	—	円形	0.47 × 0.44	18	緩斜	皿状	人為	—	
14	C 4 i2	—	円形	1.23 × 1.17	23	緩斜	皿状	自然	—	
15	C 4 h2	N-0°	[楕円形]	0.73 × [0.52]	19	—	皿状	自然	—	
16	C 4 i3	N-1°-E	[楕円形]	0.54 × [0.43]	26	外傾	皿状	自然	—	
17	D 4 b6	N-40°-E	[楕円形]	[0.66] × (0.57)	13	垂直	皿状	人為	—	本跡→SK43
18	C 4 d4	N-55°-E	楕円形	0.50 × 0.40	15	外傾	平坦	自然	—	
19	C 4 e5	N-47°-E	不定形	0.57 × 0.56	19	緩斜・外傾	皿状	—	—	
20	C 4 c3	N-65°-E	楕円形	1.15 × 0.93	17	緩斜・外傾	凹凸	人為	—	
21	C 4 c2	N-46°-E	楕円形	0.70 × 0.54	25	緩斜	皿状	人為	—	
22	C 4 i1	—	[円形]	[0.94] × [0.87]	19	緩斜	皿状	自然	—	
23	C 4 i3	—	[円形]	[0.50] × 0.49	20	—	皿状	人為	—	
24	C 4 j8	N-24°-W	楕円形	1.40 × 1.08	22	緩斜	皿状	人為	—	
25	C 4 a2	N-42°-E	楕円形	0.56 × 0.50	56	外傾・垂直	皿状	人為	—	
26	C 4 a2	—	円形	0.61 × 0.60	60	外傾・垂直	皿状	人為	—	
27	C 4 d5	—	円形	0.53 × 0.51	47	外傾・垂直	平坦	人為	—	
28	C 4 e5	—	円形	0.61 × 0.59	16	緩斜	皿状	自然	—	
29	C 4 b6	N-52°-W	楕円形	0.80 × 0.55	30	外傾	皿状	人為	—	SK30→本跡
30	C 4 b6	—	—	0.55 × (0.43)	16	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK29
31	C 4 h2	N-4°-E	[楕円形]	0.51 × [0.33]	15	外傾	平坦	人為	—	
32	C 4 h1	N-3°-W	楕円形	0.48 × 0.36	35	外傾・垂直	皿状	自然	—	
33	C 4 h1	N-20°-E	楕円形	0.54 × 0.36	14	緩斜	皿状	自然	—	
34	C 4 d4	N-7°-W	楕円形	0.85 × 0.51	35	緩斜・外傾	傾斜	人為	—	
35	C 4 e4	N-18°-W	楕円形	0.58 × 0.50	10	外傾	平坦	人為	—	
36	C 4 e4	N-80°-W	楕円形	0.83 × 0.55	15	外傾	平坦	自然	—	
38	C 3 d0	N-86°-W	楕円形	0.93 × 0.65	32	緩斜・外傾	皿状	人為	—	SK46→本跡
39	C 3 g0	N-12°-W	不定形	0.82 × 0.72	18	緩斜	皿状	人為	—	
40	C 3 g9	N-72°-E	楕円形	0.51 × 0.30	43	外傾	皿状	自然	—	
41	C 4 i1	N-51°-W	[楕円形]	(0.62) × (0.53)	28	外傾	皿状	自然	—	本跡→SK42
42	C 4 i1	N-51°-W	[楕円形]	0.72 × (0.44)	30	外傾	皿状	自然	—	SK41→本跡
43	D 4 b6	N-32°-E	[楕円形]	[0.75] × [0.57]	16	緩斜	皿状	自然	—	SK17→本跡
44	C 4 g1	N-0°	[楕円形]	(0.73) × 0.60	19	緩斜	皿状	自然	—	
45	C 4 e3	N-80°-E	楕円形	0.78 × 0.47	32	外傾	皿状	人為	—	
46	C 3 d0	N-10°-E	[楕円形]	(1.35) × 1.30	45	緩斜・外傾	傾斜	人為	—	本跡→SK38

番号	位 置	長軸(径)方向	平面形	規 模 (m)		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出土遺物	備 考 重複関係 (古→新)
				長径 (軸) × 短径 (軸)	深 さ (cm)					
47	B 3 j0	—	円形	0.50 × 0.46	35	外傾・垂直	皿状	人為	—	
48	B 3 j9	N-8°-W	不定形	1.15 × 0.88	25	緩斜	皿状	人為	—	
49	B 3 j9	—	円形	0.60 × 0.55	30	緩斜	皿状	人為	—	
50	B 3 j9	N-10°-W	不定形	0.57 × 0.52	30	外傾	皿状	人為	—	SK51→本跡
51	B 3 j9	N-38°-E	楕円形	0.60 × 0.43	35	緩斜・外傾	皿状	人為	—	本跡→SK50
52	B 3 i8	N-49°-W	楕円形	0.84 × 0.39	25	外傾	皿状	人為	—	
53	B 3 i8	N-52°-E	楕円形	0.70 × 0.51	20	緩斜	皿状	—	—	
54	D 4 d4	N-61°-W	楕円形	0.50 × 0.41	22	緩斜	皿状	—	—	
55	D 4 d3	N-45°-E	[楕円形]	(0.50) × 0.50	10	緩斜	平坦	—	—	SK56→本跡
56	D 4 e8	N-6°-E	[不定形]	(0.54) × 0.45	17	緩斜	皿状	—	—	本跡→SK55
57	D 4 e8	N-46°-E	[楕円形]	(0.68) × (0.44)	15	緩斜	皿状	—	—	本跡→SD4
58	D 4 d7	N-25°-W	楕円形	0.55 × 0.47	18	外傾	平坦	—	—	
59	D 4 c7	N-39°-W	楕円形	0.49 × 0.43	21	外傾	皿状	—	—	
60	D 4 c6	N-81°-W	楕円形	0.70 × 0.62	15	緩斜	皿状	—	—	
61	D 4 c7	—	円形	0.56 × 0.54	15	緩斜	皿状	—	—	
62	D 4 c6	—	円形	0.48 × 0.46	5	緩斜	平坦	—	—	
63	D 4 d6	N-56°-W	楕円形	0.45 × 0.40	12	緩斜	皿状	—	—	
64	D 4 a8	N-86°-E	楕円形	0.55 × 0.34	16	緩斜	皿状	—	—	
65	C 4 i6	N-6°-W	楕円形	0.60 × 0.46	14	緩斜	皿状	—	—	
66	C 4 i6	N-52°-W	楕円形	0.65 × 0.37	10	外傾	平坦	—	—	
67	C 4 h6	N-72°-W	楕円形	0.65 × 0.35	11	緩斜	皿状	—	—	
68	C 4 i2	N-10°-E	[楕円形]	0.55 × [0.45]	22	緩斜	皿状	—	—	
69	C 4 h1	N-62°-E	楕円形	0.68 × 0.51	22	外傾	皿状	—	—	
70	B 3 h1	N-51°-W	楕円形	0.62 × 0.55	19	外傾	皿状	人為	—	
71	C 4 h2	N-8°-E	[楕円形]	0.58 × [0.46]	39	緩斜・外傾	皿状	—	—	
72	C 3 c0	N-12°-E	[楕円形]	0.50 × (0.43)	14	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK73
73	C 3 c0	N-7°-W	楕円形	0.74 × 0.55	30	外傾	平坦	人為	—	SK72→本跡
74	C 3 a0	N-63°-W	楕円形	2.04 × 1.13	40	緩斜	有段	人為	—	
75	B 3 j9	N-38°-W	楕円形	0.74 × 0.45	31	外傾	皿状	人為	—	
76	B 3 j9	N-28°-W	楕円形	0.52 × 0.44	22	緩斜	皿状	人為	—	
77	C 3 a6	N-14°-W	不定形	1.03 × 0.57	42	外傾	傾斜	人為	—	
78	C 3 a7	N-29°-W	楕円形	1.53 × 1.24	34	緩斜	皿状	人為	—	
79	B 4 i5	N-32°-W	楕円形	1.13 × 0.85	25	緩斜	皿状	人為	—	
80	B 3 h4	N-22°-E	楕円形	0.53 × 0.47	19	緩斜	皿状	人為	—	
81	B 3 g3	N-22°-W	楕円形	0.68 × 0.37	18	外傾	皿状	人為	—	
82	B 3 h3	N-29°-E	楕円形	1.00 × 0.51	12	緩斜	皿状	人為	—	
83	B 3 h1	N-82°-E	楕円形	0.77 × 0.56	17	緩斜	皿状	人為	—	
84	B 3 e2	N-68°-W	楕円形	0.44 × 0.35	29	垂直	平坦	人為	—	
85	B 3 d1	N-33°-E	楕円形	0.65 × 0.48	15	緩斜	平坦	自然	—	
86	B 3 h4	N-35°-E	楕円形	0.79 × 0.45	18	緩斜・外傾	傾斜	人為	—	
89	C 4 c4	N-88°-W	隅丸長方形	2.01 × 0.87	17	緩斜	平坦	人為	—	
90	C 4 c4	N-87°-W	不定形	2.00 × 1.03	10	緩斜	平坦	人為	—	
94	C 4 d2	N-2°-E	楕円形	1.25 × 0.90	40	外傾	平坦	人為	—	
95	C 4 d3	—	円形	0.56 × 0.55	24	垂直	平坦	人為	—	
96	C 4 d2	N-72°-E	楕円形	1.05 × 0.85	22	外傾	平坦	人為	—	SK97・98→本跡
97	C 4 d2	N-22°-W	隅丸長方形	1.38 × 1.10	14	外傾	平坦	人為	—	SK98→本跡→SK96

番号	位 置	長軸(径)方向	平面形	規 模 (m)		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出土遺物	備 考 重複関係 (古→新)
				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ (cm)					
98	C 4 d2	N - 23° - W	[隅丸方形]	(0.89) × [0.87]	13	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK96・97
99	C 4 d2	N - 25° - W	楕円形	0.65 × 0.55	55	外傾	平坦	人為	—	SK104→本跡
100	C 4 a2	—	円形	0.95 × 0.89	35	垂直	平坦	人為	—	
101	C 4 c2	—	円形	0.57 × 0.55	12	外傾	平坦	人為	—	
102	C 4 c2	—	円形	0.57 × 0.52	8	外傾	平坦	人為	—	
103	C 4 b3	—	円形	0.58 × 0.54	14	外傾	平坦	人為	—	
104	C 4 b2	N - 62° - W	不定形	1.61 × 1.51	25	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK99
105	C 4 b2	—	円形	0.55 × 0.52	20	外傾	平坦	人為	—	
106	C 4 a2	N - 35° - E	楕円形	0.94 × 0.72	10	緩斜	皿状	人為	—	
109	B 2 j9	N - 11° - E	隅丸長方形	1.08 × 0.76	24	緩斜	皿状	人為	—	
112	B 3 e2	N - 53° - W	楕円形	1.14 × 0.96	72	緩斜・外傾	皿状	人為	—	
117	A 2 i7	N - 41° - W	楕円形	0.83 × 0.55	98	外傾・垂直	皿状	人為	—	
120	B 2 d8	N - 46° - E	楕円形	0.85 × 0.45	38	緩斜・外傾	皿状	人為	—	
122	A 2 g1	—	円形	0.80 × 0.74	15	緩斜	平坦	人為	—	
124	A 2 g5	—	[楕円形]	(1.35) × (0.62)	47	緩斜	皿状	人為	—	
169	B 2 e6	N - 77° - W	楕円形	0.87 × 0.71	14	緩斜	皿状	人為	—	
170	A 2 e2	N - 2° - W	楕円形	0.39 × 0.24	12	外傾	皿状	自然	—	
171	C 3 a2	N - 66° - W	楕円形	0.77 × 0.69	15	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
172	C 3 c5	N - 48° - W	楕円形	0.78 × 0.39	12	緩斜	皿状	人為	—	
174	C 3 c5	N - 13° - W	楕円形	0.84 × 0.57	17	緩斜	平坦	人為	—	
182	C 3 c4	N - 84° - W	楕円形	0.75 × 0.57	20	外傾	平坦	人為	—	
188	B 3 h5	N - 52° - W	楕円形	1.20 × 0.82	28	外傾	皿状	人為	—	
189	A 2 i7	N - 57° - W	不定形	0.79 × 0.52	46	外傾	傾斜	人為	—	
190	B 3 h6	—	円形	0.70 × 0.64	24	緩斜	皿状	自然	—	
192	A 2 g3	N - 38° - W	楕円形	0.57 × 0.51	20	緩斜・外傾	皿状	人為	—	
194	B 2 g8	N - 1° - W	楕円形	0.82 × 0.53	19	外傾	皿状	人為	—	
195	B 2 h7	N - 3° - W	楕円形	0.89 × 0.57	22	外傾	平坦	人為	—	SK196→本跡
196	B 2 h7	N - 66° - W	楕円形	1.20 × 0.96	8	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK195・197
197	B 2 h7	N - 32° - W	楕円形	0.95 × 0.49	18	緩斜	平坦	人為	—	SK196→本跡
198	B 2 b7	N - 36° - W	楕円形	0.57 × 0.42	16	外傾	平坦	自然	—	
199	B 2 f5	N - 48° - W	楕円形	0.59 × 0.50	17	緩斜	皿状	人為	—	
201	C 3 d7	N - 90°	隅丸長方形	3.15 × 0.72	47	外傾・垂直	平坦	人為	—	芋穴カ
202	B 2 b0	N - 90°	隅丸長方形	1.71 × 0.74	20	外傾・垂直	平坦	人為	—	本跡→SK203 芋穴カ
203	B 2 b0	N - 90°	隅丸長方形	1.33 × 0.65	34	外傾・垂直	平坦	人為	—	SK202, SD2→本跡 芋穴カ
204	C 4 d3	N - 3° - E	隅丸長方形	2.08 × 0.56	21	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
205	C 4 e3	N - 3° - E	隅丸長方形	1.31 × 0.57	22	外傾・垂直	平坦	人為	—	PG5→本跡 芋穴カ
206	C 4 e3	N - 3° - E	[隅丸長方形]	(2.68) × 0.62	28	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
207	B 3 h7	N - 86° - W	長方形	1.48 × 0.62	21	外傾	有段	人為	—	芋穴カ
208	B 2 e8	N - 11° - E	隅丸長方形	2.06 × 0.79	21	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
209	B 2 b7	N - 0°	隅丸長方形	2.10 × 0.71	40	垂直	平坦	人為	—	芋穴カ
210	B 2 b2	N - 4° - E	隅丸長方形	2.45 × 0.69	40	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK240 芋穴カ
211	B 2 b3	N - 3° - E	隅丸長方形	2.41 × 0.71	56	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
212	B 2 b3	N - 90°	隅丸長方形	1.59 × 0.65	31	垂直	平坦	人為	—	芋穴カ
213	B 2 b1	N - 5° - E	[隅丸長方形]	(1.45) × 0.72	43	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK214・215 芋穴カ

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)					
214	B 2 b1	N-88°-W	隅丸長方形	1.82 × 1.20	42	外傾	平坦	人為	—	SK213→本跡→SK215 芋穴カ
215	B 2 b1	N-85°-W	[隅丸長方形]	(1.37) × 0.70	52	外傾	平坦	人為	—	SK213・214→本跡→SK216
216	B 2 b1	N-90°	[隅丸長方形]	(1.44) × 1.15	52	外傾	平坦	人為	—	SK215→本跡 芋穴カ
217	B 2 b0	N-84°-W	隅丸長方形	1.96 × 0.56	49	垂直	平坦	人為	—	芋穴カ
218	B 2 b9	N-86°-W	不定形	2.40 × 1.21	45	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
219	B 2 b9	N-90°	不定形	2.39 × 1.16	48	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
220	B 2 b8	N-87°-W	隅丸長方形	2.58 × 0.66	48	垂直	平坦	人為	—	芋穴カ
221	B 2 c8	N-88°-W	隅丸長方形	2.62 × 0.66	60	垂直	平坦	人為	—	芋穴カ
222	B 2 c2	N-85°-W	[隅丸長方形]	1.82 × (0.57)	57	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK223 芋穴カ
223	B 2 c2	N-86°-W	隅丸長方形	3.63 × 0.77	52	外傾	平坦	人為	—	SK222→本跡 芋穴カ
224	B 2 a8	N-2°-E	[隅丸長方形]	(1.80) × 0.93	55	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK224 芋穴カ
225	B 2 b8	N-85°-W	[隅丸長方形]	(3.45) × 1.10	54	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
226	B 2 a7	N-2°-E	[隅丸長方形]	2.10 × (0.64)	39	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK227・228 芋穴カ
227	B 2 b7	N-87°-W	隅丸長方形	3.50 × 1.31	51	外傾	平坦	人為	—	SK226・228→本跡 芋穴カ
228	B 2 a7	N-1°-E	[隅丸長方形]	(2.36) × 0.63	64	外傾	平坦	人為	—	SK226→本跡→SK227 芋穴カ
229	B 2 b6	N-85°-W	隅丸長方形	3.14 × 1.18	33	外傾	平坦	人為	—	SK230→本跡 芋穴カ
230	B 2 b5	N-82°-W	[隅丸長方形]	(2.61) × 0.88	60	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK229 芋穴カ
231	B 2 b5	N-82°-W	隅丸長方形	3.35 × 0.83	30	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK232 芋穴カ
232	B 2 b4	N-87°-W	隅丸長方形	3.08 × 0.93	55	外傾	平坦	人為	—	SK231→本跡 芋穴カ
233	B 2 a5	N-84°-W	楕円形	0.71 × 0.40	19	緩斜	皿状	人為	—	芋穴カ
234	B 2 a5	N-83°-W	隅丸長方形	2.68 × 0.64	28	外傾	平坦	人為	—	S11→本跡 芋穴カ
235	A 2 h4	N-37°-W	楕円形	0.66 × 0.58	17	緩斜	皿状	人為	—	芋穴カ
236	B 2 a8	N-90°	隅丸長方形	2.75 × 0.70	35	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
237	B 2 b2	N-4°-E	隅丸長方形	2.32 × 0.78	30	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK238・239 芋穴カ
238	B 2 b2	N-87°-W	隅丸長方形	2.07 × 1.02	48	外傾	平坦	人為	—	SK237・240→本跡 芋穴カ
239	B 2 b2	N-88°-W	隅丸長方形	1.58 × 0.65	27	外傾	平坦	人為	—	SK237→本跡 芋穴カ
240	B 2 b2	N-90°	[隅丸長方形]	(1.57) × 0.67	48	外傾	平坦	人為	—	SK210→本跡→SK238 芋穴カ
241	B 2 b4	N-3°-E	隅丸長方形	2.35 × 0.77	60	垂直	平坦	人為	—	芋穴カ

(2) ピット群

第7号ピット群 (第49図)

位置 調査区中央部のB 2 c0~B 3 h2区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北24m, 東西12mの範囲から, 20か所のピットが確認された。平面形は径21~73cmの円形または楕円形で, 深さは14~40cmである。

覆土 黒褐色土または暗褐色土で, 締まりは普通である。

所見 配置に規則性がなく, 性格は不明である。時期は, 出土土器がないため不明である。





第49図 第7号ピット群実測図

表17 第7号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)		
		長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ
1	円形	41	38	20	8	楕円形	49	40	14	15	円形	23	21	20
2	円形	45	44	19	9	楕円形	50	40	17	16	楕円形	35	25	26
3	楕円形	56	50	14	10	楕円形	46	38	23	17	円形	47	43	16
4	楕円形	55	40	15	11	楕円形	56	45	31	18	楕円形	46	34	22
5	楕円形	44	39	36	12	楕円形	43	31	18	19	楕円形	73	60	40
6	円形	46	43	17	13	楕円形	49	30	24	20	楕円形	34	27	23
7	円形	36	34	31	14	楕円形	37	33	18					

第8号ピット群 (第50図)

位置 調査区中央部のB3j5～C3b9区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北12m、東西20mの範囲から、27か所のピットが確認された。平面形は径24～72cmの円形または楕円形で、深さは12～45cmである。

覆土 黒褐色土または暗褐色土で、締まりは普通である。

所見 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、出土土器がないため不明である。

表18 第8号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)		
		長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ
1	楕円形	50	45	36	10	円形	26	26	19	19	円形	49	48	32
2	楕円形	46	36	22	11	楕円形	50	40	35	20	円形	38	35	18
3	楕円形	40	36	22	12	[円形]	70	(57)	20	21	楕円形	56	42	18
4	円形	38	35	21	13	[楕円形]	44	(40)	14	22	楕円形	72	40	24
5	円形	32	30	20	14	円形	35	35	22	23	[楕円形]	(42)	40	12
6	円形	29	28	14	15	円形	37	36	45	24	楕円形	57	45	32
7	楕円形	31	27	24	16	楕円形	42	34	23	25	楕円形	39	33	32
8	円形	39	39	17	17	楕円形	60	52	26	26	円形	27	24	22
9	円形	30	28	29	18	楕円形	54	45	21	27	円形	37	35	17

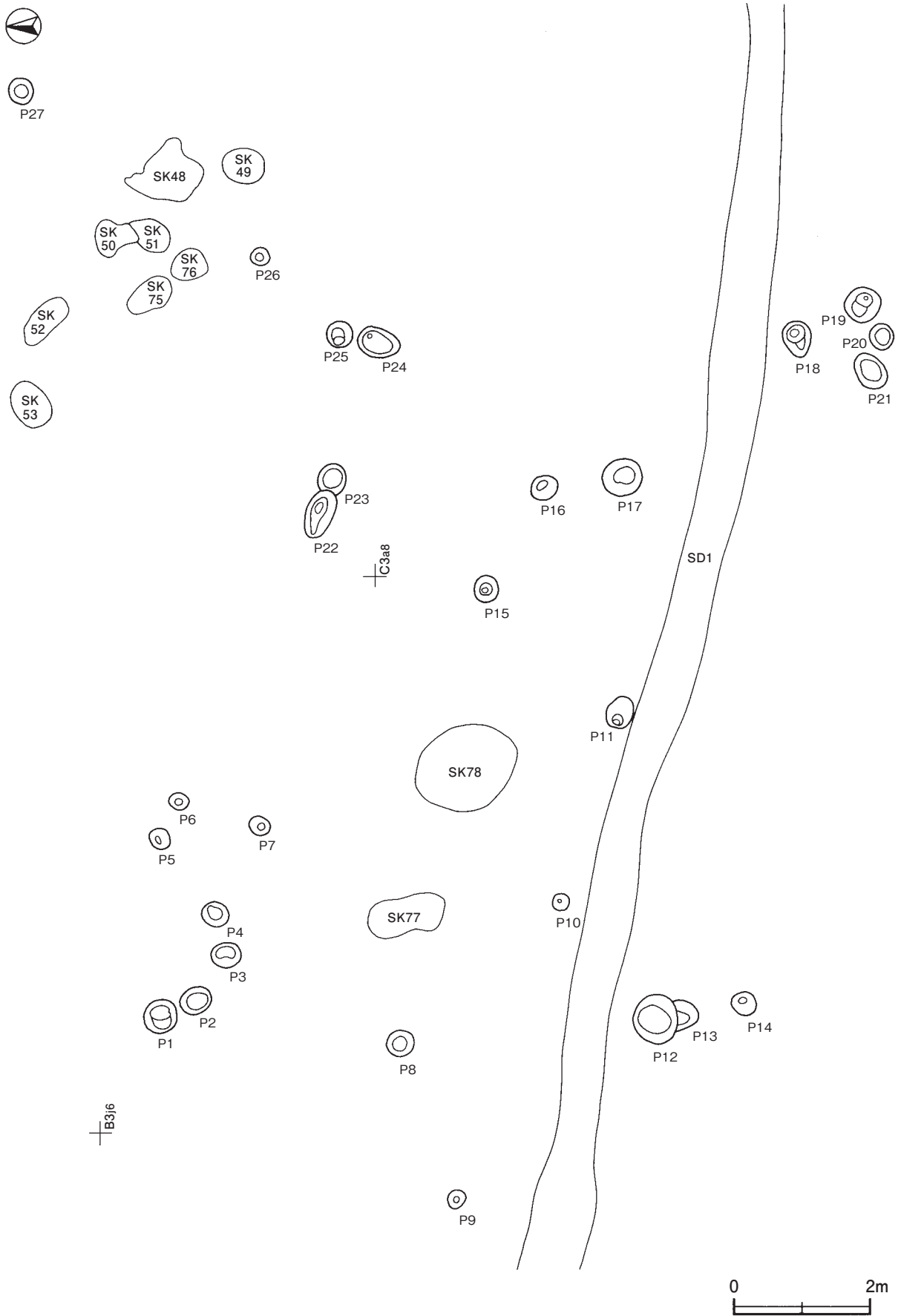
第9号ピット群 (第51図)

位置 調査区南東部のC3g9～C4j3区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

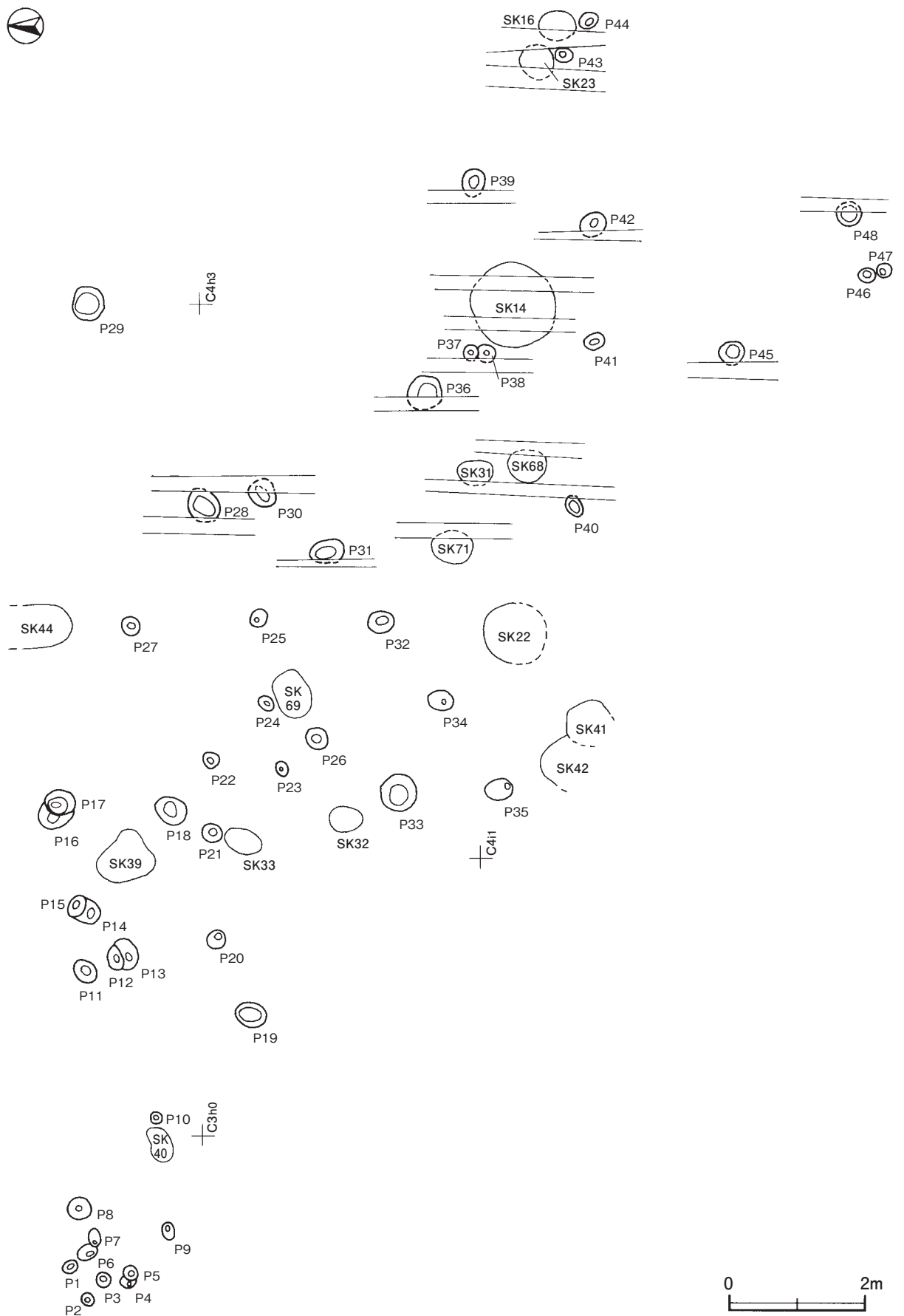
規模と形状 南北12m、東西20mの範囲から、48か所のピットが確認された。平面形は径16～54cmの円形または楕円形で、深さは9～125cmである。

覆土 黒褐色土または暗褐色土で、締まりは普通である。

所見 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、出土土器がないため不明である。



第50図 第8号ピット群実測図



第51図 第9号ピット群実測図

表19 第9号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)		
		長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ
1	楕円形	25	19	30	17	楕円形	45	35	24	33	円形	54	54	14
2	楕円形	20	16	17	18	楕円形	47	29	13	34	楕円形	38	27	46
3	楕円形	24	21	11	19	楕円形	46	35	9	35	楕円形	37	31	32
4	[円形]	22	(11)	125	20	円形	28	25	17	36	[楕円形]	48	(32)	17
5	楕円形	23	20	31	21	円形	28	27	11	37	[円形]	[23]	21	13
6	楕円形	32	24	38	22	楕円形	25	23	13	38	[楕円形]	[30]	27	16
7	楕円形	24	18	45	23	楕円形	22	16	17	39	[楕円形]	[40]	30	14
8	楕円形	35	31	50	24	楕円形	26	20	16	40	楕円形	30	22	24
9	楕円形	25	18	29	25	楕円形	29	24	35	41	楕円形	30	23	17
10	円形	17	16	16	26	円形	32	30	17	42	楕円形	40	34	18
11	楕円形	38	28	16	27	円形	26	26	23	43	楕円形	28	21	20
12	楕円形	38	20	13	28	楕円形	51	43	13	44	楕円形	33	25	13
13	[楕円形]	47	(25)	21	29	[円形]	47	[47]	12	45	楕円形	35	30	20
14	[楕円形]	37	(26)	11	30	[楕円形]	[41]	[35]	34	46	楕円形	25	20	23
15	楕円形	26	22	11	31	[楕円形]	50	[35]	18	47	円形	21	19	20
16	[楕円形]	46	23	15	32	楕円形	41	32	17	48	[円形]	[35]	[35]	17

第10号ピット群 (第52図)

位置 調査区南東部のC 4 g5～D 4 a8区、標高 26.5 mの台地平坦部に位置している。

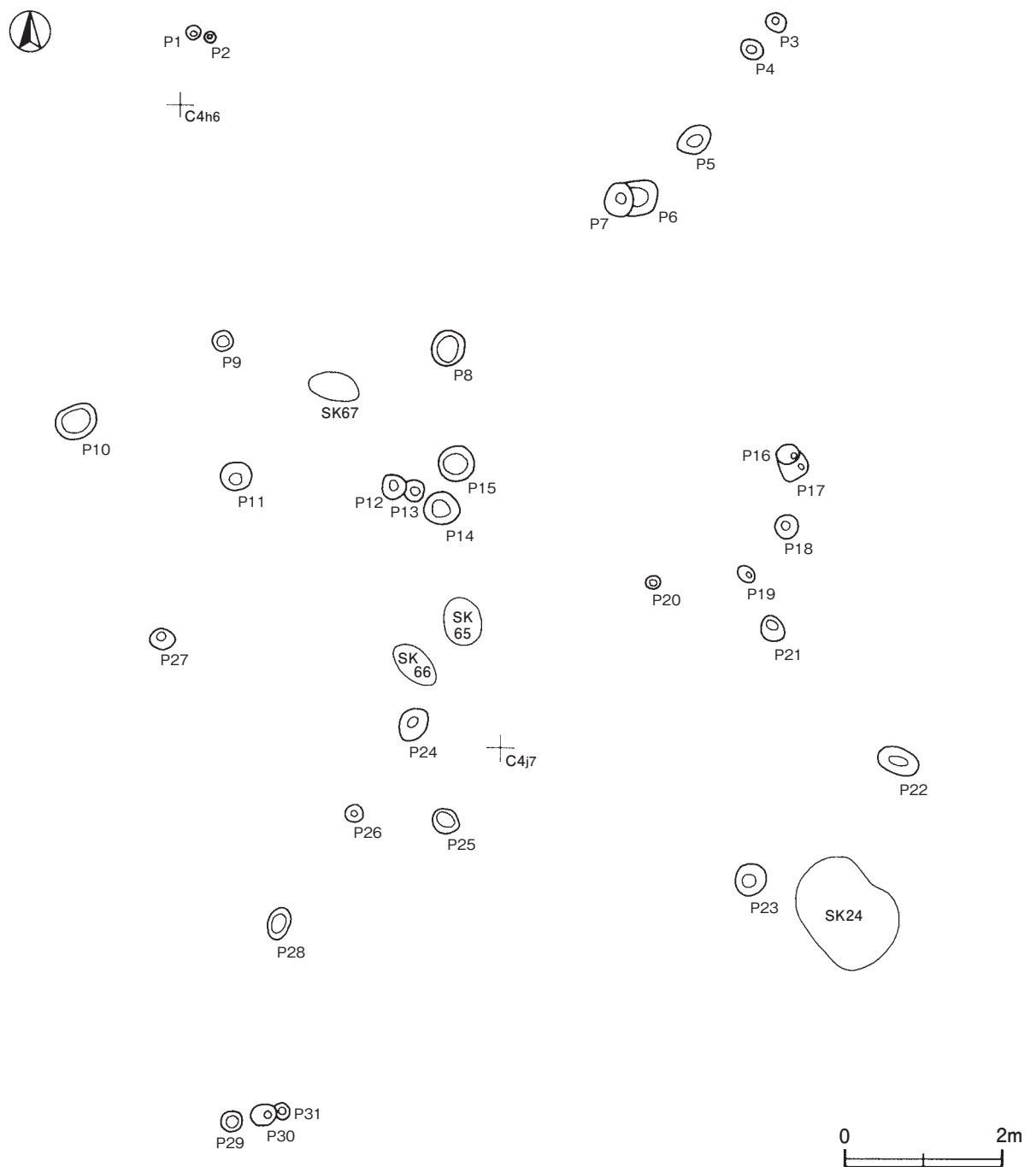
規模と形状 南北20m、東西16mの範囲から、31か所のピットが確認された。平面形は径14～54cmの円形または楕円形で、深さは6～38cmである。

覆土 黒褐色土または暗褐色土で、締まりは普通である。

所見 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、出土土器がないため不明である。

表20 第10号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	形 状	規 模 (cm)		
		長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ			長 径	短 径	深 さ
1	円形	20	20	38	12	円形	32	29	11	22	楕円形	54	34	13
2	円形	15	15	17	13	円形	27	25	7	23	円形	40	39	12
3	円形	26	24	10	14	円形	44	42	13	24	楕円形	47	34	13
4	円形	27	26	6	15	円形	45	45	11	25	楕円形	38	30	14
5	楕円形	46	32	12	16	楕円形	30	24	29	26	円形	22	21	13
6	[楕円形]	43	(31)	15	17	[楕円形]	33	(22)	21	27	楕円形	30	25	13
7	楕円形	45	37	12	18	円形	30	28	15	28	楕円形	40	27	8
8	楕円形	45	39	12	19	楕円形	24	19	22	29	円形	27	26	7
9	円形	26	25	12	20	円形	15	14	12	30	楕円形	31	27	16
10	楕円形	52	44	11	21	楕円形	31	28	14	31	[楕円形]	(19)	18	9
11	円形	36	34	15										



第52図 第10号ピット群実測図

第11号ピット群（第53図）

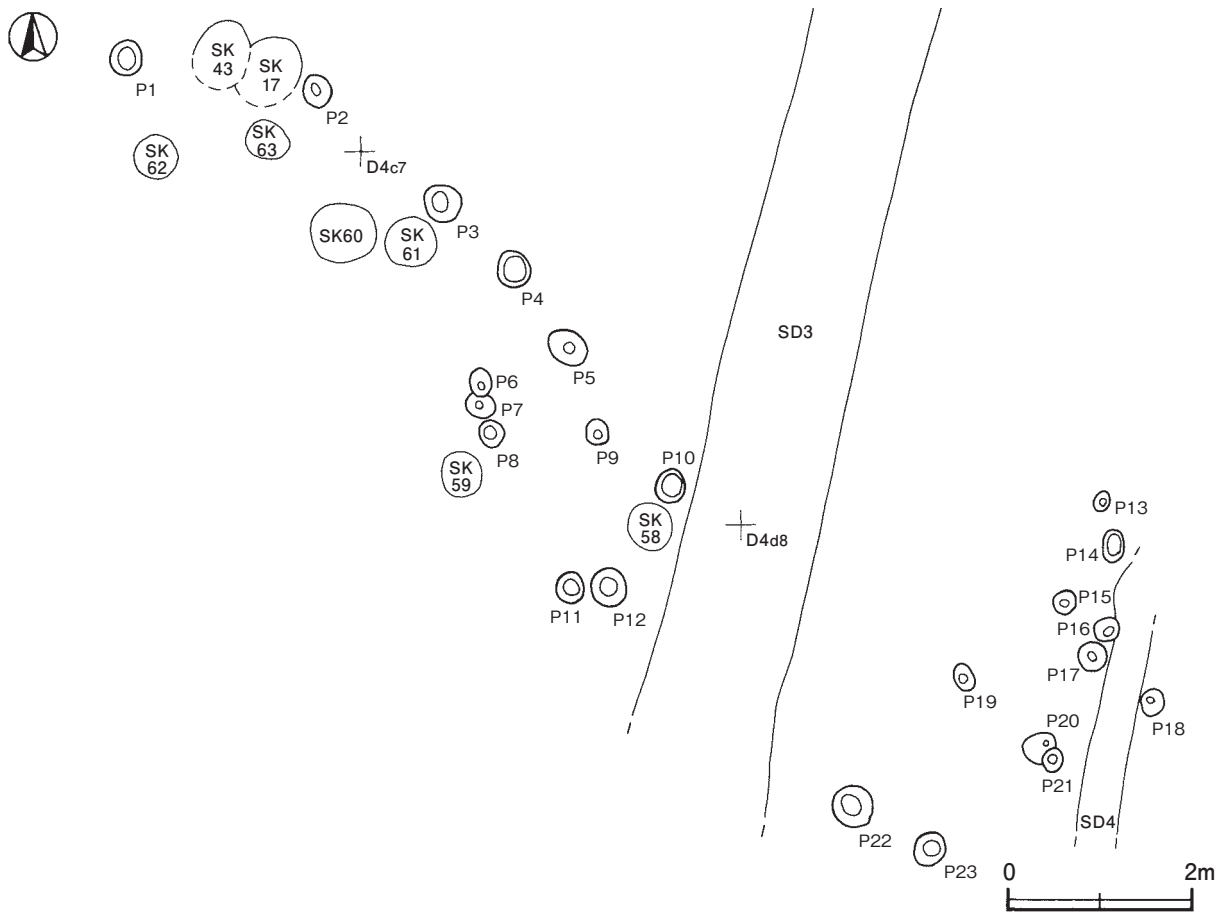
位置 調査区南東部のD 4 b6～D 4 e9区、標高 26.5 mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北 16 m、東西 16 mの範囲から、23か所のピットが確認された。平面形は径15～47cmの円形または楕円形で、深さは9～44cmである。

覆土 黒褐色土または暗褐色土で、締まりは普通である。

所見 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、出土土器がないため不明である。



第53図 第11号ピット群実測図

表21 第11号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規模 (cm)			ピット 番号	形状	規模 (cm)			ピット 番号	形状	規模 (cm)		
		長径	短径	深さ			長径	短径	深さ			長径	短径	深さ
1	楕円形	37	33	9	9	楕円形	27	22	27	17	円形	34	31	13
2	楕円形	36	30	19	10	楕円形	36	32	11	18	楕円形	27	24	15
3	円形	43	40	21	11	円形	33	30	13	19	楕円形	30	22	31
4	楕円形	40	36	11	12	楕円形	42	37	12	20	[楕円形]	35	(27)	20
5	楕円形	47	34	19	13	楕円形	22	15	29	21	円形	25	33	44
6	楕円形	29	25	24	14	楕円形	35	20	21	22	円形	45	42	14
7	[円形]	32	26	20	15	円形	25	25	24	23	円形	36	34	17
8	円形	28	27	11	16	円形	27	26	22					

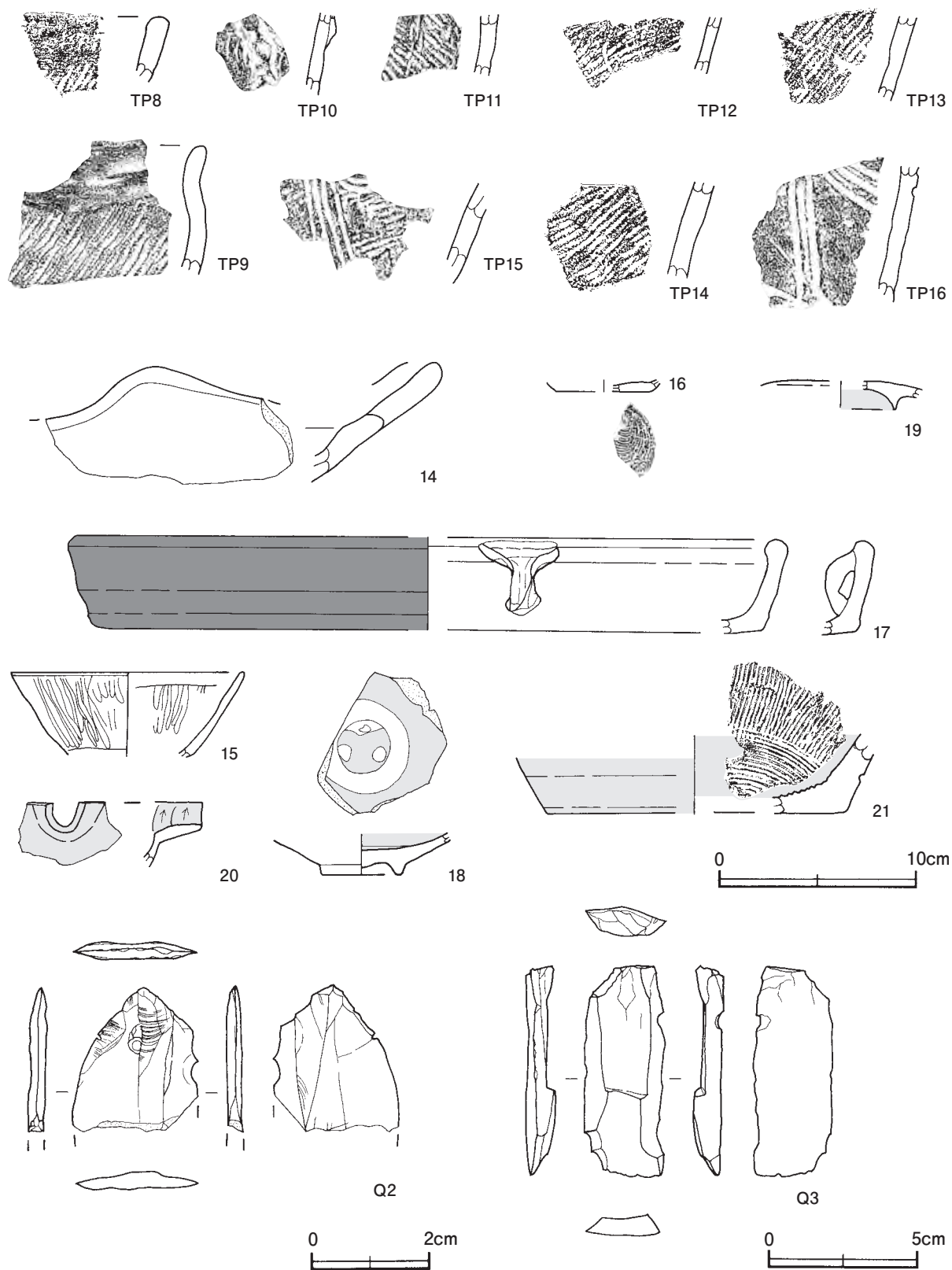
表22 時期不明ピット群一覧表

番号	位置	柱穴 (長さの単位はすべてcm)					主な遺物	備考 重複関係 (古→新)
		柱穴	平面形	長径 (軸)	短径 (軸)	深さ		
7	B 2 c0~B 3 h2	20	円形・楕円形	23~73	21~60	14~40	—	
8	B 3 i5~C 3 b9	27	円形・楕円形	26~72	24~(57)	12~45	—	
9	C 3 g9~C 4 j3	48	円形・楕円形	17~54	16~54	9~125	—	
10	C 4 g5~D 4 a8	31	円形・楕円形	15~54	14~45	6~38	—	
11	D 4 b6~D 4 e9	23	円形・楕円形	22~47	15~42	9~44	—	

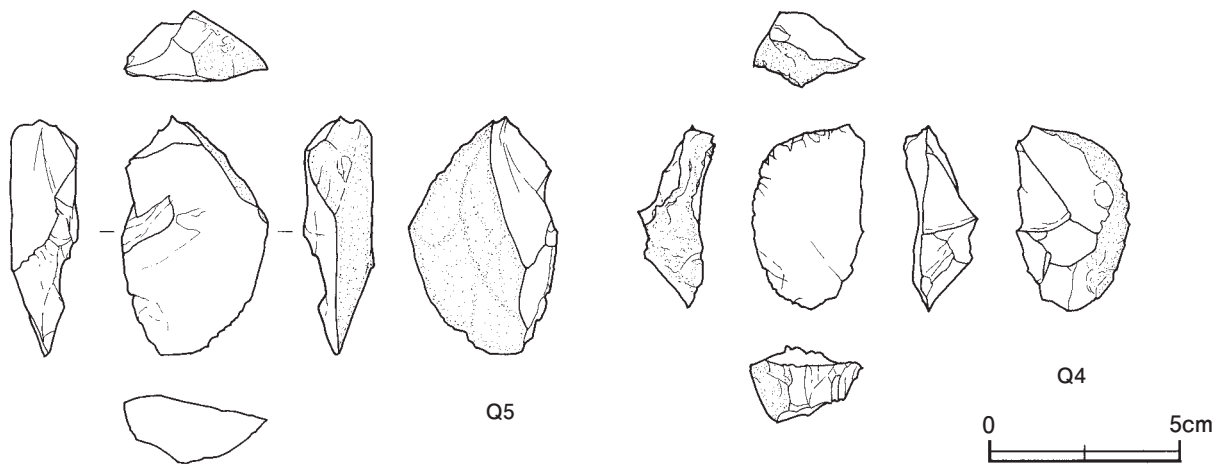


(3) 遺構外出土遺物 (第54・55図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを実測図と観察表で記載する。



第54図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第55図 遺構外出土遺物実測図 (2)

遺構外出土遺物観察表 (第54・55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	縄文	浅鉢	—	(6.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	波状口縁 口辺上端部ナデ 内・外面指頭痕 輪積み痕	表土中	5% 後期中葉
15	土師器	罎	11.8	(4.3)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁上部内・外面横ナデ 口辺部内・外面ヘラ磨き 頸部外面横ナデ	SD2覆土中	30%
16	土師質土器	小皿	—	(0.6)	[4.8]	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	10%
17	土師質土器	焙烙鍋	[35.5]	4.8	[34.0]	長石・雲母	褐灰	普通	内・外面ロクロナデ 内耳貼り付け 外面煤付着	表土中	20%
18	陶器	輪禿皿	—	(2.1)	4.0	緻密 灰釉	灰白 にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 高台削り出し トチン痕 内面施釉	表土中	50% 瀬戸・美濃
19	陶器	蓋	—	(1.4)	—	緻密 灰釉	灰白	普通	ロクロ成形後ヘラ削り かえし部貼り付け 内面施釉	表土中	10% PL6 瀬戸・美濃
20	陶器	片口鉢	—	(3.2)	—	緻密 鉄釉	褐	普通	ロクロ成形 片口貼り付け後ヘラ削り 内・外面施釉	表土中	5% PL6 瀬戸・美濃
21	陶器	搦鉢	—	(4.0)	[15.2]	緻密 鉄釉	暗赤	普通	ロクロ成形 体部下端ヘラナデ 体部内面すり目17条以上 底部内面同心円状すり目 内・外面施釉	表土中	5% PL6 瀬戸・美濃

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP8	縄文土器	深鉢	—	(2.8)	—	長石・石英・雲母細礫	明褐	普通	口辺部無文、胴部にRLの単節縄文施文	SI2覆土中	中期後半
TP9	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部無文、胴部にRLの単節縄文施文	SD2覆土中	中期後半 PL6
TP10	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	隆帯に沿って角押文を施文 爪形文施文	SD1覆土中	中期前半 PL6
TP11	縄文土器	深鉢	—	(3.1)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胴部にLRの単節縄文施文	表土中	中期後半
TP12	縄文土器	深鉢	—	(2.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部にRLの単節縄文施文	表土中	中期後半
TP13	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	長石・石英・雲母	明褐	普通	胴部にLRの単節縄文施文	表土中	中期後半
TP14	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英・雲母細礫	明赤褐	普通	胴部にLRの単節縄文施文	SD2覆土中	中期後半
TP15	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	懸垂文4条・渦文2条以上施文 RLの単節縄文充填	SD1覆土中	後期前半 PL6
TP16	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	長石・石英・細礫	にぶい褐	普通	懸垂文2条 斜位の平行沈線3条	表土中	後期前半 PL6

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	剥片	(2.6)	2.1	0.3	(1.4)	チャート	下部欠損	表土中	PL6
Q3	石刃	7.2	1.0	2.7	20.0	ガラス質黒色安山岩	縦に4方向の剥離痕	表土中	PL6
Q4	剥片	4.9	3.0	2.0	20.5	硬質頁岩	5か所の剥離痕	SI1覆土中	PL6
Q5	剥片	6.4	3.9	6.4	37.2	硬質頁岩	4か所の剥離痕	表土中	PL6

## 第4節 まとめ

### 1 はじめに

今回の調査で、菰冠北遺跡は縄文時代、古墳時代、中世と断続的に形成された複合遺跡であることが確認された。ここでは、周辺遺跡との関連を踏まえ、各時代ごとの様相と若干の考察を加えてまとめとする。

### 2 各時代の様相について

#### (1) 縄文時代

当遺跡は、観音川と大川に挟まれた標高27mほどの台地上に位置している。今回の調査では、陥し穴2基、土坑21基、ピット群1か所が確認された。第1号陥し穴は、横断面形U字状、縦断面形長方形で、第2号陥し穴は、横断面形U字状、縦断面形浅いU字状である。これらの遺構は、台地の緩斜面部と平坦部に位置し、軸を合わせて作られていることから、一連のものとして機能し、時期も大きな差はないと推測される。調査区内からは、中期から後期の土器が確認されているが、いずれの遺構からも遺物が出土していないため、時期を特定することは困難である。本調査区からは、住居跡などの遺構は検出されておらず、狩猟場としての土地利用が想定される。

周辺遺跡との関係を考えると、北西に隣接する炭焼戸東遺跡からは、骨粉が検出された後期の埋甕が検出<sup>1)</sup>されており、集落の中心は当遺跡の西にあった可能性が想定される。また、当遺跡から北東に1kmほどの観音川対岸には天神遺跡、南に2kmほどの同じ台地上には山王堂遺跡などがあり<sup>2)</sup>、周辺にも大きな中期の集落が確認されており、当遺跡周辺はそれぞれの生活圏が交錯する場所とも考えられる。

#### (2) 古墳時代

当時代の遺構は、標高26.7～27.0mに竪穴住居跡3軒が確認されている。第1号住居跡は焼失家屋で、床面は僅かな赤変に留まっており、上屋が焼け落ちた後に埋没したものと想定される。覆土が薄いことから埋没の状況は不明であるが、遺物が竈脇から正位の状態出土していることから、廃絶後間もなく焼失したものと推測される。第2号住居跡は、広範囲にわたり土器片が出土していることから、廃絶後の埋没段階で土器などが継続して投棄されたものと想定される。第3号住居跡は、削平により床面の一部が検出されただけであるが、出土遺物から、前述した住居跡との時期差は見られなかった。それぞれの住居跡は、主軸方向がほぼ同じ方向（N-3～17°-W）であることや、出土遺物から、ほぼ同時期に機能していたと推測される。また、確認された住居跡が少なく、住居跡の重複が見られないことから、集落の外周部や短期間の生活拠点を構えた小集団であったということが想定される。

当遺跡から北西1km程にある鍋山東原遺跡では、標高27.6～28.0mの台地上に前・中期の集落跡が検出されている。後期になると集落は営まれなくなり、代わって古墳が築造されている<sup>3)</sup>ことから、当遺跡を含む同一台地上に生活拠点を移したことも推測される。

#### (3) 中世

当時代の遺構は、掘立柱建物跡2棟、井戸跡2基、土坑1基、柵跡1列、溝跡6条、道路跡3条、ピット群5か所が確認されている。第1号溝跡で区画された内側には、掘立柱建物跡が見られる。第1号溝跡

のコーナー南側に位置する第1号掘立柱建物跡は、その規模や形状から倉庫に利用されていたものと推測されるが、近隣に居住遺構を確認することができなかつたため、その用途については明確ではない。第1号溝跡と平行に配置された第1号道路跡は、路面が硬化した様子から長期にわたり使用していたことがうかがえ、本跡の延長上には、第1号掘立柱建物跡があることから生活道路と推測される。第2号掘立柱建物跡は、住居と推測され、第2号溝跡の北西に隣接している。遺構の6mほど南東には、第1号井戸跡があり、同時期に機能していた可能性が考えられる。また、建て替えの痕跡が見られないことから、長期にわたる生活拠点とは考えにくく、一世代の利用と推測される。いずれの遺構からも遺物はほとんど出土しておらず、明確な時期決定は困難であるが、周囲の遺構から出土した遺物などから16世紀代と推測される。第2・3号道路跡は、当調査区北西の低湿地に向かう緩斜面部上方にあり、比較的平坦な場所を選んで道路が形成されたものと考えられる。隣接する炭焼戸東遺跡からは、15世紀から17世紀にかけての溝に区画された集落が検出されている。低湿地は水路を伴っていた<sup>4)</sup>と考えられることから、当遺跡周辺は低湿地を挟んだ東側の集落の縁辺部であった可能性が想定でき、舟を使って人や物の往来が行われていたものと推測される。

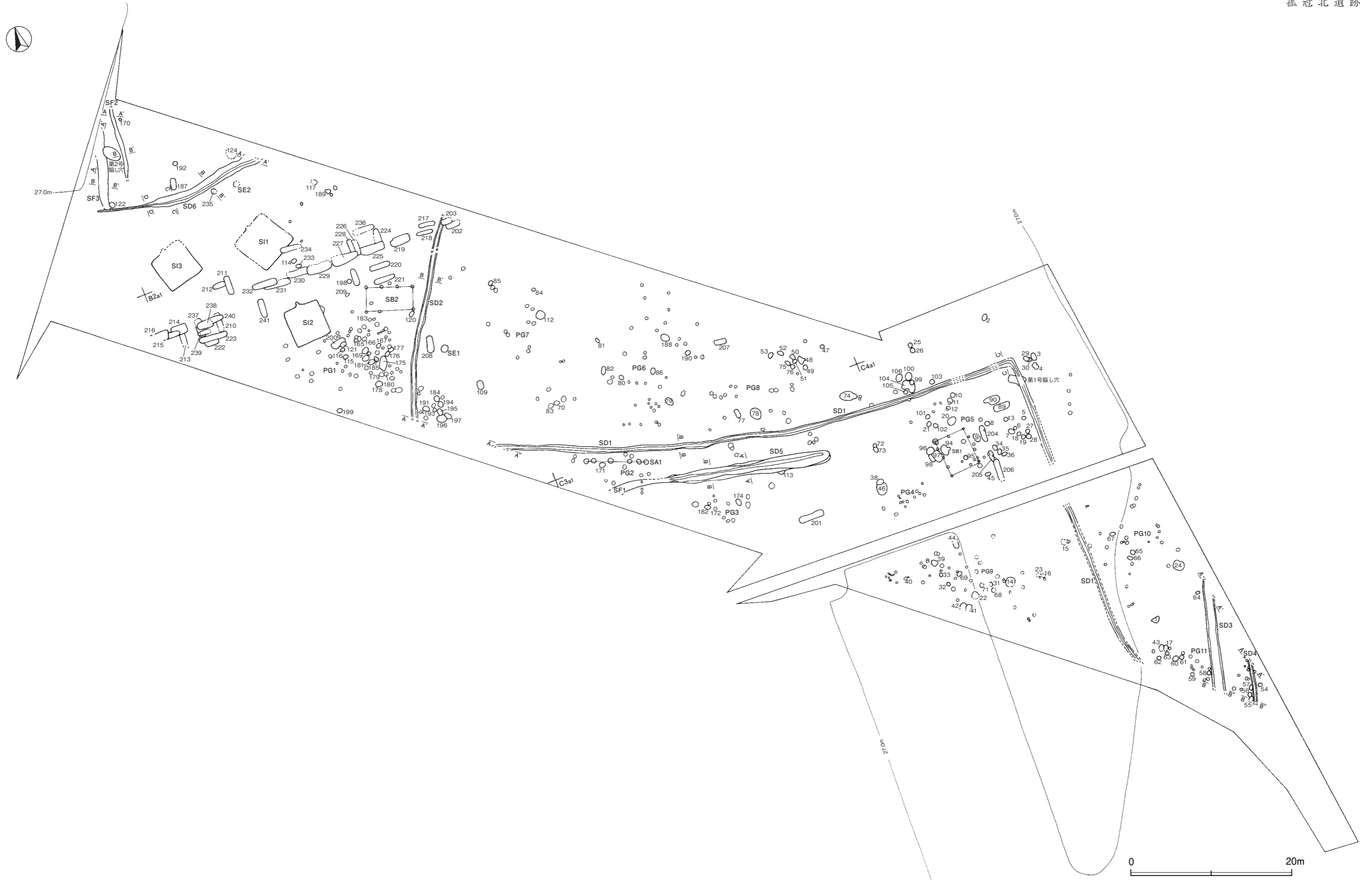
### 3 まとめ

今回の調査で当遺跡は、縄文時代は狩猟場、古墳時代・中世は小規模な集落跡として利用されていたと考えられる。限られた調査区のため、遺跡の詳細な性格を解明するには至らなかったが、各時代の人々の生活の痕跡を確認することができた。

旧明野町域では、調査が行われていない遺跡が多く、まだ不明な点が多い。今後もさらに調査が進み、資料の増加を期待したい。

#### 註

- 1) 折原洋一・松田政基「炭焼戸東遺跡 県営は場整備事業（経営体）松原地区関連遺跡発掘調査報告書1」『筑西市埋蔵文化財調査報告書』第2集 2006年9月
- 2) 山野井哲夫『明野町の遺跡と遺物』明野町史編さん委員会 1983年7月
- 3) 照山大作「鍋山東原遺跡 つくば明野北部工業団地地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第266集 2006年3月
- 4) 市村高男「戦国時代の結城領（第44図）」『結城市史 第4巻 古代中世通史編』結城市史編さん委員会 1980年10月



第56図 孤冠北遺跡遺溝全体図

## 第4章 炭焼戸東遺跡

### 第1節 遺跡の概要

炭焼戸東遺跡は、茨城県筑西市（旧真壁郡明野町）松原字炭焼戸628番地ほかに所在しており、観音川と大川に挟まれた標高26mほどの台地上に立地している。調査区は、この台地上を北西から南東に設定されている。調査面積は18,307㎡で、調査前の現況は畑地である。

調査の結果、縄文時代から古墳時代、中世から近・現代までの遺構・遺物が確認されている。検出された遺構は、縄文時代の陥し穴5基、土坑1基、古墳時代の竪穴住居跡1軒、中世の掘立柱建物跡32棟、方形竪穴遺構4基、井戸跡43基、火葬土坑4基、墓坑10基、土坑246基、溝跡80条、柵跡2列、不明遺構4基、ピット群4か所、近世の土坑3基、炭焼窯跡1基、時期不明の土坑377基である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に45箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏・高坏・甕・甗・ミニチュア土器）、須恵器（坏・高台付坏・甕・小形短頸壺カ）土師質土器（甕・皿・内耳鍋・焙烙・茶釜・火鉢・播鉢・置き竈）、陶器（碗・皿・卸皿・蓋・鉢・播鉢・壺・瓶子・花瓶・水滴・甕・香炉・徳利）、磁器（碗）、瓦（平・軒丸）、土製品（土玉）、石器（石鏃・石刃・石核・砥石・石鉢・石臼・茶臼・凹石）、石製品（硯・五輪塔）、鉄製品（釘・包丁）、銅製品（鞘金具・古銭）などである。

### 第2節 基本層序

調査区北西部のC4b1区にテストピット1を、中央部のF8i4区にテストピット2を設定し、基本土層の堆積状況の観察を行った。テストピット1は、地表面の標高が28.1mで、地表から1.4m掘り下げた。土層は8層に分層された。テストピット2は、遺構確認面の標高が27.0mで、遺構確認面から1.2m掘り下げた。土層は3層に分層された。それぞれの観察結果は、以下のとおりである。

#### テストピット1（第57図）

第1層は、黒褐色の耕作土の層である。粘性はふつうで締まりは弱く、層厚は10～18cmである。

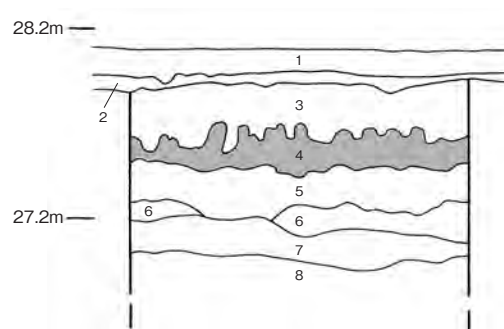
第2層は、褐色の耕作土の層である。鉄分を微量に含み細礫が少量混じる。粘性は普通で締まりは強く、層厚は2～9cmである。

第3層は、明褐色のソフトローム層であり、層厚は20～36cmである。

第4層は、褐色のハードローム層で、第1黒色帯と考えられる。層厚は4～30cmである。

第5層は、褐色のハードローム層で、ATを含む層と考えられる。層厚は13～30cmである。

第6層は、明黄褐色の粘土層であり、大・中・小礫、砂粒が微量混じる。層厚は2～22cmである。



第57図 基本土層図1



第7層は、黄褐色の砂層で、中・小礫が微量混じる。層厚は6～21cmである。

第8層は、灰黄褐色の礫層で、砂粒を多量含んでいる。下層が未掘のため、本来の層厚は不明である。

なお、遺構の多くは第3層上面から確認された。

#### テストピット2 (第58図)

河川の氾濫により、テストピット1の層序とは異なる様相を示している。遺構確認面から50cm下層は、礫層となることから、旧河道もしくは河川敷であったと考えられる。テストピット2の第1層が、テストピット1

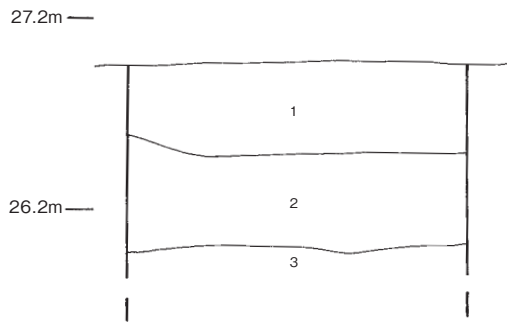
の第3層に近い層位にあたると考えられる。以下、テストピット2の観察結果から層序の解説を行う。

第1層は、褐色のソフトロームとハードローム層の混層であり、小礫が微量混じる。層厚は35～50cmである。

第2層は、にぶい赤褐色の礫層で、砂粒が少量混じる。層厚は48～67cmである。

第3層は、褐色の礫層で、砂粒が多量に混じる。下層が未掘のため、本来の層厚は不明である。

なお、遺構の多くは第1層上面から確認された。



第58図 基本土層図2





第59図 炭焼戸東遺跡調査区設定図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、陥し穴5基、土坑1基が確認されている。これらの遺構は、標高26.3~27.0mの台地平坦部に位置している。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

##### (1) 陥し穴

##### 第1号陥し穴（第60図）

**位置** 調査区南東部のH10j9区、標高26.3mの台地平坦部に位置している。

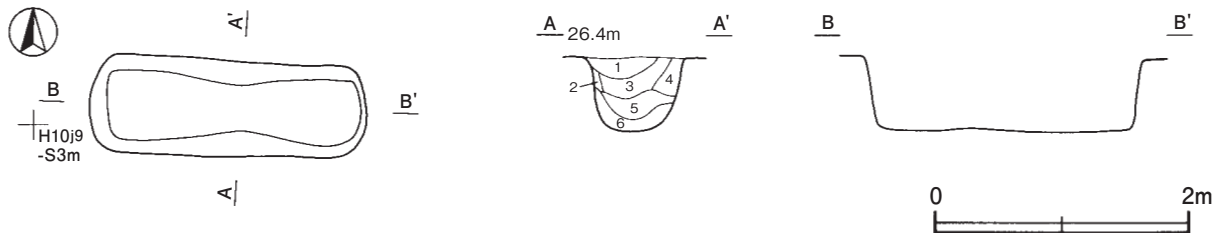
**規模と形状** 長軸2.11m、短軸0.62mの隅丸長方形で、長軸方向はN-86°-Wである。深さは55cmで、壁は長軸方向で直立し、短軸方向では外傾して立ち上がっている。横断面形はU字状で、底面は平坦である。

**覆土** 6層からなる。人為堆積の状況を示している。

##### 土層解説

1 黒色	ロームブロック少量、赤色粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック中量、赤色粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量	5 黒色	ロームブロック少量
3 黒色	ローム粒子・赤色粒子少量	6 黒褐色	ロームブロック少量

**所見** 東側に南北に延びる小谷津があり、その谷津に向かう傾斜面に対して直交して配置されている。規模や形状から縄文時代と考えられる。

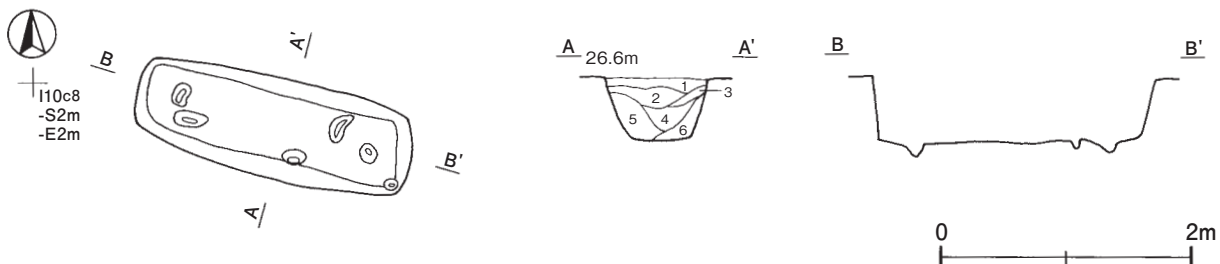


第60図 第1号陥し穴実測図

##### 第2号陥し穴（第61図）

**位置** 調査区南東部のI10c8区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸2.26m、短軸0.81mの隅丸長方形で、長軸方向はN-75°-Wである。深さは62cmで、壁は長軸方向で直立し、短軸方向では外傾して立ち上がっている。横断面形はU字状で、底面はほぼ平坦である。



第61図 第2号陥し穴実測図

逆茂木の跡と想定されるピットが6か所確認されている。深さは、8～14cmである。

覆土 6層からなる。人為堆積の状況を示している。

土層解説

1 極暗褐色 赤色粒子少量	4 黒褐色 赤色粒子微量
2 黒褐色 赤色粒子多量	5 黒褐色 ローム粒子・赤色粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子微量	6 黒色 ローム粒子微量

所見 東側に南北に延びる小谷津があり、その谷津に向かう傾斜面に対して斜行して配置されている。規模や形状から縄文時代と考えられる。

### 第3号陥し穴（第62図）

位置 調査区南東部のH10i8区、標高26.3mの台地平坦部に位置している。

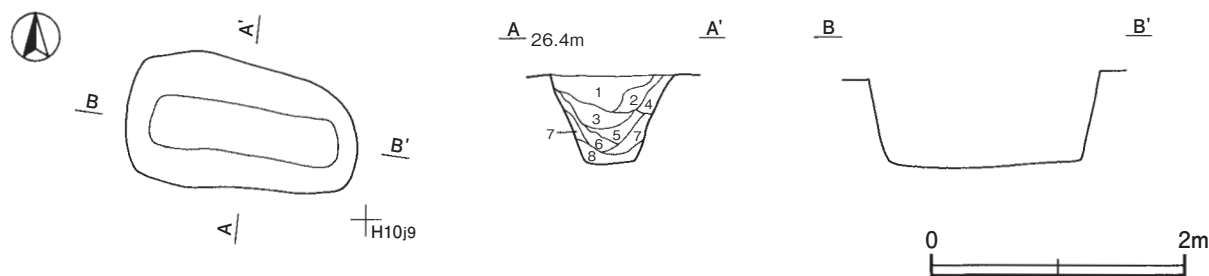
規模と形状 長軸1.83m、短軸1.00mの隅丸長方形で、長軸方向はN-81°-Wである。深さは70cmで、壁は長軸方向で直立し、短軸方向では外傾して立ち上がっている。横断面形は逆台形状で、底面は平坦である。

覆土 8層からなる。人為堆積の状況を示している。

土層解説

1 黒褐色 赤色粒子少量、ローム粒子微量	5 暗褐色 ローム粒子・赤色粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子少量	6 暗褐色 ローム粒子少量、赤色粒子微量
3 黒褐色 ローム粒子・赤色粒子微量	7 褐色 ローム粒子中量
4 暗褐色 ローム粒子中量	8 暗褐色 ローム粒子少量

所見 東側に南北に延びる小谷津があり、その谷津に向かう傾斜面に対してほぼ直交して配置されている。規模や形状から縄文時代と考えられる。



第62図 第3号陥し穴実測図

### 第4号陥し穴（第63図）

位置 調査区南東部のI11b1区、標高26.3mの台地平坦部に位置している。

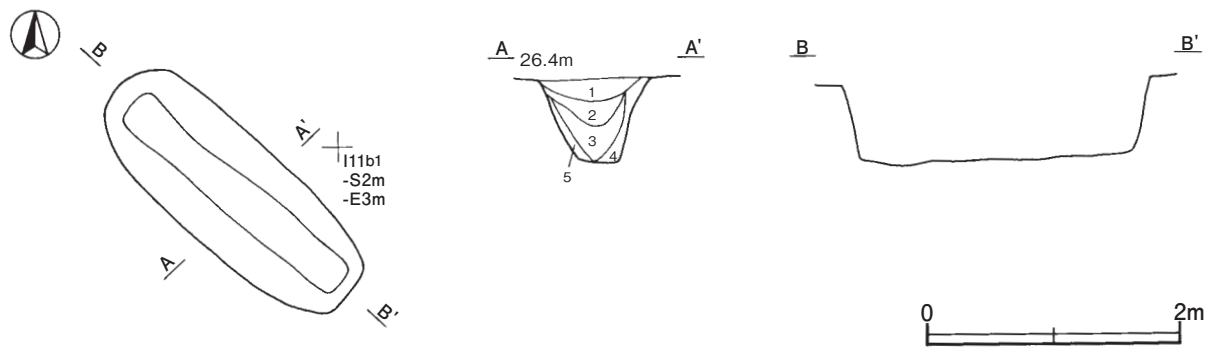
規模と形状 長軸2.48m、短軸0.92mの隅丸長方形で、長軸方向はN-47°-Wである。深さは66cmで、壁は長軸方向で直立し、短軸方向では外傾して立ち上がっている。横断面形は逆台形状で、底面はほぼ平坦である。

覆土 5層からなる。人為堆積の状況を示している。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・赤色粒子少量	4 黒色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子少量、赤色粒子微量	5 黒褐色 ロームブロック少量
3 黒色 ローム粒子少量	

所見 東側に南北に延びる小谷津があり、その谷津に向かう傾斜面に対して斜行して配置されている。規模や形状から縄文時代と考えられる。



第63図 第4号陥し穴実測図

### 第5号陥し穴（第64図）

**位置** 調査区中央部のE 6 h2区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.51m，短径1.02mの隅丸長方形で，長径方向はN-24°-Wである。深さは93cmで，壁は長径方向で直立し，下部は南北方向に内彎している。短径方向では外傾して立ち上がっている。横断面形は下部が直立し，中・上部が外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

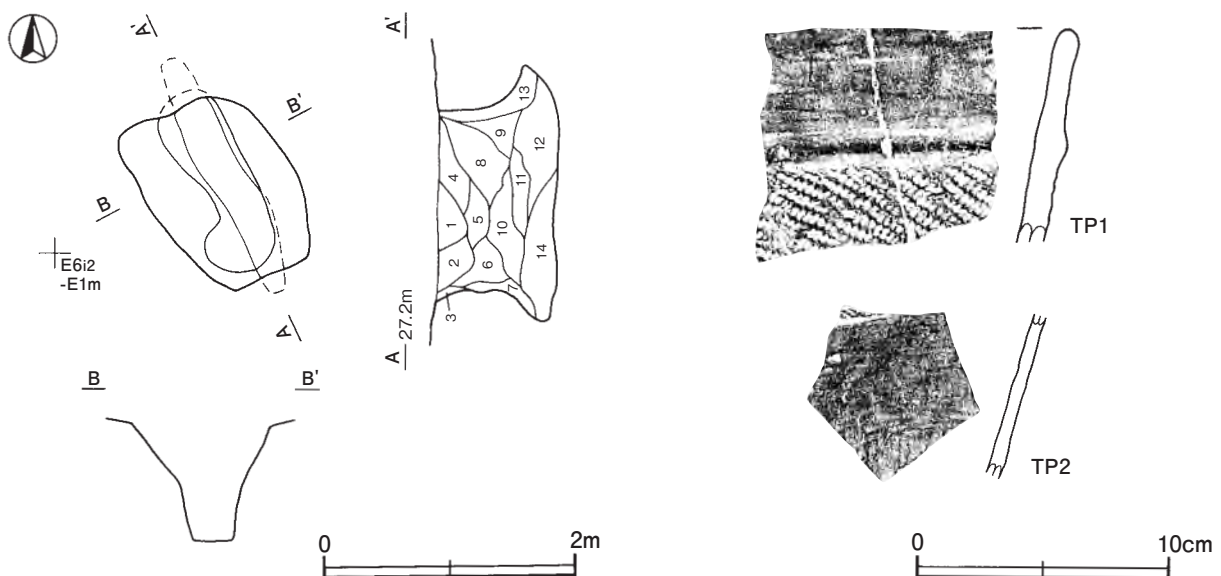
**覆土** 14層からなる。人為堆積の状況を示している。

#### 土層解説

1	黒褐色	細砂少量，ローム粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子・砂粒・細砂少量，炭化粒子微量
2	黒褐色	細砂少量，ローム粒子・焼土粒子微量	9	黒褐色	細砂中量，ローム粒子・砂粒微量
3	暗褐色	ローム粒子少量	10	黒褐色	細砂少量，ロームブロック・細礫・砂粒微量
4	黒褐色	ロームブロック中量	11	灰黄褐色	砂粒・細砂少量，ローム粒子微量
5	黒褐色	細砂少量，ローム粒子微量	12	灰黄褐色	ローム粒子・砂粒・細砂少量
6	黒褐色	細砂少量，ロームブロック・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子・砂粒・細砂少量
7	暗褐色	ローム粒子・砂粒少量	14	暗褐色	砂粒・細砂少量，ローム粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片2点（深鉢）が覆土中層から出土している。また，混入した土師質土器1点（鍋），陶器1点（土管），磁器2点（碗2）が覆土中から出土している。

**所見** 時期は，出土土器や周囲の遺構から後期中葉には機能を失ったと考えられる。



第64図 第5号陥し穴・出土遺物実測図

第5号陥し穴出土遺物観察表 (第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	長石・石英・雲母・ 角閃石・スコリア	にぶい橙	普通	口辺部無文帯・微隆帯 胴部単節縄文RL施文	覆土中層	中期後半 PL26
TP2	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	胴部単節縄文RL施文後半截竹管状工具による横位の沈線 磨り消し縄文	覆土中	後期中葉

表23 陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ (cm)					
1	H10j9	N-86°-W	隅丸長方形	2.11 × 0.62	55	直立・外傾	平坦	人為	—	
2	I10c8	N-75°-W	隅丸長方形	2.26 × 0.81	62	直立・外傾	平坦	人為	—	
3	H10i8	N-81°-W	隅丸長方形	1.83 × 1.00	70	直立・外傾	平坦	人為	—	
4	I11b1	N-47°-W	隅丸長方形	2.48 × 0.92	66	直立・外傾	平坦	人為	—	
5	E6h2	N-24°-W	隅丸長方形	1.51 × 1.02	93	直立・外傾	平坦	人為	縄文土器	

## (2) 土坑

## 第186号土坑 (第65図)

位置 調査区南東部のG 8e9区、標高26.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第685・687号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.17m、短径1.15mの円形である。深さは18cmで、壁は緩やかに外傾し、底面は皿状である。

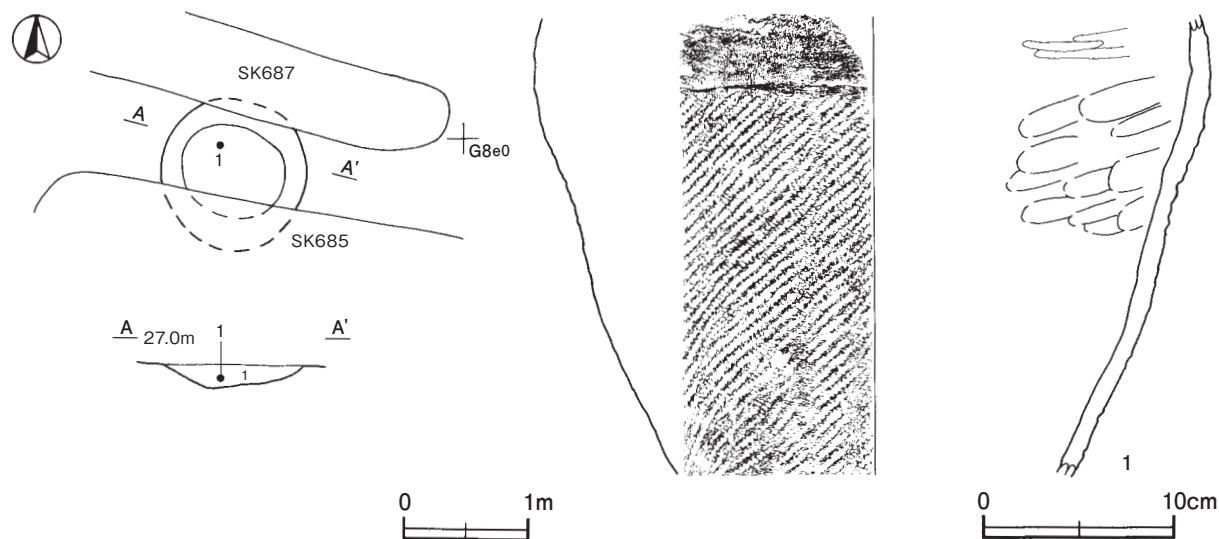
覆土 単一層である。自然堆積の状況を示している。

## 土層解説

1 にぶい黄褐色 細砂中量、ローム粒子少量、細礫微量

遺物出土状況 縄文土器1点(深鉢)が出土している。1は下層から胴部外面を上に向け横位で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末と考えられる。性格は不明である。



第65図 第186号土坑・出土遺物実測図

第186号土坑出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(24.2)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部無文帯・微隆帯 胴部単節縄文LR施文 体部内面ナデ 口辺内部ヘラ磨き	覆土下層	40% PL20 中期後半

2 古墳時代の遺構と遺物

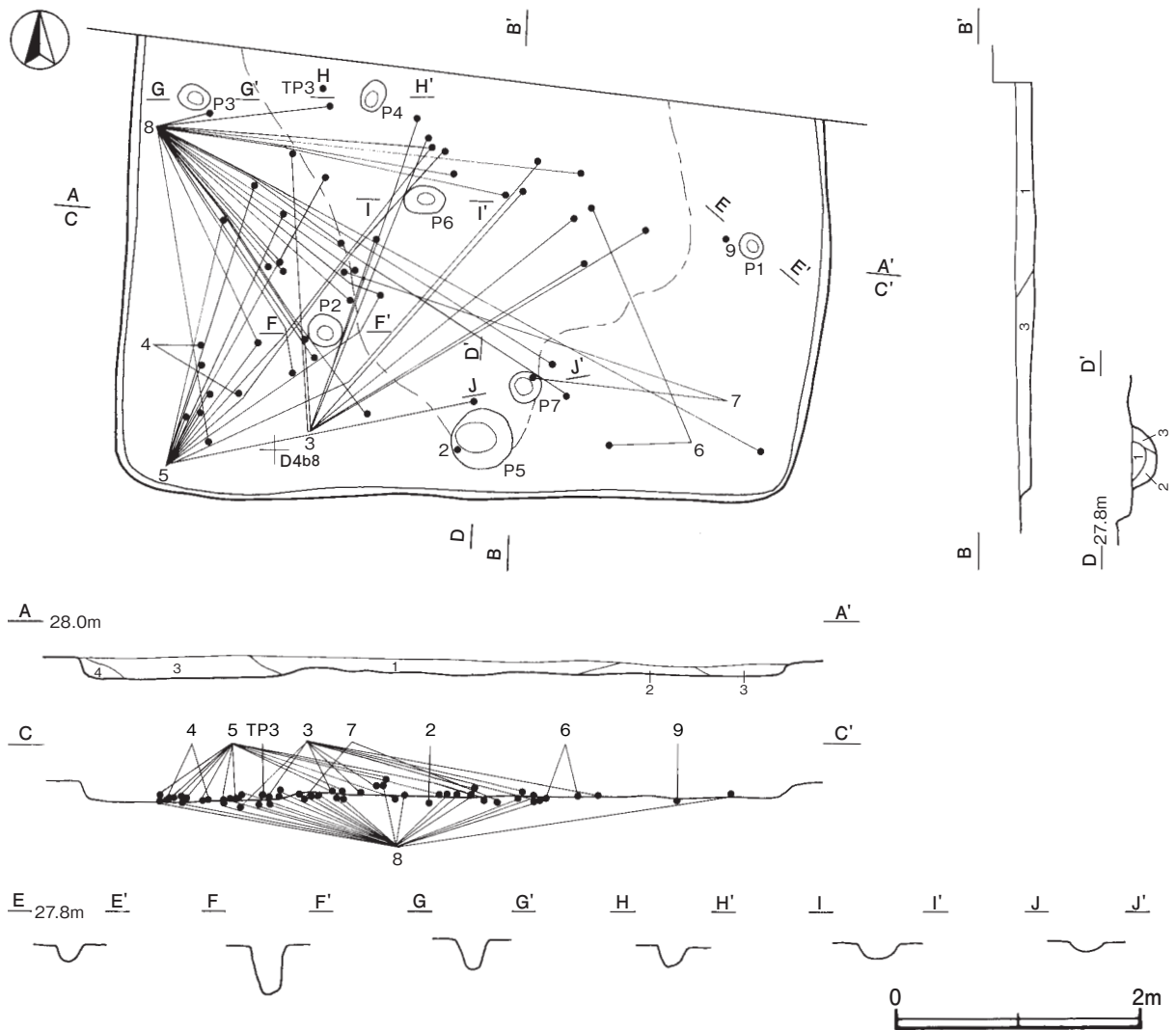
当時代の遺構は、 堅穴住居跡1軒が確認されている。遺構は、 標高27.9mの台地平坦部に位置している。

以下、 遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

第1号住居跡（第66～68図）

位置 調査区の北西部D 4 a8区、 標高27.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北側部分は調査区域外のため、 東西軸は4.52m、 南北軸は3.66mだけ確認されている。形状は、 方形または長方形と推測され、 主軸方向はN - 3° - Eである。壁高は8～15cmで、 外傾して立ち上がっている。



第66図 第1号住居跡実測図



床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 7か所。P 2は深さ43cmで、規模や配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ19cmで、硬化面の広がりから、出入口に伴うピットと考えられる。P 1・P 3・P 4・P 6・P 7は深さ8～26cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (P5)

- |       |                |      |         |
|-------|----------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量        | 3 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |      |         |

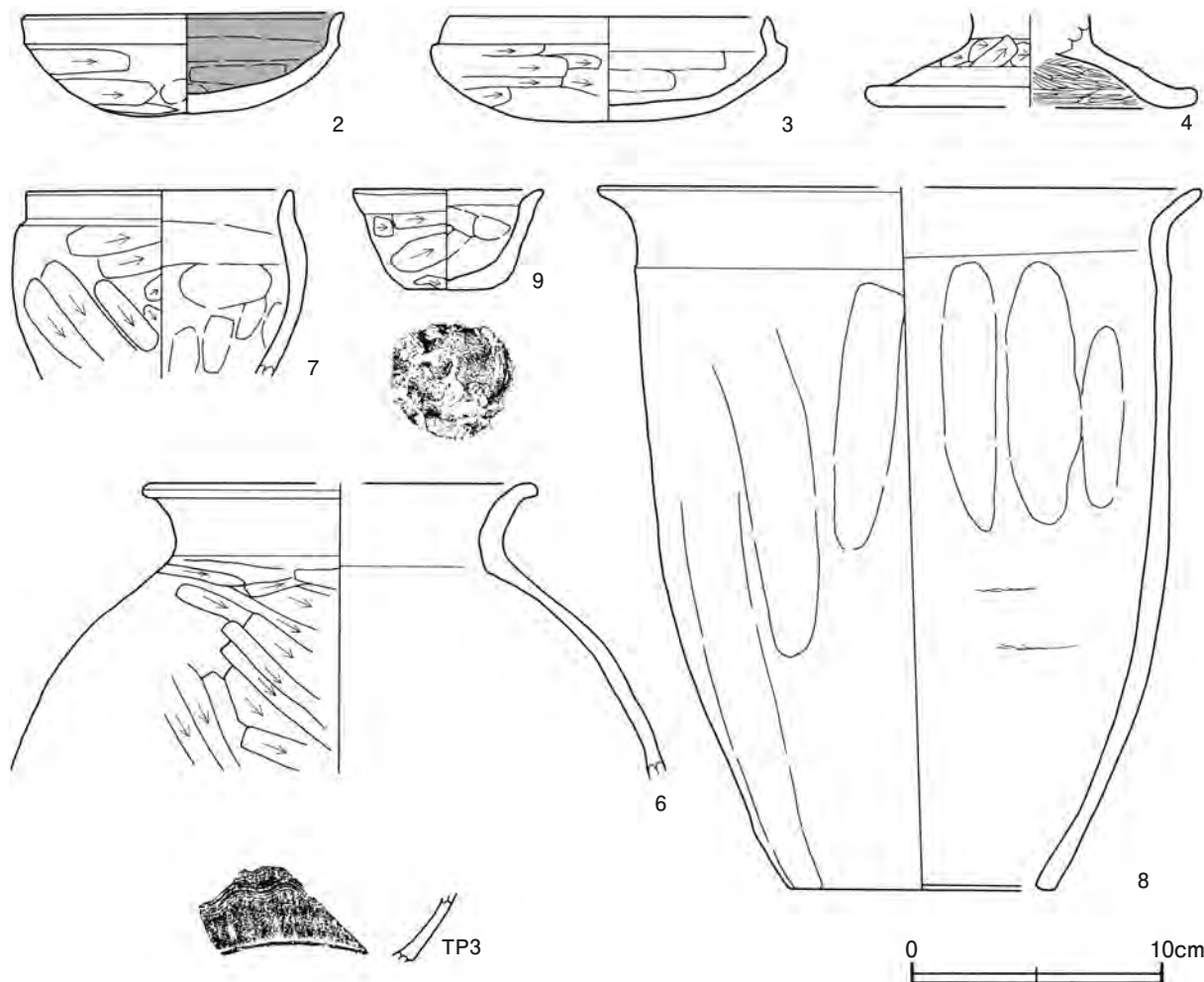
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

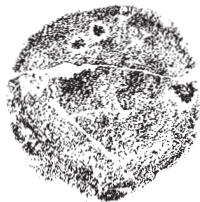
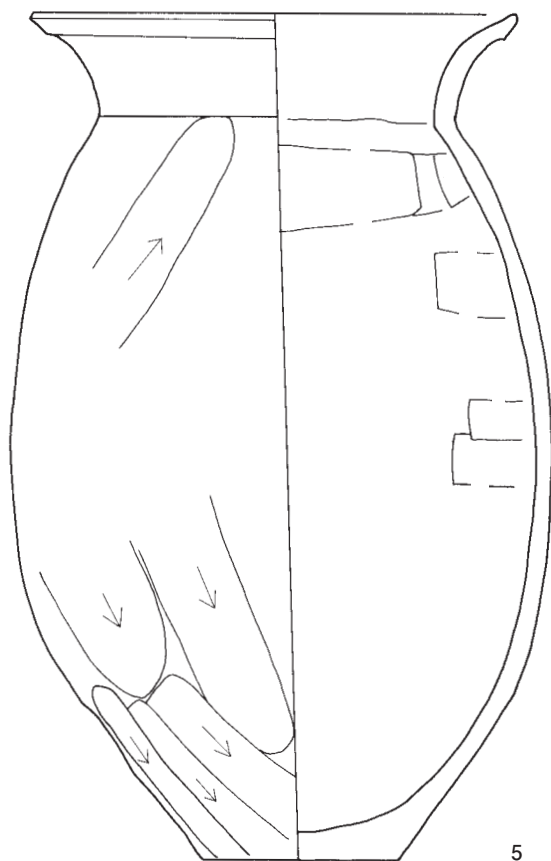
- |       |         |       |                |
|-------|---------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量   |

遺物出土状況 土師器片83点（坏37，高坏，甕類43，甌，ミニチュア土器），須恵器片1点（小形短頸壺カ）が出土している。遺物はいずれも破片で、覆土下層から床面にかけて散在して出土している。2は南壁際中央部のP 5覆土上層から出土しており、3は中央部周辺、9は東部P 1付近の床面から出土している。3～8はいずれも破片が接合したものである。

所見 土器片は覆土下層から床面にかけて出土し、時期差が見られないことから、住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀初頭と考えられる。



第67図 第1号住居跡出土遺物実測図 (1)



第68図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

第1号住居跡出土遺物観察表(第67・68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
2	土師器	坏	12.6	4.0	—	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内外面指頭痕 体部内・外面ナデ 内面黒色処理	床面上	80% PL20
3	土師器	坏	12.6	4.2	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 体部内面ナデ	床面上	50% PL20
4	土師器	高坏	—	(3.5)	[12.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部内・外面横ナデ 内面ヘラ磨き 外面ヘラ削り	床面上	20%
5	土師器	甕	19.0	33.8	7.8	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 後ヘラナデ 体部内面ヘラナデ	覆土下層	60% PL20
6	土師器	甕	[15.2]	(11.7)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面上	15%
7	土師器	小形甕	10.7	(7.5)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ナデ 体部外面ヘラ削り	床面上	70% PL20
8	土師器	甕	[24.1]	28.2	10.6	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 輪積み痕	床面上	70% PL20
9	土師器	ミニナフ土器	4.7	4.0	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ヘラ削り後横ナデ	床面上	95% PL20
TP3	須恵器	小形短頸壺	—	(2.7)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	内外面ロクロナデ 体部外面に5本1条の 櫛歯状工具による波状文	覆土下層	5% PL26



3 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡32棟、方形竪穴遺構4基、井戸跡43基、火葬土坑4基、墓坑10基、土坑246基、溝跡80条、柵跡2列、不明遺構4基、ピット群4か所が確認されている。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第69図）

位置 調査区南東部のH10j3区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

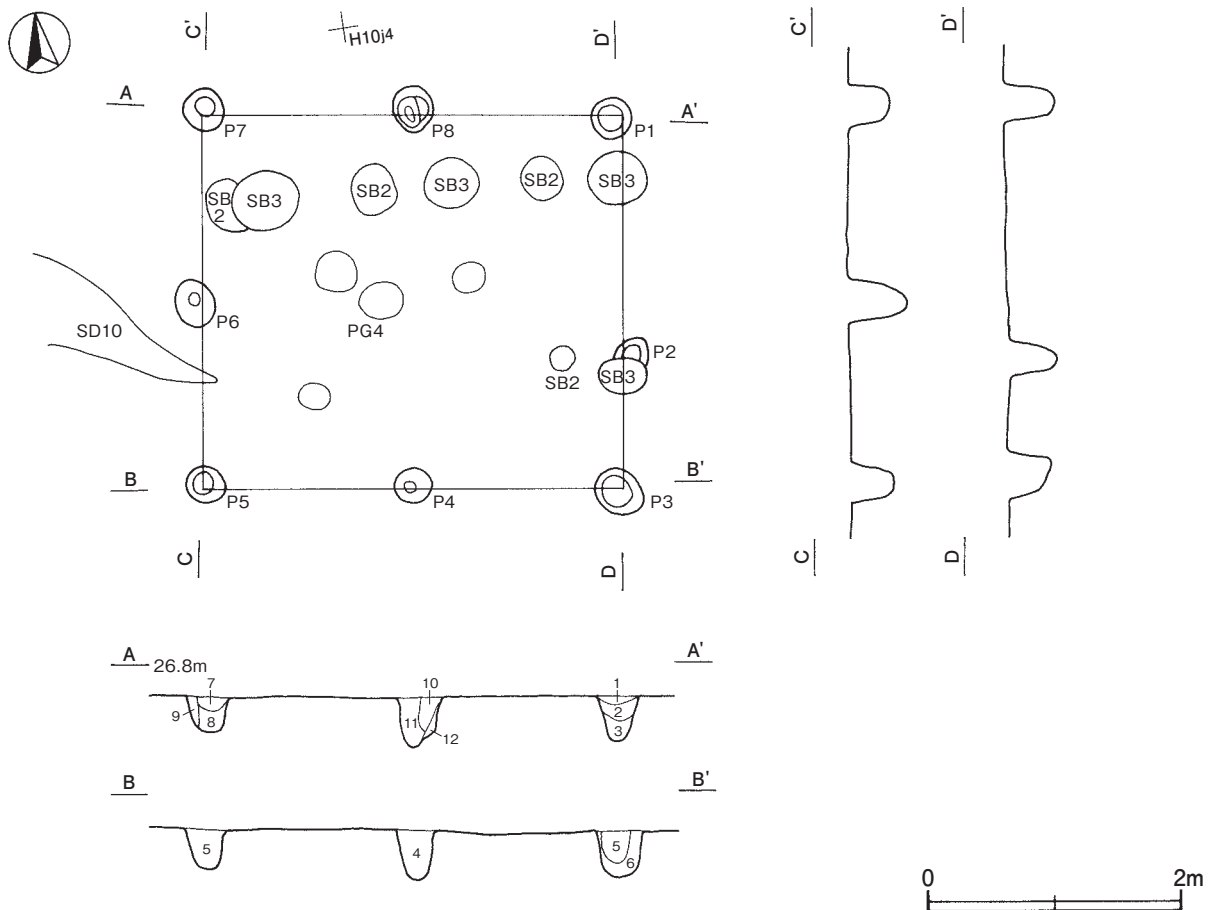
重複関係 第3号掘立柱建物に掘り込まれている。第2号掘立柱建物跡、第10号溝跡、第4号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-80°-Wの東西棟である。規模は、桁行3.4m、梁行3.0mで、面積は10.20㎡である。柱間寸法は、桁行が1.7m、梁行が1.5mである。

柱穴 8か所。深さは、30~48cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	ローム粒子中量	7 暗褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ローム粒子少量、黒色粒子微量	8 褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子中量	9 にぶい黄褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・黒色粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子少量	11 褐色	ローム粒子中量、黒色粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子微量	12 褐色	ローム粒子多量



第69図 第1号掘立柱建物跡実測図

所見 第1号溝跡の南東に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から居宅と推測され、隣接している第31号掘立柱建物跡が付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から15世紀後半と想定される。

第2号掘立柱建物跡 (第70・71図)

位置 調査区南東部のH10j3区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号掘立柱建物に掘り込まれている。第1号掘立柱建物跡、第10号溝跡、第4号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

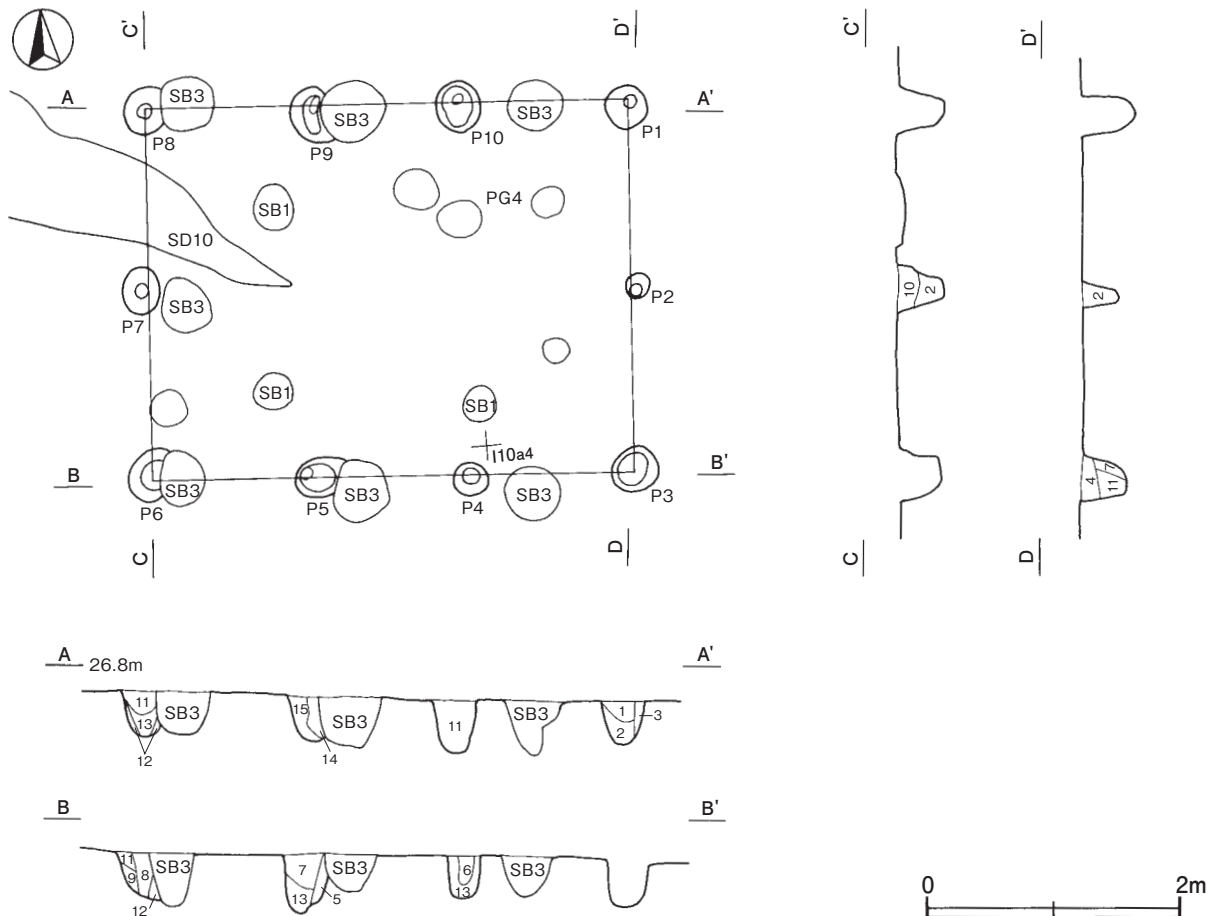
規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-84°-Wの東西棟である。規模は、桁行3.9m、梁行2.8mで、面積は10.92㎡である。柱間寸法は、桁行が1.3mで、梁行は1.4mである。

柱穴 10か所。深さは、30~45cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒褐色	ローム粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
2 黒褐色	赤色粒子少量, ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・赤色粒子微量
3 にぶい黄褐色	ローム粒子少量	11 暗褐色	ローム粒子少量
4 黒褐色	赤色粒子少量	12 褐色	ローム粒子少量
5 褐色	ローム粒子中量	13 暗褐色	ローム粒子少量, 黒色粒子微量
6 暗褐色	赤色粒子少量	14 黒褐色	ローム粒子中量
7 褐色	ローム粒子少量, 黒色粒子微量	15 黒褐色	ローム粒子中量, 黒色粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器1点(壺)が出土している。10は、P10の覆土中からの出土である。



第70図 第2号掘立柱建物跡実測図

所見 第1号溝跡の南東に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものと考えられる。規模や形状から居宅と推測され、第1号掘立柱建物跡を建て替えたものと考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。



第71図 第2号掘立柱建物跡出土遺物実測図

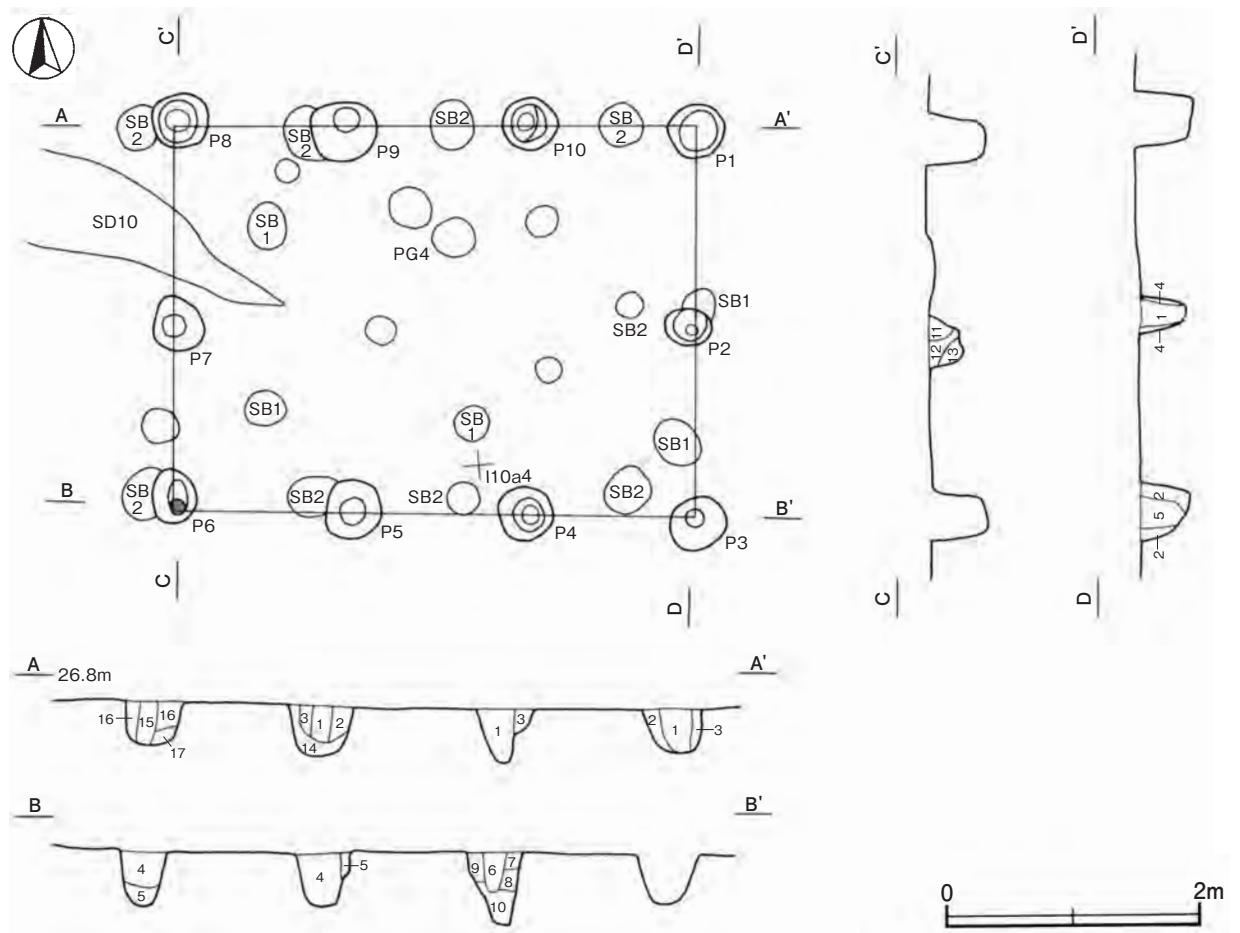
第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	土師質土器	壺	[128]	(27)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口辺部内外面横ナデ	P10覆土中	15%

第3号掘立柱建物跡 (第72図)

位置 調査区南東部のH10j3区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1・2号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第10号溝跡、第4号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。



第72図 第3号掘立柱建物跡実測図

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-84°-Wの東西棟である。規模は、桁行4.2m、梁行3.0mで、面積は12.60㎡である。柱間寸法は、桁行が1.4mで、梁行は1.5mである。

**柱穴** 10か所。深さは、23~62cmである。柱のあたりはP6に見られるほかは、不明瞭である。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

**土層解説 (各柱穴共通)**

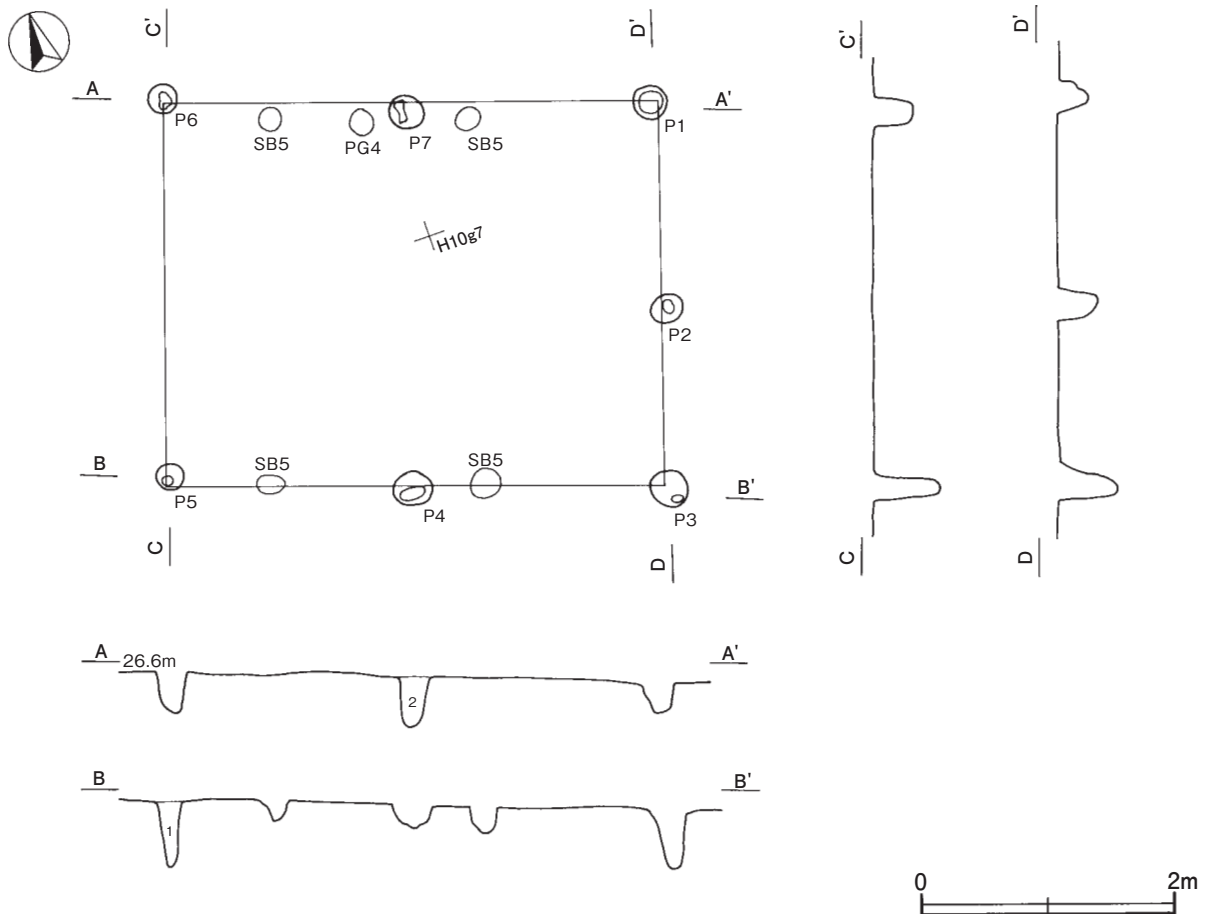
1 暗褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量	11 黒褐色	赤色粒子少量, ローム粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量	12 褐色	ローム粒子少量, 黒色粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量	13 褐色	ローム粒子中量, 黒色粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・赤色粒子微量	14 褐色	ローム粒子多量
6 黒褐色	ローム粒子少量	15 黒褐色	ローム粒子中量
7 黒褐色	ローム粒子少量, 黒色粒子微量	16 黒褐色	ローム粒子中量, 黒色粒子微量
8 黒色	ローム粒子微量	17 黒褐色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子少量, 黒色粒子微量		

**所見** 第1号溝跡の南東に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から居宅と推測され、第2号掘立柱建物跡を建て替えたものと考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と想定される。

**第4号掘立柱建物跡 (第73図)**

**位置** 調査区南東部のH10g6区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第5号掘立柱建物跡、第4号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明



第73図 第4号掘立柱建物跡実測図

である。

**規模と構造** 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N-70°-Wの東西棟である。規模は，桁行3.8m，梁行3.0mで，面積は11.40㎡である。柱間寸法は，桁行が1.9mで，東梁行は1.5mである。

**柱穴** 7か所。深さは，22~56cmである。掘り方の断面形はU字形で，底面は皿状である。

土層解説 (P5・P7 共通)

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子・赤色粒子微量

**所見** 第1号溝跡の東に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから，同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から倉庫と推測され，隣接している第6号掘立柱建物跡の付随施設と考えられる。時期は，重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。

### 第5号掘立柱建物跡 (第74図)

**位置** 調査区南東部のH10g6区，標高26.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第4号掘立柱建物跡，第4号ピット群と重複しているが，柱穴の重複は見られず，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行2間，梁行1間の側柱建物跡で，桁行方向N-70°-Wの東西棟である。規模は，桁行3.2m，梁行3.0mで，面積は9.60㎡である。柱間寸法は，桁行が1.6mである。

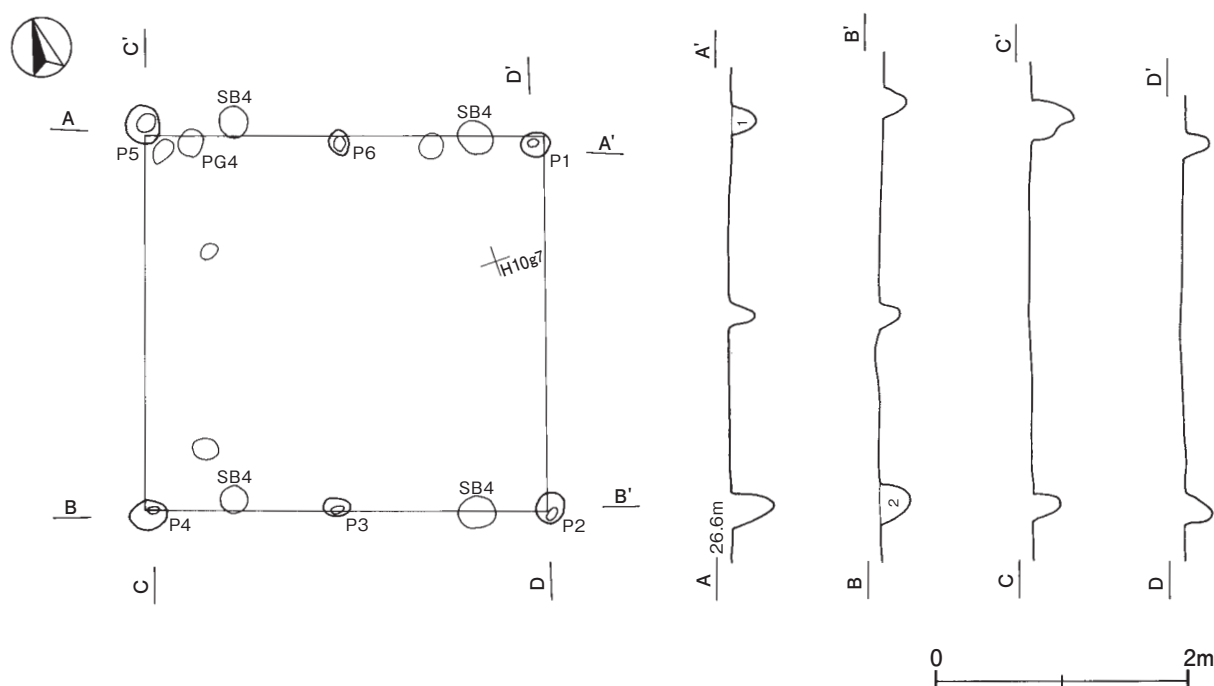
**柱穴** 6か所。深さは，14~34cmである。掘り方の断面形はU字形で，底面は皿状である。

土層解説 (P1・P4 共通)

1 黒褐色 ローム粒子・赤色粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

**所見** 第1号溝跡の東に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから，同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から倉庫と推測され，隣接している第30号掘立柱建物跡の付随施設と考えられる。時期は，重複関係や周囲の遺構から15世紀後半と想定される。



第74図 第5号掘立柱建物跡実測図

### 第6号掘立柱建物跡（第75図）

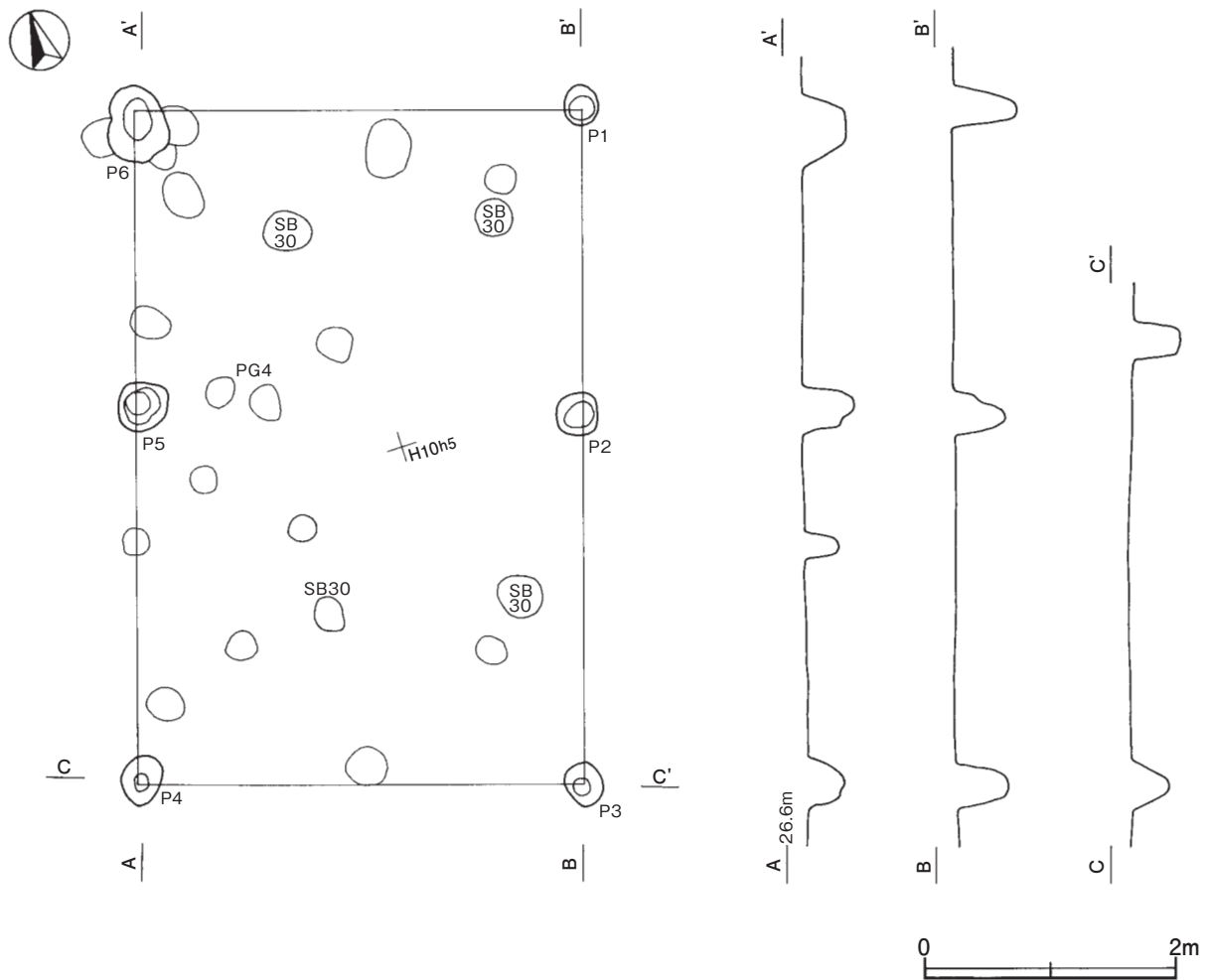
位置 調査区南東部のH10g4区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第30号掘立柱建物跡、第4号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-18°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.5m、梁行3.6mで、面積は19.80㎡である。柱間寸法は、桁行が北から2.5m、3.0mである。

柱穴 6か所。深さは、22~56cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

所見 第1号溝跡の東に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から居宅と推測され、隣接している第4号掘立柱建物跡は付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。



第75図 第6号掘立柱建物跡実測図

### 第7号掘立柱建物跡（第76図）

位置 調査区南東部のH9b0区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-15°-Eの南北棟である。規模は、桁行2.6m、

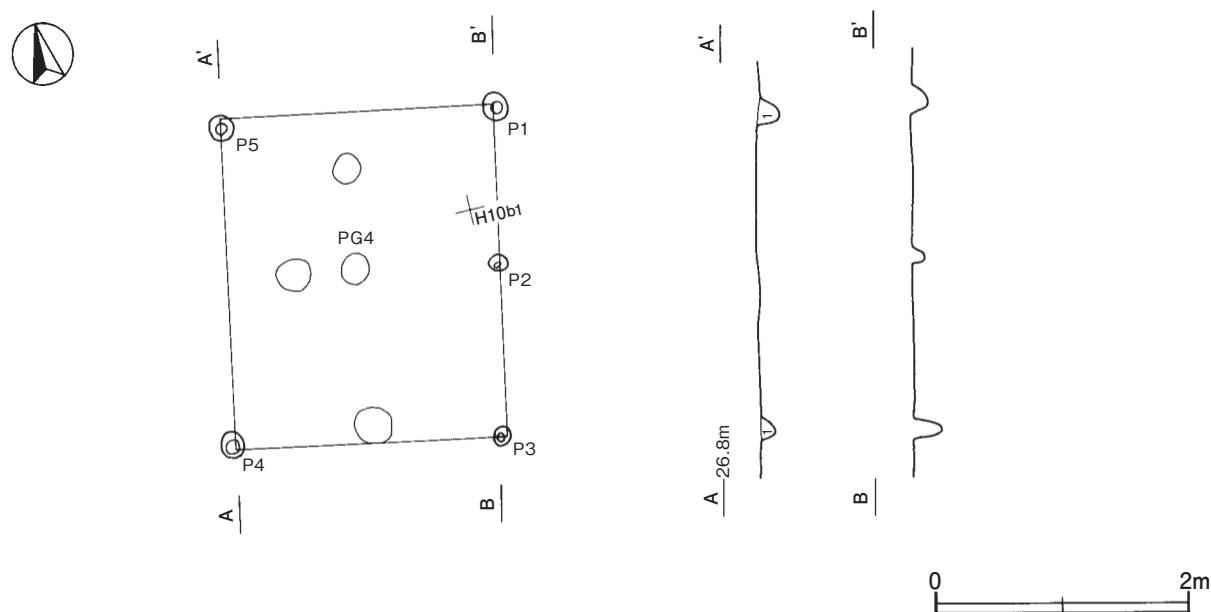
梁行2.1mで、面積は5.46㎡である。柱間寸法は、西桁行が2.6m、東桁行は北から1.2m、1.4mである。

柱穴 5か所。深さは、12~25cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

土層解説 (P4・P5共通)

1 暗褐色 ローム粒子少量

所見 第8号溝跡の内側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から倉庫と推測され、隣接している第10号掘立柱建物跡の付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と想定される。



第76図 第7号掘立柱建物跡実測図

### 第8号掘立柱建物跡 (第77図)

位置 調査区南東部のH9c0区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号掘立柱建物跡、第4号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-17°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.9m、梁行2.7mで、面積は10.53㎡である。柱間寸法は、西桁行が北から1.6m、2.3mで、東桁行は北から1.9m、2.0mである。

柱穴 6か所。深さは、13~42cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗褐色 赤色粒子少量

2 褐色 ローム粒子・赤色粒子少量

3 黒褐色 ローム粒子微量

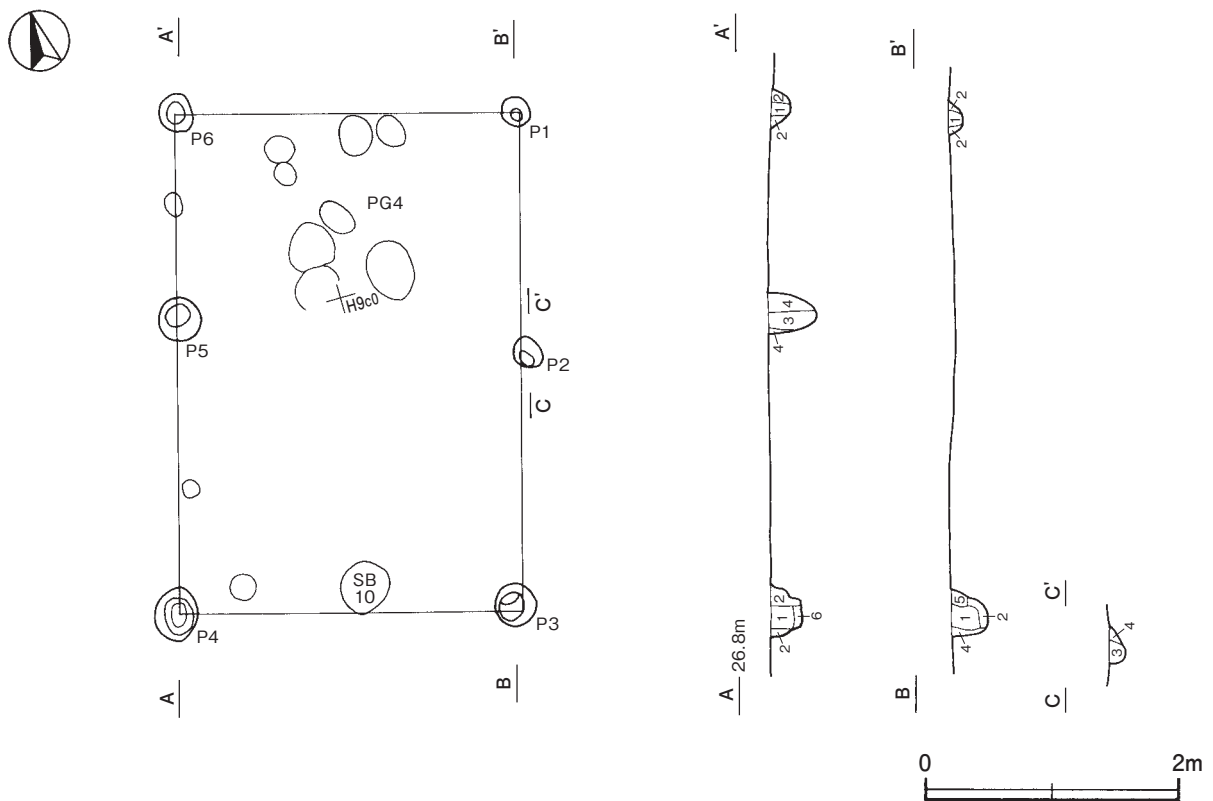
4 褐色 ローム粒子微量

5 褐色 ローム粒子少量

6 暗褐色 ローム粒子多量

所見 第8号溝跡の内側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から居宅と推測され、隣接している第28号掘立柱建物跡は付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。





第77図 第8号掘立柱建物跡実測図

### 第10号掘立柱建物跡（第78図）

**位置** 調査区南東部のH9c0区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第29号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第8号掘立柱建物跡、第31号土坑、第4号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

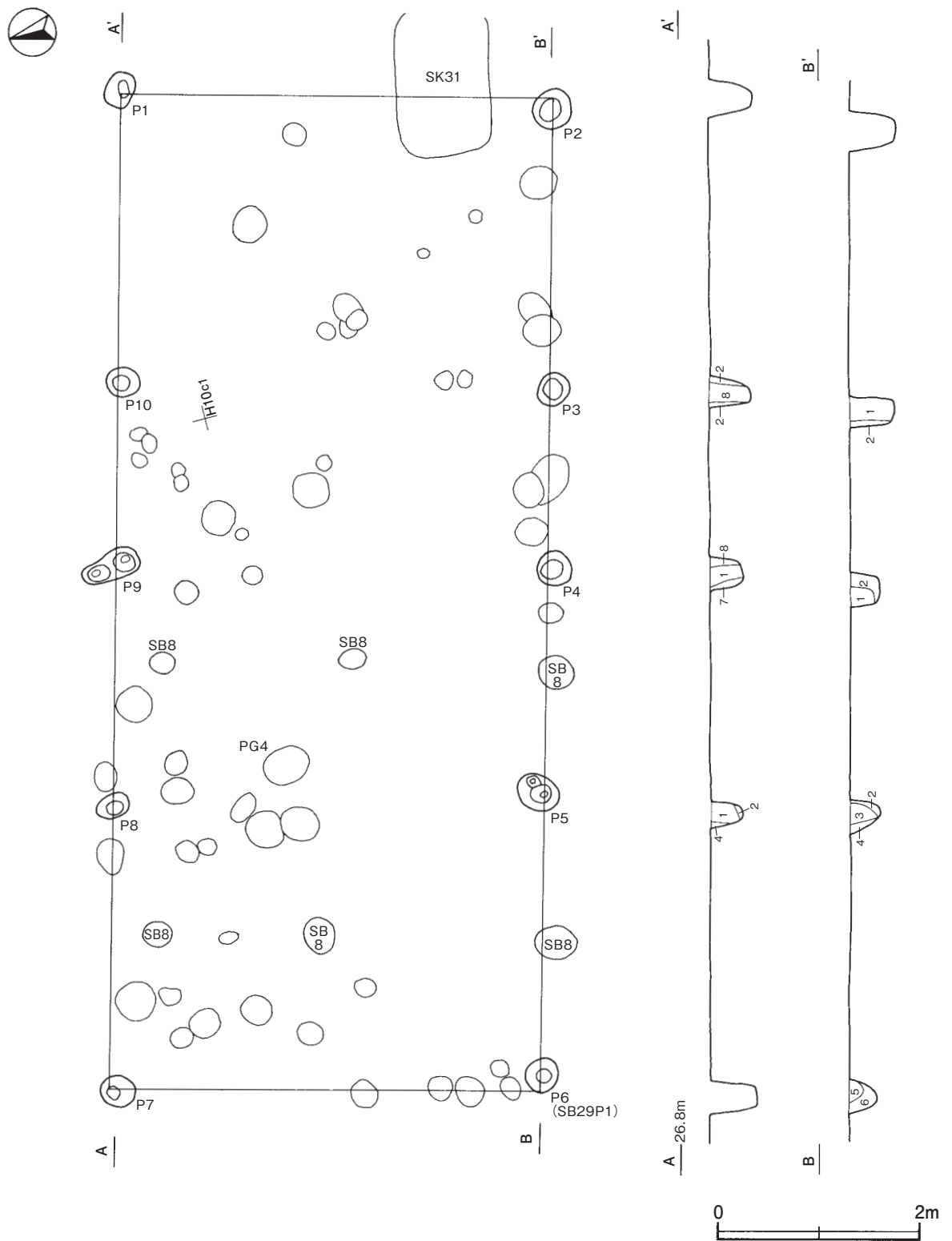
**規模と構造** 桁行4間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-74°-Wの東西棟である。規模は、桁行9.9m、梁行4.3mで、面積は42.57㎡である。柱間寸法は、桁行が西から2.8m、2.5m、1.8m、2.8mである。

**柱穴** 10か所。深さは、28~50cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。P6は、第29号掘立柱建物跡のP1と共有している。

**土層解説（各柱穴共通）**

- |       |         |       |                |
|-------|---------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量        |
| 2 黒色  | ローム粒子微量 | 6 褐色  | ローム粒子少量、黒色粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、黒色粒子微量 |
| 4 褐色  | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量   |

**所見** 第8号溝跡の内側中央部に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から居宅と推測され、隣接している第7号掘立柱建物跡は付随施設と考えられる。当区域内最大の建物跡で、権力者の存在がうかがえる。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と想定される。



第78図 第10号掘立柱建物跡実測図

第11号掘立柱建物跡 (第79図)

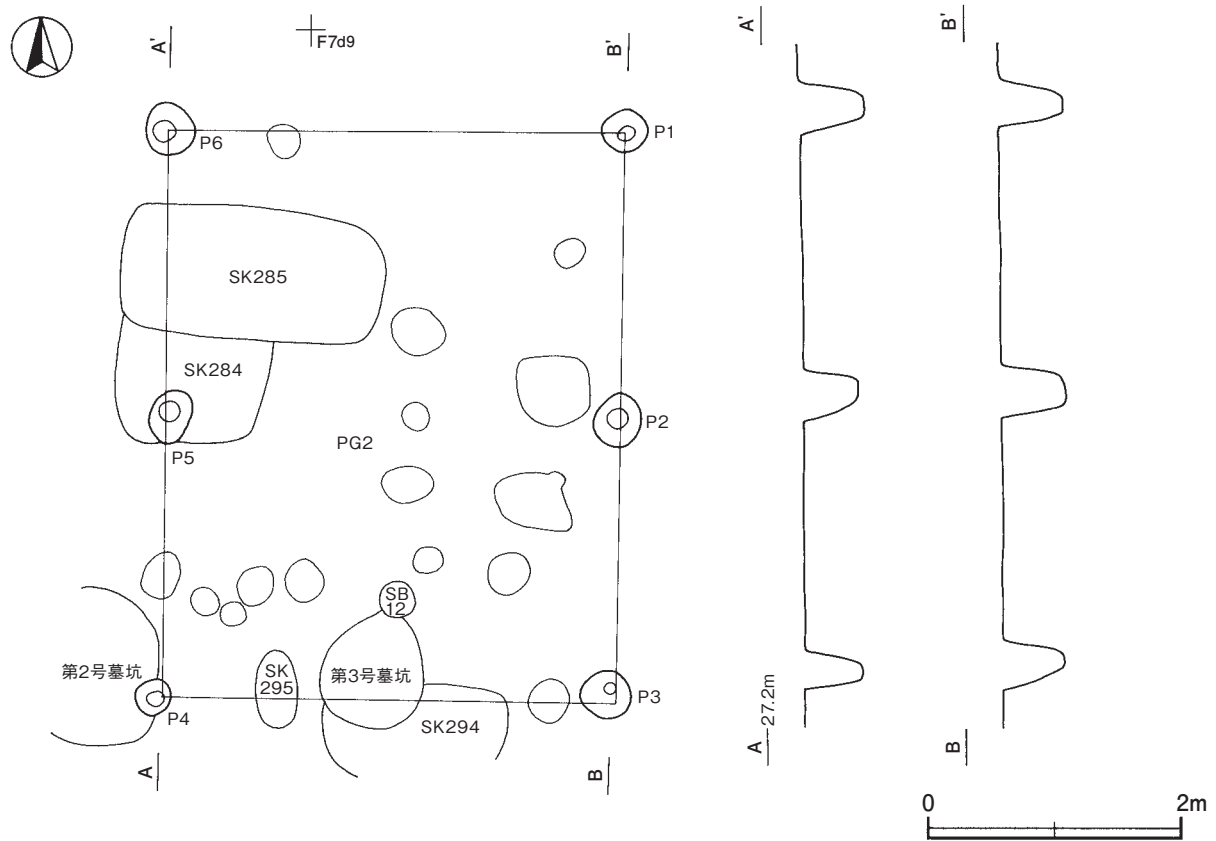
位置 調査区中央部のF 7 d9区, 標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号墓坑, 第284号土坑を掘り込んでいる。第12号掘立柱建物跡, 第3号墓坑, 第285・294・295号土坑, 第2号ピット群と重複しているが, 柱穴の重複は見られず, 新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行2間, 梁行1間の側柱建物跡で, 桁行方向N-2°-Eの南北棟である。規模は, 桁行4.5m, 梁行3.6mで, 面積は16.20㎡である。柱間寸法は, 桁行が北から2.3m, 2.2mである。

**柱穴** 6か所。深さは, 46~54cmである。掘り方の断面形はU字形で, 底面は皿状である。

**所見** 第32号溝跡の北側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから, 同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から居宅と推測される。時期は, 重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と想定される。



第79図 第11号掘立柱建物跡実測図

### 第12号掘立柱建物跡 (第80図)

**位置** 調査区中央部のF7e8区, 標高26.9mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第2・3号墓坑, 第268・283・291・292号土坑を掘り込んでいる。第11号掘立柱建物跡, 第240・271・277・281・294・295・299~301号土坑, 第2号ピット群と重複しているが, 柱穴の重複は見られず, 新旧関係は不明である。

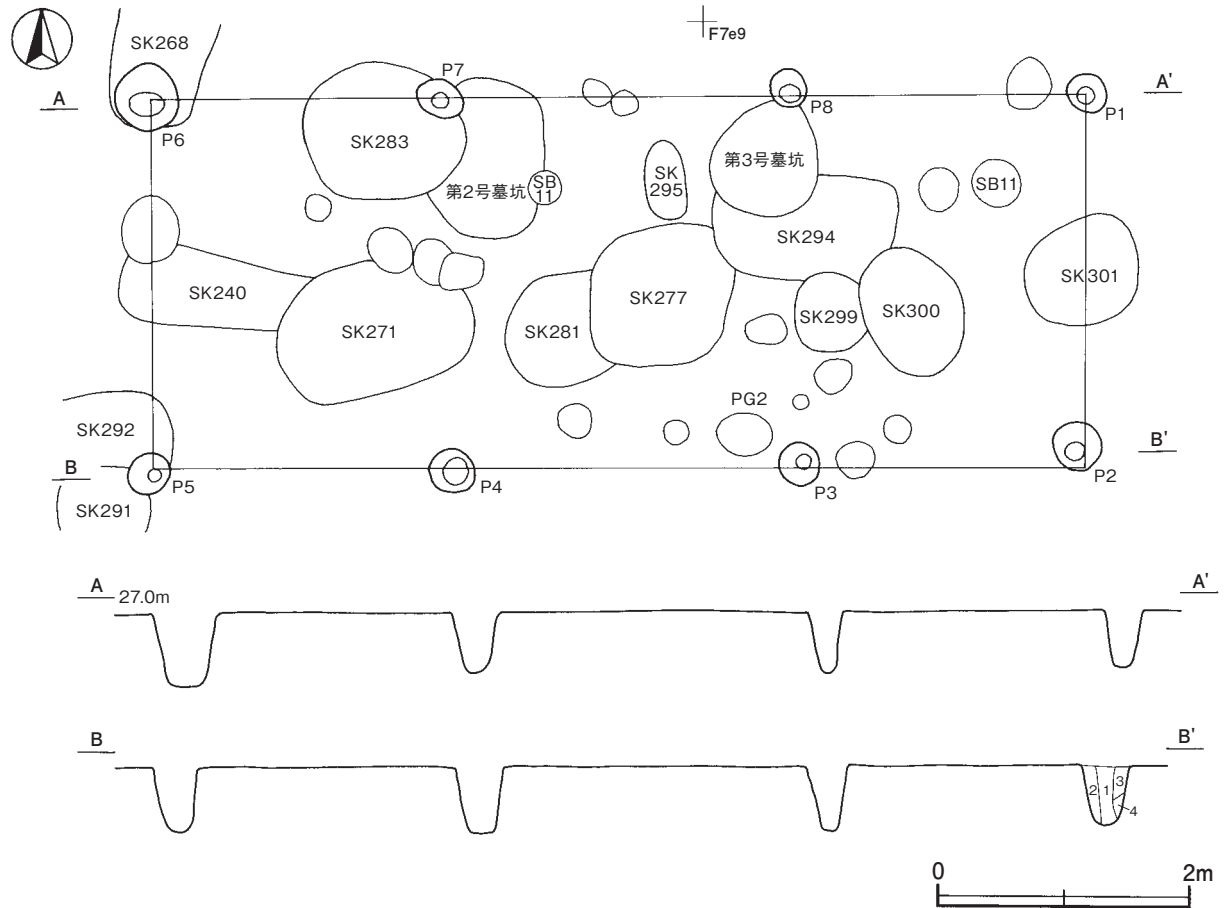
**規模と構造** 桁行3間, 梁行1間の側柱建物跡で, 桁行方向N-86°-Eの東西棟である。規模は, 桁行7.5m, 梁行3.0mで, 面積は22.50㎡である。柱間寸法は, 桁行が西から2.4m, 2.7m, 2.4mである。

**柱穴** 8か所。深さは, 48~60cmである。掘り方の断面形はU字形で, 底面は皿状である。

#### 土層解説 (P2)

- |      |         |       |                 |
|------|---------|-------|-----------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量  |
| 2 褐色 | ローム粒子微量 | 4 褐色  | ローム粒子少量, 黒色粒子微量 |

所見 第32号溝跡の北側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から居宅と推測され、隣接している第20号掘立柱建物跡は付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。



第80図 第12号掘立柱建物跡実測図

第13号掘立柱建物跡 (第81図)

位置 調査区中央部のF 7 d4区, 標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第225・265・266号土坑を掘り込んでいる。第24号井戸跡, 第227・238・245・250・252号土坑, 第2号ピット群と重複しているが, 柱穴の重複は見られず, 新旧関係は不明である。

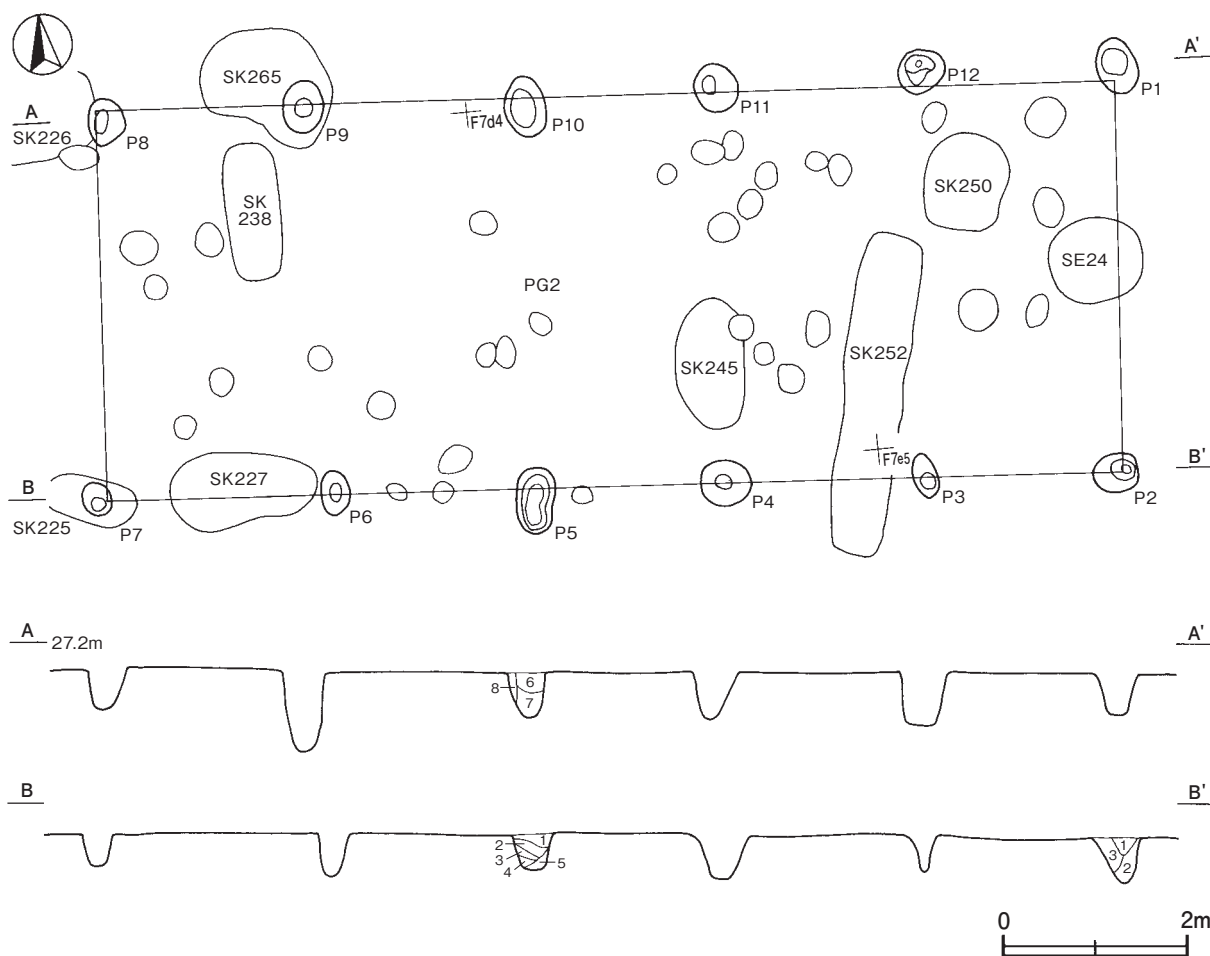
規模と構造 桁行5間, 梁行1間の側柱建物跡で, 桁行方向N-87°-Wの東西棟である。規模は, 桁行11.0m, 梁行4.1mで, 面積は45.10㎡である。柱間寸法は, 桁行が2.2mである。

柱穴 12か所。深さは, 23~84cmである。掘り方の断面形はU字形で, 底面は皿状である。

土層解説 (P2・P5・P10 共通)

- |       |              |          |                      |
|-------|--------------|----------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量      | 5 にぶい黄褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量         |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量      | 6 黒褐色    | 黒色粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色    | 黒色粒子中量, ローム粒子少量      |
| 4 褐色  | ローム粒子微量      | 8 暗褐色    | 黒色粒子少量, ロームブロック微量    |

所見 第32号溝跡の北西に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。当区域内最大の建物跡で、居宅と推測され、規模からは権力者の存在がうかがえる。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と想定される。



第81図 第13号掘立柱建物跡実測図

#### 第14号掘立柱建物跡（第82図）

**位置** 調査区中央部のF 6 c8区、標高27.1mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第524号土坑、第73号溝跡、第1号ピット群を掘り込んでいる。第15・16号掘立柱建物跡、第521・522号土坑、第72号溝跡と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-80°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.0m、梁行4.7mで、面積は23.50㎡である。柱間寸法は、桁行が西から2.4m、2.6mである。

**柱穴** 6か所。深さは、66~80cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

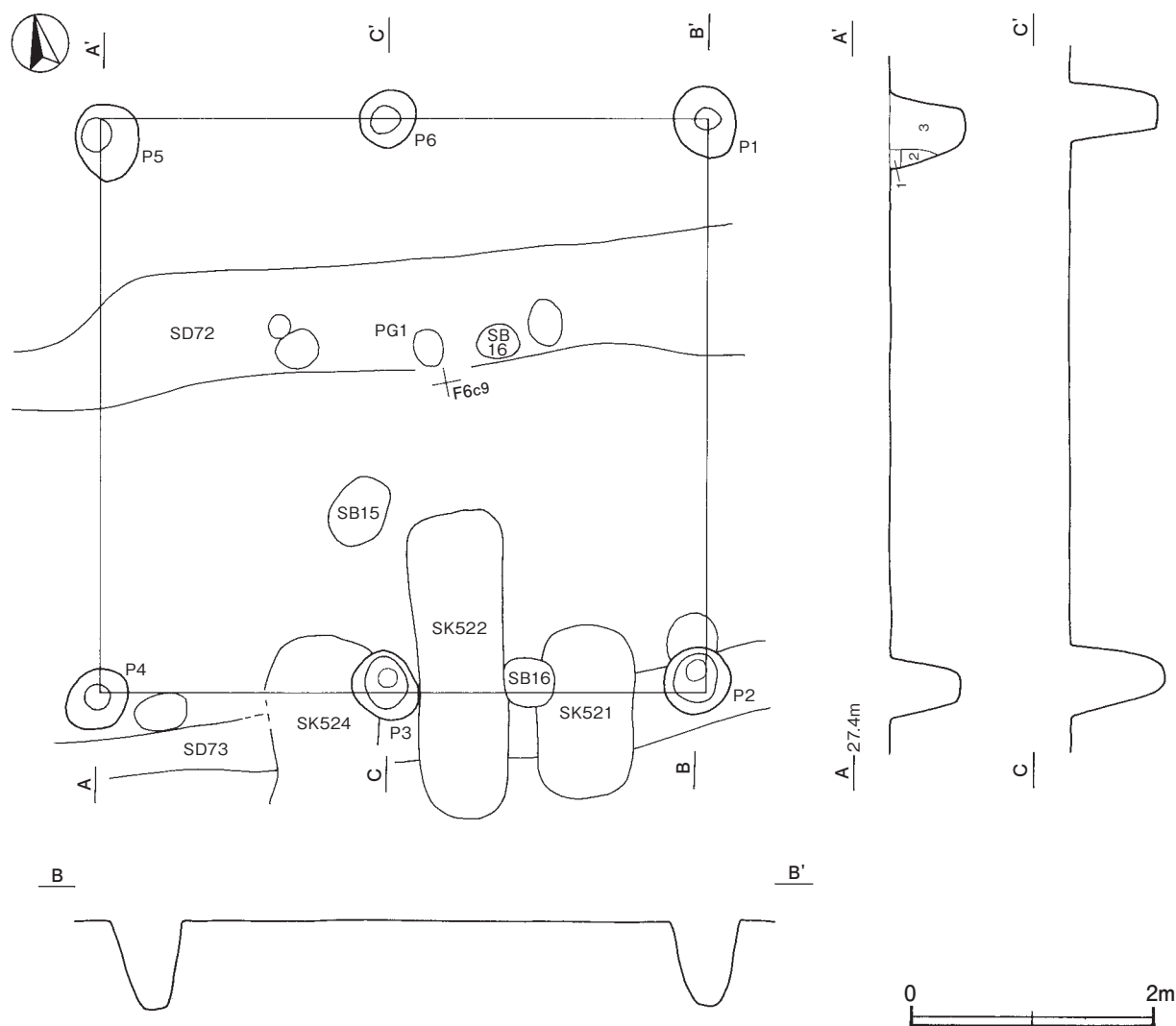
#### 土層解説 (P5)

1 暗褐色 ローム粒子少量  
2 黒褐色 ローム粒子少量

3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・細砂微量

**所見** 第60号溝跡および第61号溝跡に北・西側を囲まれている。遺構の配置から東部の集落の続きと考えられる。重複関係から第15号掘立柱建物跡を建て替えたものと想定され、規模や形状から居宅と推測される。

時期は、重複関係や周囲の遺構から17世紀前半と想定される。



第82図 第14号掘立柱建物跡実測図

## 第15号掘立柱建物跡 (第83図)

**位置** 調査区中央部のF 6 b8区, 標高27.1mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第533号土坑, 第1号ピット群を掘り込んでいる。第14号掘立柱建物跡, 第72号溝跡と重複しているが, 柱穴の重複は見られず, 新旧関係は不明である。

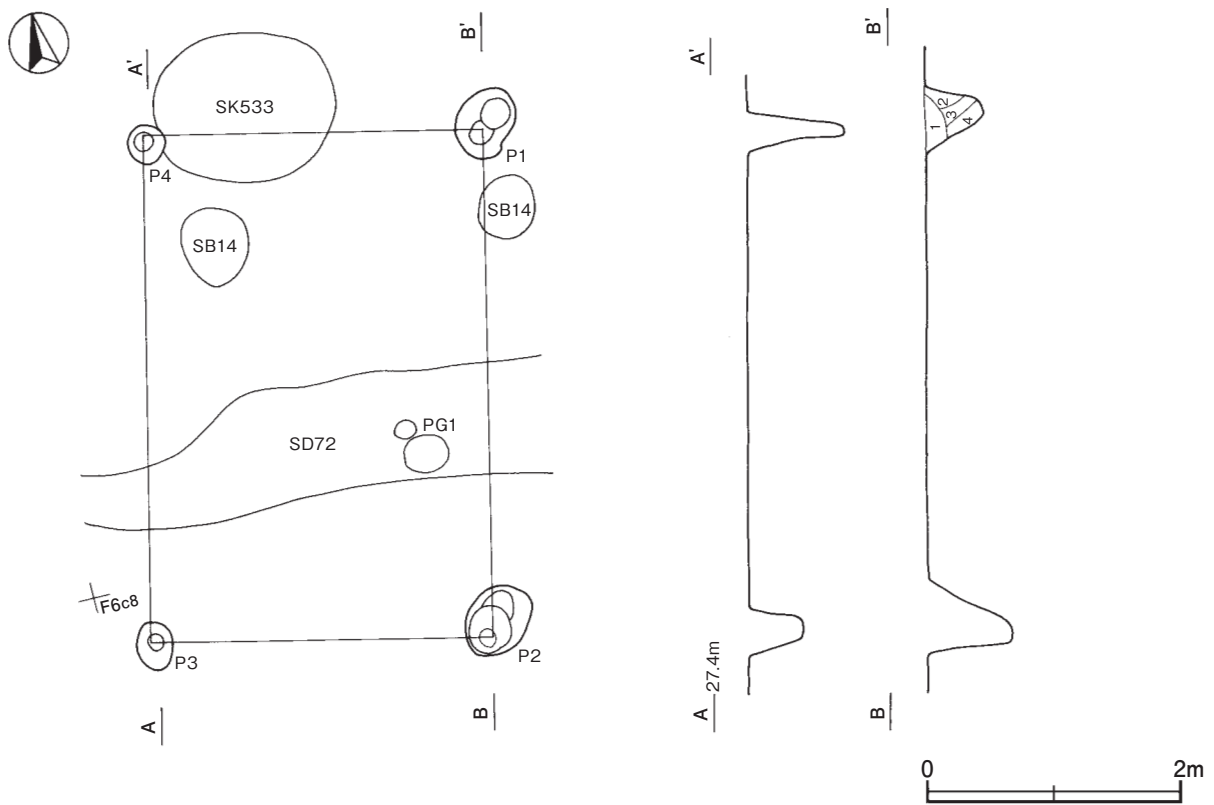
**規模と構造** 桁行1間, 梁行1間の側柱建物跡で, 桁行方向はN-12°-Eの南北棟である。規模は, 桁行4.0m, 梁行2.7mで, 面積は10.80㎡である。

**柱穴** 4か所。深さは, 42~76cmである。掘り方の断面形はU字形で, 底面は皿状である。

## 土層解説 (P1)

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量    | 4 黒褐色 ローム粒子少量         |

**所見** 第60号溝跡および第61号溝跡に北・西側を囲まれている。遺構の配置から東部の集落の続きとみられる。規模や形状から居宅と推測され, 隣接している第16号掘立柱建物は付随施設と考えられる。時期は, 重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と想定される。

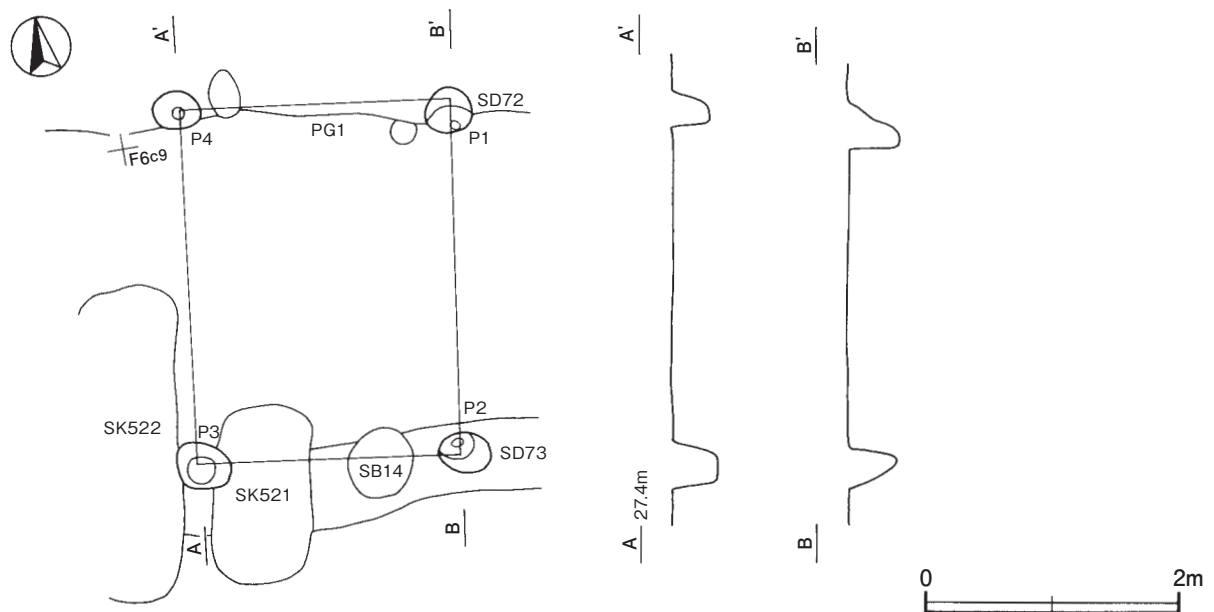


第83図 第15号掘立柱建物跡実測図

第16号掘立柱建物跡（第84図）

位置 調査区中央部のF 6 c9区、標高27.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第521・522号土坑、第72・73号溝跡を掘り込んでいる。第14号掘立柱建物跡、第1号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。



第84図 第16号掘立柱建物跡実測図



**規模と構造** 桁行1間，梁行1間の側柱建物跡で，桁行方向N-7°-Eの南北棟である。規模は，桁行2.7m，梁行2.1mで，面積は5.67㎡である。

**柱穴** 4か所。深さは，32～42cmである。掘り方の断面形はU字形で，底面は皿状である。

**所見** 第60号溝跡および第61号溝跡に北・西側を囲まれている。遺構の配置から東部の集落の続きと考えられ，規模や形状から居宅と推測され，隣接している第15号掘立柱建物の付随施設と考えられる。時期は，重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と想定される。

### 第17号掘立柱建物跡（第85図）

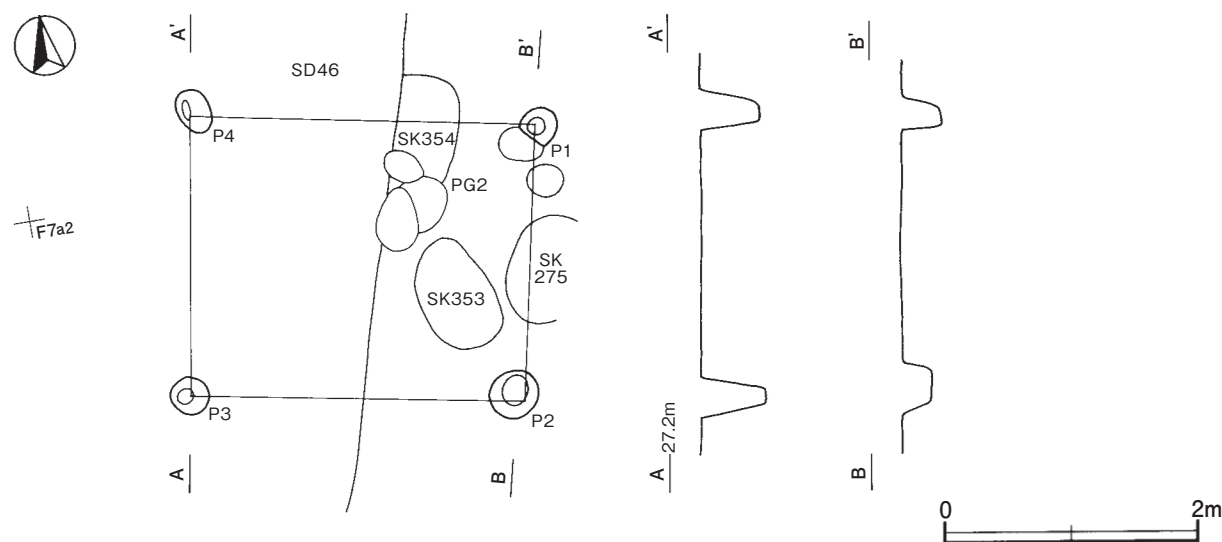
**位置** 調査区中央部のF7a2区，標高26.9mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第46号溝，第2号ピット群に掘り込まれている。第275・353・354号土坑と重複しているが，柱穴の重複は見られず，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行1間，梁行1間の側柱建物跡で，桁行方向N-77°-Wの東西棟である。規模は，桁行2.7m，梁行2.2mで，面積は5.94㎡である。

**柱穴** 4か所。深さは，24～54cmである。掘り方の断面形はU字形で，底面は皿状である。

**所見** 第32号溝跡の北西に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから，同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から，倉庫または作業小屋と推測される。第46号溝掘削以前に機能していたものと考えられることから，時期は15世紀後半と想定される。



第85図 第17号掘立柱建物跡実測図

### 第18号掘立柱建物跡（第86図）

**位置** 調査区中央部のE7j3区，標高27.1mの台地平坦部に位置している。

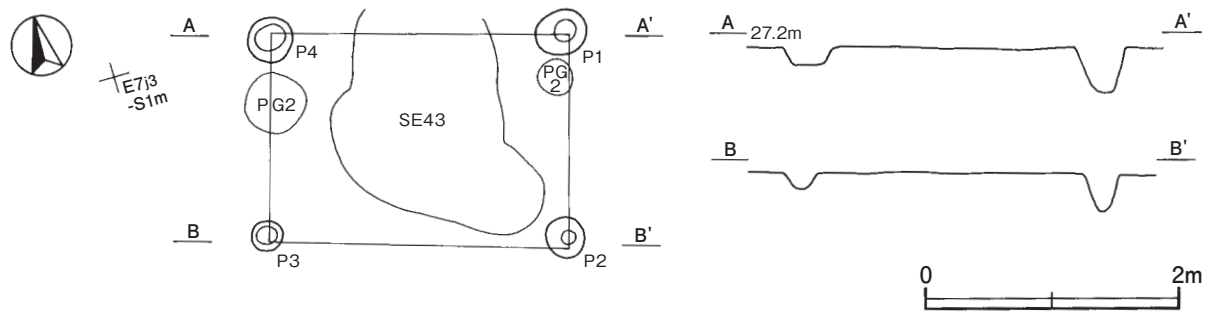
**重複関係** 第43号井戸跡と重複しており，同時期に機能していたものと考えられる。第2号ピット群と重複しているが，柱穴の重複は見られず，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行1間，梁行1間の側柱建物跡で，桁行方向N-73°-Wの東西棟である。規模は，桁行2.4m，

梁行1.6mで、面積は3.84㎡である。

柱穴 4か所。深さは、12~36cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

所見 第32号溝跡の北西に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。立地状況から、第43号井戸跡の上屋と推定される。東には、火葬土坑がまとまって検出されていることから、墓域に伴う井戸の上屋と考えられ、時期は15世紀後半と想定される。



第86図 第18号掘立柱建物跡実測図

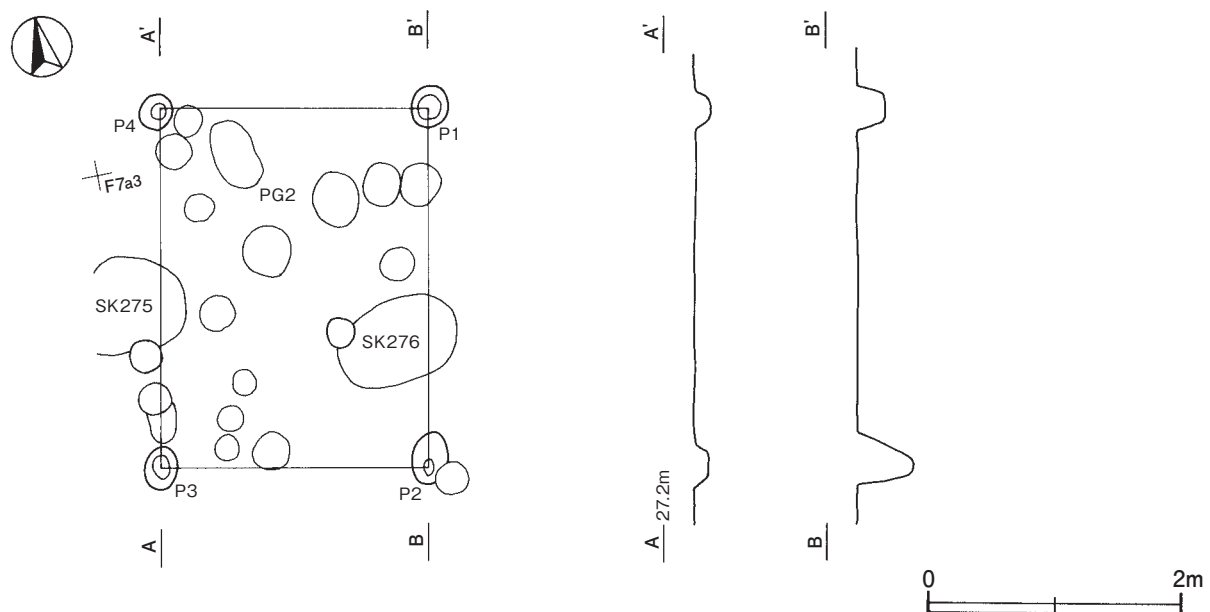
### 第19号掘立柱建物跡 (第87図)

位置 調査区中央部のF 7a3区、標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号ピット群に掘り込まれている。第275・276号土坑と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-10°-Eの南北棟である。規模は、桁行2.9m、梁行2.1mで、面積は6.09㎡である。

柱穴 4か所。深さは、14~45cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。



第87図 第19号掘立柱建物跡実測図

所見 第32号溝跡の北西に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から、倉庫または作業小屋と推測され、第17号掘立柱建物跡を建て替えたものと考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。

#### 第20号掘立柱建物跡（第88図）

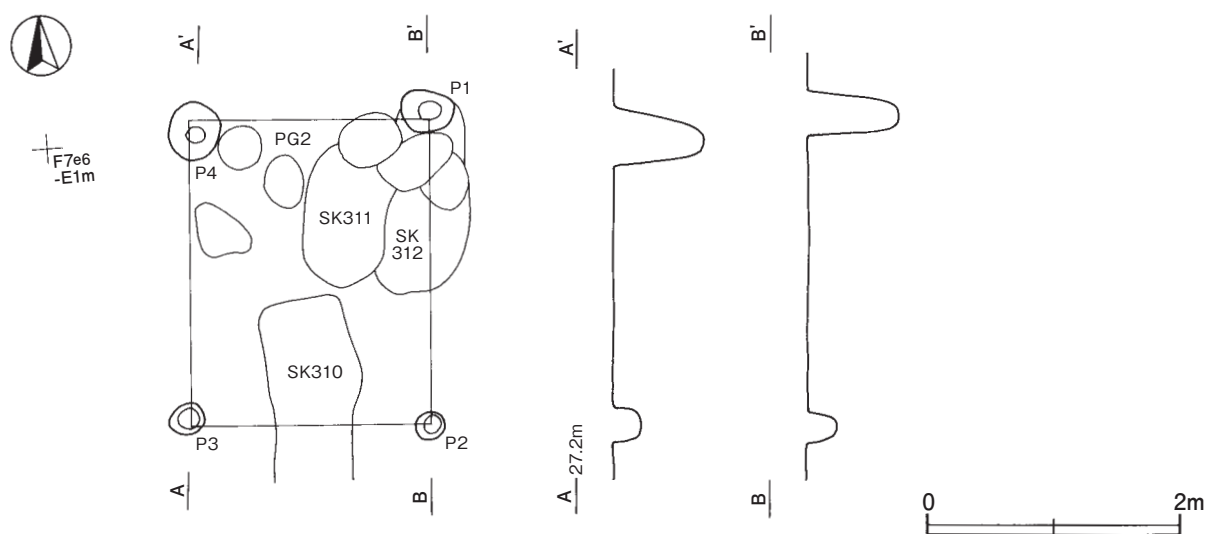
位置 調査区中央部のF 7 e6区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第312号土坑を掘り込んでいる。第310・311号土坑、第2号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-5°-Eの南北棟である。規模は、桁行2.4m、梁行1.8mで、面積は4.32㎡である。

柱穴 4か所。深さは、22~76cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

所見 第32号溝跡の北に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。第12号掘立柱建物跡に隣接していることから付随施設と考えられ、倉庫または作業小屋と推測される。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。



第88図 第20号掘立柱建物跡実測図

#### 第21号掘立柱建物跡（第89図）

位置 調査区南東部のG 9 f1区、標高26.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第135・148号土坑を掘り込み、第139号土坑に掘り込まれている。第1号墓坑、第132号土坑と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

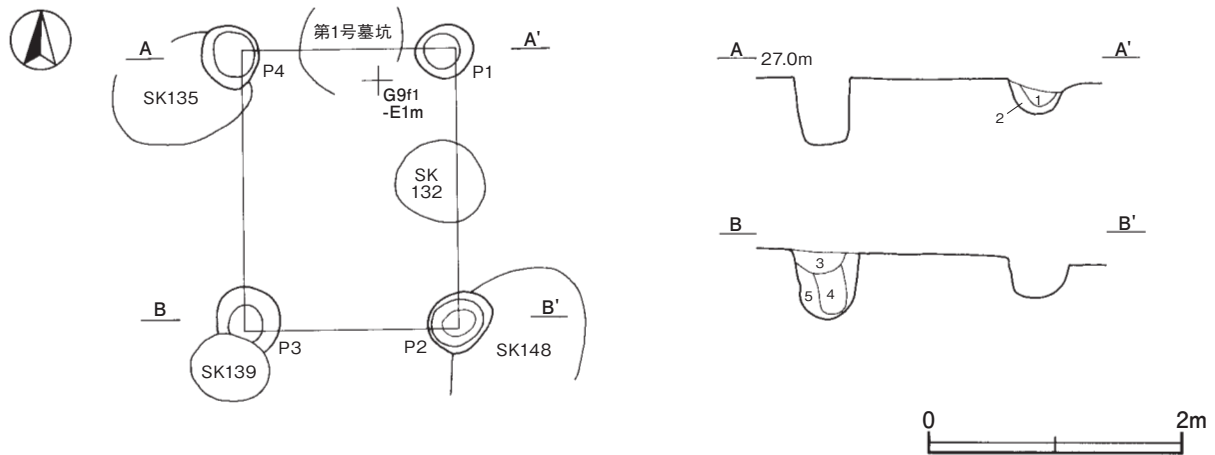
規模と構造 桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-5°-Wの南北棟である。規模は、桁行2.1m、梁行1.8mで、面積は3.78㎡である。

柱穴 4か所。深さは、32~56cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

土層解説 (P1・P3 共通)

- |       |                    |      |                |
|-------|--------------------|------|----------------|
| 1 黒褐色 | 黒色粒子少量, ローム粒子・小礫微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量        |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子・小礫微量    | 5 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量     |      |                |

所見 第18号溝跡の内側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。第25号掘立柱建物跡に隣接していることから、付随施設と考えられ倉庫または作業小屋と推測される。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と想定される。



第89図 第21号掘立柱建物跡実測図

第22号掘立柱建物跡 (第90図)

位置 調査区南東部のG 8 i7区, 標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第16号井戸跡と重複しており、同時期に機能していたものと考えられる。第413号土坑, 第3号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

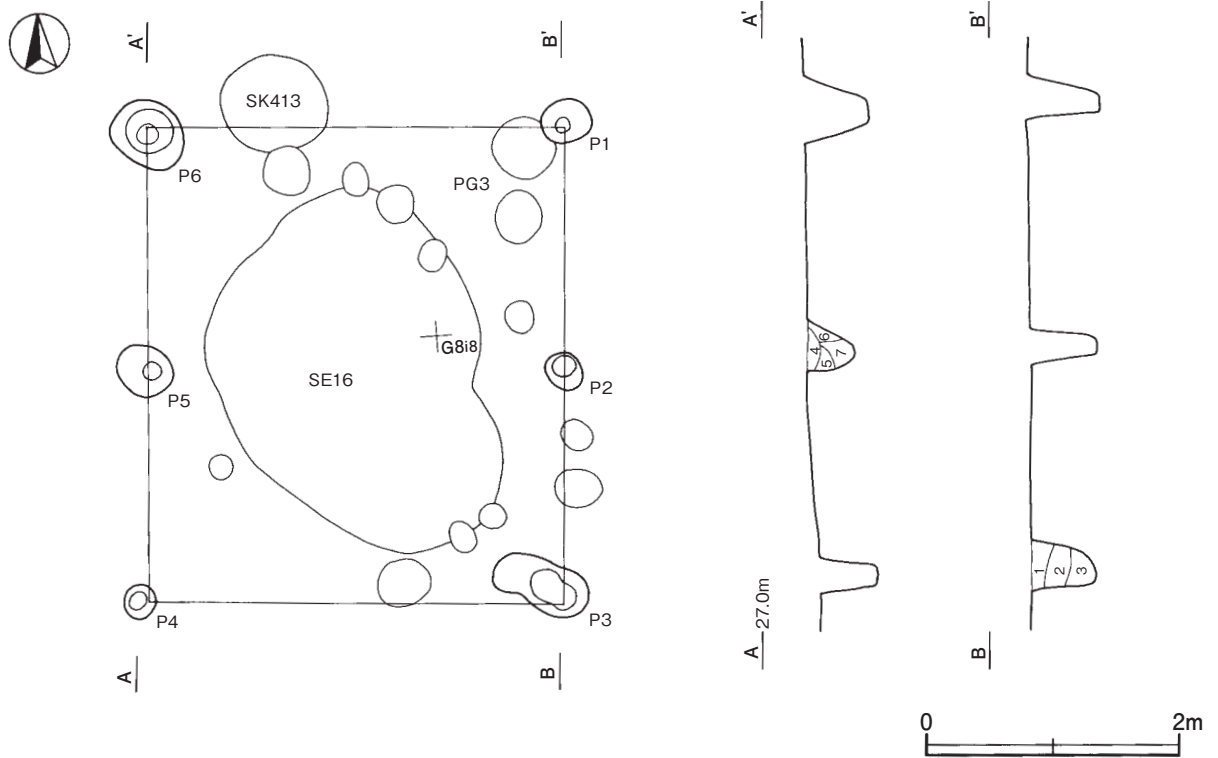
規模と構造 桁行2間, 梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-7°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.8m, 梁行3.3mで、面積は12.54㎡である。柱間寸法は、桁行が北から2.0m, 1.8mである。

柱穴 6か所。深さは、38~60cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

土層解説 (P3・P5 共通)

- |         |                 |       |           |
|---------|-----------------|-------|-----------|
| 1 褐色    | ロームブロック・炭化粒子微量  | 5 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 褐色    | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 6 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック中量       | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色   | ローム粒子・炭化粒子少量    |       |           |

所見 第18号溝跡の内側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。立地状況から第16号井戸跡の上屋と推定され、第33号掘立柱建物跡の付随施設と想定される。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。



第90図 第22号掘立柱建物跡実測図

第23号掘立柱建物跡（第91・92図）

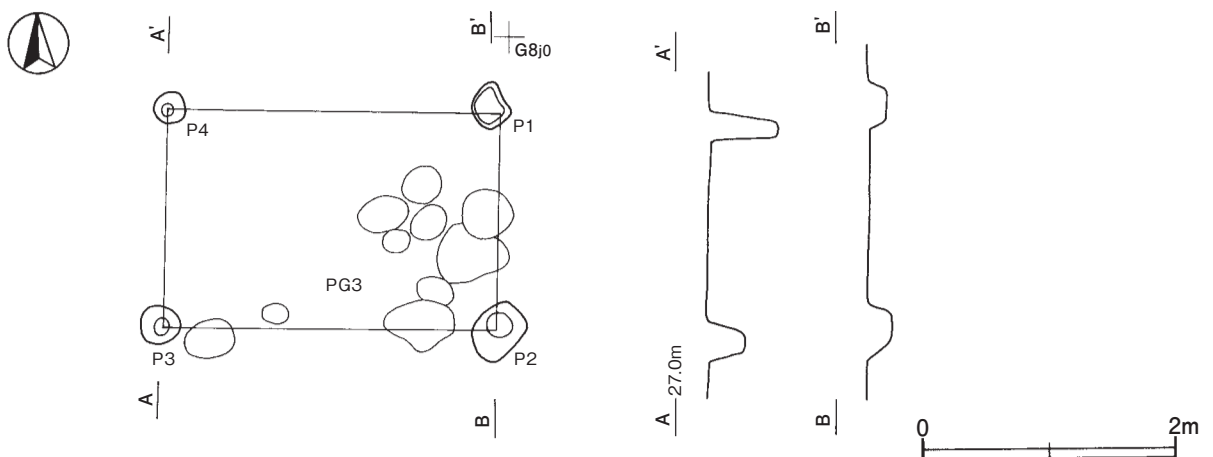
位置 調査区南東部のG 8 j9区、標高26.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-89°-Wの東西棟である。規模は、桁行2.6m、梁行1.8mで、面積は4.68㎡である。

柱穴 4か所。深さは、17~55cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

遺物出土状況 土師質土器1点（小皿）が出土している。11はP4の覆土中から出土している。



第91図 第23号掘立柱建物跡実測図

所見 第18号溝跡の内側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。第24号掘立柱建物跡に隣接していることから付随施設と考えられ、倉庫または作業小屋的な建物と推測される。時期は、重複関係や周囲の遺構から15世紀後半と想定される。



第92図 第23号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
11	土師質土器	小皿	[7.6]	(2.1)	—	長石・石英・雲母	明褐	普通	手捏ね 口辺部横ナデ 体部ヘラ削り	P4覆土中	40%

第24号掘立柱建物跡 (第93図)

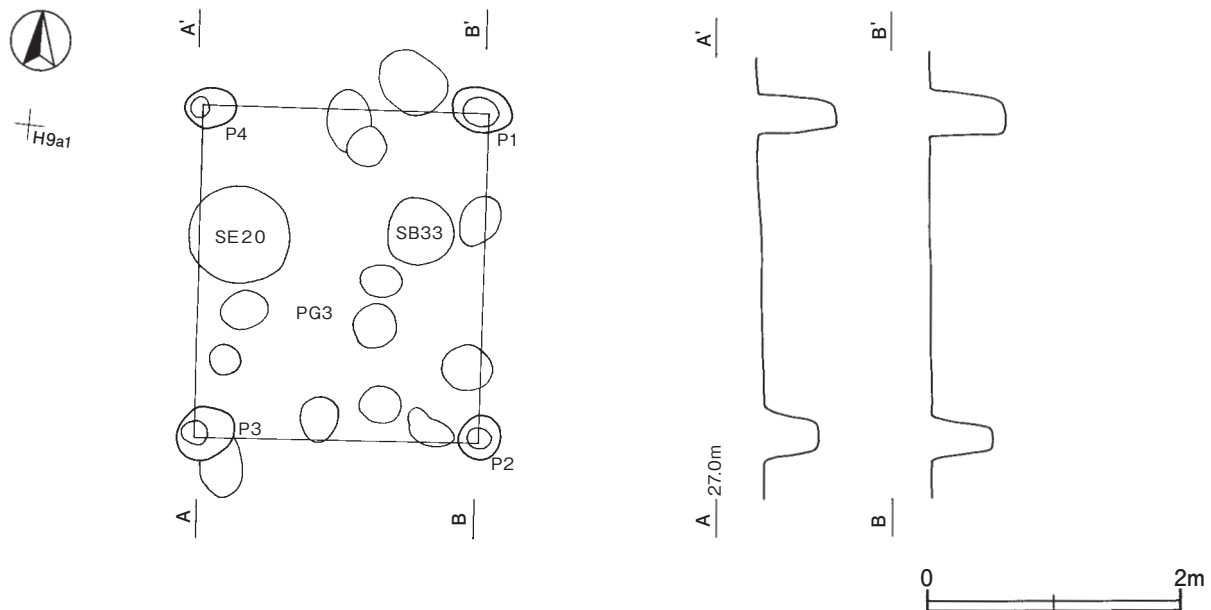
位置 調査区南東部のH9a1区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号ピット群を掘り込んでいる。第33号掘立柱建物跡、第20号井戸跡と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-5°-Wの南北棟である。規模は、桁行2.6m、梁行2.2mで、面積は5.72㎡である。

柱穴 4か所。深さは、42~62cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

所見 第18号溝跡の内側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から居宅と推測され、隣接している第23号掘立柱建物跡は付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から15世紀後半と想定される。

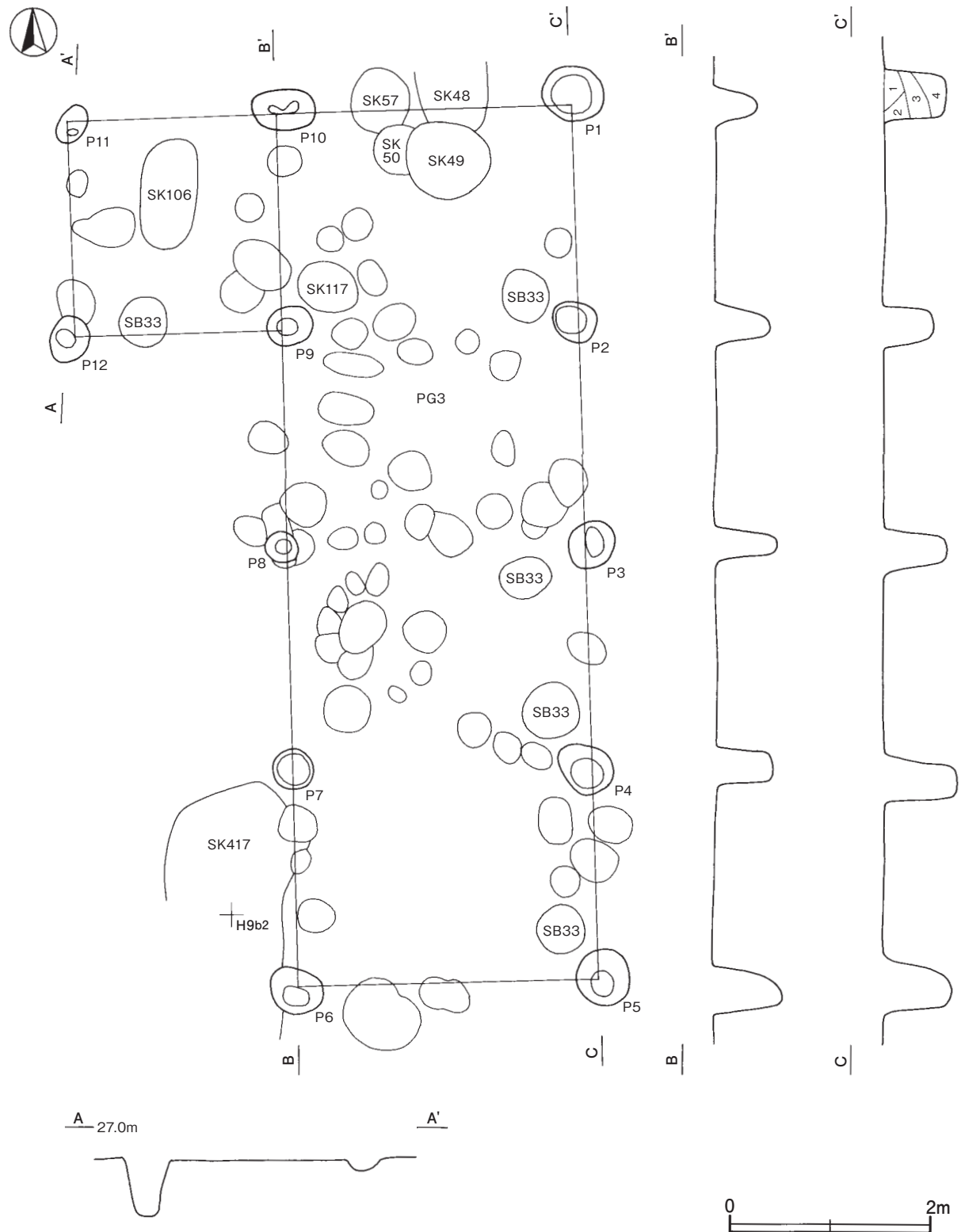


第93図 第24号掘立柱建物跡実測図

第25号掘立柱建物跡 (第94図)

位置 調査区南東部のH 9 a2区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第417号土坑, 第3号ピット群を掘り込んでいる。第33号掘立柱建物跡, 第48~50・57・106・117号土坑と重複しているが, 柱穴の重複は見られず, 新旧関係は不明である。



第94図 第25号掘立柱建物跡実測図



**規模と構造** 桁行4間，梁行1間で張出しをもつ側柱建物跡で，桁行方向N-9°-Wの南北棟である。規模は，桁行8.6m，梁行3.0mで，面積は25.80㎡である。張出し部は，桁行2.1m，梁行2.0mで，張出し部を含めた面積は30.00㎡である。柱間寸法は，桁行が北から2.1m，2.2m，2.3m，2.1mである。

**柱穴** 12か所。深さは，12~72cmである。掘り方の断面形はU字形で，底面は皿状である。

**土層解説 (P1)**

- |       |         |      |         |
|-------|---------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子微量 |

**所見** 第18号溝跡の内側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから，同時期に機能していたものとみられる。第21号掘立柱建物跡は，隣接していることから付随施設と考えられる。重複関係から，第33号掘立柱建物跡を建て替えたものと考えられ，身舎の規模と張出し部をもつ構造から，権力者の居宅と推測される。周囲には，柱穴が多数見られ，建物の規模が拡大することも想定されるが明確ではない。時期は，重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と想定される。

**第26号掘立柱建物跡 (第95・96図)**

**位置** 調査区南東部のH9a8区，標高26.6mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第8号溝に掘り込まれている。第53・61・62号土坑，第4号ピット群と重複しているが，柱穴の重複は見られず，新旧関係は不明である。

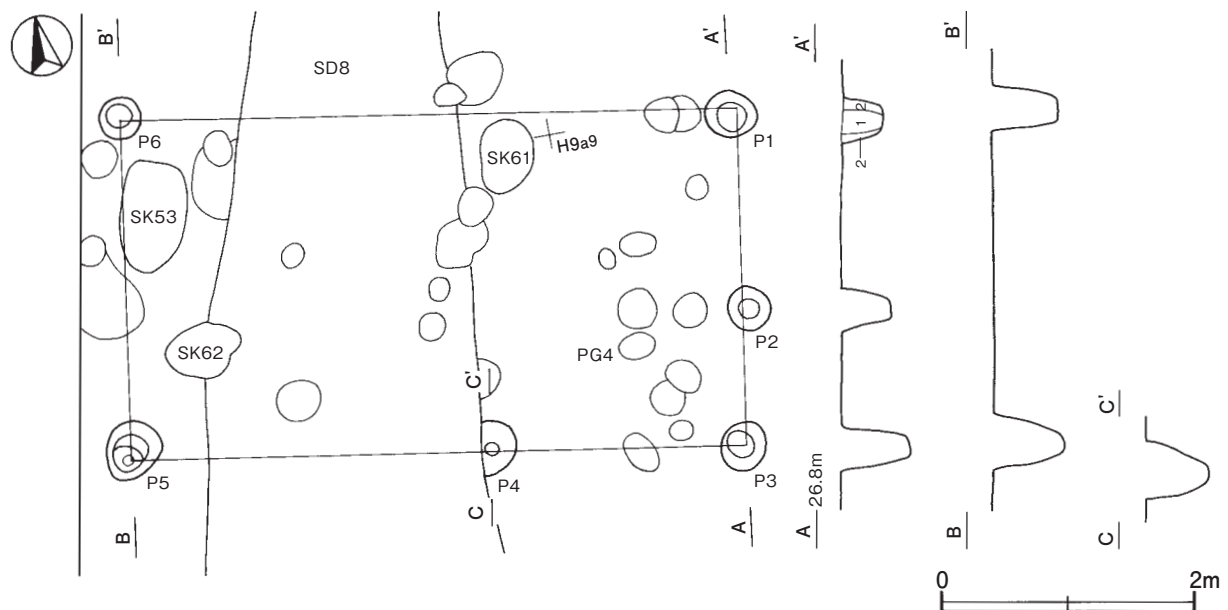
**規模と構造** 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N-79°-Wの東西棟である。規模は，桁行4.8m，梁行2.7mで，面積は12.96㎡である。柱間寸法は，南桁行が西から2.8m，2.0mで，東梁行が北から1.6m，1.1mである。

**柱穴** 6か所。深さは，32~58cmである。掘り方の断面形はU字形で，底面は皿状である。

**土層解説 (P1)**

- |       |         |      |                |
|-------|---------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 2 褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
|-------|---------|------|----------------|

**遺物出土状況** 土師質土器1点(鍋)が，出土している。12は，P5の覆土中から出土している。



第95図 第26号掘立柱建物跡実測図

所見 第8号溝跡の北西に位置している。第8号溝跡が柱穴を掘り込んでいることから、集落を溝で区画する以前の建物とみられ、居宅と推測される。第27・29号掘立柱建物跡は隣接していることから、付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から15世紀後半と想定される。



第96図 第26号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	土師質土器	鍋	[29.0]	(5.5)	—	長石・石英・金雲母中量	にぶい褐色	普通	口辺内部にヘラ記号「++」 体部外面煤付着	P5覆土中	15%

### 第27号掘立柱建物跡 (第97図)

位置 調査区南東部のH9b8区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号ピット群を掘り込み、第8号溝に掘り込まれている。第28号掘立柱建物跡、第63号土坑と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

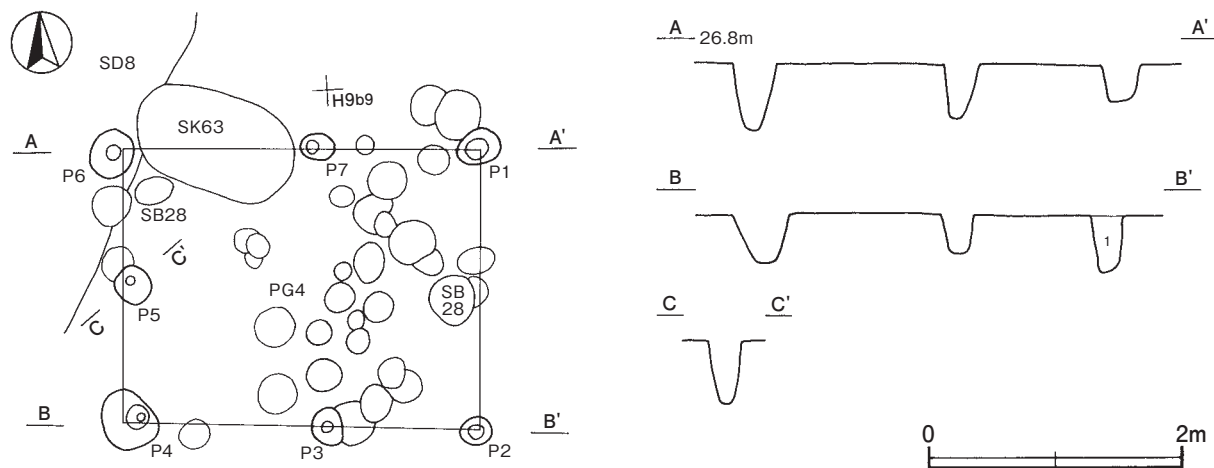
規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-88°-Wの東西棟である。規模は、桁行3.0m、梁行2.2mで、面積は6.60㎡である。柱間寸法は、桁行が西から1.7m、1.3mで、梁行は北から1.0m、1.2mである。

柱穴 7か所。深さは、30~53cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

#### 土層解説 (P2)

1 暗褐色 ローム粒子少量

所見 第8号溝跡の北西に位置している。溝とは軸をやや異にしていることから、集落を溝で区画する以前



第97図 第27号掘立柱建物跡実測図

の建物とみられる。規模や形状から倉庫と推測され、隣接している第26号掘立柱建物跡の付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から15世紀後半と想定される。

### 第28号掘立柱建物跡（第98図）

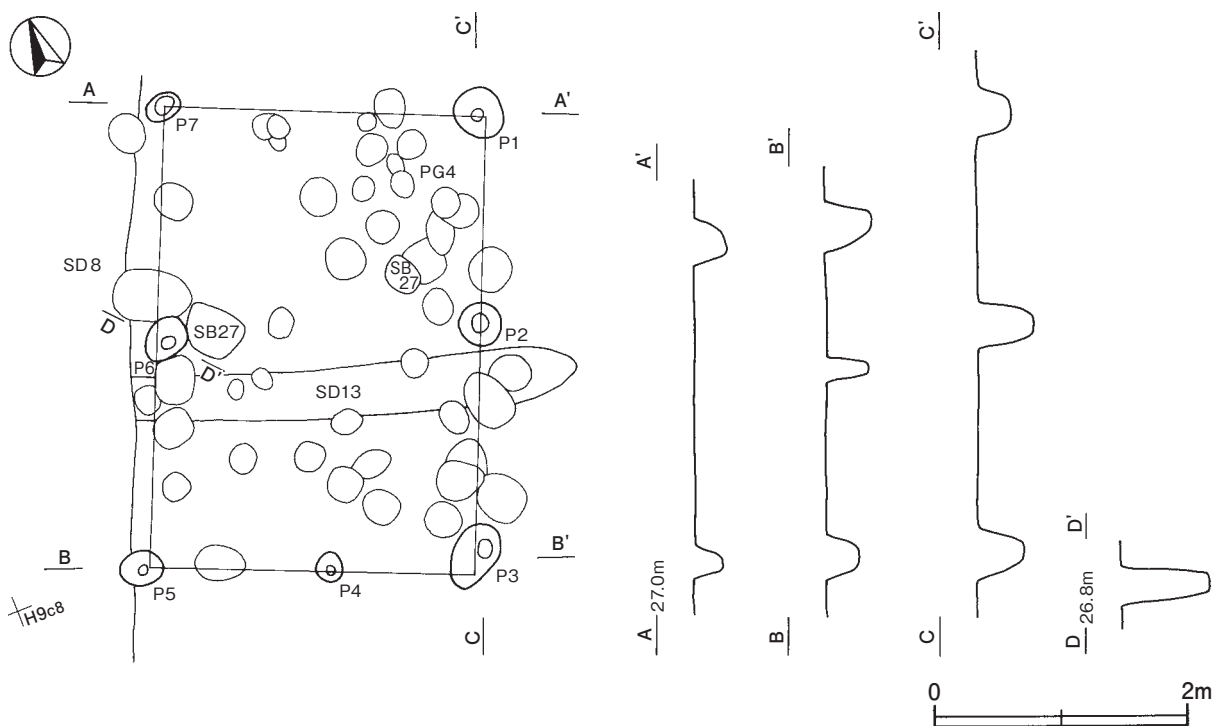
**位置** 調査区南東部のH9b8区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第8号溝跡を掘り込んでいる。第27号掘立柱建物跡、第13号溝跡、第4号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-23°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.6m、梁行2.7mで、面積は9.72㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8mで、南梁行が西から1.5m、1.2mである。

**柱穴** 7か所。深さは、24~72cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

**所見** 第8号溝跡の北西に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から倉庫と推測され、隣接している第8号掘立柱建物跡の付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。



第98図 第28号掘立柱建物跡実測図

### 第29号掘立柱建物跡（第99図）

**位置** 調査区南東部のH9c8区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第14号溝跡、第4号ピット群を掘り込み、第10号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

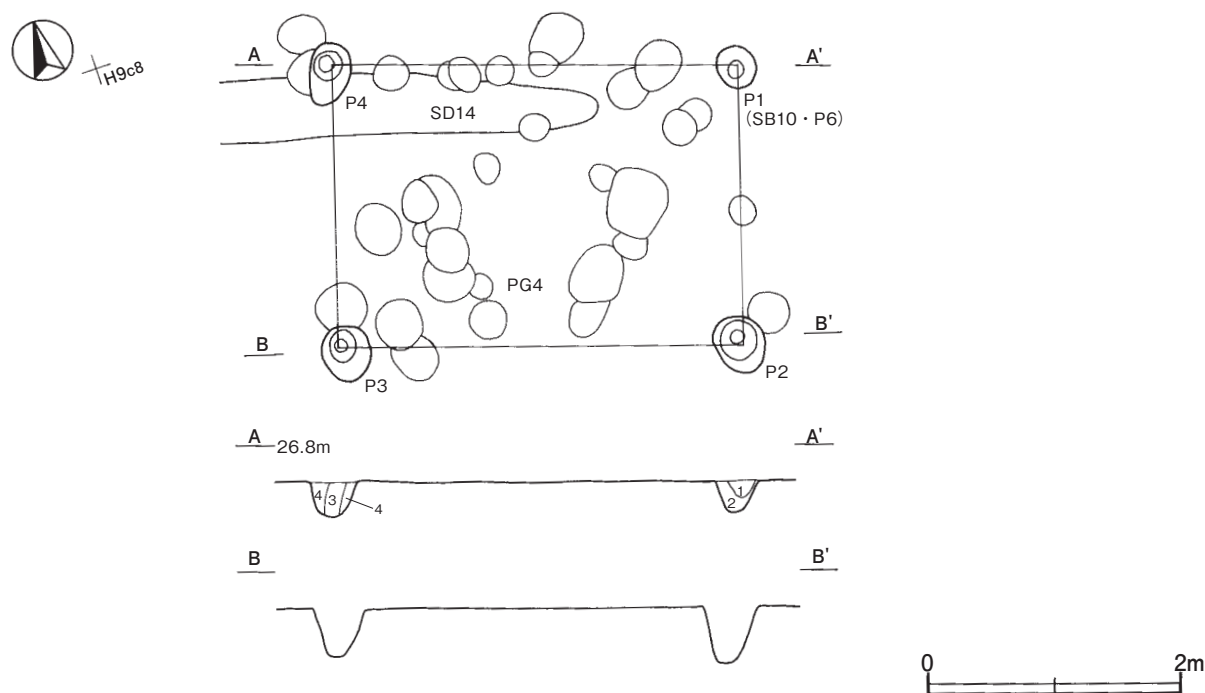
**規模と構造** 桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-72°-Wの東西棟である。規模は、桁行3.2m、梁行2.2mで、面積は7.04㎡である。

柱穴 4か所。深さは、28～48cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。P1と第10号掘立柱建物跡のP6は共有している。

土層解説 (P1・P4 共通)

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量  | 4 褐色 ローム粒子中量  |

所見 第8号溝跡の内側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から倉庫と推測され、隣接している第26号掘立柱建物跡の付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から15世紀後半と想定される。



第99図 第29号掘立柱建物跡実測図

第30号掘立柱建物跡 (第100図)

位置 調査区南東部のH10h5区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号掘立柱建物跡、第4号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

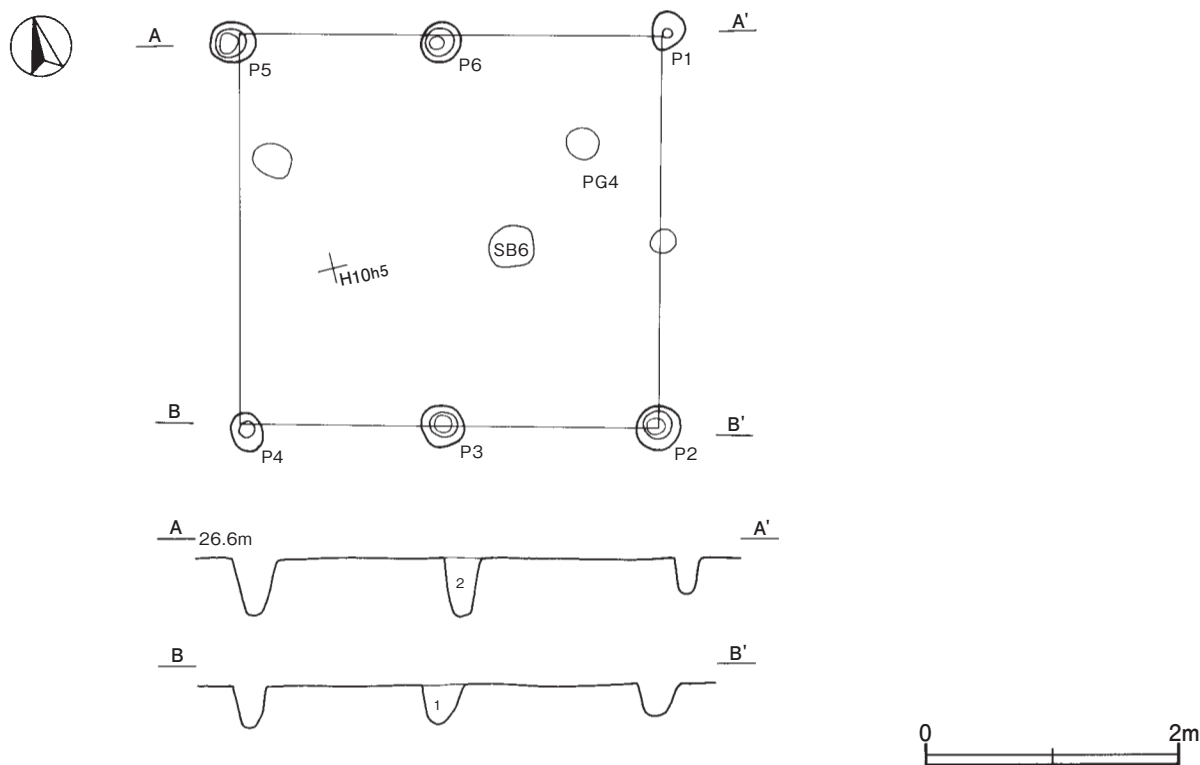
規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-76°-Wの東西棟である。規模は、桁行3.4m、梁行3.2mで、面積は10.88㎡である。柱間寸法は、桁行が1.7mである。

柱穴 6か所。深さは、24～46cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

土層解説 (P3・P6 共通)

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 2 黒褐色 ローム粒子微量 |
|---------------|---------------|

所見 第1号溝跡の東に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から居宅と推測され、隣接している第5号掘立柱建物跡は、付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から15世紀後半と想定される。



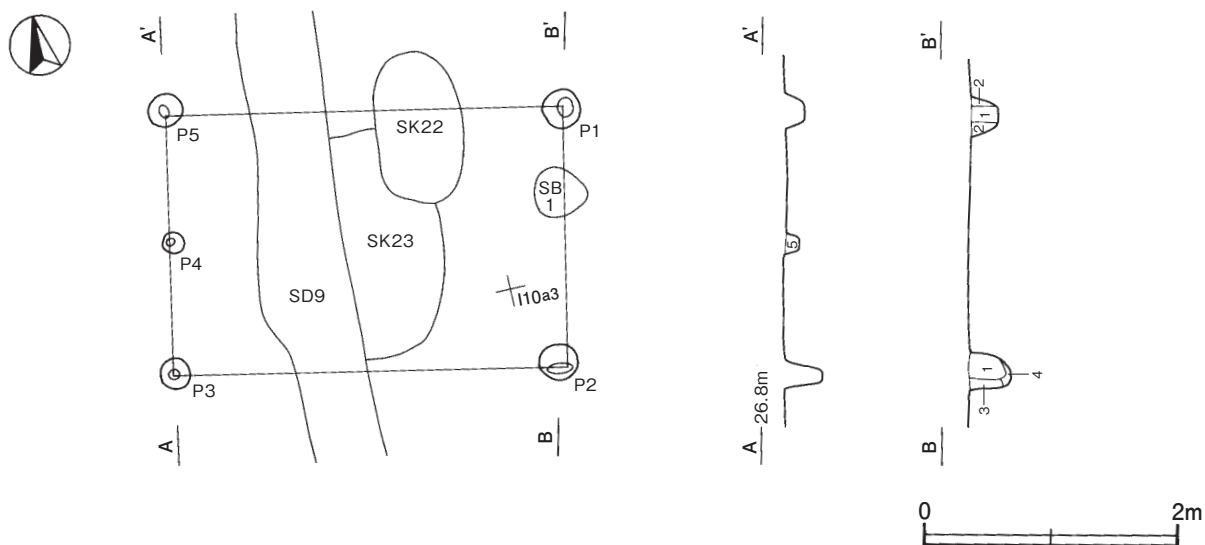
第100図 第30号掘立柱建物跡実測図

第31号掘立柱建物跡（第101図）

位置 調査区南東部のH10j2区，標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号掘立柱建物跡，第22・23号土坑，第9号溝跡と重複しているが，柱穴の重複は見られず，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行1間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N-79°-Wの東西棟である。規模は，桁行3.0m，



第101図 第31号掘立柱建物跡実測図

梁行2.0mで、面積は6.00㎡である。柱間寸法は、梁行が1.0mである。

柱穴 5か所。深さは、16～35cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

土層解説 (P1・P2・P4 共通)

1 暗褐色 ローム粒子中量	4 褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量	5 黒褐色 ローム粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量	

所見 第1号溝跡の南東に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から倉庫と推測され、隣接している第1号掘立柱建物跡の付随施設と考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から15世紀後半と想定される。

### 第32号掘立柱建物跡 (第102図)

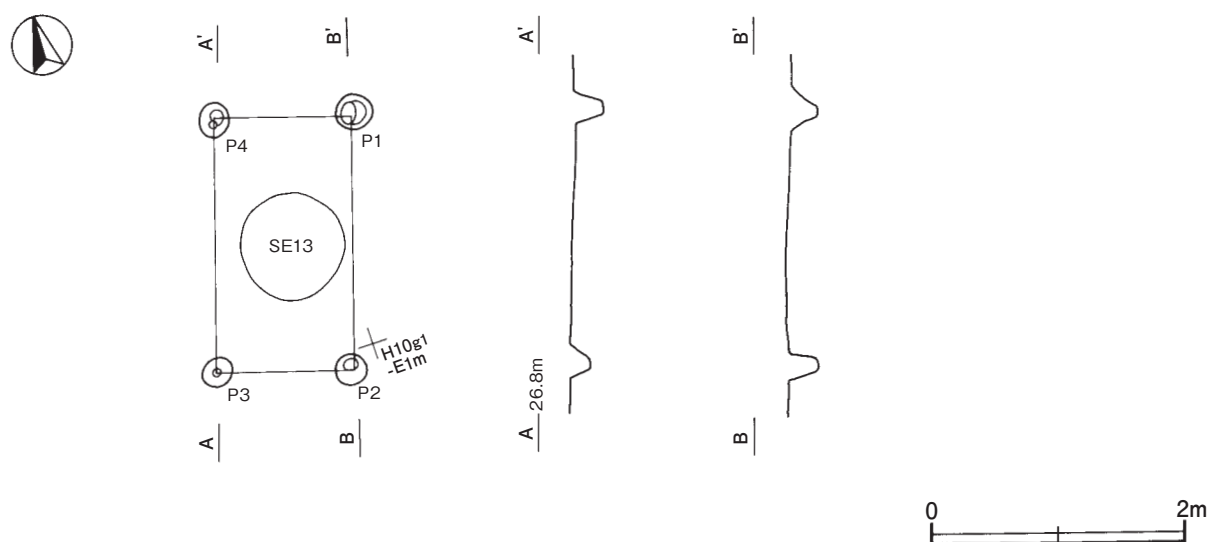
位置 調査区南東部のH10f1区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第13号井戸跡と重複しており、同時期に機能していたものと考えられる。

規模と構造 桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-16°-Eの南北棟である。規模は、桁行2.0m、梁行1.0mで、面積は2.00㎡である。

柱穴 4か所。深さは、18～25cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

所見 第7号溝跡と第8号溝跡との間に位置している。第8・28号掘立柱建物跡が第8号溝跡を隔てた北西に隣接していることから、同時期に機能していたものとみられる。立地状況から、第13号井戸跡の上屋と推定される。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。



第102図 第32号掘立柱建物跡実測図

### 第33号掘立柱建物跡 (第103図)

位置 調査区南東部のH9a2区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第417号土坑を掘り込んでいる。第24・25号掘立柱建物跡、第3号ピット群と重複しているが、柱穴の重複は見られず、新旧関係は不明である。

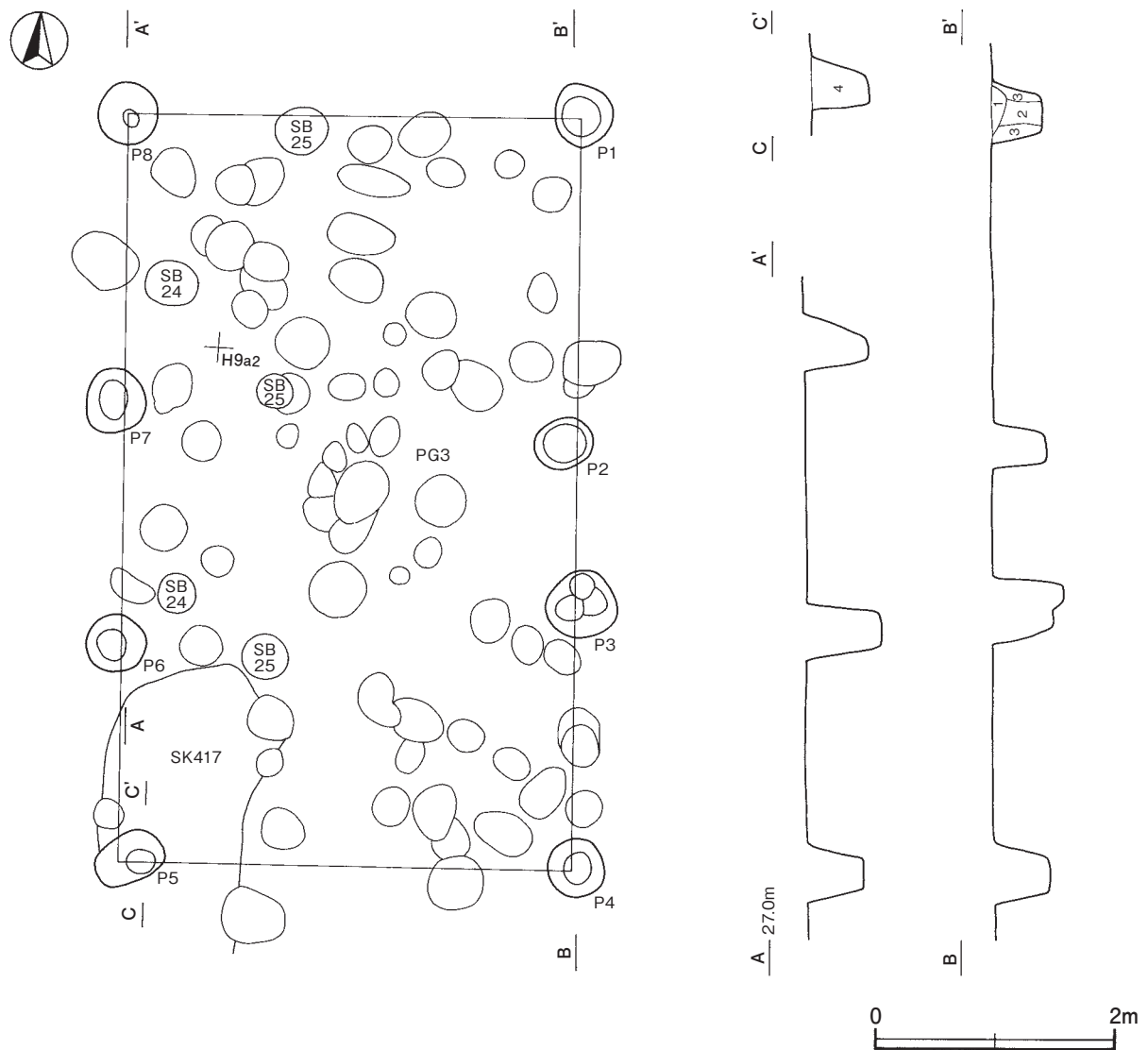
**規模と構造** 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-3°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.4m、梁行3.8mで、面積は24.32㎡である。柱間寸法は、西桁行が北から2.5m、2.0m、1.9mで、東桁行が北から2.8m、1.3m、2.3mである。

**柱穴** 8か所。深さは、42~64cmである。掘り方の断面形はU字形で、底面は皿状である。

**土層解説 (P1・P5 共通)**

- |       |                |       |         |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 褐色  | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量        | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

**所見** 第18号溝跡の内側に位置している。溝とほぼ軸を合わせていることから、同時期に機能していたものとみられる。規模や形状から居宅と推測される。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と想定される。



第103図 第33号掘立柱建物跡実測図



表24 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	桁立柱間 (m)	梁立柱間 (m)	柱穴(cm)				主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
1	H10j3	N-80°-W	2×2	3.4×3.0	10.20	1.7	1.5	側柱	8	円形・楕円形	30~48	—	本跡→SB3
2	H10j3	N-84°-W	3×2	3.9×2.8	10.92	1.3	1.4	側柱	10	円形・楕円形	30~45	土師質土器	本跡→SB3
3	H10j3	N-84°-W	3×2	4.2×3.0	12.60	1.4	1.5	側柱	10	円形・楕円形	23~62	—	SB1・2→本跡
4	H10g6	N-70°-W	2×2(1)	3.8×3.0	11.40	1.9	1.5・3.0	側柱	7	円形・楕円形	22~56	—	
5	H10g6	N-70°-W	2×1	3.2×3.0	9.60	1.6	3.0	側柱	6	円形・楕円形	14~34	—	
6	H10g4	N-18°-E	2×1	5.5×3.6	19.80	2.5・3.0	3.6	側柱	6	円形・楕円形	22~56	—	
7	H9b0	N-15°-E	2(1)×1	2.6×2.1	5.46	1.2~2.6	2.1	側柱	5	円形・楕円形	12~25	—	
8	H9c9	N-17°-E	2×1	3.9×2.7	10.53	1.6~2.3	2.7	側柱	6	円形・楕円形	13~42	—	
10	H9c0	N-74°-W	4×1	9.9×4.3	42.57	1.8~2.8	4.3	側柱	10	円形・楕円形	28~50	—	SB29→本跡
11	F7d9	N-2°-E	2×1	4.5×3.6	16.20	2.2・2.3	3.6	側柱	6	円形・楕円形	46~54	—	第2号墓坑・SK284→本跡
12	F7e8	N-86°-E	3×1	7.5×3.0	22.50	2.4~2.7	3.0	側柱	8	円形・楕円形	48~60	—	第2・3号墓坑・SK268・283・291・292→本跡
13	F7d4	N-87°-W	5×1	11.0×4.1	45.10	2.2	4.1	側柱	12	円形・楕円形	23~84	—	SK225・265・266→本跡
14	F6c8	N-80°-W	2×1	5.0×4.7	23.50	2.4・2.6	4.7	側柱	6	円形・楕円形	66~80	—	SD73, SK524, PG1→本跡
15	F6b8	N-12°-E	1×1	4.0×2.7	10.80	4.0	2.7	側柱	4	円形・楕円形	42~76	—	SK533, PG1→本跡
16	F6c9	N-7°-E	1×1	2.7×2.1	5.67	2.7	2.1	側柱	4	円形・楕円形	32~42	—	SD72・73, SK521・522→本跡
17	F7a2	N-77°-W	1×1	2.7×2.2	5.94	2.7	2.2	側柱	4	円形・楕円形	24~54	—	本跡→SD46, PG2
18	E7j3	N-73°-W	1×1	2.4×1.6	3.84	2.4	1.6	側柱	4	円形・楕円形	12~36	—	
19	F7a3	N-10°-E	1×1	2.9×2.1	6.09	2.9	2.1	側柱	4	円形・楕円形	14~45	—	本跡→PG2
20	F7e6	N-5°-E	1×1	2.4×1.8	4.32	2.4	1.8	側柱	4	円形・楕円形	22~76	—	SK312→本跡
21	G9f1	N-5°-W	1×1	2.1×1.8	3.78	2.1	1.8	側柱	4	円形・楕円形	32~56	—	SK135・148→本跡→SK139
22	G8i7	N-7°-E	2×1	3.8×3.3	12.54	1.8・2.0	3.3	側柱	6	円形・楕円形	38~60	—	
23	G8j9	N-89°-W	1×1	2.6×1.8	4.68	2.6	1.8	側柱	4	円形・楕円形	17~55	土師質土器	
24	H9a1	N-5°-W	1×1	2.6×2.2	5.72	2.6	2.2	側柱	4	円形・楕円形	42~62	—	PG3→本跡
25	H9a2	N-9°-W	4×1 (1)×(1)	8.6×3.0 (2.1)×(2.0)	25.80 (30.00)	2.1~2.3	3.0	側柱	12	円形・楕円形	12~72	—	SK417, PG3→本跡
26	H9a8	N-79°-W	2(1)×2(1)	4.8×2.7	12.96	2.0~4.8	1.1~2.7	側柱	6	円形・楕円形	32~58	土師質土器	本跡→SD8
27	H9b8	N-88°-W	2×2	3.0×2.2	6.60	1.3・1.7	1.0・1.2	側柱	7	円形・楕円形	30~53	—	PG4→本跡→SD8
28	H9b8	N-23°-E	2×2	3.6×2.7	9.72	1.8	1.5・1.2	側柱	7	円形・楕円形	24~72	—	SD8→本跡
29	H9c8	N-72°-W	1×1	3.2×2.2	7.04	3.2	2.2	側柱	4	円形・楕円形	28~48	—	SD14, PG4→本跡→SB10
30	H10h5	N-76°-W	2×1	3.4×3.2	10.88	1.7	3.2	側柱	6	円形・楕円形	24~46	—	
31	H10j2	N-79°-W	1×2(1)	3.0×2.0	6.00	3.0	1.0・2.0	側柱	5	円形・楕円形	16~35	—	
32	H10f1	N-16°-E	1×1	2.0×1.0	2.00	2.0	1.0	側柱	4	円形・楕円形	18~25	—	
33	H9a2	N-3°-W	3×1	6.4×3.8	24.32	1.3~2.8	3.8	側柱	8	円形・楕円形	42~64	—	SK417→本跡

## (2) 方形竪穴遺構

## 第1号方形竪穴遺構(第104・105図)

位置 調査区南東部のH8a0区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第66号土坑を掘り込み、第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.00m、短軸2.14mの隅丸長方形で、長軸方向はN-77°-Wである。壁高は24cmで、北壁・

西壁は直立し、南壁・東壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。西部を除いて全面的にやや硬化している。

ピット 17か所。深さは8～62cmで、性格は不明である。

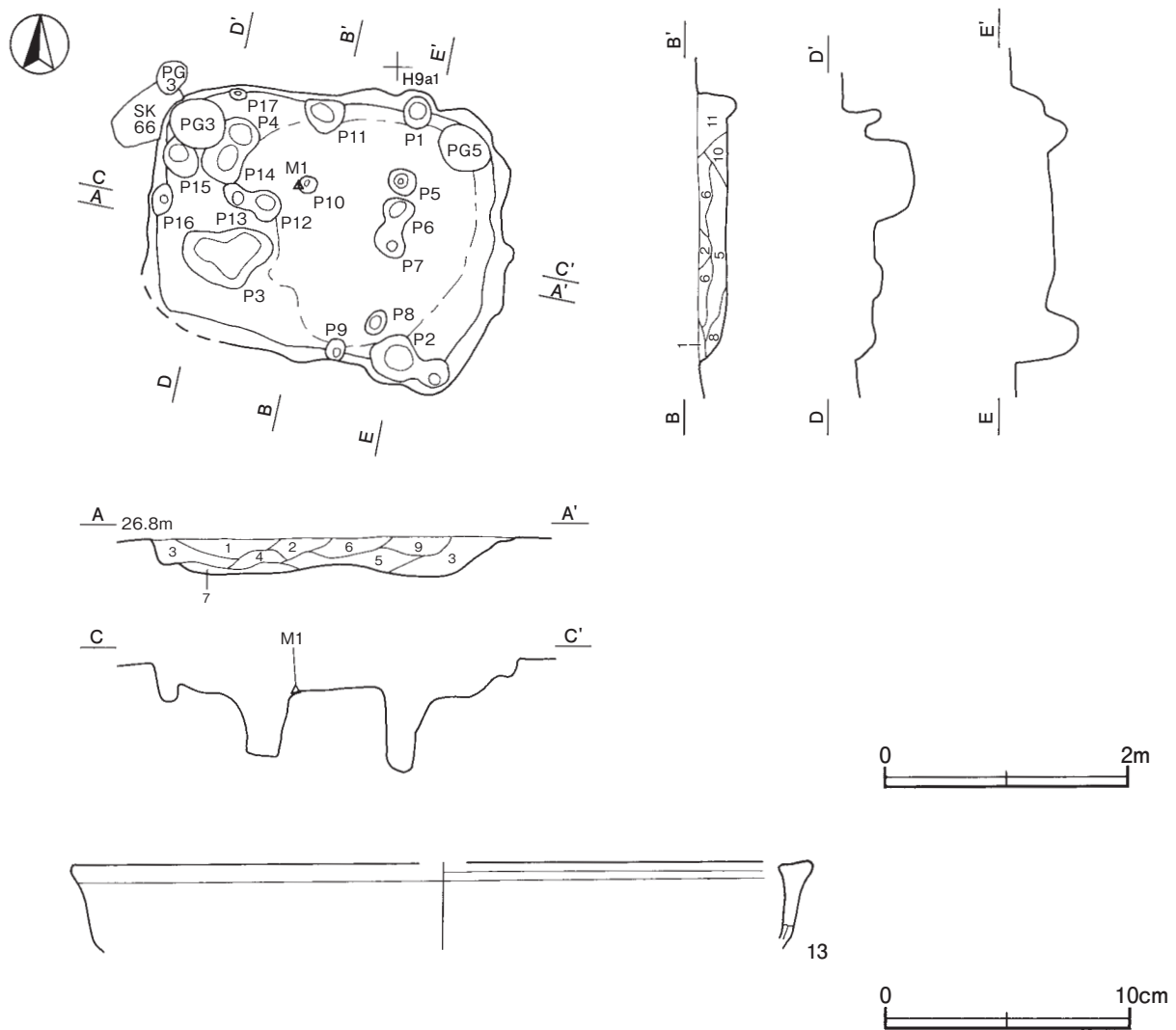
覆土 11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

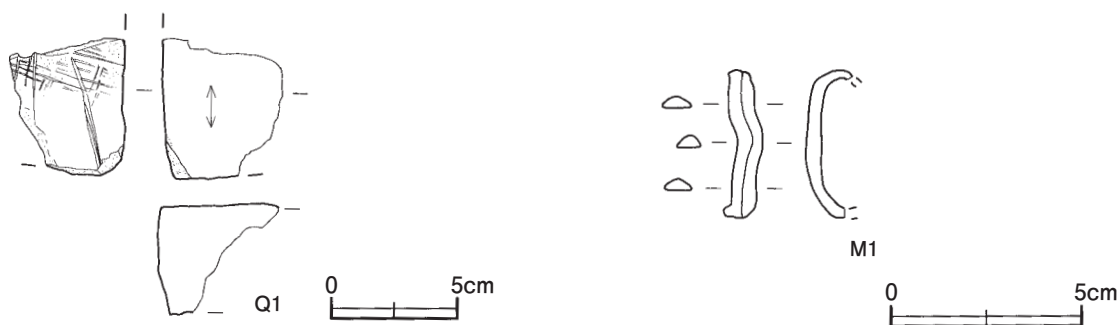
1 暗 褐 色	ローム粒子少量	7 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 褐 色	ローム粒子少量, 黑色粒子微量	8 褐 色	ローム粒子多量
3 暗 褐 色	ロームブロック微量	9 褐 色	ローム粒子・赤色粒子少量
4 にぶい黄褐色	ロームブロック微量	10 暗 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
5 褐 色	ローム粒子少量	11 黒 褐 色	ローム粒子少量
6 暗 褐 色	ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片6点(鍋類5, 内耳鍋), 石器1点(砥石), 銅製品1点(鞘金具)のほか, 流れ込んだ土師器片3点(坏類)が出土している。M1は中央部の床面, 13・Q1は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土遺物から15世紀中葉から16世紀代と考えられる。性格は, 作業場と推測されるが, 明確ではない。



第104図 第1号方形竪穴遺構・出土遺物実測図



第105図 第1号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第1号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第104・105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
13	土師質土器	鍋	[30.4]	(3.5)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土中	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質 材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	(5.1)	(4.5)	4.2	(88.5)	凝灰岩	端部欠損 砥面2面	覆土中	
M1	鞘金具	(3.9)	0.6	0.3	(3.8)	銅	下部欠損 M字状 中央に稜	床面上	PL30

第2号方形竪穴遺構（第106図）

位置 調査区南東部のH 8 a0区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第67・86・87号土坑、第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.58m、短軸1.46mの隅丸方形で、長軸方向はN-72°-Wである。壁は、削平により確認されていない。

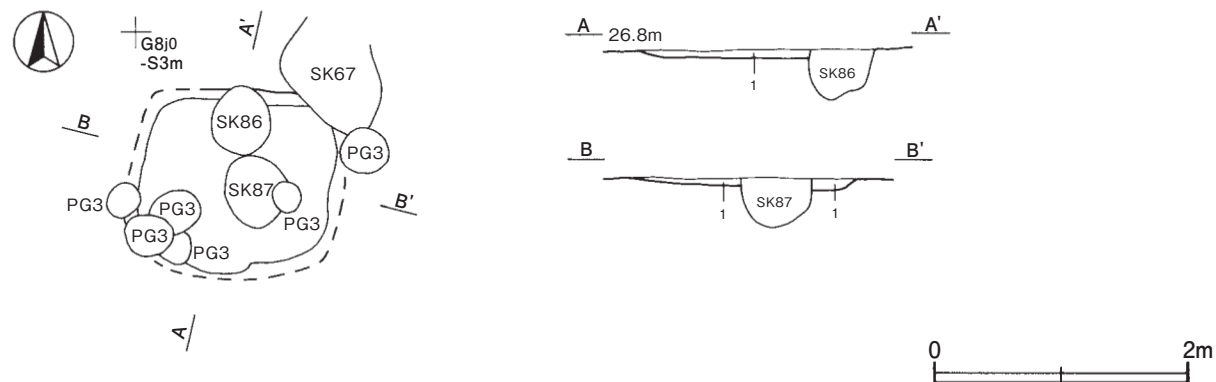
底面 平坦である。硬化面は認められない。

覆土 単一層である。堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

所見 時期は、周囲の遺構や重複関係から、15世紀中葉から16世紀代と考えられる。性格は不明である。



第106図 第2号方形竪穴遺構実測図

第3号方形竪穴遺構（第107図）

位置 調査区南東部のG 8 e4区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第381・403号土坑を掘り込み、第419号土坑、第18号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.18m、短軸は3.63mだけが確認されている。形状は、隅丸長方形と想定され、長軸方向はN-90°である。壁高は6~21cmで、北壁は直立し、東・西壁はなだらかに立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。中央部と西部に浅い溝が掘られているが、性格は不明である。

ピット 5か所。本跡に付随するものと考えられるが、性格は不明である。

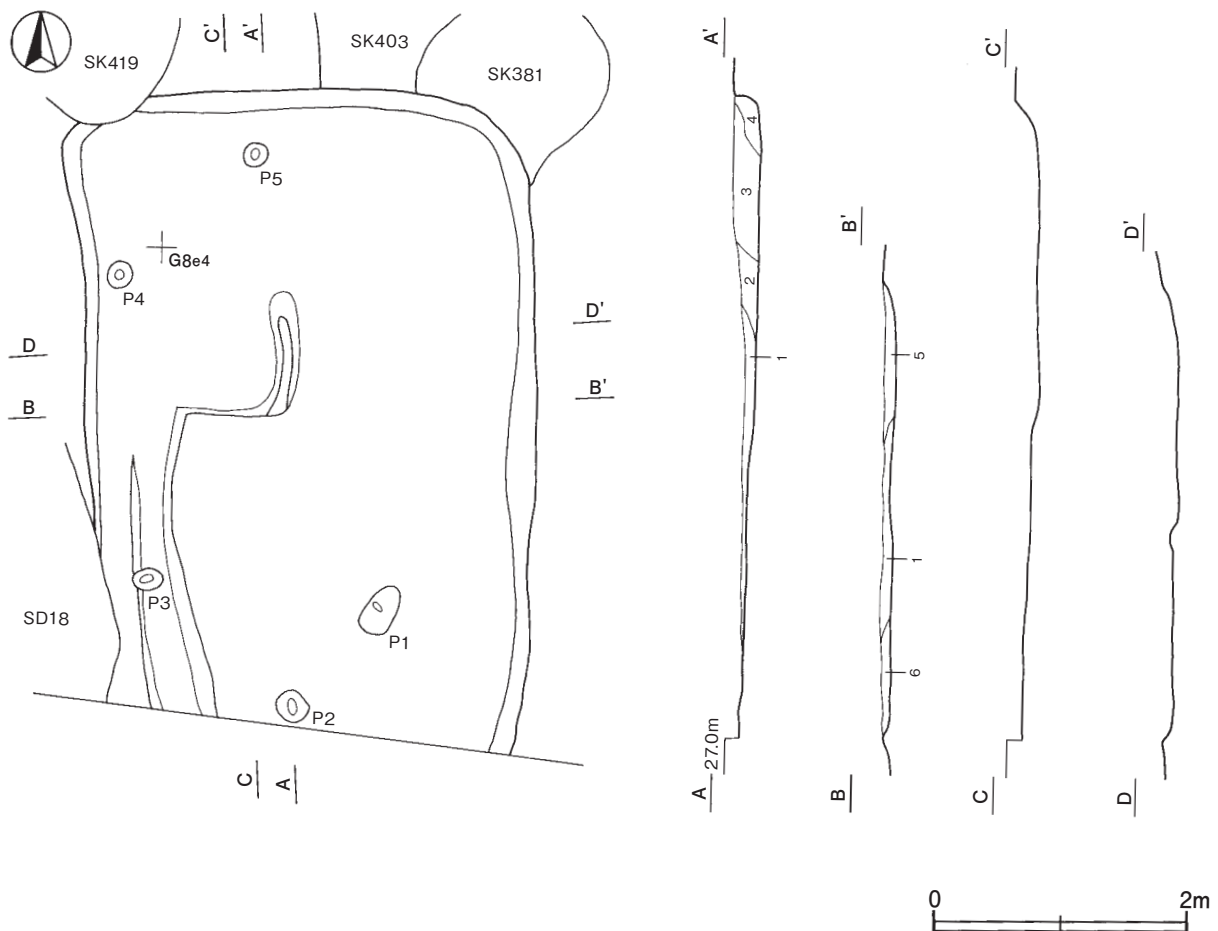
覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |   |     |         |   |     |                |
|---|-----|---------|---|-----|----------------|
| 1 | 褐色  | ローム粒子少量 | 4 | 褐色  | ローム粒子中量        |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量 | 5 | 黒褐色 | ローム粒子微量        |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 | 褐色  | ローム粒子少量、黒色粒子微量 |

遺物出土状況 石器1点（砥石）、炭化材のほか、流れ込んだ土師器片1点（甕）が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 時期は、周囲の遺構と重複関係から、15世紀中葉から16世紀代と考えられる。性格は不明である。



第107図 第3号方形竪穴遺構実測図

第4号方形竪穴遺構（第108図）

位置 調査区中央部のE6j8区、標高27.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.06m、短軸は2.89mの隅丸方形で、長軸方向はN-77°-Wである。壁高は14~29cmで、外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。南東・南西部の壁際を除き、硬化面が認められる。

ピット 5か所。深さは14~29cmで、P1・P2・P4は規模と配置から柱穴と考えられる。P3・P5は深さ18cmで補助柱穴類と考えられるが、性格は不明である。

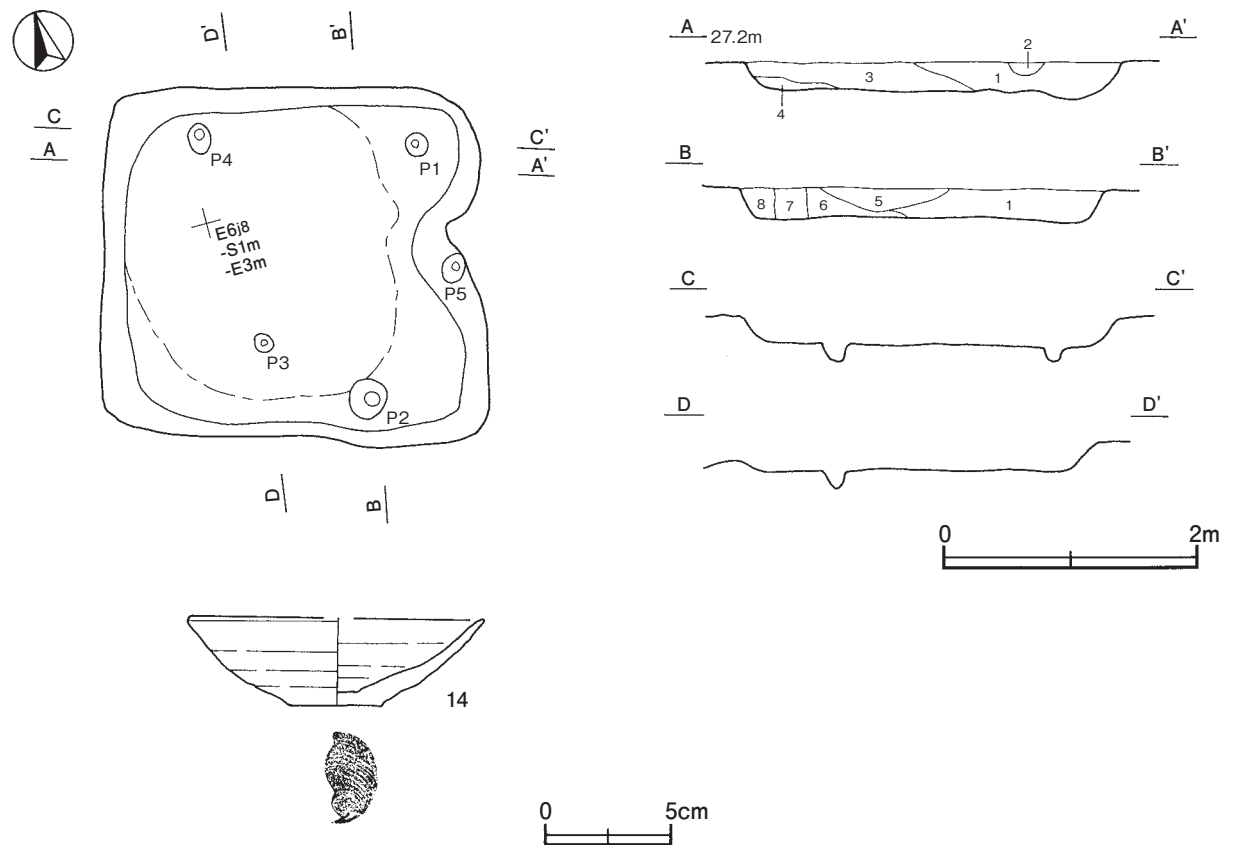
覆土 8層に分層される。不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |       |                     |       |                     |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・黒色粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量             | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、小礫・細砂微量     |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量      | 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・小礫微量     |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量      | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、黒色粒子微量      |

遺物出土状況 土師質土器1点（小皿）が出土している。14は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や周囲の遺構から15世紀後葉から16世紀代と考えられる。性格は、簡易な上屋構造をもつ作業場と推測される。



第108図 第4号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第4号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師質土器	小皿	[11.6]	3.5	3.5	長石	にぶい黄褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中	20%

表25 方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	壁面	底面	内部施設			覆土	主な出土遺物	備考
								柱穴	ピット	出入口部			
1	H 8 a0	N-77°-W	隅丸方形	3.00×2.14	24	緩斜	ほぼ平坦	—	17	—	人為	土師器, 土師質土器, 石器, 銅製品	SK66→本跡→PG3
2	H 8 a0	N-72°-W	隅丸方形	1.58×1.46	—	—	平坦	—	—	—	不明	—	本跡→SK67・86・87, PG3
3	G 8 e4	N-90°	[隅丸長方形]	(5.18)×3.63	6~21	緩斜	ほぼ平坦	—	5	—	人為	土師器, 石器	SK381・403→本跡→SK419, SD18
4	E 6 j8	N-77°-W	隅丸方形	3.06×2.89	14~29	外傾	平坦	3	2	—	人為	土師質土器	

(3) 井戸跡

当時代の井戸跡は43基確認されている。遺構検出面から1mほどで湧水することから、底面まで確認できた遺構は少ない。井戸の形状は漏斗状と円筒状の2形態に大別できる。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

第1号井戸跡 (第109図)

位置 調査区南東部のH10g5区, 標高26.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.14mほどの円形で、検出面から円筒状に1.22m掘り下げられている。

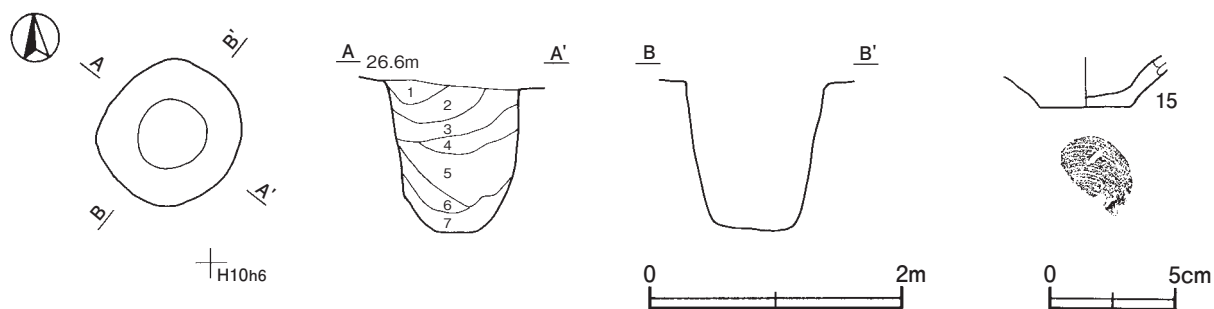
覆土 7層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | 5 黒 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子中量 | 6 黒 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 7 黒 色   | ローム粒子少量 |
| 4 黒 褐 色 | 赤色粒子微量  |         |         |

遺物出土状況 土師質土器12点 (小皿2, 鍋10), 鉄製品1点 (不明) が出土している。15は覆土中層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構や出土土器から16世紀代と考えられる。



第109図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表 (第109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
15	土師質土器	小皿	—	(2.0)	[3.6]	長石・石英	黒褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中	20%

第2号井戸跡 (第110図)

位置 調査区南東部のI10b5区, 標高26.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.14m, 短径0.92mの楕円形で, 検出面から円筒状に1.05m掘り下げられている。

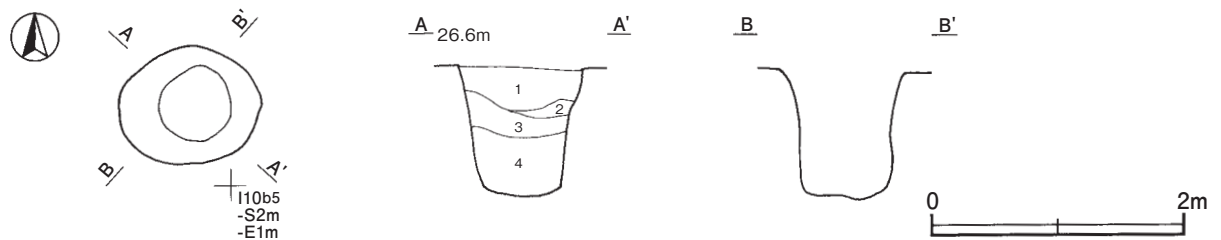
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |        |         |       |              |
|--------|---------|-------|--------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量      |
| 2 黒褐色  | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片7点(鍋類)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 素掘りの構造である。時期は, 周囲の遺構や出土土器から15世紀後半と考えられる。



第110図 第2号井戸跡実測図

第3号井戸跡 (第111図)

位置 調査区南東部のI10b6区, 標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号溝跡と連結している。同時期に機能していたものと考えられる。

規模と形状 長径1.52m, 短径1.33mの楕円形で, 検出面から円筒状に1.23m掘り下げられている。

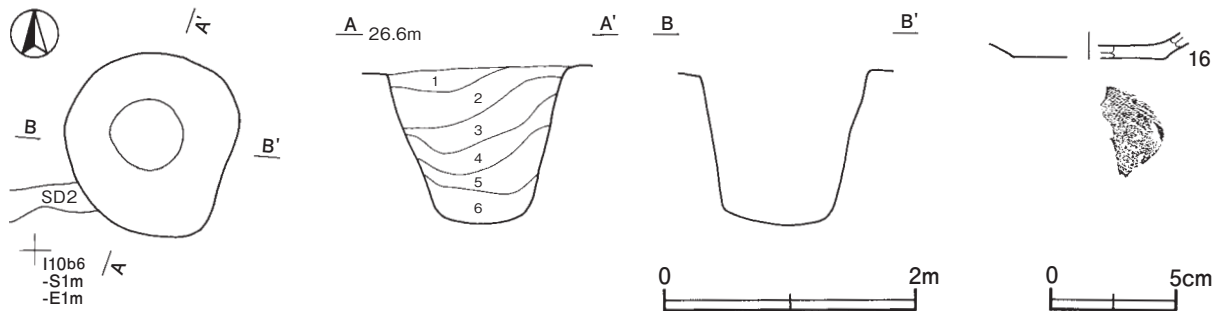
覆土 6層に分層される。一方向からの投棄を示した堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |        |           |       |                 |
|--------|-----------|-------|-----------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量   | 4 黒色  | 赤色粒子少量          |
| 2 暗褐色  | ロームブロック中量 | 5 黒色  | 赤色粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色  | ローム粒子少量   | 6 黒褐色 | 細砂少量, ローム粒子微量   |

遺物出土状況 土師質土器21点(小皿, 鍋20)が出土している。16は覆土中層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は, 出土土器から15世紀後半に機能していたと考えられる。



第111図 第3号井戸跡・出土遺物実測図



第3号井戸跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	土師質土器	小皿	—	(1.0)	[6.0]	長石・石英	にぶい黄褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中層	15%

第4号井戸跡（第112図）

位置 調査区南東部のH10g7区、標高26.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.02m、短径0.78mの楕円形で、検出面から円筒状に1.53m掘り下げられている。

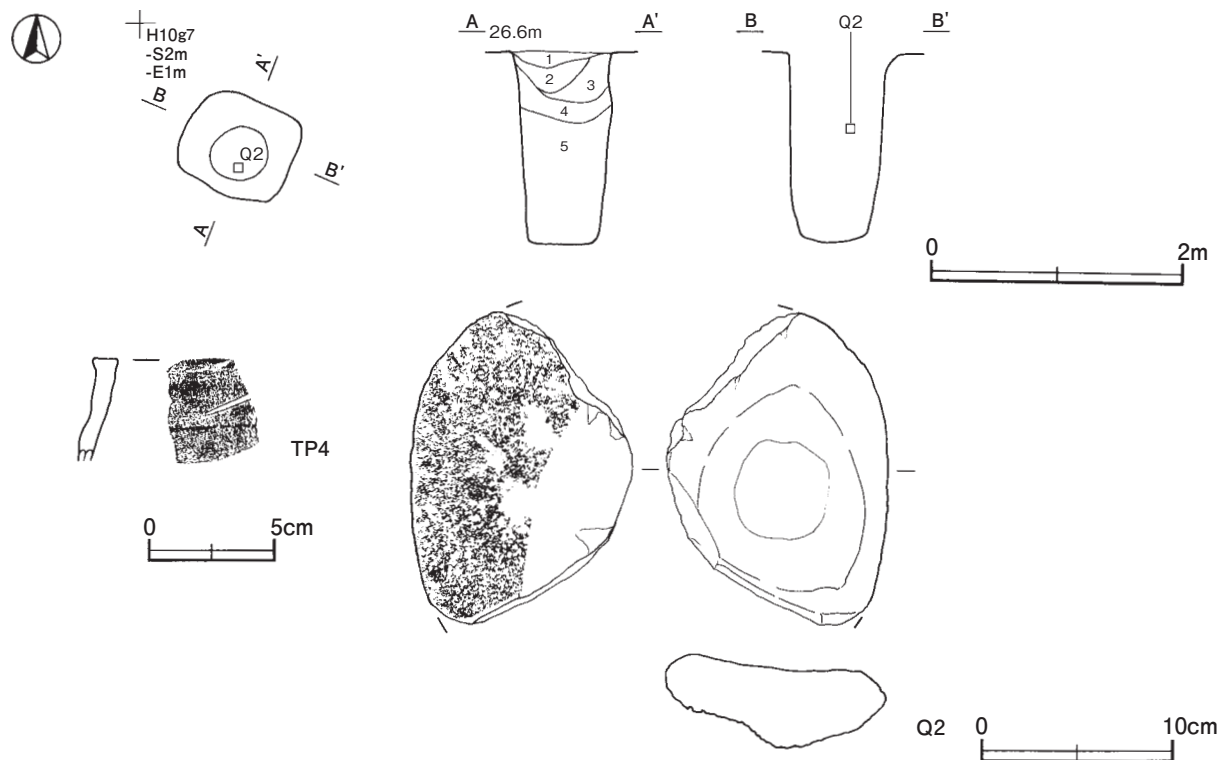
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |         |       |                 |
|-------|---------|-------|-----------------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量         |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | 赤褐色砂粒中量、ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |       |                 |

遺物出土状況 土師質土器片10点（鍋）や混入と思われる石器1点（石皿）が出土している。TP4・Q2は覆土中層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構や出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第112図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

第4号井戸跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP4	土師質土器	鍋	—	(4.0)	—	長石・石英・金雲母少量	黒褐	普通	口辺内部にヘラ記号「/」カ	覆土中層	5%

番号	器種	口径	底径	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q2	石皿	—	—	(6.5)	(910.0)	安山岩	凹石転用	覆土中層	PL28

### 第5号井戸跡（第113図）

**位置** 調査区南東部のH10i5区、標高26.4mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.46m、短径1.05mの楕円形で、検出面から漏斗状に1.35m掘り下げられている。

**覆土** 4層に分層される。南北方向から交互に投棄をしたような堆積状況から人為堆積である。

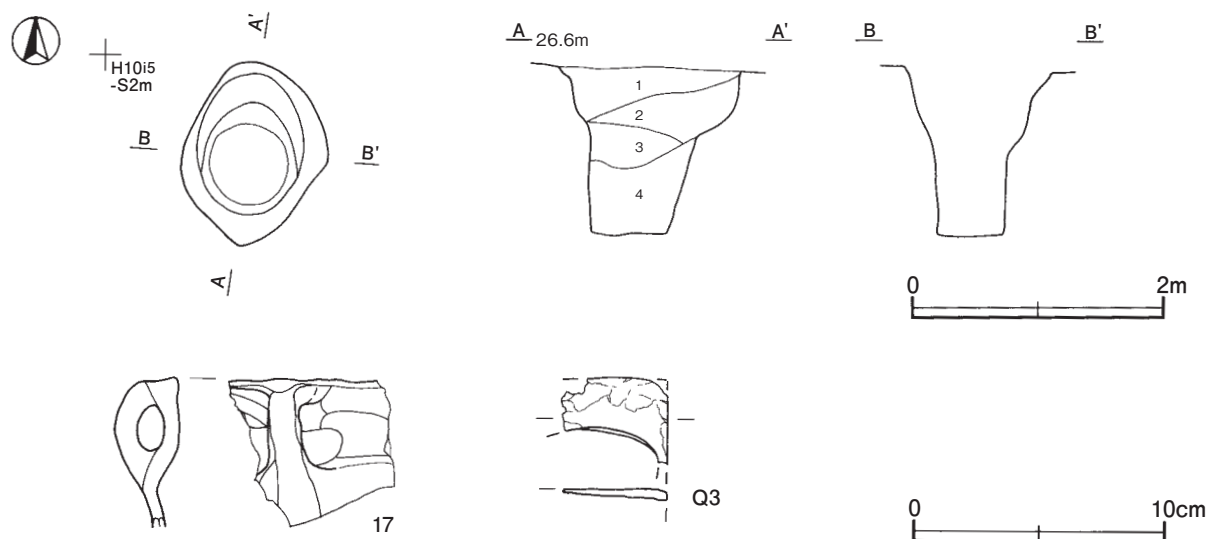
#### 土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量   |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ロームブロック中量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片3点（鍋）、石製品1点（硯）が出土している。17・Q3は覆土中層から出土している。

また、混入した須恵器片1点（坏）も出土している。

**所見** 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構や出土土器から16世紀前半と考えられる。



第113図 第5号井戸跡・出土遺物実測図

### 第5号井戸跡出土遺物観察表（第113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	土師質土器	内耳鍋	—	(6.0)	—	長石・石英・金雲母少量	赤褐	普通	内耳貼り付け	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q3	硯	(3.5)	(4.2)	(0.6)	(6.6)	粘板岩	一部残存	覆土中層	

### 第6号井戸跡（第114図）

**位置** 調査区南東部のH10f4区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 径0.83mの円形で、検出面から円筒状に1.02m掘り下げられている。

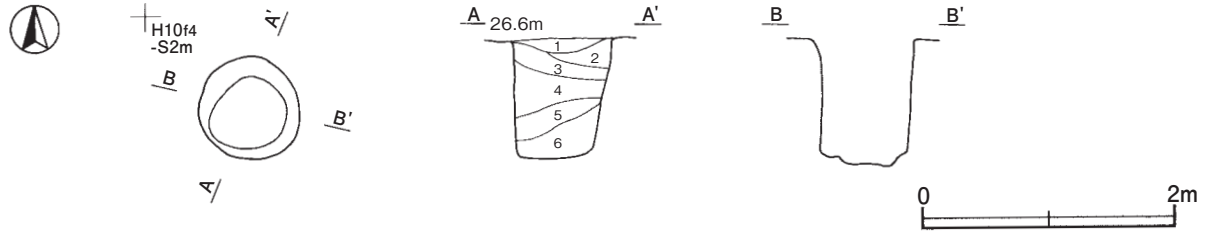
**覆土** 6層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |        |           |          |           |
|--------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒 褐色   | ロームブロック少量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子少量   | 5 暗 赤 褐色 | ローム粒子少量   |
| 3 黒 褐色 | ローム粒子少量   | 6 黒 褐色   | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 混入した縄文土器片1点(深鉢)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構から15世紀後半と考えられる。



第114図 第6号井戸跡実測図

第7号井戸跡(第115図)

位置 調査区南東部のH10h3区、標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 径0.85mの円形で、検出面から円筒状に1.14m掘り下げられている。

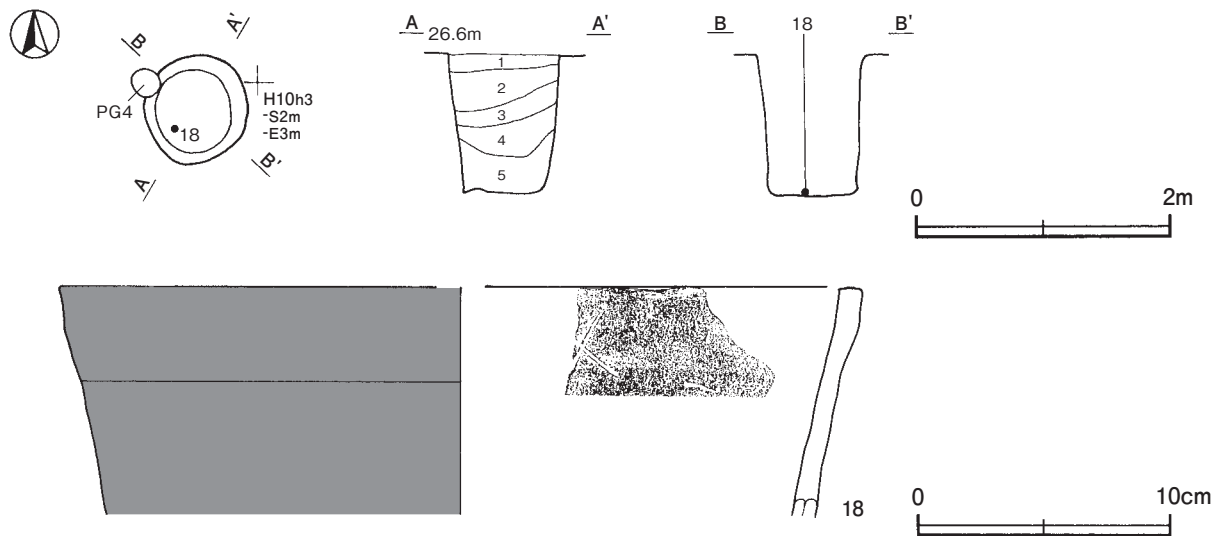
覆土 5層に分層される。北東方向から投棄をした堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |          |                |        |           |
|----------|----------------|--------|-----------|
| 1 黒 褐色   | ローム粒子・炭化粒子微量   | 4 褐 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐色   | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 黒 褐色 | ローム粒子少量   |
| 3 極 暗 褐色 | ローム粒子少量        |        |           |

遺物出土状況 土師質土器片1点(鍋)が出土している。18は覆土下層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構や出土土器から15世紀後半と考えられる。



第115図 第7号井戸跡・出土遺物実測図

## 第7号井戸跡出土遺物観察表 (第115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	土師質土器	鍋	[32.0]	(9.0)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「×」カ 外面煤付着	覆土下層	5%

## 第8号井戸跡 (第116図)

位置 調査区南東部のH10g7区, 標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号井戸跡を掘り込んでいる。

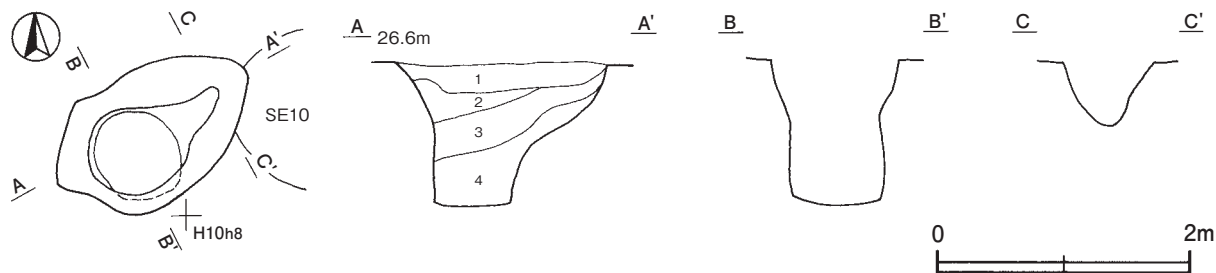
規模と形状 長径1.74m, 短径1.02mの楕円形で, 検出面から漏斗状に1.17m掘り下げられている。

覆土 4層に分層される。北東方向から投棄をした堆積状況から人為堆積である。

## 土層解説

- |        |           |       |              |
|--------|-----------|-------|--------------|
| 1 明黄褐色 | ロームブロック多量 | 3 黒色  | ロームブロック微量    |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・赤色粒子少量 |

所見 素掘りの構造である。時期は, 重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。



第116図 第8号井戸跡実測図

## 第9号井戸跡 (第117・118図)

位置 調査区南東部のH10g3区, 標高26.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.84mほどの円形で, 検出面から円筒状に1.40m掘り下げられている。

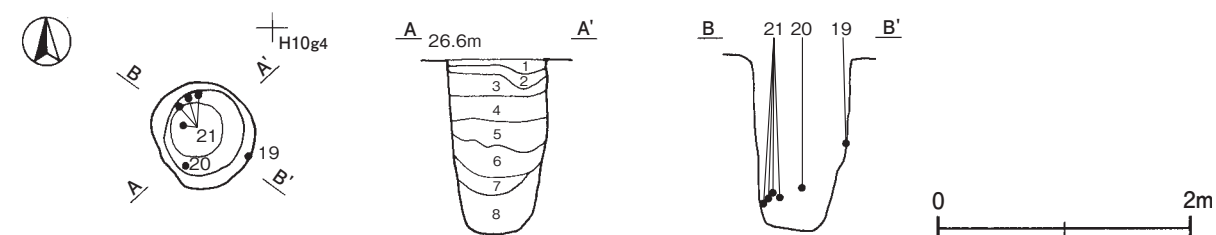
覆土 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

## 土層解説

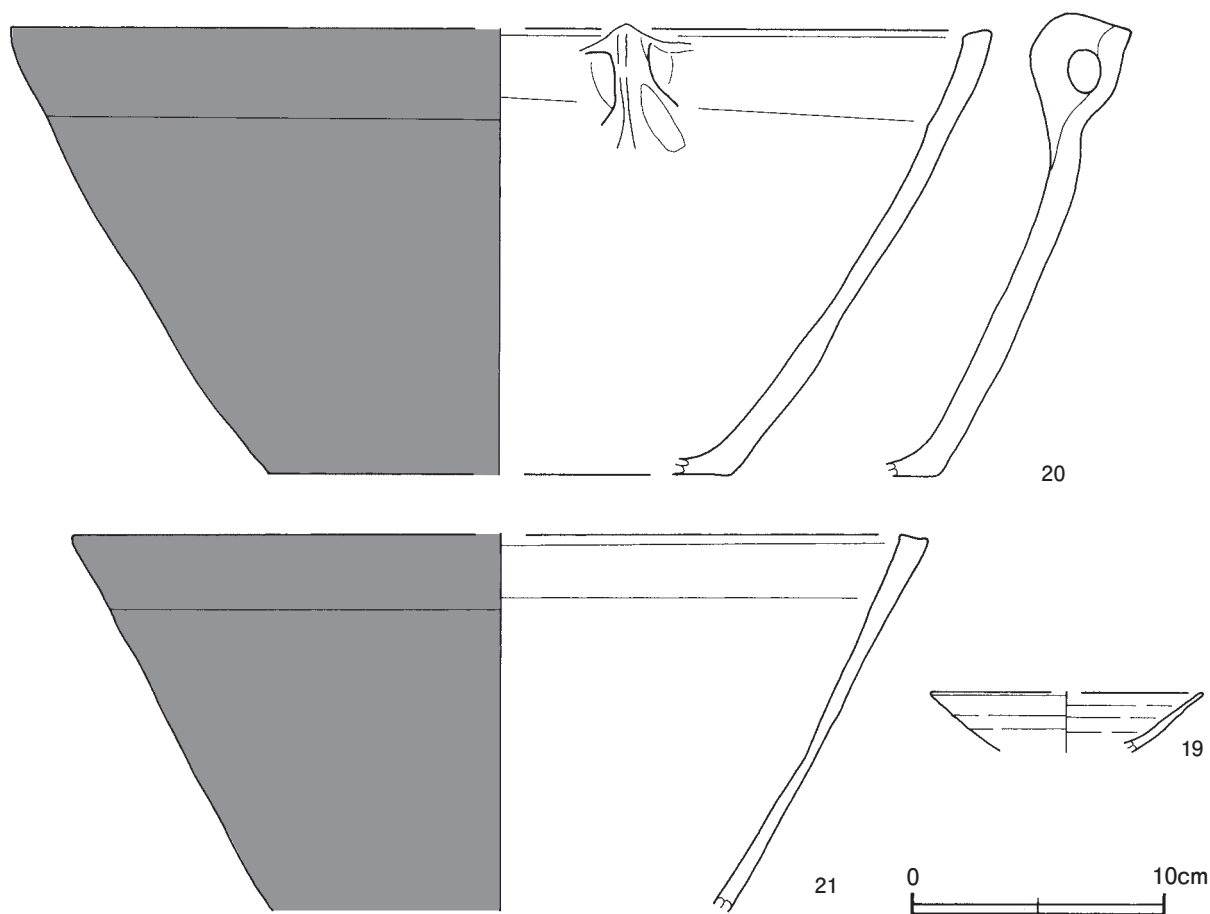
- |         |                   |        |           |
|---------|-------------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色   | ローム粒子多量           | 5 暗褐色  | ローム粒子中量   |
| 2 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 3 褐色    | ローム粒子中量           | 7 灰褐色  | ロームブロック少量 |
| 4 明褐色   | ロームブロック中量         | 8 黒色   | ローム粒子微量   |

遺物出土状況 土師質土器片6点(小皿2, 鍋3, 挿鉢)が出土している。19は覆土中層から, 20・21は覆土下層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は, 周囲の遺構や出土土器から16世紀前半と考えられる。



第117図 第9号井戸跡実測図



第118図 第9号井戸跡出土遺物実測図

第9号井戸跡出土遺物観察表（第118図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
19	土師質土器	小皿	[10.8]	(2.3)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形	覆土中層	10%
20	土師質土器	内耳鍋	[39.0]	18.5	[18.4]	長石・石英・金雲母多量	灰褐	普通	内面焦げ付着 外面煤・錆付着	覆土下層	20%
21	土師質土器	鍋	[34.0]	(15.0)	—	長石・石英・黒色粒子 金雲母多量	にぶい褐	普通	外面煤付着 内・外面錆付着	覆土下層	20%

### 第10号井戸跡（第119図）

位置 調査区南東部のH10g8区、標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.45m、短径1.29mの楕円形で、検出面から漏斗状に1.18m掘り下げられている。

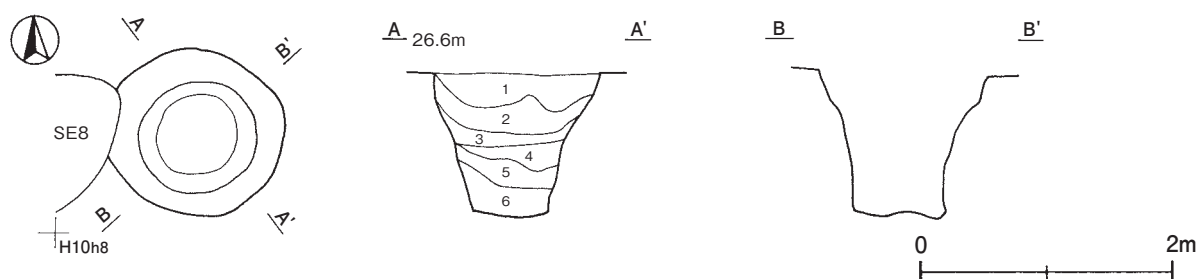
覆土 6層に分層される。北東方向から投棄をした堆積状況から人為堆積である。

#### 土層解説

1 明褐色	ロームブロック多量	4 黒色	赤色粒子少量、ロームブロック微量
2 褐色	ローム粒子中量	5 黒色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	6 赤黒色	赤色粒子中量、ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片4点（鍋）や混入した土師器片1点（坏）が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構や出土土器から16世紀前半と考えられる。



第119図 第10号井戸跡実測図

第11号井戸跡（第120図）

位置 調査区南東部のH10i4区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.33m、短径1.24mの円形で、検出面から円筒状に1.22m掘り下げられている。

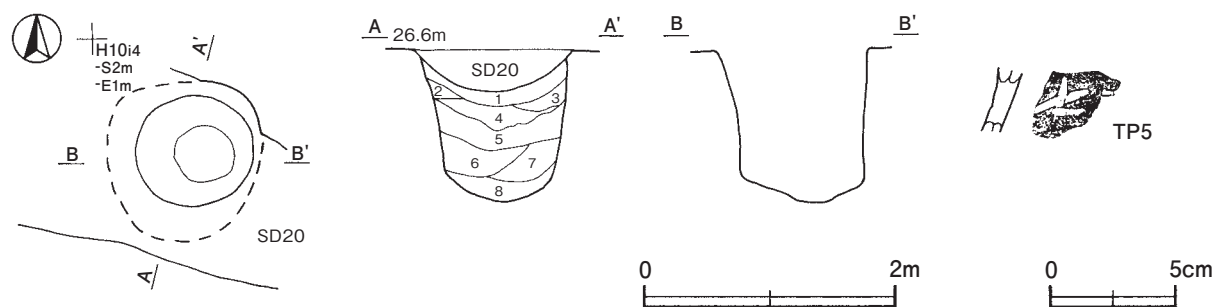
覆土 8層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |         |                     |         |                 |
|---------|---------------------|---------|-----------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 5 黒 褐 色 | 赤色粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・炭化物少量         | 6 黒 褐 色 | ローム粒子・赤色粒子少量    |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子少量             | 7 黒 褐 色 | 赤色粒子中量, ローム粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量     | 8 黒 褐 色 | ローム粒子微量         |

遺物出土状況 土師質土器片14点（小皿2, 鍋類12）、石器3点（石臼）が出土している。TP5は覆土下層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器や周囲の遺構から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第120図 第11号井戸跡・出土遺物実測図

第11号井戸跡出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	土師質土器	鍋	—	(24)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口辺内部にヘラ記号「×」	覆土下層	5%

第12号井戸跡（第121図）

位置 調査区南東部のH10j1区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径1.08mほどの円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ、0.79mまで確認したが、下層部は湧水のため不明である。

覆土 2層に分層される。一方向からの投棄を示した堆積状況から人為堆積である。

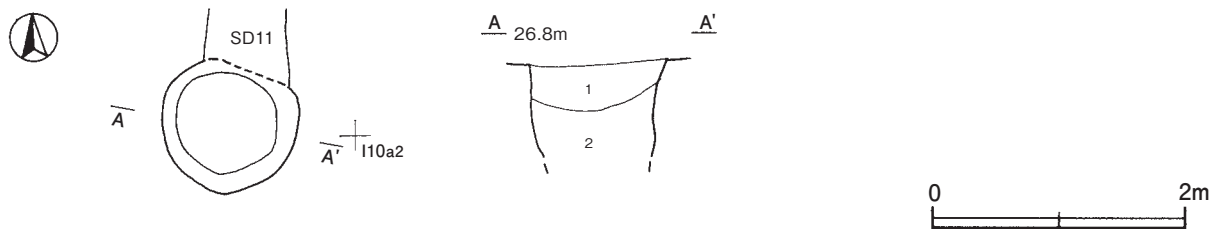
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片6点(鍋5, 播鉢)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 素掘りの構造である。時期は, 重複関係や周囲の遺構から16世紀代と考えられる。



第121図 第12号井戸跡実測図

第13号井戸跡 (第122図)

位置 調査区南東部のH10f1区, 標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第32号掘立柱建物跡と重複している。柱穴の重複関係は見られないが, 同時期に機能していたと考えられる。

規模と形状 径0.86mほどの円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ, 0.59mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

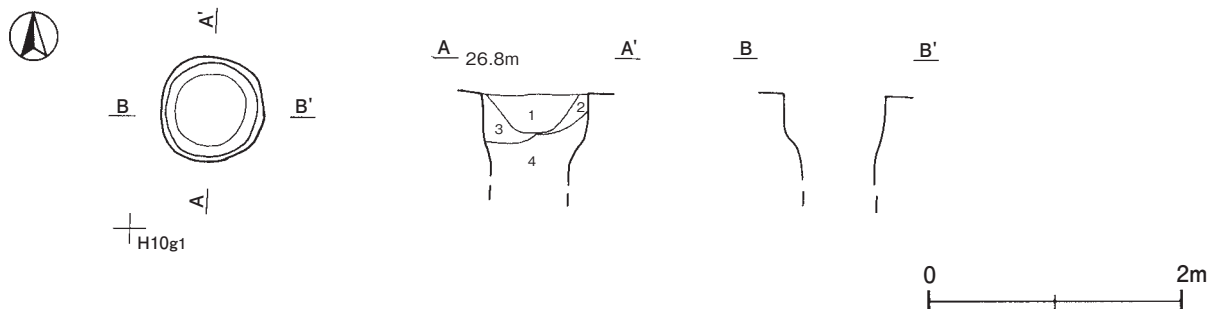
1 褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

4 褐色 ローム粒子少量

所見 素掘りの構造である。第32号掘立柱建物は上屋と想定され, 時期は16世紀前半と考えられる。



第122図 第13号井戸跡実測図

第14号井戸跡 (第123・124図)

位置 調査区南東部のG9i4区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.65m, 短径1.31mの楕円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ, 0.88mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。

覆土 12層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

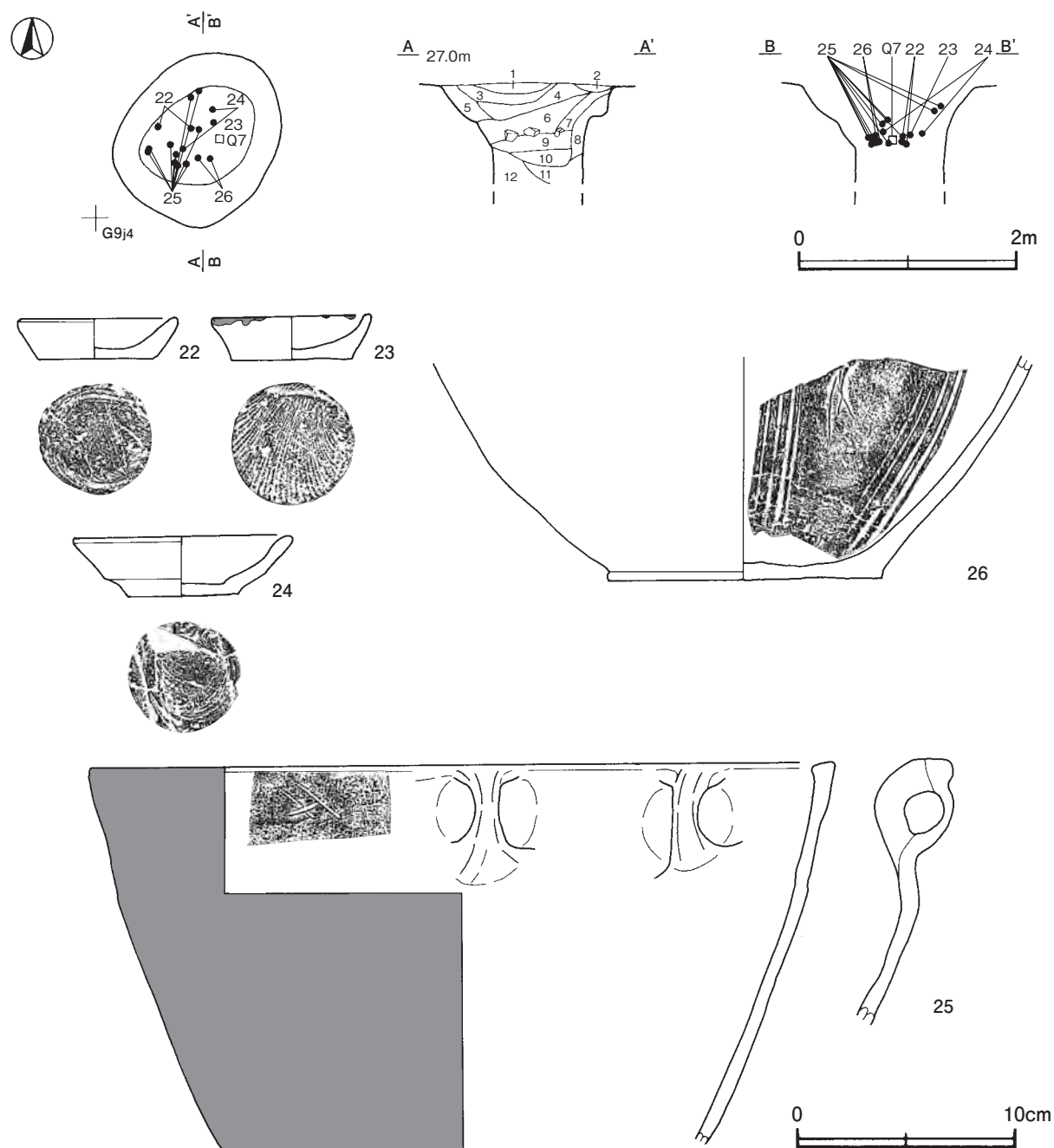


土層解説

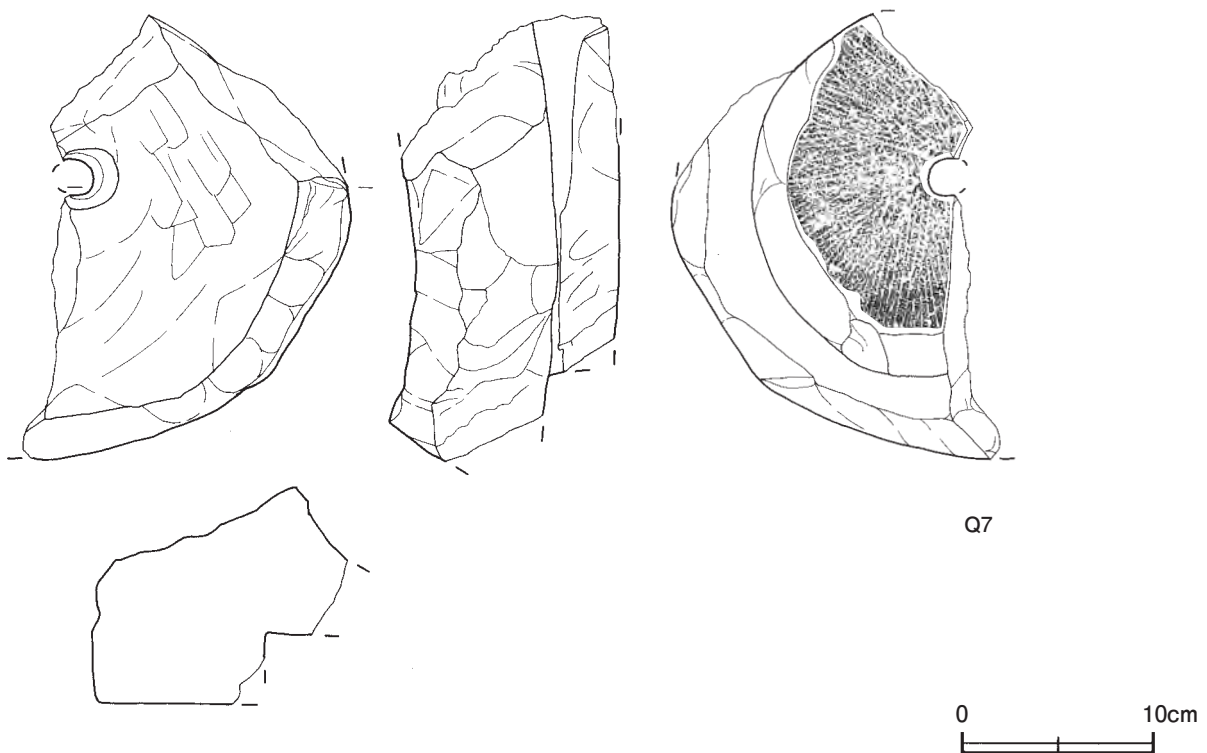
1 暗 褐 色	ロームブロック微量	7 極 暗 褐 色	ローム粒子微量
2 黒 褐 色	ローム粒子微量	8 暗 褐 色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量
3 暗 褐 色	ローム粒子少量	9 黒 褐 色	ロームブロック微量
4 極 暗 褐 色	ローム粒子少量	10 黒 褐 色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量
5 褐 色	ロームブロック中量	11 黒 褐 色	ロームブロック少量, 砂粒微量
6 黒 褐 色	ローム粒子少量	12 黒 褐 色	ロームブロック少量, 砂粒少量

遺物出土状況 土師質土器片53点（小皿7，鍋類45，挿鉢），陶器片3点（甕2，壺），石器2点（石臼）が出土している。22～26・Q7は，いずれも覆土中層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は，出土土器や周囲の遺構から15世紀後半には掘削され，16世紀後半には埋没したと考えられる。



第123図 第14号井戸跡・出土遺物実測図



第124図 第14号井戸跡出土遺物実測図

第14号井戸跡出土遺物観察表（第123・124図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	土師質土器	小皿	7.2	1.9	5.3	長石・石英・雲母	黒褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中層	90% PL21
23	土師質土器	小皿	7.4	2.1	5.6	長石・石英・金雲母中量	にぶい赤褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 口辺部内外面油煙付着	覆土中層	95% PL21
24	土師質土器	小皿	10.0	2.8	5.0	長石・石英	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 見込みに環状圧痕	覆土中層	90% PL21
25	土師質土器	内耳鍋	34.2	(17.6)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい褐	普通	3耳 口辺内部にへら記号「++」左耳から13.8cm 外面煤付着	覆土中層	30%
26	土師質土器	播鉢	—	(10.3)	12.7	長石・石英・金雲母少量	明赤褐	普通	ロクロ成形	覆土中層	30%

番号	器種	径	孔径	高さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q7	石白(上白)	[29.0]	2.0	11.5	(3590.0)	安山岩	副溝8条一単位カ	覆土中層	PL29

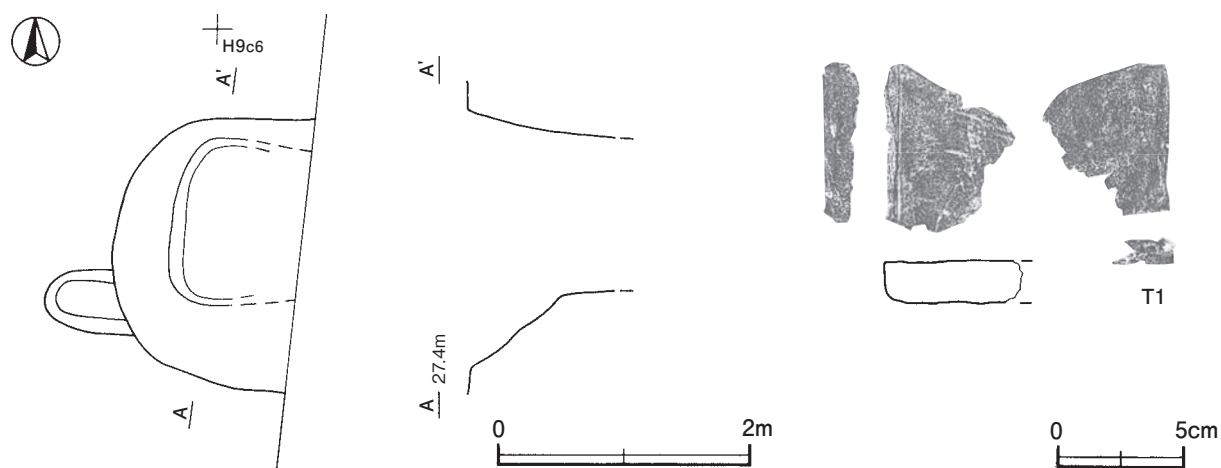
第15号井戸跡（第125図）

位置 調査区南東部のH9c5区、標高27.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北径は2.25m、東西径は1.02mだけが確認され、楕円形と想定される。検出面から漏斗状に掘り下げられ、1.18mまで確認したが、下層部は湧水のため不明である。

遺物出土状況 土師質土器片5点（小皿2、鍋3）、瓦1点（平瓦）が出土している。覆土上層からは、混入した近代のガラス瓶なども出土している。T1は覆土中からの出土で、混入したものである。

所見 素掘りの構造である。本跡の上層は、現代の耕作による攪乱を受けているが、時期は、周囲の遺構や出土土器から16世紀代から17世紀前半と考えられる。



第125図 第15号井戸跡・出土遺物実測図

第15号井戸跡出土遺物観察表（第125図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
T1	平瓦	(4.3)	(5.8)	1.5	(55.9)	長石・雲母	青黒	普通	内・外面いぶし	覆土中	

第16号井戸跡（第126図）

位置 調査区南東部のG 8h7区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

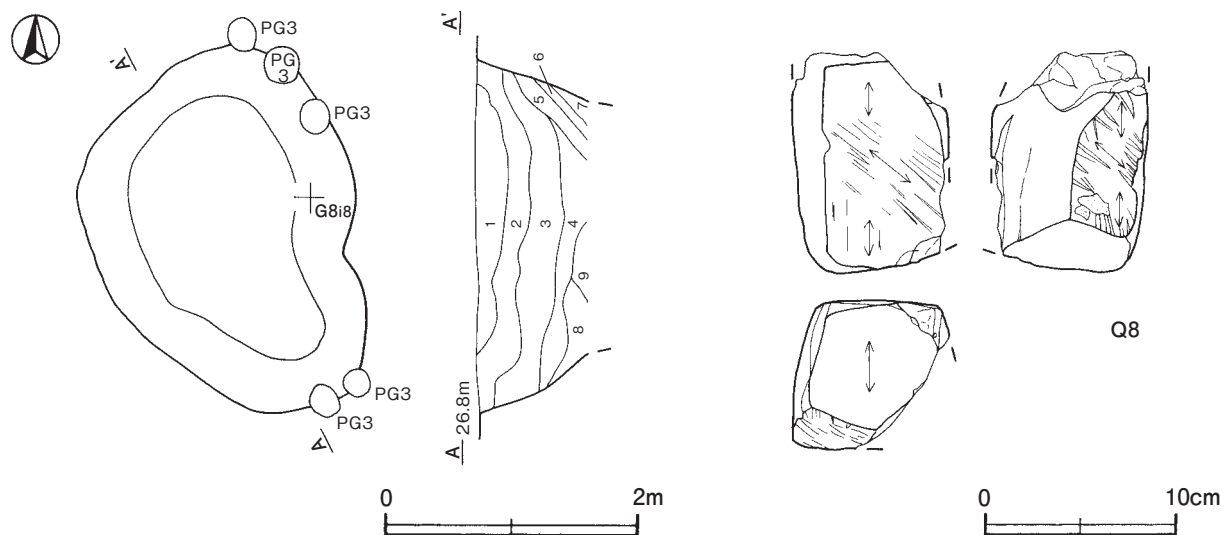
重複関係 第22号掘立柱建物跡と同時期に機能し、第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.95m、短径1.40mの楕円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ、0.91mまで確認したが、下層部は湧水のため不明である。

覆土 9層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |                   |        |           |
|-------|-------------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量    | 6 褐色   | ローム粒子微量   |
| 2 褐色  | ローム粒子多量           | 7 明褐色  | ローム粒子中量   |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 8 褐色   | ロームブロック少量 |
| 4 褐色  | ローム粒子少量           | 9 極暗褐色 | ローム粒子微量   |
| 5 明褐色 | ローム粒子多量           |        |           |



第126図 第16号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 石器1点（砥石）が出土している。Q8は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。第27号掘立柱建物は上屋と想定され、時期は、16世紀代に機能していたと考えられる。

第16号井戸跡出土遺物観察表（第126図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q8	砥石	(11.7)	(8.3)	7.8	(1020.0)	ホルンフェルス	砥面3面	覆土中	PL27

第17号井戸跡（第127図）

位置 調査区南東部のH9c3区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第17・18号溝跡を掘り込んでいる。

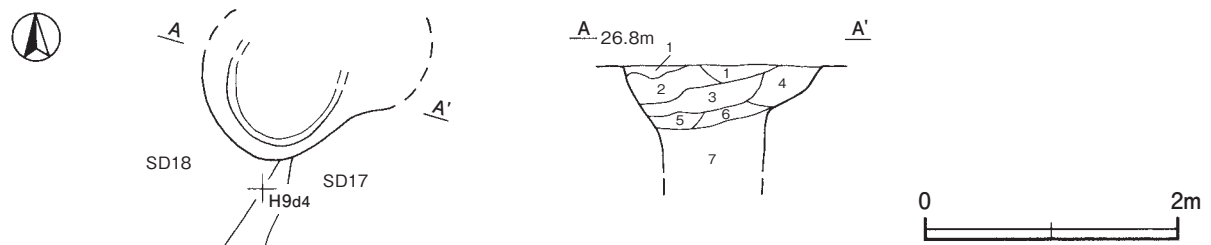
規模と形状 東西径は1.58m、南北径は0.70mだけが確認され、楕円形と想定される。検出面から漏斗状に掘り下げられ、0.74mまで確認したが、下層部は湧水のため不明である。

覆土 7層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |              |         |         |
|-------|--------------|---------|---------|
| 1 黒褐色 | 赤色粒子微量       | 5 褐色    | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量      | 6 褐色    | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 褐色  | ローム粒子少量      |         |         |

所見 素掘りの構造である。時期は、重複関係や周囲の遺構から16世紀後半から17世紀前半と考えられる。



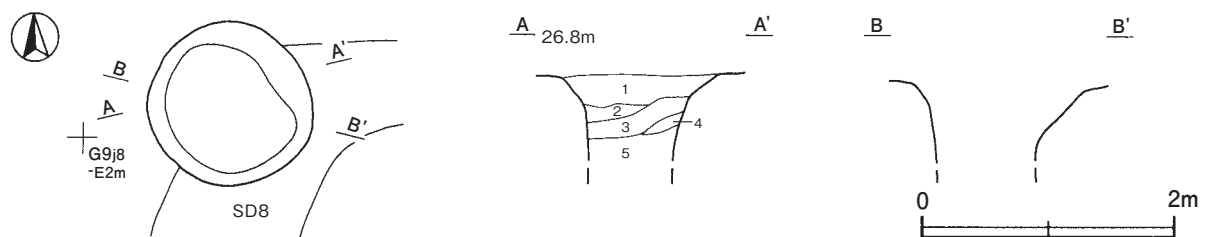
第127図 第17号井戸跡実測図

第18号井戸跡（第128・129図）

位置 調査区南東部のG9i8区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.35mの円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ、0.55mまで確認したが、下層部は湧水のため不明である。



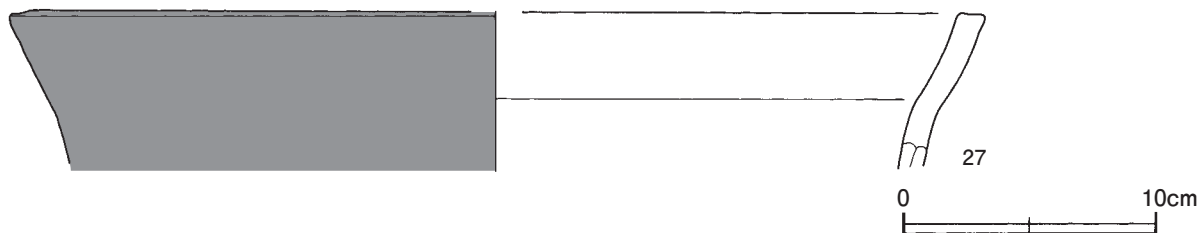
第128図 第18号井戸跡実測図

覆土 5層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説	
1 褐色	ロームブロック多量
2 褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ロームブロック微量
5 褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片9点（鍋）が出土している。27は覆土中層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀前半と考えられる。



第129図 第18号井戸跡出土遺物実測図

第18号井戸跡出土遺物観察表（第129図）

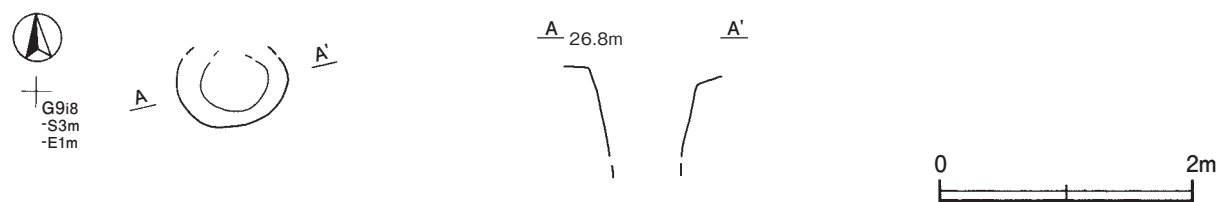
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
27	土師質土器	鍋	[37.2]	(6.4)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい赤褐	普通	外面煤付着	覆土中層	5%

### 第19号井戸跡（第130図）

位置 調査区南東部のG9i8区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西径は0.89m、南北径は0.54mだけが確認され、楕円形と想定される。検出面から漏斗状に掘り下げられ、0.74mまで確認したが、下層部は湧水のため不明である。

所見 素掘りの構造である。時期は、重複関係から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第130図 第19号井戸跡実測図

### 第20号井戸跡（第131図）

位置 調査区南東部のH9a1区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第24号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴の重複は見られず新旧関係は不明である。

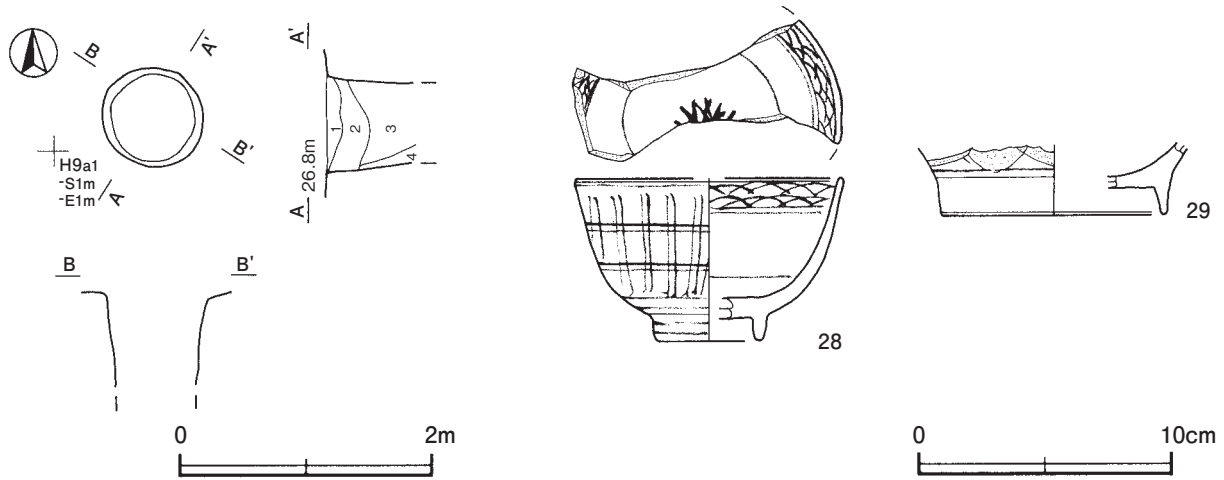
規模と形状 径0.79mの円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ、0.74mまで確認したが、下層部は湧水のため不明である。

覆土 4層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説	
1 褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック微量
3 にぶい黄褐色	ローム粒子・細礫微量
4 褐色	ローム粒子少量、赤色粒子微量

遺物出土状況 磁器片 3 点 (碗), 木片 7 点が出土している。28・29は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。第 33 号掘立柱建物跡と同時期に機能していたものと考えられることから, 時期は16世紀前半と想定される。



第131図 第20号井戸跡・出土遺物実測図

第20号井戸跡出土遺物観察表 (第131図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
28	磁器	碗	[10.6]	6.5	[4.0]	緻密 透明釉	灰白	良好	内・外面染め付け 外面格子文 内・外面施釉	覆土中	30% 肥前
29	磁器	碗	—	(2.8)	[8.8]	緻密 透明釉	明オリブ灰	良好	内・外面染め付け 内・外面施釉	覆土中	10% 肥前

第21号井戸跡 (第132・133図)

位置 調査区南東部のH 9 e8区, 標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 8 号溝に掘り込まれている。

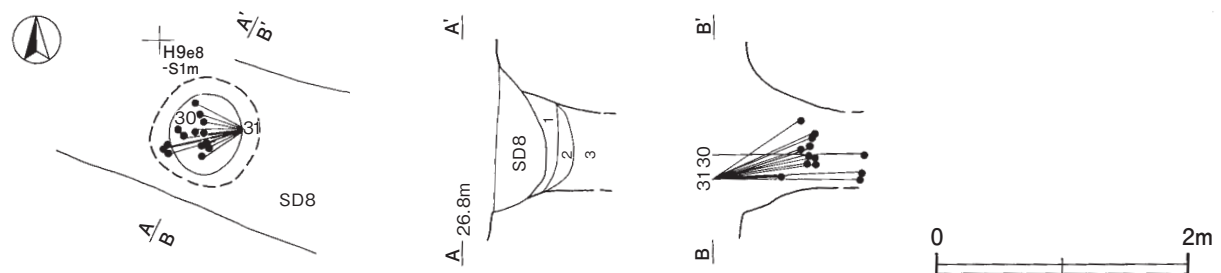
規模と形状 径0.89mほどの円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ, 0.79mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。

覆土 3層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・赤色粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 極 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

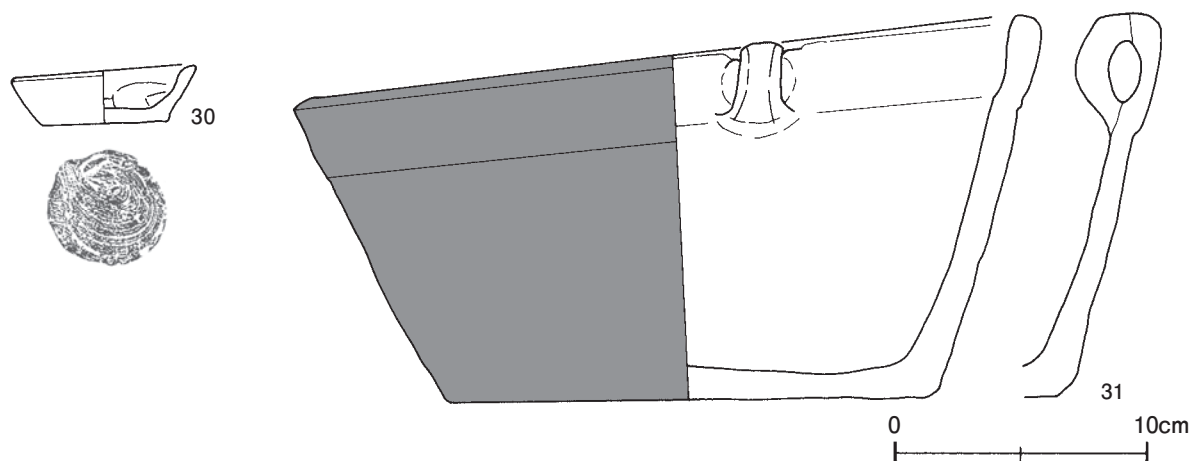
遺物出土状況 土師質土器片 3 点 (小皿, 鍋, 内耳鍋) が出土している。30は覆土下層からの出土で, 31は,



第132図 第21号井戸跡実測図

覆土中・下層から出土した破片が接合したものである。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から15世紀後半に掘削され、16世紀後半には埋没したものと考えられる。



第133図 第21号井戸跡出土遺物実測図

第21号井戸跡出土遺物観察表（第133図）

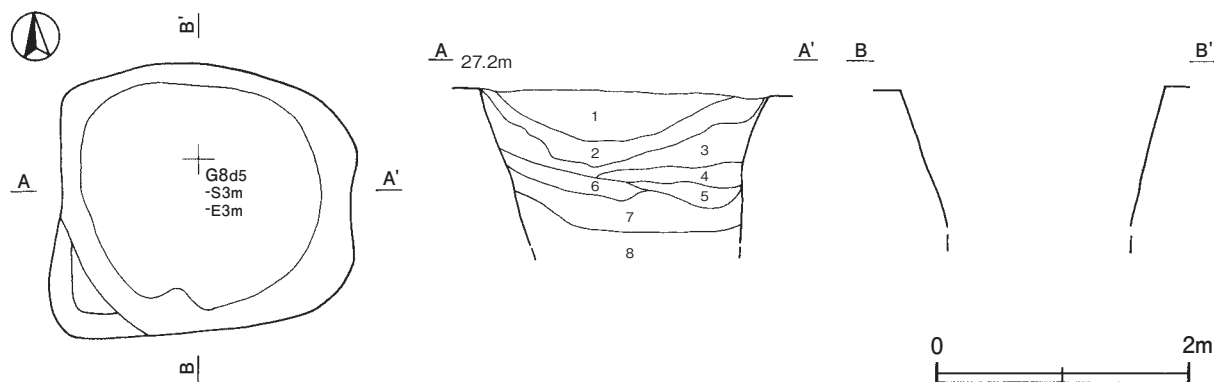
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
30	土師質土器	小皿	7.3	2.2	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面中央部貼り付け後外縁部環状ナデ	覆土下層	100% PL21
31	土師質土器	内耳鍋	28.2	15.2	19.0	長石・石英・金雲母中量	にぶい赤褐	普通	2耳 外面煤付着	覆土中・下層	75% PL23

第22号井戸跡（第134図）

位置 調査区南東部のG 8 d5区、標高27.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.78m、短径2.42mの楕円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ、1.14mまで確認したが、下層部は湧水のため不明である。

覆土 8層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。



第134図 第22号井戸跡実測図



土層解説

- |          |                         |          |                     |
|----------|-------------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色    | 細礫・細砂少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック・細礫・細砂少量     |
| 2 黒色     | 細礫少量, ロームブロック・炭化粒子・細砂微量 | 6 暗褐色    | ローム粒子・砂質粘土粒子・細砂少量   |
| 3 黒褐色    | ローム粒子・細礫・細砂微量           | 7 灰黄褐色   | 細砂中量, 細礫少量, ローム粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 細礫・細砂少量, ロームブロック微量      | 8 暗褐色    | ローム粒子・細礫・細砂少量       |

所見 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構から16世紀代と考えられる。

第23号井戸跡 (第135図)

位置 調査区中央部のF 7d1区, 標高27.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北径は2.10m, 東西径は1.38mだけが確認されている。検出面から漏斗状に掘り下げられ, 0.85mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。

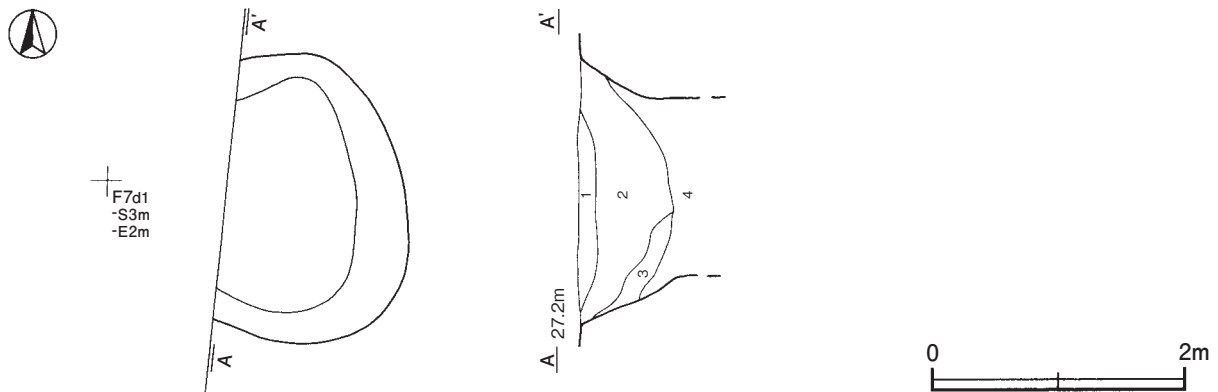
覆土 4層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |              |         |          |
|-------|--------------|---------|----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量      | 3 褐色    | ローム粒子少量  |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい橙色 | 砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(鍋)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、第13号掘立柱建物と同時代に機能していたものと推測されることから、16世紀後半と考えられる。



第135図 第23号井戸跡実測図

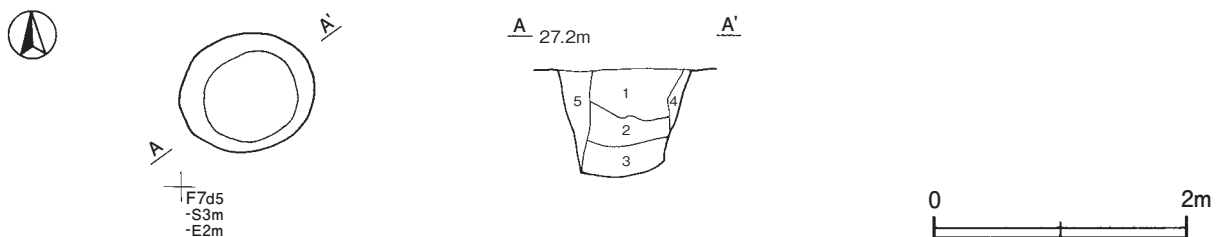
第24号井戸跡 (第136図)

位置 調査区中央部のF 7d5区, 標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第13号掘立柱建物跡と重複しているが, 柱穴の重複は見られず新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.10m, 短径0.90mの楕円形である。検出面から円筒状に0.86m掘り下げられている。

覆土 5層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。



第136図 第24号井戸跡実測図

土層解説

- |      |                 |       |                 |
|------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・細砂少量      | 4 黒褐色 | ロームブロック少量       |
| 2 黒色 | 細砂少量, ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | 細砂少量, ロームブロック微量 |
| 3 黒色 | ロームブロック・細砂少量    |       |                 |

所見 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構から16世紀前半と考えられる。

第25号井戸跡 (第137図)

位置 調査区中央部のF 7 f7区, 標高26.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.43m, 短径1.26mの楕円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ, 0.86mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。

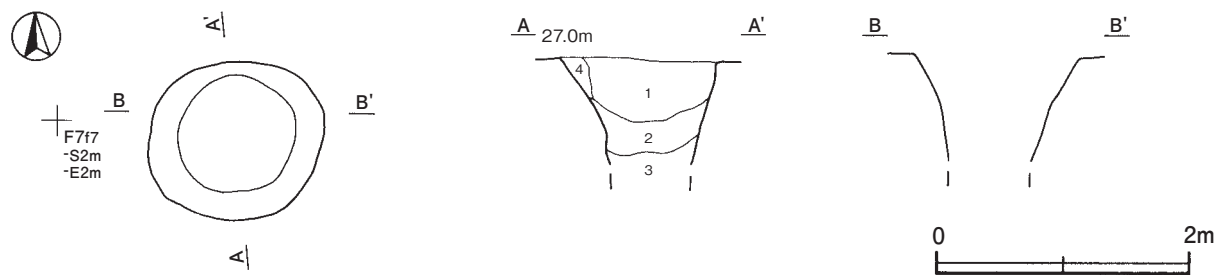
覆土 4層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |         |          |         |
|-------|---------|----------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 におい黄褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色     | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師質土器片4点(鍋)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器や周囲の遺構から16世紀前半と考えられる。



第137図 第25号井戸跡実測図

第26号井戸跡 (第138・139図)

位置 調査区南東部のF 8 f1区, 標高26.9mの台地平坦部に位置している。

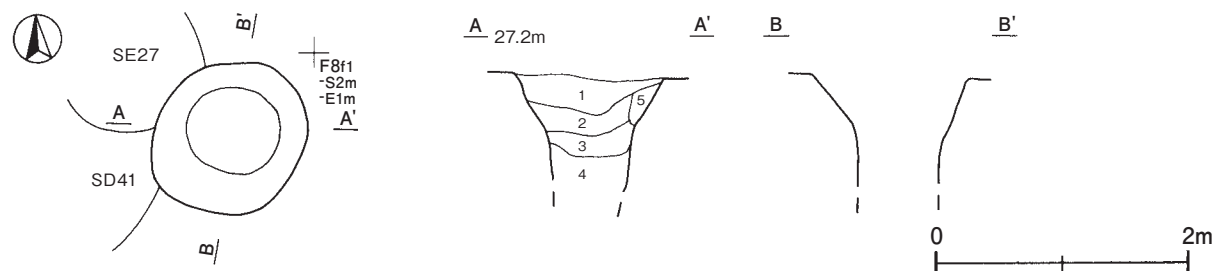
重複関係 第41号溝跡と連結し, 第27号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.20mの円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ, 0.80mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。

覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |                  |       |                 |
|-------|------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | 細礫少量, ローム粒子・中礫微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 細礫微量   |
| 2 黒褐色 | 細礫少量, ローム粒子微量    | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・細礫少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・細礫微量       |       |                 |



第138図 第26号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片1点（鍋），陶器片1点（不明）が出土している。32は覆土中から出土している。  
 所見 素掘りの構造である。第27号井戸跡を作り替えたものと考えられる。時期は，出土土器や重複関係から16世紀後半と考えられる。



第139図 第26号井戸跡出土遺物実測図

第26号井戸跡出土遺物観察表（第139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	土師質土器	鍋	[28.0]	(4.8)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい橙	普通	口辺内部にヘラ記号「×」内・外面煤付着	覆土中	20%

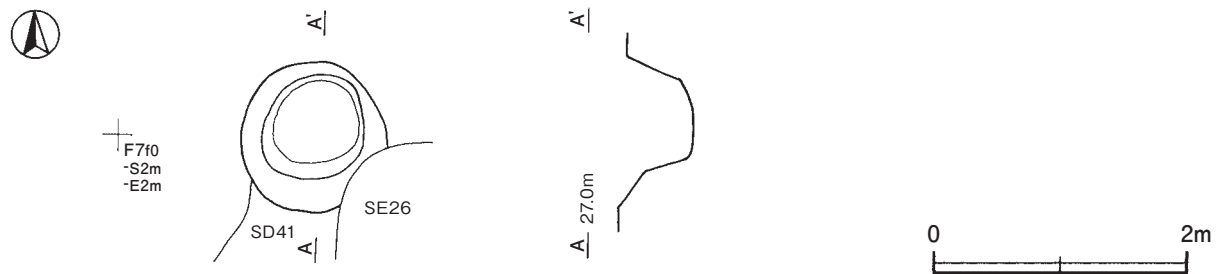
第27号井戸跡（第140図）

位置 調査区南東部のF 7 f0区，標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第41号溝跡と連結し，第26号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 径1.20mほどの円形である。検出面から円筒状に0.59m掘り下げられている。

所見 素掘りの構造である。掘り方が浅いことから，掘削途中で第26号井戸に作り替えたものと推測できる。時期は，重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と考えられる。



第140図 第27号井戸跡実測図

第28号井戸跡（第141図）

位置 調査区南東部のF 8 f1区，標高26.9mの台地平坦部に位置している。

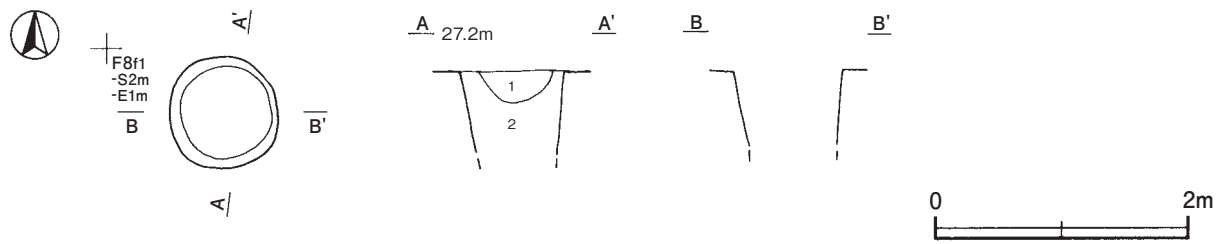
規模と形状 径0.87mの円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ，0.57mまで確認したが，下層部は湧水のため不明である。

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 中礫中量，ローム粒子微量
- 2 褐色 中礫中量，ローム粒子少量

所見 素掘りの構造である。時期は，周囲の遺構から16世紀前半と考えられる。



第141図 第28号井戸跡実測図

第29号井戸跡 (第142図)

位置 調査区中央部のF7c7区, 標高26.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第368号土坑, 第2号ピット群に掘り込まれている。

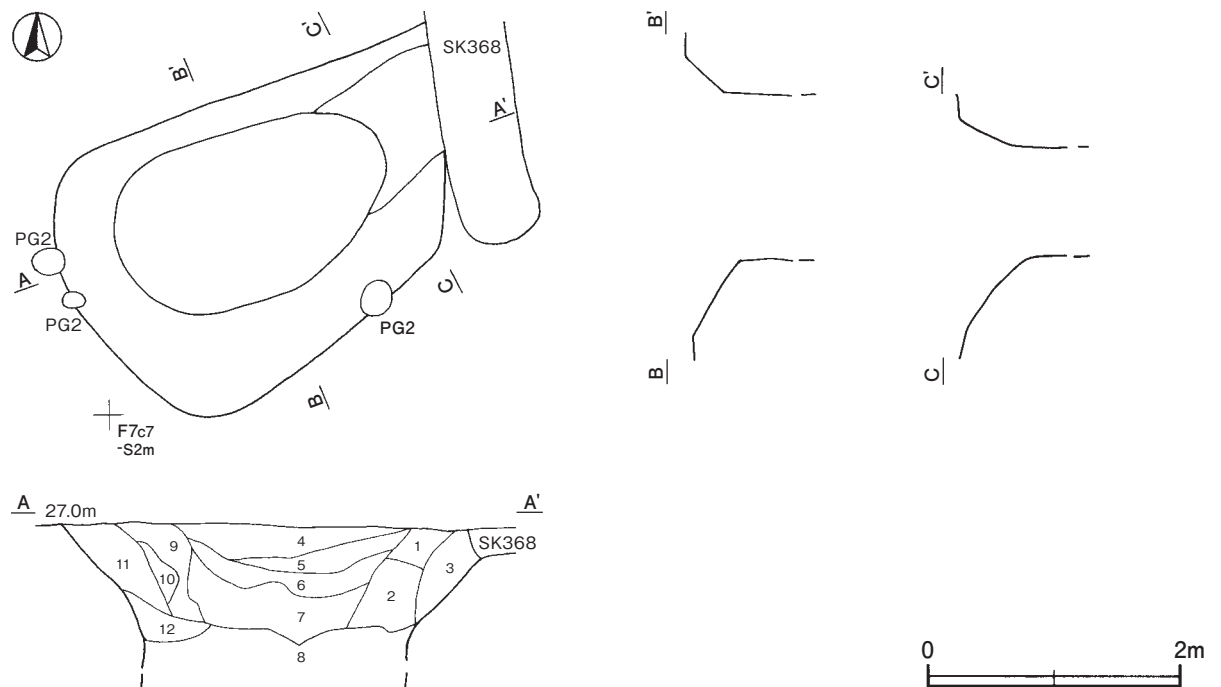
規模と形状 長径3.68m, 短径1.30mの楕円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ, 1.12mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。

覆土 12層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |        |                   |        |                |
|--------|-------------------|--------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量           | 7 極暗褐色 | ローム粒子微量        |
| 2 黒褐色  | ローム粒子少量           | 8 黒褐色  | ロームブロック・黒色粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック微量         | 9 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色  | ロームブロック少量         | 10 暗褐色 | ロームブロック少量      |
| 5 黒褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量      |
| 6 暗褐色  | ローム粒子少量           | 12 黒褐色 | ロームブロック中量      |

所見 素掘りの構造である。西側の掘り込みは, 掘削のための足場であると想定される。その後, 東側を深く掘り込み, 井戸枠を設置した後に埋め戻したと考えられる。時期は, 周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。



第142図 第29号井戸跡実測図

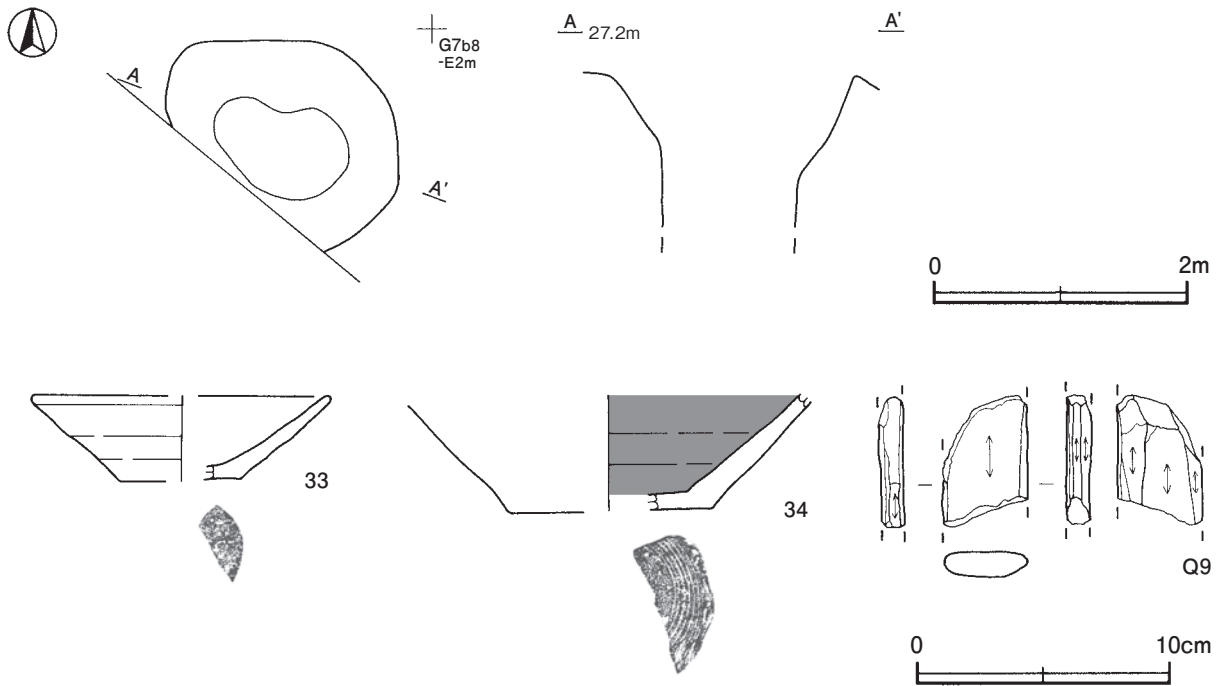
第30号井戸跡（第143図）

位置 調査区中央部のG 7 b8区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南西部が調査区外のため長径は2.00m、短径は1.15mだけが確認され、楕円形であると想定される。検出面から漏斗状に掘り下げられ、1.22mまで確認したが、下層部は湧水のため不明である。

遺物出土状況 土師質土器片36点（小皿2、鍋34）、石器1点（砥石）が出土している。33・34・Q9は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器や周囲の遺構から16世紀前半と考えられる。



第143図 第30号井戸跡・出土遺物実測図

第30号井戸跡出土遺物観察表（第143図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
33	土師質土器	小皿	[11.6]	3.4	[4.7]	長石・雲母	褐灰	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中	20%
34	土師質土器	小皿	—	(4.5)	[8.0]	長石・石英・金雲母微量	黒・灰白	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 内面煤付着	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q9	砥石	(5.1)	(3.4)	1.05	(22.2)	凝灰岩	端部欠損 砥面7面	覆土中	

第31号井戸跡（第144図）

位置 調査区中央部のF 7 g6区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.07mほどの円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ、0.90mまで確認したが、下層部は湧水のため不明である。

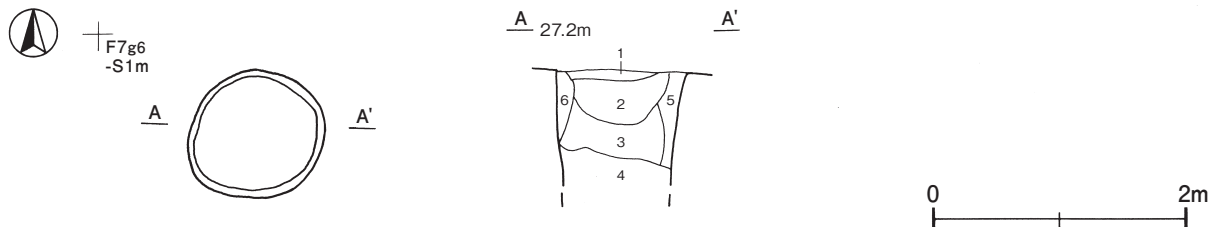
覆土 6層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 細砂少量, ローム粒子微量      | 4 黒褐色 細砂中量, 細礫少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 細砂少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量             |
| 3 黒褐色 ローム粒子・細礫・細砂微量      | 6 暗褐色 ローム粒子微量             |

遺物出土状況 土師質土器片1点(鍋)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。



第144図 第31号井戸跡実測図

第32号井戸跡 (第145図)

位置 調査区南東部のG8c2区, 標高27.0mの台地平坦部に位置している。

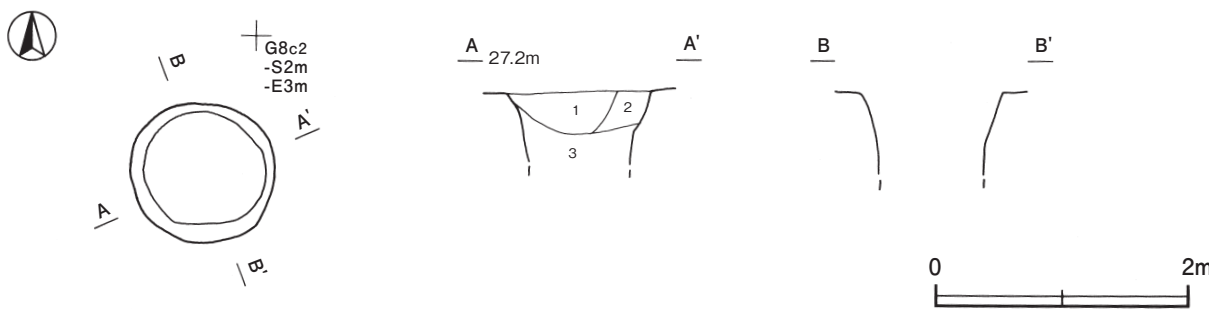
規模と形状 径1.13mの円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ, 0.68mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。

覆土 3層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |                               |                 |
|-------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 細砂少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 細砂少量, ローム粒子微量           |                 |

所見 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構から16世紀前半と考えられる。



第145図 第32号井戸跡実測図

第33号井戸跡 (第146図)

位置 調査区南東部のH9a3区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。

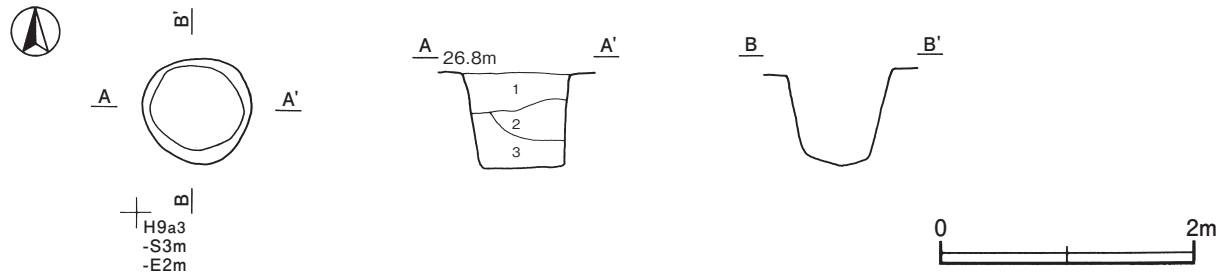
規模と形状 径0.85mほどの円形である。検出面から円筒状に0.76m掘り下げられている。

覆土 3層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 3 褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量  |              |

遺物出土状況 土師質土器片2点(鍋), 鉄製品1点(不明)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。  
 所見 素掘りの構造である。時期は, 周囲の遺構から15世紀後半と考えられる。



第146図 第33号井戸跡実測図

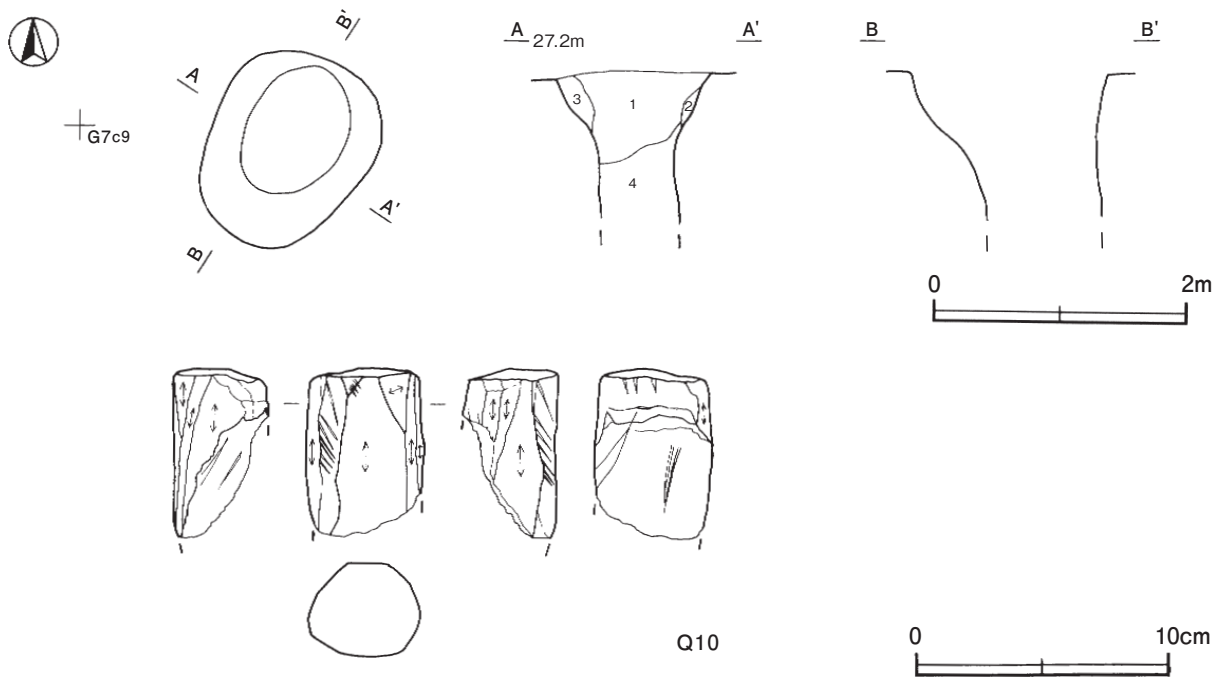
第34号井戸跡 (第147図)

位置 調査区南東部のG 7c9区, 標高27.0mの台地平坦部に位置している。  
 規模と形状 長径1.57m, 短径1.22mの楕円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ, 0.98mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。  
 覆土 4層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |         |       |         |
|-------|---------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 褐色  | ローム粒子少量 |
| 2 褐色  | ローム粒子中量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 石器1点(砥石)が出土している。Q10は覆土中から出土している。  
 所見 素掘りの構造である。時期は, 周囲の遺構から16世紀前半と考えられる。



第147図 第34号井戸跡・出土遺物実測図



## 第34号井戸跡出土遺物観察表（第147図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q10	砥石	(6.7)	4.7	3.8	(109.7)	凝灰岩	端部欠損 砥面7面	覆土中	

## 第35号井戸跡（第148図）

位置 調査区南東部のE 6 h5区，標高27.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.58mほどの円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ，1.10mまで確認したが，下層部は湧水のため不明である。

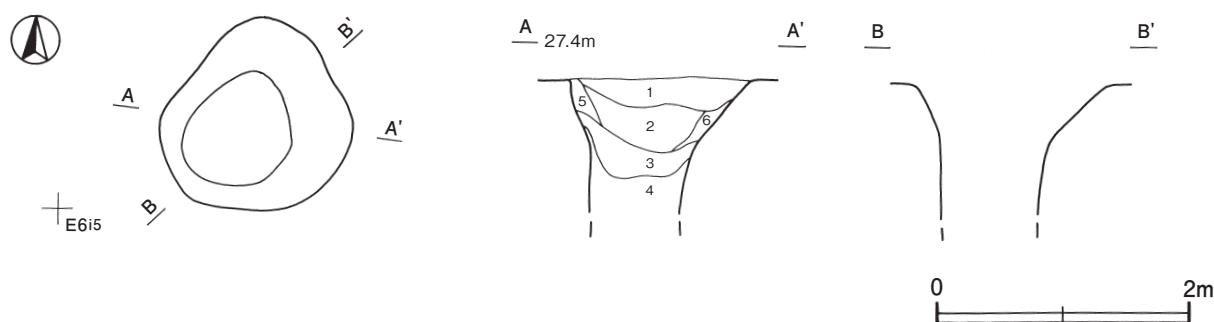
覆土 6層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

## 土層解説

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・細礫微量   | 4 黒褐色 細礫少量，ローム粒子・細砂微量 |
| 2 黒褐色 細礫少量，ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック微量       |
| 3 黒褐色 中礫少量，ローム粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量         |

遺物出土状況 土師質土器片1点（鍋），陶器片1点（甕）が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 素掘りの構造である。時期は，出土土器や周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。



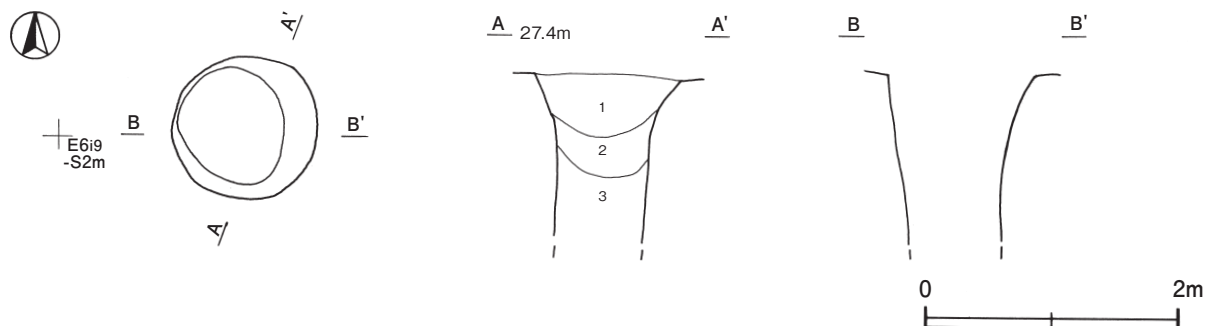
第148図 第35号井戸跡実測図

## 第36号井戸跡（第149図）

位置 調査区中央部のE 6 i9区，標高27.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.15mほどの円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ，1.36mまで確認したが，下層部は湧水のため不明である。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況であるが，層が厚く一度に多量の埋土を投入したと想定される



第149図 第36号井戸跡実測図

ことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |              |       |                 |
|-------|--------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・細礫微量   | 3 黒褐色 | ロームブロック・細礫・細砂微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・細砂微量 |       |                 |

遺物出土状況 土師質土器片 2点（鍋），陶器片 3点（甕）が出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は，周囲の遺構や出土土器から16世紀前半と考えられる。

第37号井戸跡（第150図）

位置 調査区南西部のH9a3区，標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 径1.38mほどの円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ，0.88mまで確認したが，下層部は湧水のため不明である。

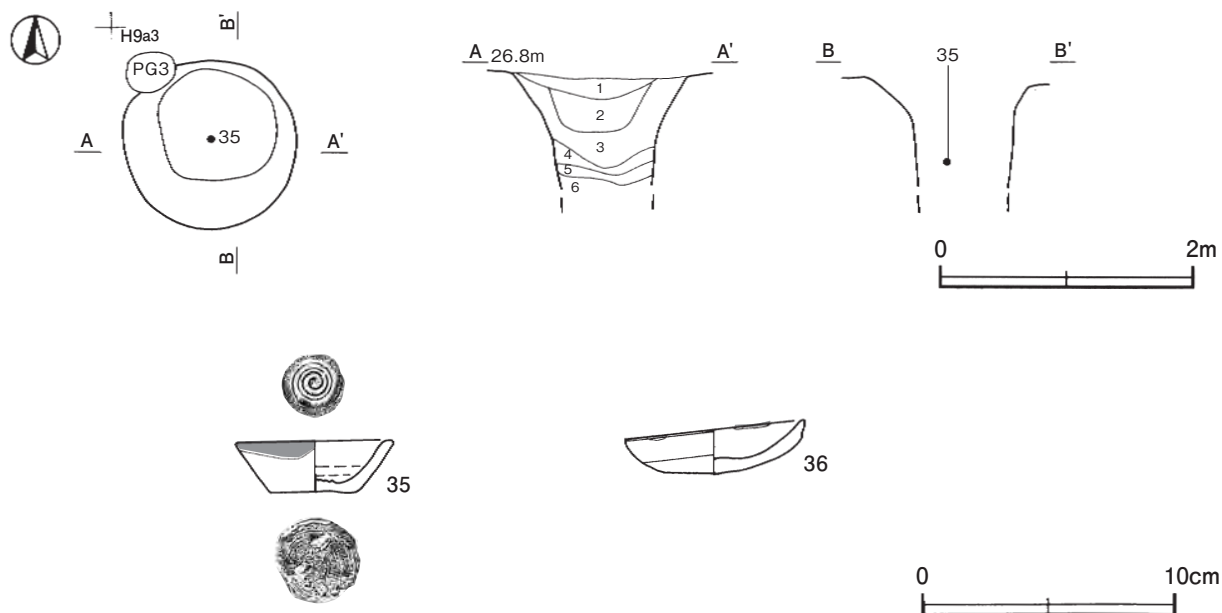
覆土 6層に分層される。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- |       |              |       |         |
|-------|--------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | 赤色粒子微量       | 4 褐色  | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | 細礫中量，ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | 赤色粒子少量  |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量      | 6 褐色  | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師質土器片 4点（小皿3，鍋）が出土している。35は覆土下層からの出土で，35は混入と考えられる。

所見 素掘りの構造である。時期は，出土土器や周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。



第150図 第37号井戸跡・出土遺物実測図

第37号井戸跡出土遺物観察表（第150図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
35	土師質土器	小皿	6.2	2.0	3.4	長石・石英・金雲母微量	灰黄褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 外面油煙付着	覆土下層	100% PL32
36	土師質土器	小皿	7.1	2.1	—	長石・石英・金雲母少量	赤褐	普通	手捏ね 丸底 口縁部油煙付着	覆土中層	95% PL32

第38号井戸跡 (第151図)

位置 調査区中央部のE 6 i8区, 標高27.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第62号溝跡と連結している。

規模と形状 長径2.28m, 短径1.56mの楕円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ, 1.22mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。

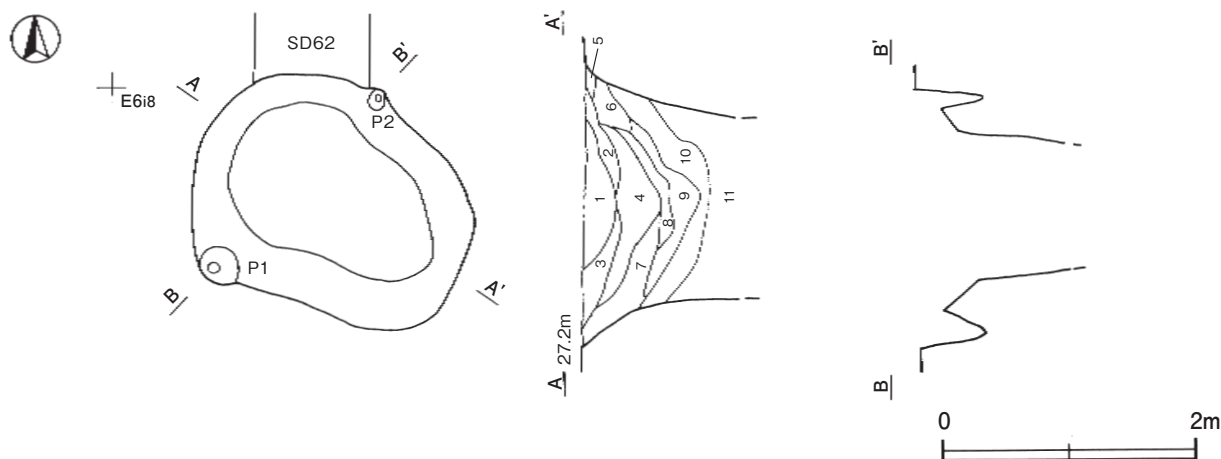
ピット 南北の上壁際に一か所ずつ確認された。径は, 南柱穴が30cmで北柱穴が12cmである。深さは, 南柱穴が50cmで北柱穴が56cmである。

覆土 11層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	粘土粒子少量, ロームブロック微量	8 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子中量	9 にぶい黄褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子少量	10 褐色	ローム粒子中量
5 褐色	ローム粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量		

所見 素掘りの構造である。時期は, 重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。

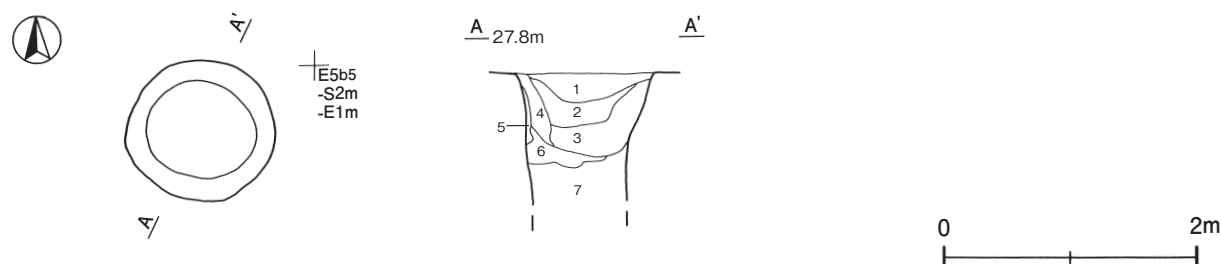


第151図 第38号井戸跡実測図

第40号井戸跡 (第152図)

位置 調査区中央部のE 5 b5区, 標高27.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.14mほどの円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ, 0.88mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。



第152図 第40号井戸跡実測図

覆土 7層に分層される。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- |        |                    |        |               |
|--------|--------------------|--------|---------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・細礫・細砂微量      | 5 暗 褐色 | ロームブロック少量     |
| 2 黒 色  | ローム粒子少量, 細礫・細砂微量   | 6 黒 色  | ローム粒子・細砂微量    |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック微量, 細礫・細砂微量 | 7 黒 色  | 細砂少量, ローム粒子微量 |
| 4 黒 色  | ローム粒子・細礫・細砂微量      |        |               |

所見 素掘りの構造である。時期は、周囲の遺構から16世紀前半と想定できる。

第41号井戸跡 (第153・154図)

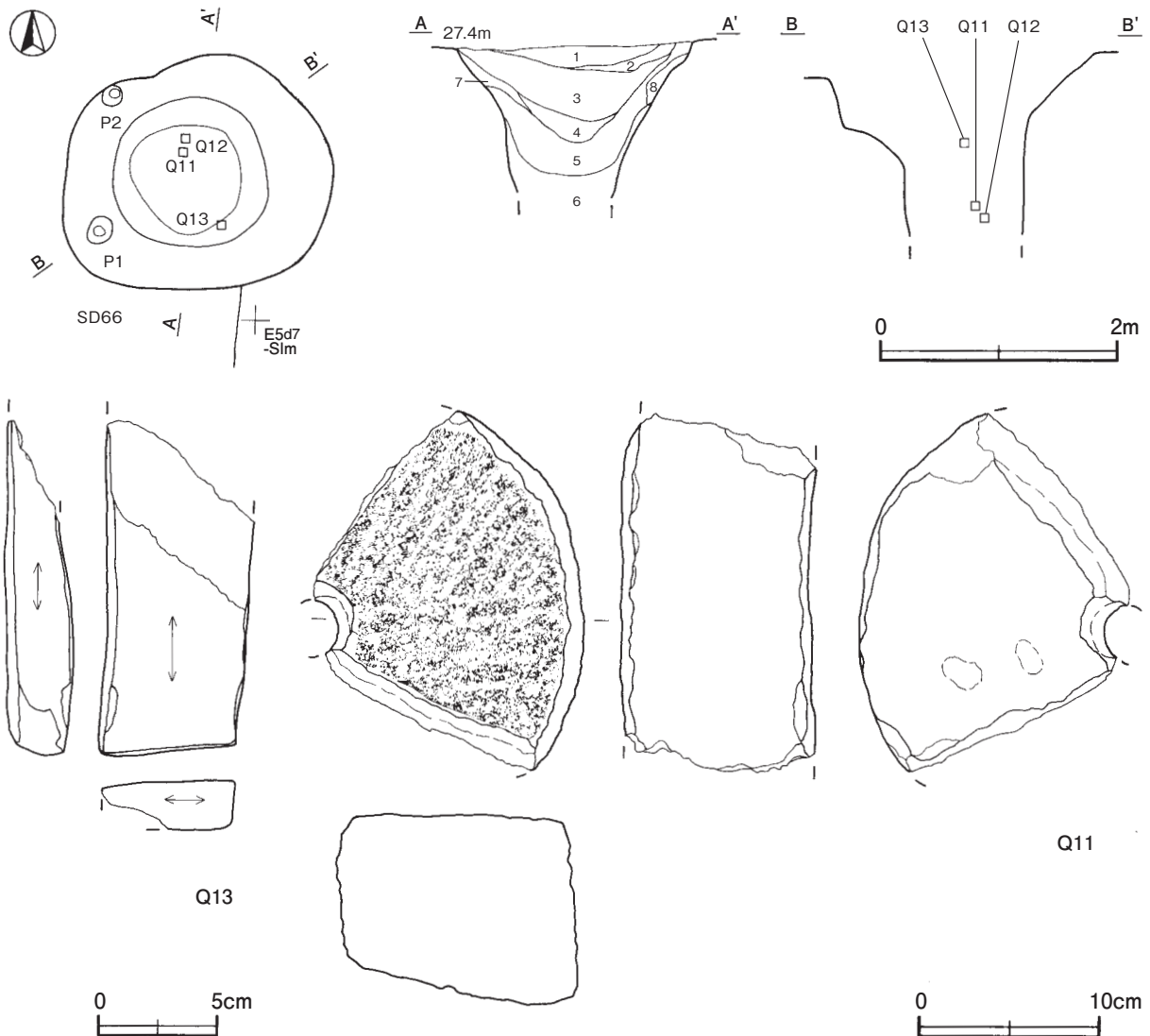
位置 調査区中央部のE 5 c6区, 標高27.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第66号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.25m, 短径1.98mの楕円形で, 検出面から漏斗状に掘り下げられ, 1.12mまで確認したが下層は湧水のため不明である。

ピット 2か所。径は, 南西が25cmで北西が18cmである。性格は不明である。

覆土 8層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。



第153図 第41号井戸跡・出土遺物実測図

## 土層解説

1 黒褐色	細砂中量, ローム粒子少量	6 灰黄褐色	細砂中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・細礫微量
2 黒褐色	細砂中量, ローム粒子・焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子・細砂少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	細砂中量, ローム粒子・焼土粒子・細礫微量	8 黒褐色	細砂中量, ロームブロック微量
4 黒褐色	細砂中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・細礫微量		
5 暗褐色	細砂中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・細礫微量		

遺物出土状況 石器3点(石臼2, 砥石)が出土している。Q11・12は覆土下層から, Q13は覆土中層からの出土である。

所見 素掘りの構造である。時期は, 重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。



第154図 第41号井戸跡出土遺物実測図

第41号井戸跡出土遺物観察表 (第153・154図)

番号	器種	径長さ	孔径幅	高さ 厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q11	石臼(下臼)	[30.4]	[3.8]	10.8	(4010.0)	安山岩	主溝6区画カ 副溝9条一単位カ 芯棒孔一部残存	覆土下層	
Q12	石臼(上臼)	[27.0]	2.4	10.2	(4660.0)	凝灰岩	主溝8区画カ 副溝5条一単位 上面に供給口, 側面に横打込穴, 裏面に芯棒受け・ものくぼり残存	覆土下層	PL29
Q13	砥石	(14.0)	6.2	2.6	(316.0)	粘板岩	端部欠損 砥面3面	覆土中層	PL27

## 第42号井戸跡 (第155図)

位置 調査区南東部のH10d1区, 標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第108号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.35mほどの円形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ, 0.84mまで確認したが, 下層部は湧水のため不明である。

覆土 4層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

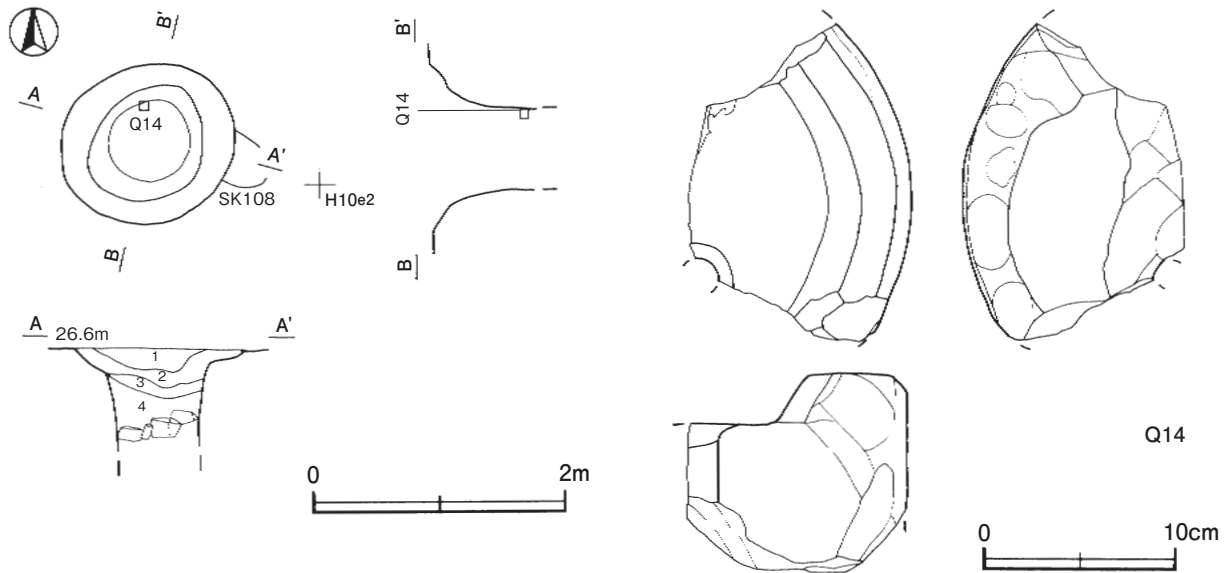
土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量  
2 褐 色 ローム粒子少量

3 褐 色 ローム粒子中量  
4 黒 褐 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 9点（小皿，鍋 8），石器 1点（石臼）が出土している。Q14は覆土下層からの出土である。

所見 素掘りの構造である。時期は，出土土器や周囲の遺構から16世紀代と考えられる。



第155図 第42号井戸跡・出土遺物実測図

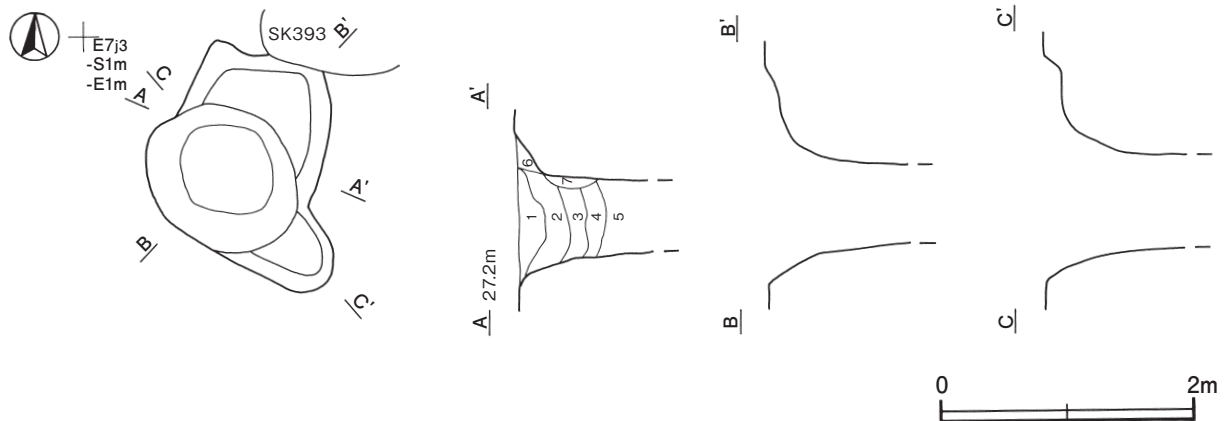
第42号井戸跡出土遺物観察表（第155図）

番号	器種	径	孔径	高さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q14	石臼(上臼)	[25.0]	—	10.5	(2420.0)	安山岩	供給口一部残存 再加工痕	覆土下層	

第43号井戸跡（第156図）

位置 調査区中央部のE 7 j3区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第393号土坑に掘り込まれている。第18号掘立柱建物跡と重複している。



第156図 第43号井戸跡実測図

**規模と形状** 長径1.80m，短径1.70mの不定形である。検出面から漏斗状に掘り下げられ，1.12mまで確認したが，下層部は湧水のため不明である。

**覆土** 7層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                   |       |                  |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子・細礫微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・細礫微量   | 6 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量   |
| 3 黒褐色 | 細砂少量，ロームブロック微量    | 7 暗褐色 | ローム粒子少量          |
| 4 黒褐色 | 細砂少量，ローム粒子微量      |       |                  |

**所見** 素掘りの構造である。第18号掘立柱建物跡は上屋と想定され，時期は，周囲の遺構から，15世紀後半と考えられる。性格は，周囲に形成されている墓域に関連するものと推測される。

**第44号井戸跡（第157図）**

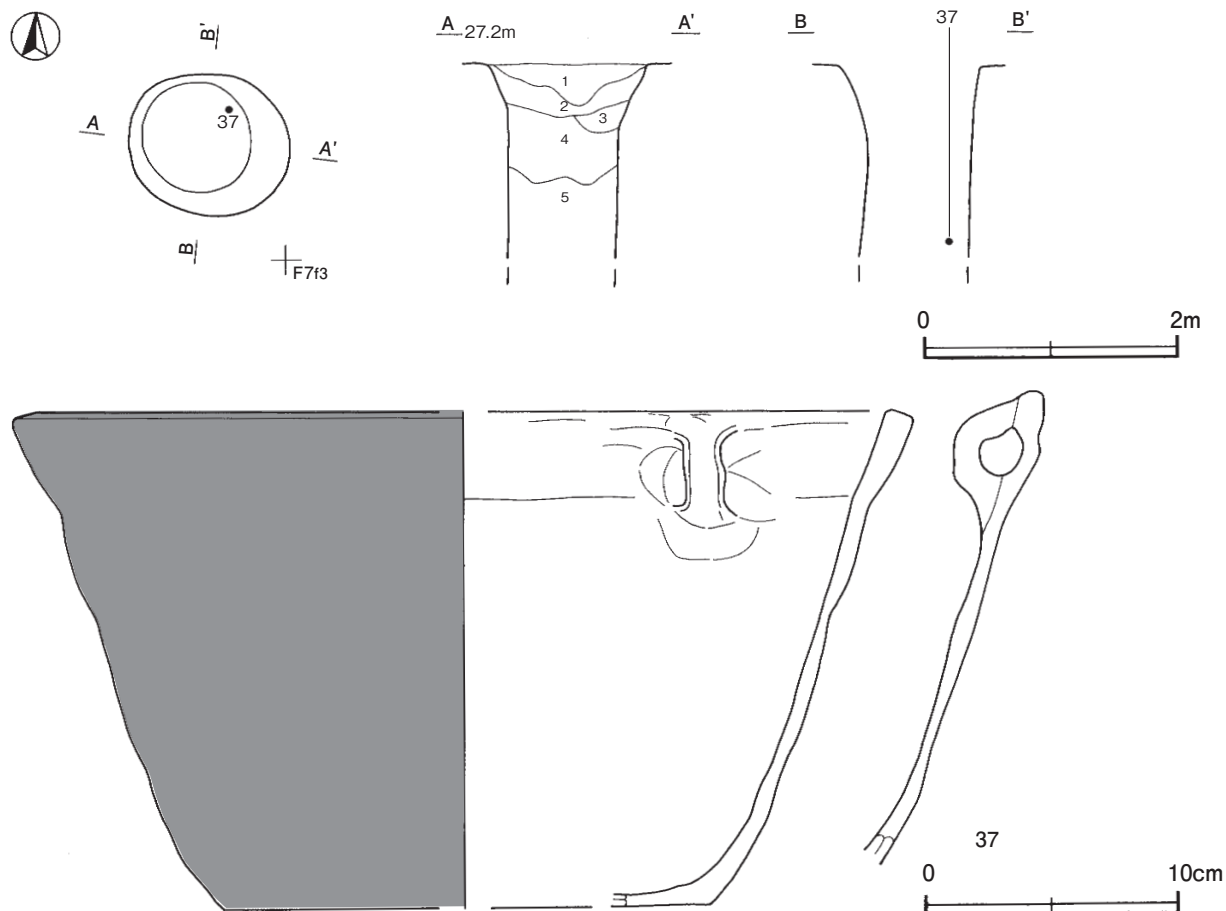
**位置** 調査区中央部のF7e2区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.30m，短径1.15mの楕円形である。検出面から円筒状に掘り下げられ，1.37mまで確認したが，下層部は湧水のため不明である。

**覆土** 5層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                |       |                   |
|-------|----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量      | 4 黒色  | 細砂少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，細礫微量 | 5 黒褐色 | 細砂少量，細礫・ローム粒子微量   |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量      |       |                   |



第157図 第44号井戸跡・出土遺物実測図



遺物出土状況 土師質土器片24点（小皿2，鍋類22）が出土している。37は覆土下層からの出土である。

所見 素掘りの構造である。時期は，出土土器や周囲の遺構から16世紀代と考えられる。

第44号井戸跡出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	20.4	[19.4]	長石・石英・礫・ 金雲母多量	赤褐	普通	(1) 耳 ロクロ成形 外面煤付着	覆土下層	30%

表26 井戸跡一覧表

番号	位 置	長軸(径)方向	平面形	規 模 (m)		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
1	H10g5	—	円形	1.14 × 1.08	1.22	垂直	平坦	人為	土師質土器, 鉄製品	
2	I10b5	N-90°	楕円形	1.14 × 0.92	1.05	垂直	平坦	人為	土師質土器	
3	I10b6	N-30°-W	楕円形	1.52 × 1.33	1.23	垂直	平坦	人為	土師質土器	
4	H10g7	N-84°-E	楕円形	1.02 × 0.78	1.53	垂直	平坦	人為	土師質土器, 石器	
5	H10i5	N-5°-E	楕円形	1.46 × 1.05	1.35	漏斗状	平坦	人為	土師質土器, 須恵器, 石製品	
6	H10f4	—	円形	0.83 × 0.82	1.02	垂直	凹凸	人為	縄文土器	
7	H10h3	—	円形	0.85 × 0.84	1.14	垂直	平坦	人為	土師質土器	
8	H10g7	N-58°-E	楕円形	1.74 × 1.02	1.17	漏斗状	平坦	人為	—	SE10→本跡
9	H10g3	—	円形	0.84 × 0.80	1.40	垂直	平坦	人為	土師質土器	
10	H10g8	N-74°-E	楕円形	1.45 × 1.29	1.18	漏斗状	凹凸	人為	土師質土器, 土師器	本跡→SE8
11	H10i4	—	円形	1.33 × 1.24	1.22	垂直	皿状	人為	土師質土器, 石器	本跡→SD20
12	H10j1	—	円形	1.08 × 1.01	(0.79)	垂直	不明	人為	土師質土器	本跡→SD11
13	H10f1	—	円形	0.86 × 0.83	(0.59)	垂直	不明	人為	—	
14	G9i4	N-38°-E	楕円形	1.65 × 1.31	(0.88)	漏斗状	不明	人為	土師質土器, 陶器, 石器	
15	H9c5	N-34°-E	[楕円形]	(2.25) × (1.02)	(1.18)	漏斗状	不明	人為	土師質土器, 瓦	
16	G8h7	N-30°-W	楕円形	2.95 × 1.40	(0.91)	漏斗状	不明	人為	石器	本跡→PG3
17	H9c3	N-74°-W	[楕円形]	(1.58) × (0.70)	(0.74)	漏斗状	不明	人為	—	SD17・18→本跡
18	G9i8	—	円形	1.35 × 1.34	(0.55)	漏斗状	不明	人為	土師質土器	SD8→本跡
19	G9i8	N-79°-E	[楕円形]	0.89 × (0.54)	(0.74)	漏斗状	不明	人為	—	
20	H9a1	—	円形	0.79 × 0.79	(0.74)	垂直	不明	人為	磁器, 木製品	
21	H9e8	—	円形	0.89 × 0.84	(0.79)	外傾	不明	人為	土師質土器	本跡→SD8
22	G8d5	N-56°-E	楕円形	2.78 × 2.42	(1.14)	外傾	不明	人為	—	
23	F7d1	N-90°	[楕円形]	2.10 × (1.38)	(0.85)	漏斗状	不明	人為	土師質土器	
24	F7d5	N-73°-E	楕円形	1.10 × 0.90	0.86	外傾	平坦	人為	—	
25	F7f7	N-62°-E	楕円形	1.43 × 1.26	(0.86)	漏斗状	不明	人為	土師質土器	
26	F7f0	—	円形	1.20 × 1.20	(0.80)	漏斗状	不明	人為	土師質土器, 陶器	SE27→本跡
27	F7f0	—	円形	1.20 × 1.18	0.59	外傾	皿状	人為	—	本跡→SE26
28	F8f1	—	円形	0.87 × 0.87	(0.57)	垂直	不明	人為	—	
29	F7c7	N-55°-E	楕円形	3.68 × 1.30	(1.12)	漏斗状	不明	人為	—	本跡→SK368, PG2
30	G7b8	N-52°-W	[楕円形]	2.00 × (1.15)	(1.22)	漏斗状	不明	人為	土師質土器, 石器	
31	F7g6	—	円形	1.07 × 1.00	(0.90)	垂直	不明	人為	土師質土器	
32	G8c2	—	円形	1.13 × 1.13	(0.68)	垂直	不明	人為	—	
33	H9a3	—	円形	0.85 × 0.80	0.76	垂直	不明	人為	土師質土器, 鉄製品	
34	G7c9	N-70°-E	楕円形	1.57 × 1.22	(0.98)	漏斗状	不明	人為	石器	
35	E6h5	—	円形	1.58 × 1.50	(1.10)	漏斗状	不明	人為	土師質土器, 陶器	
36	E6i9	—	円形	1.15 × 1.12	(1.36)	垂直	不明	人為	土師質土器, 陶器	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
37	H 9 a3	—	円形	1.38 × 1.32	(0.88)	垂直	不明	人為	土師質土器	本跡→PG3
38	E 6 i8	N-55°-W	楕円形	2.28 × 1.56	(1.22)	漏斗状	不明	人為	—	
40	E 5 b5	—	円形	1.14 × 1.10	(0.88)	垂直	不明	人為	—	
41	E 5 c6	N-70°-E	楕円形	2.25 × 1.98	(1.12)	漏斗状	不明	人為	石器	SD66→本跡
42	H10d1	—	円形	1.35 × 1.30	(0.84)	漏斗状	不明	人為	土師質土器, 石器	SK108→本跡
43	E 7 j3	—	不定形	1.80 × 1.70	(1.12)	漏斗状	不明	人為	—	本跡→SK393
44	F 7 e2	N-60°-W	楕円形	1.30 × 1.15	(1.37)	垂直	不明	人為	土師質土器	

#### (4) 火葬土坑

調査区中央部に火葬土坑4基が隣接して確認された。周辺には墓坑を伴っており、当該期には墓域が形成されていたと想定される。墓域は、居住域から100mほど北西に設けたと考えられる。

火葬土坑は、火葬後そのまま埋葬したものと、拾骨をして別の場所に埋葬したものが考えられるが、土坑内部の火熱痕や土坑の形状および出土遺物から墓坑と区別した。構造については、空気を取り込む坑を「開口部」、開口部底面から燃焼部底面にかけて通気を促進するために掘られた溝を「通気溝」、遺骸を火葬した坑を「燃焼部」と捉え記述した。「通気溝」については、該当する形状がなかったために記述していない。なお、主軸方向は燃焼部の長軸方向とした。

#### 第1号火葬土坑（第158図）

**位置** 調査区中央部のF7b5区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第694号土坑を掘り込んでいる。

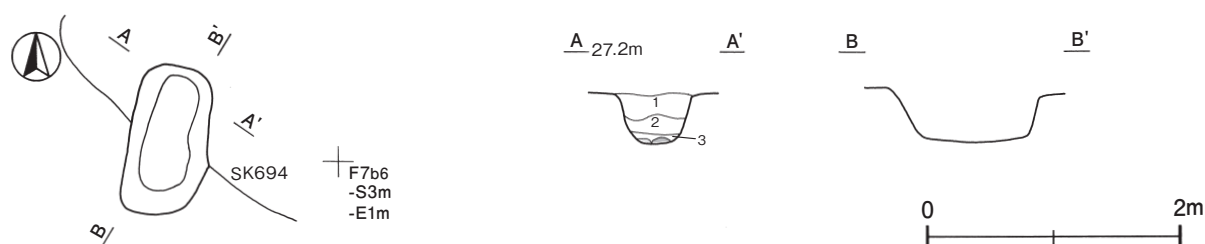
**規模と形状** 長軸1.21m、短軸0.63mの隅丸長方形で、長軸方向はN-14°-Eである。深さは40cmで、壁は長軸方向で外傾し、短軸方向では直立している。横断面形はU字状で、底面は平坦である。底面から壁面にかけては、火による赤変硬化が見られる。

**覆土** 3層に分層される。ブロック状の投入を示した人為堆積である。第2からは骨片が、第3層からは骨片と炭化物が検出されている。

##### 土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量      3 極暗褐色 炭化物少量、ローム粒子・骨片微量  
2 暗赤褐色 炭化物少量、焼土粒子・骨片微量

**遺物出土状況** 中層からは、炭化物や焼土粒子に混じって骨片が出土している。赤変した底面からは、骨粉が検出されている。



第158図 第1号火葬土坑実測図

所見 底面から壁面にかけて、火による赤変硬化が見られることや、骨片・骨粉が検出されたことから、本跡での火葬後にそのまま埋め戻したものと推測される。時期は、出土遺物がないため判然としないが、周囲の遺構から、15世紀後半と考えられる。

### 第2号火葬土坑（第159図）

位置 調査区中央部のF7a4区、標高26.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第280号土坑、第2号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 T字状である。燃烧部は、長軸0.99m、短軸0.42mの隅丸長方形で、長軸方向はN-1°-Eである。深さは30cmで、東壁は外傾し、西壁は開口部に向かって緩やかに立ち上がっている。底面は平坦で、壁面および底面は、一部火による赤変が見られる。開口部は、長径0.98m、短径0.58mの楕円形で、深さは26cmである。西壁は緩やかに立ち上がり、東側の燃烧部に向かって緩やかに落ち込んでいる。底面は皿状である。

ピット 開口部の西壁にP1が確認されているが、性格は不明である。

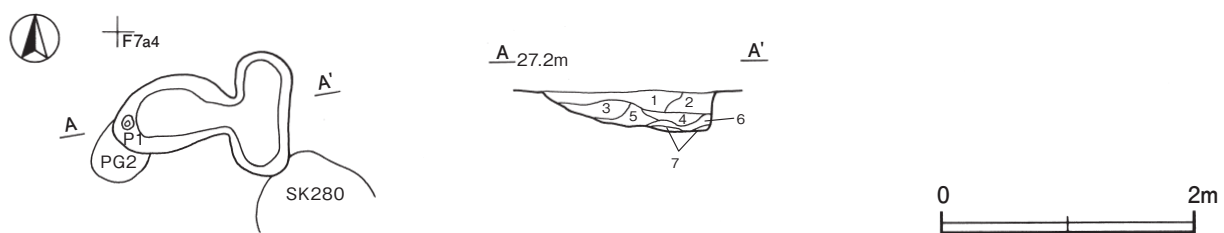
覆土 7層に分層される。ブロック状の投入を示した堆積状況による人為堆積である。第4層からは骨片が検出されている。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	6 暗赤褐色	焼土粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	7 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
4 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量		

遺物出土状況 燃烧部の南壁際からは、長径20cmで上面が平坦な花崗岩が出土し、第4層からは炭化物や焼土粒子に混じって骨片が検出されている。

所見 底面から壁面にかけて、火による赤変硬化が見られることや、燃烧部中央に骨片が検出されたことから、本跡での火葬後にそのまま埋め戻したものと推測される。時期は、出土遺物がなく判然としないが、周囲の遺構から、15世紀後半と考えられる。



第159図 第2号火葬土坑実測図

### 第3号火葬土坑（第160図）

位置 調査区中央部のF7a6区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第450・453号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 T字状である。燃烧部は、長径0.95m、短径0.54mの楕円形で、長径方向はN-1°-Eである。深さは40cmで、壁は緩やかに立ち上がり、底面は皿状である。東壁面および底面には、焼土が見られる。開口部は、長径0.98m、短径0.62mの楕円形で、深さは24cmである。西壁は外傾して立ち上がり、東側の燃烧部に向かって緩やかに落ち込んでいる。底面は平坦である。

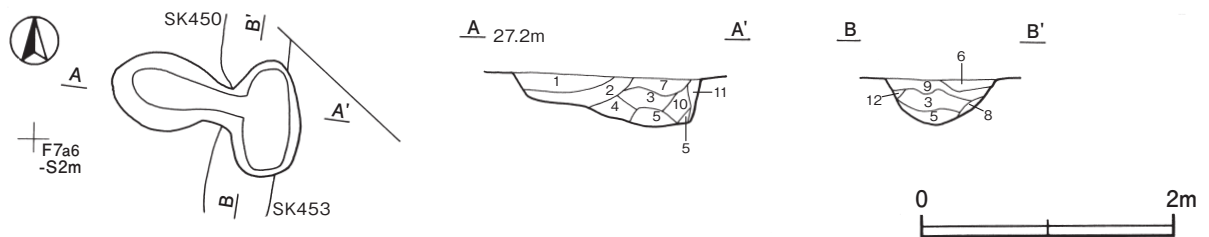
覆土 12層に分層される。ブロック状の投入を示した人為堆積である。第5層からは骨片が検出されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 細礫微量
3	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	9	黒褐色	ローム粒子少量, 細礫微量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 燃焼部の北部から南西部にかけての底面からは、骨片がまばらに検出されている。

所見 燃焼部の底面から壁面にかけて焼土が多く見られることや、底面から骨片が検出されたことから、本跡での火葬後にそのまま埋め戻したものと推測される。時期は、出土遺物がなく判然としないが、周囲の遺構から、15世紀後半と考えられる。



第160図 第3号火葬土坑実測図

第4号火葬土坑 (第161図)

位置 調査区中央部のF 5 a4区, 標高27.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 T字状である。燃焼部は、長軸1.39m, 短軸0.52mの隅丸長方形で、長軸方向はN-5°-Wである。深さは19cmで、壁は外傾して立ち上がり、底面は皿状である。開口部は、長軸0.75m, 短軸0.25mの隅丸長方形で、深さは10cmである。西壁は外傾して立ち上がり、東側は燃焼部に向かって緩やかに落ち込んでいる。底面は平坦である。

ピット 燃焼部の南東部にP1が確認されているが、性格は不明である。

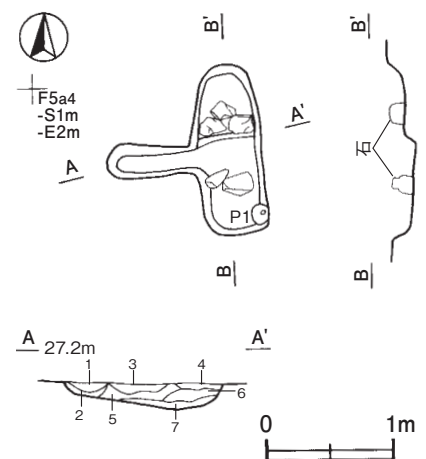
覆土 7層に分層される。ブロック状の投入を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	黒色	炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	6	黒色	炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7	にぶい黄褐色	炭化粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量			

遺物出土状況 燃焼部中央東側の床面から、骨片がまとまって検出されている。燃焼部内を南北に3区画するように、開口部壁面の延長上には、長径が16~24cm, 高さが10~18cmの上面が平坦な礫及び花崗岩が並べられている。礫や花崗岩の上部には火を受けた痕跡が見られる。

所見 燃焼部から骨片が検出されており、本跡での火葬後にそのまま埋め戻したものと推測される。礫及び花崗岩は燃焼部を南北に3区画しており、中央の区画の通気を促進させたり薪などの燃料を入れる空間を確保するために使用されたものと想定される。内側上面の火を受けた痕跡は、上方の火力が強かったためと考えられる。石の上面が平坦になるように設置されていることから、その上に遺骸



第161図 第4号火葬土坑実測図

を乗せて火葬したものと考えられる。時期は、出土遺物がなく判然としないが、周囲の遺構から、15世紀後半と考えられる。

表27 火葬土坑一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規 模 (m)								覆 土	主 な 出 土 遺 物 及 び 人 骨 の 有 無	備 考 重複関係(古→新)
				燃 焼 部 (m)				開 口 部 (m)						
				長軸径×短軸径	深さ(cm)	平面形	底面	長軸径×短軸径	深さ(cm)	平面形	底面			
1	F 7 b5	N-14°-E	隅丸長方形	1.21×0.63	40	隅丸長方形	平坦	—	—	—	—	人為	人骨有	SK694→本跡
2	F 7 a4	N-1°-E	T字状	0.99×0.42	30	隅丸長方形	平坦	0.98×0.58	26	楕円形	緩斜	人為	人骨有	SK280・PG2→本跡
3	F 7 a6	N-1°-E	T字状	0.95×0.54	40	楕円形	皿状	0.98×0.62	24	楕円形	平坦	人為	人骨有	SK450・453→本跡
4	F 5 a4	N-5°-W	T字状	1.39×0.52	19	隅丸長方形	皿状	0.75×0.25	10	隅丸長方形	平坦	人為	人骨有	

(5) 墓坑

墓坑の可能性のある土坑は、10基が検出された。墓坑と捉えた基準は、六道銭と考えられる古銭や、副葬したと考えられる刀子などの出土と、炭化物や炭化粒子を含む覆土によるものである。以下、遺構と遺物について記述する。

第1号墓坑（第162図）

位置 調査区南東部のG 9 e1区、標高26.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴の重複は見られず新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.88m、短径0.70mの楕円形で、長径方向はN-36°-Eである。深さは24cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。堆積状況から一気に埋め戻している。

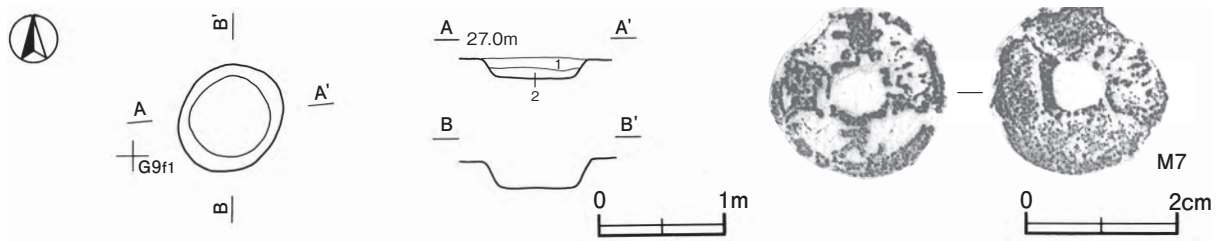
土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化物微量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 古銭1点が出土している。M 7（景德元寶）は、覆土中からの出土である。

所見 古銭が出土したことから、墓坑の可能性が考えられる。時期は、重複関係や周囲の遺構から、15世紀後半と想定される。



第162図 第1号墓坑・出土遺物実測図

第1号墓坑出土遺物観察表（第162図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 7	景德元寶	2.3	0.7	(1.5)	1004	銅	北宋 背無	覆土中	PL30

## 第2号墓坑（第163図）

位置 調査区中央部のF 7 e8区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11・12号掘立柱建物、第283号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径は1.25m、東西径0.67mだけが確認され、楕円形と想定される。長径方向はN-9°-Eである。深さ16cmで、底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。ピットが1か所確認されている。

覆土 2層に分層される。堆積状況から一気に埋め戻している。

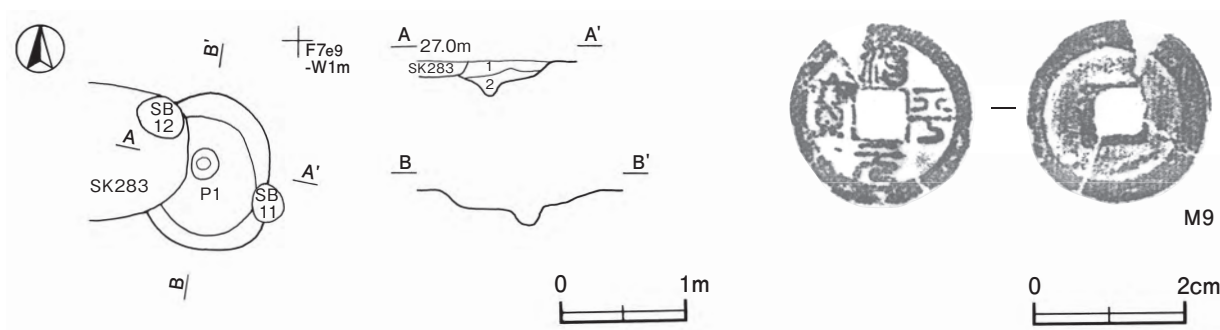
## 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 古銭1点が出土している。M9（治平元寶）は、覆土中からの出土である。

所見 古銭が出土したことから、墓坑の可能性が考えられる。時期は、重複関係から15世紀中葉から後葉と考えられる。



第163図 第2号墓坑・出土遺物実測図

## 第2号墓坑出土遺物観察表（第163図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M9	治平元寶	2.4	0.6	(2.1)	1064	銅	北宋 背無	覆土中	PL30

## 第3号墓坑（第164図）

位置 調査区中央部のF 7 e9区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第294号土坑を掘り込み、第12号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.93m、短径0.83mの楕円形で、長径方向はN-5°-Wである。深さは10cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ピットが、1か所確認されている。

覆土 単一層である。炭化粒子を少量含む人為堆積である。

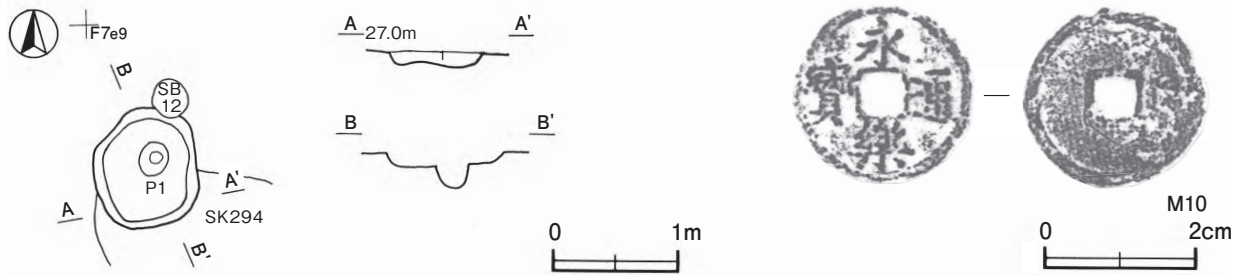
## 土層解説

1 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 古銭1点が出土している。M10（永樂通寶）は、覆土中からの出土である。

所見 古銭が出土したことから、墓坑の可能性が考えられる。時期は、重複関係や出土遺物から15世紀中葉から後葉と考えられる。





第164図 第3号墓坑・出土遺物実測図

第3号墓坑出土遺物観察表（第164図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M10	永樂通寶	2.4	0.6	2.1	1408	銅	明 背無	覆土中	PL30

#### 第4号墓坑（第165図）

位置 調査区中央部のF7d6区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.14m、短径0.73mの楕円形で、長径方向はN-24°-Eである。深さ35cm、底面は傾斜し、壁は外傾して立ち上がっている。南側に、ピットが3か所確認されている。

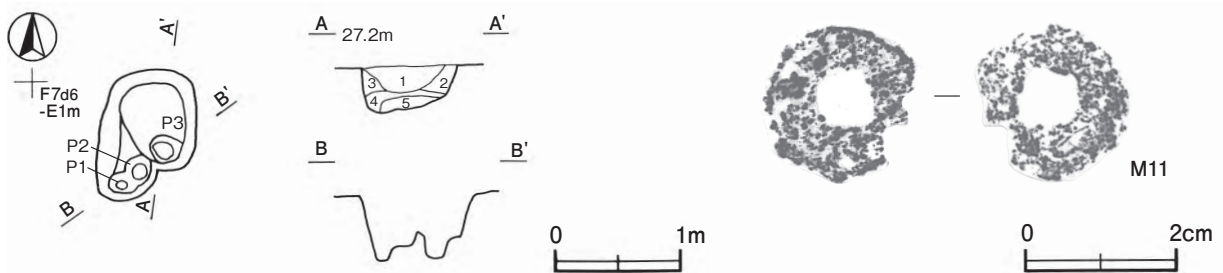
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

##### 土層解説

- |         |                        |         |                   |
|---------|------------------------|---------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子・黒色粒子微量 | 4 暗 褐 色 | 黒色粒子少量, ローム粒子微量   |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量      | 5 褐 色   | ロームブロック中量, 黒色粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 黒色粒子微量        |         |                   |

遺物出土状況 古銭1点（不明）が出土している。M11は、覆土中からの出土である。

所見 古銭が出土したことから、墓坑の可能性が考えられる。時期は、規模や形状、周囲の遺構から15世紀後半と考えられる。



第165図 第4号墓坑・出土遺物実測図

第4号墓坑出土遺物観察表（第165図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M11	不明	2.1	0.8	(1.0)	—	銅	背無	覆土中	



## 第5号墓坑（第166図）

位置 調査区北西部のC3h7区、標高27.8mの台地平坦部に位置している。

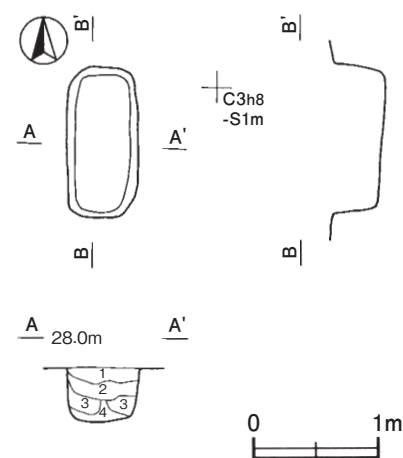
規模と形状 長軸1.22m、短軸0.57mの隅丸長方形で、長軸方向はN-0°である。深さは42cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

## 土層解説

- |   |     |         |
|---|-----|---------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 | 褐色  | ローム粒子中量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量 |

所見 第6～8号墓坑と主軸方向を揃えて並んでおり、規模や形状も似ていることから、墓坑の可能性が考えられる。時期は、周囲の遺構から16世紀代から17世紀初頭と考えられる。



第166図 第5号墓坑実測図

## 第6号墓坑（第167図）

位置 調査区北西部のC3h8区、標高27.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.56m、短軸は1.10mの隅丸長方形で、長軸方向はN-0°である。深さは49cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

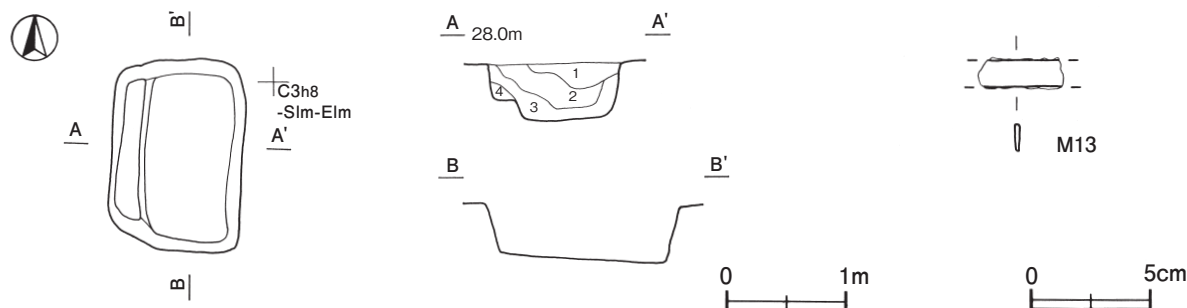
覆土 4層に分層される。西方向からの投入を示す堆積状況から、人為堆積である。

## 土層解説

- |   |     |         |   |     |                |
|---|-----|---------|---|-----|----------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 | 暗褐色 | ロームブロック微量      |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 | 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）、鉄製品1点（刀子）が出土している。M13は、覆土中からの出土である。土師質土器片は、細片のため掲載できない。

所見 副葬品と考えられる刀子が出土したことから、墓坑の可能性が考えられる。時期は、出土遺物から16世紀代から17世紀初頭と考えられる。



第167図 第6号墓坑・出土遺物実測図

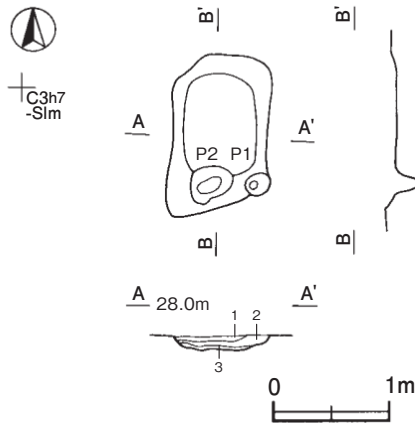
## 第6号墓坑出土遺物観察表（第167図）

番号	銭名	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	刀子	(3.7)	1.4	0.3	(3.9)	鉄	両端部欠損	覆土中	PL31

### 第7号墓坑（第168図）

位置 調査区北西部のC 3h7区，標高27.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.36m，短径0.85mの不定形で，長径方向はN-0°である。深さは5cmで，底面は平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。南側に，ピットが2か所確認されている。



覆土 3層に分層される。西方向からの投入を示す堆積状況から，人為堆積である。

#### 土層解説

1	褐色	ローム粒子中量
2	黒褐色	ローム粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片1点（鍋）が，覆土中から出土している。遺物は細片のため掲載できない。

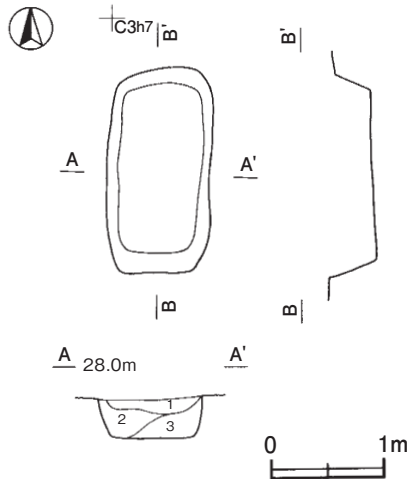
所見 第5・6・8号墓坑と主軸方向を揃えて並んでおり，規模や形状も似ていることから，墓坑の可能性が考えられる。時期は，出土遺物や周囲の遺構から16世紀代から17世紀初頭と考えられる。

第168図 第7号墓坑実測図

### 第8号墓坑（第169図）

位置 調査区北西部のC 3h7区，標高27.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.81m，短軸0.92mの隅丸長方形で，長軸方向はN-0°である。深さは41cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。



覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

1	褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 陶器片1点（碗）が出土している。遺物は，細片のため掲載できない。

所見 第5～7号墓坑と主軸方向を揃えて並んでおり，規模や形状も似ていることから，墓坑の可能性が考えられる。時期は，出土遺物や周囲の遺構から16世紀代から17世紀初頭と考えられる。

第169図 第8号墓坑実測図

### 第9号墓坑（第170図）

位置 調査区南東部のG 9f2区，標高26.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.13m，短径0.85mの楕円形で，長径方向はN-6°-Wである。深さは9cmで，底面は凸凹で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。一方向からの投入を示す堆積状況から，人為堆積である。

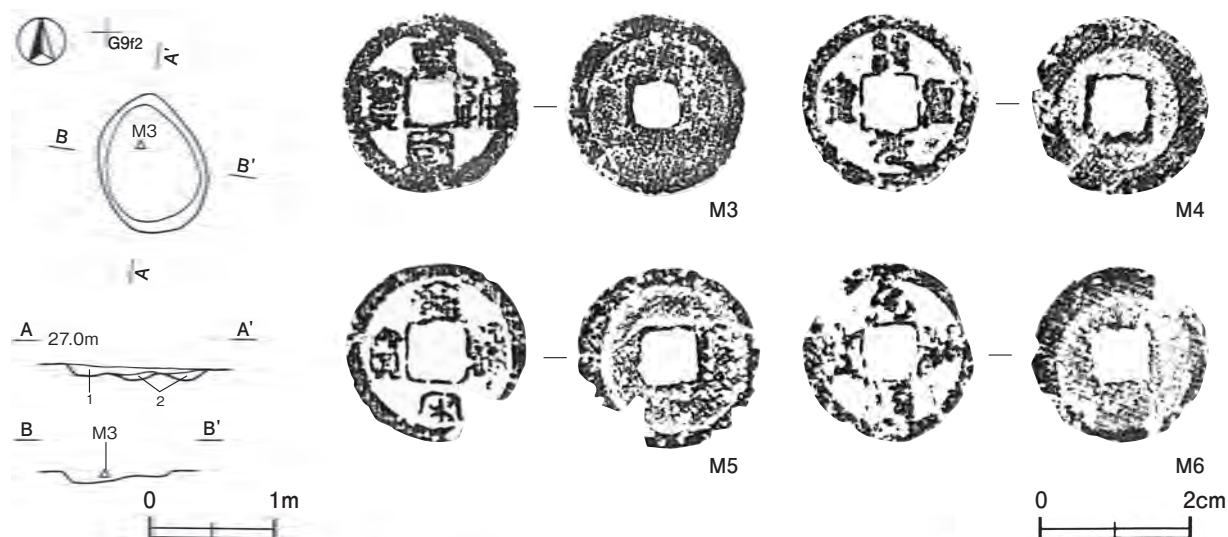
## 土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

2 褐 色 ローム粒子中量, 細礫微量

遺物出土状況 土師質土器片が1点(鍋), 古銭が4点出土している。M3(唐國通寶)は, 覆土上層からの出土で, M4(紹聖元寶カ), M5(皇宋通寶カ), M6(元祐通寶)は, それぞれ覆土中からの出土である。

所見 古銭の出土や形状から, 墓坑の可能性が考えられる。時期は, 出土遺物や周囲の遺構から15世紀後半と考えられる。



第170図 第9号墓坑・出土遺物実測図

## 第9号墓坑出土遺物観察表(第170図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M3	唐國通寶	2.4	0.6	2.8	959	銅	南唐 背無	覆土上層	PL30
M4	紹聖元寶カ	2.4	0.8	2.2	1094	銅	北宋 背無	覆土中	PL30
M5	皇宋通寶カ	2.5	0.7	(2.7)	1038	銅	北宋 背無	覆土中	PL30
M6	元祐通寶	2.4	0.7	(1.7)	1086	銅	北宋 背無	覆土中	PL30

## 第10号墓坑(第171図)

位置 調査区中央部のF7g3区, 標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第219号土坑を掘り込んでいます。

規模と形状 T字状の墓坑である。燃焼部は, 長軸3.22m, 短軸0.84mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-3°-Wである。深さは11cmで, 壁はなだらかに立ち上がっている。底面は平坦である。開口部は, 長径0.68m, 短径0.56mの楕円形で, 深さは8cmである。西壁は緩やかに立ち上がり, 東側の燃焼部に向かって緩やかに落ち込んでいる。底面は平坦である。

覆土 7層に分層される。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。第1層からは骨片が検出された。

## 土層解説

1 黒 色 炭化物・骨粉少量, ローム粒子・焼土粒子・骨片微量

4 黒 色 ローム粒子微量

2 黒 褐 色 ローム粒子少量

5 暗 褐 色 ローム粒子少量

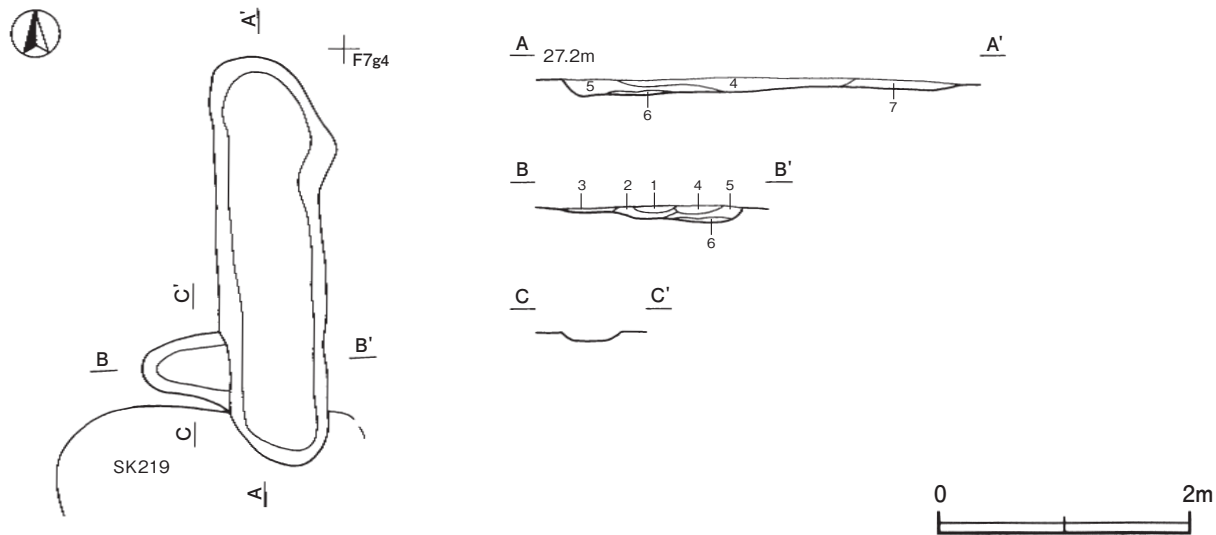
3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化物少量

6 褐 色 ローム粒子中量

7 にぶい黄褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 開口部の覆土上層からは、骨片や骨粉が検出された。

所見 開口部より骨片や骨粉が検出されたことから、墓坑と考えられる。時期は、出土遺物がなく判然としませんが、周囲の遺構や重複関係から15世紀後半と考えられる。



第171図 第10号墓坑実測図

表28 墓坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		底面	壁面	覆土	人骨 (有・無)	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ (cm)						
1	G 9e1	N - 36° - E	楕円形	0.88 × 0.70	24	平坦	外傾	人為	無	古銭	
2	F 7e8	N - 9° - E	[楕円形]	1.25 × (0.67)	16	平坦	緩斜	人為	無	古銭	本跡→SB11・12, SK283
3	F 7e9	N - 5° - W	楕円形	0.93 × 0.83	10	平坦	外傾	人為	無	古銭	SK294→本跡→SB12
4	F 7d6	N - 24° - E	楕円形	1.14 × 0.73	35	傾斜	外傾	人為	無	古銭	
5	C 3h7	N - 0°	隅丸長方形	1.22 × 0.57	42	平坦	外傾	人為	無	—	
6	C 3h8	N - 0°	隅丸長方形	1.56 × 1.10	49	平坦	外傾	人為	無	土師質土器, 刀子	
7	C 3h7	N - 0°	不定形	1.36 × 0.85	5	平坦	緩斜	人為	無	土師質土器	
8	C 3h7	N - 0°	隅丸長方形	1.81 × 0.92	41	平坦	外傾	人為	無	陶器	
9	G 9f2	N - 6° - W	楕円形	1.13 × 0.85	9	凹凸	外傾	人為	無	古銭	
10	F 7g3	N - 3° - W	T字形	3.22 × 1.52	12	平坦	緩斜	人為	有	骨片・骨粉	SK219→本跡

(6) 土坑

中世と考えられる土坑は、246基確認されている。ここでは、遺物が出土している13基について記載し、その他の土坑は、平面図及び実測図、一覧表を掲載する。

第18号土坑 (第172図)

位置 調査区南東部の I 10a3区, 標高26.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.04m, 短径0.58mの楕円形で, 長径方向はN - 15° - Wである。深さ7cmで, 底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

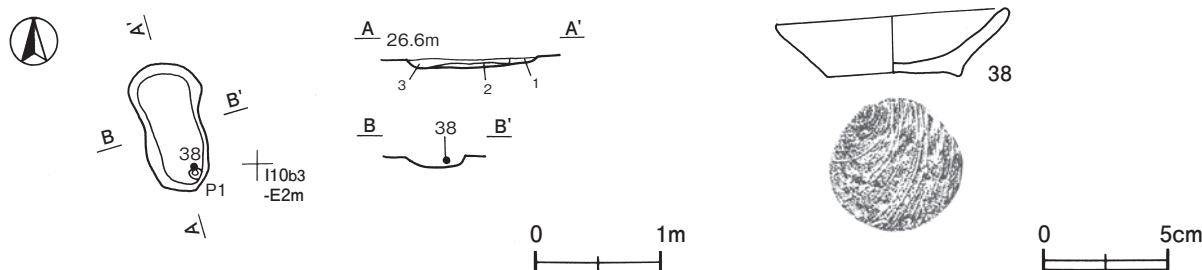
ピット 南部の壁際に1か所確認されているが, 性格は不明である。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説  
 1 黒褐色 ローム粒子微量 3 褐色 ローム粒子中量  
 2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器1点(小皿)が出土している。38は覆土上層からの出土である。

所見 時期は、出土遺物から15世紀後葉には埋没したと考えられる。性格は不明である。



第172図 第18号土坑・出土遺物実測図

第18号土坑出土遺物観察表(第172図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
38	土師質土器	小皿	9.2	2.7	5.4	長石・石英・金雲母中量	にぶい赤褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中層	100% PL32

第48号土坑(第173図)

位置 調査区南東部のG9i2区、標高26.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第49号土坑に掘り込まれている。第25号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴の重複は見られず新旧関係は不明である。

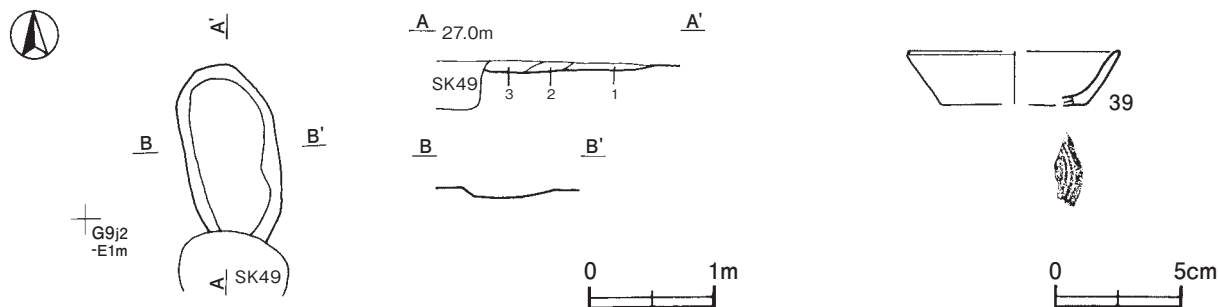
規模と形状 長径1.47m、短径0.73mの楕円形で、長径方向はN-11°-Wである。深さは9cmで、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ブロック状の投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説  
 1 灰褐色 ローム粒子中量 3 褐色 ロームブロック少量  
 2 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片5点(小皿, 鍋4)が出土している。39は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土遺物から16世紀代と考えられる。性格は不明である。



第173図 第48号土坑・出土遺物実測図

第48号土坑出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
39	土師質土器	小皿	[8.2]	2.1	[5.6]	長石・スコリア	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中	20%

第91号土坑（第174図）

位置 調査区南東部のG 9 i1区，標高26.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.81m，短径0.68mの楕円形で，長径方向はN-17°-Eである。深さは40cmで，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

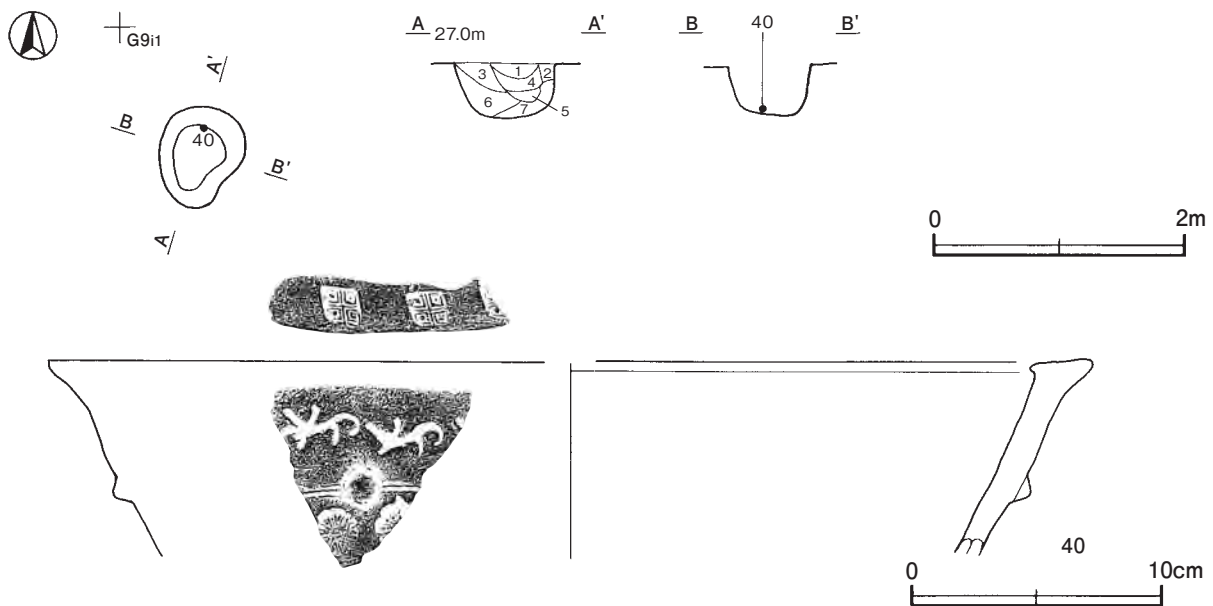
覆土 7層に分層される。ブロック状の投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	5	黒褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック中量	6	暗褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック少量	7	褐色	ローム粒子中量，炭化物少量
4	暗褐色	ロームブロック少量，黒色粒子微量			

遺物出土状況 土師質土器片1点（火鉢）が出土している。40は覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土遺物から16世紀代と考えられる。性格は不明である。



第174図 第91号土坑・出土遺物実測図

第91号土坑出土遺物観察表（第174図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
40	土師質土器	火鉢	[42.0]	(7.8)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面花文・唐草文のスタンプ文 円錐状貼り付け 口縁部上面雷文のスタンプ文	覆土下層	20%

第231号土坑（第175図）

位置 調査区中央部のF 7 g2区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第234・251・297号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.28m，短軸1.00mの隅丸長方形で，長軸方向はN-5°-Eである。深さは50cmで，底面は

平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

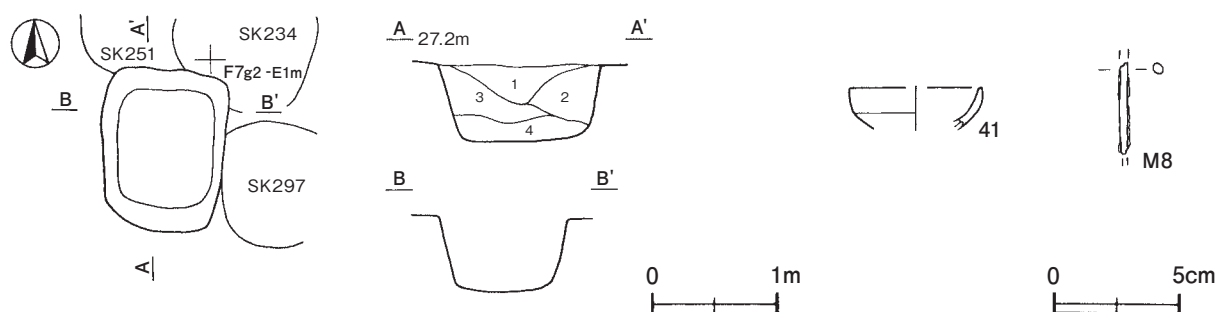
覆土 4層に分層される。ブロック状の投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、細礫微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量    |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量      | 4 黒褐色 ロームブロック・細礫微量 |

遺物出土状況 土師質土器片4点（鍋）、陶器片1点（小皿）、鉄製品1点（釘）が出土している。41・M8は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物や周囲の遺構から15世紀後半から17世紀初頭と考えられる。性格は不明である。



第175図 第231号土坑・出土遺物実測図

第231号土坑出土遺物観察表（第175図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
41	陶器	小皿	[5.2]	(1.7)	—	緻密 灰釉	灰黄色	緻密	緑釉 浸け掛け	覆土中	10% 瀬戸

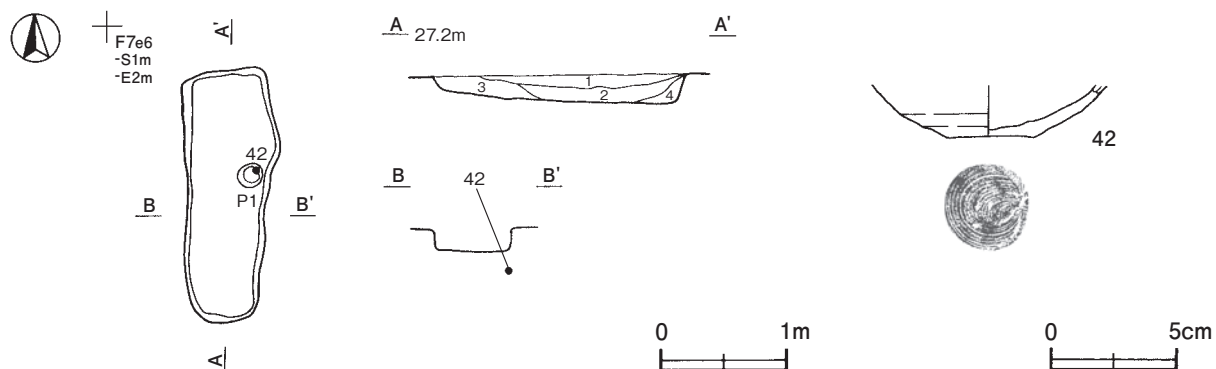
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	釘	(3.5)	0.4	0.4	(1.1)	鉄	頭部欠損 脚部先端欠損	覆土中	

第310号土坑（第176図）

位置 調査区中央部のF7e6区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴の重複は見られず新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸1.98m、短軸0.75mの長方形で、長軸方向はN-0°である。深さは22cmで、底面は平坦で、



第176図 第310号土坑・出土遺物実測図



壁は直立している。

ピット 中央部の東壁際に1か所確認されているが、性格は不明である。

覆土 4層に分層される。南からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 にぶい黄褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が出土している。42は、P1覆土下層からの出土である。

所見 時期は、出土遺物から16世紀中葉頃と考えられる。性格は不明である。

第310号土坑出土遺物観察表(第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	土師質土器	小皿	—	(2.0)	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	70%

第368号土坑(第177図)

位置 調査区中央部のF7b7区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第29号井戸跡を掘り込み、第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.37m、短軸0.62mの隅丸長方形で、長軸方向はN-9°-Wである。深さは20cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 南東部の東壁際に1か所確認されているが、性格は不明である。

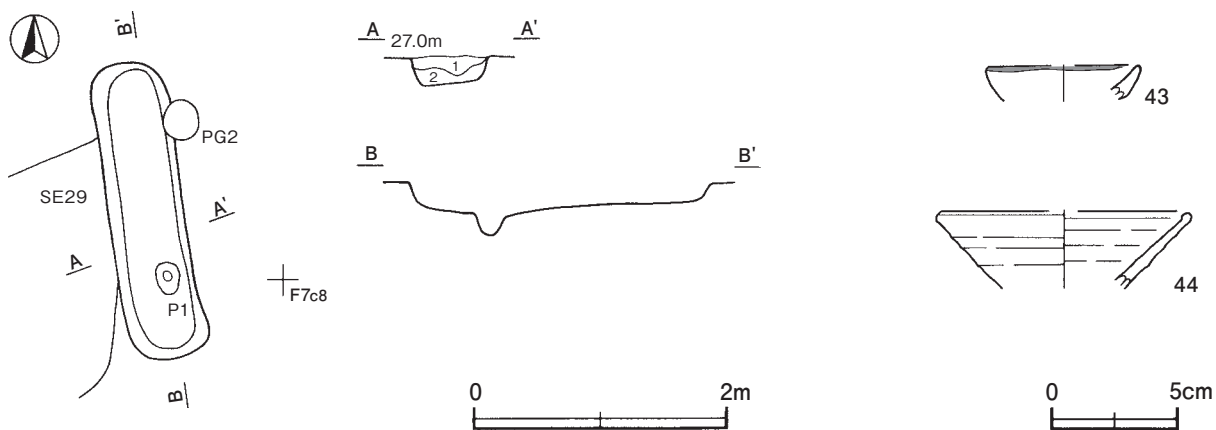
覆土 2層に分層される。短期間で埋め戻したような堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)が出土している。43・44は、それぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土遺物から15世紀後半から16世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第177図 第368号土坑・出土遺物実測図

第368号土坑出土遺物観察表(第177図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
43	土師質土器	小皿	[6.0]	(1.3)	—	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部油煙付着	覆土中	15%
44	土師質土器	小皿	[10.0]	(3.0)	—	長石・石英	灰白色	普通	ロクロ成形	覆土中	20%

## 第423号土坑（第178図）

位置 調査区南東部のH 8 b0区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.05m、短径0.88mの不整楕円形で、長径方向はN-25°-Eである。深さは54cmで、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

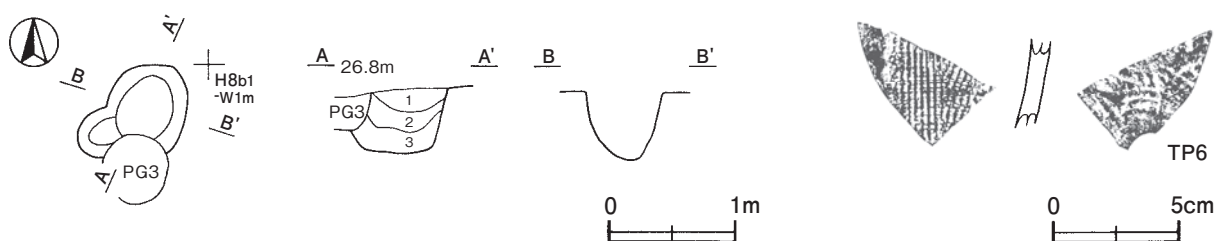
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

## 土層解説

1 褐 色 ローム粒子少量  
2 褐 色 ロームブロック中量  
3 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 混入した須恵器片1点（甕）が出土している。TP6は覆土中からの出土で、本跡より100mほど南東の第8号溝跡から出土しているTP13と同一個体と考えられる。

所見 時期は、第8号溝跡と同時期性がうかがえることから16世紀代と考えられる。性格は不明である。



第178図 第423号土坑・出土遺物実測図

## 第423号土坑出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP6	須恵器	甕	—	(3.6)	—	長石・石英	オリーブ黒 (断面灰赤)	良好	外面細かい格子目叩き 内面同心円文の 当て具痕 自然釉	覆土中	TP13と同一個体 PL26

## 第496号土坑（第179図）

位置 調査区中央部のE 6 h8区、標高27.1mの台地平坦部に位置している。

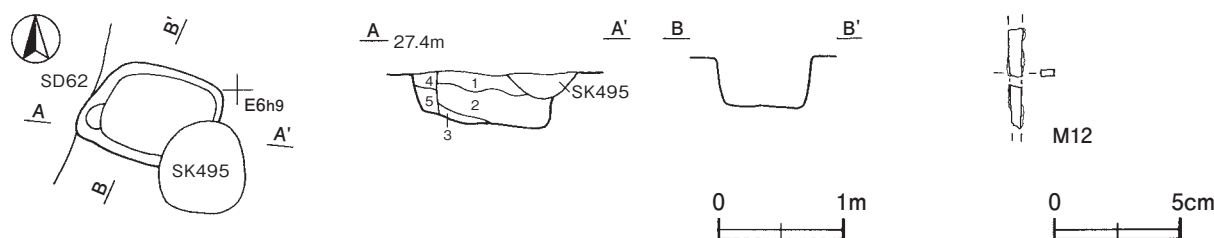
重複関係 第62号溝跡を掘り込み、第495号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸0.99m、短軸0.77mの隅丸長方形で、長軸方向はN-76°-Wである。深さは42cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。西方向からの投入を示す堆積状況から人為体積である。

## 土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
3 黒 褐 色 ローム粒子少量  
4 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
5 暗 褐 色 ローム粒子・黒色粒子少量



第179図 第496号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 鉄製品1点（釘カ）が出土している。M12は、覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係から16世紀後半から17世紀初頭と考えられる。性格は不明である。

第496号土坑出土遺物観察表（第179図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	釘カ	(3.7)	0.6	0.3	(1.0)	鉄	頭部欠損	覆土中	

第498号土坑（第180図）

位置 調査区中央部のE 6 j8区、標高27.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.18m、短軸1.02mの隅丸長方形で、長軸方向はN-8°-Eである。深さは46cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

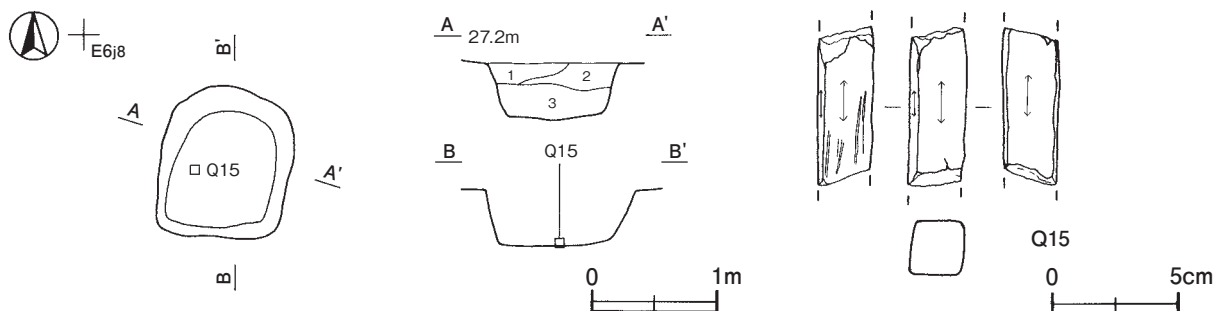
覆土 3層に分層される。短期間で埋め戻したような堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・細礫微量

遺物出土状況 石器1点（砥石）、鉄製品1点（釘）が出土している。Q15は、床面上から出土している。

所見 時期は、周囲の遺構から16世紀から17世紀初頭と考えられる。性格は不明である。



第180図 第498号土坑・出土遺物実測図

第498号土坑出土遺物観察表（第180図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q15	砥石	(5.7)	2.2	2.2	(51.4)	凝灰岩	両端部欠損 砥面4面	床面上	PL27

第500号土坑（第181図）

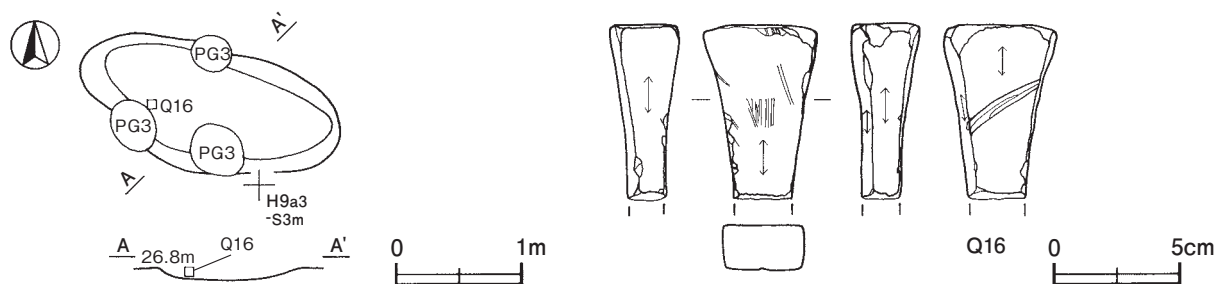
位置 調査区南東部のH 9 a3区、標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.15m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-75°-Eである。深さは9cmで、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

遺物出土状況 石器1点（砥石）が出土している。Q16は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、重複関係や周囲の遺構から15世紀中葉から16世紀代と考えられる。性格は不明である。



第181図 第500号土坑・出土遺物実測図

第500号土坑出土遺物観察表（第181図）

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q16	砥石	(6.9)	4.5	2.6	(84.4)	凝灰岩	下端部欠損 砥面4面	覆土中層	PL27

## 第525号土坑（第182図）

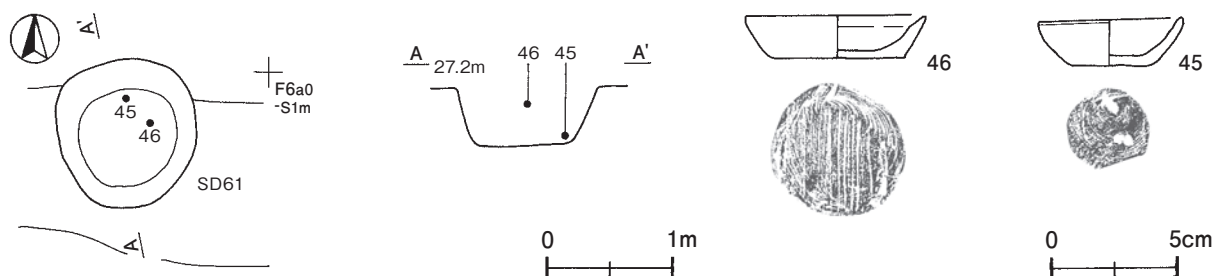
位置 調査区中央部のF 6 a9区，標高27.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第61号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.17mの円形である。深さは47cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師質土器片2点（小皿）が出土している。45は覆土下層から，46は覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土遺物や重複関係から16世紀後葉から17世紀初頭と考えられる。性格は不明である。



第182図 第525号土坑・出土遺物実測図

第525号土坑出土遺物観察表（第182図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
45	土師質土器	小皿	5.8	2.0	3.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面外縁部環状ナデ・中央部横ナデ	覆土下層	80% PL32
46	土師質土器	小皿	7.1	1.8	5.1	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り・スノコ状圧痕 底部内面中央部貼り付け後横ナデ	覆土中層	90% PL21

## 第539号土坑（第183図）

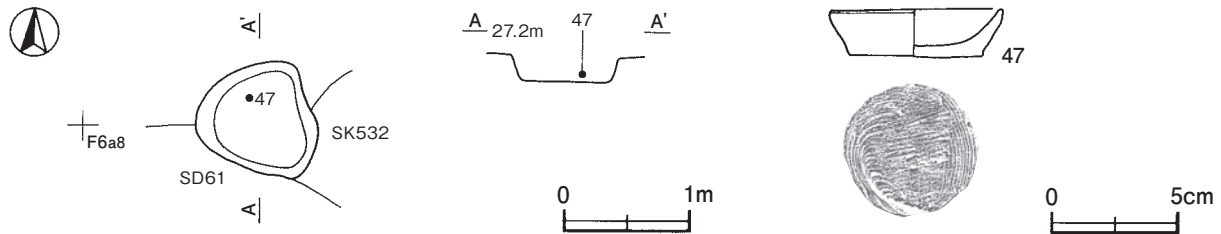
位置 調査区中央部のE 6 j8区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第61号溝跡，第532号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.96m，短径0.90mの不定形で，長径方向はN-90°である。深さは21cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が出土している。47は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物や重複関係から16世紀後葉から17世紀初頭と考えられる。性格は不明である。



第183図 第539号土坑・出土遺物実測図

第539号土坑出土遺物観察表 (第183図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
47	土師質土器	小皿	6.8	1.9	5.3	長石・石英・雲母・スコリア	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後スノコ状圧痕 底部内面中央部横ナデ	覆土下層	95% PL21

第547号土坑 (第184図)

位置 調査区中央部のF6c7区、標高27.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第60号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南北径0.55m、東西径0.52mだけが確認され、楕円形と想定される。深さは32cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 南東部の壁際に1か所確認されているが、性格は不明である。

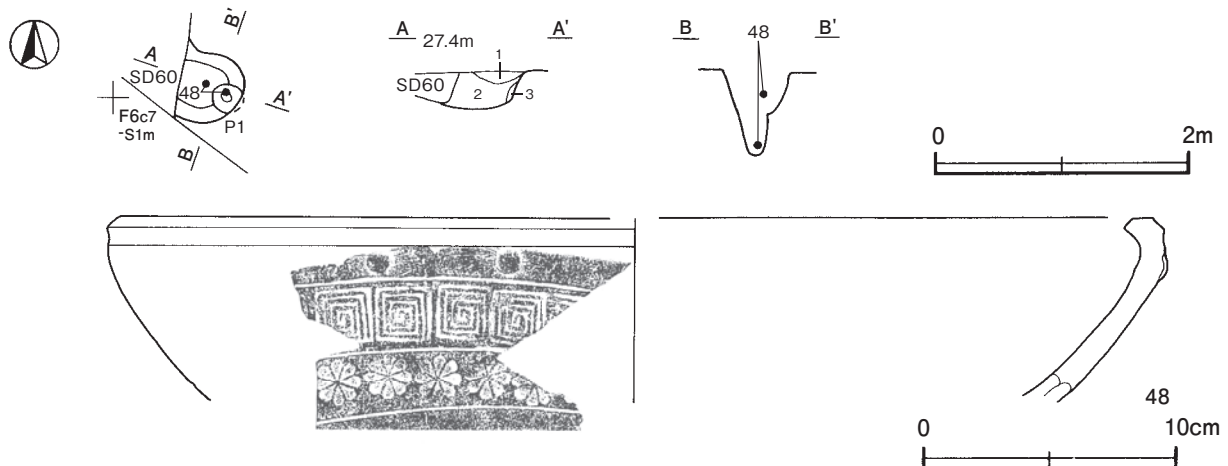
覆土 3層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片2点(火鉢), 陶器片2点(甕)が出土している。48は、覆土中層から出土している。

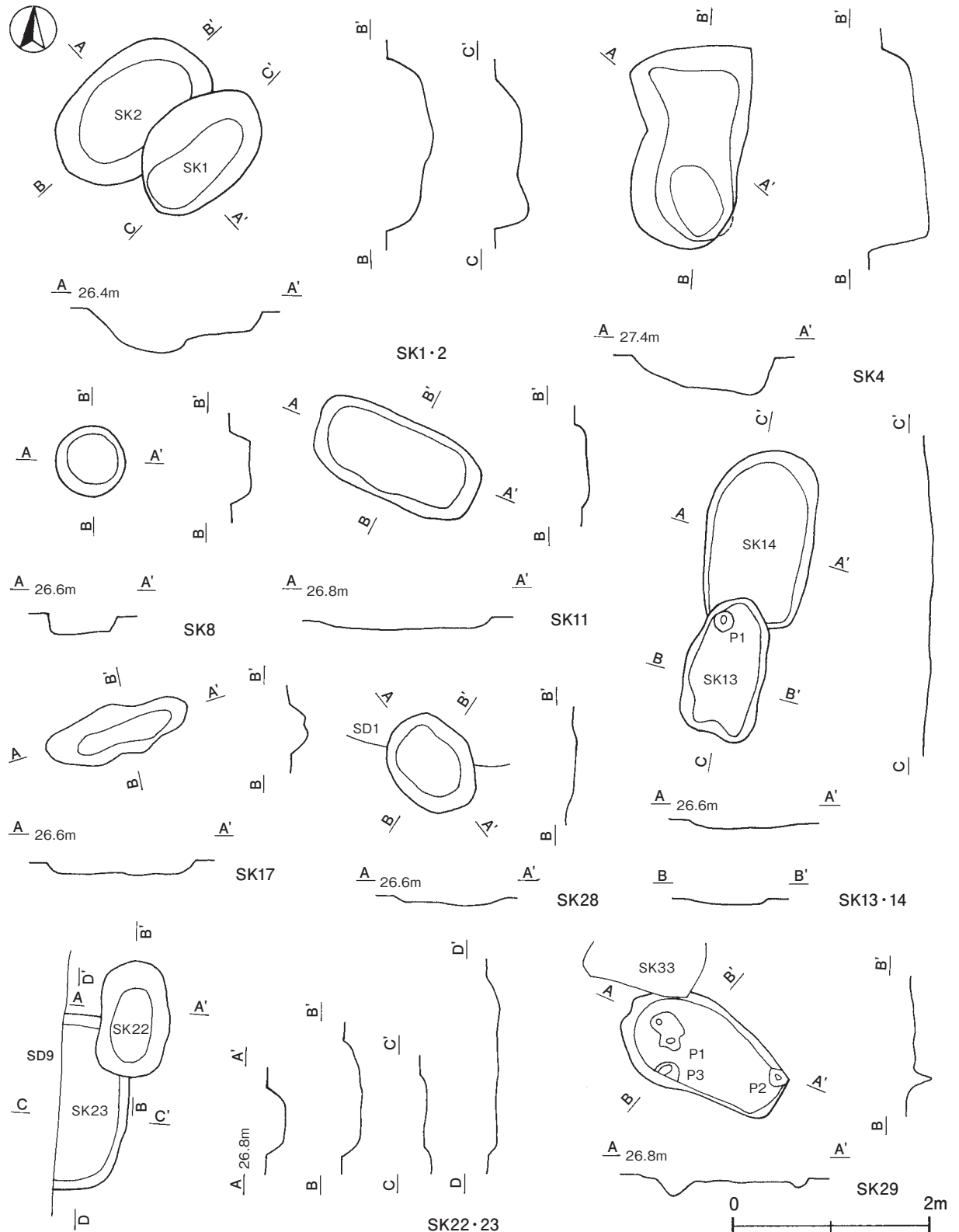
所見 時期は、出土遺物や重複関係から16世紀代と考えられる。性格は不明である。



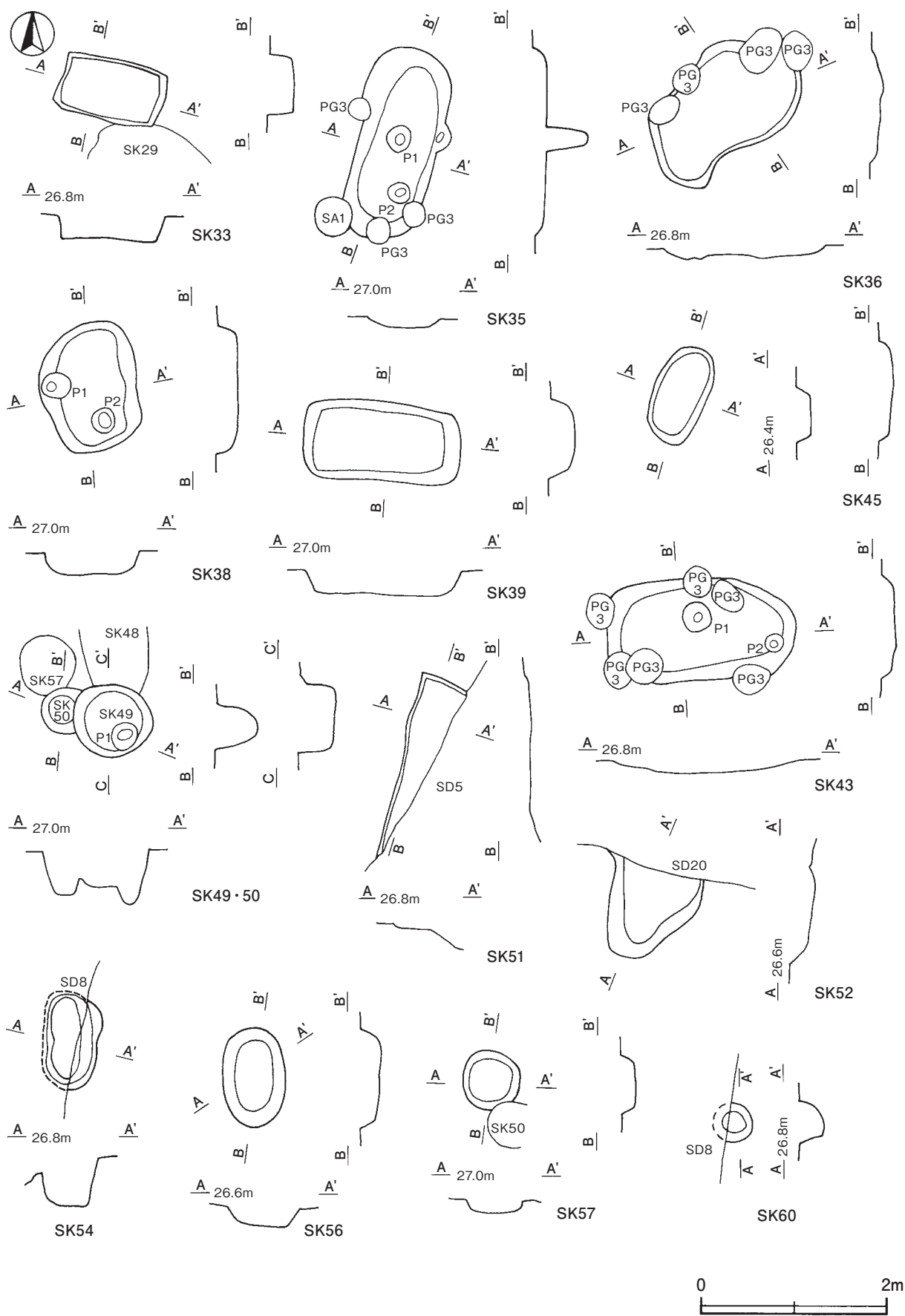
第184図 第547号土坑・出土遺物実測図

第547号土坑出土遺物観察表（第184図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
48	土師質土器	火鉢	[41.0]	(7.2)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい赤褐色	普通	体部外面雷文のスタンプ文 円錐状貼り付け	覆土中・下層	20%

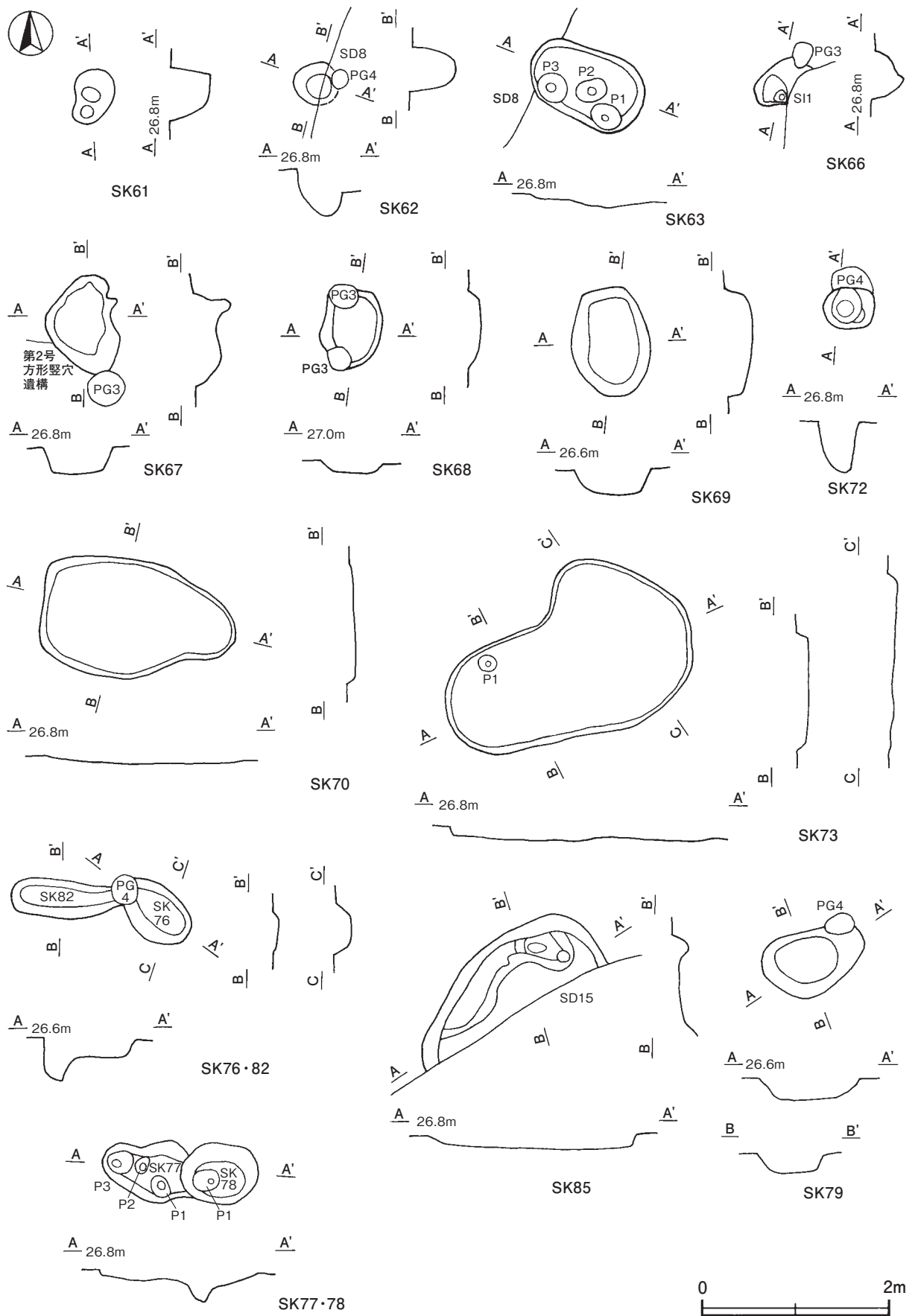


第185図 中世土坑実測図（1）

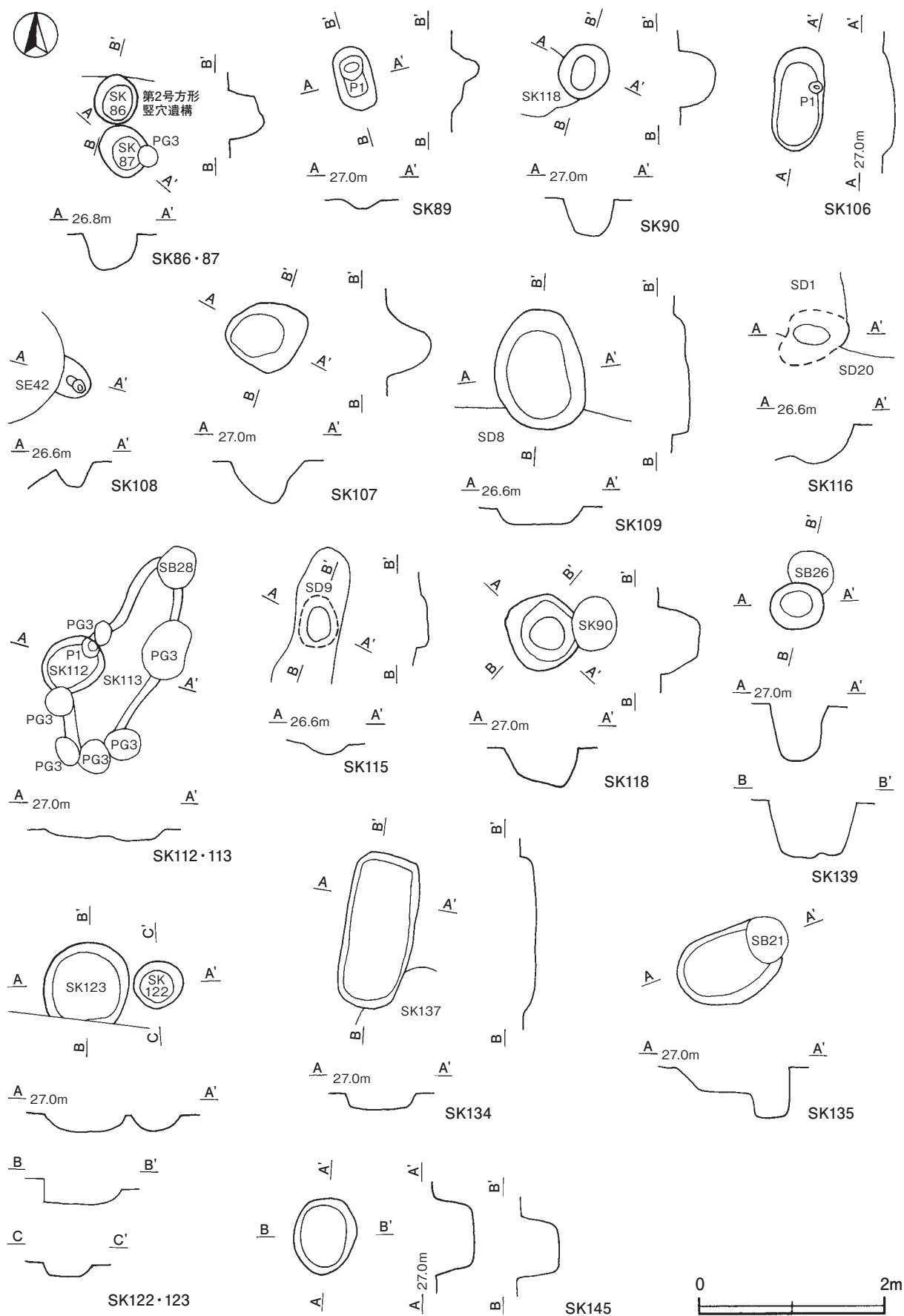


第186图 中世土坑实测图 (2)

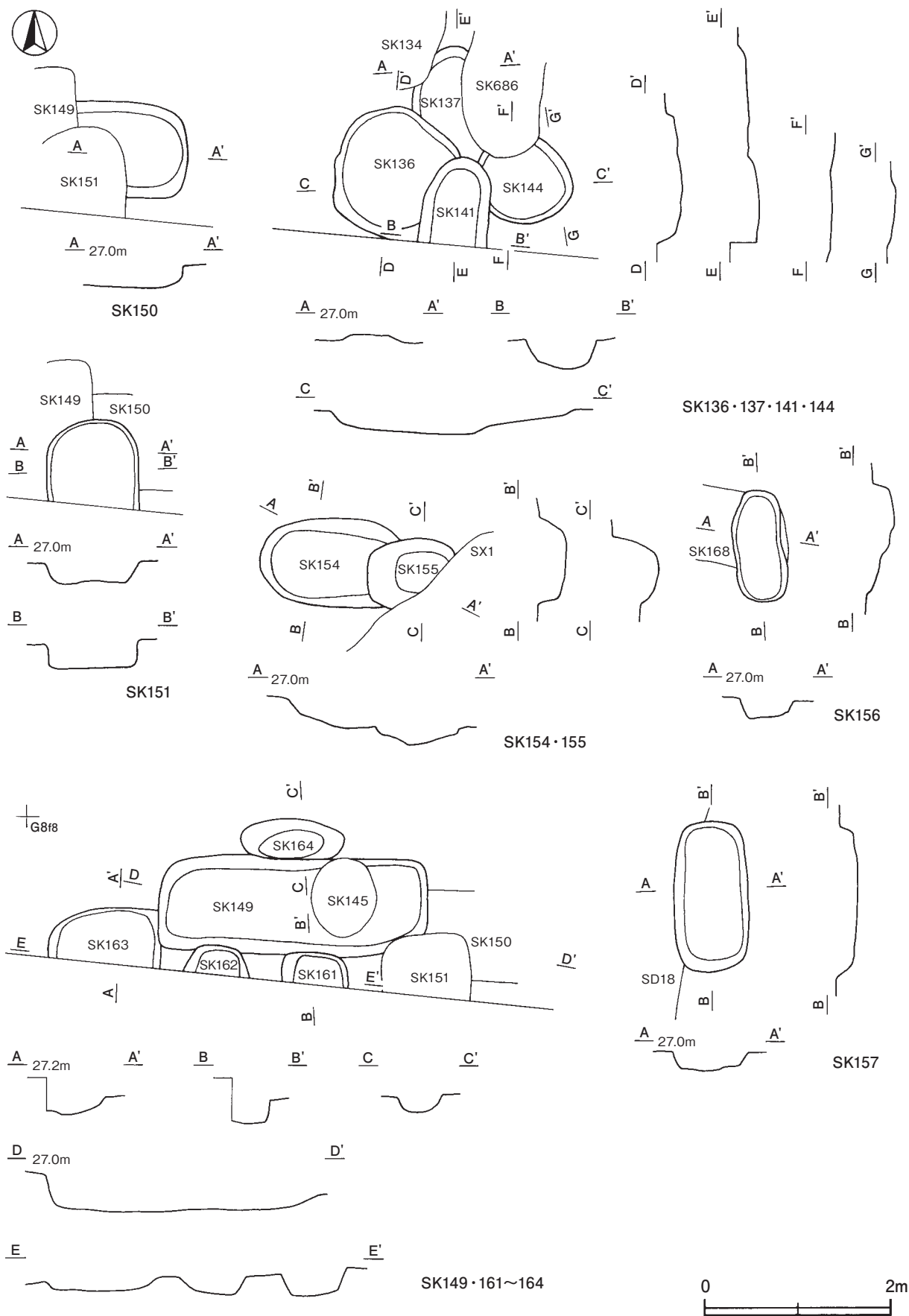




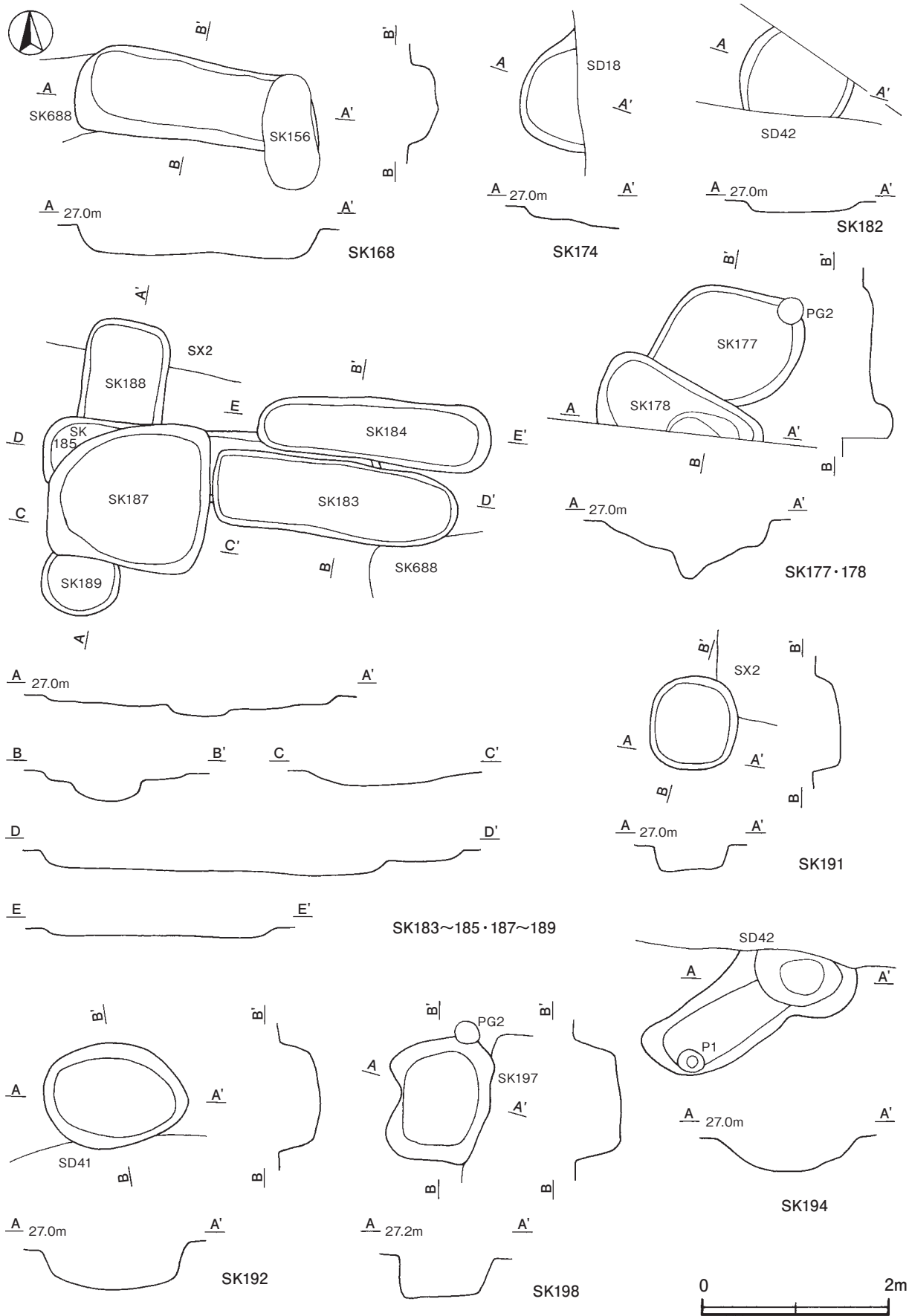
第187図 中世土坑実測図 (3)



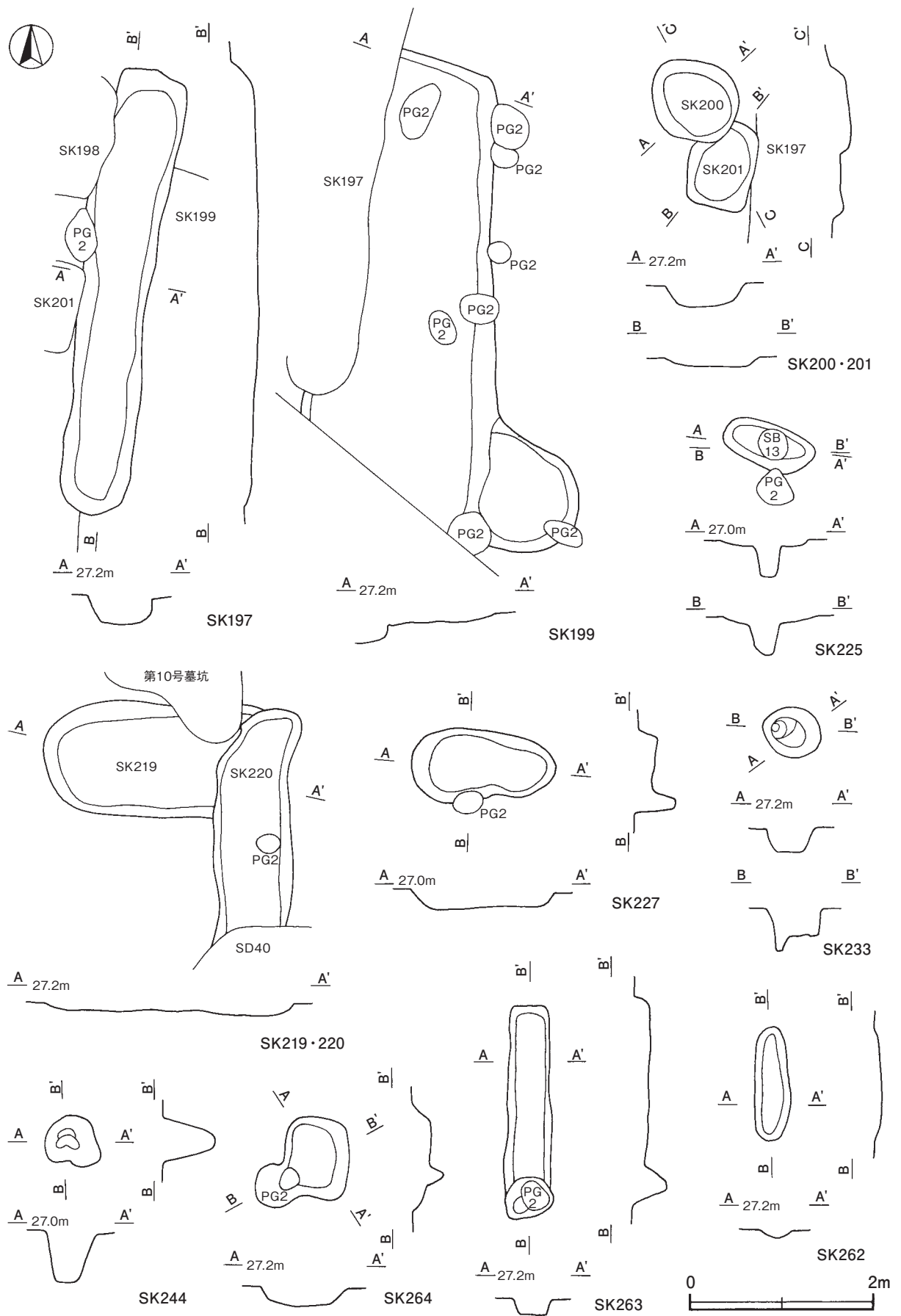
第188图 中世土坑实测图(4)



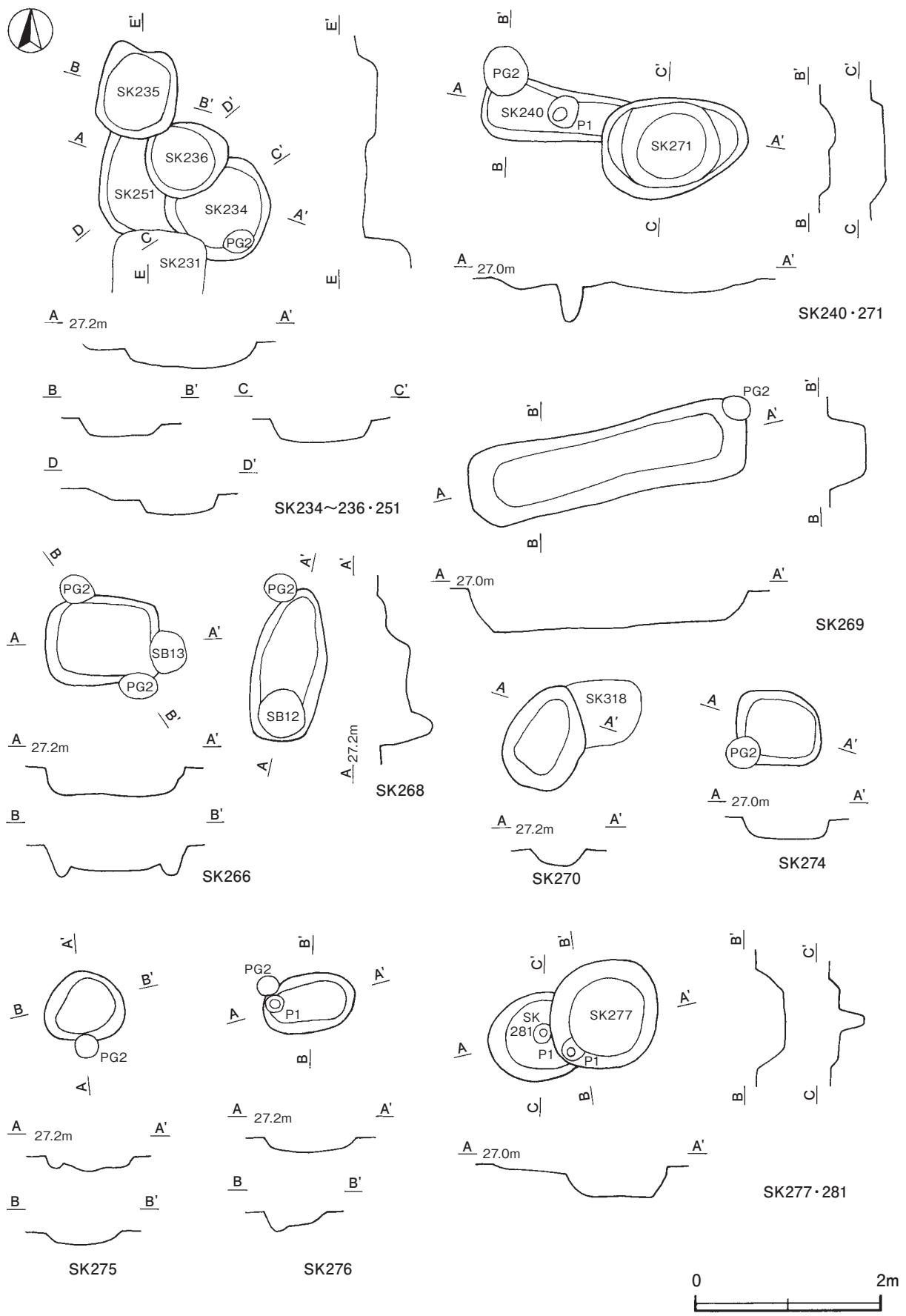
第189図 中世土坑実測図 (5)



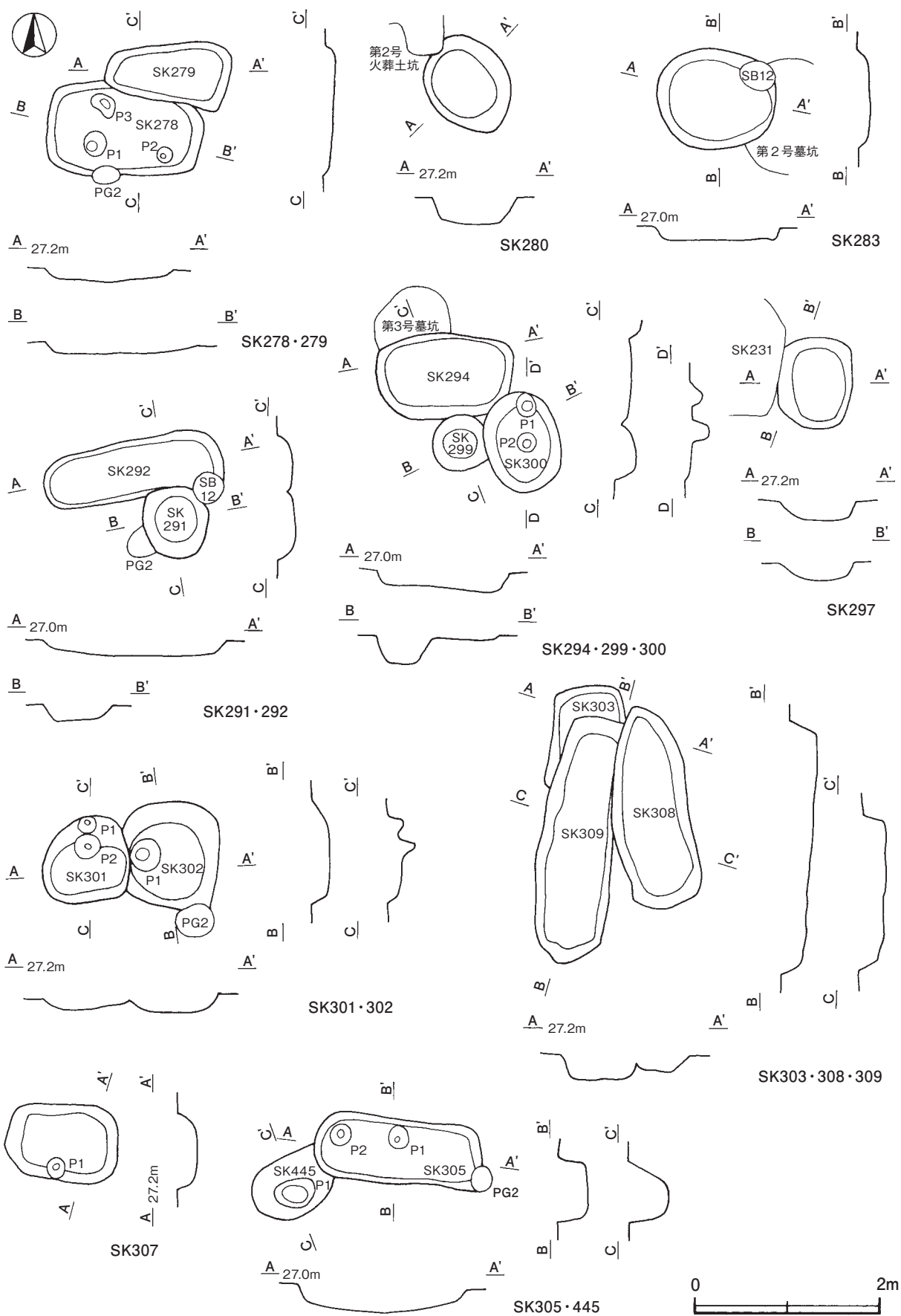
第190图 中世土坑实测图(6)



第191図 中世土坑実測図 (7)

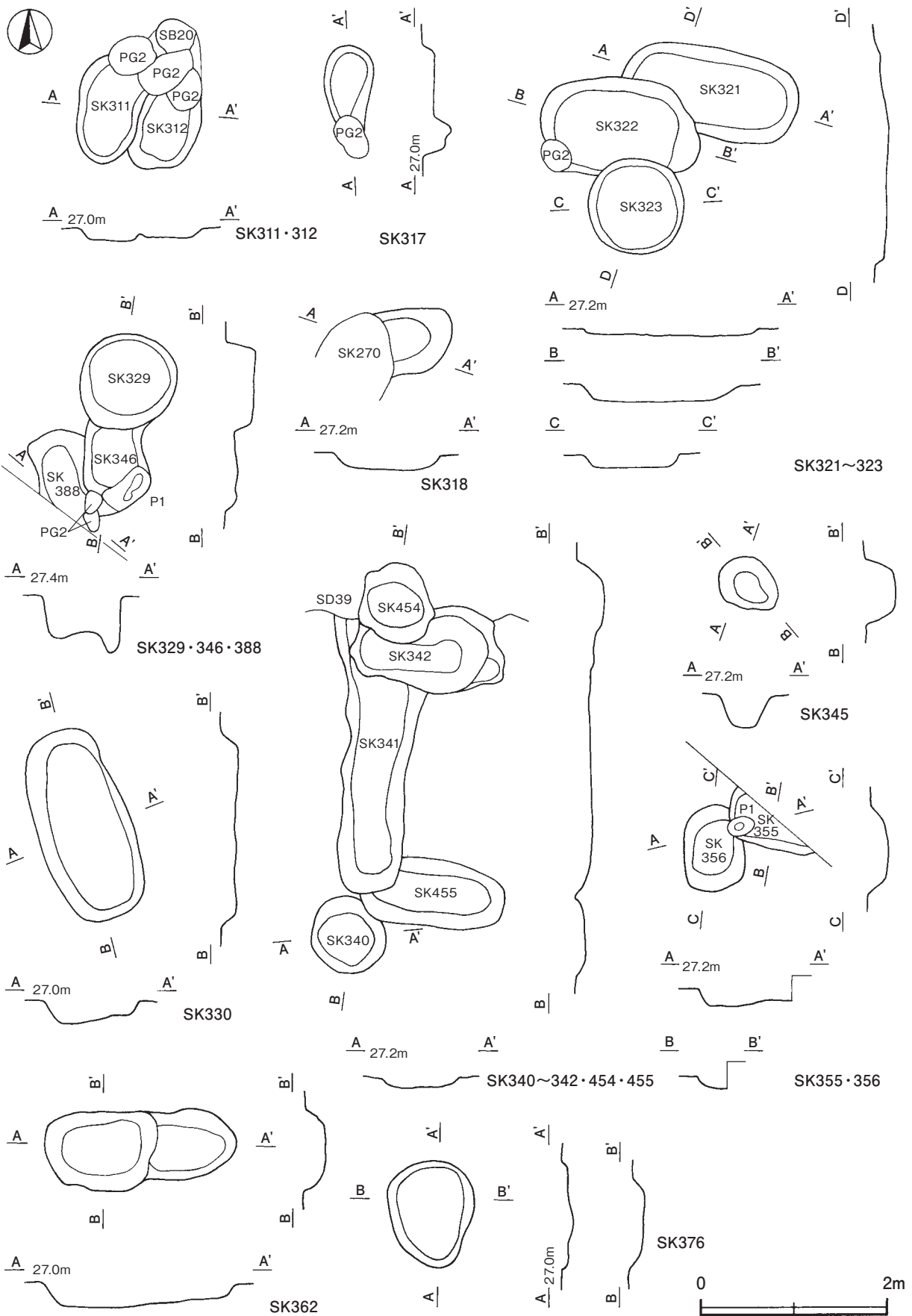


第192图 中世土坑实测图 (8)

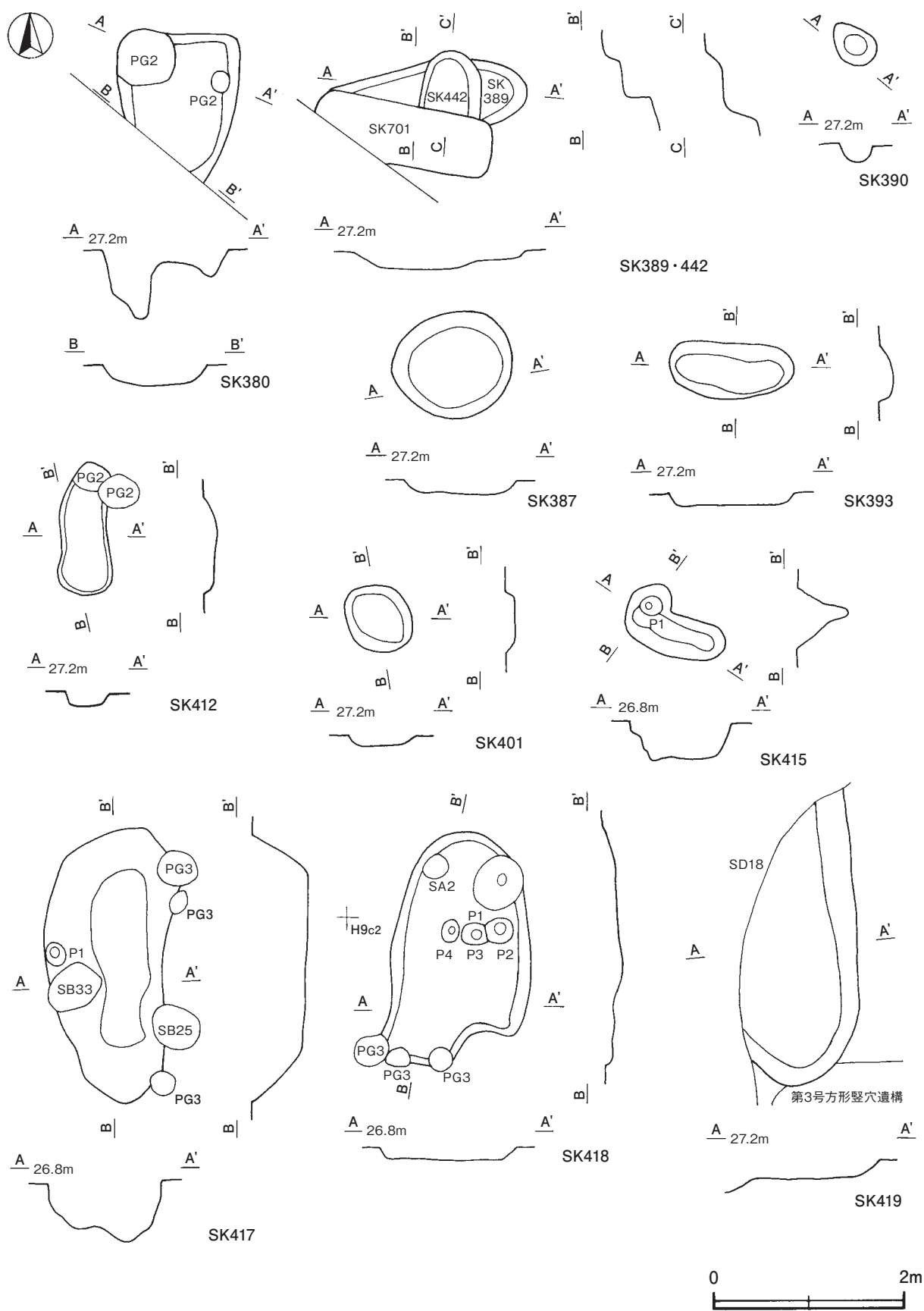


第193図 中世土坑実測図 (9)

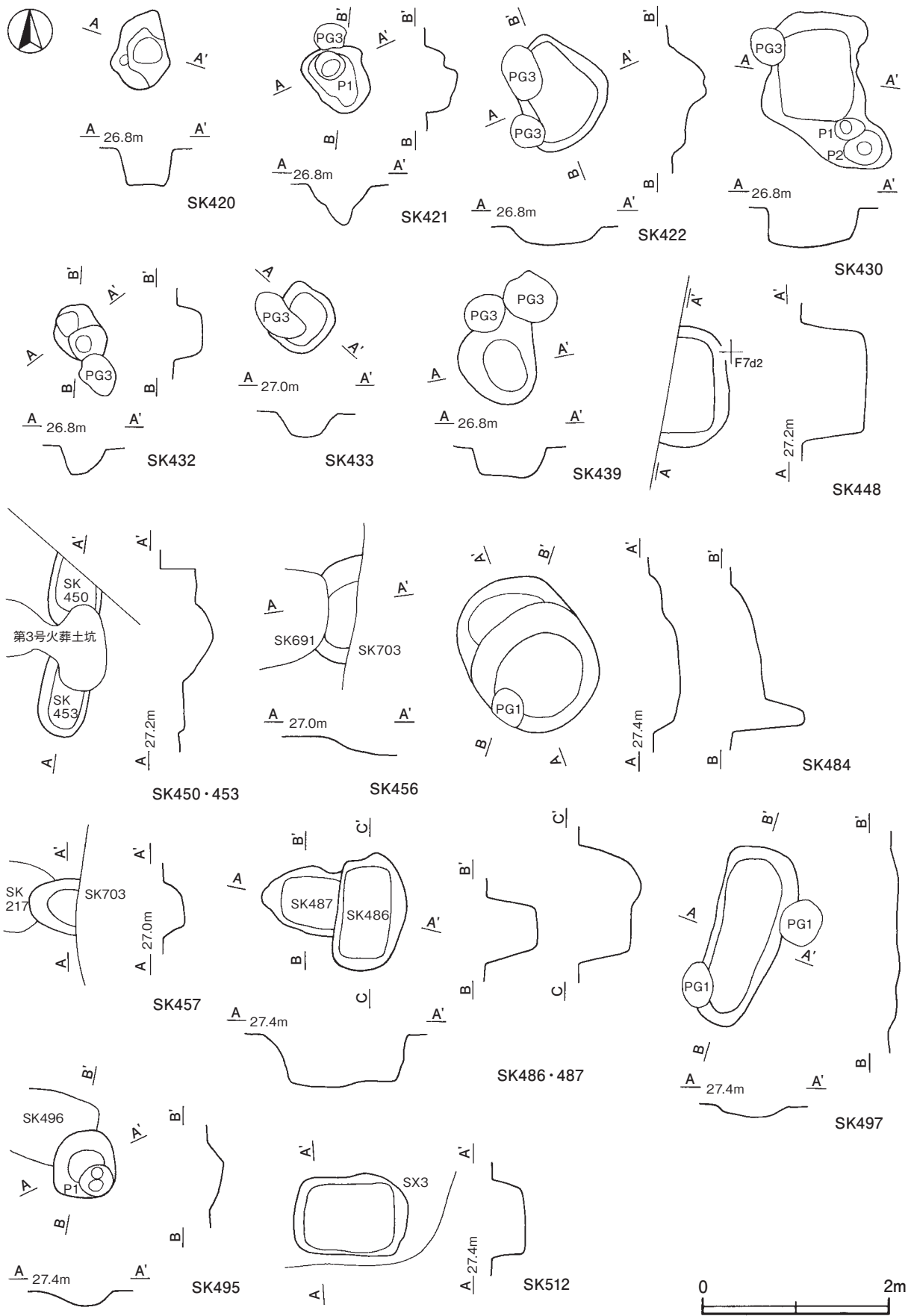




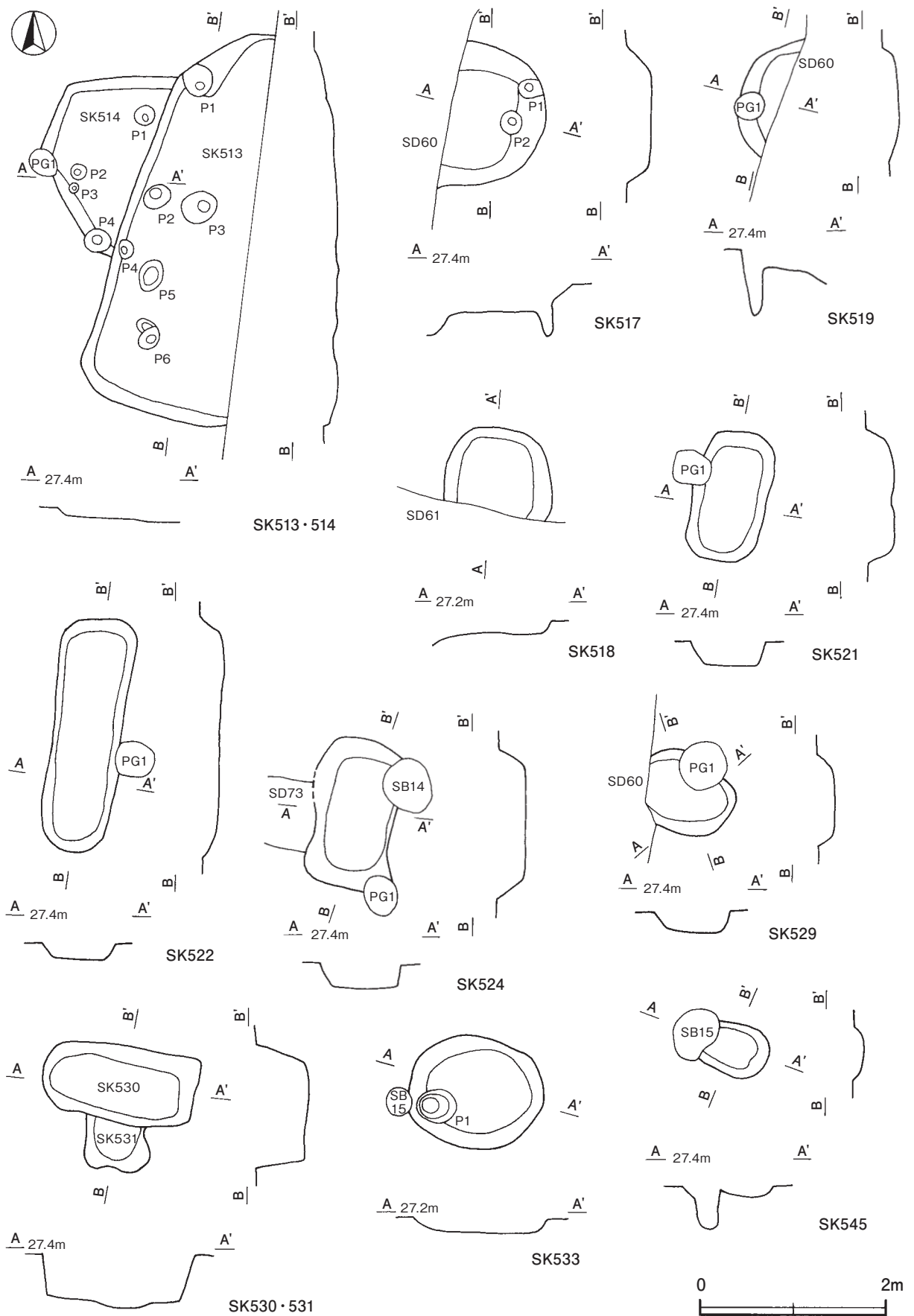
第194图 中世土坑实测图 (10)



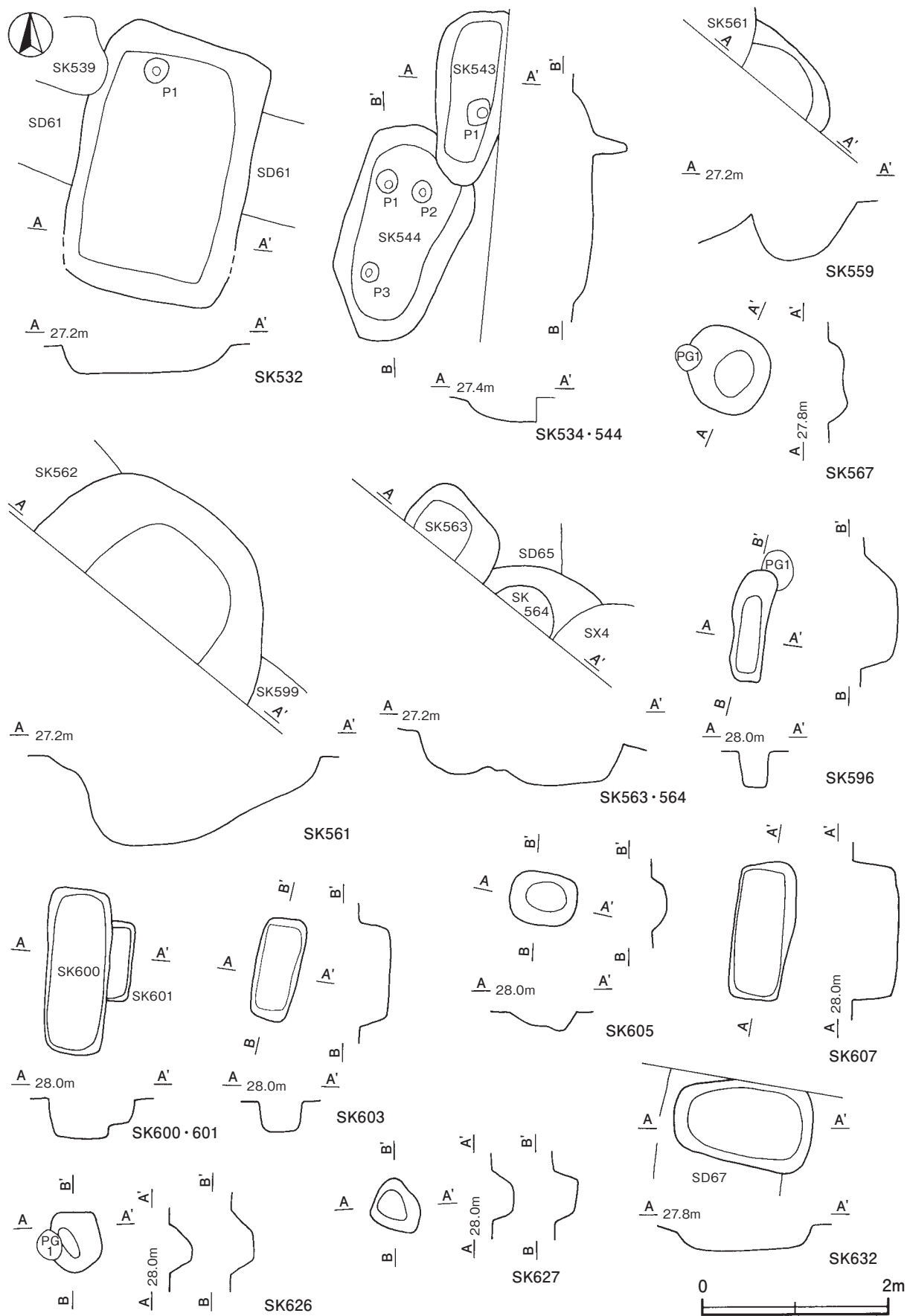
第195図 中世土坑実測図 (11)



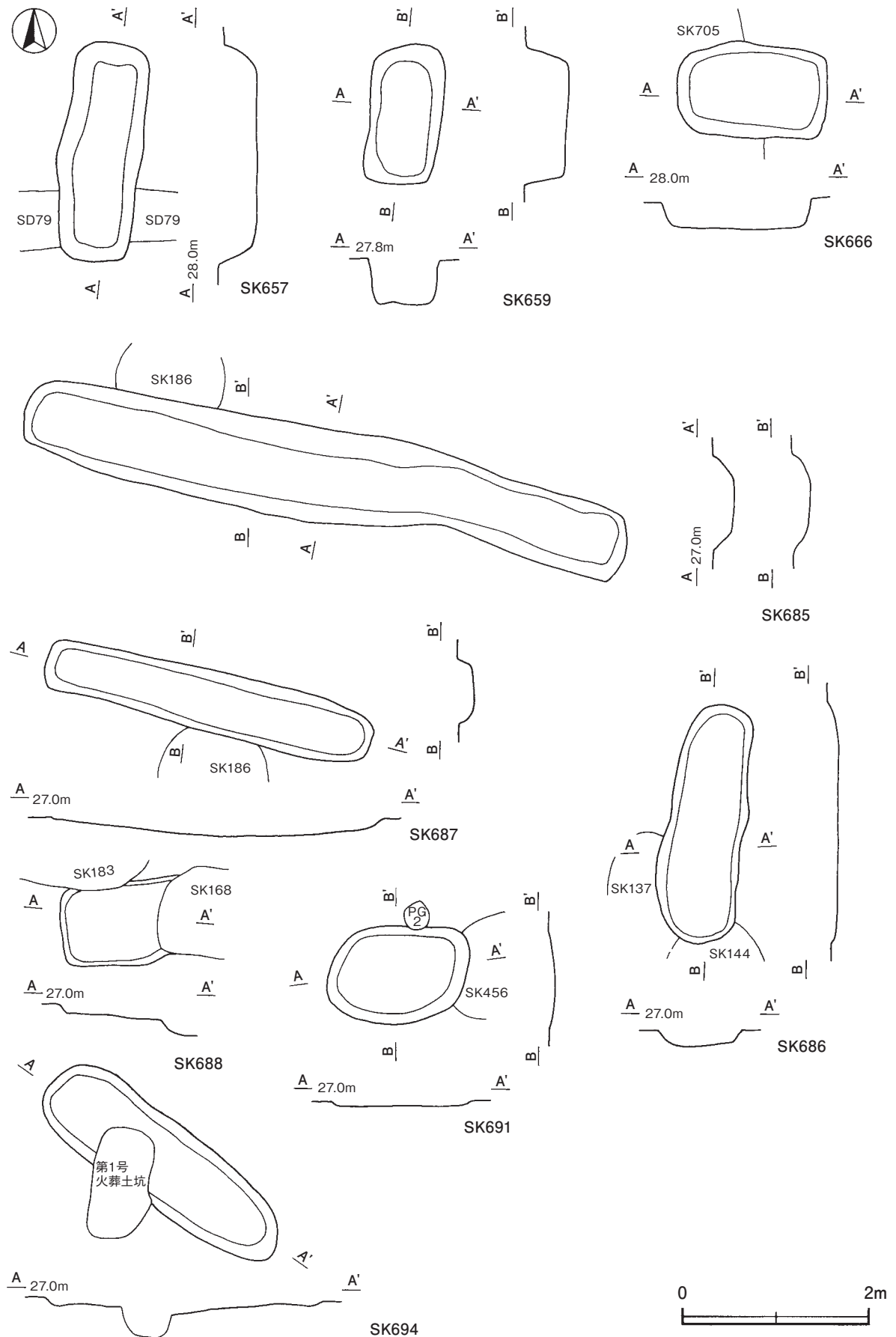
第196图 中世土坑实测图 (12)



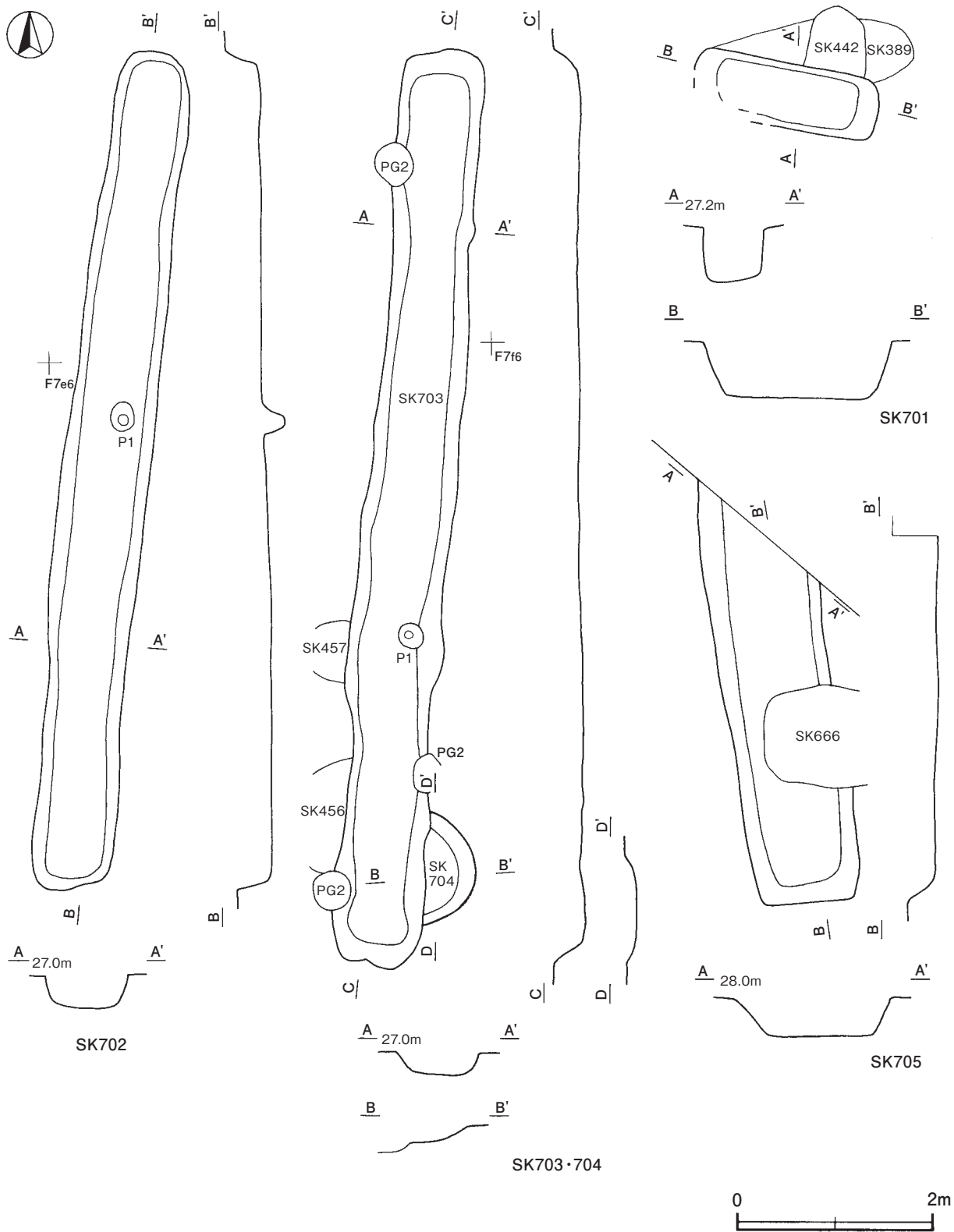
第197図 中世土坑実測図 (13)



第198图 中世土坑实测图 (14)



第199図 中世土坑実測図 (15)



第200图 中世土坑实测图 (16)

表29 中世土坑一覽表

番号	位 置	長軸(径)方向	平面形	規 模	深さ (cm)	壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長軸 (径) × 短軸 (径) (m)						
1	I 11c2	N-43°-E	楕円形	1.50 × 1.00	38	外傾	平坦	人為	—	SK2→本跡
2	I 11c1	N-48°-E	楕円形	1.76 × (0.82)	43	緩斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK1
4	I 11j1	N-3°-E	隅丸長方形	2.08 × 1.22	37	外傾	平坦	人為	陶器	
8	H 10i5	—	円形	0.72 × 0.70	20	外傾	平坦	人為	—	
11	H 10f5	N-62°-W	隅丸長方形	1.76 × 0.84	10	緩斜	平坦	自然	土師質土器	
13	H 10h3	N-11°-E	隅丸長方形	1.41 × 0.83	5	緩斜	平坦	自然	—	SK14→本跡
14	H 10g3	N-9°-E	隅丸長方形	[1.93] × 1.12	8	緩斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK13
17	I 10b4	N-73°-E	不定形	1.50 × 0.55	16	緩斜	平坦	人為	—	
18	I 10a3	N-15°-W	楕円形	1.04 × 0.58	7	緩斜	平坦	自然	土師質土器	
22	H 10j2	N-6°-E	楕円形	1.20 × 0.72	19	緩斜	平坦	人為	—	SK23→本跡
23	H 10j2	N-0°	[楕円形]	1.81 × (0.70)	10	緩斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK22, SD9
28	H 10i2	N-39°-W	楕円形	1.06 × 0.84	6	緩斜	平坦	自然	—	SD1→本跡
29	G 9j9	N-59°-W	楕円形	1.78 × 1.00	7	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK33
33	G 9j9	N-76°-W	長方形	1.14 × 0.69	27	外傾	平坦	人為	—	SK29→本跡
35	G 8i8	N-19°-E	楕円形	2.02 × 0.85	11	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SA1, PG3
36	G 8i8	N-59°-E	不定形	1.76 × 1.20	14	緩斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG3
38	G 9j3	N-15°-W	楕円形	1.36 × 1.08	24	外傾	平坦	人為	—	
39	G 9i2	N-84°-W	隅丸長方形	1.63 × 0.85	27	外傾	平坦	人為	土師質土器	
43	G 8i0	N-84°-E	楕円形	2.03 × 1.10	17	緩斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG3
45	H 10f1	N-24°-E	楕円形	1.06 × 0.59	15	外傾	平坦	人為	土師質土器	
48	G 9i2	N-11°-W	楕円形	[1.47] × 0.73	9	緩斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK49, SB25
49	G 9j2	N-32°-W	楕円形	0.85 × 0.78	40	緩斜	平坦	人為	—	SK48・50→本跡
50	G 9j2	—	円形	0.55 × 0.50	47	外傾	皿状	人為	—	SK57→本跡→SK49
51	H 10e4	N-15°-E	[長方形]	(2.05) × (0.51)	6	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SD5
52	H 10j4	N-22°-E	[楕円形]	(1.00) × (1.00)	29	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SD20
54	H 9c7	N-0°	楕円形	1.06 × 0.55	53	外傾	平坦	人為	—	本跡→SD8
56	H 10h2	N-7°-E	楕円形	1.06 × 0.58	20	緩斜	平坦	人為	土師質土器	
57	G 9i2	—	円形	0.62 × 0.61	17	外傾	皿状	人為	—	本跡→SK50
60	G 9j8	—	[円形]	0.43 × (0.26)	25	外傾	皿状	人為	—	本跡→SD8
61	H 9a8	N-17°-E	楕円形	0.60 × 0.43	43	外傾	平坦	人為	土師質土器, 陶器	
62	H 9a8	—	円形	0.49 × 0.48	49	外傾	皿状	人為	—	本跡→SD8, PG4
63	H 9b8	N-69°-W	楕円形	1.30 × 0.80	10	緩斜	平坦	人為	—	SD8→本跡
66	H 8a0	N-56°-E	不定形	0.72 × 0.38	23	外傾	皿状	人為	—	本跡→SI1, PG3
67	G 8j0	N-5°-W	不定形	1.06 × 0.71	27	外傾	平坦	人為	—	第2号方形竪穴遺構, PG3→本跡
68	G 9j3	N-6°-E	楕円形	0.86 × 0.64	15	緩斜	平坦	自然	—	本跡→PG3
69	H 9d9	N-10°-W	楕円形	1.17 × 0.86	30	外傾	皿状	人為	土師質土器	
70	H 9d8	N-77°-W	楕円形	2.11 × 1.28	7	緩斜	平坦	人為	土師質土器	
72	H 9b7	N-90°	楕円形	0.55 × 0.42	50	外傾	皿状	人為	土師質土器	PG4→本跡
73	H 9d9	N-65°-E	不整楕円形	2.80 × 1.90	13	外傾	平坦	人為	土師質土器	
76	H 9d9	N-53°-W	[楕円形]	(0.67) × 0.56	19	外傾	平坦	自然	—	本跡→PG4
77	H 9c8	N-72°-W	不定形	(0.83) × 0.70	10	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK78
78	H 9c8	N-90°	楕円形	0.85 × 0.64	13	緩斜	平坦	人為	—	SK77→本跡
79	H 9d9	N-68°-E	楕円形	1.14 × 0.69	29	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG4
82	H 9d8	N-86°-W	[楕円形]	1.09 × 0.41	6	緩斜	平坦	自然	—	本跡→PG4
85	H 9c5	N-57°-E	[楕円形]	2.28 × 1.35	19	緩斜・外傾	平坦	人為	—	本跡→SD15
86	G 8j0	—	円形	0.50 × 0.48	38	外傾	皿状	人為	—	第2号方形竪穴遺構 →本跡
87	H 8a0	—	円形	0.53 × 0.49	40	外傾	皿状	人為	—	第2号方形竪穴遺構 →本跡→PG3
89	G 9i1	N-16°-W	楕円形	0.70 × 0.40	13	緩斜	平坦	自然	—	
90	G 9i1	N-16°-E	楕円形	0.61 × 0.54	39	外傾	皿状	人為	—	SK118→本跡
91	G 9i1	N-17°-E	楕円形	0.81 × 0.68	40	外傾	皿状	人為	土師質土器	
106	G 9j1	N-9°-E	楕円形	1.13 × 0.54	15	緩斜	皿状	人為	—	
107	G 9j1	N-65°-E	楕円形	0.88 × 0.72	46	緩斜	皿状	人為	土師質土器	
108	H 10d1	N-58°-W	[楕円形]	[0.60] × 0.40	27	外傾	皿状	自然	—	本跡→SE42
109	H 9e0	N-7°-W	楕円形	1.32 × 0.95	17	外傾	平坦	人為	馬歯	SD8→本跡
112	G 8j0	N-62°-E	楕円形	0.70 × 0.55	9	緩斜	皿状	自然	土師質土器	SK113→本跡→PG3
113	G 8j0	N-23°-E	不定形	(1.88) × (0.65)	12	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK112, SB28, PG3



番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径)×短軸(径)(m)						重複関係(古→新)
115	H10j2	N-4°-W	楕円形	0.56 × 0.43	11	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SD9
116	H10i3	N-63°-E	楕円形	0.82 × 0.60	42	外傾	皿状	人為	—	本跡→SD1・20
118	G9i1	—	円形	0.80 × 0.78	42	外傾	皿状	人為	土師質土器	本跡→SK90
122	G9f2	—	円形	0.53 × 0.51	14	外傾	皿状	人為	—	
123	G9f2	N-10°-E	楕円形	0.88 × (0.82)	17	外傾	皿状	人為	—	
134	G8e9	N-11°-E	隅丸長方形	1.67 × 0.77	18	外傾	皿状	人為	—	SK137→本跡
135	G8f0	N-70°-E	[楕円形]	(0.84) × 0.81	27	緩斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SB21
136	G8f9	—	[円形]	1.30 × (1.16)	20	外傾	皿状	人為	—	SK137→本跡→SK141
137	G8f0	—	[楕円形]	(1.08) × (0.55)	10	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK134・136・141・144・686
139	G8f0	—	円形	0.60 × 0.55	60	外傾	皿状	自然	—	SB26→本跡
141	G8f0	N-7°-E	[楕円形]	0.93 × 0.75	10	緩斜	皿状	—	土師質土器	SK136・137・144→本跡
144	G8f0	—	[円形]	1.05 × 0.97	15	緩斜	皿状	人為	—	SK137→本跡→SK141・686
145	G8f8	N-4°-E	楕円形	0.82 × 0.67	42	垂直	皿状	人為	—	
149	G8f8	N-90°	隅丸長方形	2.50 × 1.07	39	外傾	平坦	—	—	SK150・163→本跡→SK146・151・161・162・164
150	G8f9	N-90°	[隅丸長方形]	(1.14) × 1.01	25	垂直	平坦	人為	—	本跡→SK149・151
151	G8f9	N-0°	[隅丸長方形]	1.01 × (0.95)	20	外傾	平坦	自然	—	SK149・150→本跡
154	G8d0	N-86°-W	[楕円形]	(1.15) × 0.97	33	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SK155
155	G8d0	N-90°	[隅丸長方形]	0.91 × (0.65)	52	外傾	皿状	自然	—	SK154→本跡→SX1
156	G8e9	N-3°-W	楕円形	1.21 × 0.54	24	緩斜	凹凸	自然	—	SK168→本跡
157	G8e6	N-0°	隅丸長方形	1.59 × 0.80	19	外傾	平坦	人為	土師質土器	SD18→本跡
161	G8f8	N-0°	[隅丸長方形]	0.71 × (0.63)	30	外傾	皿状	人為	—	SK149→本跡
162	G8f8	N-0°	[隅丸長方形]	0.66 × (0.35)	20	緩斜	皿状	—	—	SK149→本跡
163	G8f8	N-0°	[隅丸長方形]	1.13 × (0.39)	15	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SK149
164	G8f8	N-90°	楕円形	1.10 × 0.45	18	緩斜	皿状	自然	—	SK149→本跡
168	G8e8	N-81°-W	長方形	2.60 × 0.95	33	外傾・緩斜	平坦	自然	—	SK688→本跡→SK156
174	G8d2	N-0°	[楕円形]	1.30 × 0.63	17	外傾	平坦	人為	—	本跡→SD18
177	G8f7	N-42°-W	[楕円形]	1.40 × (1.35)	12	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK178, PG2
178	G8f7	N-63°-W	[楕円形]	1.30 × (0.80)	30	外傾	皿状	人為	土師質土器	SK177→本跡
182	F8g3	N-20°-E	[楕円形]	1.20 × (0.90)	14	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SD42
183	G8e8	N-82°-W	隅丸長方形	2.67 × 0.85	12	緩斜	平坦	自然	—	SK185・688→本跡
184	G8e8	N-84°-W	隅丸長方形	2.48 × 0.72	10	緩斜	平坦	自然	—	SK185→本跡
185	G8e7	N-84°-W	隅丸長方形	3.70 × 0.78	22	緩斜	平坦	人為	—	SK188→本跡→SK183・184・187
187	G8e7	N-90°	台形	1.74 × 1.62	8	緩斜	皿状	自然	—	SK185・188・189→本跡
188	G8e7	N-8°-W	[長方形]	(1.07) × 0.90	13	緩斜	平坦	人為	—	SX2→本跡→SK185・187
189	G8e7	—	[円形]	0.86 × (0.63)	8	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK187
191	G8d5	—	円形	1.00 × 0.95	30	外傾	平坦	人為	土師質土器	SX2→本跡
192	F7f0	N-90°	楕円形	1.58 × 1.12	52	外傾	皿状	人為	—	SD41→本跡
194	F7g8	N-59°-E	不定形	(2.18) × 0.82	35	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SD42
197	F7g2	N-9°-E	長方形	4.38 × 0.85	24	緩斜	平坦	人為	—	SK199→本跡→SK198・201, PG2
198	F7f2	N-12°-E	隅丸長方形	1.35 × 1.12	49	外傾	平坦	人為	須恵器	SK197→本跡→PG2
199	F7g3	N-0°	不定形	(5.00) × (2.62)	18	緩斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK197, PG2
200	F7g2	N-52°-W	楕円形	1.01 × 0.90	24	外傾	皿状	人為	—	SK201→本跡
201	F7g2	N-13°-E	隅丸長方形	0.91 × 0.72	10	緩斜	皿状	—	—	SK197→本跡→SK200
219	F7g3	N-90°	[隅丸長方形]	(1.93) × 1.24	10	緩斜	平坦	人為	—	本跡→第10号墓坑・SK220
220	F7h3	N-7°-E	[長方形]	(2.40) × (0.74)	13	緩斜	平坦	自然	土師質土器	SK219→本跡→SD40, PG2
225	F7d2	N-71°-W	楕円形	0.98 × 0.47	7	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SB13, PG2
227	F7d3	N-90°	楕円形	1.58 × 0.73	20	外傾	平坦	人為	—	本跡→PG2
231	F7g2	N-5°-E	隅丸長方形	1.28 × 1.00	50	外傾	平坦	人為	土師質土器, 陶器, 鉄製品	SK234・251・297→本跡
233	F7d5	N-49°-W	楕円形	0.62 × 0.51	28	垂直	平坦	人為	—	
234	F7f2	—	円形	[1.13] × 1.10	24	外傾	皿状	人為	—	SK251→本跡→SK231・236, PG2
235	F7f2	N-12°-E	楕円形	0.95 × 0.78	22	外傾	皿状	人為	—	SK236・251→本跡
236	F7f2	N-68°-E	楕円形	0.89 × 0.80	24	外傾	皿状	人為	—	SK234・251→本跡→SK235
240	F7e7	N-81°-W	[隅丸長方形]	(1.35) × 0.62	12	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK271, PG2
244	F7e3	N-50°-W	楕円形	0.61 × 0.57	55	外傾	皿状	人為	—	
251	F7f2	—	—	(0.95) × (0.72)	10	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK231・234・235・236
262	F7f3	N-2°-W	長楕円形	1.23 × 0.38	8	緩斜	皿状	自然	—	
263	F7f3	N-0°	長方形	2.31 × 0.47	19	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG2
264	F7f3	N-47°-E	不定形	1.25 × 0.85	21	外傾	平坦	人為	—	本跡→PG2

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径)×短軸(径)(m)						重複関係(古→新)
266	F 7 c2	N-90°	隅丸長方形	1.22 × 0.98	29	外傾	平坦	人為	—	本跡→SB13, PG2
268	F 7 e7	N-12°-E	楕円形	1.66 × 0.78	34	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SB12, PG2
269	F 7 d7	N-77°-E	長方形	3.00 × 0.84	40	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG2
270	F 7 g4	N-22°-E	楕円形	1.14 × 0.84	15	外傾	皿状	自然	—	SK318→本跡
271	F 7 e8	N-79°-E	楕円形	1.58 × 1.08	16	緩斜	皿状	人為	土師質土器	SK240→本跡
274	F 7 f8	N-90°	隅丸方形	0.88 × 0.81	24	外傾	平坦	人為	—	本跡→PG2
275	F 7 a3	—	円形	0.85 × 0.80	14	緩斜	皿状	自然	—	本跡→PG2
276	F 7 a3	N-75°-E	楕円形	1.00 × 0.65	15	外傾	皿状	人為	—	本跡→PG2
277	F 7 e8	—	円形	1.17 × 1.15	32	緩斜	平坦	人為	土師質土器	SK281→本跡
278	F 7 d2	N-82°-W	隅丸長方形	1.67 × 1.04	13	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK279, PG2
279	F 7 d2	N-83°-W	隅丸長方形	1.33 × 0.72	14	緩斜	平坦	人為	—	SK278→本跡
280	F 7 a4	N-33°-W	楕円形	1.12 × 0.91	30	外傾	皿状	—	—	本跡→第2号火葬土坑
281	F 7 e8	N-77°-E	[楕円形]	0.93 × (0.70)	11	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK277
283	F 7 e8	N-82°-W	楕円形	1.32 × 1.06	14	外傾	平坦	人為	—	第2号墓坑→本跡→SB12
291	F 7 e7	—	円形	0.80 × 0.73	19	外傾	皿状	人為	—	SK292, PG2→本跡→SB12
292	F 7 e7	N-80°-E	隅丸長方形	1.96 × 0.63	18	外傾	皿状	人為	—	本跡→SK291, SB12
294	F 7 e9	N-85°-E	[楕円形]	1.48 × (0.87)	21	外傾	平坦	自然	—	第3号墓坑→本跡→SK299・300
297	F 7 g2	N-3°-E	楕円形	0.98 × 0.80	18	緩斜・外傾	皿状	人為	—	本跡→SK231
299	F 7 e9	—	円形	0.64 × 0.63	32	外傾	皿状	自然	—	SK294→本跡→SK300
300	F 7 e9	N-12°-W	楕円形	1.07 × 0.80	6	緩斜	皿状	自然	—	SK294・299→本跡
301	F 7 e9	N-74°-E	楕円形	0.98 × 0.87	15	平坦	外傾・緩斜	自然	—	SK302→本跡
302	F 7 e9	N-8°-W	[楕円形]	1.16 × (0.96)	18	平坦	外傾・緩斜	自然	—	本跡→SK301, PG2
303	F 7 g4	N-3°-E	[隅丸長方形]	[1.20] × [0.82]	31	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK309
305	F 7 f0	N-83°-W	長方形	1.82 × 0.71	32	外傾	平坦	自然	—	SK445→本跡→PG2
307	F 7 g4	N-83°-W	隅丸長方形	1.23 × 0.83	19	緩斜	平坦	人為	土師質土器	
308	F 7 g5	N-12°-W	楕円形	2.17 × 0.84	29	外傾	平坦	自然	土師質土器	SK309→本跡
309	F 7 g4	N-8°-E	長方形	2.57 × 0.81	26	外傾	平坦	人為	—	SK303→本跡→SK308
310	F 7 e6	N-0°	長方形	1.98 × 0.75	22	垂直	平坦	人為	土師質土器	
311	F 7 e6	N-17°-E	[楕円形]	(0.95) × 0.66	10	緩斜	平坦	人為	—	SK312→本跡→PG2
312	F 7 e6	N-20°-E	[楕円形]	(0.72) × (0.67)	14	外傾	皿状	人為	—	本跡→SK311, SB20, PG2
317	F 7 d8	N-0°	楕円形	(0.75) × 0.53	13	外傾	平坦	人為	—	本跡→PG2
318	F 7 g4	N-76°-E	[楕円形]	(0.80) × 0.70	19	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SK270
321	F 8 f2	N-76°-W	楕円形	1.91 × 0.93	6	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK322
322	F 8 f2	N-80°-W	楕円形	1.73 × 1.10	19	外傾・緩斜	平坦	自然	—	SK321→本跡→SK323, PG2
323	F 8 g3	—	円形	1.05 × 1.03	15	外傾	平坦	自然	—	SK322→本跡
329	F 7 j6	—	円形	1.05 × 1.02	33	外傾	平坦	人為	—	SK346→本跡
330	F 7 j7	N-20°-W	楕円形	2.10 × 1.01	24	外傾	平坦	人為	土師質土器	
340	F 7 i6	—	円形	0.82 × 0.82	10	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SK455
341	F 7 i6	N-6°-E	長方形	(2.90) × 0.84	20	緩斜	平坦	人為	—	SK455→本跡→SK342・454, SD39
342	F 7 i6	N-83°-W	楕円形	1.28 × 0.92	20	外傾	平坦	人為	—	SK341→本跡→SK454, SD39
345	F 7 j6	N-40°-E	楕円形	0.68 × 0.55	32	外傾	皿状	人為	土師質土器	
346	F 7 j6	N-0°	不定形	(0.87) × 0.68	14	緩斜	平坦	人為	—	SK388→本跡→SK329, PG2
355	F 8 e1	N-80°-W	[長方形]	(0.80) × 0.35	15	緩斜	平坦	自然	—	SK356→本跡
356	F 7 e0	N-4°-W	楕円形	0.90 × 0.65	19	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK355
362	F 7 g6	N-90°	長楕円形	2.08 × 0.85	23	外傾	平坦	人為	土師質土器, 陶器	
368	F 7 b7	N-9°-W	隅丸長方形	2.37 × 0.62	20	外傾	平坦	人為	土師質土器	SE29→本跡→PG2
376	G 7 a7	N-8°-W	楕円形	1.16 × 0.94	13	外傾・緩斜	皿状	人為	土師質土器	
380	G 7 a7	N-1°-W	不定形	(1.37) × 1.22	23	緩斜	皿状	人為	—	本跡→PG2
387	F 7 h6	N-80°-E	楕円形	1.30 × 1.12	16	緩斜	皿状	人為	—	
388	F 7 j6	N-20°-W	不定形	(1.02) × (0.50)	45	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK346, PG2
389	F 7 i4	N-75°-E	[長楕円形]	(1.82) × (0.65)	20	緩斜	平坦	自然	土師質土器	本跡→SK442・701
390	G 7 a7	N-39°-W	楕円形	0.52 × 0.39	18	外傾	皿状	自然	土師質土器	
393	E 7 j3	N-83°-W	楕円形	1.32 × 0.60	16	緩斜	平坦	自然	—	
401	F 7 a4	N-49°-W	楕円形	0.83 × 0.68	11	緩斜	皿状	自然	—	
412	F 7 d6	N-0°	隅丸長方形	1.38 × 0.58	16	外傾	皿状	人為	—	本跡→PG2
415	G 8 j8	N-65°-W	不整楕円形	1.14 × 0.45	38	外傾	平坦	人為	土師質土器	
417	H 9 b2	N-4°-E	楕円形	2.91 × 1.21	55	緩斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SB25・33, PG3
418	H 9 c2	N-11°-E	不定形	2.55 × 1.45	12	外傾・緩斜	平坦	人為	—	本跡→SA2, PG3

番号	位 置	長軸(径)方向	平面形	規 模	深さ (cm)	壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長軸 (径) × 短軸 (径) (m)						重複関係(古→新) 第3号方形堅穴遺構 →本跡→SD18
419	G 8d3	N - 6° - W	[長楕円形]	(2.68) × (1.27)	19	緩斜	平坦	人為	—	
420	G 8j0	N - 17° - E	楕円形	0.87 × 0.62	39	外傾	平坦	自然	土師質土器	
421	H 9b3	N - 29° - W	楕円形	0.73 × 0.59	34	外傾	平坦	人為	—	本跡→PG3
422	H 9b3	N - 22° - W	楕円形	1.18 × 0.96	17	緩斜	皿状	人為	—	本跡→PG3
423	H 8b0	N - 25° - E	不整楕円形	1.05 × 0.88	54	外傾	皿状	自然	須恵器	本跡→PG3
430	H 9a1	N - 30° - W	不定形	1.90 × 1.10	40	垂直・外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG3
432	H 9b2	N - 34° - W	楕円形	0.64 × 0.49	30	外傾	皿状	人為	—	本跡→PG3
433	G 9j3	—	円形	0.66 × 0.64	29	緩斜	皿状	人為	—	本跡→PG3
439	H 8a9	N - 26° - W	[楕円形]	(0.81) × 0.80	32	外傾	平坦	人為	—	本跡→PG3
442	F 7i4	N - 4° - E	[楕円形]	(0.64) × (0.64)	20	緩斜	平坦	—	—	SK389→本跡→SK701
445	F 7f0	N - 60° - E	[楕円形]	(0.80) × 0.64	43	外傾	皿状	—	—	本跡→SK305, PG2
448	F 7d1	N - 0°	[隅丸長方形]	1.31 × (0.69)	72	垂直	皿状	人為	土師質土器	
450	F 7a6	N - 6° - E	[隅丸長方形]	(0.72) × 0.55	21	—	平坦	自然	—	本跡→第3号火葬土坑
453	F 7a6	N - 8° - E	[隅丸長方形]	(0.73) × 0.54	5	緩斜	平坦	自然	—	本跡→第3号火葬土坑
454	F 7h6	—	円形	0.90 × 0.82	29	外傾	皿状	自然	—	SK341・342, SD39 →本跡
455	F 7i6	N - 83° - W	楕円形	1.20 × 0.74	13	—	—	—	—	SK340→本跡→SK341
456	F 7g5	N - 10° - E	[楕円形]	1.03 × (0.32)	21	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SK691・703
457	F 7f5	N - 82° - W	[楕円形]	0.53 × (0.49)	23	緩斜	皿状	—	—	SK217→本跡→ SK703
484	E 6e6	N - 29° - W	楕円形	1.70 × 1.31	33	緩斜	平坦	人為	—	本跡→PG1
486	E 6d4	N - 6° - E	隅丸長方形	1.28 × 0.75	66	外傾	平坦	自然	土師質土器	SK487→本跡
487	E 6d4	N - 84° - W	—	(0.82) × 0.70	57	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK486
495	E 6h8	N - 40° - E	楕円形	0.79 × 0.73	16	緩斜	皿状	自然	—	SK496→本跡
496	E 6h8	N - 76° - W	隅丸長方形	0.99 × 0.77	42	外傾	平坦	人為	鉄製品	SD62→本跡→SK495
497	E 6g9	N - 17° - E	隅丸長方形	1.99 × 0.74	12	緩斜	平坦	人為	—	本跡→PG1
498	E 6j8	N - 8° - E	隅丸長方形	1.18 × 1.02	46	外傾	平坦	人為	石器, 鉄製品	
500	H 9a3	N - 75° - E	楕円形	2.15 × 0.90	9	緩斜	平坦	—	石器	
512	E 6i6	N - 90°	隅丸長方形	1.21 × 0.88	37	垂直	平坦	人為	—	SX3→本跡
513	E 6h0	N - 20° - E	隅丸長方形	4.30 × (1.55)	12	緩斜	平坦	自然	土師質土器	SK514→本跡
514	E 6h0	—	不定形	2.04 × (1.17)	7	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK513, PG1
517	E 6h8	N - 11° - E	[楕円形]	1.56 × (1.02)	27	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SD60
518	F 6a9	—	[円形]	(0.90) × 1.18	14	外傾	平坦	人為	—	本跡→SD61
519	E 6h7	—	[円形]	1.32 × 0.44	14	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SD60, PG1
521	F 6c9	N - 10° - E	隅丸長方形	1.43 × 0.79	26	緩斜・外傾	平坦	人為	—	本跡→PG1
522	F 6c8	N - 9° - E	隅丸長方形	2.56 × 0.77	17	緩斜	平坦	人為	—	本跡→PG1
524	F 6c8	N - 10° - E	隅丸長方形	1.61 × 0.86	27	緩斜・垂直	平坦	人為	—	SD73→本跡→ SB14, PG1
525	F 6a9	—	円形	1.17 × 1.11	47	外傾	平坦	—	土師質土器	SD61→本跡
529	F 6b7	N - 75° - W	[楕円形]	(0.97) × 0.85	23	緩斜・外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SD60, PG1
530	E 6b4	N - 84° - W	隅丸長方形	1.68 × 0.83	52	外傾	平坦	人為	炭化物	SK531→本跡
531	E 6b4	N - 10° - E	不定形	0.69 × (0.50)	58	垂直	平坦	自然	—	本跡→SK530
532	F 6a8	N - 14° - E	隅丸長方形	2.89 × 1.88	29	緩斜	平坦	人為	土師質土器	SD61→本跡→SK539
533	F 6b8	N - 81° - W	楕円形	1.45 × 1.19	18	外傾	平坦	人為	—	本跡→SB15
539	E 6j8	N - 90°	不定形	0.96 × 0.90	21	外傾	平坦	—	土師質土器	SK532, SD61→本跡
543	E 6g0	N - 5° - E	[楕円形]	1.88 × (0.72)	21	緩斜	平坦	—	—	SK544→本跡
544	E 6g0	N - 15° - E	楕円形	2.38 × 1.31	20	緩斜	平坦	—	—	本跡→SK543
545	F 6b9	N - 70° - W	[楕円形]	(0.58) × 0.56	11	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SB15
547	F 6c7	—	[楕円形]	(0.50) × 0.52	32	外傾	平坦	人為	土師質土器, 陶器	本跡→SD60
559	E 6j3	—	[楕円形]	(1.10) × (0.53)	68	外傾	皿状	人為	—	本跡→SK561
561	E 6i3	N - 50° - W	[楕円形]	2.97 × (1.35)	96	緩斜	皿状	人為	—	SK562・599→本跡
563	E 6h3	N - 43° - W	[隅丸長方形]	1.14 × (0.69)	46	外傾・緩斜	皿状	自然	—	SK564, SD65→本跡
564	E 6i2	—	—	(0.97) × (0.66)	58	外傾	平坦	人為	—	SD65→本跡→SX4, SK563
567	E 5a3	N - 20° - W	円形	1.00 × 0.90	21	緩斜	平坦	自然	—	本跡→PG1
596	C 4h1	N - 6° - E	隅丸長方形	1.18 × 0.40	39	垂直	平坦	人為	—	PG1→本跡
600	C 3h0	N - 3° - E	隅丸長方形	1.76 × 0.65	43	垂直	平坦	自然	土師質土器, 陶器	SK601→本跡
601	C 3h0	N - 4° - E	[長方形]	0.86 × (0.25)	26	垂直	平坦	自然	—	本跡→SK600
603	C 3h9	N - 13° - E	隅丸長方形	1.12 × 0.48	32	外傾	平坦	自然	土師質土器	
605	D 4a1	N - 79° - W	隅丸長方形	0.73 × 0.56	15	緩斜	平坦	人為	土師質土器	
607	C 3g0	N - 6° - E	隅丸長方形	1.50 × 0.64	48	垂直	平坦	人為	—	
626	C 3f8	N - 90°	不整楕円形	0.67 × 0.52	25	緩斜	皿状	人為	—	本跡→PG1

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)							
627	C 3 f8	N-48°-W	不整楕円形	0.58	× 0.47	26	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器	
632	D 4 a3	N-77°-W	[隅丸長方形]	1.50	× (0.88)	22	緩斜・外傾	平坦	—	—	SD67→本跡
657	C 4 h6	N-6°-E	隅丸長方形	2.35	× 0.89	39	外傾	平坦	—	—	SD79→本跡
659	C 4 i8	N-5°-E	隅丸長方形	1.51	× 0.78	46	外傾	平坦	自然	土師器, 土師質土器	
666	B 3 j7	N-85°-W	隅丸長方形	1.60	× 1.00	32	外傾	平坦	人為	—	SK705→本跡
685	G 8 e9	N-78°-W	長方形	6.64	× 1.01	22	緩斜	平坦	自然	—	SK186→本跡
686	G 8 f0	N-7°-E	隅丸長方形	2.56	× 0.86	18	緩斜	平坦	人為	—	SK137・144→本跡
687	G 8 d9	N-76°-W	長方形	3.50	× 0.67	20	緩斜	平坦	自然	—	SK186→本跡
688	G 8 e8	N-86°-E	[長方形]	1.05	× 0.90	15	外傾	平坦	—	—	本跡→SK168・183
691	F 7 g5	N-90°	楕円形	1.47	× 1.05	8	緩斜	平坦	自然	—	SK456→本跡→PG2
694	F 7 b5	N-54°-W	隅丸長方形	3.00	× 0.88	10	緩斜	平坦	自然	—	本跡→第1号火葬土坑
701	F 7 i4	N-77°-W	[隅丸長方形]	1.94	× 0.66	57	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK389・442→本跡
702	F 7 e6	N-5°-E	長方形	6.64	× 0.90	36	外傾	平坦	人為	—	
703	F 7 f5	N-5°-E	長方形	7.50	× 0.95	32	緩斜	平坦	人為	土師質土器	SK456・457・704→本跡→PG2
704	F 7 g5	—	[円形]	1.17	× (0.53)	11	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SK703
705	B 3 i7	N-8°-W	[長方形]	(4.20)	× 1.13	42	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK666

## (7) 溝跡

当時代の溝跡は、80条確認されている。ここでは、当遺跡の性格を考察するうえで重要と考えられる溝跡は文章と図版で説明し、それらと重複する溝跡については簡潔な解説を加える。その他は、一覧表と全測図で紹介し、あわせて土層断面図または断面図と遺物実測図で記載する。また、図示した遺物については、出土遺物観察表で記載する。

## 第1号溝跡(第201~203図, 付図)

位置 調査区南東部のH9g7~H10f3区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第116号土坑を掘り込み, 第9~11・20号溝及び第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 H10f3区から南西方向(S-20°-W)へ直線状にH9g7区まで延び, そこから北西方向(N-70°-W)へL字状に屈曲してH10f3区まで延び, 調査区域外に至っている。確認された長さは37.5mで, 上幅1.5~3.9m, 下幅0.5~0.8m, 深さ32~85cmで, 断面形は逆台形状である。底面は平坦で, H9g7区からH10f2区, さらにH10f3区に向かって緩やかに傾斜している。

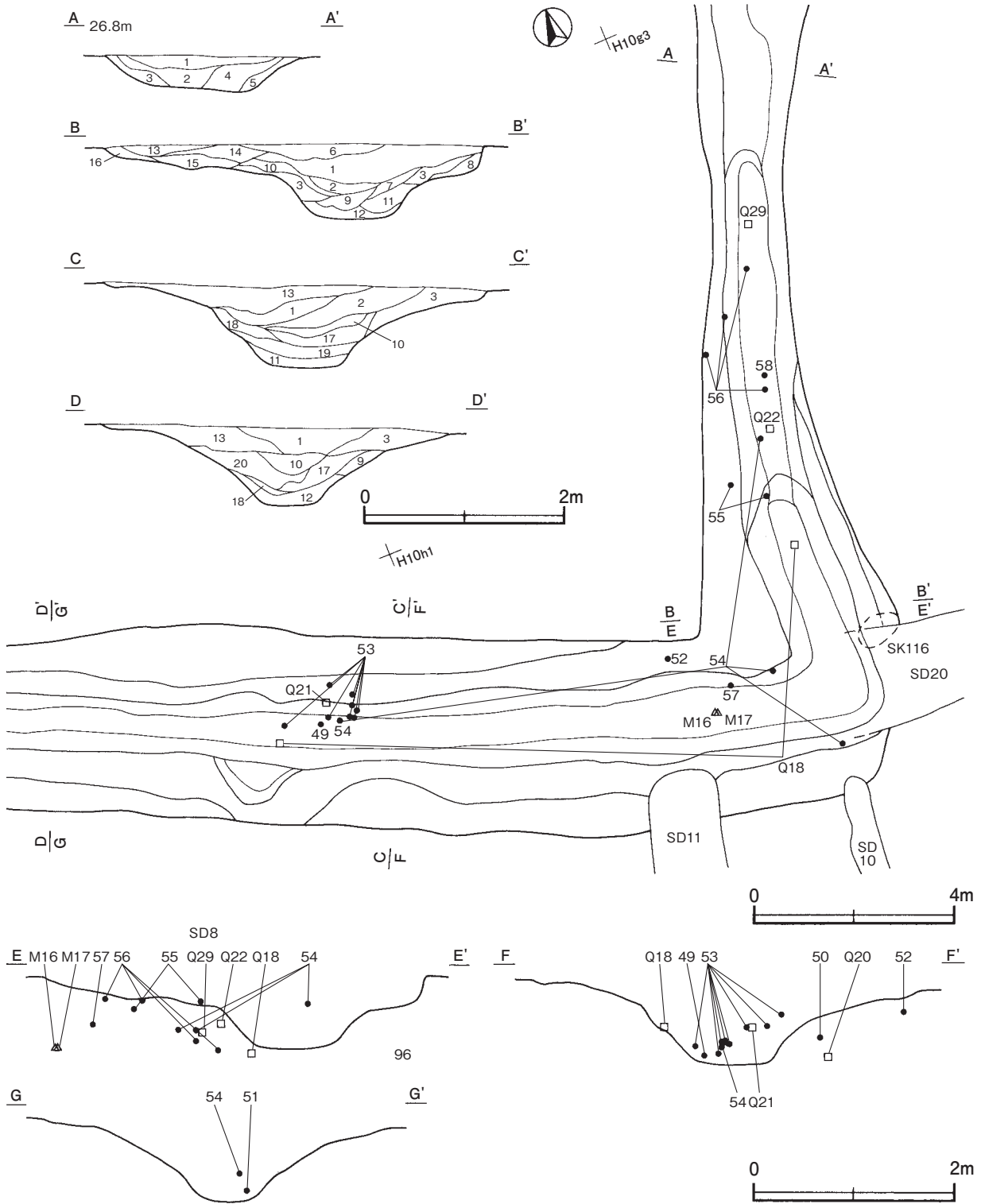
覆土 20層に分層される。南側は北方向から, 東側は西方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

## 土層解説

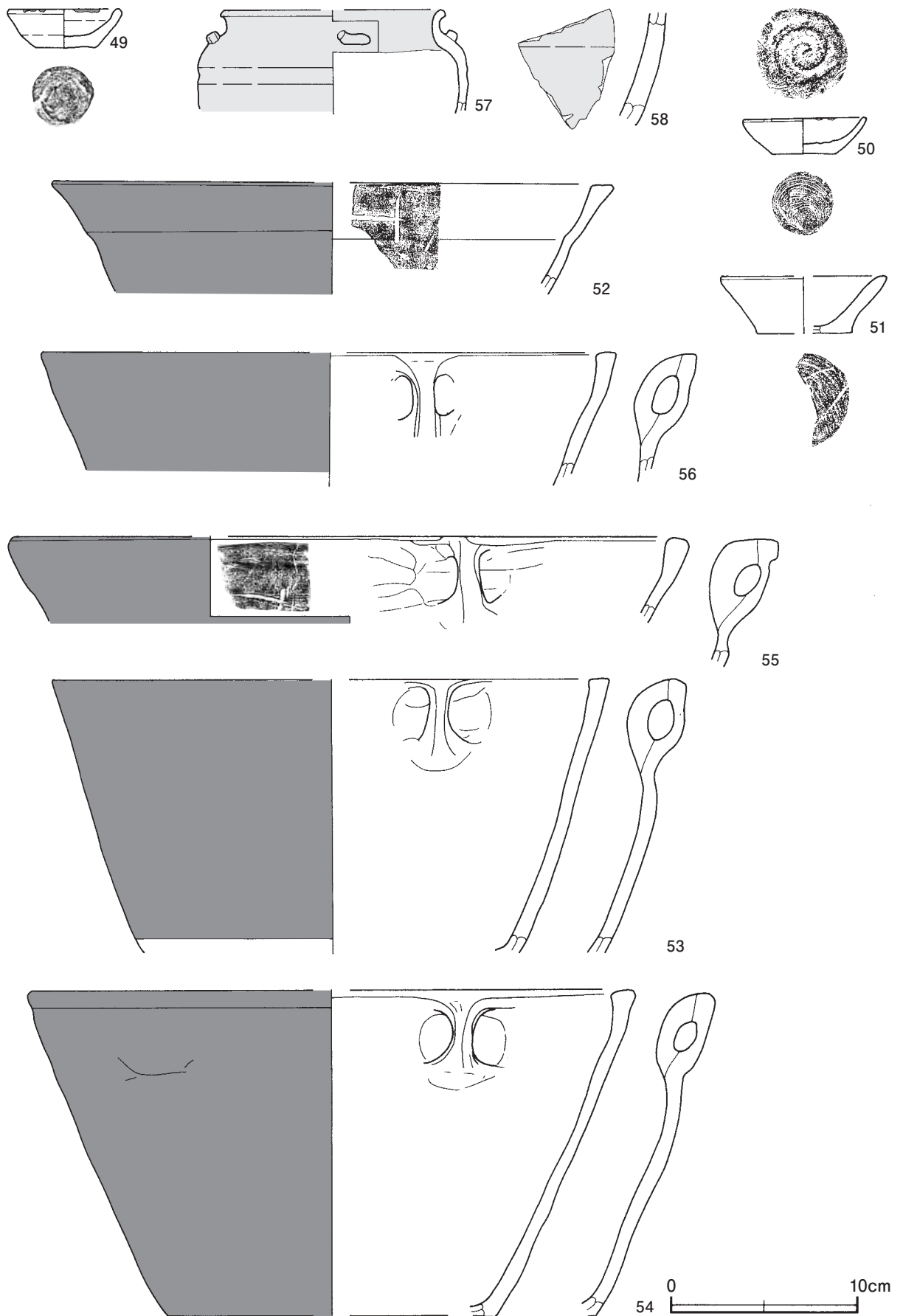
1	暗	褐	色	赤色粒子少量, ローム粒子微量	11	褐	色	ロームブロック中量	
2	暗	褐	色	ローム粒子少量, 黒色粒子微量	12	暗	褐	色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量
3	褐	色	ローム粒子中量, 黒色粒子微量	13	暗	褐	色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	
4	黒	褐	色	赤色粒子少量, ローム粒子微量	14	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量
5	黒	褐	色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	15	暗	褐	色	ローム粒子中量
6	暗	褐	色	ローム粒子・赤色粒子少量	16	暗	褐	色	ローム粒子少量
7	暗	褐	色	ロームブロック・黒色粒子微量	17	暗	褐	色	ローム粒子微量
8	褐	色	ローム粒子中量	18	に	ぶ	い	黄褐色	ローム粒子少量
9	褐	色	ロームブロック少量	19	黒	褐	色	ローム粒子・赤色粒子微量	
10	褐	色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	20	黒	色	赤色粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片353点(小皿68, 鍋類222, 播鉢55, 茶釜2, 甕類6), 陶器片9点(碗4, 壺, 瓶子2, 甕2), 石器7点(砥石, 茶臼, 石臼3)のほか, 鉄滓や椀状滓が出土している。52・55・Q21は覆土中層, 53・54・56は覆土中・下層からの出土である。いずれも破片が接合したものであり, 散在して出土している。49~51・57・58・Q18・Q20・Q22・Q29・M16・M17は覆土下層から出土している。Q29は, 第7・8号溝跡から出土した破片と接合している。51・54の一部はH9g9区とH9g0区から出土している。

所見 53・54・56は、覆土中・下層から破片で出土しており、埋没時に廃棄されたものと推測される。時期は、出土遺物から16世紀前半に掘削され、16世紀後半には埋没したと考えられる。性格は、内側に7棟の掘立柱建物跡、外側には8棟の掘立柱建物跡が検出されていることから、居住域を区画するための溝と考えられ、溝の規模からは、有力者の存在がうかがえる。

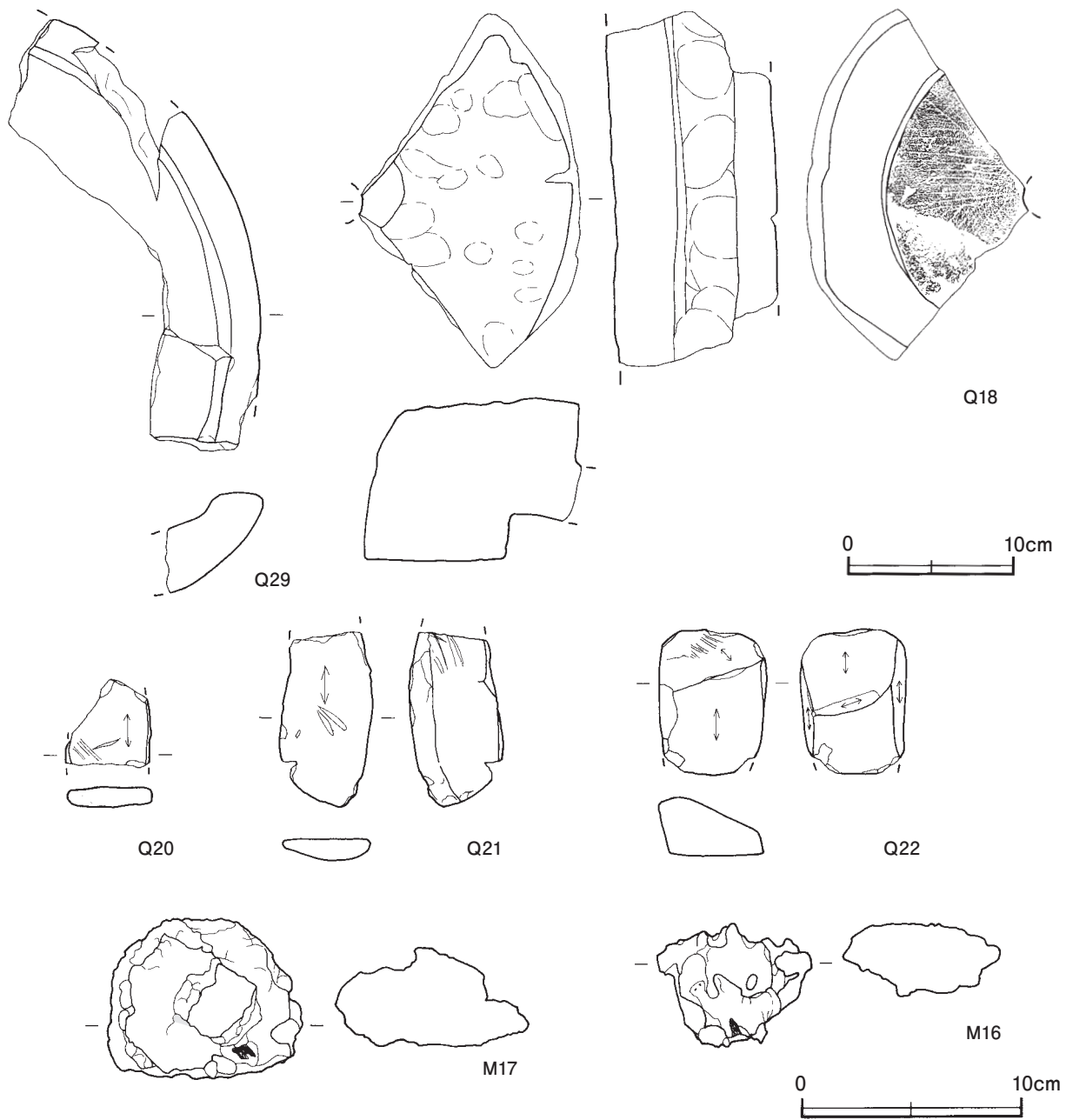


第201図 第1号溝跡実測図



第202図 第1号溝跡出土遺物実測図(1)





第203図 第1号溝跡出土遺物実測図(2)

第1号溝跡出土遺物観察表(第202・203図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	土師質土器	小皿	6.0	2.1	3.2	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後スノコ状圧痕 底部内面外縁部環状ナデ・中央部横ナデ	覆土下層	60% PL21
50	土師質土器	小皿	6.6	2.0	3.3	長石・石英・金雲母中量	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り・スノコ状圧痕	覆土下層	80% PL21
51	土師質土器	小皿	[8.8]	3.1	[5.0]	長石・石英・スコリア	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	95% PL21
52	土師質土器	鍋	[30.0]	(6.0)	—	長石・石英・雲母・スコリア	明赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「++」 外面煤付着	覆土中層	15%
53	土師質土器	内耳鍋	[30.0]	(14.8)	—	長石・石英・スコリア・金雲母多量	褐	普通	外面煤付着	覆土中・下層	30%
54	土師質土器	内耳鍋	[32.6]	17.6	[17.5]	長石・石英・金雲母中量	橙	普通	外面煤付着	覆土中・下層	30%
55	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(7.0)	—	長石・石英・金雲母微量	明赤褐	普通	(1) 耳 口辺内部の耳から左に13.1cmにヘラ記号「+」カ 外面煤付着	覆土中層	20%
56	土師質土器	内耳鍋	[31.0]	(7.2)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい橙	普通	(1) 耳 外面煤付着	覆土中・下層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
57	陶器	有耳壺	[11.7]	(5.6)	—	緻密 鉄釉	褐灰	普通	口広有耳壺 外耳欠損 内・外面施釉	覆土下層	15% 瀬戸 PL35
58	陶器	瓶子	—	(6.1)	—	緻密 灰釉	灰白	普通	ロクロ成形 外面施釉	覆土下層	15% 瀬戸

番号	器種	径長さ	孔径幅	高さ 厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q18	茶臼(上白)	[36.0]	[3.2]	9.8	(2490.0)	安山岩	主溝8条カ 副溝13条一単位	覆土下層	PL29
Q20	砥石	(4.0)	3.9	0.9	(187)	凝灰岩	両端部欠損 砥面1面	覆土下層	
Q21	砥石	(7.9)	4.1	1.0	(424)	凝灰岩	端部欠損 砥面3面	覆土中層	
Q22	砥石	6.6	4.8	4.2	(104.3)	凝灰岩	端部欠損 砥面6面	覆土下層	PL27
Q29	茶臼(下白)	[40.6]	—	(6.0)	(1000.0)	安山岩	凸帯部残存	覆土下層	PL28

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M16	椀状滓	5.7	7.1	3.3	135.3	鉄	着磁 タール・木質付着	覆土下層	
M17	椀状滓	7.4	8.9	4.5	248.6	鉄	着磁 ガラス質・木質付着	覆土下層	PL31

### 第2号溝跡（第204図，付図）

**位置** 調査区南東部のI10b5～I10b6区，標高26.4mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第3号井戸跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** I10b5区から東方向（N-85°-W）へほぼ直線状にI10b6区まで延び，第3号井戸跡に連結している。長さは2.5mで，上幅0.2～0.4m，下幅0.1～0.2m，深さ11cmである。断面形は浅いU字状であり，底面は平坦で，第3号井戸跡に向かってやや傾斜している。

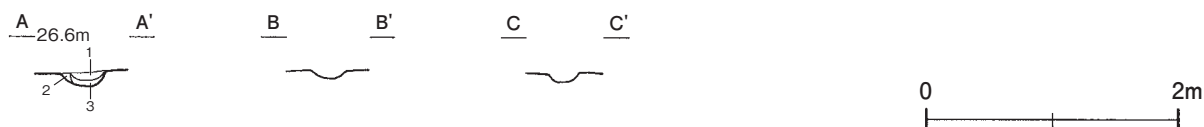
**覆土** 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 灰黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック中量 |                  |

**遺物出土状況** 土師質土器片1点（鍋）が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

**所見** 時期は，重複関係や周囲の遺構から15世紀後半と考えられる。第3号井戸跡に連結しており，同時期に機能していたと想定される。性格は，排水のための溝と考えられる。



第204図 第2号溝跡実測図

### 第4号溝跡（第205図，付図）

**位置** 調査区南東部のH10c4～H10f3区，標高26.5～26.7mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号溝跡を掘り込み，第6号溝に掘り込まれている。第5号溝跡とも重複しているが，土層に新旧関係が表れなかったことから同時期と考えられる。

**規模と形状** 調査区域外のH10c4区から南西方向（S-10°-W）へ直線状にH10f3区まで延び，第1号溝跡に合流している。確認された長さは10.0mで，上幅0.8～1.4m，下幅0.3～0.7m，深さ32～44cmである。断面形は浅いU字状であり，底面は平坦で高低差は見られない。



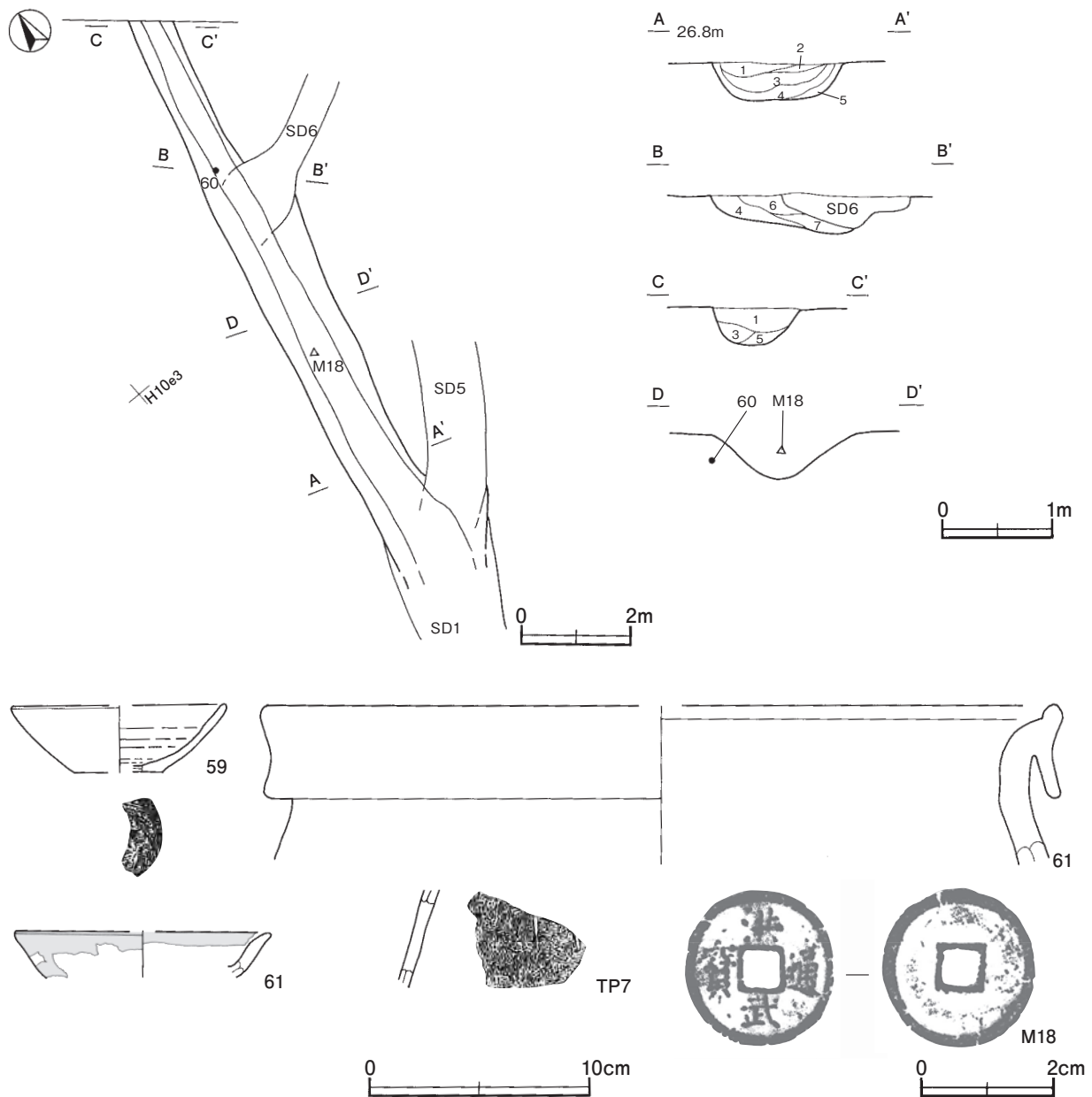
覆土 7層に分層される。西方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1	褐色	ローム粒子少量, 黒色粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量
2	黒褐色	ローム粒子少量	6	褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子・赤色粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子少量 (SD1 第2層)			

遺物出土状況 土師質土器片111点 (小皿17, 鍋類91, 茶釜, 香炉2), 陶器片2点 (小皿, 甕), 古銭1点 (洪武通寶) が出土している。そのほか混入と思われる縄文土器片5点 (深鉢), 土師器片2点 (甕) も出土している。60・M18は覆土中層, 59・61・TP7は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 第1号溝跡よりもやや遅れて掘削されたと考えられ, 16世紀前半には掘削されて, 16世紀後半には埋没したと考えられる。性格は, 第1号溝跡と連結していることから, 居住域を区画するための溝であると考えられる。



第205図 第4号溝跡・出土遺物実測図

第4号溝跡出土遺物観察表（第205図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
59	土師質土器	小皿	[9.6]	3.1	[4.0]	長石・石英・金雲母多量	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中	20%
61	陶器	小皿	[11.6]	(2.0)	—	緻密 鉄釉	黄灰	良好	緑釉小皿	覆土中	15% 瀬戸
60	陶器	甕	[36.0]	(7.2)	—	緻密	にぶい橙	普通	N字状口縁	覆土中層	15% 常滑 PL25
TP7	土師質土器	鍋	—	(4.4)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい橙	普通	口辺内部にヘラ記号「++」	覆土中	15%

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M18	洪武通寶	2.4	0.6	2.1	1368	銅	明 背無	覆土中層	PL30

## 第5号溝跡（第206図，付図）

位置 調査区南東部のH10d4～H10f3区，標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第51号土坑，第1号溝跡を掘り込み，第6号溝に掘り込まれている。第4号溝跡とも重複しているが，土層に新旧関係が表れなかったことから同時期と考えられる。

規模と形状 調査区域外のH10d4区から南西方向（S-10°-E）へ直線状にH10f3区まで延び，第1号溝跡に合流している。確認された長さは8.7mで，上幅0.6～1.1m，下幅0.5～0.8m，深さ34cmである。断面形は浅いU字状であり，底面は平坦で高低差は見られない。

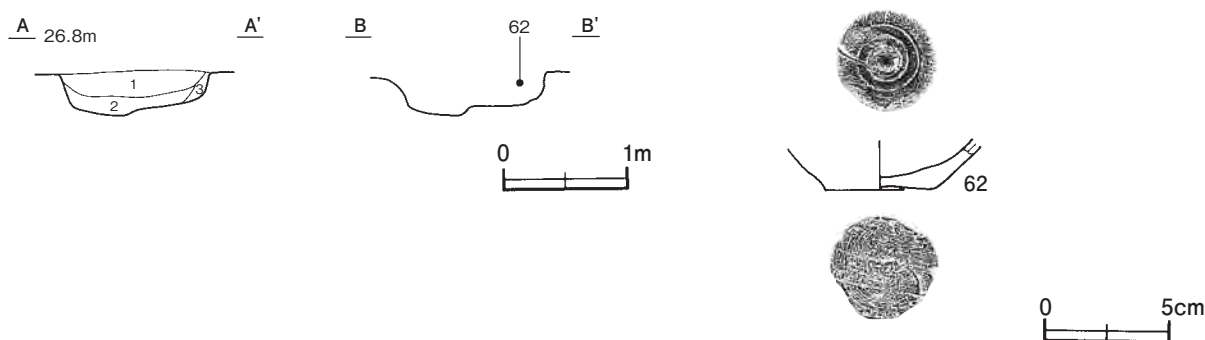
覆土 3層に分層される。西方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

## 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子微量  
3 褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片22点（小皿6，鍋類16），陶器片1点（甕），石製品1点（茶臼）が出土している。62は，覆土中層から出土している。

所見 時期は，第1号溝跡よりもやや遅れて掘削されたと考えられ，16世紀中葉には掘削されて，16世紀後半には埋没したと考えられる。性格は，第1号溝跡と連結していることから，居住域を区画するための溝と考えられる。



第206図 第5号溝跡・出土遺物実測図

第5号溝跡出土遺物観察表（第206図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
62	土師質土器	小皿	—	(2.0)	4.4	長石・石英・金雲母微量	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り・スノコ状圧痕	覆土中層	50%

第7号溝跡 (第207・208図, 付図)

位置 調査区南東部のH9f8~H10f2区, 標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号溝跡を掘り込み, 第22・23号溝に掘り込まれている。

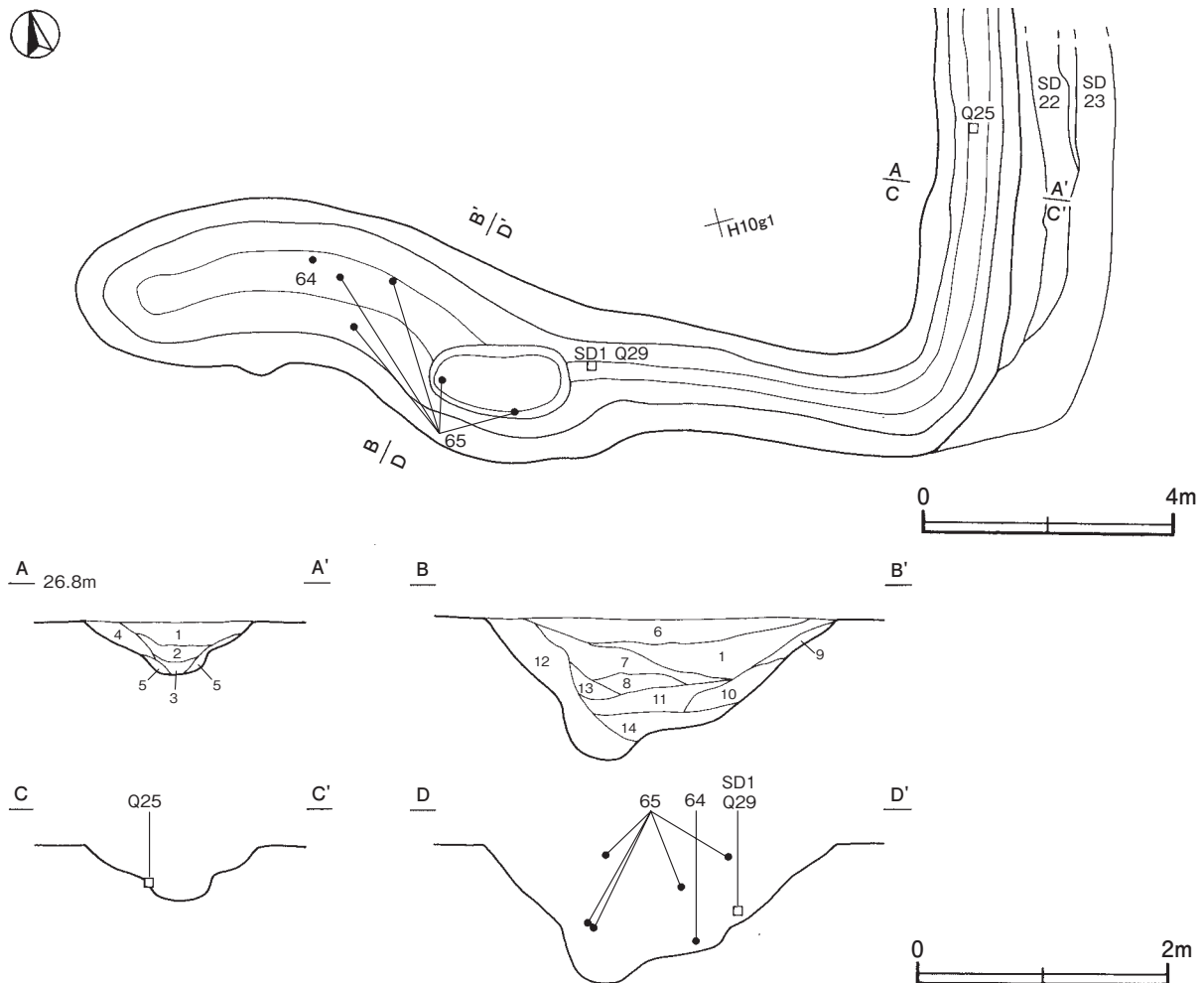
規模と形状 H10f2区から南西方向 (S-20°-W) へ直線状にH10g1区まで延び, そこから北西方向 (N-65°-W) へL字状に屈曲してH9f8区で立ち上がっている。長さは21.5mで, 上幅1.3~2.5m, 下幅0.2~0.7m, 深さ40~112cmであり, 断面形は浅いU字状及びU字状である。底面は平坦で, 溝の両端からH9g0区に向かって緩やかに傾斜している。

覆土 14層に分層される。双方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	赤色粒子少量, 炭化粒子微量	8	にぶい黄褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子中量, 赤色粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量	11	黒褐色	ローム粒子中量
5	褐色	ローム粒子少量	12	黒褐色	ローム粒子微量
6	暗褐色	赤色粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	赤色粒子少量
7	黒褐色	ローム粒子少量	14	暗褐色	ローム粒子中量

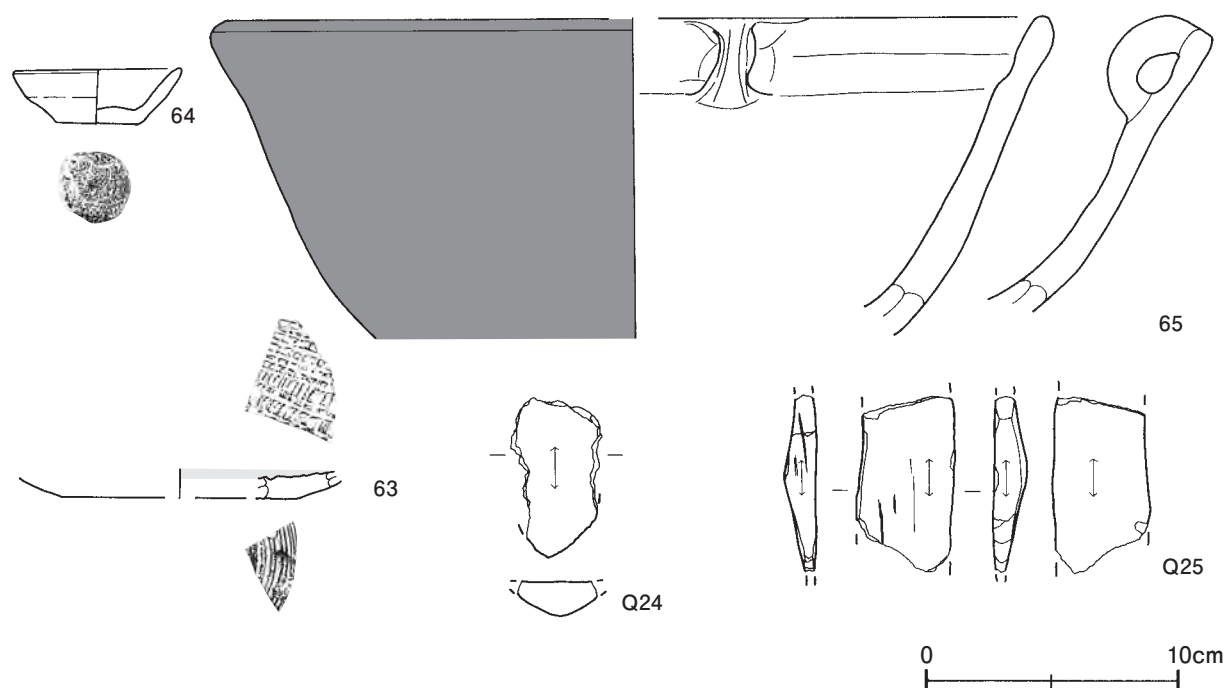
遺物出土状況 土師質土器片152点 (小皿12, 鍋類136, 挿鉢4), 陶器片3点 (鈿皿, 甕2), 石器3点 (砥石), 石製品1点 (茶臼) のほか鉄滓が出土している。63・Q24は覆土中, 64・Q25は覆土下層から出土している。65は覆土上・中層からの出土であり, 散在して出土した破片が接合したものである。Q29は覆土中層から出土



第207図 第7号溝跡実測図

し、第1・8号溝跡から出土した破片と接合した。

所見 65は覆土上・中層からの出土で、破片が散在していることから、埋没時に廃棄されたものと推測される。時期は、周囲の遺構や出土遺物から16世紀中葉には掘削され、16世紀後半には埋没したと考えられる。性格は、内側にある第8号溝跡が、第13号井戸跡を挟んで掘削されており、さらに内側には、7棟の掘立柱建物跡が検出されていることから、居住域を区画するための溝と考えられる。第1・8号溝跡や第13号井戸跡は先に掘削されていたものと想定され、各遺構を避けて掘削されたと考えられる。溝の規模からは、有力者の存在がうかがえる。



第208図 第7号溝跡出土遺物実測図

第7号溝跡出土遺物観察表（第208図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
64	土師質土器	小皿	6.7	2.3	3.1	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 底部回転条切り 底部内面 外縁部環状ナデ・中央部横ナデ	覆土下層	90% PL21
63	陶器	卸皿	—	(12)	[9.4]	緻密 灰釉	灰黄	普通	底面内部に格子状の卸目 内面施釉	覆土中	15% 瀬戸 PL36
65	土師質土器	内耳鍋	[32.3]	(12.7)	—	長石・石英・金雲母多量	褐灰	普通	2耳カ 外面煤付着	覆土中・上層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q24	砥石	(6.3)	(3.6)	1.4	(28.7)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	
Q25	砥石	(7.0)	3.9	1.3	(42.5)	凝灰岩	両端部欠損 砥面4面	覆土下層	

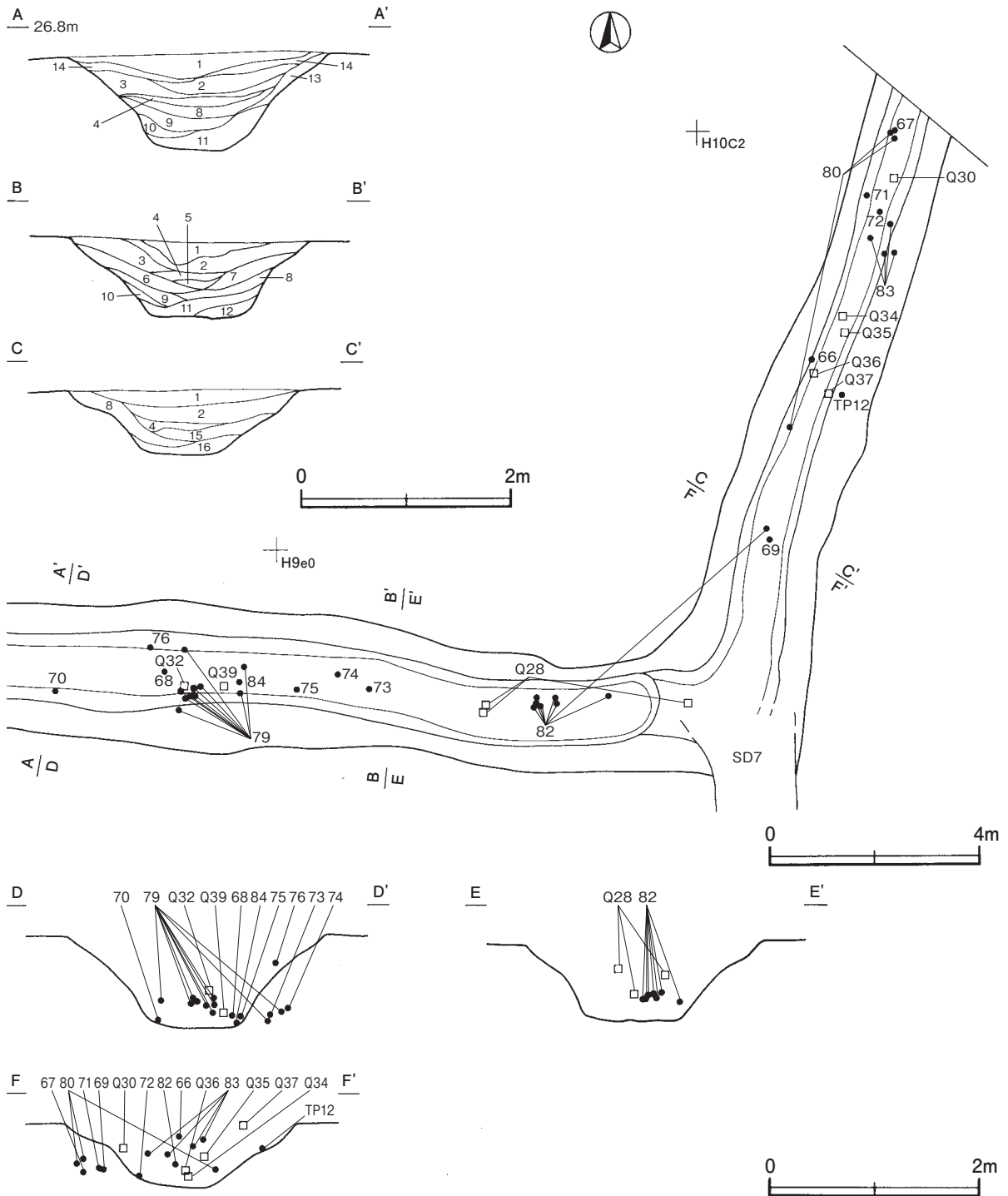
### 第8号溝跡（第209～213図、付図）

位置 調査区南東部のG9j8～H9e8区、H10a2～H9e8区、標高26.5～26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26・27号掘立柱建物跡を掘り込み、第18号井戸、第109号土坑、第7・12号溝及び第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 北西部は、G 9 j9区から西方向に直線上にG 9 j8区まで延び、そこから南方向（S - 7° - W）にL字状に屈曲してH 9 e8区で調査区域外に至っている。南東部は、調査区域外のH10b2区から南西方向（S - 20° - W）へ直線状にH10d2区まで延び、そこから西方向（N - 85° - W）にL字状に屈曲してH 9 e8区で立ち上がっている。確認された長さは53.8mで、上幅1.8~2.8m、下幅0.3~0.8m、深さ22~92cmで、断面形は浅いU字状及び逆台形状である。底面は平坦で、北から南、西から東に向かって緩やかに傾斜している。

覆土 25層に分層される。多方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。



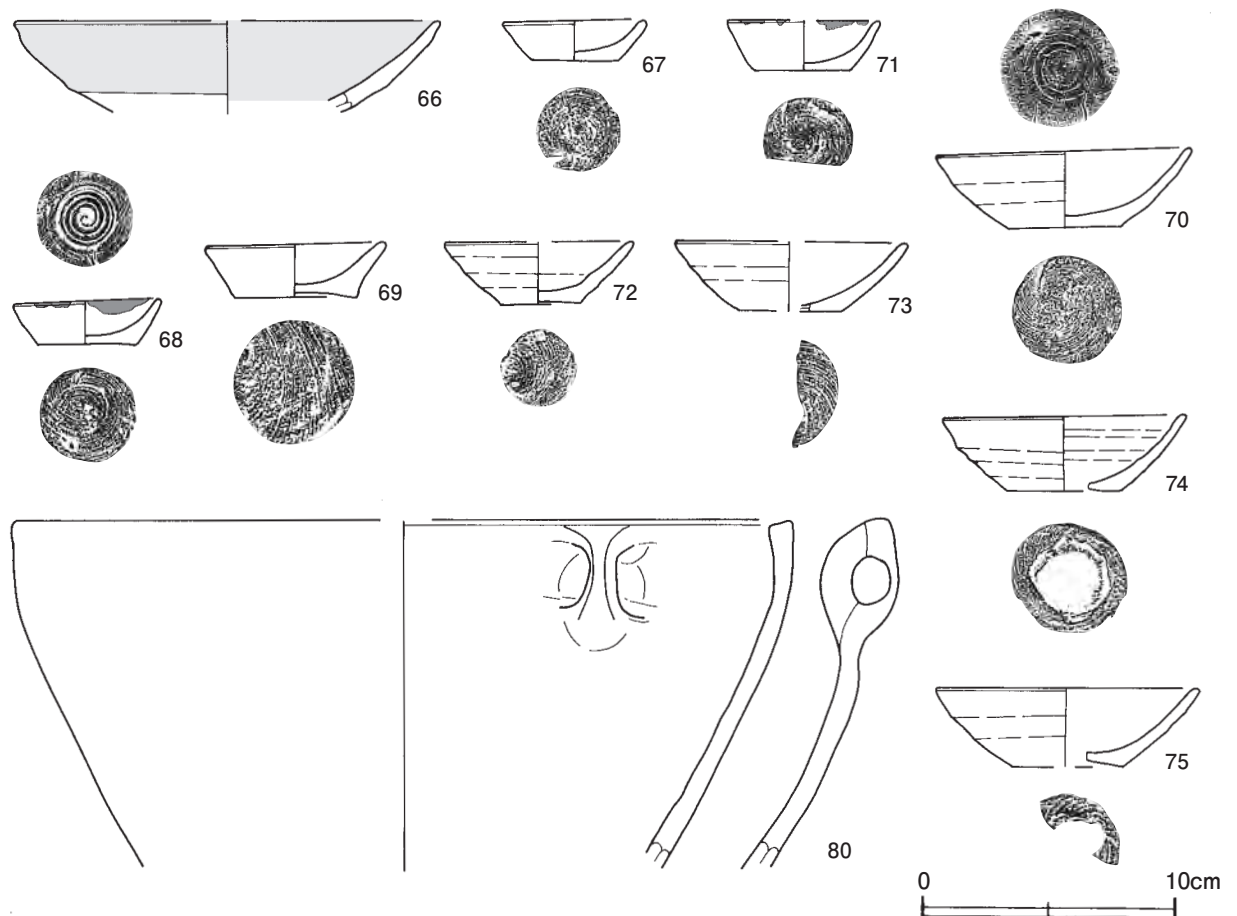
第209図 第8号溝跡実測図

土層解説

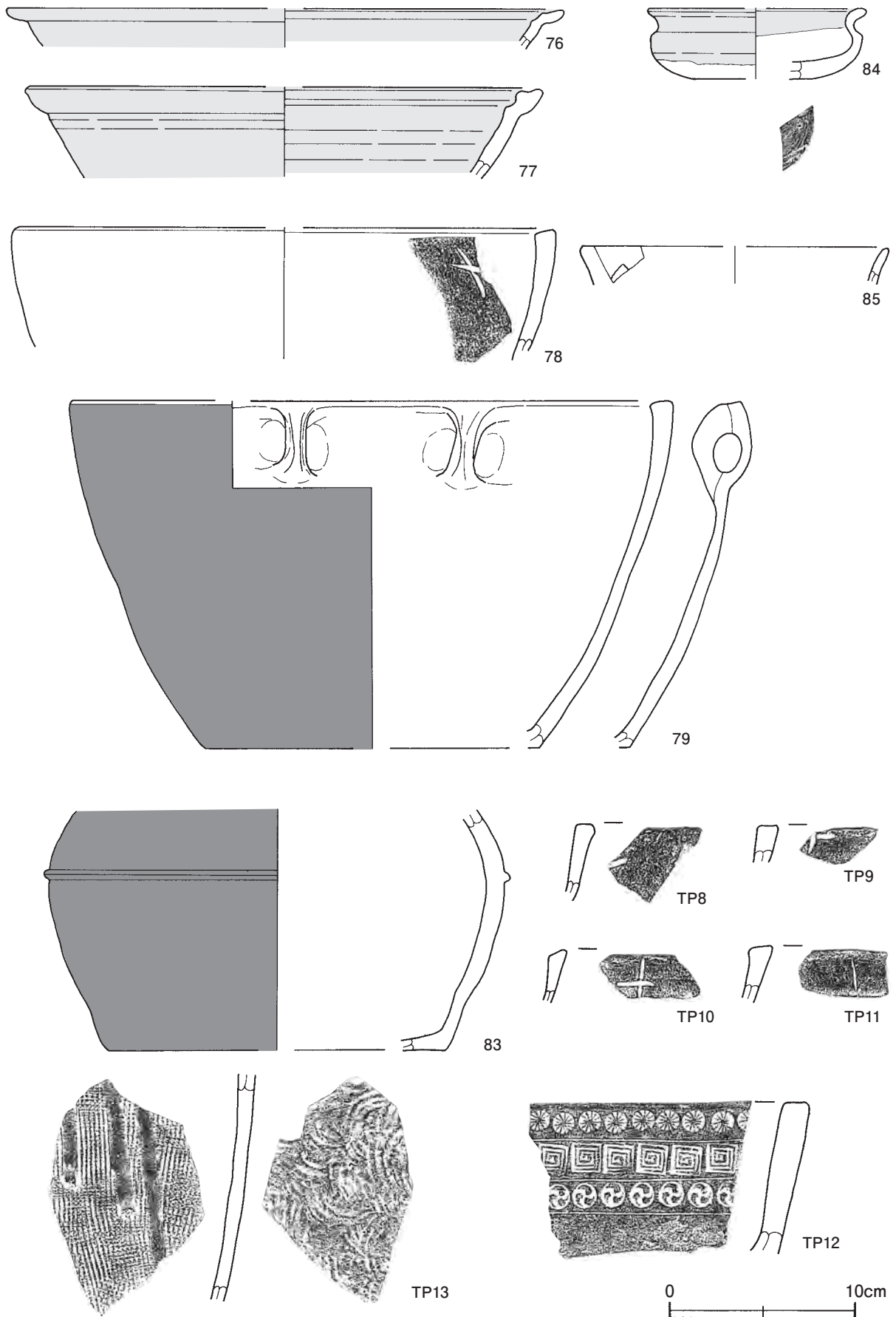
1 黒褐色	ローム粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子少量 (鉄分中量)
2 黒褐色	赤色粒子少量, ローム粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量 (鉄分少量)
3 暗褐色	ローム粒子微量	11 灰オリーブ色	ローム粒子少量 (鉄分少量)
4 黒褐色	炭化物少量	12 にぶい黄褐色	ローム粒子中量
5 黒褐色	赤色粒子少量	13 褐色	ローム粒子・赤色粒子少量
6 オリーブ黒色	ローム粒子少量 (鉄分少量)	14 褐色	ロームブロック微量
7 褐色	ローム粒子少量・赤色粒子微量	15 黒褐色	赤色粒子中量
8 暗褐色	ローム粒子少量 (鉄分少量)	16 黒色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片506点 (小皿51, 鍋類431, 火鉢3, 播鉢18, 茶釜2, 甕類), 陶器片12点 (碗4, 皿2, 播鉢, 甕4, 香炉), 磁器片2点 (碗), 石器7点 (砥石), 石製品5点 (茶臼2, 石臼3), 鉄製品1点 (刀子) が出土している。66・71・76・83・TP12・Q28・Q30は, 覆土中層からの出土で, 83は, 第4・7号溝跡から出土した破片と接合している。67~70・72~75・79・80・82・84・Q32・Q34~37・Q39は, 覆土下層からの出土で, 79・80・82・83は, いずれも散在して出土した破片が接合したものである。77・78・81・85・TP8~11・TP13・Q33・Q38・T6・M20は, 覆土中から出土している。

所見 出土遺物には, 生活雑器の中に火鉢, 茶釜, 香炉, 茶臼などが見られ, 在地農民層よりも上の階層の存在がうかがえる。79・80・82・83は, 覆土中・下層から散在して出土していることから, 埋没時に廃棄されたものと推測される。時期は, 出土遺物から16世紀初頭には掘削され, 16世紀後半には埋没したと考えられる。性格は, 内側の掘立柱建物跡の周囲を取り囲むように掘削されていることから, 居住域を区画するための溝と考えられる。口字状に掘削された形状や規模, 第1・7号溝跡が外側をL字状に掘削していることなどから, 有力者の存在がうかがえる。

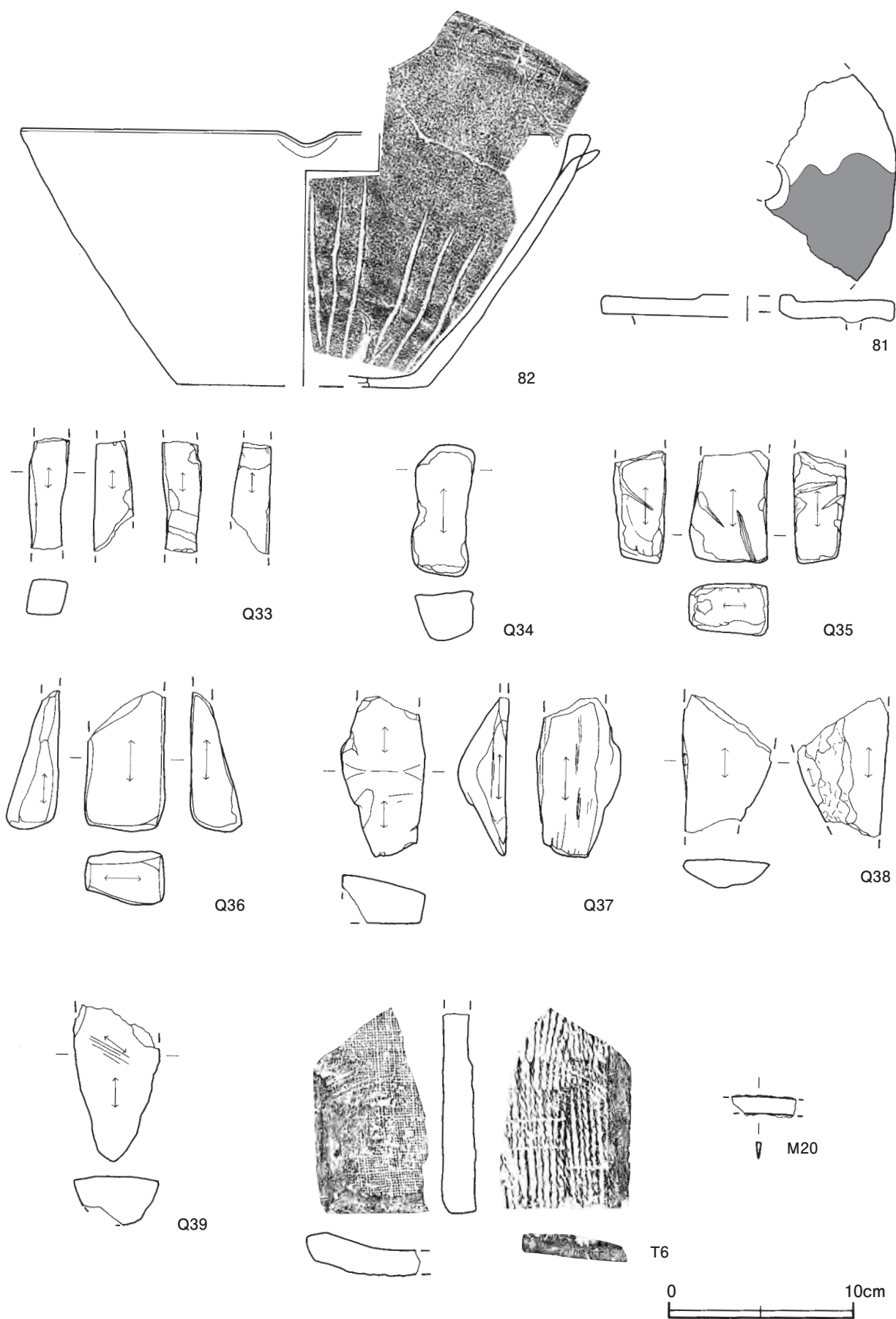


第210図 第8号溝跡出土遺物実測図 (1)



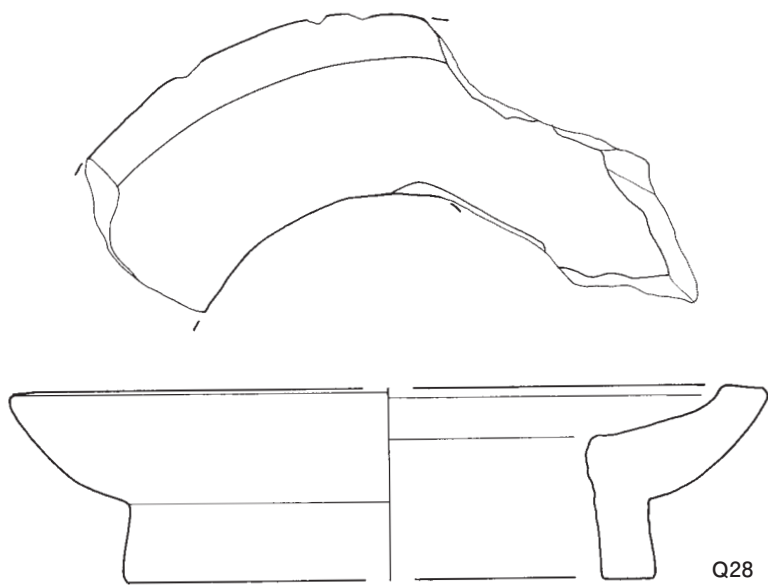
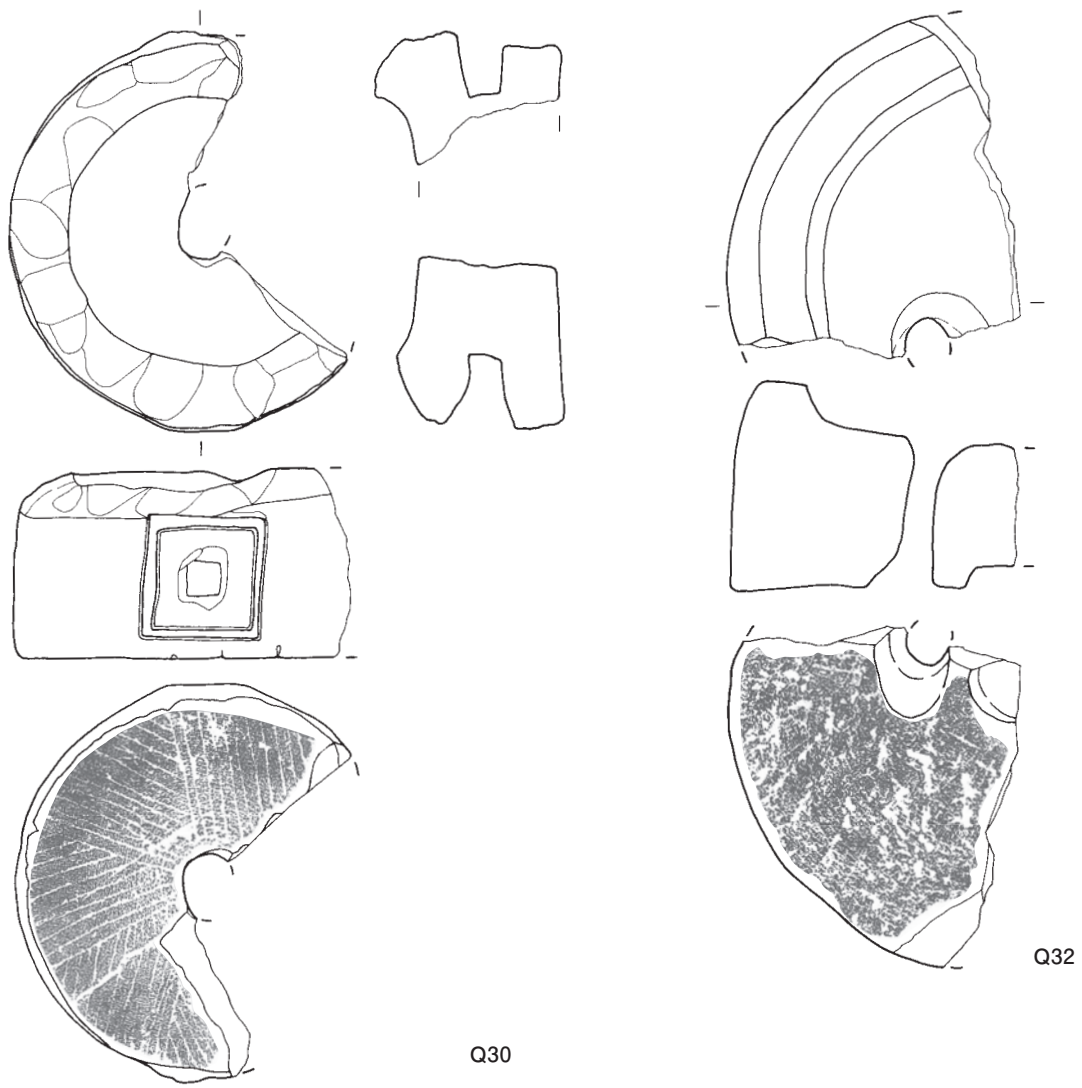
第211图 第8号沟迹出土遗物实测图(2)





第212図 第8号溝跡出土遺物実測図(3)





第213図 第8号溝跡出土遺物実測図(4)

第8号溝跡出土遺物観察表(第210~213図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法・文様の特徵ほか	出土位置	備考
66	陶器	平碗	[16.8]	(3.7)	—	緻密 灰釉	にぶい黄	普通	ロクロ成形 内・外面施釉	覆土中層	20% 瀬戸 PL36
67	土師質土器	小皿	6.6	1.6	3.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面中央部横ナデ	覆土下層	100% PL21
68	土師質土器	小皿	5.8	1.8	3.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 口辺部油煙付着	覆土下層	100% PL21
69	土師質土器	小皿	7.1	2.2	4.8	長石・石英・金雲母中量	にぶい赤褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	95% PL21
70	土師質土器	小皿	10.1	3.2	4.4	長石・石英・金雲母少量	にぶい褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	95% PL32
71	土師質土器	小皿	[6.0]	2.0	3.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 口辺部油煙付着 底部内面外縁部環状ナデ・中央部横ナデ	覆土中層	50% PL21
72	土師質土器	小皿	[7.4]	2.5	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	60% PL32
73	土師質土器	小皿	[9.2]	2.8	[4.0]	長石・石英・金雲母多量	にぶい褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面外縁部環状ナデ	覆土下層	40%
74	土師質土器	小皿	9.7	3.1	4.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り・内面からの穿孔	覆土下層	50% PL21
75	土師質土器	小皿	10.3	3.2	[4.2]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り・内面からの穿孔	覆土下層	50% PL21
76	陶器	深皿	[30.0]	(2.0)	—	緻密 灰釉	灰オリーブ	普通	折縁深皿 内・外面施釉	覆土中層	15% 瀬戸 PL36
77	陶器	深皿	[27.8]	(4.8)	—	緻密 灰釉	浅黄	普通	折縁深皿 内・外面施釉	覆土中	15% 瀬戸 PL36
78	土師質土器	鍋	[28.4]	(7.1)	—	長石・石英・金雲母多量	明赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「×」カ	覆土中	15%
79	土師質土器	内耳鍋	[32.3]	18.7	[18.0]	長石・石英・金雲母多量	にぶい褐	普通	3耳 外面煤付着	覆土下層	40%
80	土師質土器	内耳鍋	[31.0]	(13.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内耳貼り付け	覆土下層	10%
81	土師質土器	火鉢 (目皿)カ	[16.0]	(2.0)	—	長石・石英・細礫・ 金雲母多量	にぶい褐	普通	中央部に孔 底面に環状の高台 底面煤付着	覆土中	30%
82	土師質土器	播鉢	[30.8]	13.8	[13.6]	長石・石英・金雲母多量	にぶい赤褐	普通	片口 4条1単位の播り目	覆土下層	30%
83	土師質土器	茶釜	—	(12.9)	[20.0]	長石・石英・細礫・ 金雲母多量	にぶい赤褐	普通	体部外面に環状の羽 外面煤付着	覆土中層	30% PL24
84	陶器	香炉	[11.6]	3.8	[6.4]	緻密 灰釉	灰	普通	底部回転糸切り 内・外面施釉・付けかけ	覆土下層	20% 瀬戸 PL35
85	磁器	碗	[16.6]	(2.0)	—	緻密 透明釉	オリーブ灰	普通	鎚連弁文 内・外面施釉	覆土中	15% 吉磁 PL36
TP8	土師質土器	鍋	—	(4.1)	—	長石・石英・金雲母微量	にぶい赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」カ	覆土中	5%
TP9	土師質土器	鍋	—	(2.1)	—	長石・石英	灰褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」カ	覆土中	5%
TP10	土師質土器	鍋	—	(2.8)	—	長石・石英・金雲母中量	にぶい赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」カ	覆土中	5%
TP11	土師質土器	鍋	—	(3.1)	—	長石・石英・金雲母中量	にぶい赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」	覆土中	5%
TP12	土師質土器	火鉢	—	(8.1)	—	長石・石英・金雲母多量	灰褐	普通	外面に菊文・雷文・巴文3段のスタンプ文	覆土中層	5%
TP13	須恵器	甕	—	(12.2)	—	長石・石英・自然釉	オリーブ黒 (断面 灰赤)	良好	外面細かい格子目叩き 内面同心円文の当て具痕	覆土中	PL26

番号	器種	径長さ	孔径幅	高さ厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q28	茶臼(下臼)	[40.4]	—	10.2	(2130)	安山岩	凸帯部残存	覆土中層	PL28
Q30	茶臼(上臼)	21.3	3.1	10.1	(3070)	安山岩	供給口一部残存 横打込穴2か所 主溝7条カ 副溝9~11条一単位	覆土中層	PL28
Q32	石臼(上臼)	[28.6]	[5.2]	11.2	(3770)	安山岩	供給口一部残存 芯棒受け一部残存 主溝・副溝摩滅	覆土下層	PL29
Q33	砥石	(6.1)	2.1	2.1	(352)	凝灰岩	両端部欠損 砥面4面	覆土中	PL27
Q34	砥石	7.1	3.4	2.6	682	凝灰岩	砥面1面	覆土下層	
Q35	砥石	(6.0)	4.3	2.8	(1028)	凝灰岩	端部欠損 砥面5面	覆土下層	
Q36	砥石	(7.6)	(4.3)	(2.8)	(954)	凝灰岩	端部欠損 砥面4面	覆土下層	
Q37	砥石	(8.6)	4.6	2.6	(814)	凝灰岩	端部欠損 砥面4面	覆土下層	
Q38	砥石	(7.6)	(4.9)	1.5	(490)	凝灰岩	両端部欠損 砥面4面	覆土中	
Q39	砥石	(8.5)	4.8	2.9	(785)	凝灰岩	端部欠損 砥面1面	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	刀子	(3.5)	0.9	0.3	(2.9)	鉄	刃・茎部の一部 切先・茎尻欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
T6	平瓦	(11.1)	(5.9)	1.8	(159.0)	長石・石英・雲母・ スコリア	にぶい黄褐	普通	凹面糸切り後布目痕・左辺右辺の面取り 凸面糸切り後長縄叩き	覆土中	古代瓦 PL31

第11号溝跡（第214図，付図）

位置 調査区南東部のH10j1～H10i1区，標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号井戸跡，第1号溝跡を掘り込んでいる。

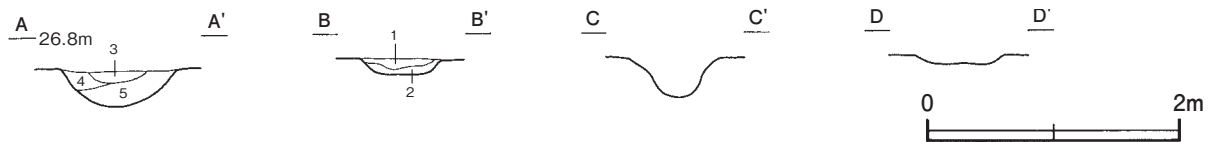
規模と形状 第12号井戸跡に連結しているH10j1区から北方向（N-0°）へ直線状にH10i1区まで延び，第1号溝跡に注いでいる。長さは7.4mで，上幅0.4m，下幅0.3m，深さ8～32cmである。断面形は浅いU字状およびU字状であり，底面は平坦で，第1号溝跡に向かってやや傾斜している。

覆土 5層に分層される。東方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	4 褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ローム粒子中量
3 褐色	ローム粒子中量		

所見 時期は，重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。性格は，第1号溝跡及び第12号井戸跡に連結していることから，排水のための溝と考えられ，同時期に機能していたと想定される。



第214図 第11号溝跡実測図

第15号溝跡（第215図，付図）

位置 調査区南東部のH9d5～H9e4区，標高26.7mの台地平坦部に位置している。

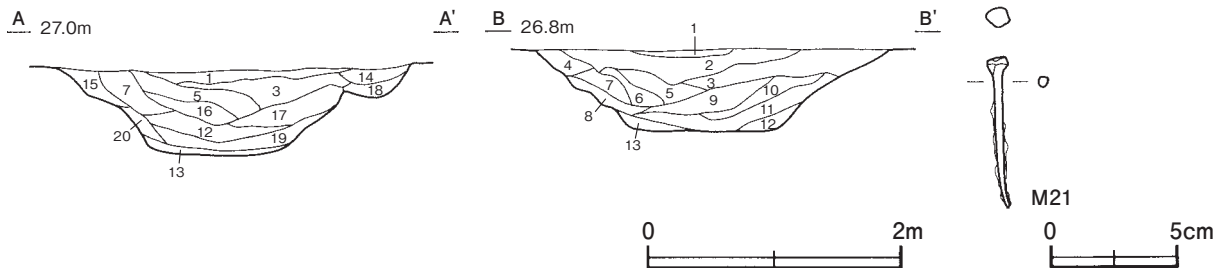
重複関係 第85号土坑を掘り込み，第17・21号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のH9d5区から南西方向（S-30°-W）へ直線状にH9e4区まで延びて立ち上がっている。確認された長さは9.3mで，上幅2.8m，下幅1.0m，深さ65cmである。断面形は逆台形状であり，底面は平坦で高低差は見られない。

覆土 20層に分層される。多方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	11 暗褐色	赤色粒子中量，ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	12 褐色	ローム粒子中量，赤色粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子中量	13 灰褐色	ローム粒子・赤色粒子少量
4 褐色	ロームブロック中量	14 褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック微量	15 暗褐色	ロームブロック・黒色粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子・黒色粒子微量	16 灰褐色	ロームブロック中量
7 暗褐色	ローム粒子微量	17 黒褐色	ロームブロック少量
8 暗褐色	ローム粒子少量，赤色粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック中量
9 極暗褐色	ローム粒子少量	19 褐色	赤色粒子中量
10 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	20 暗褐色	ローム粒子中量，赤色粒子微量



第215図 第15号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片15点（小皿2，鍋類13），鉄製品1点（釘）が出土している。M21は覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や周囲の遺構から，16世紀代と考えられる。性格は不明である。

#### 第15号溝跡出土遺物観察表（第215図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M21	釘	6.0	0.9	0.4	2.3	鉄	断面丸形	覆土中	

#### 第17号溝跡（第216図，付図）

位置 調査区南東部のG 9 i5～H 9 d3区，標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第15・18号溝跡を掘り込み，第17号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のG 9 i5区から南西方向（S -10° -W）へほぼ直線状にH 9 d3区まで延び，調査区域外に至っている。確認された長さは24.3mで，上幅2.0～2.8m，下幅0.1～0.8m，深さ45cmである。断面形は段状であり，底面は平坦で，南西に向かってやや傾斜している。

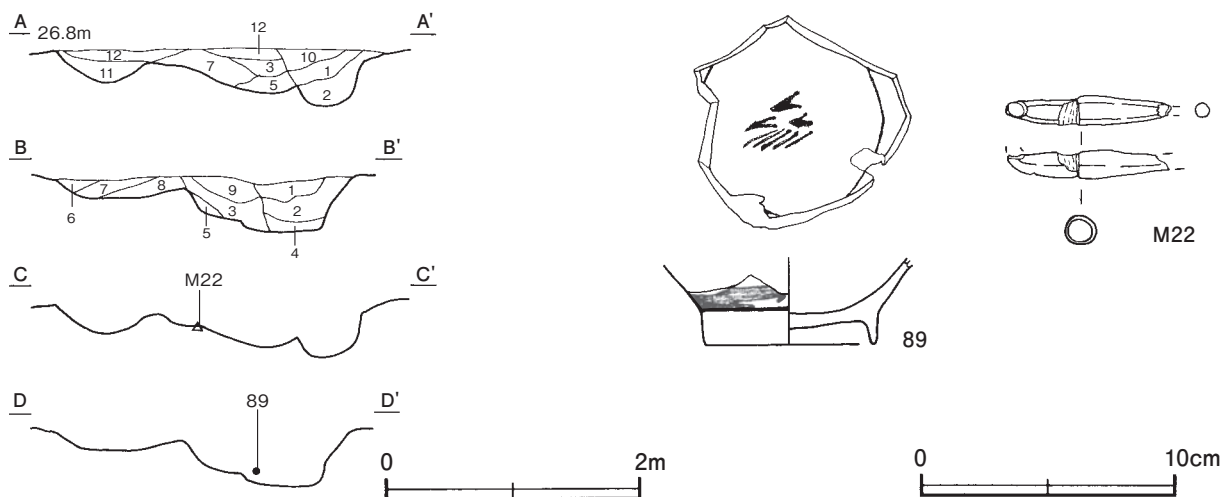
覆土 12層に分層される。多方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。3回の掘り返しの様子が確認できる。

##### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	炭化粒子少量，ローム粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量，黒色粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子中量
4 黒褐色	ローム粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子少量	11 暗褐色	ローム粒子少量
6 極暗褐色	ローム粒子少量	12 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片5点（小皿2，鍋類3），陶器片5点（碗4，甕），磁器片1点（碗），石製品1点（石鉢），銅製品1点（煙管）が出土している。89・M22は覆土下層から出土している。

所見 覆土の堆積状況から，3回の掘り返しの様子が確認できる。時期は，95が覆土下層から出土していることから，16世紀中葉には掘削され，18世紀代まで機能していたと考えられる。性格は，第3・9層が強く締まっていることから，溝としての機能を失った後に，埋没過程で道路としての機能を有した時期もあったと考えられるが明確ではない。



第216図 第17号溝跡・出土遺物実測図

第17号溝跡出土遺物観察表（第216図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
89	磁器	碗	—	(3.5)	6.5	緻密 透明釉	明緑灰	良好	砂目高台 内・外面施釉	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	小口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M22	煙管	(6.5)	1.1	(6.6)	銅	先端部・吸い口欠損	覆土下層	PL30

第18号溝跡（第217～220図，付図）

位置 調査区南東部のH 9 e3～G 8 c3区，標高26.7～27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号方形竪穴遺構，第174・419号土坑を掘り込み，第157号土坑，第17・31・49・59号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のG 8 e3区から北方向（N - 0°）のG 8 c3区へ延び，そこから南東方向（S - 75° - E）へ屈曲してG 9 e3区へ，さらに南方向（S - 0°）へ屈曲してH 9 d3区で調査区域外に至る鍵の手状に巡る溝である。G 8 e6区から北東方向（N - 20° - E）のG 8 c7区で合流する部分も含め，確認された長さは95.6mで，上幅は1.5～3.4m，下幅0.2～0.6m，深さ52～92cmで，断面形はU字状及び逆台形状である。底面は平坦で，高低差はさほどないが，G 8 c7区の底面が最も低くなっている。

覆土 31層に分層される。多方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。第4・29・30層を境に，2度の埋め戻しが行われたと推測される。

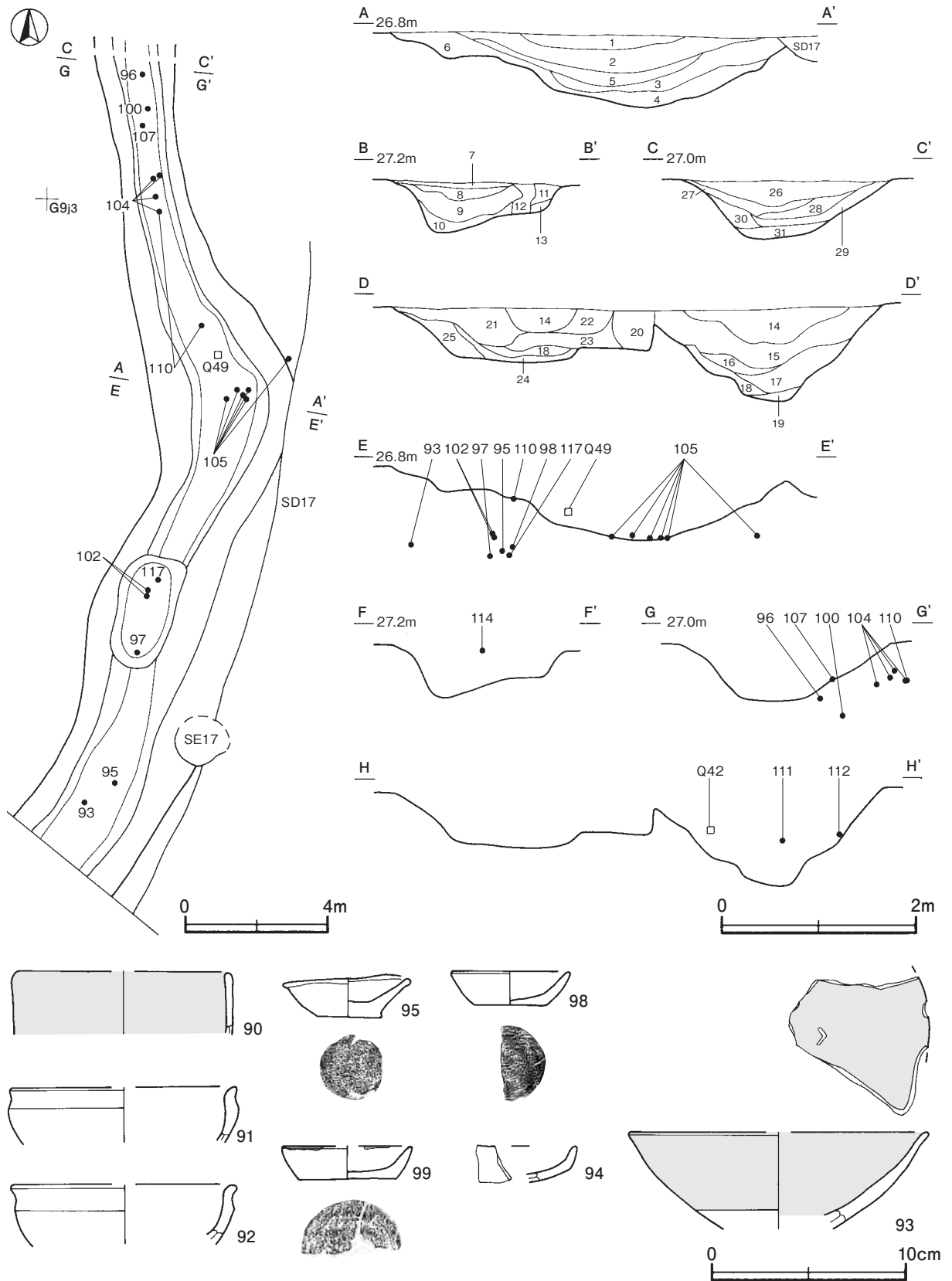
土層解説

1 極暗褐色	赤色粒子少量，ローム粒子微量	17 黒褐色	色 細礫中量，ローム粒子少量
2 黒褐色	色 ローム粒子微量	18 褐色	色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
3 暗褐色	色 赤色粒子中量，ローム粒子微量	19 灰褐色	色 赤色粒子・細礫中量，ローム粒子・細砂少量
4 黒褐色	色 赤色粒子少量，ローム粒子微量	20 暗褐色	色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
5 極暗褐色	色 赤色粒子中量，ローム粒子少量	21 黒色	色 ローム粒子少量
6 黒褐色	色 ロームブロック・炭化物微量	22 黒褐色	色 ローム粒子・炭化粒子少量
7 褐色	色 ロームブロック・炭化粒子少量	23 黒褐色	色 炭化粒子少量，ロームブロック微量
8 黒褐色	色 ローム粒子・炭化物微量	24 黒褐色	色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
9 黒褐色	色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	25 極暗褐色	色 ロームブロック少量
10 黒褐色	色 ロームブロック少量	26 褐色	色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
11 黒褐色	色 炭化粒子少量，ローム粒子微量	27 褐色	色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
12 暗褐色	色 ローム粒子少量	28 褐色	色 ローム粒子・炭化粒子微量
13 黒褐色	色 ロームブロック中量	29 灰褐色	色 ローム粒子・炭化粒子少量
14 黒褐色	色 ローム粒子・細礫少量	30 灰褐色	色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
15 暗褐色	色 細礫中量，ローム粒子・炭化粒子少量	31 暗褐色	色 赤色粒子少量，ローム粒子微量
16 暗褐色	色 ローム粒子・細礫少量，炭化物微量		

遺物出土状況 土師質土器片575点（小皿53，鍋類479，鉢，挿鉢39，茶釜2，置き竈），陶器片30点（碗10，皿類2，挿鉢3，壺2，瓶子，甕12），磁器片3点（碗，天目茶碗，白磁碗），瓦2点（平瓦），石器9点（石皿，茶臼5，石臼2，砥石），鉄製品1点（不明）のほか，混入した縄文土器片1点（鉢），土師器片4点（高台付坏，鉢，甕2），須恵器片17点（瓶，甕16）も出土している。90～92・94・99・101・103・106・109・113・115・118・Q49・M23・M24は覆土中からの出土である。114は覆土上層，104・107・108・110～112・Q42は覆土中層からそれぞれ出土している。104・110は散在して出土している。93・95～98・100・102・105・116・117は覆土下層から出土している。

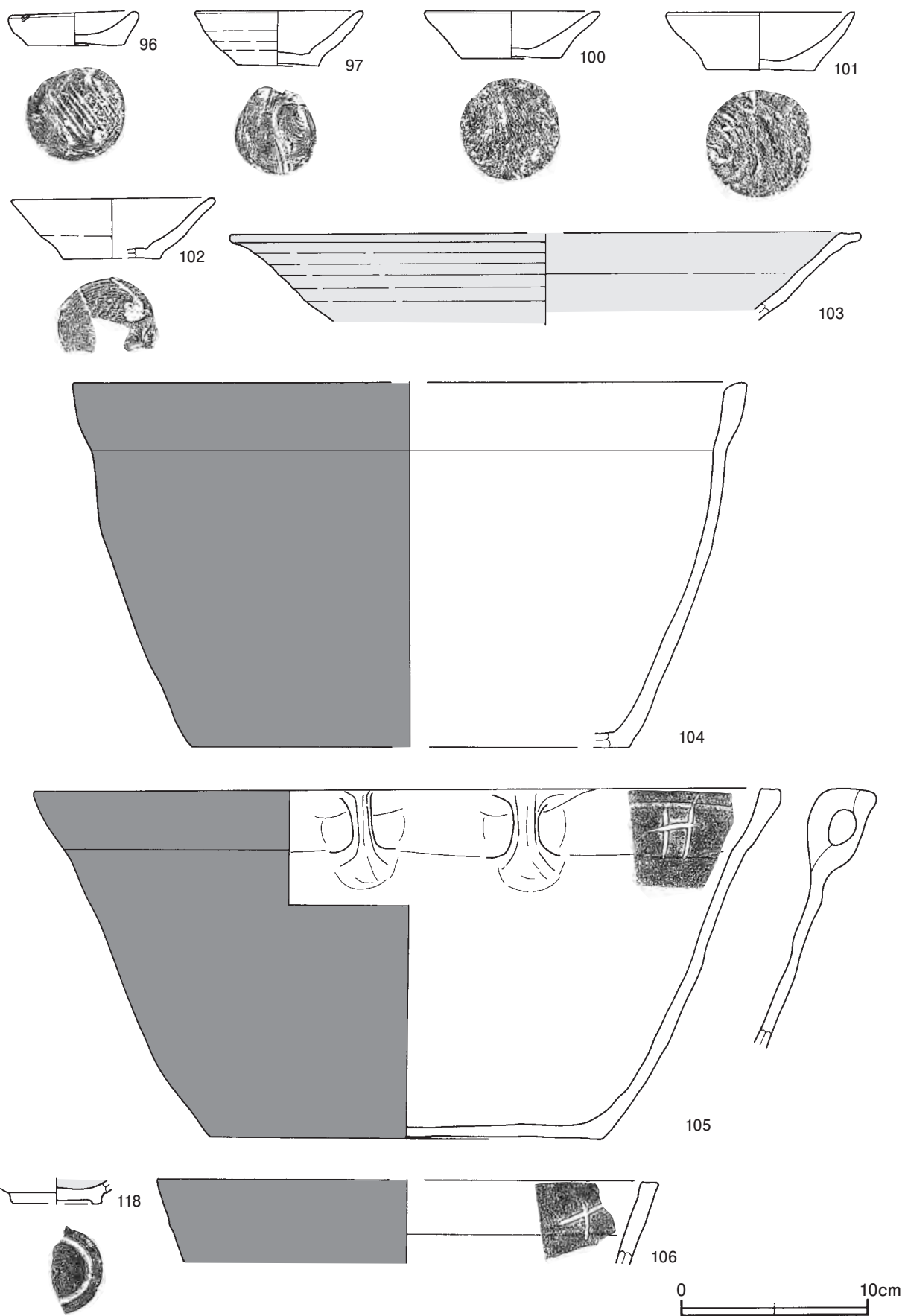
所見 104・110は覆土中層から散在して出土していることから，廃棄されたものと推測される。時期は，出土遺物や覆土の様子から16世紀前半には掘削され，16世紀中葉頃には半分ほどが埋没し，規模は縮小したものの，17世紀前半までは機能していたものと考えられる。性格は，内側の掘立柱建物跡の周囲を取り囲むように掘削されており，居住域を区画するための溝と考えられる。鍵の手状に掘削された形状や内側の掘立柱建物跡の規

模などから、当集落の中では最も権力をもった集団であったことが推測される。出土遺物は、生活雑器のほか  
に茶釜、瓶子、有耳壺、青磁碗、白磁碗などが見られ、在地農民層よりも上の階層の居住者が想定される。



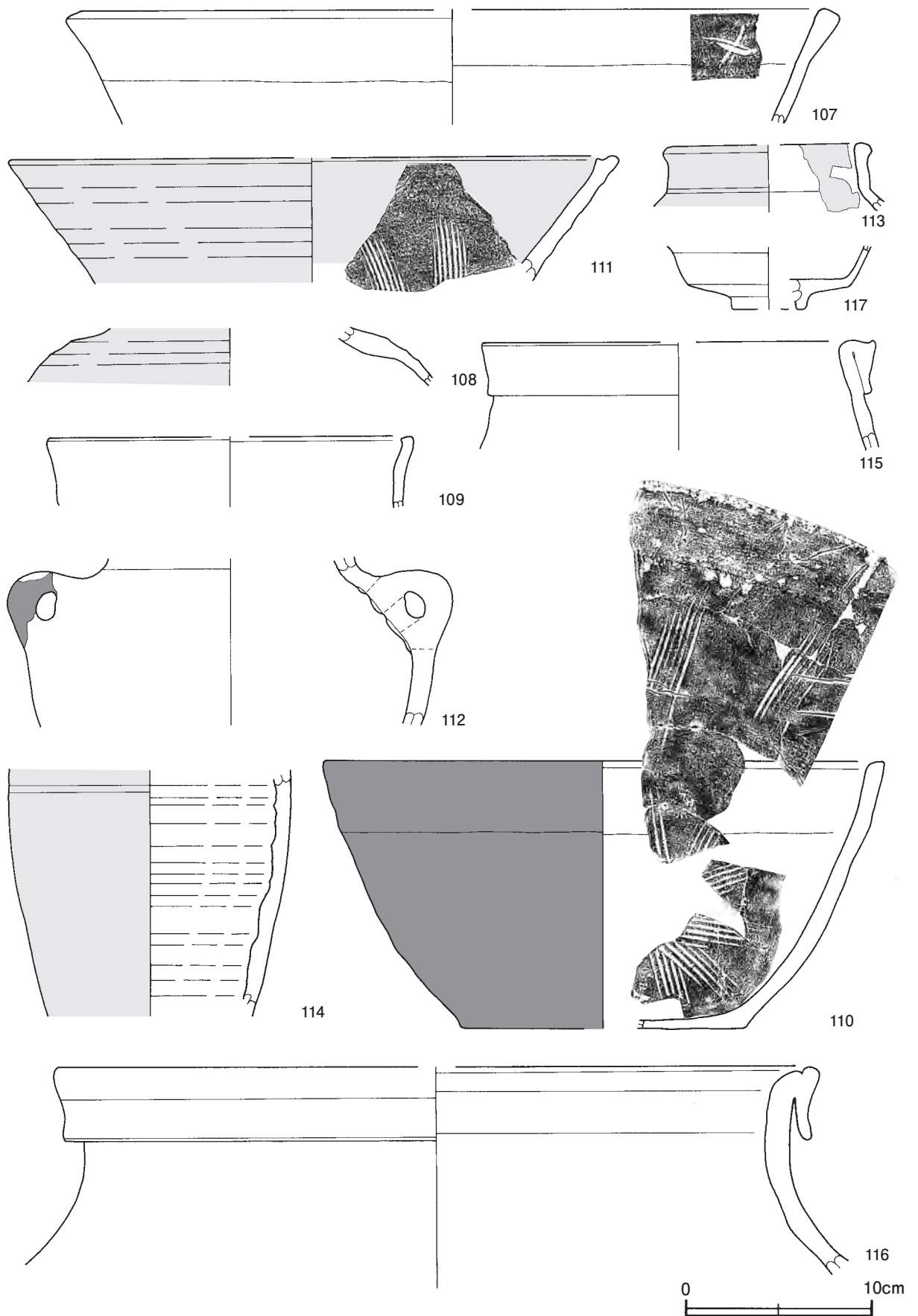
第217図 第18号溝跡・出土遺物実測図



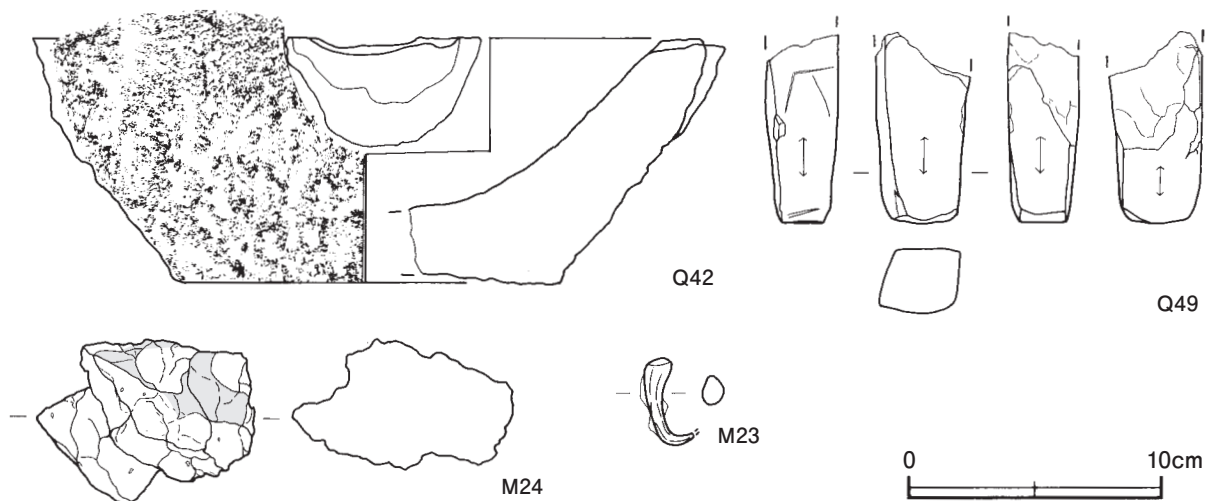


第218図 第18号溝跡出土遺物実測図(1)





第219図 第18号溝跡出土遺物実測図(2)



第220図 第18号溝跡出土遺物実測図 (3)

第18号溝跡出土遺物観察表 (第217~220図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	陶器	碗	[10.8]	(3.3)	—	緻密 飴釉	明褐	普通	筒型碗 内・外面施釉	覆土中	15% 瀬戸
91	陶器	碗	[11.6]	(2.9)	—	緻密 透明釉	灰白	普通	内・外面施釉	覆土中	15% 志野 PL36
118	陶器	碗	—	(1.3)	[4.8]	緻密 灰釉	外 黒褐 内 黄褐	普通	天目茶碗 削り出し高台 内面施釉	覆土中	20% 瀬戸
94	磁器	碗	—	(1.9)	—	緻密 透明釉	緑灰	普通	内・外面施釉	覆土中	15% 青磁
117	磁器	碗	—	(3.4)	[3.9]	緻密 透明釉	灰	普通	腰折れ碗 内・外面施釉	覆土下層	30% 青白磁
92	陶器	丸皿	[11.0]	(3.0)	—	緻密 透明釉	灰白	普通	内・外面施釉	覆土中	15% 志野 PL36
93	陶器	小皿	[15.4]	(5.0)	—	緻密 灰釉	オリーブ 黄	普通	緑釉 内・外面施釉 見込みにトチン痕	覆土下層	15% 瀬戸 PL36
95	土師質土器	小皿	6.4	2.2	3.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面 外縁部環状ナデ	覆土下層	100% PL21
96	土師質土器	小皿	6.7	1.9	5.3	長石・石英・スコリア	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後スノコ状尻痕 口辺部油煙付着 底部内面中央部横ナデ	覆土下層	90% PL21
97	土師質土器	小皿	9.0	3.0	4.4	長石・石英・スコリア	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面 外縁部環状くぼみ	覆土下層	100% PL32
98	土師質土器	小皿	6.0	1.7	3.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	50% PL22
99	土師質土器	小皿	[6.6]	1.7	5.0	長石・石英・スコリア	淡赤橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラナデ 口辺部油煙付着	覆土中	50%
100	土師質土器	小皿	9.2	2.6	5.4	長石・石英・金雲母中量	にぶい褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラナデ	覆土下層	85% PL22
101	土師質土器	小皿	10.0	3.2	5.8	長石・石英・金雲母中量	にぶい赤褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラナデ 底部内面中央部凸帯	覆土中	85% PL22
102	土師質土器	小皿	10.8	3.3	5.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面 外縁部環状くぼみ	覆土下層	50% PL22
103	陶器	深皿	[33.8]	(4.7)	—	緻密 灰釉	浅黄	普通	折縁深皿 内・外面施釉	覆土中	15% 瀬戸 PL36
104	土師質土器	鍋	[36.4]	(19.7)	[23.6]	長石・石英・金雲母多量	にぶい赤褐	普通	外面煤付着	覆土中層	20%
106	土師質土器	鍋	[27.0]	(4.5)	—	長石・石英・金雲母多量	明赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」カ 外面煤付着	覆土中	25%
107	土師質土器	鍋	[40.0]	(6.1)	—	長石・石英・金雲母多量	褐	普通	口辺内部にヘラ記号「++」	覆土中層	25%
105	土師質土器	内耳鍋	40.2	19.0	21.0	長石・石英・金雲母微量	にぶい赤褐	普通	3耳 口辺内部の右耳から21.8cmにヘラ 記号「++」 外面煤付着	覆土下層	60%
109	土師質土器	鉢カ	[19.6]	(3.9)	—	長石・石英・金雲母少量	明赤褐	普通	ロクロ成形	覆土中	30%
110	土師質土器	播鉢	30.2	14.4	15.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	6条1単位の播り目 外面煤付着	覆土中層	50%
111	陶器	播鉢	[32.5]	6.7	—	緻密 錆釉	にぶい赤褐	良好	7条1単位の播り目 内・外面施釉	覆土中層	25% 瀬戸
112	土師質土器	茶釜	—	(9.0)	—	長石・石英・金雲母微量	にぶい褐	普通	体部穿孔後外耳貼り付け 外面一部煤付着	覆土中層	30% PL24
108	陶器	壺	—	(3.2)	—	緻密 灰釉	灰オリーブ	普通	外面施釉 内面一部施釉	覆土中層	25% 瀬戸 PL35
113	陶器	壺	[10.4]	(3.6)	—	緻密 鉄釉	にぶい黄褐	普通	祖母懷壺 内・外面施釉	覆土中	25% 瀬戸 PL36
114	陶器	瓶子	—	(13.2)	—	緻密 灰釉	外 オリーブ黄 内 浅黄	良好	外面施釉	覆土上層	30% 瀬戸 PL36
115	陶器	甕	[21.0]	(5.8)	—	緻密 自然釉	にぶい褐	普通	N字状口縁	覆土中	15% 常滑 PL25
116	陶器	甕	[40.6]	(11.3)	—	緻密	外 黄灰 内 にぶい褐	普通	N字状口縁	覆土下層	15% 常滑 PL25

番号	器種	径長さ	孔径幅	高さ厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q42	石鉢	[26.6]	—	9.8	(3250.0)	安山岩	片口鉢	覆土中層	PL28
Q49	砥石	(7.6)	3.8	2.4	(93.5)	凝灰岩	端部欠損 砥面4面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M23	耳金カ	(3.4)	0.8	1.3	(3.6)	鉄	断面楕円形 両端部欠損	覆土中	PL31
M24	碗状滓	6.5	8.6	5.0	189.4	鉄	着磁 ガラス質付着	覆土中	PL31

### 第20号溝跡（第221図，付図）

**位置** 調査区南東部のH10j5～H10i3区，標高26.7mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第11号井戸跡，第52号土坑，第1号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** H10j5区から北西方向（N-75°-W）へ直線状にH10i3区まで延び，第1号溝跡に注いでいる。

長さは7.6mで，上幅0.9～1.3m，下幅0.3～0.6m，深さ20～35cmである。断面形は浅いU字状であり，底面は平坦で，第1号溝跡に向かってやや傾斜している。

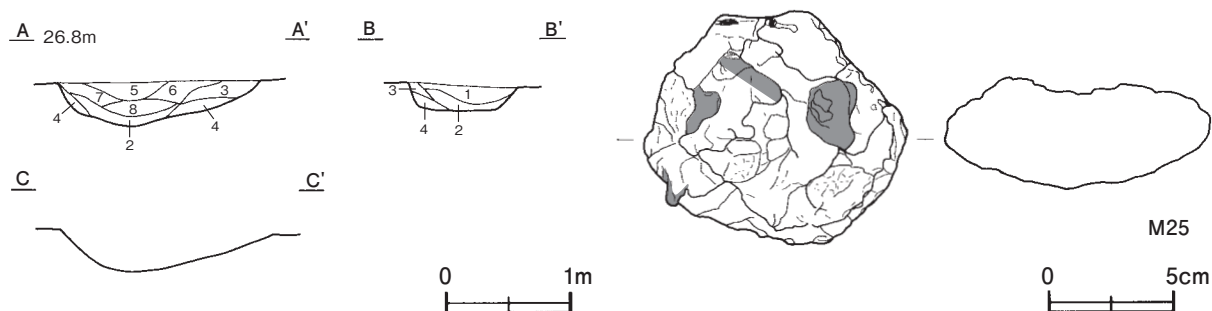
**覆土** 8層に分層される。ブロック単位の投入を示す堆積状況から人為堆積である。

#### 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子少量	6	褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子少量	7	暗褐色	ローム粒子中量
4	褐色	ローム粒子中量	8	褐色	ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師質土器片15点（小皿3，鍋類12）のほか，碗状滓1点が出土している。M25は覆土中から出土している。

**所見** 第1号溝跡，第12号井戸跡を掘り込んでいることから，集落存続後期に掘削されたものと想定される。時期は，重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。性格は，第1号溝跡に連結していることから，排水のための溝と考えられる。



第221図 第20号溝跡・出土遺物実測図

### 第20号溝跡出土遺物観察表（第221図）

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M25	碗状滓	9.4	10.6	4.5	407.5	鉄	着磁 タール・木質付着	覆土中	PL31

### 第31号溝跡（第222図，付図）

位置 調査区中央部のG 7 b9～南東部のG 8 b3区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第18・29・32号溝跡を掘り込み，第33・89号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第32号溝跡に連結しているG 7 b9区から東方向（N-75°-W）へ直線状にG 8 b3区まで延び，L字状に屈曲して第18号溝跡に連結している。長さは21.0mで，上幅1.3～1.7m，下幅0.1～0.4m，深さ8～25cmである。断面形は浅いU字状であり，底面は平坦で，第18号溝跡に向かってやや傾斜している。

覆土 3層に分層される。北方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

#### 土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック微量  
2 黒褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ローム粒子中量

所見 時期は，重複関係や周囲の遺構から16世紀中葉から16世紀末と考えられる。性格は，第18・32号溝跡に連結していることから，排水のための溝と考えられる。



第222図 第31号溝跡実測図

### 第32号溝跡（第223～230図，付図）

位置 調査区南東部のF 8 h4～G 7 b8区，標高26.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第31・38～40・42・48号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のF 8 h4区から西方向（N-90°-W）へ直線状にF 7 h9区まで延び，さらに南西方向（S-7°-W）へ屈曲してG 7 b8区で調査区域外に至っている。確認された長さは28.0mで，上幅2.4～3.2m，下幅0.4～1.3m，深さ90～112cmであり，断面形は逆台形状である。底面は平坦で，F 8 h4区からF 7 h9区，さらにG 7 b8区に向かって緩やかに傾斜している。

覆土 9層に分層される。8・9層は自然堆積で，1～7層は東方向からの投入を示す人為堆積である。

#### 土層解説

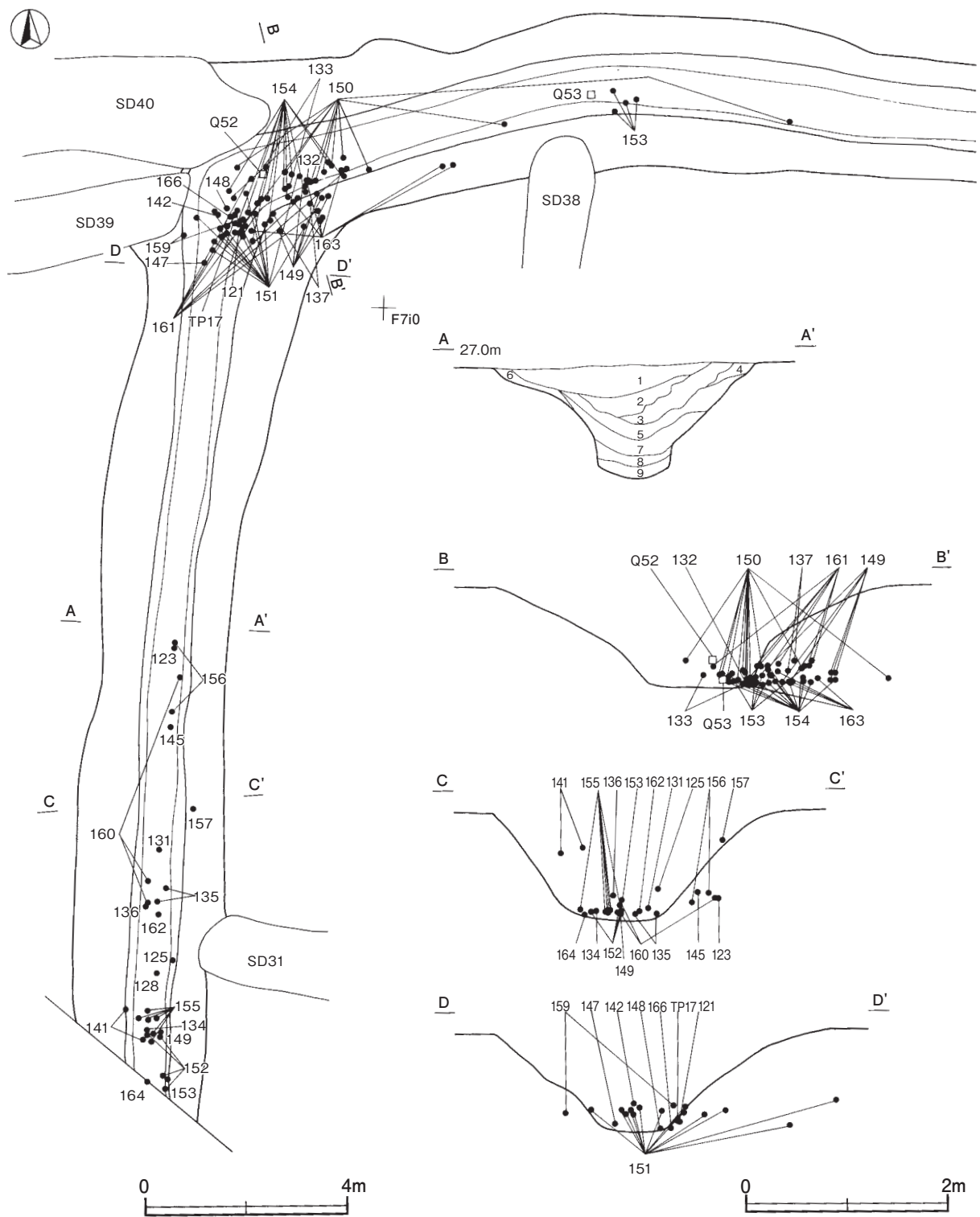
1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック少量  
4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
5 黒褐色 ロームブロック微量

6 暗褐色 ロームブロック多量  
7 黒褐色 赤色粒子中量，ローム粒子微量  
8 極暗褐色 ローム粒子・赤色粒子少量，細礫微量  
9 暗褐色 赤色粒子少量，ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1,920点（小皿36，鍋類1,860，挿鉢23，壺類），陶器片19点（碗13，花瓶，甕5），磁器片1点（青磁壺），石器4点（砥石），石製品1点（硯）のほか，混入した縄文土器片1点（深鉢），土師器片1点（高坏），須恵器片2点（甕）も出土している。122・124・126・127・129・130・138・139・143・144・146・158・165・167～169・Q51・Q76は覆土中，141・157は覆土中層から出土している。121・123・125・128・131～137・140・142・145・147～156・159～164・166・Q52・Q53は覆土下層から出土しており，149～155・159～161・163は，いずれも散在して出土した破片が接合したものである。

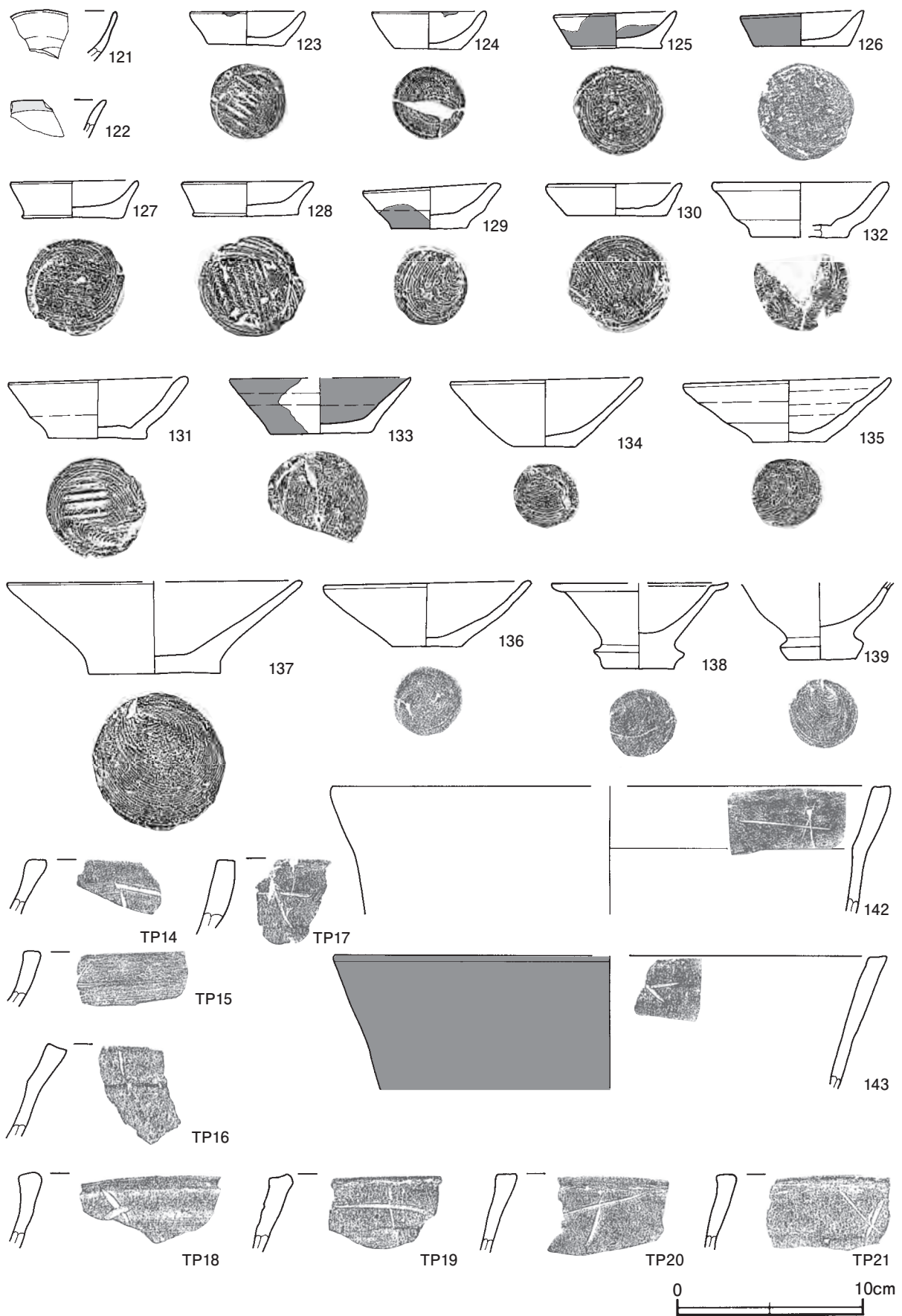
所見 時期は，出土遺物から16世紀初頭には掘削され，16世紀後半には埋没したと考えられる。性格は，西部及び北西部に，掘立柱建物跡や火葬土坑を含む墓域が検出されており，居住域と墓域を区画するための溝と考えられる。L字状に掘削された形状や規模からは，有力者の存在がうかがえる。花瓶の出土は，墓域との関係

もうかがえる。花瓶には、二次焼成の痕跡が認められる。また、硯や香炉、青磁壺の出土は、在地農民層よりも上の階層の居住者が想定される。多くの内耳鍋の破片が覆土下層から散在して出土していることから、一括投棄されたものと推測され、復元できたものが多いことから、投棄時には形状を保っていたものと考えられる。

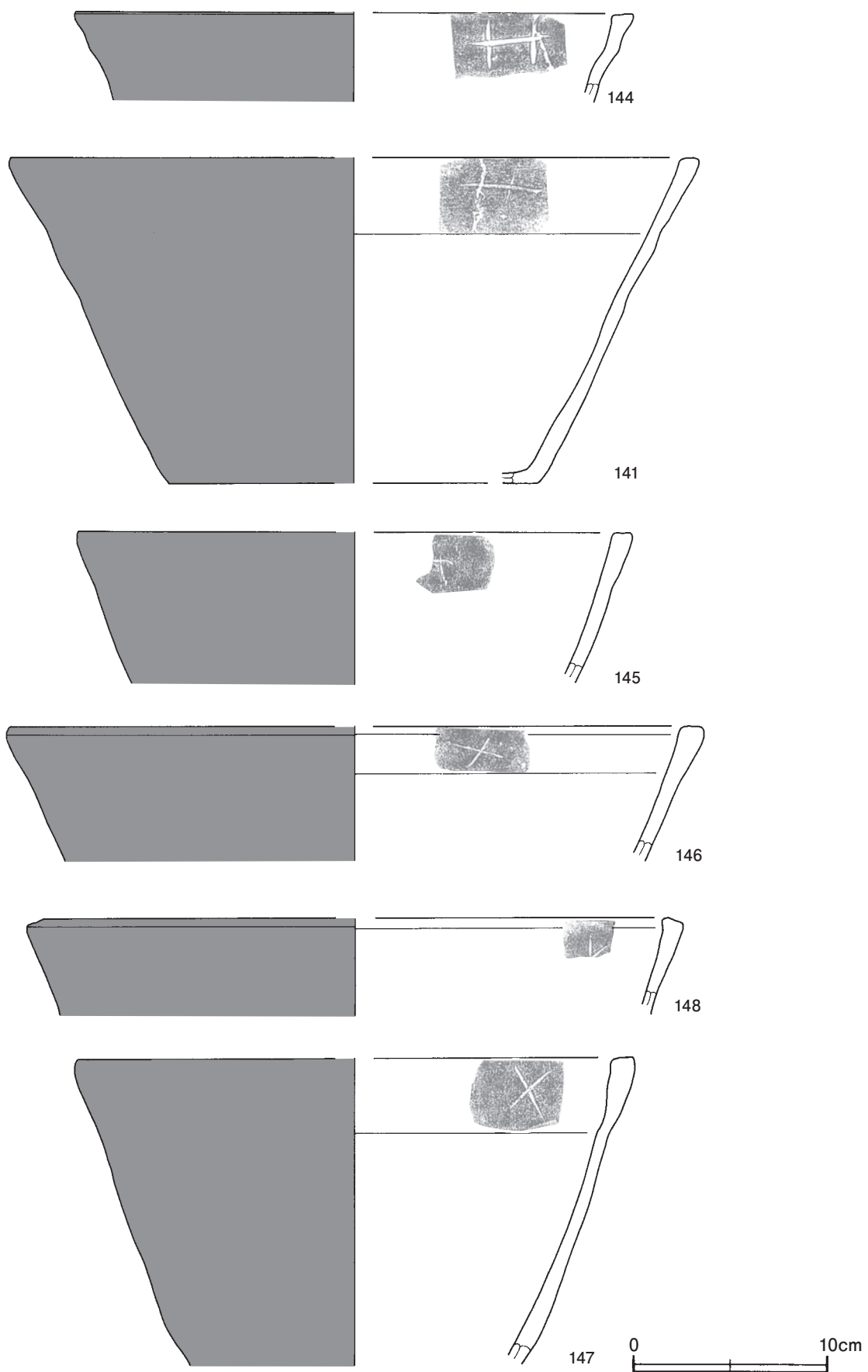


第223図 第32号溝跡実測図



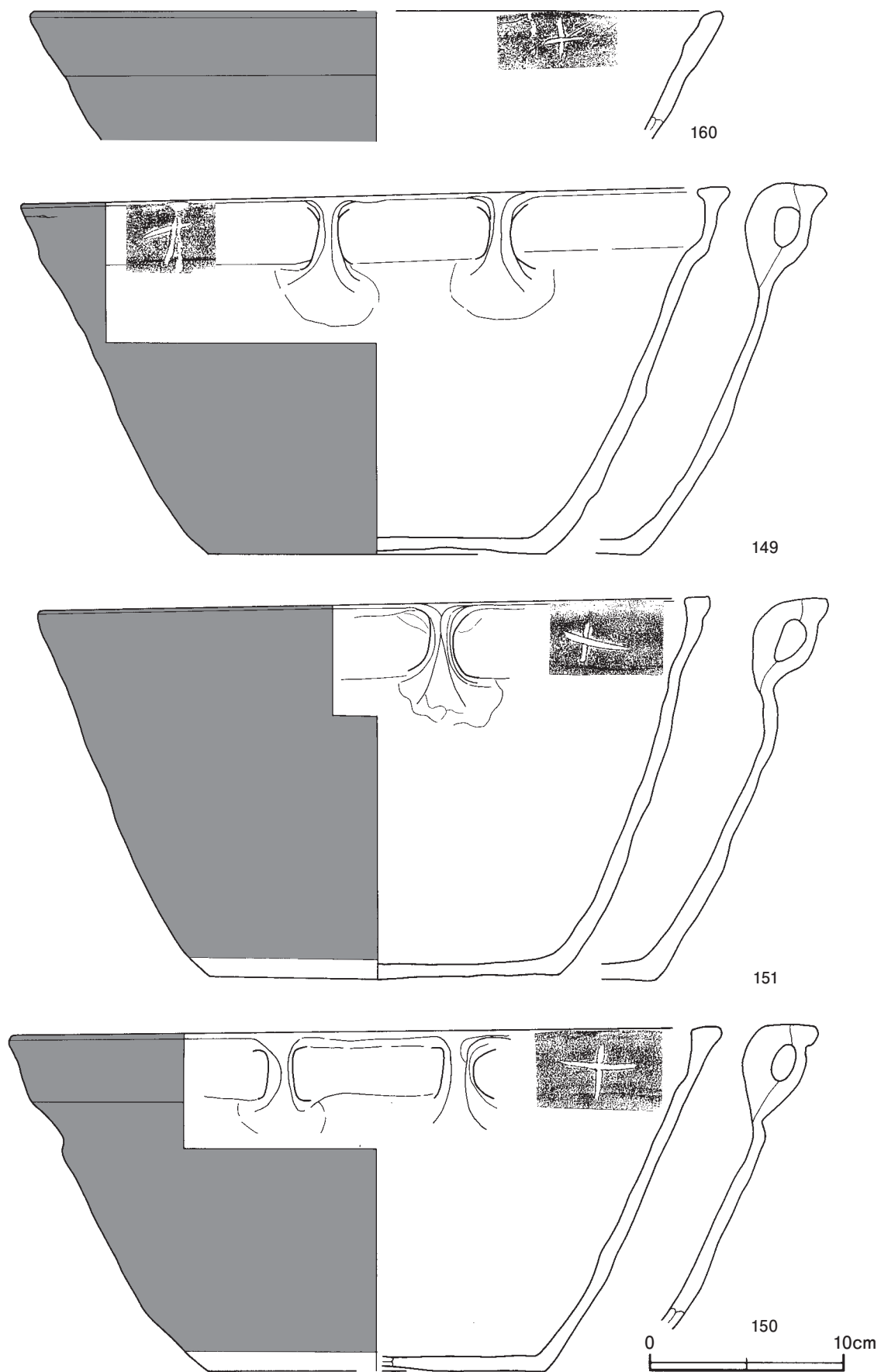


第224图 第32号沟迹出土遗物实测图 (1)

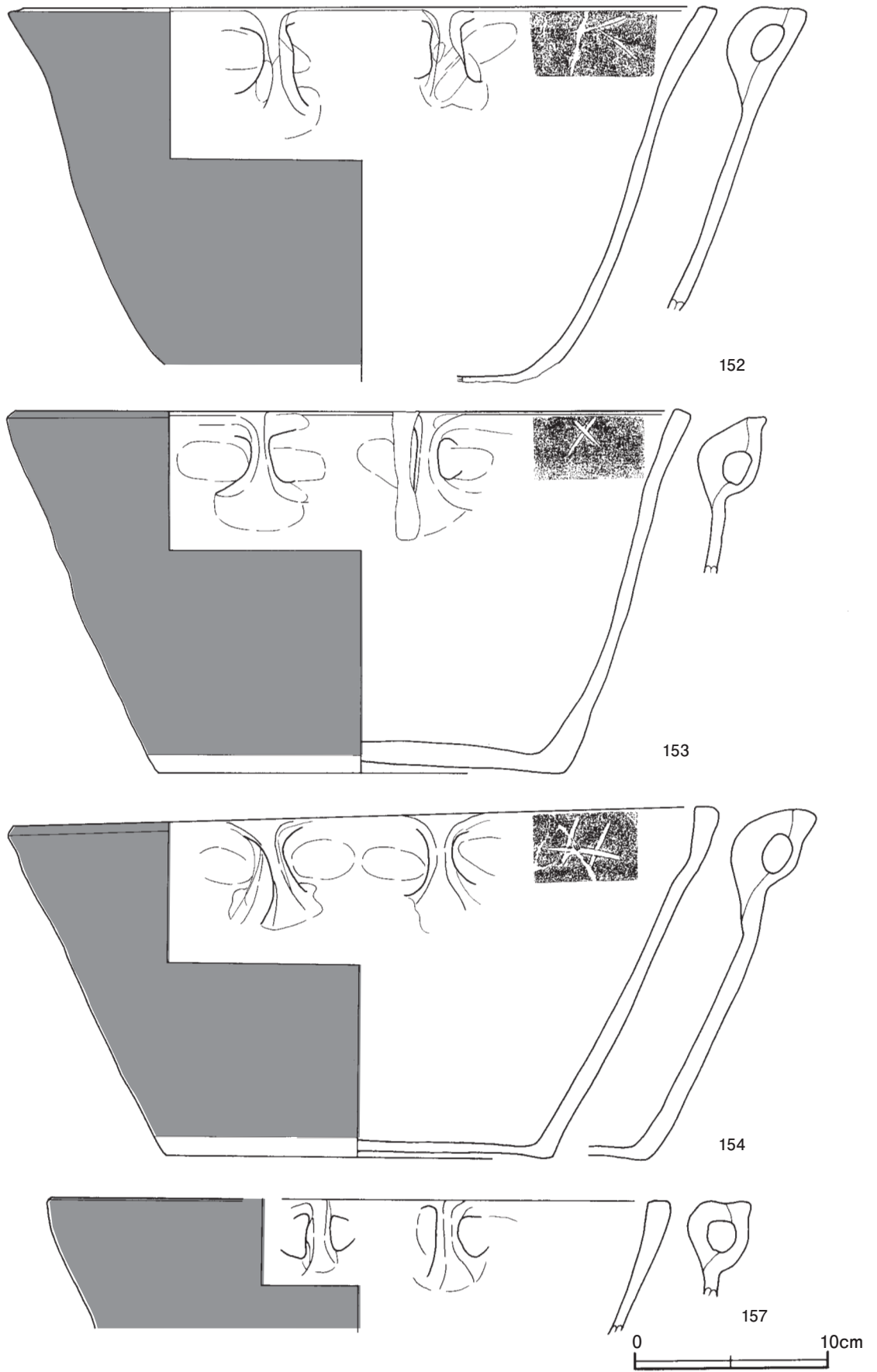


第225図 第32号溝跡出土遺物実測図 (2)

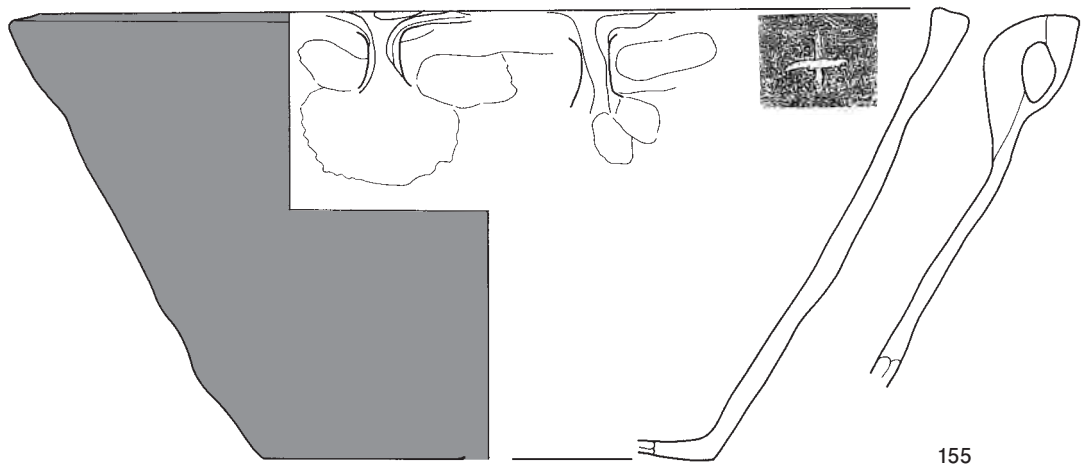




第226図 第32号溝跡出土遺物実測図(3)



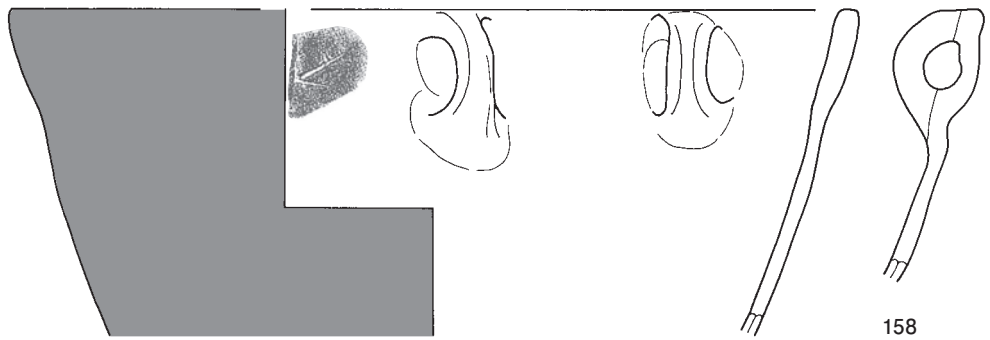
第227図 第32号溝跡出土遺物実測図(4)



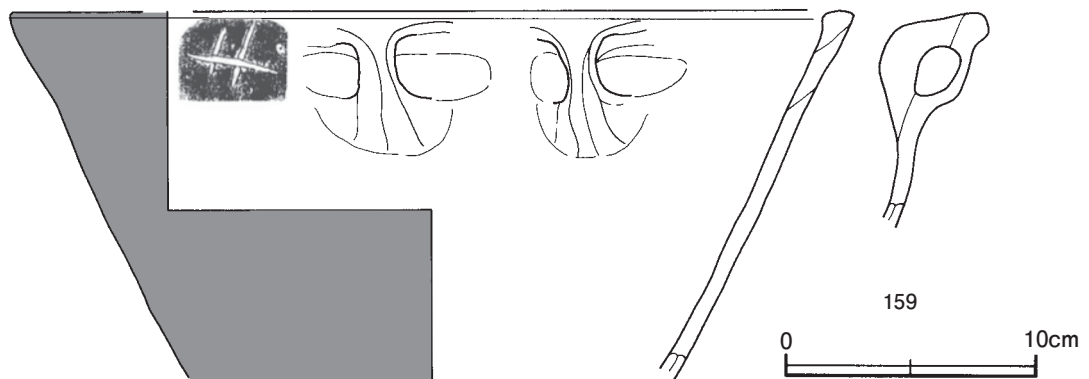
155



156



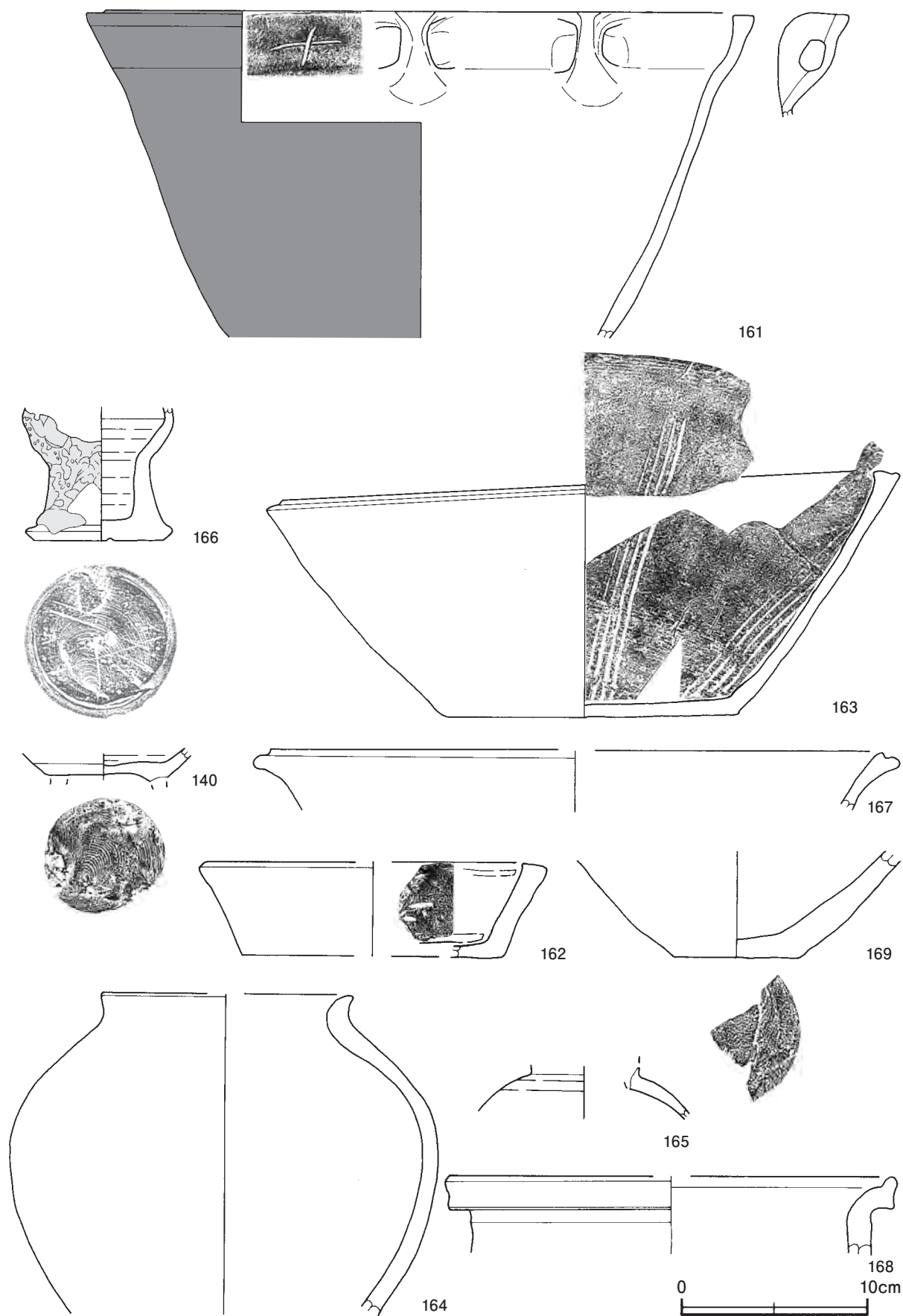
158



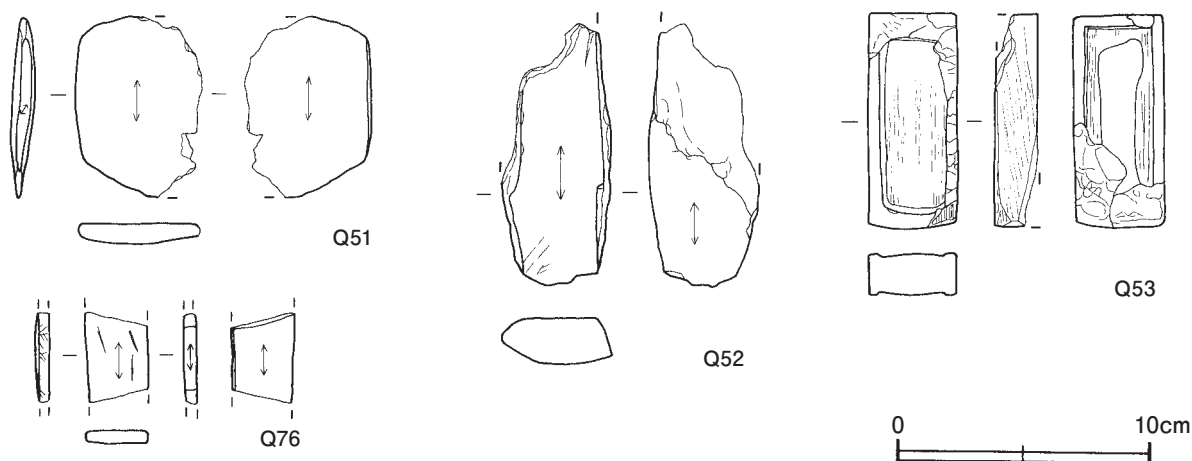
159



第228図 第32号溝跡出土遺物実測図 (5)



第229図 第32号溝跡出土遺物実測図 (6)



第230図 第32号溝跡出土遺物実測図 (7)

第32号溝跡出土遺物観察表 (第224 ~ 230図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
121	陶器	碗	—	(2.7)	—	緻密 透明釉	灰白	良好	内・外面施釉	覆土下層	15% 志野
122	陶器	小皿	—	(2.0)	—	緻密 灰釉	オリブ黄	普通	縁袖 口辺部内・外面施釉	覆土中	15% 瀬戸
123	土師質土器	小皿	6.0	1.9	4.2	長石・石英・雲母 角閃石	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後スノコ状 圧痕 口辺部油煙付着 底部内面外縁部 環状ナデ	覆土下層	100% PL22
124	土師質土器	小皿	6.2	2.1	3.6	長石・石英・金雲母微量	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 口辺部油 煙付着 底部内面中央部横ナデ	覆土中	90% PL22
125	土師質土器	小皿	6.7	2.0	4.7	長石・石英・スコリア	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後スノコ状 圧痕 体部内外面タール付着 底部内面 外縁部環状ナデ	覆土下層	98% PL32
126	土師質土器	小皿	6.7	1.9	5.2	長石・石英・スコリア	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラナデ 外面煤付着	覆土中	100% PL22
127	土師質土器	小皿	6.8	2.1	5.4	長石・石英・スコリア	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラナデ 底部内面中央部横ナデ	覆土中	90% PL22
128	土師質土器	小皿	7.0	1.9	5.6	長石・石英・雲母 スコリア	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後スノコ状 圧痕 底部内面中央部横ナデ	覆土下層	100% PL22
129	土師質土器	小皿	7.3	2.5	4.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面 外縁部環状くほみ 外面煤付着	覆土中	100% PL32
130	土師質土器	小皿	7.2	1.8	5.4	長石・雲母・スコリア	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後スノコ状 圧痕 底部内面中央部横ナデ	覆土中	90% PL22
131	土師質土器	小皿	9.7	3.4	5.2	長石・石英・雲母 スコリア	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後スノコ状 圧痕 底部内面外縁部環状くほみ	覆土下層	100% PL32
132	土師質土器	小皿	9.3	3.0	5.1	長石・雲母 スコリア・角閃石	明赤褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面 外縁部環状くほみ	覆土下層	50% PL22
133	土師質土器	小皿	[9.8]	3.0	5.4	長石・スコリア・ 金雲母微量	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラナデ 内外面煤付着	覆土下層	45%
134	土師質土器	小皿	10.4	3.7	3.4	長石・雲母 スコリア・角閃石	灰白	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	90% PL32
135	土師質土器	小皿	11.0	3.5	4.0	長石・雲母 スコリア・角閃石	灰白	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	70% PL22
136	土師質土器	小皿	11.0	3.7	3.6	長石・石英・スコリア	浅黄	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	95% PL32
137	土師質土器	小皿	[15.7]	5.0	7.1	長石・石英・スコリア	にぶい褐	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面 外縁部環状ナデ	覆土下層	65% PL33
138	土師質土器	高台付皿	[9.4]	4.7	3.7	長石・雲母	浅黄	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 高台部算 盤玉状 口縁部外方向のつまみ上げ	覆土中	85% PL33
139	土師質土器	高台付皿	—	(4.2)	3.6	長石・石英	浅黄橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 高台部算 盤玉状	覆土中	70% PL22
140	土師質土器	香炉カ	—	(1.7)	6.6	長石・石英・雲母・ スコリア	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底面三脚 貼り付け痕	覆土下層	30%
141	土師質土器	鍋	[35.6]	16.9	[19.0]	長石・石英・スコ リア・金雲母多量	にぶい黄褐	普通	外面煤付着	覆土中層	25%
142	土師質土器	鍋	[30.2]	(6.9)	—	長石・石英・金雲母中量	褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」	覆土下層	25%
143	土師質土器	鍋	[29.8]	(7.2)	—	長石・石英・スコ リア・金雲母多量	にぶい赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「×」カ 外面煤付着	覆土中	25%
144	土師質土器	鍋	[28.8]	(4.6)	—	長石・石英・角閃石・ 金雲母中量	にぶい橙	普通	口辺内部にヘラ記号「++」 外面煤付着	覆土中	25%
145	土師質土器	鍋	[28.6]	(7.8)	—	長石・石英・金雲母少量	にぶい黄褐	普通	口辺内部にヘラ記号「×」カ 外面煤付着	覆土下層	25%
146	土師質土器	鍋	[36.8]	(6.9)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「×」 外面煤付着	覆土中	25%
147	土師質土器	鍋	[28.8]	(15.7)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい褐	普通	口辺内部にヘラ記号「×」 外面煤付着	覆土下層	20%
160	土師質土器	鍋	[35.6]	(6.6)	—	長石・石英・細礫・ 金雲母多量	にぶい赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」 外面煤付着	覆土下層	25%
148	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(5.0)	—	長石・石英・金雲母多量	明赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「×」カ 外面煤付着	覆土下層	25%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
149	土師質土器	内耳鍋	36.6	19.2	17.4	長石・石英・金雲母微量	にぶい赤褐	普通	3耳 口辺内部の左耳から27.8cmにヘラ記号「+」外面煤付着	覆土下層	90% PL33
150	土師質土器	内耳鍋	36.7	18.0	[17.4]	石英・金雲母少量	灰褐	普通	3耳 口辺内部の右耳から14.2cmにヘラ記号「+」外面煤付着	覆土下層	75% PL34
151	土師質土器	内耳鍋	34.8	20.0	18.0	長石・石英・金雲母少量	橙	普通	(2) 耳 口辺内部の右耳から8.3cmにヘラ記号「+」外面煤付着	覆土下層	70% PL33
152	土師質土器	内耳鍋	35.0	(19.5)	[18.0]	長石・石英・金雲母多量	明赤褐	普通	3耳 口辺内部の右耳から31.3cmにヘラ記号「×」外面煤付着	覆土下層	55% PL23
153	土師質土器	内耳鍋	34.8	18.8	21.0	長石・石英・金雲母多量	赤褐	普通	3耳 口辺内部の右耳から16.0cmにヘラ記号「×」外面煤付着	覆土下層	55% PL23
154	土師質土器	内耳鍋	36.8	18.3	20.0	長石・石英・金雲母多量	にぶい褐	普通	3耳 口辺内部の左耳から16.7cmにヘラ記号「+」外面煤付着	覆土下層	40% PL23
155	土師質土器	内耳鍋	36.0	18.0	[18.0]	長石・石英・金雲母多量	にぶい橙	普通	3耳 口辺内部の左耳から12.5cmにヘラ記号「+」外面煤付着	覆土下層	70% PL23
156	土師質土器	内耳鍋	[37.9]	(15.6)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい赤褐	普通	3耳 外面煤付着	覆土下層	45% PL23
157	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	(6.8)	—	長石・石英・金雲母中量	明赤褐	普通	(2) 耳 外面煤付着	覆土中層	25%
158	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(13.1)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい赤褐	普通	3耳 口辺内部の左耳から10.5cmにヘラ記号「×」カ 外面煤付着	覆土中	25%
159	土師質土器	内耳鍋	[33.4]	(14.8)	—	長石・石英・金雲母微量	橙	普通	3耳 口辺内部の左耳から15.1cmにヘラ記号「+」外面煤付着	覆土下層	25%
161	土師質土器	内耳鍋	34.0	(17.6)	—	長石・石英・金雲母少量	明赤褐	普通	3耳 口辺内部の左耳から35.4cmにヘラ記号「+」外面煤付着	覆土下層	30%
162	土師質土器	香炉	[18.2]	5.1	[14.2]	長石・石英・金雲母多量	にぶい赤褐	普通	体部内面にスタンプ文カ	覆土下層	35%
163	土師質土器	播鉢	32.3	13.3	15.8	長石・石英・スコリア・金雲母中量	にぶい赤褐	普通	4条1単位の播り目	覆土下層	50% PL34
164	土師質土器	甕	[13.4]	(17.3)	—	長石・石英・スコリア・細礫	褐灰	普通	ロクロ成形	覆土下層	30% PL24
165	磁器	壺	—	(2.8)	—	緻密 透明釉	灰オリーブ	普通	内外面施釉	覆土中	15% 青磁
166	陶器	花瓶	—	(7.9)	7.1	緻密 灰釉	灰	良好	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	30% 瀬戸
167	陶器	鉢	[33.2]	(3.2)	—	緻密 自然釉	灰	普通	口縁上部に沈線	覆土中	15% 常滑カ
168	陶器	甕	[24.0]	(4.2)	—	緻密 自然釉	灰オリーブ	普通	N字状口縁	覆土中	15% 常滑
169	瓦質土器	鉢	—	(5.8)	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中	10%
TP14	土師質土器	鍋	—	(3.0)	—	長石・石英・金雲母微量	にぶい赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「-」カ	覆土中	5%
TP15	土師質土器	鍋	—	(3.0)	—	長石・石英・金雲母中量	明褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」カ	覆土中	5%
TP16	土師質土器	鍋	—	(5.1)	—	長石・石英・金雲母微量	にぶい褐	普通	口辺内部にヘラ記号「 」	覆土中	5%
TP17	土師質土器	鍋	—	(4.2)	—	長石・石英・金雲母多量	明赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「×」	覆土下層	5%
TP18	土師質土器	鍋	—	(4.0)	—	長石・石英・角閃石・金雲母微量	にぶい橙	普通	口辺内部にヘラ記号「×」カ	覆土中	5%
TP19	土師質土器	鍋	—	(4.2)	—	長石・石英・角閃石・金雲母多量	にぶい褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」	覆土中	5%
TP20	土師質土器	鍋	—	(4.2)	—	長石・石英・金雲母多量	褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」	覆土中	5%
TP21	土師質土器	鍋	—	(4.0)	—	長石・石英・金雲母多量	にぶい褐	普通	口辺内部にヘラ記号「×」	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q51	砥石	7.2	(5.0)	0.8	(32.1)	凝灰岩	端部欠損 砥面3面	覆土中	
Q52	砥石	(10.4)	4.5	1.8	(75.4)	凝灰岩	端部欠損 砥面2面	覆土下層	
Q76	砥石	(3.5)	2.5	0.6	(7.3)	粘板岩	両端部欠損 砥面3面	覆土下層	
Q53	硯	8.5	3.5	1.7	(83.9)	粘板岩	端部欠損 表面使用痕 裏面加工痕	覆土中	PL27

### 第33号溝跡（第231図，付図）

位置 調査区南東部のG 8 a5～G 8 b2区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第31号溝跡を掘り込み，第745号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 G 8 a5区から南西方向（S - 83° - W）へ直線状にG 8 b2区まで延び，第31号溝跡に連結している。長さは7.4mで，上幅0.5～0.8m，下幅0.3～0.6m，深さ8～14cmである。断面形は浅いU字状であり，底面は平坦で，第31号溝跡に向かってやや傾斜している。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

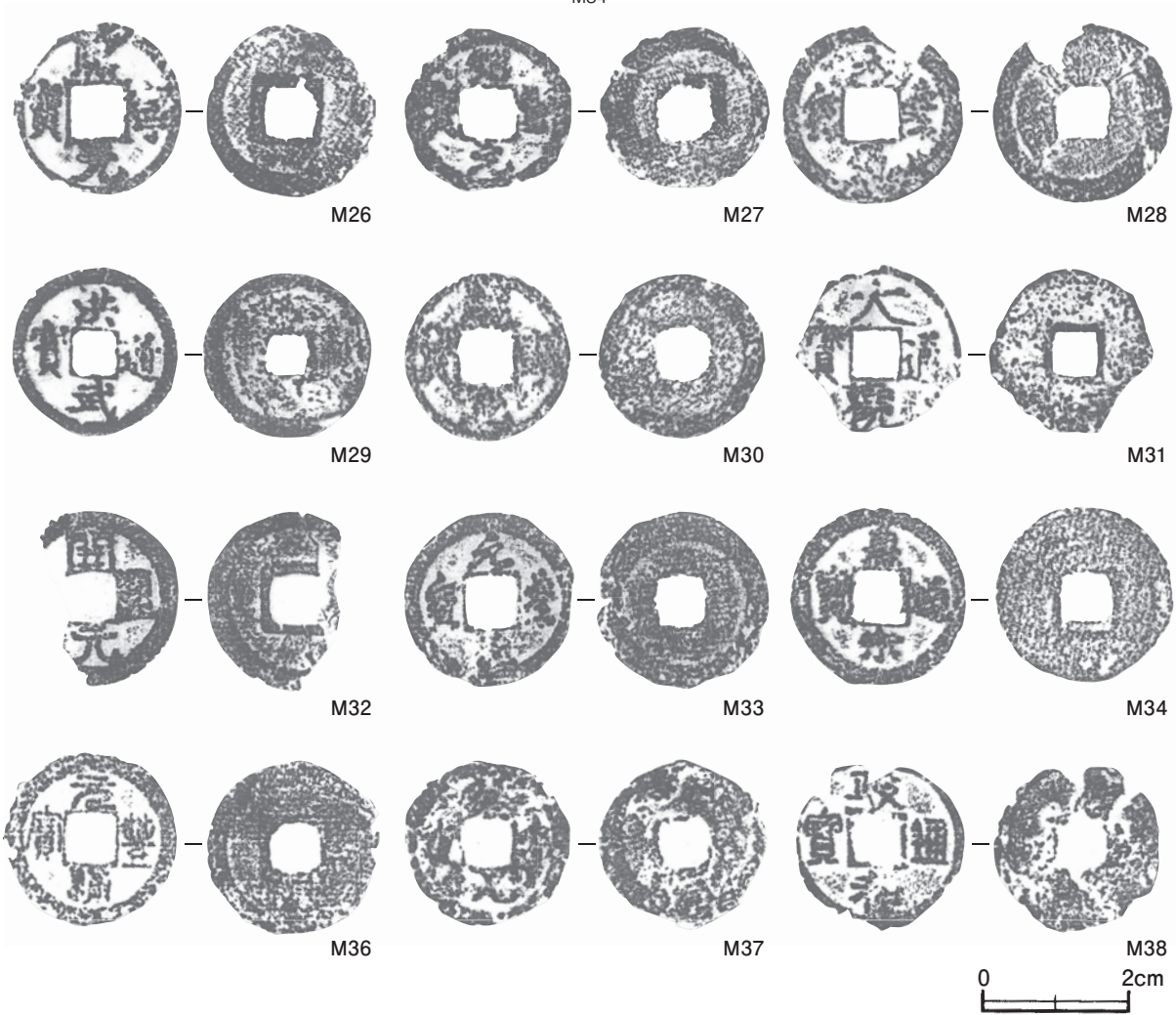
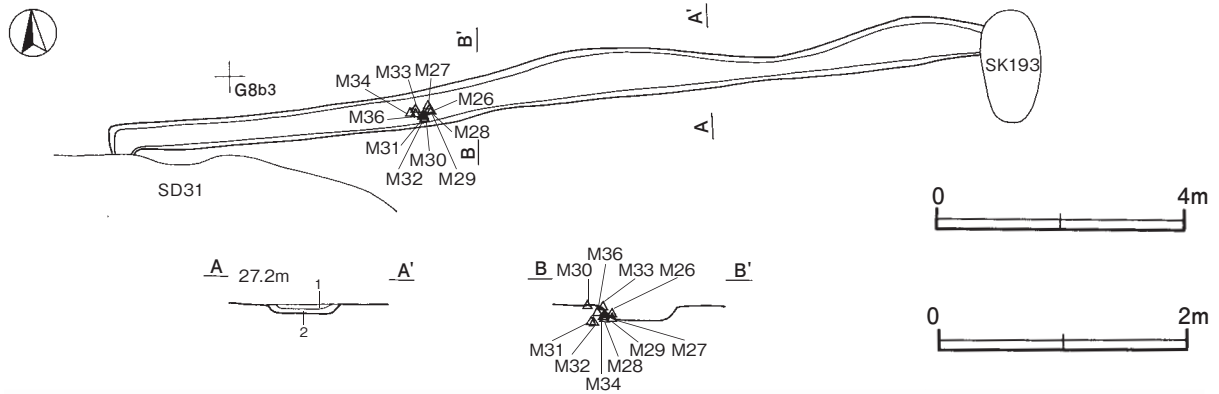
1 褐 色 ロームブロック中量

2 褐 色 ロームブロック少量



遺物出土状況 銅製品15点（古銭）が出土している。M30（熙寧元寶）、M33（元豊通寶）は覆土上層、M26（熙寧元寶）、M27（紹聖元寶カ）、M28（元豊通寶）、M29（洪武通寶）、M31（大観通寶）、M32（開元通寶）、M34（皇宋通寶）、M36（元豊通寶）、M37（不明）、M38（政和通寶）は覆土中層から出土している。

所見 時期は、M29が最新銭であることから、14世紀後半から15世紀前葉と考えられるが、流通の時間差と重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と推測される。性格は、第31号溝跡に連結していることから、排水のための溝と考えられる。



第231図 第33号溝跡・出土遺物実測図



第33号溝跡出土遺物観察表（第231図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M26	熙寧元寶	2.3	0.7	2.4	1068	銅	北宋 背無	覆土中層	PL30
M27	紹聖元寶カ	2.3	0.8	2.2	1094	銅	北宋 背無	覆土中層	PL30
M28	元豐通寶	2.4	0.7	(2.0)	1078	銅	北宋 背無	覆土中層	PL30
M29	洪武通寶	2.3	0.6	2.8	1368	銅	明 背無	覆土中層	PL30
M30	熙寧元寶	2.3	0.7	2.6	1068	銅	北宋 背無	覆土上層	PL30
M31	大觀通寶	2.3	0.7	(2.0)	1107	銅	北宋 背無	覆土中層	PL30
M32	開元通寶	2.4	0.7	(1.5)	845	銅	唐 背無カ	覆土中層	PL30
M33	元豐通寶	2.4	0.8	2.5	1078	銅	北宋 背無	覆土上層	PL30
M34	皇宋通寶	2.4	0.7	2.3	1038	銅	北宋 背無	覆土中層	PL30
M36	元豐通寶	2.4	0.7	1.9	1078	銅	北宋 背無	覆土中層	PL30
M37	不明	2.3	0.7	2.3	—	銅	背無	覆土中層	PL30
M38	政和通寶	2.3	0.7	(1.9)	1111	銅	北宋 背無	覆土中層	PL30

## 第39号溝跡（第232図，付図）

**位置** 調査区中央部のF 7 i4～F 7 h8区，標高26.9～27.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第32号溝跡を掘り込み，第342・387・454号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 調査区域外のF 7 i4区から北東方向（N-84°-E）へ直線状にF 7 h8区まで延び，第32号溝跡に連結している。確認された長さは19.5mで，上幅1.2～1.8m，下幅0.4～0.6m，深さ31～54cmである。断面形は逆台形状であり，底面は平坦で，第32号溝跡に向かって傾斜している。

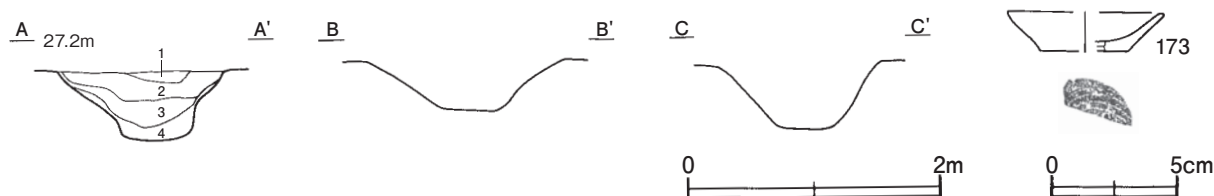
**覆土** 4層に分層される。南方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

## 土層解説

- |       |                          |       |                      |
|-------|--------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | 細砂少量，ロームブロック微量           | 3 黒褐色 | ローム粒子・細砂少量，炭化粒子・細礫微量 |
| 2 黒褐色 | 細砂・黒色粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・細砂少量           |

**遺物出土状況** 土師質土器片45点（小皿3，鍋類42）が出土している。173は覆土中から出土している。

**所見** 時期は，重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。性格は，第32号溝跡に連結していることから，排水のための溝と考えられる。



第232図 第39号溝跡・出土遺物実測図

第39号溝跡出土遺物観察表（第232図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
173	土師質土器	小皿	[6.2]	1.6	[3.4]	長石・石英・金雲母少量	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中	40%

第40号溝跡（第233図，付図）

位置 調査区中央部のF 7 h4～F 7 g8区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第222号土坑，第32号溝跡を掘り込み，第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のF 7 h4区から北東方向（N-84°-E）へ直線状にF 7 g8区まで延び，第32号溝跡に連結している。確認された長さは23.3mで，上幅1.8～2.2m，下幅0.5～0.9m，深さ65～82cmである。断面形は逆台形状であり，底面は平坦で，第32号溝跡に向かって傾斜している。

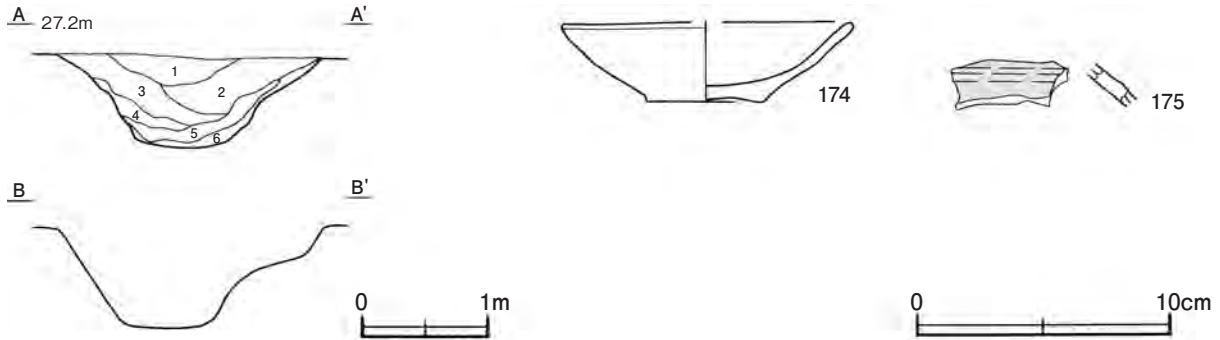
覆土 6層に分層される。南方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |       |                      |       |                   |
|-------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，細砂微量         | 4 暗褐色 | 細砂少量，ローム粒子微量      |
| 2 黒褐色 | 細砂少量，ローム粒子・炭化粒子・細礫微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・細砂少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，細礫少量         | 6 暗褐色 | ローム粒子・細砂少量        |

遺物出土状況 土師質土器片27点（小皿2，鍋類23，挿鉢2），陶器片2点（甕，壺）が出土している。174・175は覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や周囲の遺構から16世紀代と考えられる。性格は，第32号溝跡に連結していることから，排水のための溝と考えられる。



第233図 第40号溝跡・出土遺物実測図

第40号溝跡出土遺物観察表（第233図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
174	土師質土器	小皿	[11.6]	3.2	4.8	長石・石英・金雲母微量	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラ削り 底部内面中央部横ナデ	覆土中	10%
175	陶器	壺	—	(1.7)	—	緻密 鉄釉	黄褐	普通	外面施釉	覆土中	15% 瀬戸

第41号溝跡（第234図，付図）

位置 調査区中央部のF 7 f0～F 7 g8区，標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26・27号井戸跡，第42号溝跡を掘り込み，第192号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第26・27号井戸跡のあるF 7 f0区から南西方向（S-87°-W）へ直線状にF 7 g8区まで延び，第32号溝跡に連結している。長さは11.2mで，上幅0.2～0.4m，下幅0.1～0.3m，深さ4～12cmである。断面形は逆台形状であり，底面は平坦で，第32号溝跡に向かって傾斜している。

覆土 単一層である。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(鍋), 陶器片1点(甕)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。  
**所見** 時期は, 重複関係や周囲の遺構から16世紀代と考えられる。性格は, 第32号溝跡に連結していることから, 排水のための溝と考えられる。



第234図 第41号溝跡実測図

**第46号溝跡** (第235・236図, 付図)

**位置** 調査区中央部のE 7 h2~F 7 b2区, 標高27.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第20号掘立柱建物跡, 第354号土坑を掘り込み, 第44・45・47号溝跡, 第2号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 調査区域外のE 7 h2区から南西方向(S -10° -W)へ直線状にF 7 b2区まで伸び, 調査区域外に至っている。確認された長さは18.5mで, 上幅1.3m, 下幅0.7m, 深さ71cmである。断面形はU字状であり, 底面は平坦で, 高低差は見られない。

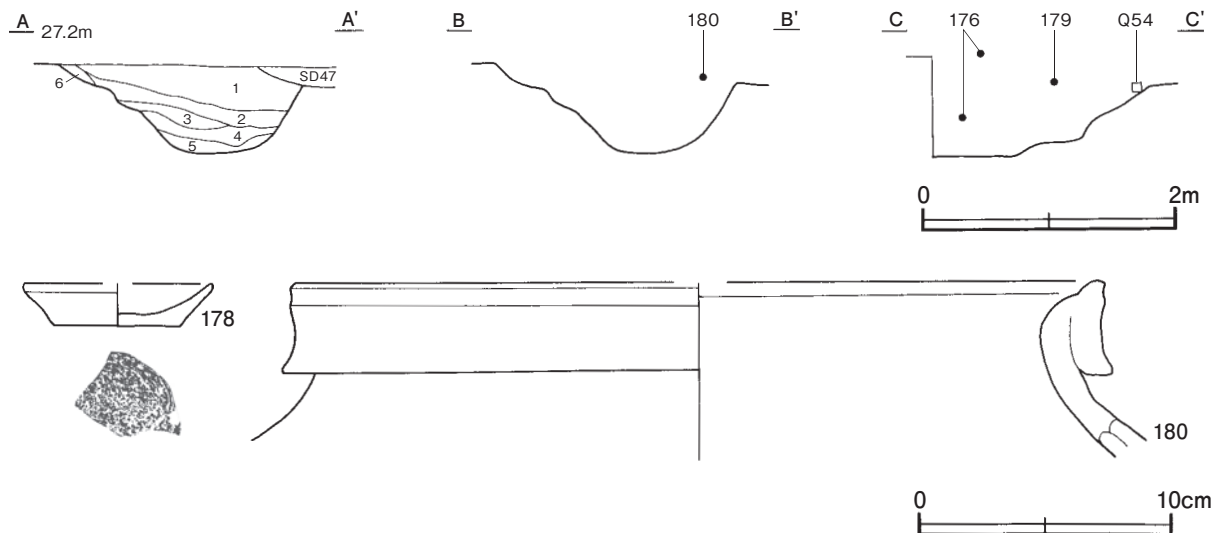
**覆土** 6層に分層される。西方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

**土層解説**

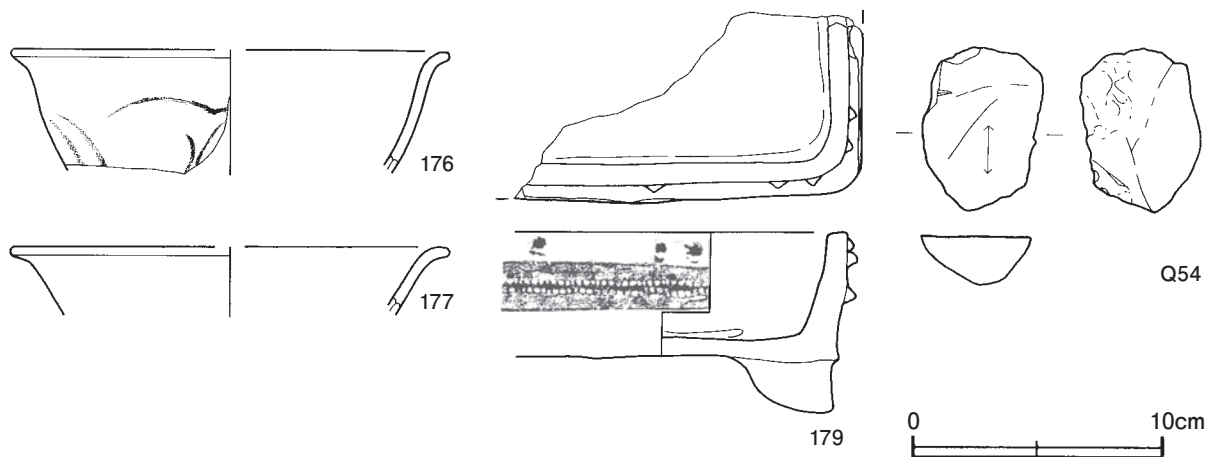
- |       |                            |          |                |
|-------|----------------------------|----------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・細砂少量, 炭化粒子微量         | 4 におい黄褐色 | ローム粒子中量, 細砂少量  |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・細砂少量, 焼土粒子・炭化粒子・細礫微量 | 5 暗褐色    | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・細砂少量(鉄分微量)           | 6 暗褐色    | ローム粒子・砂粒少量     |

**遺物出土状況** 土師質土器片34点(小皿7, 鍋類25, 播鉢, 火鉢), 土製品1点(不明), 陶器片3点(甕), 磁器片2点(青磁), 石器1点(砥石)のほか, 混入した土師器片1点(碗)も出土している。177・178は覆土中から出土している。179・180・Q54は覆土中層, 176は覆土上・中層から出土している。180は, 第36号井戸跡から出土した破片と接合している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土遺物から16世紀後半と考えられる。性格は, 東側に墓域が形成されていることから, 区画のための溝と考えられる。



第235図 第46号溝跡・出土遺物実測図



第236図 第46号溝跡出土遺物実測図

第46号溝跡出土遺物観察表（第235・236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
176	磁器	碗	[17.4]	(4.9)	—	緻密 透明釉	オリーブ灰	普通	鍋連弁文 内・外面施釉	覆土上・中層	10% 青磁 PL35
177	磁器	碗	[17.6]	(2.8)	—	緻密 透明釉	オリーブ灰	普通	内・外面施釉	覆土中	15% 青磁
178	土師質土器	小皿	[7.4]	1.7	5.0	長石・スコリア	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面中央部貼り付け後横ナデ	覆土中	20%
179	土師質土器	火鉢	(13.8)	7.2	(12.5)	長石・石英・角閃石・金雲母多量	にぶい赤褐	普通	体部外面上部に凸帯貼付 体部外面2段の隆帯 隆帯間に2列の刺突文	覆土中層	20% PL24
180	陶器	甕	[32.0]	(7.0)	—	緻密 自然釉	暗褐	普通	N字状口縁	覆土中層	15% 帯滑 PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q54	砥石	6.5	4.8	1.9	54.8	凝灰岩	砥面3面	覆土中層	

第60号溝跡（第237～239図、付図）

位置 調査区中央部のE 6 e9～E 7 b5区、標高27.0～27.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第517・519・529号土坑、第61号溝跡、第1号ピット群を掘り込み、第547号土坑、第63号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のE 6 e9区から西方向（S-90°-W）へ直線状にE 6 e7区まで延び、そこから南西方向（S-9°-W）へ屈曲してF 6 c7区で調査区域外に至っている。確認された長さは35.4mで、上幅1.0～1.8m、下幅0.3～0.6m、深さ50～62cmで、断面形は逆台形状である。底面は平坦で、E 6 e9区からE 6 e7区、さらにF 6 c7区に向かって緩やかに傾斜している。

覆土 7層に分層される。南東方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

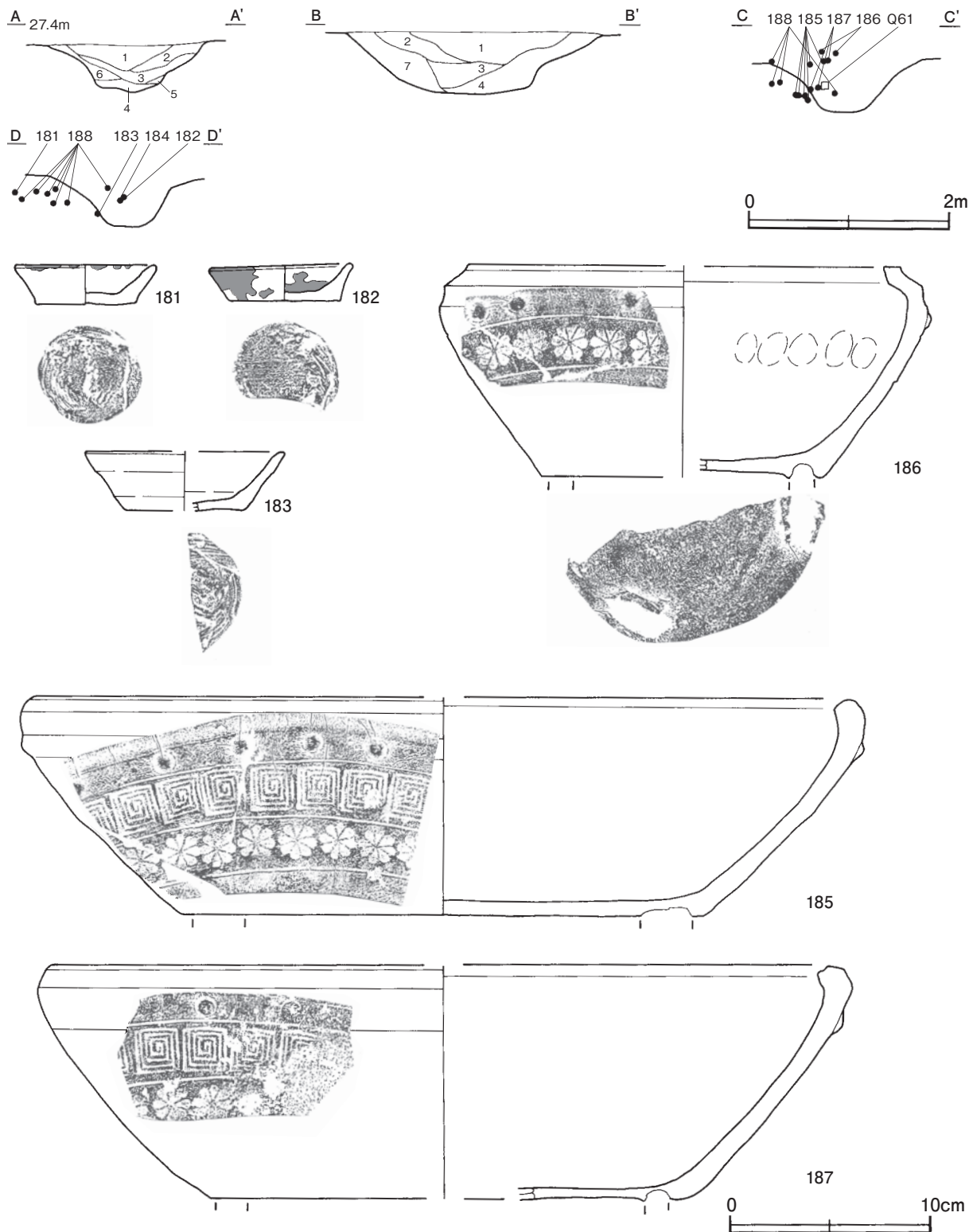
土層解説

- |       |                     |       |                   |
|-------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量    |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量      | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・細砂微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量           |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量             |       |                   |

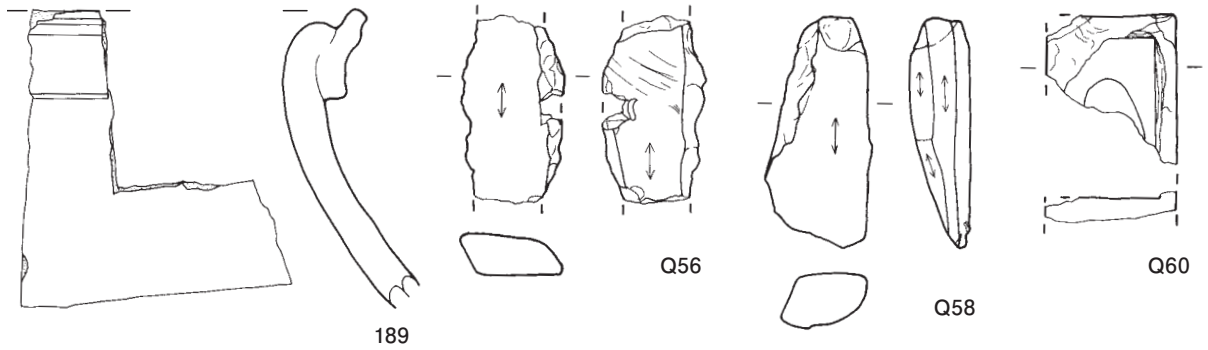
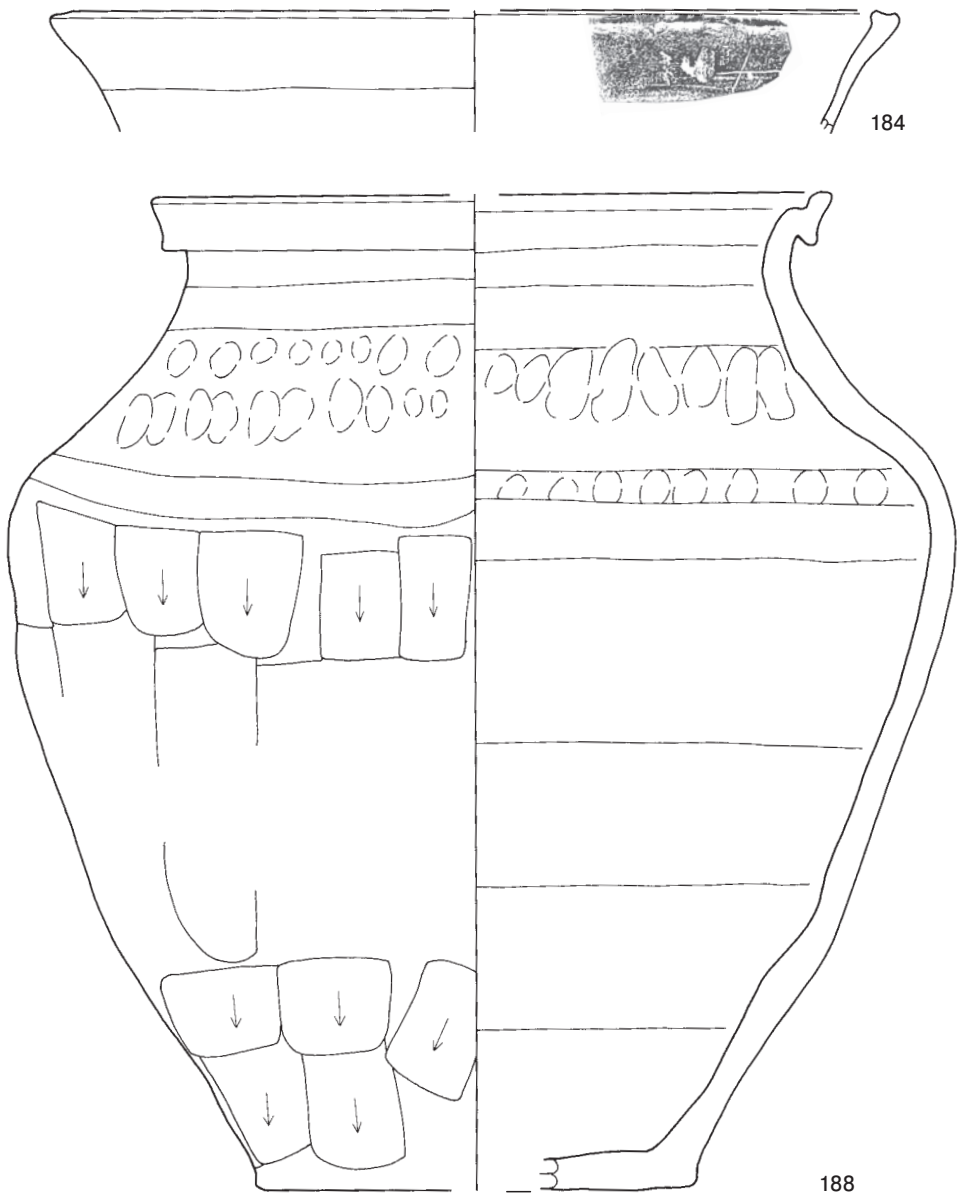
遺物出土状況 土師質土器111点（小皿13、鍋類89、火鉢6、播鉢3）、陶器3点（甕2、壺）、石器5点（砥石）、石製品2点（硯）、銅製品1点（古銭）のほか、混入した縄文土器片1点（深鉢）、石器1点（凹石）も出土している。189・Q56・Q58・Q60は覆土中、186は覆土上層から出土している。181・182・184・Q61は覆土中層、187・188は覆土上層から中層にかけて出土している。183は覆土下層からの出土で、185は覆土上層から下層に

かけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、周囲の遺構や出土遺物から16世紀中葉に掘削され、16世紀後半には埋没したと考えられる。性格は、内側に掘立柱建物跡が、北東には墓域が検出されていることから、居住域と墓域を区画するための溝と考えられる。硯や火鉢の出土からは、在地農民層よりも上の階層の存在が想定される。

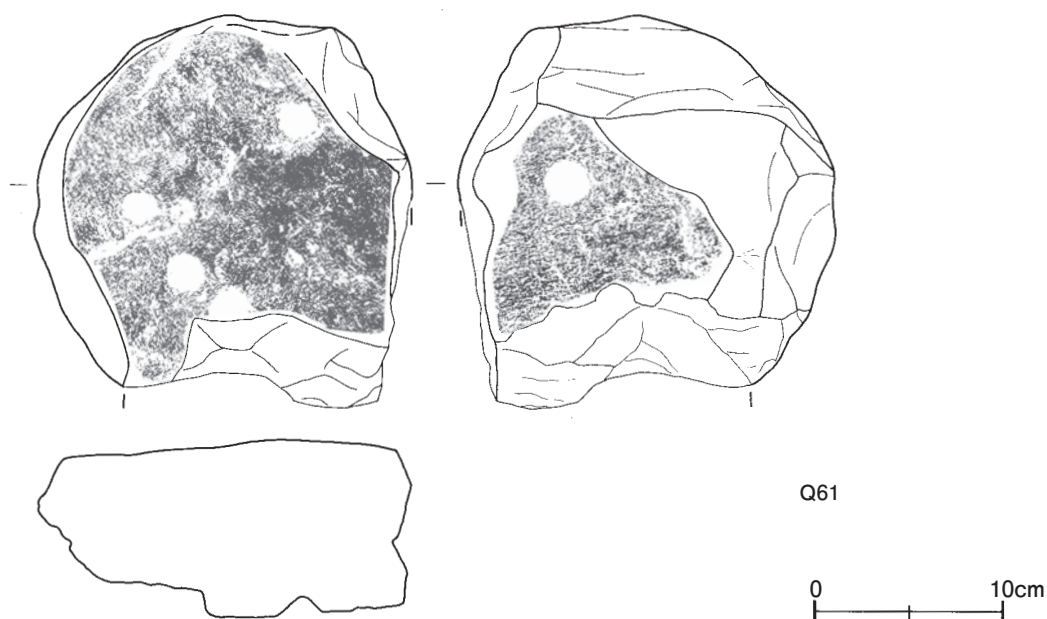


第237図 第60号溝跡・出土遺物実測図



第238図 第60号溝跡出土遺物実測図 (1)





第239図 第60号溝跡出土遺物実測図(2)

第60号溝跡出土遺物観察表(第237~239図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
181	土師質土器	小皿	7.1	2.0	5.0	長石・石英・スコリア	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面中央部貼り付け後横ナデ 緑部油煙付着	覆土中層	80% PL22
182	土師質土器	小皿	7.0	1.9	5.5	長石・雲母・スコリア	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラナデ 底部内面外縁部環状ナデ 内・外面油煙付着	覆土中層	70% PL22
183	土師質土器	小皿	[9.9]	3.0	[5.8]	長石・石英・スコリア・金雲母少量	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面中央部貼り付け後外縁部環状ナデ	覆土下層	30%
184	土師質土器	鍋	[32.0]	(4.8)	—	長石・石英・スコリア・金雲母多量	明赤褐	普通	口辺内部にヘラ記号「+」カ	覆土中層	5%
185	土師質土器	火鉢	[40.4]	(10.9)	26.0	長石・石英・細礫・金雲母多量	橙	普通	外面3条の区画沈線 円錐状貼付 雷文・花文2段のスタンプ文 脚部欠損	覆土上層 ~下層	40% PL24・34
186	土師質土器	火鉢	[21.6]	(10.6)	[14.2]	長石・石英・金雲母微量	にぶい赤褐	普通	外面上部に円錐状貼付 外面2条の区画沈線 沈線間に花文のスタンプ文	覆土上層	30% PL24
187	土師質土器	火鉢	[39.0]	(11.7)	[23.0]	長石・石英・雲母・細礫	明褐	普通	外面2条の区画沈線 円錐状貼付 雷文・花文2段のスタンプ文 脚部欠損	覆土上・ 中層	20%
188	陶器	甕	[26.9]	39.6	[26.5]	緻密 自然釉	黄灰	普通	N字状口縁 頸部内外面指頭痕 体部外面ヘラ削り	覆土上・ 中層	45% 常滑 PL24
189	陶器	甕	—	(11.8)	—	緻密 自然釉	灰	普通	N字状口縁	覆土中	15% 常滑 PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q56	砥石	(7.5)	4.1	1.7	(58.0)	凝灰岩	両端部欠損 砥面2面	覆土中	
Q58	砥石	9.2	4.3	2.2	80.3	凝灰岩	砥面4面	覆土中	PL27
Q60	硯	(5.9)	5.2	(1.3)	(32.1)	粘板岩	端部欠損	覆土中	
Q61	凹石	21.1	20.4	9.6	(5570.0)	花崗岩	両面使用カ	覆土中層	PL28

第61号溝跡(第240図, 付図)

位置 調査区中央部のE 6 j4~F 7 a0区, 標高27.0~27.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第518・525・532・539号土坑, 第60・70号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のE 6 j4区から南東方向(S-82°-E)へ直線状にF 7 a0区まで延び, 調査区域外に至っている。確認された長さは19.9mで, 上幅0.8~1.8m, 下幅0.1~0.2m, 深さ34cmである。断面形は浅いU字状であり, 底面は平坦で, E 6 j4区からF 7 a0区に向かってやや傾斜している。

覆土 3層に分層される。双方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。



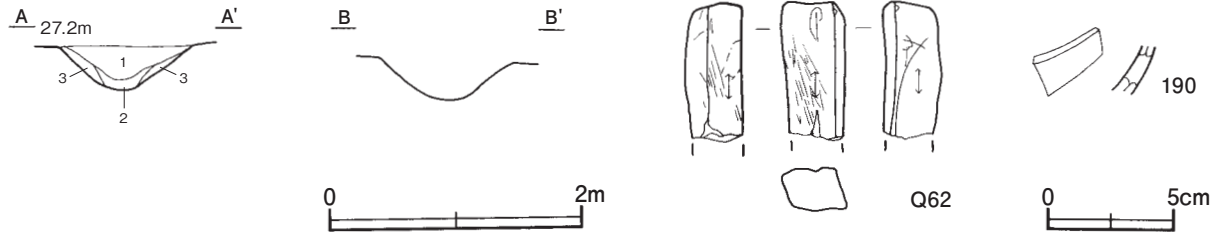
土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・細礫・細砂微量  
 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 細礫微量

3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 細礫・細砂微量

遺物出土状況 土師質土器片 3 点 (小皿 2, 鍋類), 磁器片 1 点 (青磁碗), 石器 1 点 (砥石) のほか, 混入した土師器片 1 点 (坏) も出土している。190・Q62は覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や周囲の遺構から16世紀代と推測される。性格は, 墓域と居住域を南北に分断するように掘削していることから, 区画のための溝と考えられる。



第240図 第61号溝跡・出土遺物実測図

第61号溝跡出土遺物観察表 (第240図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
190	磁器	碗カ	—	(2.0)	—	緻密 透明釉	オリーブ灰	良好	内・外面施釉	覆土中	5% 青磁

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q62	砥石	(5.5)	2.6	1.7	(36.1)	凝灰岩	端部欠損 砥面3面	覆土中	

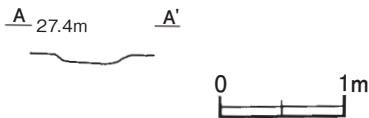
第62号溝跡 (第241図, 付図)

位置 調査区中央部のE 6 f0~E 6 h8区, 標高27.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第38号井戸跡, 第543号土坑を掘り込み, 第496号土坑, 第63号溝, 第1号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のE 6 f0区から西方向 (N-90°-W) へ直線状にE 6 f8区まで伸び, L字状に屈曲して南西方向 (S-10°-W) へ伸び, E 6 h8区で第38号井戸跡に連結している。確認された長さは16.2mで, 上幅0.5~1.0m, 下幅0.3~0.5m, 深さ8cmである。断面形は浅いU字状であり, 底面は平坦で, 第38号井戸跡に向かってやや傾斜している。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (鍋) が出土している。遺物は細片のため掲載できない。



所見 時期は, 重複関係や周囲の遺構から16世紀後半と考えられる。性格は, 第38号溝跡に連結していることから, 排水のための溝と考えられる。

第241図 第62号溝跡実測図

第66号溝跡 (第242図, 付図)

位置 調査区中央部のD 5 d6~E 5 d6区, 標高27.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第41号井戸, 第1号炭焼窯, 第1号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 調査区域外のD 5 d6区から南方向（S - 0°）へ直線状にE 5 d6区まで延び、調査区域外に至っている。確認された長さは38.5mで、上幅2.6~3.5m、下幅0.5~0.7m、深さ64~102cmである。断面形は不定形であり、底面は平坦で、D 5 d6区からE 5 d6区に向かって傾斜している。

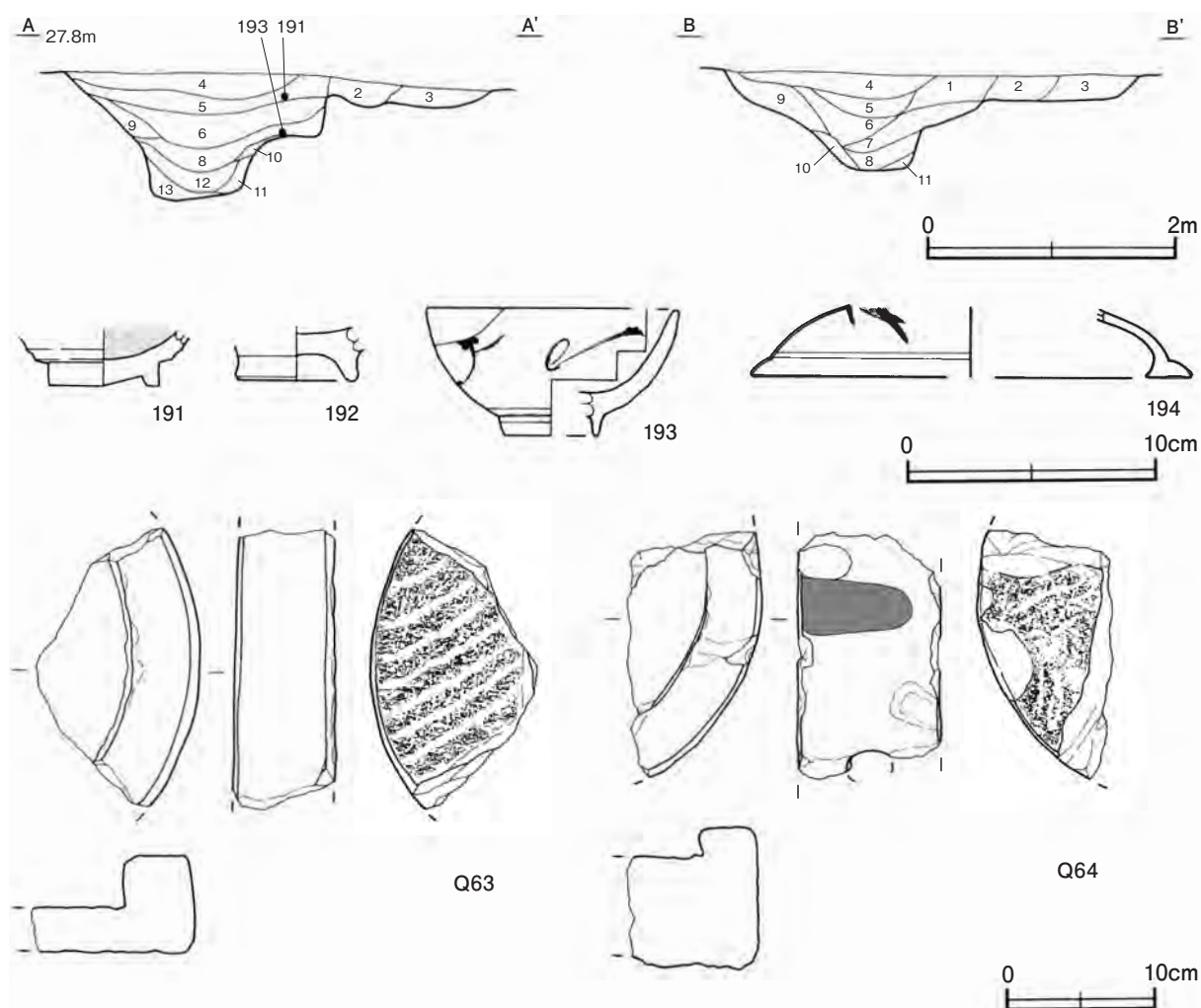
**覆土** 13層に分層される。西方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

**土層解説**

1	褐色	ローム粒子少量	8	黒褐色	ローム粒子・赤色粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	9	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子微量	10	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子少量	11	褐色	ローム粒子・赤色粒子少量
5	暗褐色	赤色粒子微量	12	褐色	赤色粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	13	褐色	ローム粒子少量、赤色粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子少量、赤色粒子微量			

**遺物出土状況** 土師質土器片18点（小皿7、鍋類9、鉢、置き竈）、陶器片5点（碗2、蓋、甕、不明）、磁器片4点（碗）、瓦1点（平瓦）、石器2点（石臼）のほか、混入した土師器片10点（甕）、須恵器片2点（甕）も出土している。192・194・Q63・Q64は覆土中、191・193は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は重複関係や周囲の遺構から16世紀後半から17世紀前半と推測される。周囲からは掘立柱建物跡は検出されないが、井戸跡の検出により生活の痕跡をうかがうことができる。土層断面からは、拡張の跡が見られ1度は掘り返しが行われたと考えられる。性格は不明である。



第242図 第66号溝跡・出土遺物実測図

第66号溝跡出土遺物観察表（第242図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
191	陶器	碗	—	(2.3)	4.4	緻密 鉄釉	黒	普通	天目茶碗 削り出し高台 内面茶筌痕 内面施釉	覆土中層	25% 瀬戸 PL35
192	陶器	碗	—	(2.1)	4.6	緻密 透明釉	にぶい黄	普通	内・外面施釉	覆土中	15% 瀬戸
193	磁器	碗	[10.2]	5.2	[3.8]	緻密 透明釉	灰白	普通	内・外面施釉 外面草本文	覆土中層	40% 肥前
194	陶器	蓋	—	(2.8)	[17.8]	緻密 透明釉	灰白	普通	内・外面施釉 外面染め付け	覆土中	15% 瀬戸

番号	器種	径	孔径	高さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q63	石白(上白)	[32.0]	—	6.7	(1510.0)	安山岩	副溝7条カ	覆土中	PL29
Q64	石白(上白)	[28.4]	—	9.7	(1630.0)	安山岩	主溝・副溝摩滅 側面煤付着	覆土中	PL29

第67号溝跡（第243図，付図）

位置 調査区北西部のC 4 d3～D 4 c3区，標高27.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第632号土坑，第79号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のC 4 d3区から南方向（S - 0°）へ直線状にD 4 c3区まで延び，調査区域外に至っている。確認された長さは39.3mで，上幅0.7～1.1m，下幅0.2～0.3m，深さ32～40cmである。断面形はU字状及び浅いU字状であり，底面は平坦でC 4 d3区からD 4 c3区に向かって傾斜している。

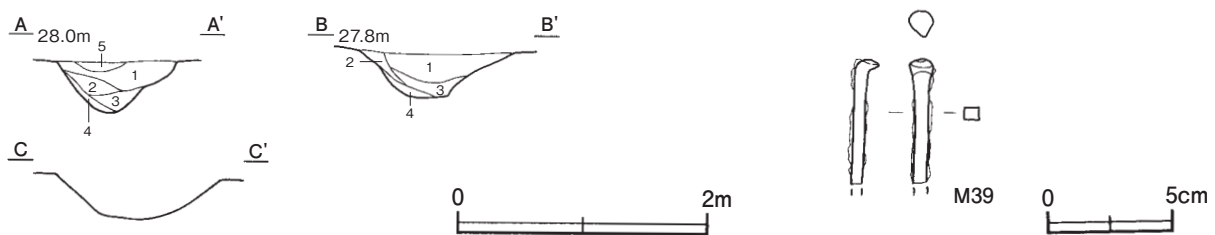
覆土 5層に分層される。西方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| 1 暗 褐 色 赤色粒子微量  | 4 褐 色 ローム粒子中量           |
| 2 褐 色 ローム粒子少量   | 5 暗 褐 色 ローム粒子・細砂少量，細礫微量 |
| 3 暗 褐 色 ローム粒子少量 |                         |

遺物出土状況 土師質土器片2点（小皿，火鉢），鉄製品1点（釘）のほか，混入した縄文土器片1点（深鉢）も出土している。M39は覆土中から出土している。

所見 時期は重複関係や周囲の遺構から16世紀後半から17世紀前半と推測される。性格は，第79号溝が連結することや，底面にやや傾斜が見られることなどから，排水のための溝と想定される。



第243図 第67号溝跡・出土遺物実測図

第67号溝跡出土遺物観察表（第243図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M39	釘	(5.1)	1.0	0.5	(5.2)	鉄	角釘 先端部欠損	覆土中	PL31

## 第68号溝跡（第244図，付図）

位置 調査区北西部のC 4 d2～D 4 c3区，標高 27.7 mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第631号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のC 4 d2区から南方向（S - 0°）へ直線状にD 4 c3区まで延び，調査区域外に至っている。確認された長さは34.0 mで，上幅0.4～0.5 m，下幅0.2～0.3 m，深さ14～19 cmである。断面形はU字状であり，底面は平坦で，C 4 d2区からD 4 c3区に向かってやや傾斜している。

覆土 3層に分層される。西方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

## 土層解説

1 褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	3 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 褐色	ローム粒子中量		

所見 時期は重複関係や周囲の遺構から16世紀後半から17世紀前半と推測される。性格は，底面にやや傾斜が見られることから，排水のための溝と想定される。



第244図 第68号溝跡実測図

## 第72号溝跡（第245図，付図）

位置 調査区中央部のF 6 b8～F 6 b0区，標高27.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第19号掘立柱建物，第1号ピット群に掘り込まれている。第14・15号掘立柱建物と重複しているが，柱穴の重複は見られず新旧関係は不明である。

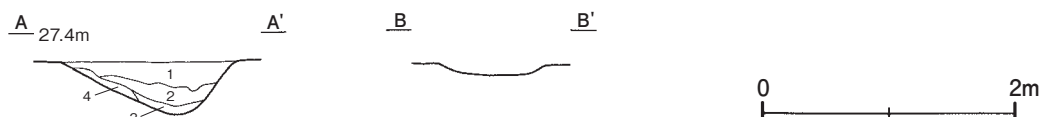
規模と形状 F 6 b8区から東方向（N - 90° - E）へ直線状にF 6 b0区まで延び，調査区域外に至っている。確認された長さは11.8 mで，上幅0.9～1.0 m，下幅0.5～0.7 m，深さ6～30 cmである。断面形は浅いU字状であり，底面は平坦で，F 6 b8区からF 6 b0区に向かってやや傾斜している。

覆土 4層に分層される。南方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細砂微量	3 暗褐色	ロームブロック少量，細礫微量
2 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子少量，細砂微量

所見 時期は重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と推測される。性格は，底面にやや傾斜が見られることから，排水のための溝と想定される。



第245図 第72号溝跡実測図

## 第73号溝跡（第246図，付図）

位置 調査区中央部のF 6 c0～F 6 c7区，標高27.2～27.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14・19号掘立柱建物，第521・522・524号土坑，第1号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外のF 6c0区から西方向（N - 90° - W）へ直線状にF 6c7区まで延び、調査区域外に至っている。確認された長さは13.1mで、上幅0.5~0.7m、下幅0.2~0.3m、深さ8~19cmである。断面形は浅いU字状であり、底面は平坦で、F 6c0区からF 6c7区に向かってやや傾斜している。

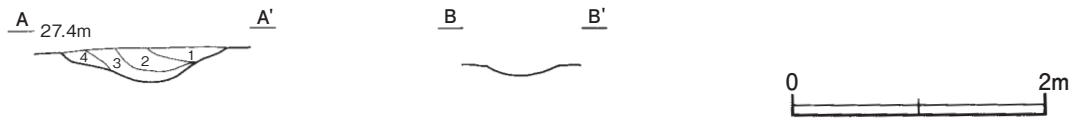
覆土 4層に分層される。東方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

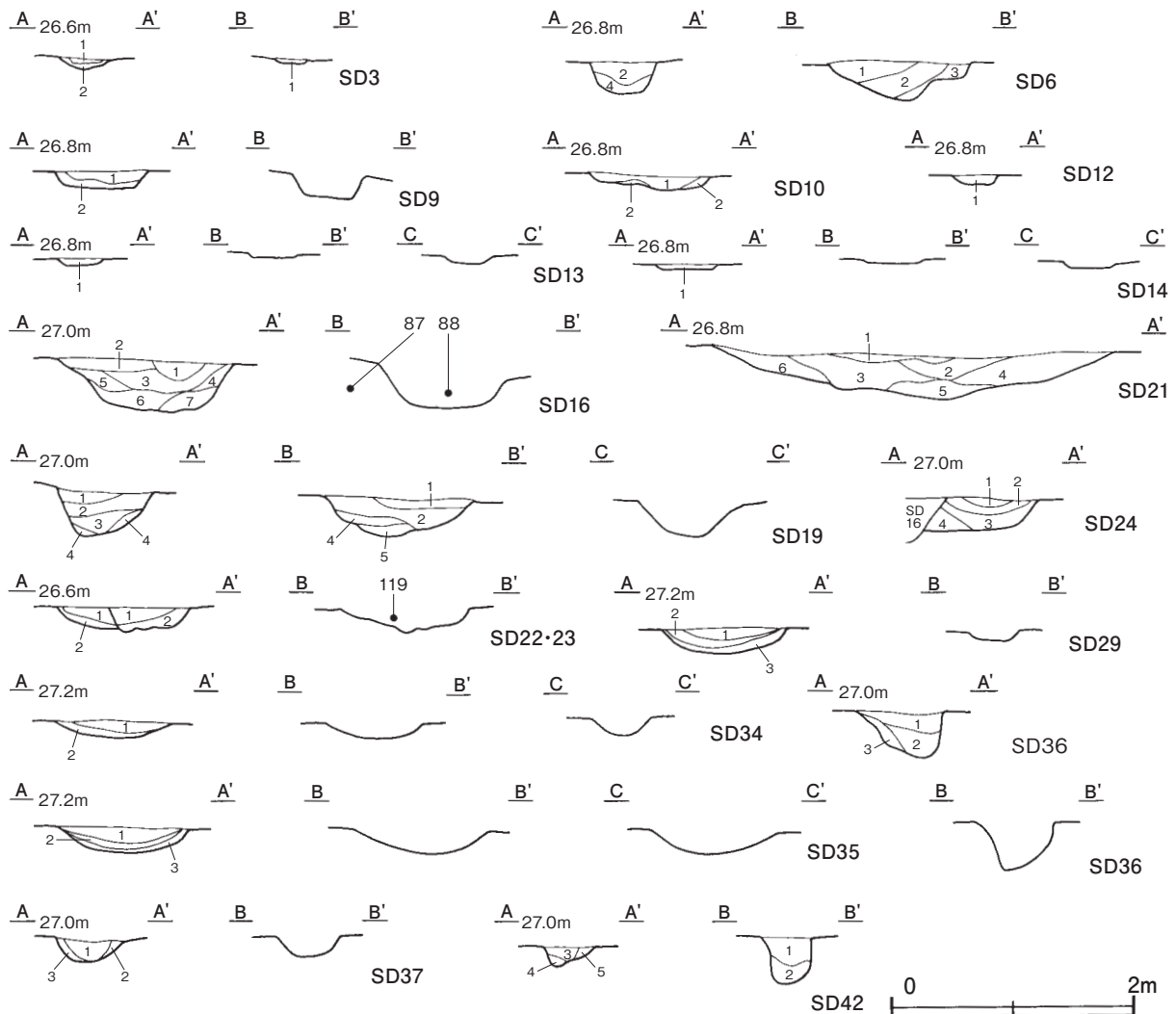
- |         |                 |         |                   |
|---------|-----------------|---------|-------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・細砂微量      | 3 暗 褐 色 | ローム粒子中量、炭化粒子・細礫微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子・細礫微量 | 4 黒 褐 色 | ローム粒子少量、細砂微量      |

遺物出土状況 土師質土器片2点（鍋）が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

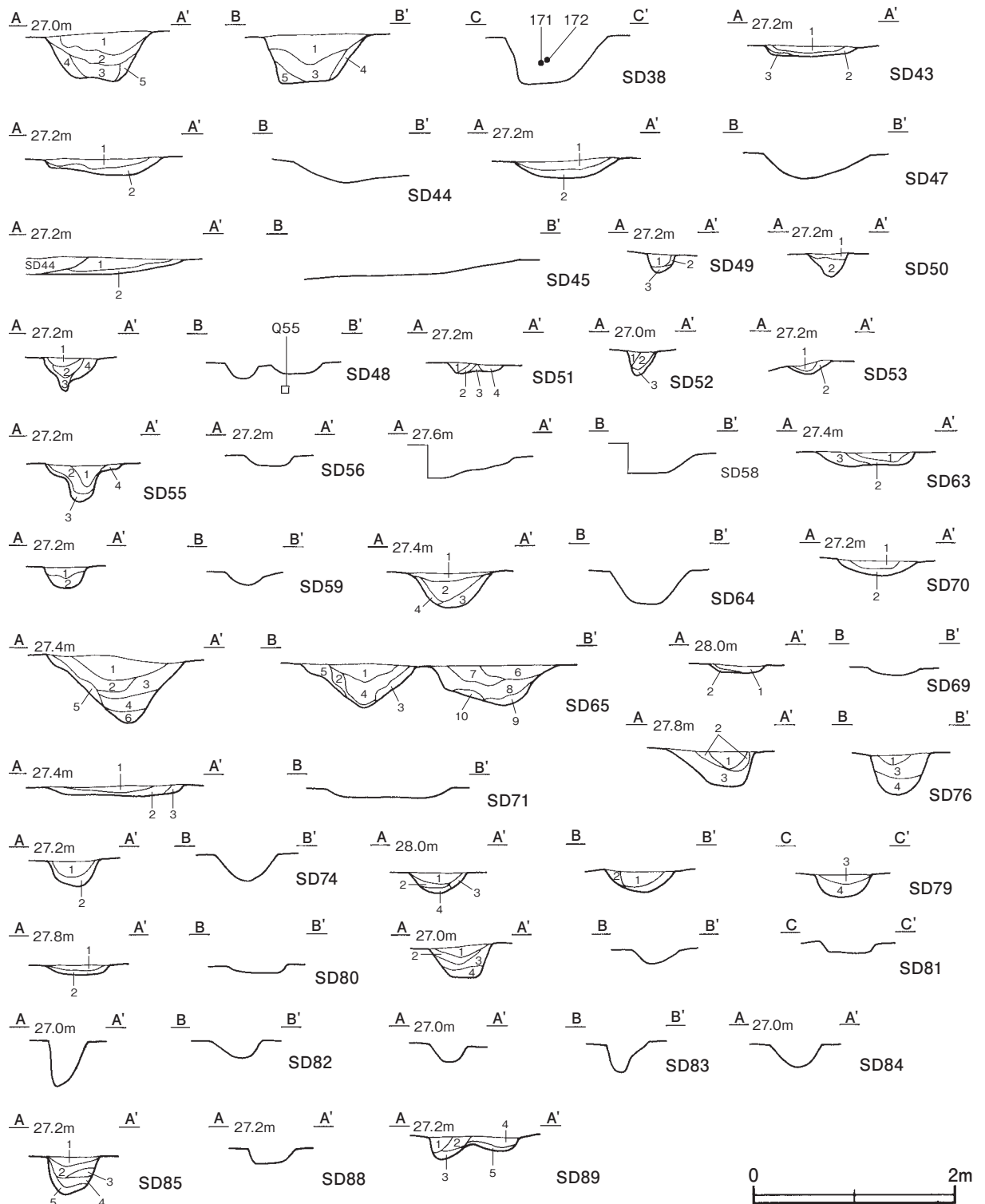
所見 時期は重複関係や周囲の遺構から16世紀前半と推測される。性格は、底面にやや傾斜が見られることから、排水のための溝と想定される。



第246図 第73号溝跡実測図



第247図 その他の溝跡実測図 (1)



第248図 その他の溝跡実測図 (2)

第3号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第6号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・赤色粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第9号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第10号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量



第12号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第13号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第14号溝跡土層解説

1 褐 色 ローム粒子微量

第16号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量  
2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量  
3 暗 褐 色 ローム粒子中量  
4 黒 褐 色 ローム粒子微量  
5 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量  
6 暗 褐 色 ローム粒子少量  
7 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第19号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量  
2 褐 色 ローム粒子少量  
3 褐 色 ローム粒子微量  
4 褐 色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量  
5 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第21号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量  
2 黄 橙 色 ロームブロック多量  
3 黒 色 ローム粒子微量  
4 黒 褐 色 ロームブロック少量  
5 極暗褐色 ロームブロック中量  
6 褐 色 ロームブロック多量

第22号溝跡土層解説

1 極暗褐色 赤色粒子少量  
2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第23号溝跡土層解説

1 褐 色 ローム粒子少量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第24号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗 褐 色 ロームブロック少量  
3 黒 褐 色 ローム粒子少量  
4 黒 褐 色 ロームブロック多量

第29号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量  
2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量  
3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

第34号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量  
2 黒 褐 色 ローム粒子少量

第35号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量  
3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 赤色粒子微量

第36号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・細礫・細砂微量  
2 黒 褐 色 ローム粒子・細砂微量  
3 暗 褐 色 細砂少量, ローム粒子微量

第37号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・細砂少量  
2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 細砂少量  
3 暗 褐 色 ローム粒子・細砂少量

第38号溝跡土層解説

1 褐 色 ロームブロック少量  
2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量  
3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量  
4 褐 色 ローム粒子中量  
5 褐 色 ローム粒子中量, 赤色粒子微量

第42号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 細砂少量, ロームブロック微量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 細砂微量  
3 暗 褐 色 ローム粒子・細砂少量  
4 黒 褐 色 ローム粒子・細砂少量  
5 黒 褐 色 細砂少量, ローム粒子微量

第43号溝跡土層解説

1 褐 色 ローム粒子少量  
2 褐 色 ローム粒子中量  
3 褐 色 ローム粒子多量

第44号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量  
2 褐 色 ローム粒子少量

第45号溝跡土層解説

1 褐 色 ローム粒子少量  
2 褐 色 ローム粒子中量

第47号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・細砂微量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第48号溝跡土層解説

1 黒 色 細砂少量, ローム粒子微量  
2 黒 褐 色 細砂少量, ローム粒子・細礫微量  
3 黒 褐 色 ローム粒子・細砂少量  
4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量

第49号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量  
3 褐 色 ローム粒子中量

第50号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 褐 色 ローム粒子中量

第51号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量  
2 黒 褐 色 ローム粒子微量  
3 暗 褐 色 ローム粒子中量  
4 黒 褐 色 ローム粒子少量

第52号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・細礫微量  
2 黒 褐 色 ローム粒子少量  
3 暗 褐 色 ローム粒子中量

第53号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量  
2 黒 褐 色 ローム粒子・黒色粒子微量

第55号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量  
2 褐 色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量  
3 褐 色 ローム粒子中量  
4 暗 褐 色 ローム粒子少量

第59号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 細礫微量  
2 黒 褐 色 ロームブロック・細礫微量

第63号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 細砂微量  
3 にぶい黄褐色 ローム粒子中量, 細砂少量

第64号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量  
3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量  
4 黒 褐 色 ローム粒子少量



第65号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 赤色粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 細砂微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 赤色粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 9 褐色 炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子微量

第69号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・細砂少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 細砂微量

第70号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第71号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・細砂少量, 炭化粒子・細礫微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 細砂少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・細砂中量

第74号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・細礫・細砂微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 細礫・細砂微量

第76号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子・赤色粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第79号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 細砂中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・細礫微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・細砂少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量

第80号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 細砂少量, ローム粒子・細礫微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 細礫微量

第81号溝跡土層解説

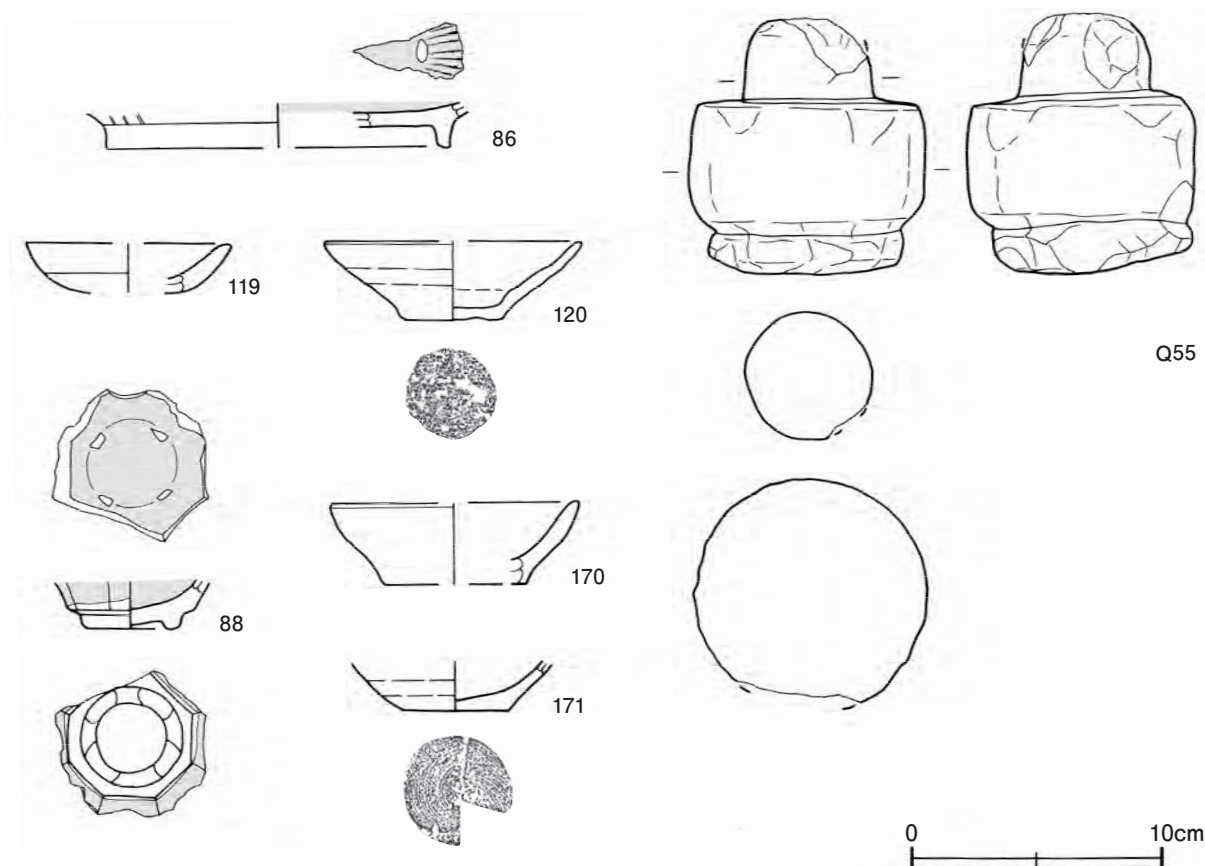
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第85号溝跡土層解説

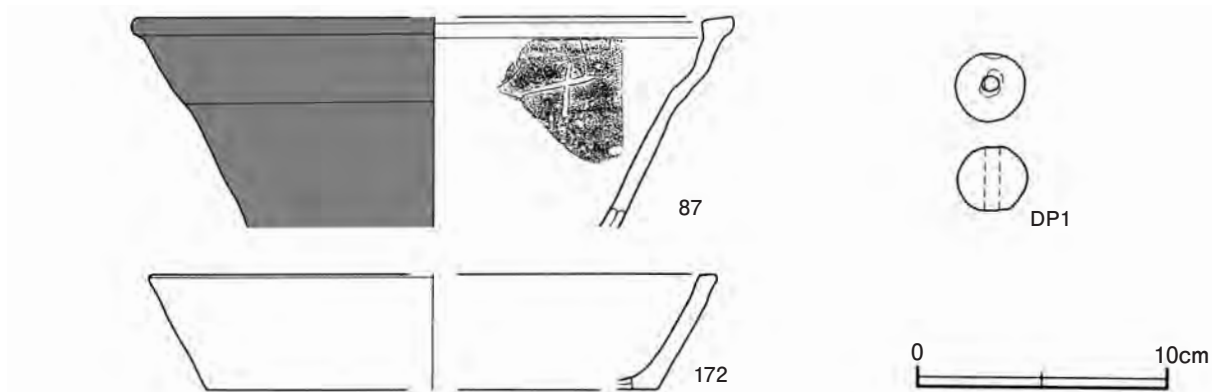
- 1 暗褐色 赤色粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 赤色粒子微量
- 5 にぶい黄褐色 ローム粒子少量

第89号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・細砂少量, 赤色粒子微量
- 2 黒褐色 細砂中量, ローム粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ローム粒子・細砂中量
- 4 暗褐色 ローム粒子・細砂少量
- 5 にぶい黄褐色 ローム粒子中量, 細砂少量



第249図 その他の溝跡出土遺物実測図 (1)



第250図 その他の溝跡出土遺物実測図 (2)

第12号溝跡出土遺物観察表 (第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
86	陶器	菊皿	—	(1.8)	[13.7]	緻密 灰釉	浅黄	普通	付け高台 底部内面トチン痕 底部内面施釉	覆土中	15% 瀬戸

第16号溝跡出土遺物観察表 (第249・250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
87	土師質土器	鍋	[23.0]	(8.5)	—	長石・石英・細礫・金雲母微量	明赤褐	普通	口辺部にヘラ記号「+」 外面煤付着	覆土中・上層	20%
88	陶器	八角小杯	—	(1.9)	3.8	緻密 白色釉	灰白	普通	削りだし高台 高台部底面4か所の削り痕 底面内部4か所のトチン痕 内外面施釉	覆土下層	30% 白磁 PL.36

第23号溝跡出土遺物観察表 (第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
119	土師質土器	小皿	[8.1]	(2.0)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	非ロクロ成形 口辺部外面ナデ	覆土中層	10%

第29号溝跡出土遺物観察表 (第249・250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
120	土師質土器	小皿	[10.3]	3.2	3.8	長石・石英・スコリア	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形	覆土中	40%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	土玉	2.8	0.6	3.0	(1.8)	土製	表面ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中	95% PL.26

第35号溝跡出土遺物観察表 (第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
170	土師質土器	小皿	[9.8]	3.3	[5.8]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形	覆土中	20%

第38号溝跡出土遺物観察表 (第249・250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
171	土師質土器	小皿	—	(2.0)	4.4	長石・石英・金雲母少量	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 底部内面中央部横ナデ	覆土下層	40%
172	土師質土器	焙烙	[22.6]	4.7	[18.0]	長石・石英・金雲母中量	にぶい橙	普通	ロクロ成形	覆土下層	30%

第48号溝跡出土遺物観察表 (第249図)

番号	器種	長さ	幅	径	重量	石質	特 徴			出土位置	備 考
Q55	宝篋印塔	(10.3)	9.4	上5.0 下9.4	(930.0)	凝灰岩	相輪部			覆土下層	PL29

表30 溝跡一覧表

番号	位 置	方 向	形 状	規 模				断面形	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係 (古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	H10f3~H10j2 ~H9g7	S-20°-W N-70°-W	L字状	(37.5)	1.5~3.9	0.5~0.8	32~85	逆台形	平坦	人為	土師質土器、陶器、石器、 石製品、鉄滓	SK116→本跡→ SD9・10・11、PG4
2	I10b5~I10b6	N-85°-W	直線状	2.5	0.2~0.4	0.1~0.2	11	皿状	皿状	自然	土師質土器	本跡→SE3
3	I10b4	N-61°-W	直線状	2.6	0.2~0.5	0.1	10	皿状	平坦	自然	土師質土器	
4	H10c4~H10f3	S-10°-E	直線状	(10.0)	0.8~1.4	0.3~0.7	32~44	皿状	平坦	人為	土師質土器、陶器、銅製品	SD1→本跡→SD6
5	H10d4~H10f3	S-10°-E	直線状	(8.7)	0.6~1.1	0.5~0.8	34	皿状	平坦	人為	土師質土器、陶器、石製品	SD1、SK51→本跡 →SD6
6	A1h0~A2h5	N-90°-W	直線状	(1.5)	0.3~0.4	0.2	26~33	U字状	凹凸	人為	土師質土器、土製品、陶器、 磁器	SD4・5→本跡
7	H10f2~H10g1 ~H9f8	S-20°-W S-65°-W	L字状	21.5	1.3~2.5	0.2~0.7	40~112	U字状 皿状	平坦	人為	土師質土器、陶器、石器、 石製品	SD8→本跡→SD22・23
8	H10f2~H10g1 ~H9f8	S-20°-W S-66°-W	口字状	(53.8)	1.8~2.8	0.3~0.8	22~92	皿状 逆台形	平坦	人為	土師質土器、陶器、 磁器、石器、石製品、 鉄製品	SB34→本跡→SD7・ 13・14、SE18、 SK109、PG4
9	I10b2~H10j2	N-3°-E	直線状	(7.1)	0.6~0.7	0.3~0.5	21	逆台形	平坦	—	土師質土器	SD1、SK23→本跡
10	H10j3~H10j2	N-61°-W	直線状	0.4	1.2	0.7	14	皿状	凹凸	人為	—	SD1→本跡
11	H10j1~H10i1	N-0°	直線状	7.4	0.4	0.3	8~32	U字状 皿状	平坦	自然	—	SD1、SE12→本跡
12	G9j8~G9j0	N-75°-W	直線状	(7.4)	0.4	0.3	8	皿状	平坦	自然	土師質土器、陶器	SD1→本跡
13	H9b9~H9b8	N-72°-W	直線状	3.7	0.5	0.3	7	逆台形	平坦	自然	土師質土器	SD8→本跡
14	H9c8	N-74°-W	直線状	3.1	0.5	0.4	4	逆台形	平坦	自然	—	SD8→本跡
15	H9d5~H9e4	S-30°-W	直線状	(9.3)	2.8	1	65	逆台形	平坦	人為	土師質土器、鉄製品	SK85→本跡→ SD17・21
16	G9i5~G9j6	N-15°-W	直線状	(6.0)	1.4	0.5~0.7	40	皿状	凹凸	人為	土師質土器、磁器	SD24→本跡
17	G9i5~H9d3	S-10°-W	直線状	(24.3)	2.0~2.8	0.1~0.8	45	段状	平坦	人為	土師質土器、陶器、磁器、 石製品、銅製品	SD15・18→本跡→ SE17
18	G8e3~G8c3~ G9e3~H9d3	N-0° N-90°-W S-0° N-20°-E	鍵の手状	(95.6)	1.5~3.4	0.2~0.6	52~92	U字状 逆台形	平坦	人為	土師質土器、陶器、 磁器、瓦、石器、 石製品、鉄製品	第3号方形竪穴遺構、 SK174・419→本跡→ SD17・31・49・59、 SK157
19	G8h6	N-5°-W	直線状	(2.4)	0.6~0.9	0.2~0.4	26	皿状	平坦	人為	土師質土器	
20	H10j5~H10i3	N-75°-W	直線状	7.6	0.9~1.3	0.3~0.6	20~35	U字状 皿状	平坦	人為	土師質土器、椀状滓	SD1、SE11、SK52 →本跡
21	H9f3	N-27°-E	弧状	(2.3)	2.7	1.5	71	皿状	平坦	人為	土師質土器、陶器	本跡→SD15
22	H10g2	N-28°-E	弧状	12.4	0.6	0.2	20	皿状	凹凸	自然	—	SD7・8→本跡→SD23
23	H10g2	N-12°-E	弧状	13.6	0.6~1.1	0.2~0.8	20	皿状	凹凸	自然	土師質土器	SD7・8・23→本跡
24	G9i6	S-15°-E	弧状	(3.7)	0.5~0.9	—	25	皿状	平坦	人為	—	本跡→SD16
29	G7d0~G7a0	N-0°	直線状	(12.7)	0.4~1.2	0.2~0.7	—	—	—	—	土師質土器	本跡→SD31・82、 SK739・446
31	G7b9~G8b3	N-75°-W	L字状	21.0	1.3~1.7	0.1~0.4	8~25	皿状	平坦	人為	—	SD18・29・32→本跡→ SD33・89
32	F8h4~F7h9~ G7b8	N-90°-W S-7°-W	L字状	(28.0)	2.4~3.2	0.4~1.3	90~112	逆台形	平坦	自然 人為	土師質土器、陶器、磁器、 石器、石製品	本跡→SD31・38・ 39・40・42・48
33	G8a5~G8b2	S-83°-W	直線状	7.4	0.5~0.8	0.3~0.6	8~14	浅いU字状	平坦	自然	銅製品	SD31→本跡→SK745
34	F8j8~F8j1	N-90°-W	L字状	(29.2)	0.3~1.0	0.1~0.4	10~14	皿状	平坦	自然	—	SD38→本跡→PG2
35	F8j1~F7j7	N-90°-W	直線状	(15.7)	1.0~1.1	0.1~0.3	15	皿状	平坦	自然	土師質土器、陶器	SD53→本跡
36	G9f4	N-0°	直線状	(2.2)	0.5~0.6	0.2~0.3	40	薬研状	平坦	人為	—	
37	G9f5	N-0°	直線状	(4.5)	0.5~0.6	0.2~0.3	17	皿状	平坦	人為	—	
38	F7h0~F7j0	N-0°	直線状	(10.9)	0.9~1.1	0.4~0.9	47	逆台形	平坦	人為	—	SD32・34→本跡→ SD81
39	F7i4~F7h8	N-84°-E	直線状	(19.5)	1.2~1.8	0.4~0.6	31~54	逆台形	平坦	人為	土師質土器	SD32→本跡→ SK342・387・454
40	F7h4~F7g8	N-84°-E	直線状	(23.3)	1.8~2.2	0.5~0.9	65~82	逆台形	平坦	人為	土師質土器、陶器	SD32、SK222→本跡→ PG2
41	F7f0~F7g8	S-87°-W	直線状	11.2	0.2~0.4	0.1~0.3	4~12	逆台形	平坦	自然	土師質土器、陶器	SE26・27、SD42→ 本跡→SK192
42	F7g8~F8g3	N-90°-W	直線状	(26.0)	0.3~0.6	0.1~0.3	16	不定形	凹凸	自然	瓦	SK182・194→本跡 →PG2
43	F7c2	N-0°	直線状	3.5	1.0	0.8	10	皿状	平坦	自然	—	SD44→本跡
44	F7b4~F7a2	N-90°-E	L字状	12.0	0.9~1.2	0.2~1.0	23	皿状	平坦	自然	—	SD45・46→本跡→ SD44
45	F7a2	N-60°-E	弧状	7.5	2.1	—	24	皿状	平坦	自然	—	SD46→本跡→SD44
46	E7h2~F7b2	S-10°-W	直線状	(18.5)	1.3	0.7	71	U字状	平坦	人為	土師質土器、土製品、磁器、 石器	SE20、SK354→本跡→ SD44・45・47、PG2
47	F6i3	N-80°-E	弧状	4.9	1.0~1.1	0.2~0.3	28	皿状	平坦	自然	土師質土器、陶器	SD46→本跡→ SK444、PG2
48	F8h3~F8i2	N-50°-E	不定形	16.5	0.3~0.5	0.1~0.3	—	—	—	—	石製品	
49	G8c4~G8c5	N-84°-W	直線状	7.5	0.4~0.6	0.2~0.4	22	U字状	皿状	自然	—	
50	G8c4~G8d5	N-82°-W	直線状	10.3	0.4~0.5	0.1~0.2	36	U字状	凹凸	自然	—	SD18→本跡
51	F8h1	N-10°-E	直線状	2.6	0.2~0.5	0.1~0.4	20	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SD52
52	F8h1	N-10°-W	Y字状	3.9	0.2~0.4	0.1~0.3	36	外傾	皿状	人為	—	SD51・53→本跡

番号	位置	方向	形状	規模				断面形	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
53	F 8 h1~F 8 j2	S-0°	直線状	5.8	0.3~0.5	0.1~0.3	20	緩斜	皿状	自然	—	SD35→本跡→SD52
55	G 8 c2~G 8 e2	S-0°	Y字状	11.1	0.4~0.8	0.1~0.3	68	外傾	皿状	人為	—	SD85・87→本跡
56	G 8 c1~G 8 d1	N-10°-E	直線状	(7.2)	0.4~0.5	0.2~0.3	14	外傾	平坦	—	—	本跡→SD85・86
58	F 7 e1~F 7 f1	N-8°-W	直線状	(7.0)	0.6~1.0	0.4~0.9	—	—	—	—	—	本跡→SK228
59	G 8 b6	N-40°-E	直線状	3.6	0.4	0.2	—	—	—	—	—	SD18→本跡
60	E 6 e9~E 6 e7~ F 6 c7	S-90°-W S-9°-W	L字状	(35.4)	1.0~1.8	0.3~0.6	50~62	逆台形	平坦	人為	土師質土器、陶器、石器、 石製品、銅製品	SK317・519・529、SD61、 PG1→本跡→SD63、SK347
61	E 6 j4~F 7 a0	S-82°-E	直線状	(19.9)	0.8~1.8	0.1~0.2	34	浅いU字状	平坦	人為	土師質土器、磁器、石器	本跡→SK518・525・ 532・539、SD60・70
62	E 6 f0~E 6 f8~ E 6 f8	S-90°-W S-10°-W	L字状	(16.2)	0.5~1.0	0.3~0.5	8	浅いU字状	平坦	—	土師質土器	SK543、SE38→本跡 SK496、SD63、PG1
63	E 6 f9	N-0°	直線状	2.3	0.9~1.1	0.5	12	皿状	平坦	人為	—	SD60・62→本跡
64	F 6 d8~F 6 d9	N-90°-E	直線状	(6.2)	0.6~0.8	0.2~0.3	64	外傾	平坦	人為	—	—
65	F 5 i3~E 6 i3	S-30°-W	直線状	(16.7)	0.7~0.9	0.1~0.2	55	U字状	平坦	人為	縄文土器	本跡→PG1
66	D 5 d6~E 5 d6	S-0°	直線状	(38.5)	2.6~3.5	0.5~0.7	64~102	不定形	平坦	人為	土師質土器、陶器、磁器、 石製品、瓦	本跡→SE41、SY1、 PG1
67	C 4 d3~D 4 c3	S-0°	直線状	(39.3)	0.7~1.1	0.2~0.3	32~40	U字状 皿状	平坦	人為	土師質土器、鉄製品	本跡→SK632、SD79
68	C 4 d2~D 4 c3	S-0°	直線状	(34.0)	0.4~0.5	0.2~0.3	14~19	U字状	平坦	人為	—	本跡→SK631
69	C 4 h2~C 4 c2	N-4°-W	直線状	(17.5)	0.5~0.8	0.1~0.4	—	—	—	—	—	本跡→SK676、PG1
70	E 6 j7~E 6 i8	N-40°-W	弧状	6.4	0.6~1.0	0.2~0.7	18	皿状	皿状	自然	土師質土器	SD61→本跡→PG1
71	E 6 a3~E 6 e3	N-12°-W	直線状	18.9	0.2~1.6	0.1~0.4	9	皿状	平坦	人為	—	SK499、SD65→本跡→ SK474、PG1
72	F 6 b8~F 6 b0	N-90°-E	直線状	(11.8)	0.9~1.0	0.5~0.7	6~30	緩斜	U字状	自然	—	本跡→SB19、PG1
73	F 6 c0~F 6 c7	N-90°-W	直線状	(13.1)	0.5~0.7	0.2~0.3	8~19	浅いU字状	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK521・522・524、 SB14・19、PG2
74	E 7 a6~E 7 a4	N-85°-W	直線状	(8.2)	0.5~0.8	0.2~0.3	24	U字状	皿状	自然	—	本跡→PG1
76	D 5 b0~D 4 h8	N-12°-W	L字状	28.5	0.5~0.9	0.1~0.3	42	逆台形 U字状	平坦 皿状	人為	—	—
79	C 4 h7~C 4 h6	N-90°-W	直線状	5.5	0.2~0.6	0.1~0.2	22	皿状	皿状	自然	—	SD67→本跡→SK657
80	D 5 c3~D 5 c1	N-80°-W	直線状	11.9	0.5~0.6	0.3~0.4	8~10	U字状	皿状	自然	—	SD76→本跡→PG1
81	F 8 i1~F 8 j1	—	U字状	9.1	0.5~1.1	0.2~0.7	—	—	—	—	—	SD38→本跡→SD34
82	G 8 a2~F 7 j9	N-76°-W	直線状	10.2	0.2~0.6	0.1~0.3	—	—	—	—	—	SD83→本跡→PG2
83	F 7 j9~F 7 i0	N-47°-E	直線状	7.1	0.3~0.5	0.1~0.2	—	—	—	—	—	SD38→本跡→ SD82・84
84	F 7 i0~F 7 j0	N-17°-W	直線状	4.8	0.3~0.6	0.1~0.2	—	—	—	—	—	本跡→SD83
85	G 8 d1	N-90°-W	V字状	6.8	0.4~0.5	0.2~0.4	—	—	—	—	—	SD56・86→本跡→ SD55・87
86	G 8 d1	N-90°-W	直線状	3.4	0.3~0.6	0.1	—	—	—	—	—	SD56→本跡→ SD85・90
87	G 8 c2~G 8 e2	S-0°	直線状	—	—	—	—	—	—	—	—	SD85→本跡→SD55
88	F 7 i5~F 7 i6	N-14°-E	直線状	5.1	0.4~0.5	0.2~0.3	15	皿状	平坦	自然	—	本跡→SK350
89	G 7 a0~G 8 c1	N-7°-W	Y字状	11.8	0.4~1.0	0.1~0.7	—	—	—	—	—	SD29・31→本跡
90	G 7 c0	S-67°-W	Y字状	(3.5)	0.2~0.4	0.1~0.2	—	—	—	—	—	SD86→本跡→SK739、 SD85

## (8) 柵跡

### 第1号柵跡(第251図)

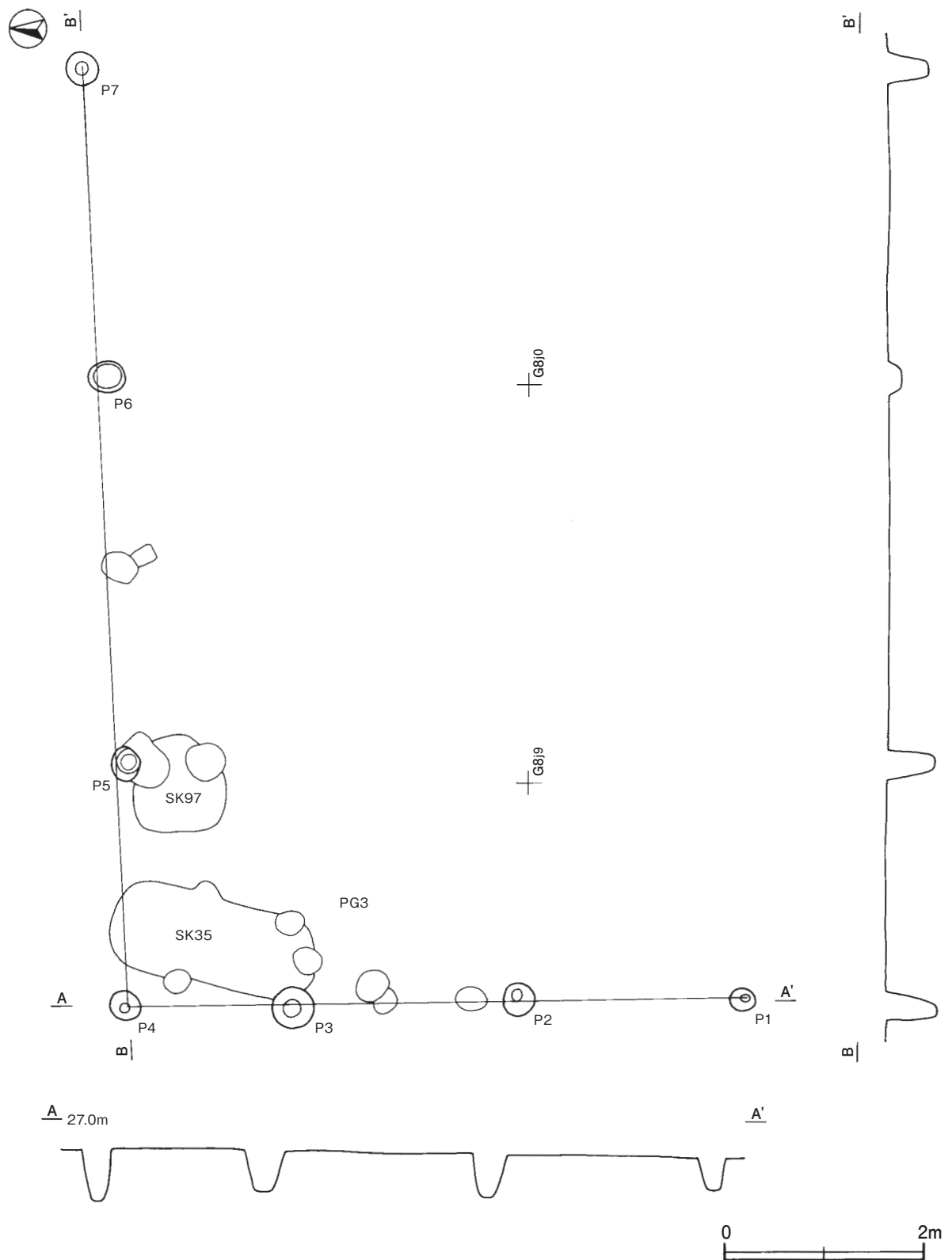
位置 調査区南東部のG 8 j8~G 8 h0区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第35号土坑, 第3号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 L字状である。西面は, G 8 j8区から北方向(N-0°)のG 8 i8区まで直線上に並び, そこから東方向(N-87°-E)のG 8 h0区まで直線上に並んでいる。確認された長さは15.6mである。西面の柱間寸法は1.6~2.3mで, 北面の柱間寸法は2.4~3.9mである。

柱穴 7か所。平面形は長径26~44cm, 短径22~34cmの円形である。断面形はU字状及び皿状で, 深さは11~51cmである。

所見 時期は, 周囲の遺構との関係から16世紀後半と考えられる。性格は, 西面の主軸方向が第25号掘立柱建物跡の桁行方向と平行し, 北面の主軸方向が第25号掘立柱建物跡の梁行方向と平行なことから, 同時期に機能していたものと推測され, 第1号柵跡と連結して第25号掘立柱建物跡の北部・西部・南部を囲んでいた可能性が考えられる。



第251図 第1号柵跡実測図

第2号柵跡 (第252図)

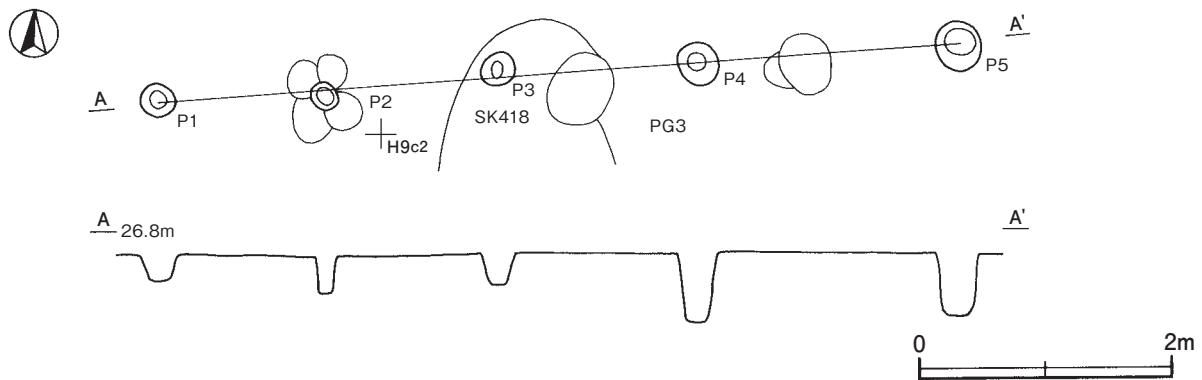
位置 調査区南東部のH 9 b1~H 9 b3区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第418号土坑, 第3号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 H9b1区から東方向（N-87°-E）のH9b3区まで直線上に並んでいる。確認された長さは6.5mで、柱間寸法は1.4~2.1mである。

柱穴 5か所。平面形は長径18~37cm、短径20~40cmの円形である。断面形はU字状で、深さは17~54cmである。

所見 時期は、周囲の遺構との関係から16世紀後半と考えられる。性格は、主軸方向が第25号掘立柱建物跡の梁行方向と平行であることから、同時期に機能していたものと推測され、第2号柵跡と連結して第25号掘立柱建物跡の北部・西部・南部を囲んでいた可能性が考えられる。



第252図 第2号柵跡実測図

表31 柵跡一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ(m)	柱間(m)	柱 穴					主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
					柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)		
1	G8j8~G8i8 G8i8~G8h0	N-0° N-87°-E	(15.6)	1.6~2.3 2.4~3.9	7	円形・楕円形	26~44	22~34	11~51	—	SK35, PG3→本跡
2	H9b1~ H9b3	N-87°-E	(6.5)	1.4~2.1	5	円形	18~37	20~40	17~54	—	SK418, PG3→本跡

(9) 不明遺構

第1号不明遺構（第253図）

位置 調査区南東部のG9e1区で、標高26.7mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第155号土坑を掘り込んでいる。

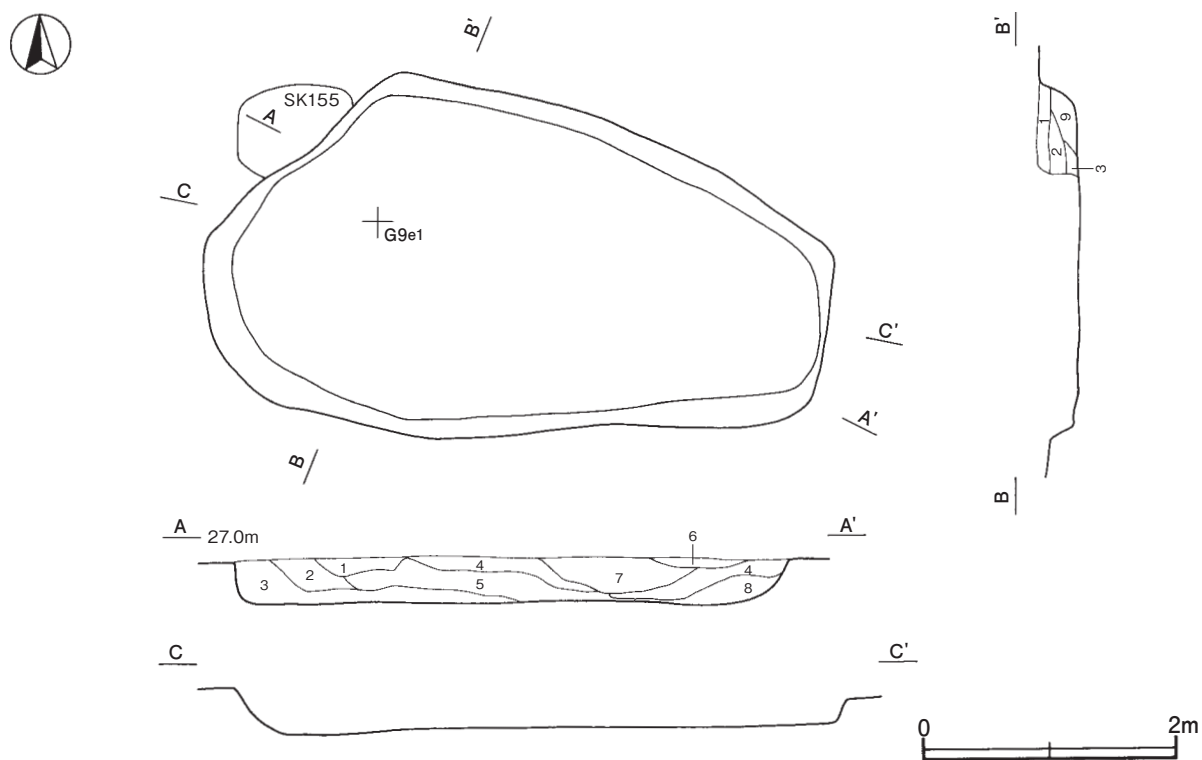
規模と形状 平面形は長径5.0m、短径2.7mの不定形で、深さは20~36cmである。長径方向はN-78°-Wで、底面は平坦である。

覆土 9層に分層される。東西双方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |         |                 |          |               |
|---------|-----------------|----------|---------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 細礫微量   | 6 黒 褐 色  | ローム粒子微量       |
| 2 黒 褐 色 | 細礫少量, ロームブロック微量 | 7 黒 褐 色  | ローム粒子少量       |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・細礫少量    | 8 暗 褐 色  | ローム粒子中量, 細礫微量 |
| 4 黒 褐 色 | 細礫少量, ローム粒子微量   | 9 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量, 細礫少量 |
| 5 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 細礫微量 |          |               |

所見 第18号溝跡の北部内側に位置しており、性格は不明である。時期は、周囲の遺構や重複関係から、15世紀後葉から17世紀前葉と推測される。



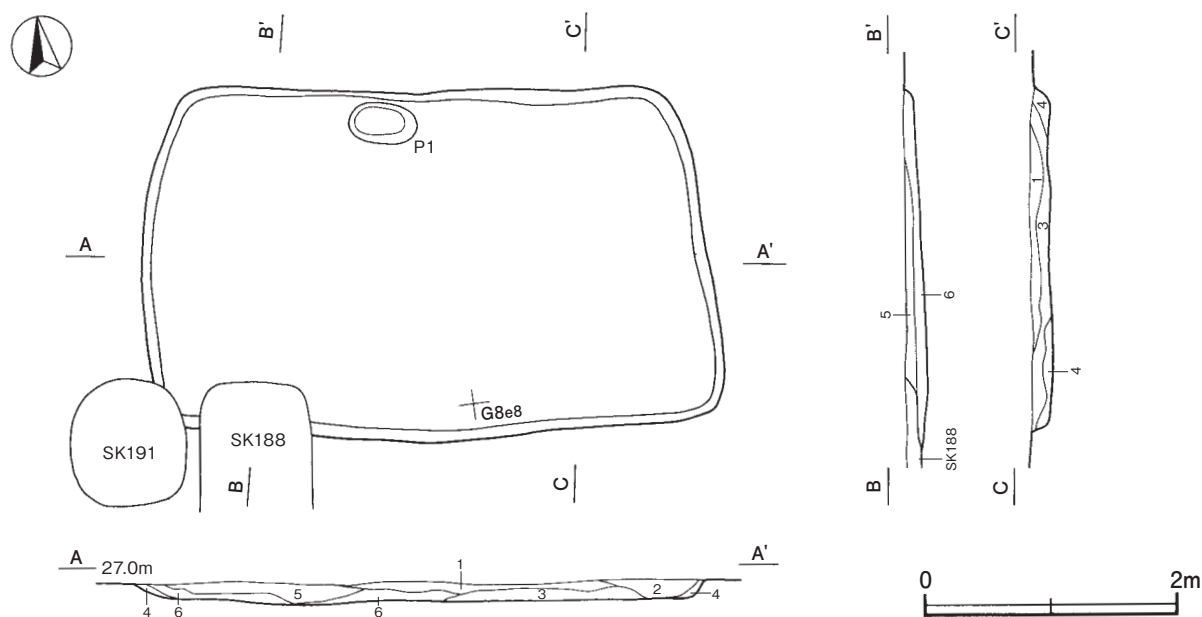
第253図 第1号不明遺構実測図

第2号不明遺構（第254図）

位置 調査区南東部のG8d7区で、標高26.9mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第188・191号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長軸4.5m、短軸2.8mの隅丸長方形で、深さは13~20cmである。長軸方向はN-81°-Wで、底面は平坦である。北壁際中央にピットが1か所確認されているが、性格は不明である。



第254図 第2号不明遺構実測図



覆土 6層に分層される。多方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |       |                         |       |                   |
|-------|-------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・細礫微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量           |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・細礫微量      | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 細礫微量     |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・細砂少量, 細礫微量        | 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |

所見 第18号溝跡の北部内側に位置しており, 性格は不明である。時期は, 周囲の遺構や重複関係から, 15世紀後葉から17世紀前葉と推測される。

第3号不明遺構 (第255図)

位置 調査区中央部のE6i6区で, 標高27.2mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第512号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は一辺3.2mほどの隅丸方形で, 深さは30cmである。底面は皿状である。ピットが6か所確認されているが, 性格は不明である。

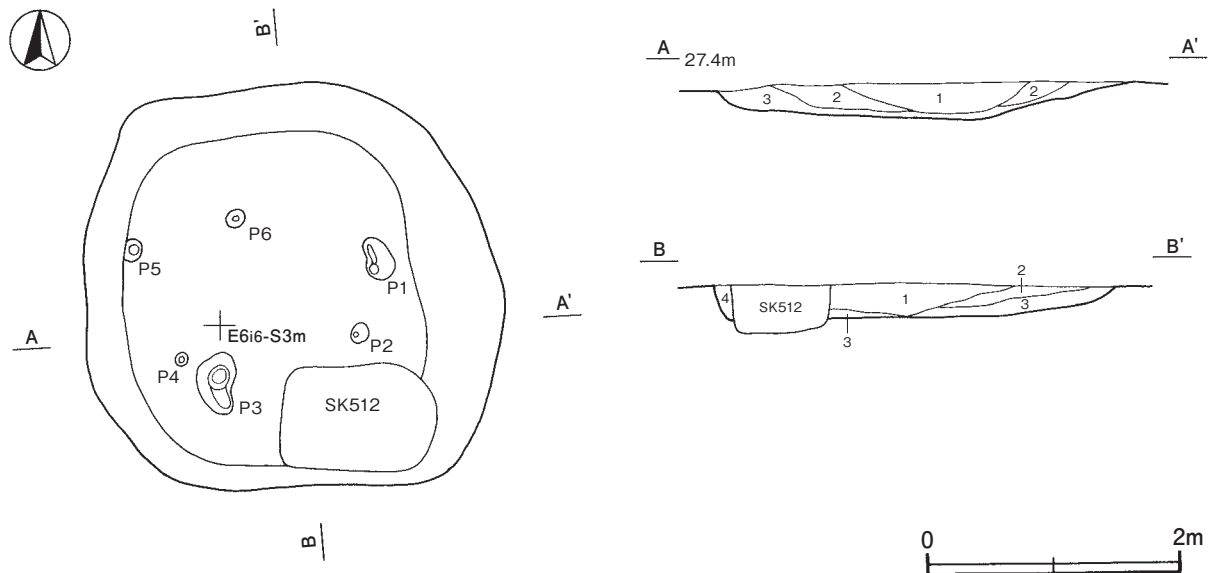
覆土 4層に分層される。多方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |       |                       |       |         |
|-------|-----------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・細礫・細砂微量    | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・細礫・細砂微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 南東部から続く集落の外郭部に位置している。第60号溝跡で居住域と区画していると想定されるが, 性格は不明である。時期は, 周囲の遺構や重複関係から, 16世紀前半から17世紀前葉と推測される。



第255図 第3号不明遺構実測図

第4号不明遺構 (第256図)

位置 調査区中央部のE6i2区で, 標高27.1mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第564号土坑を掘り込み, 第561号土坑に掘り込まれている。

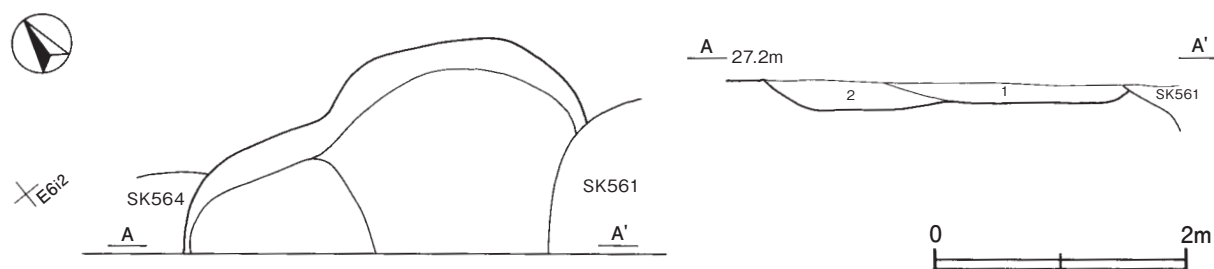
規模と形状 南北軸1.9m, 東西軸は3.2mだけが確認され, 平面形は不定形と推定される。深さは15~22cmであり, 底面は皿状である。

覆土 2層に分層される。北西方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

## 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・細砂少量, 炭化物・細礫微量      2 暗褐色 ローム粒子・細砂少量, 細礫微量

所見 南東部から続く集落の外郭部に位置している。第60号溝跡で居住域と区画していると想定されるが、性格は不明である。時期は、周囲の遺構や重複関係から、16世紀前半から17世紀前葉と推測される。



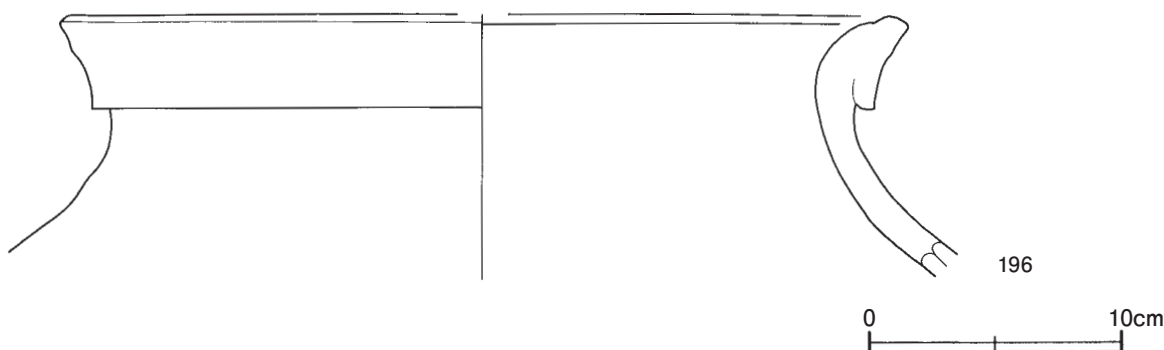
第256図 第4号不明遺構実測図

表32 不明遺構一覧表

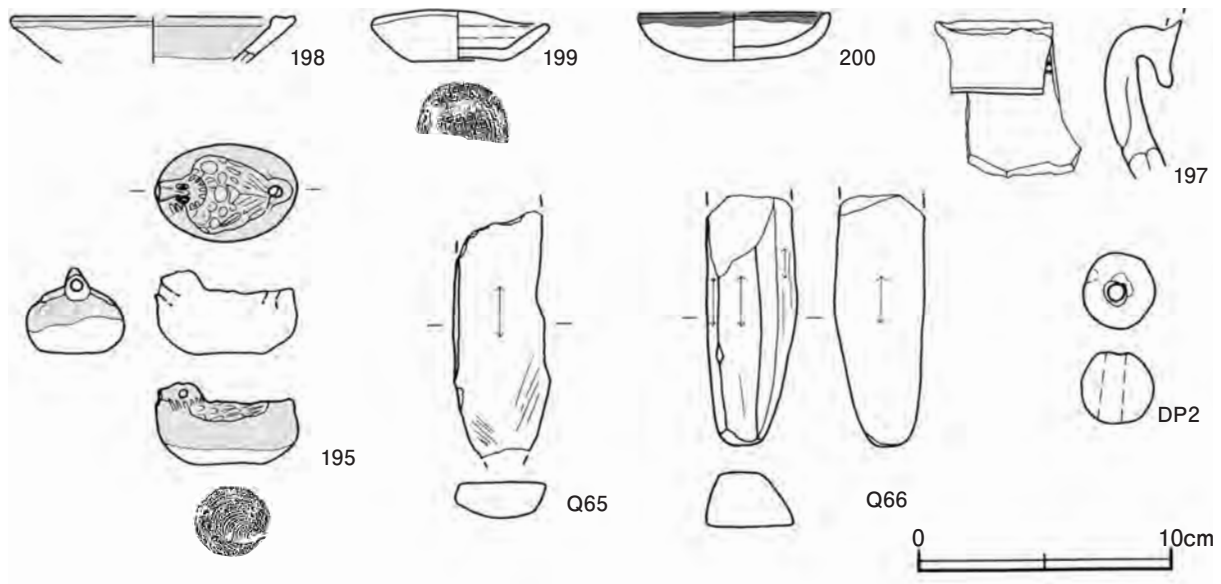
番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模 (m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
1	G 9 e1	N-78°-W	不定形	5.0 × 2.7	20~36	外傾	平坦	人為	—	SK155→本跡
2	G 8 d7	N-81°-W	隅丸長方形	4.5 × 2.8	13~20	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK188・191
3	E 6 i6	—	隅丸方形	3.3 × 3.2	30	緩斜	皿状	人為	土師質土器	本跡→SK512
4	E 6 i2	—	不定形	東西 (3.2) × 南北 (1.9)	15~22	緩斜	皿状	人為	—	SK564→本跡→SK561

## (10) ピット群 (第257・258図, 付図)

調査区全域にわたってピットが確認されている。各ピットの規模や形状は様々であるが、平面形は円形または楕円形で、径25~50cm、深さ20~60cmのものが多い。何らかの施設の一部であった可能性がありながらも、遺構としてとらえることができなかつたため、これらを4群に分けて遺構全体図及び一覧表で掲載する。遺物については実測図と観察表で紹介する。各ピット群の柱穴数は、第1号ピット群(1区)が507基、第2号ピット群(2区)が513基、第3号ピット群(3区)が703基、第4号ピット群(4区)が694基である。周囲の遺構や重複関係から、時期は15世紀から17世紀にかけて掘削されたものと想定される。



第257図 ピット群出土遺物実測図 (1)



第258図 ピット群出土遺物実測図 (2)

第1・3・4号ピット群出土遺物観察表 (第257・258図)

番号	種別	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
195	陶器	鳥形水滴	5.6	3.9	3.3	緻密 灰釉	オリーブ黄	良好	外面施釉 底部回転糸切り	PG1覆土中	100% 瀬戸 PL34
196	陶器	甕	[33.0]	(10.4)	-	緻密 自然釉	暗褐	普通	N字状口縁	PG1覆土中	15% 常滑 PL25
199	土師質土器	小皿	6.7	2.0	4.0	長石・角閃石	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラ削り 底部内面中央部横ナデ	PG3覆土中	45% PL22
198	陶器	小皿	[11.0]	(1.9)	-	緻密 灰釉	灰オリーブ	普通	緑釉 口辺部内外面施釉	PG3覆土中	15% 瀬戸
197	陶器	甕	-	(6.3)	-	緻密 自然釉	褐	普通	N字状口縁	PG3覆土中	15% 常滑 PL25
200	土師質土器	小皿	7.4	2.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	手捏ね 丸底 口縁部油煙付着	PG4覆土中	60% PL22

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	土玉	2.4	0.9	2.8	(22.1)	土製	表面ヘラ削り 一方向からの穿孔	PG3覆土中	95% PL26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q65	砥石	(9.7)	(3.8)	1.5	(57.4)	凝灰岩	端部欠損 砥面1面	PG4覆土中	
Q66	砥石	(9.9)	3.4	2.3	(89.5)	凝灰岩	端部欠損 砥面4面	PG3覆土中	

表33 ピット群一覧表

番号	位置	範囲 (m)		ピット数	ピット平面形	ピット規模 (cm)			ピット断面形	覆土	主な出土遺物	備考
		南北	東西			長径	短径	深さ				
1	B 3 i 1~ F 6 a 9	35.0	177.2	507	円形・楕円形	40~45	8~10	6~67	U字状	自然・人為	陶器	
2	E 7 h 2~ G 9 i 4	35.0	116.8	513	円形・楕円形	41~58	6~10	7~37	U字状	自然・人為	-	
3	G 8 h 6~ H 9 i 5	34.6	75.1	703	円形・楕円形	51~62	8~10	8~35	U字状	自然・人為	土師質土器, 陶器, 石器	
4	H 9 i 8~ I 11 e 2	35.0	79.5	694	円形・楕円形	37~46	6~7	9~45	U字状	自然・人為	土師質土器, 石器	

#### 4 近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑3基、炭焼窯跡1基が確認されている。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

## (1) 土坑

## 第41号土坑 (第259図)

位置 調査区南東部のG 8 i9区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.75mの円形である。深さ31cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

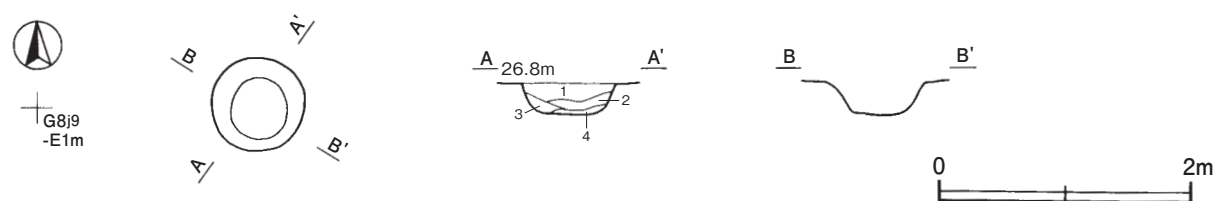
覆土 4層に分層される。南北双方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

## 土層解説

1 暗 褐 色	ローム粒子少量	3 褐 色	ローム粒子少量
2 黒 褐 色	ローム粒子少量	4 褐 色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿, 鍋類), 陶器片1点(壺), 磁器片1点(碗)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 時期は, 出土遺物から近世と考えられる。性格は不明である。



第259図 第41号土坑実測図

## 第84号土坑 (第260図)

位置 調査区南東部のH 10 d1区, 標高26.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.10m, 短径0.80mの隅丸長方形で、長径方向はN-16°-Eである。深さ30cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

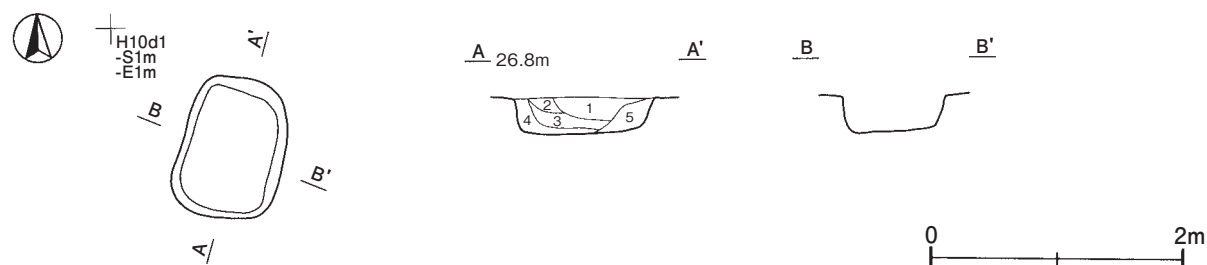
覆土 5層に分層される。西方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

## 土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック微量	4 褐 色	ローム粒子中量
2 暗 褐 色	ローム粒子少量	5 褐 色	ローム粒子少量
3 暗 褐 色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 磁器片1点(碗)が出土している。遺物は細片のため掲載できない。

所見 時期は, 出土遺物から近世と考えられる。性格は不明である。



第260図 第84号土坑実測図

## 第566号土坑 (第261図)

位置 調査区北西部のE 5 a4区, 標高27.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.02m, 短径0.66mの楕円形で, 長径方向はN-38°-Wである。深さ43cmで, 底面は皿状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

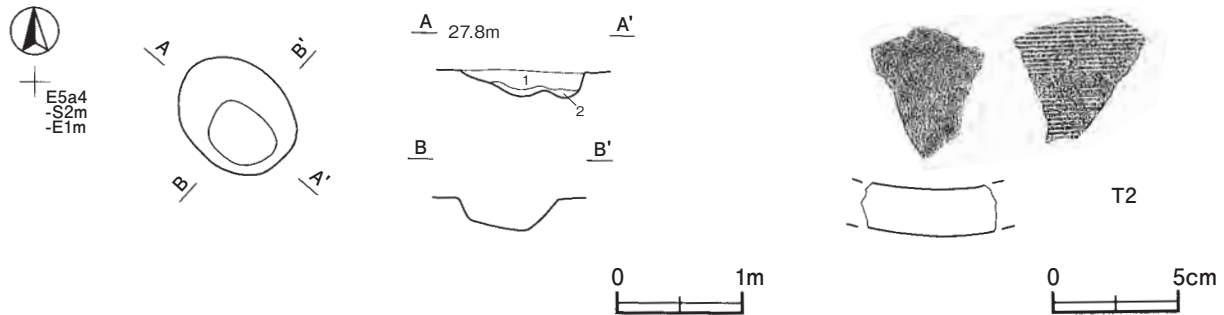
**覆土** 2層に分層される。北西方向からの投入を示す堆積状況から人為堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・細砂微量                      2 黒褐色 ローム粒子少量, 細砂微量

**遺物出土状況** 瓦1点(平瓦), 鉄製品1点(不明)が出土している。T2は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 出土遺物から近世と考えられる。性格は不明である。



第261図 第566号土坑・出土遺物実測図

第566号土坑出土遺物観察表 (第261図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
T2	平瓦	(5.0)	(5.4)	1.9	(498)	長石・石英	青黒	普通	内・外面いぶし 平行沈線状圧痕	覆土中	

表34 近世土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径 × 短径	深さ (cm)					
41	G 8 i9	—	円形	0.75 × 0.75	30	外傾	皿状	人為	土師質土器, 陶器, 磁器	
84	H 10 d1	N-16°-E	隅丸長方形	1.10 × 0.80	30	外傾	平坦	人為	磁器	
566	E 5 a4	N-38°-W	楕円形	1.02 × 0.66	43	緩斜	皿状	人為	瓦, 鉄製品	

(2) 炭焼窯跡

第1号炭焼窯跡 (第262図)

**位置** 調査区中央部のE 5 e7区で, 標高27.4mの台地平坦部に位置している。

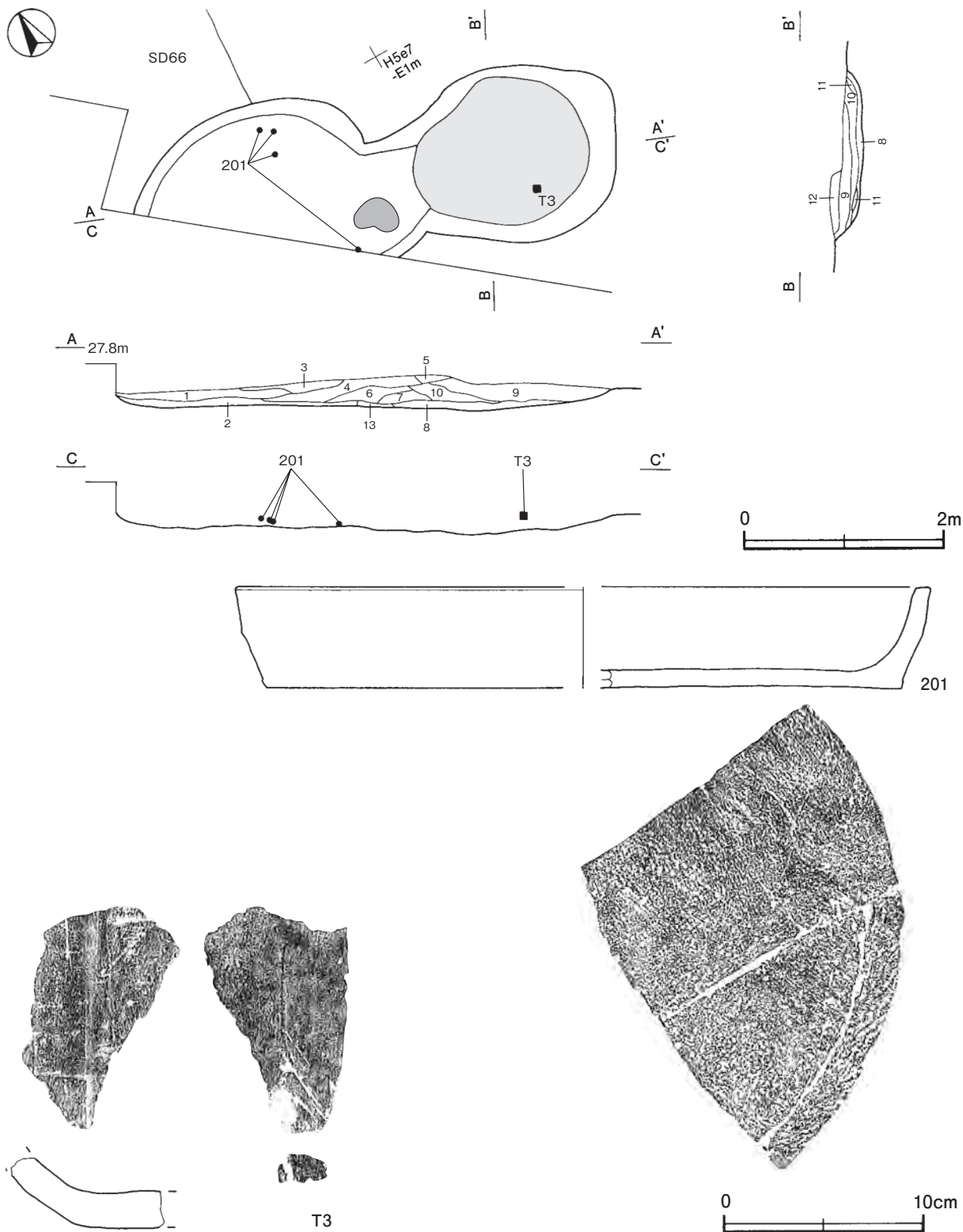
**確認状況** 掘り方の上部は削平され, 底部だけが確認されている。表土除去時には, 多量の焼土が楕円形に検出された。

**規模と形状** 東西径4.90m, 南北径1.72mだけが確認され, 瓢箪形と想定される。深さは18~24cmである。長径方向はN-71°-Wで, 断面形は緩やかな皿状である。東側は, 床一面ににぶい赤褐色の焼土が広がる長径2.36m, 短径1.72mの燃焼部と想定される。西側は, 床一面に炭化物・炭化粒子・焼土粒子が広がっており, 長径2.54m, 短径1.82mだけが確認され, 焚口部と想定される。

**覆土** 13層に分層される。不規則な堆積状況による人為堆積である。

土層解説

- |          |                          |           |                      |
|----------|--------------------------|-----------|----------------------|
| 1 黒褐色    | 細砂中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・細礫微量 | 8 極暗褐色    | 焼土粒子中量, 炭化粒子・細砂微量    |
| 2 黒色     | 炭化粒子中量, 細砂少量, 焼土粒子・細礫微量  | 9 にぶい赤褐色  | 焼土ブロック多量, 炭化物微量      |
| 3 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細砂微量     | 10 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物・ローム粒子微量  |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・細礫・細砂微量     | 11 にぶい赤褐色 | 焼土粒子微量               |
| 5 暗褐色    | 焼土粒子・細砂少量, 炭化粒子・細礫微量     | 12 赤褐色    | 焼土粒子多量, 炭化粒子微量       |
| 6 にぶい赤褐色 | 細砂中量, 焼土ブロック・細礫少量, 炭化物微量 | 13 暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細砂少量 |
| 7 赤褐色    | 焼土粒子中量, 細砂少量, 炭化物微量      |           |                      |



第262図 第1号炭焼窯跡・出土遺物実測図



遺物出土状況 土師質土器片4点（鍋類），瓦1点（平瓦）と，混入した土師器1点（坏）が出土している。201は焚口部の覆土下層，T3は燃焼部の覆土上層からそれぞれ出土している。また，燃焼部や焚口部の壁際から多くの花崗岩が出土した。

所見 燃焼部や焚口部の壁際から出土した花崗岩は，構築材と推測される。時期は，出土遺物から近世と想定される。

第1号炭焼窯跡出土遺物観察表（第262図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
201	土師質土器	焙烙	[35.0]	5.1	[32.0]	長石・石英・雲母・スコリア	橙	普通	ロクロ成形 内・外面ヘラナデ	覆土下層	25% PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
T3	平瓦	(10.8)	(7.7)	1.8	(160.0)	長石・石英	橙	普通	内・外面板状工具によるナデ	覆土上層	

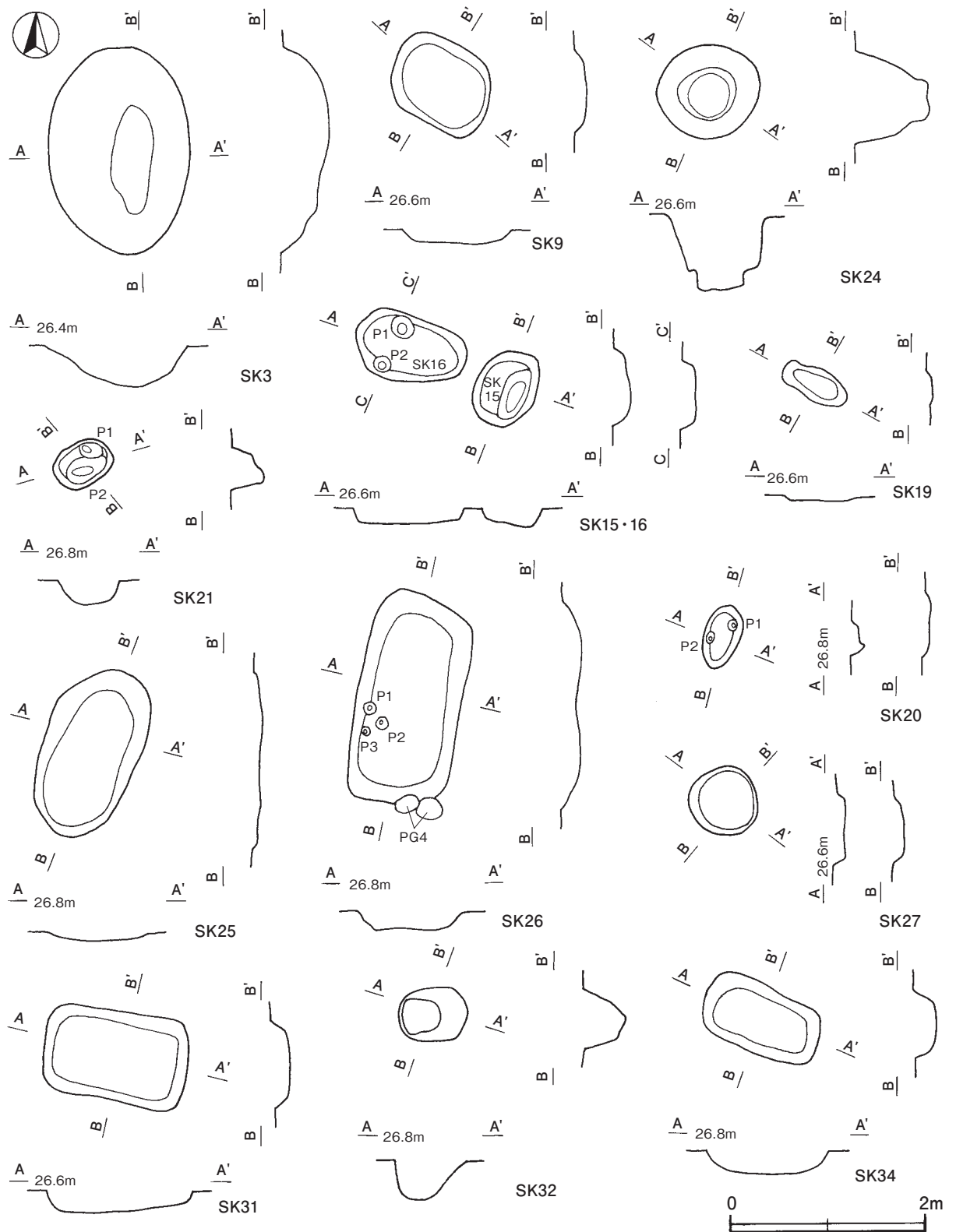
5 その他の遺構と遺物

時期不明の土坑377基を検出した。以下，実測図及び一覧表で示す。そのうち，28基の長方形土坑は，形状と，堆積状況，掘削位置から芋穴とも想定されるが，明確ではない。

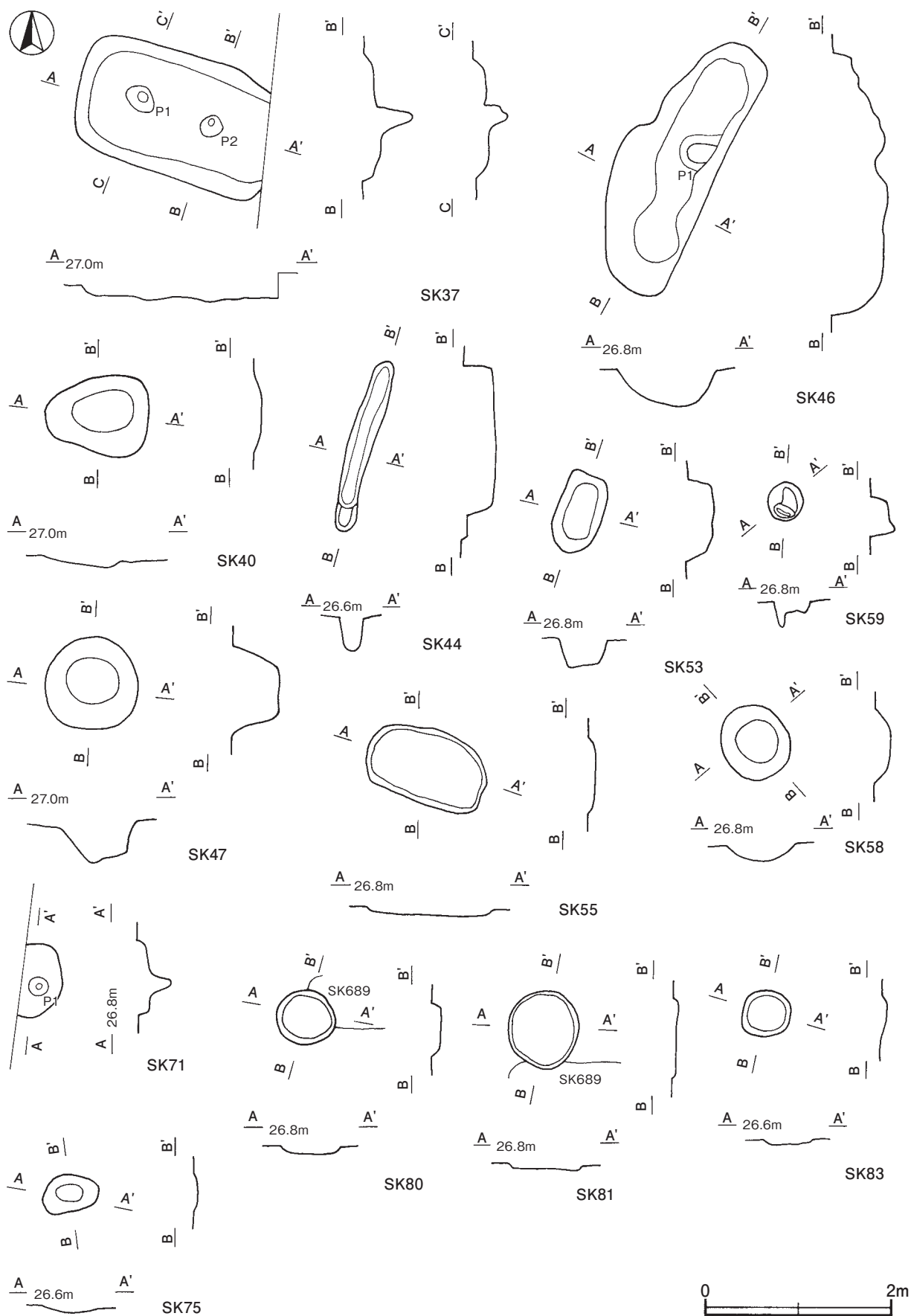
表35 時期不明土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長軸 (径) × 短軸 (径) (m)							
3	I 11a1	N - 0°	楕円形	2.14 × 1.43	44	緩斜	皿状	人為	—		
9	H 10j6	N - 58° - W	隅丸長方形	1.08 × 0.85	12	緩斜	平坦	人為	—		
15	H 10i4	N - 20° - E	楕円形	0.81 × 0.61	20	外傾	皿状	自然	—		
16	H 10i3	N - 70° - W	楕円形	1.15 × 0.70	15	外傾	平坦	人為	—		
19	H 10h5	N - 62° - W	楕円形	0.82 × 0.34	5	緩斜	平坦	自然	—		
20	H 10e5	N - 14° - E	楕円形	0.68 × 0.37	6	緩斜	平坦	人為	—		
21	H 10f4	N - 57° - E	楕円形	0.53 × 0.43	34	外傾	皿状	人為	—		
24	H 10b2	—	円形	0.99 × 0.98	74	外傾	平坦	人為	—		
25	H 10b1	N - 22° - E	楕円形	1.81 × 1.02	7	緩斜	平坦	人為	—		
26	H 10b1	N - 12° - E	隅丸長方形	2.14 × 1.07	18	緩斜	平坦	人為	—	本跡→PG4	
27	H 9a0	—	円形	0.72 × 0.70	11	外傾	平坦	人為	—		
31	H 10c1	N - 80° - W	隅丸長方形	1.50 × 0.80	21	緩斜	平坦	人為	—		
32	H 10e3	N - 76° - E	楕円形	0.72 × 0.60	43	外傾	皿状	人為	—		
34	H 9i0	N - 68° - W	隅丸長方形	1.27 × 0.70	24	緩斜	平坦	人為	—		
37	H 9b0	N - 72° - W	隅丸長方形	(2.14) × 1.36	18	外傾	平坦	人為	—		
40	G 9i1	N - 90°	楕円形	1.11 × 0.87	7	緩斜	皿状	人為	—		
44	H 10b2	N - 14° - E	長楕円形	1.88 × 0.27	33	外傾	平坦	人為	—		
46	H 9e5	N - 27° - E	不定形	2.38 × 1.10	55	外傾	平坦	人為	—		
47	G 9i1	—	円形	1.00 × 0.99	50	外傾	平坦	人為	—		
53	H 9a8	N - 17° - E	楕円形	0.88 × 0.52	28	外傾	平坦	人為	—		
55	H 9d8	N - 73° - W	楕円形	1.33 × 0.80	9	緩斜	平坦	自然	—		
58	H 9d4	—	円形	0.80 × 0.74	16	緩斜	皿状	人為	—		
59	H 9d4	—	円形	0.39 × 0.38	18	外傾	平坦	人為	—		
71	H 9a7	N - 28° - E	[楕円形]	(0.83) × (0.45)	45	外傾	平坦	人為	—		
75	H 9d9	N - 90°	楕円形	0.59 × 0.42	4	緩斜	皿状	自然	—		

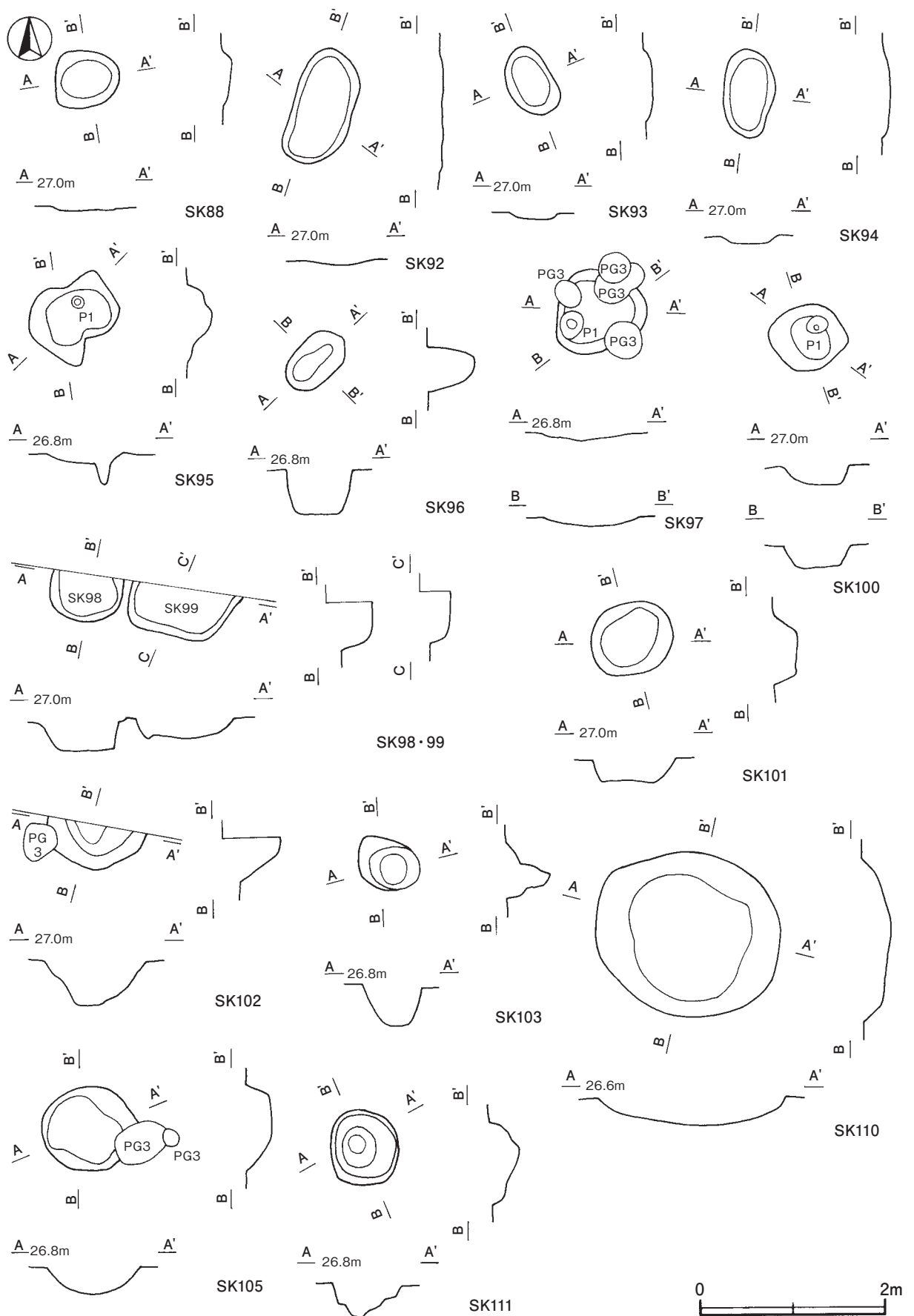




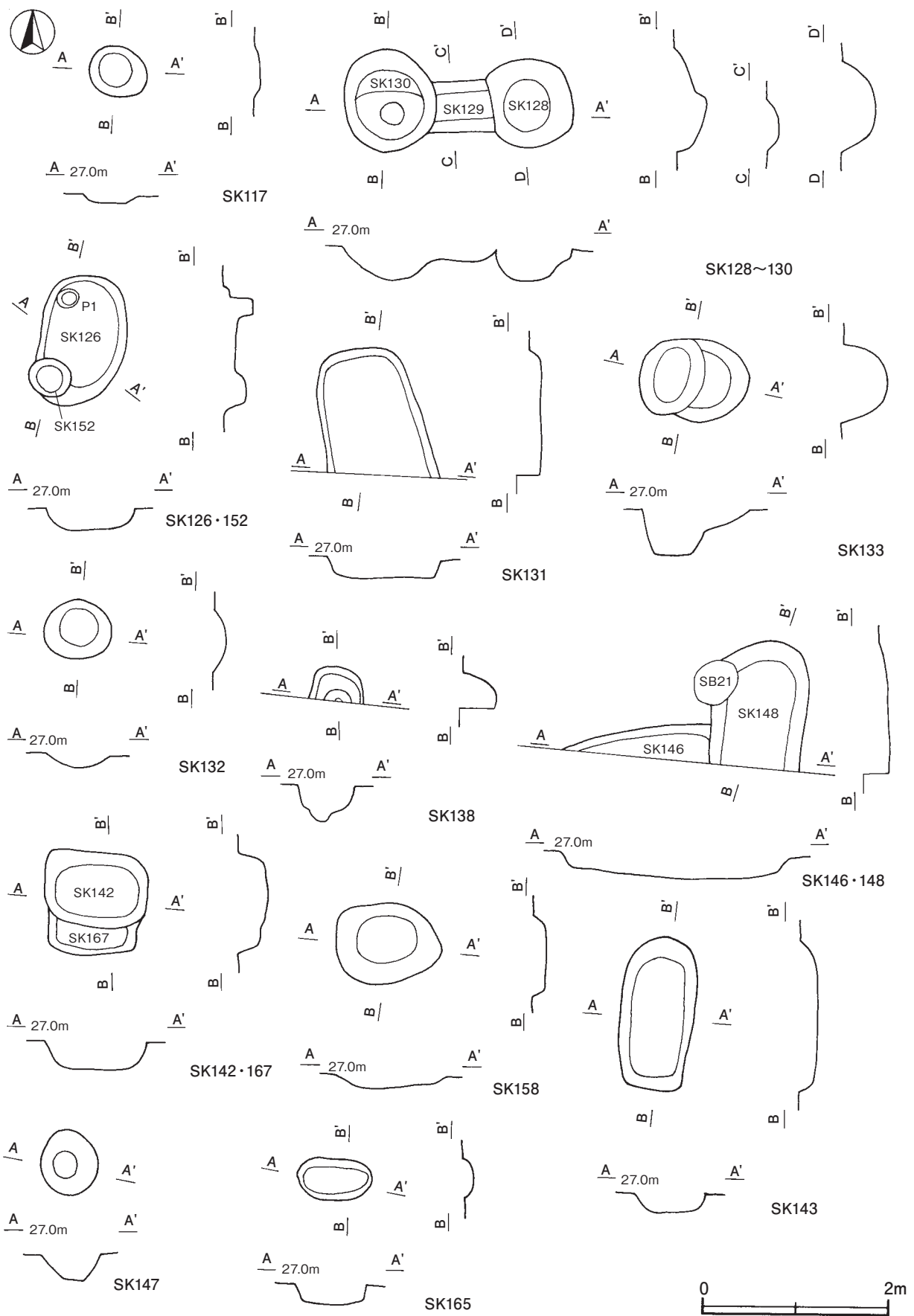
第263図 時期不明土坑実測図 (1)



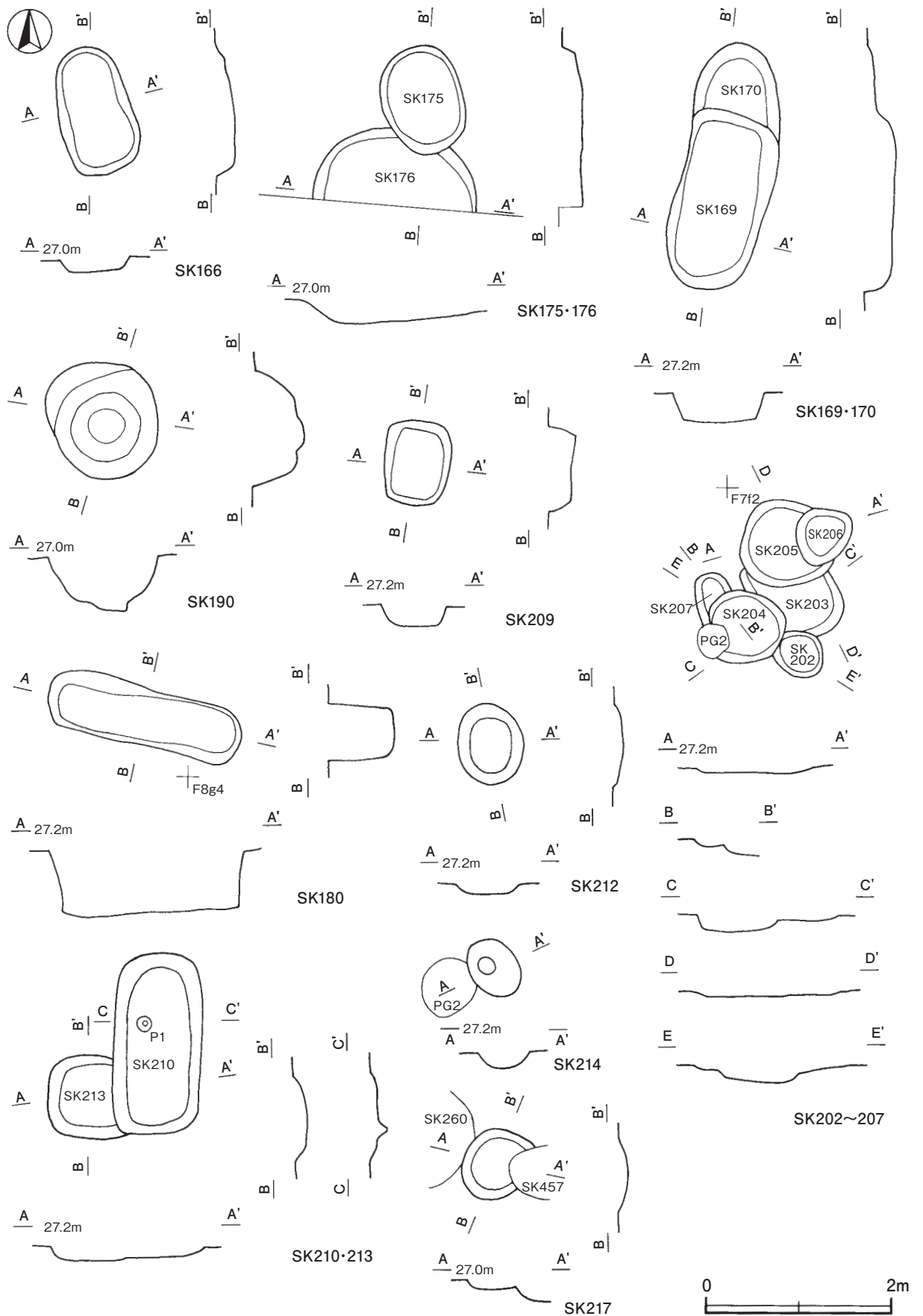
第264図 時期不明土坑実測図(2)



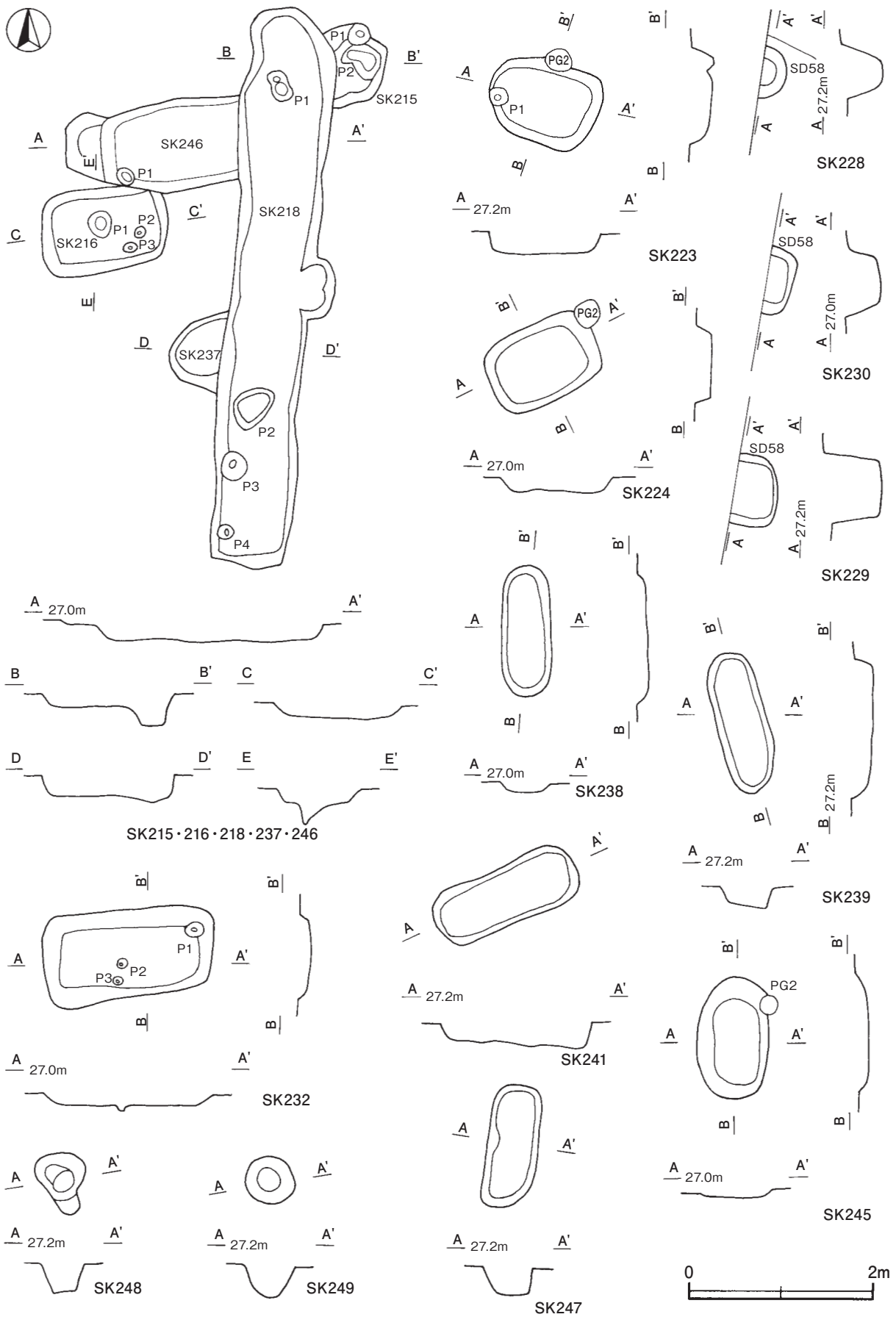
第265図 時期不明土坑実測図 (3)



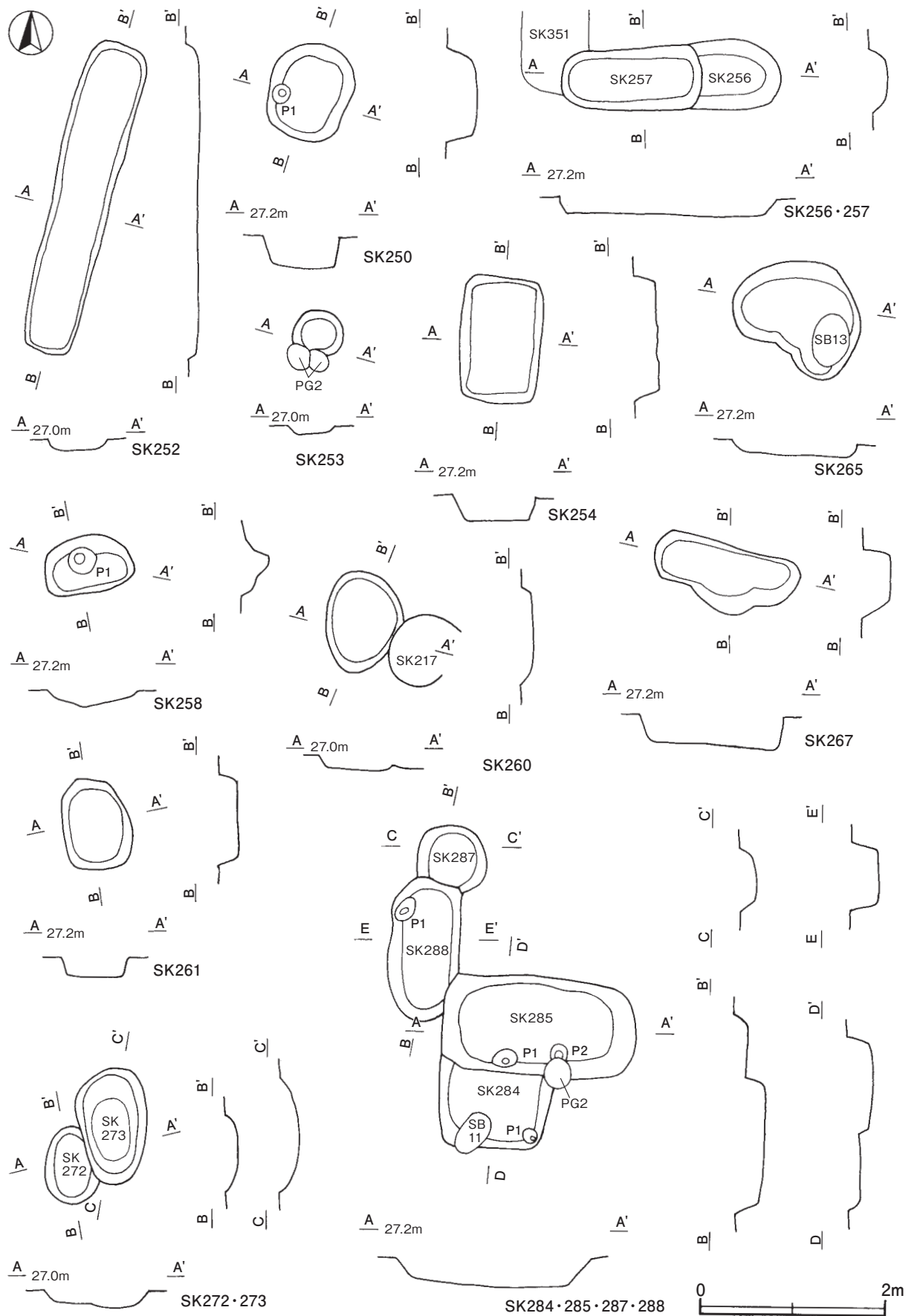
第266図 時期不明土坑実測図(4)



第267図 時期不明土坑実測図 (5)

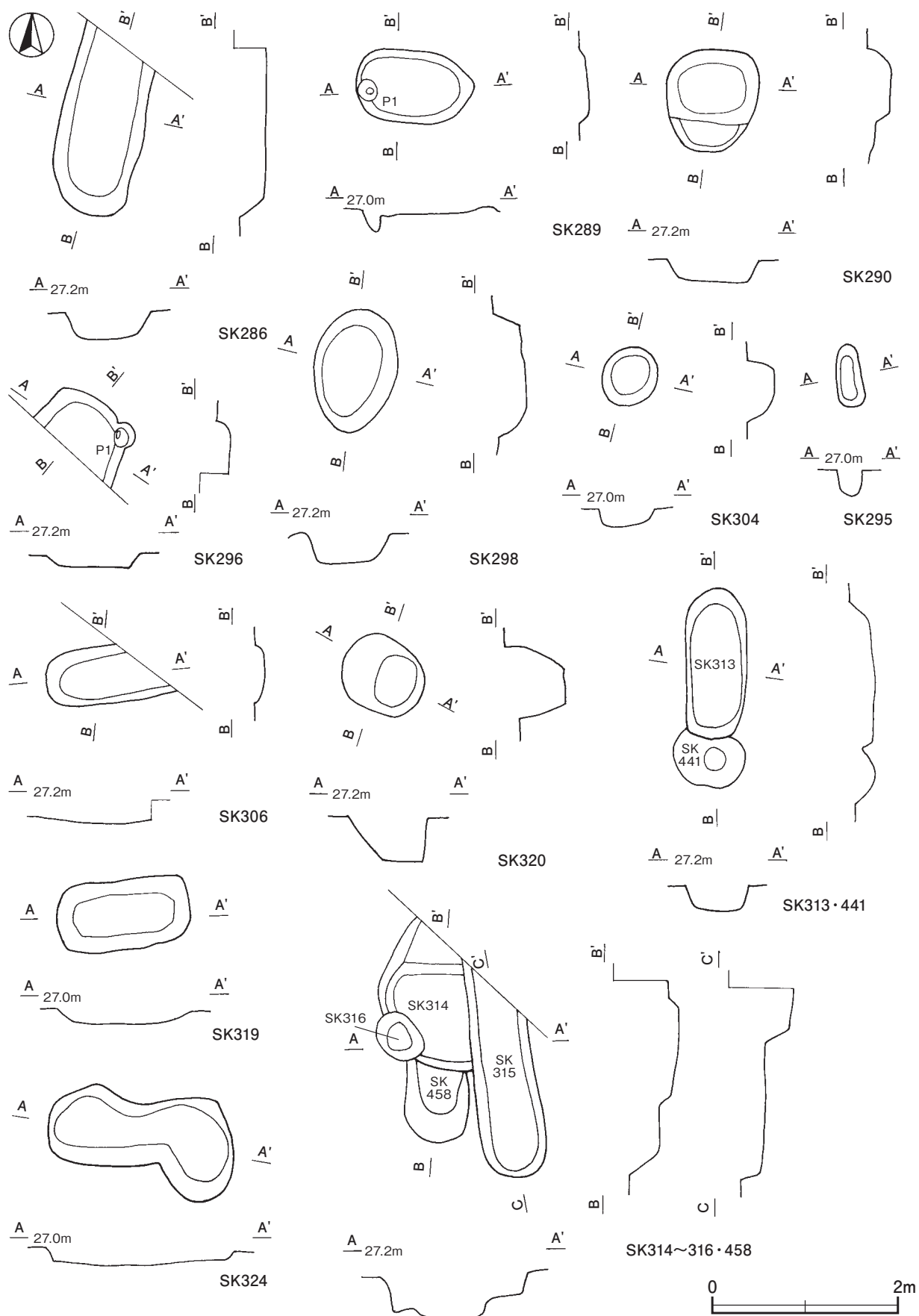


第268图 时期不明土坑实测图(6)

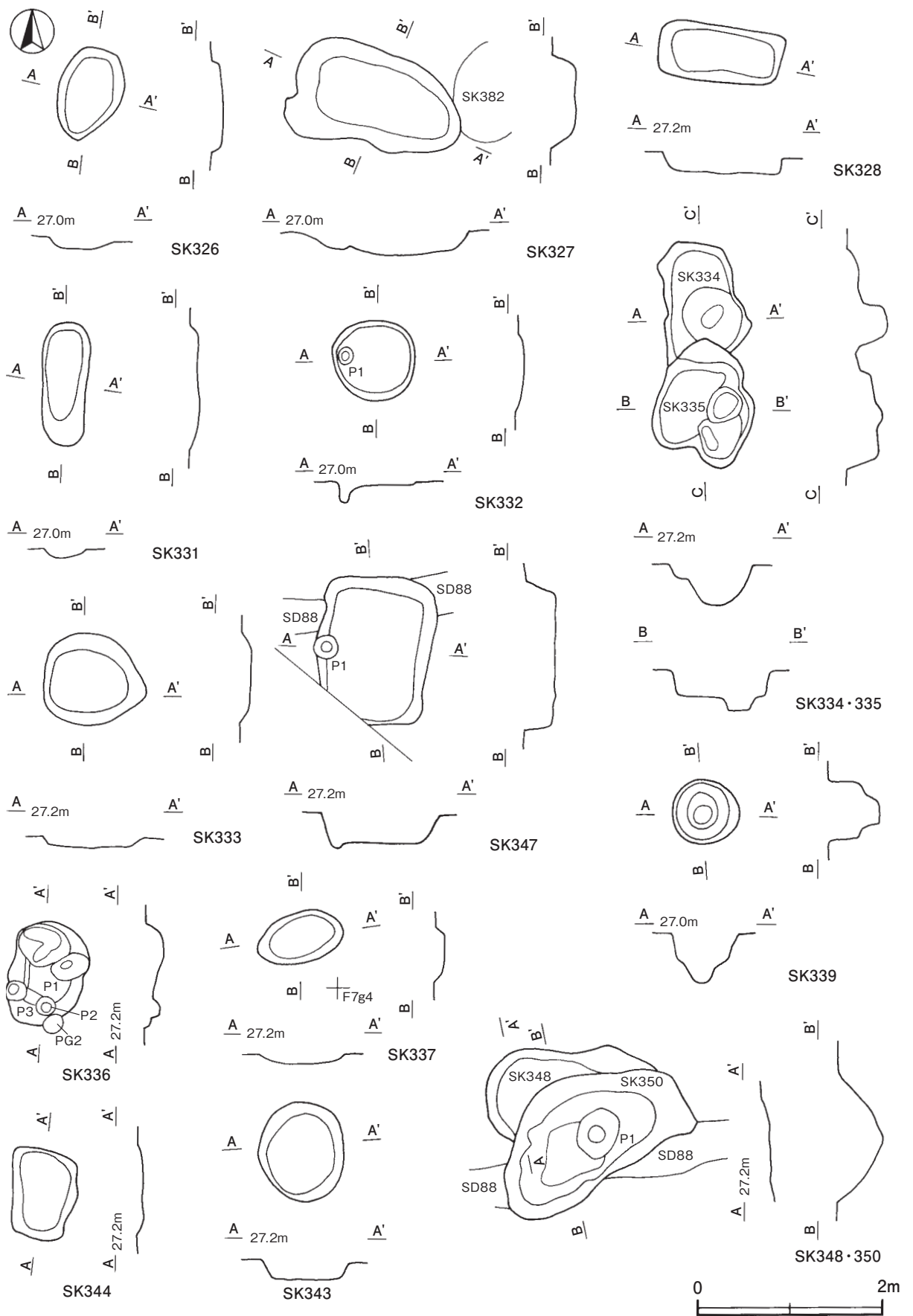


第269図 時期不明土坑実測図 (7)

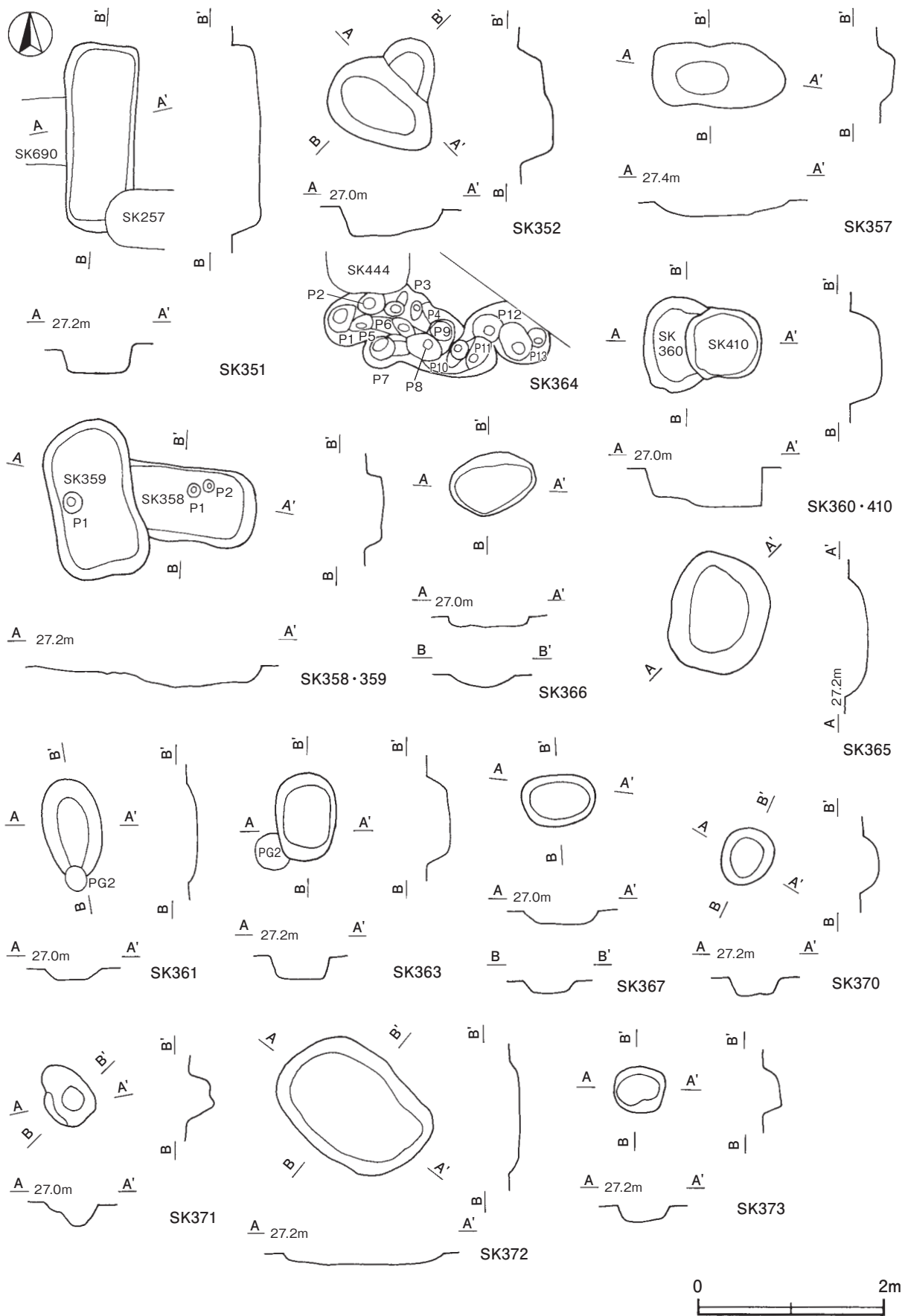




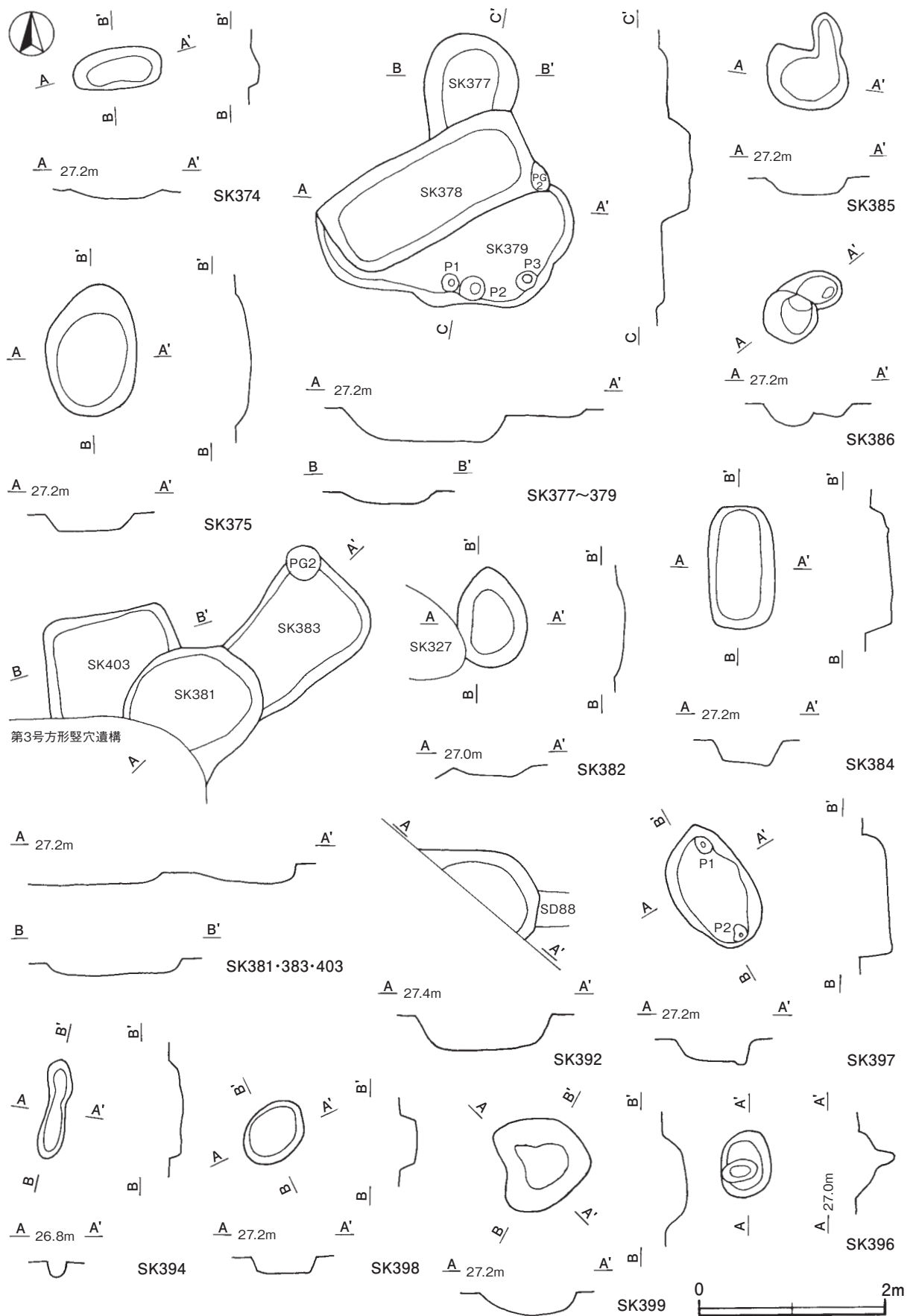
第270図 時期不明土坑実測図 (8)



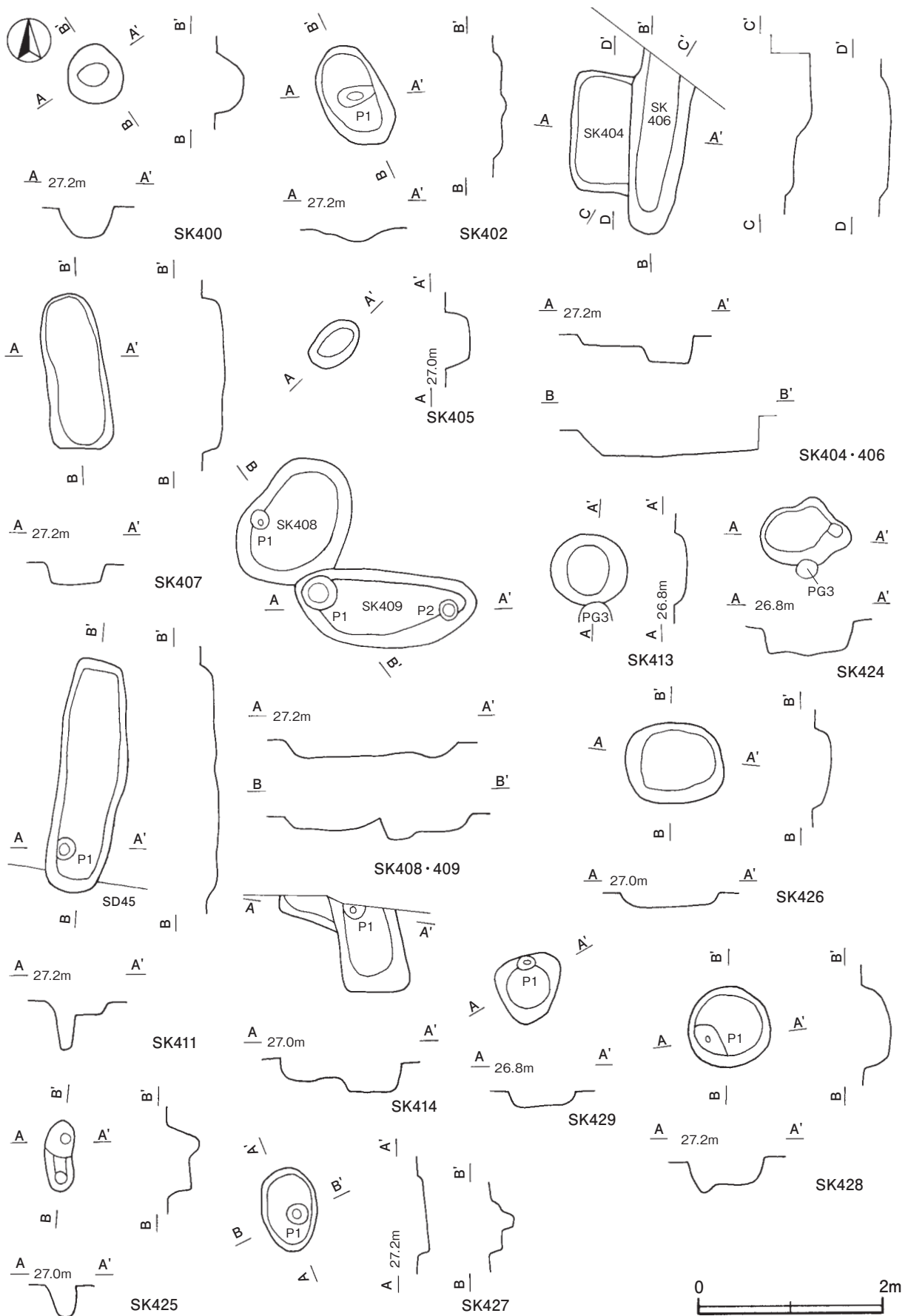
第271図 時期不明土坑実測図 (9)



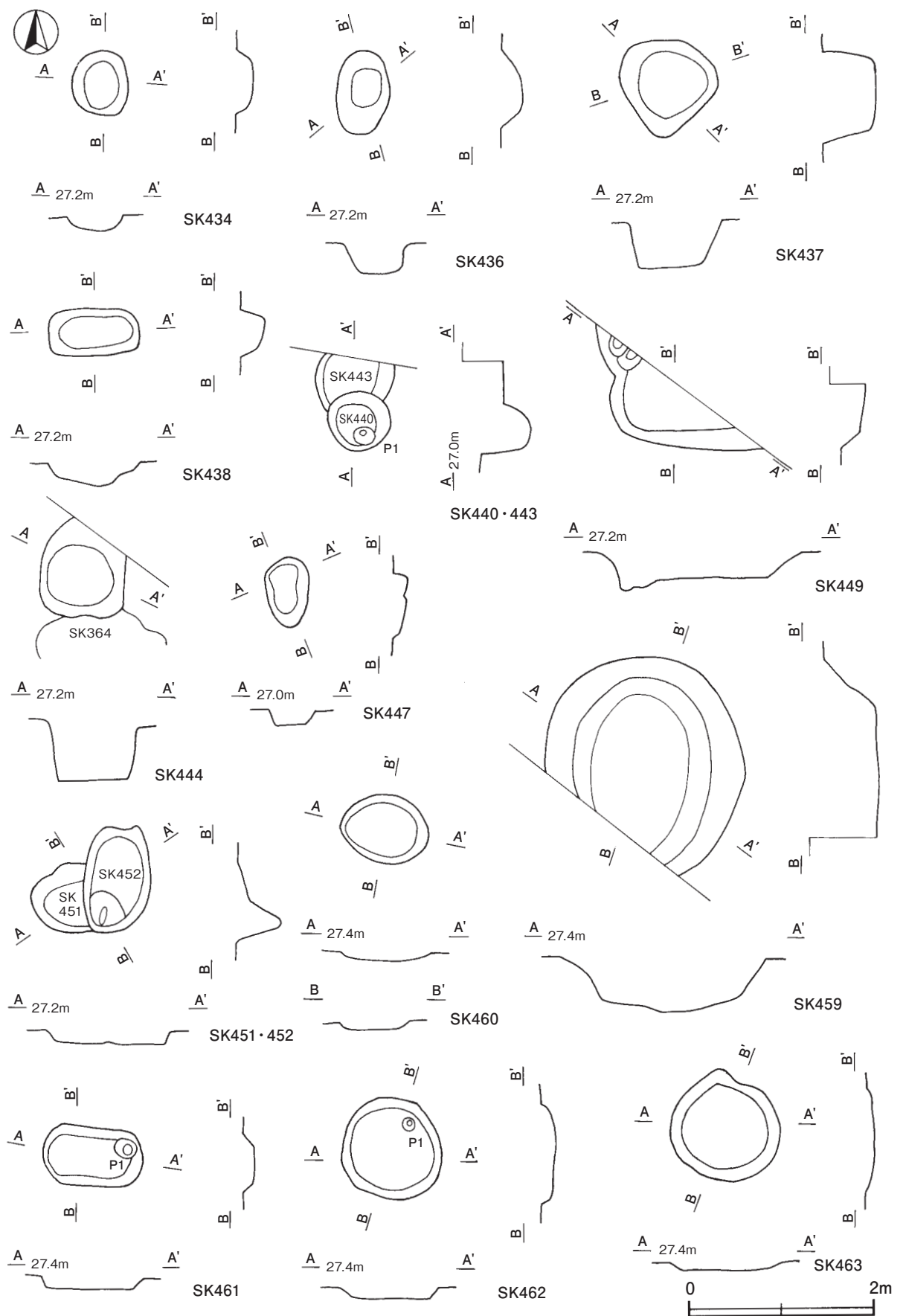
第272図 時期不明土坑実測図 (10)



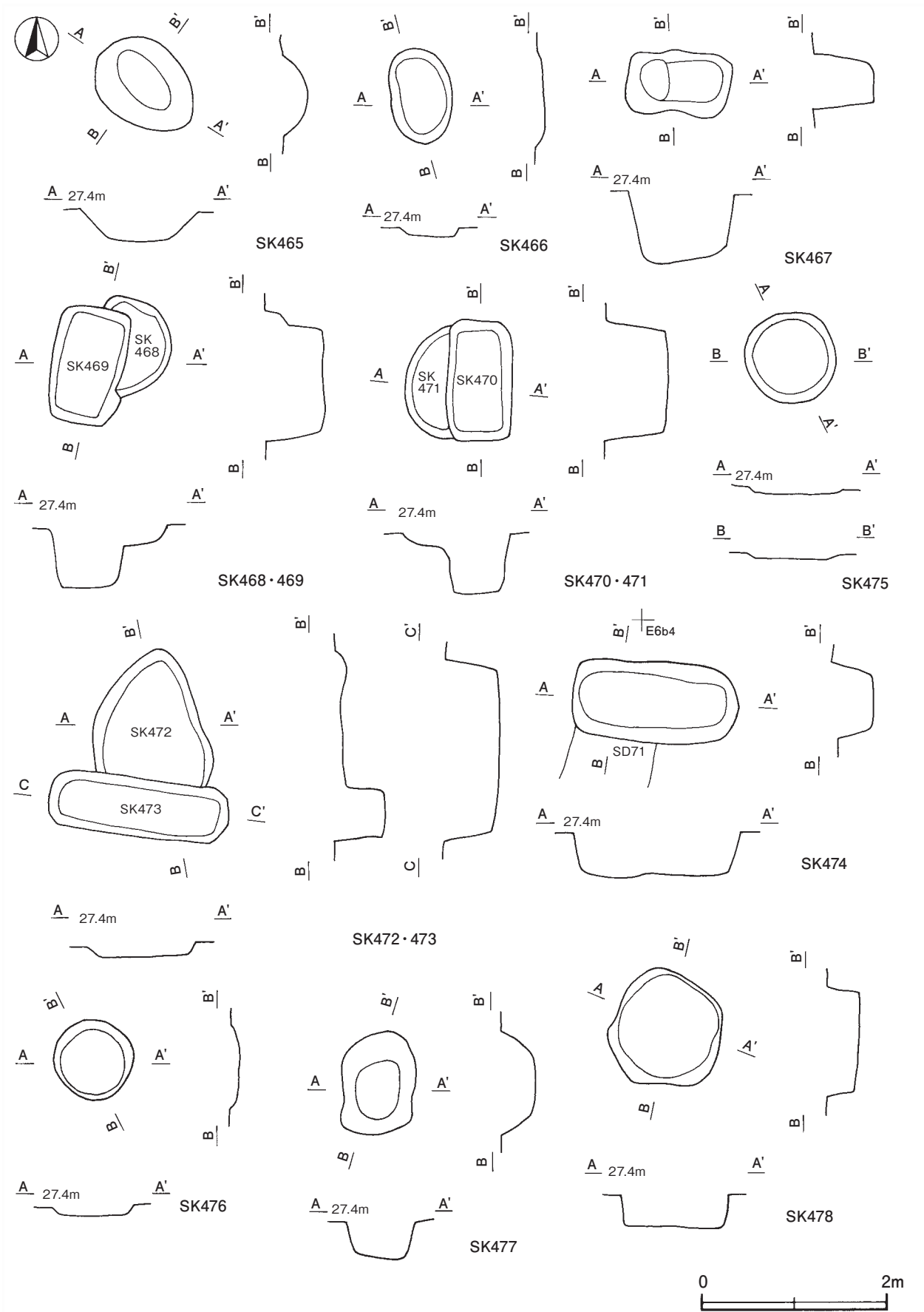
第273図 時期不明土坑実測図 (11)



第274图 时期不明土坑实测图 (12)

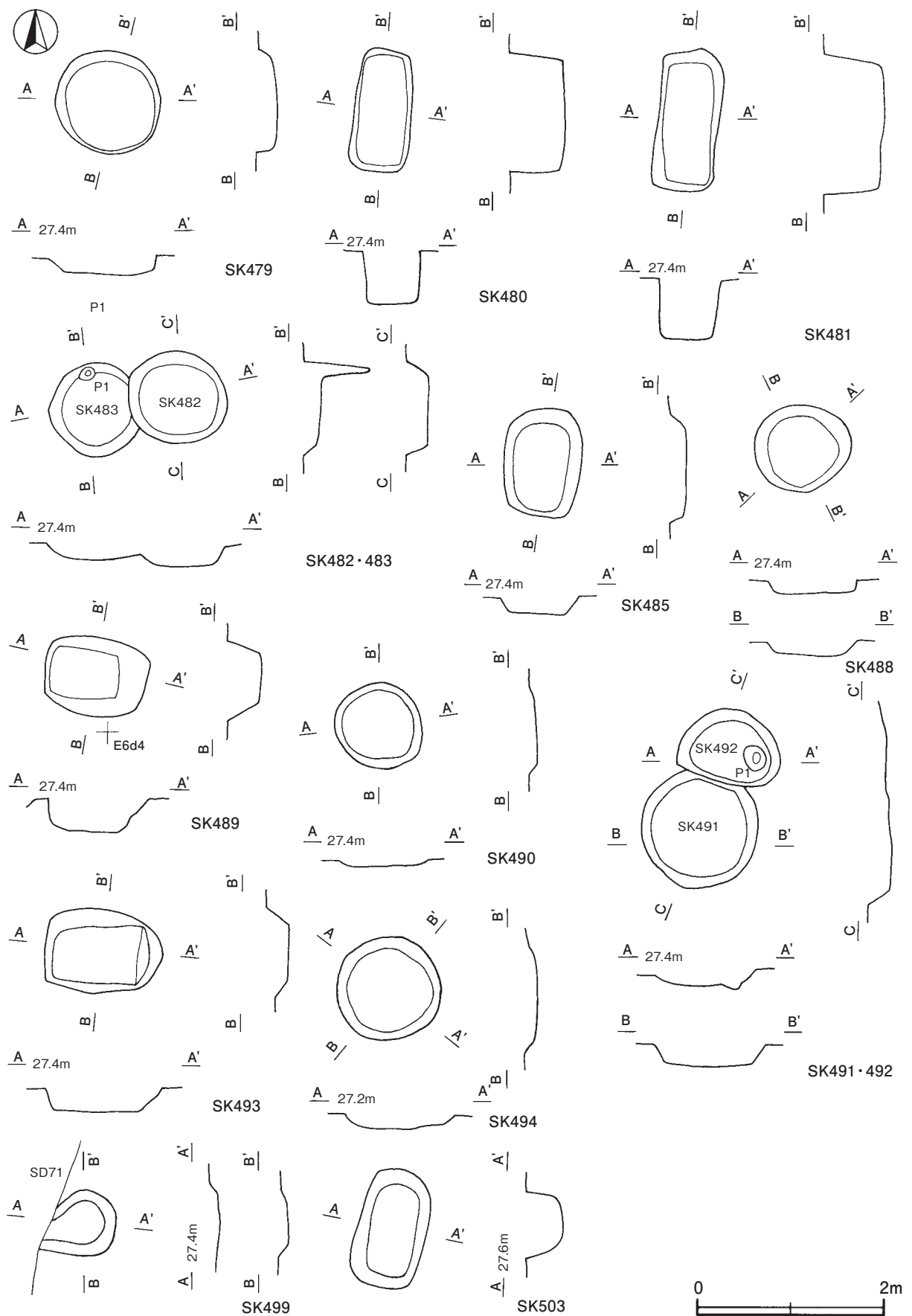


第275図 時期不明土坑実測図 (13)

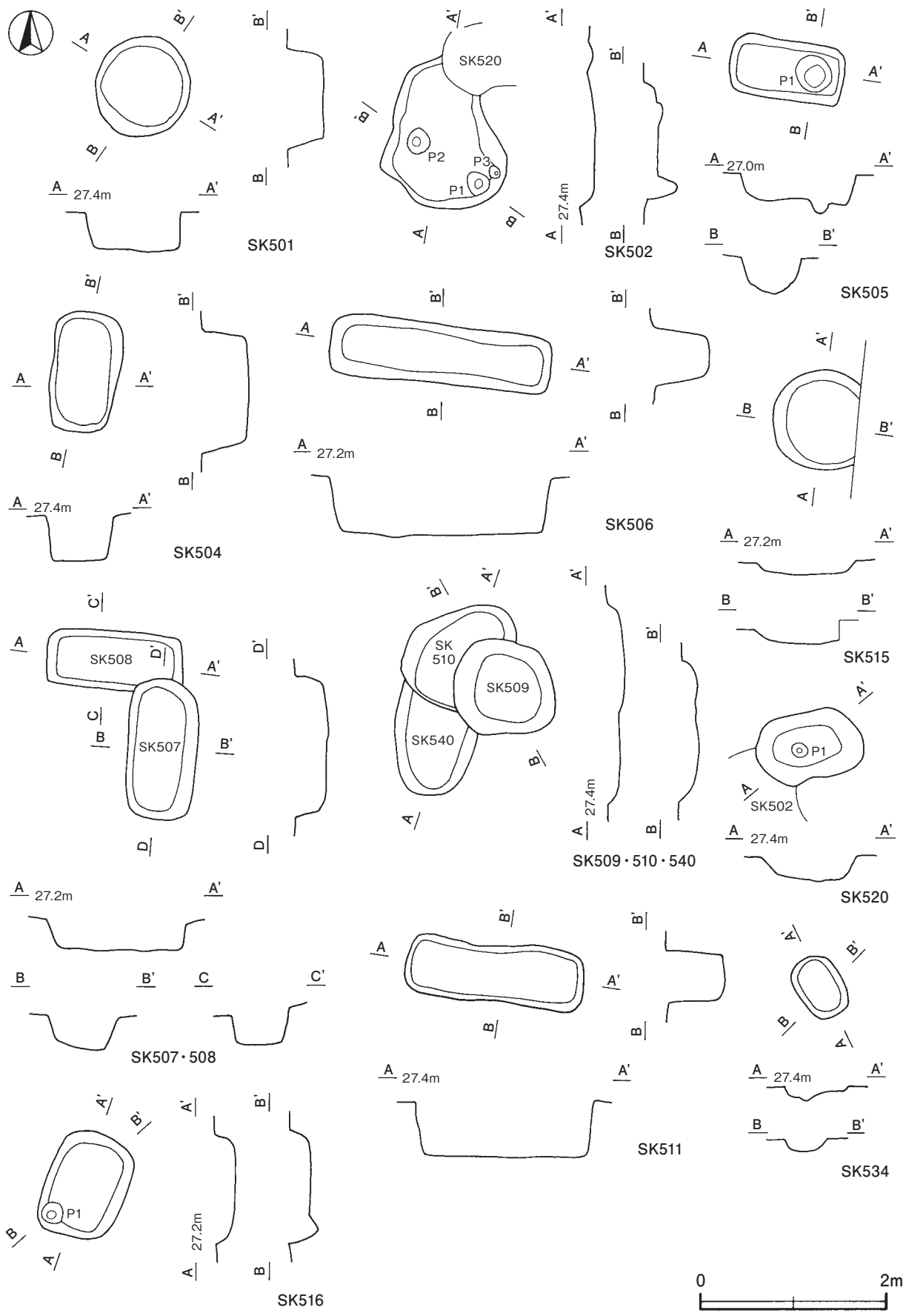


第276図 時期不明土坑実測図 (14)

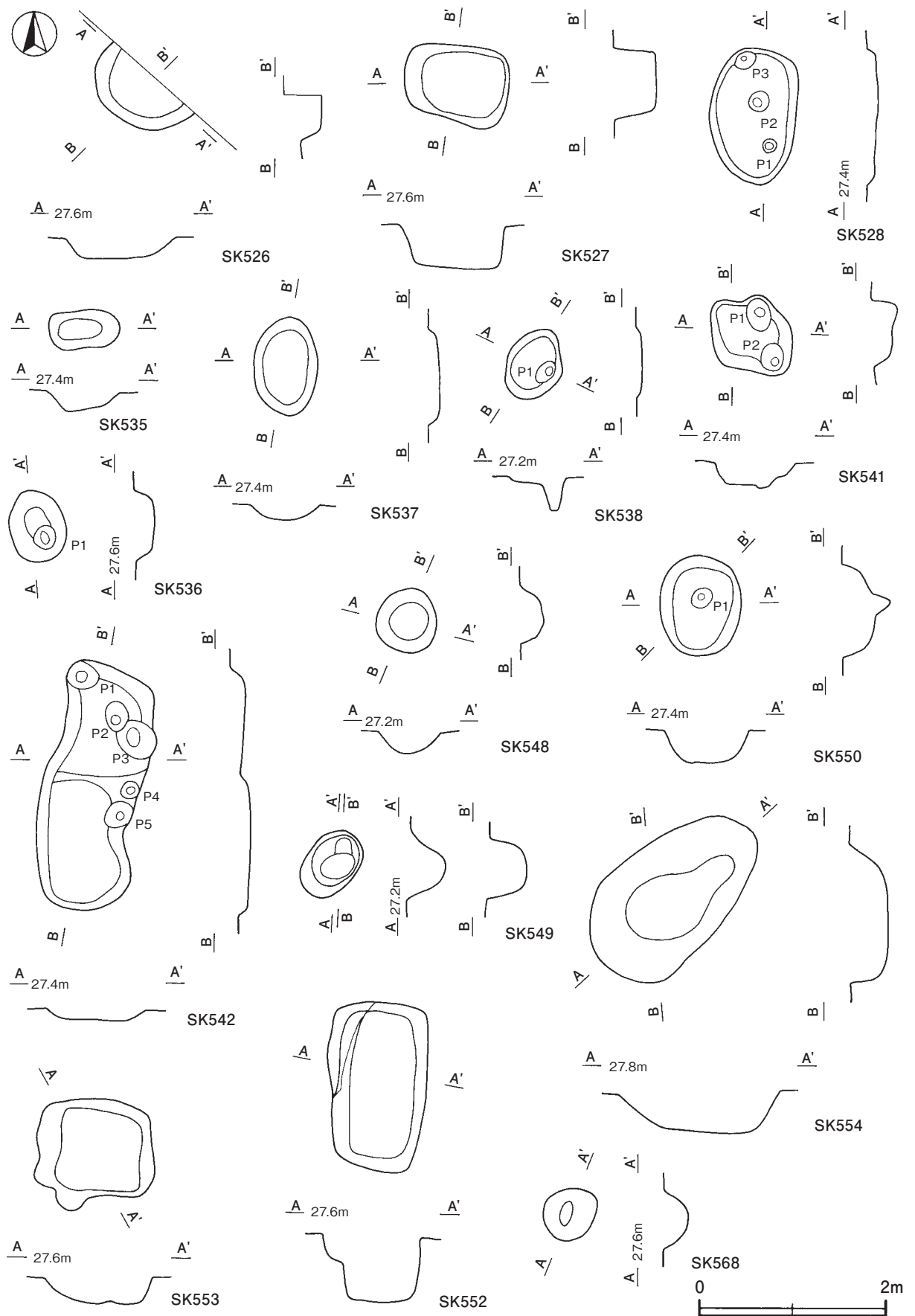




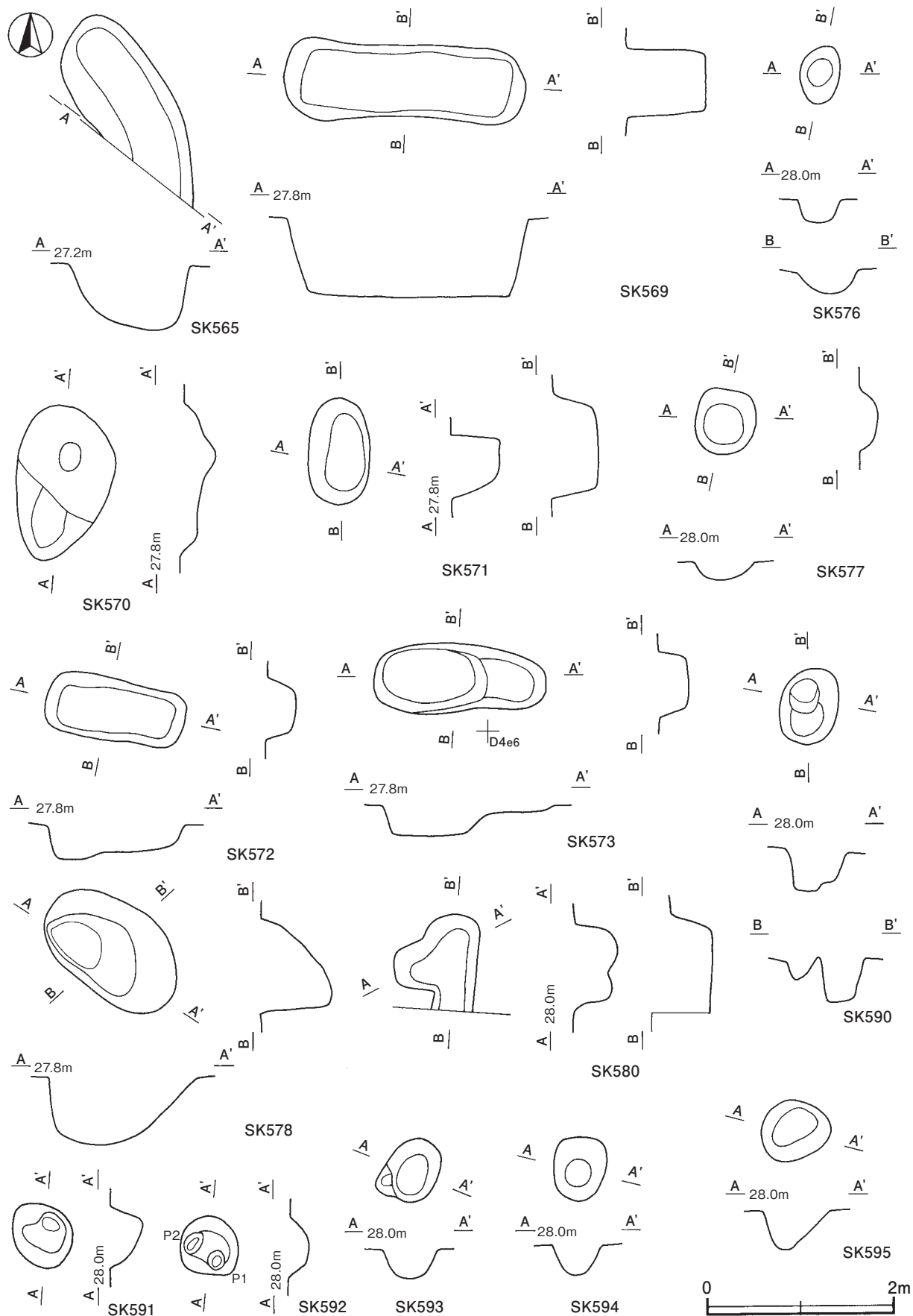
第277図 時期不明土坑実測図 (15)



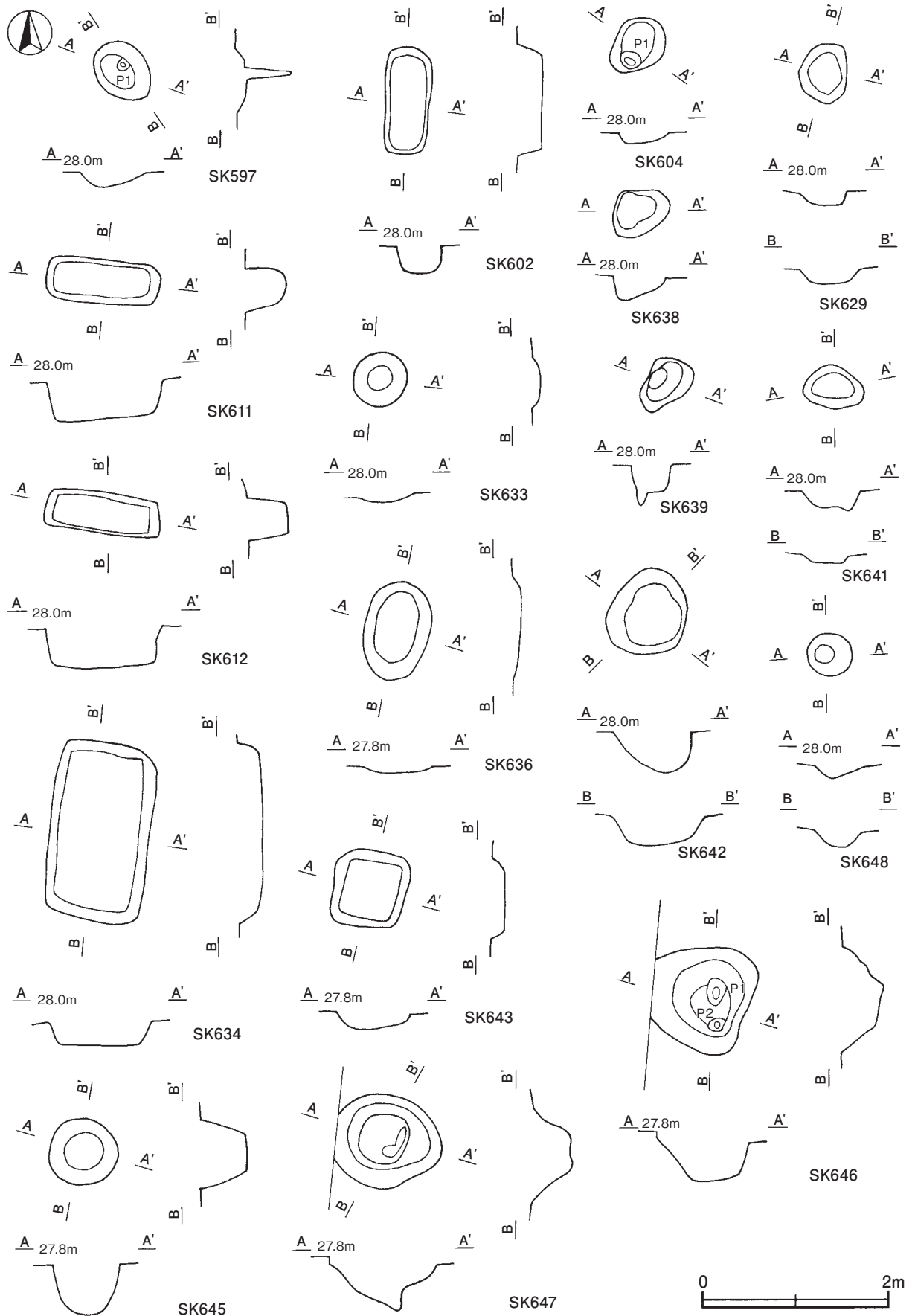
第278図 時期不明土坑実測図 (16)



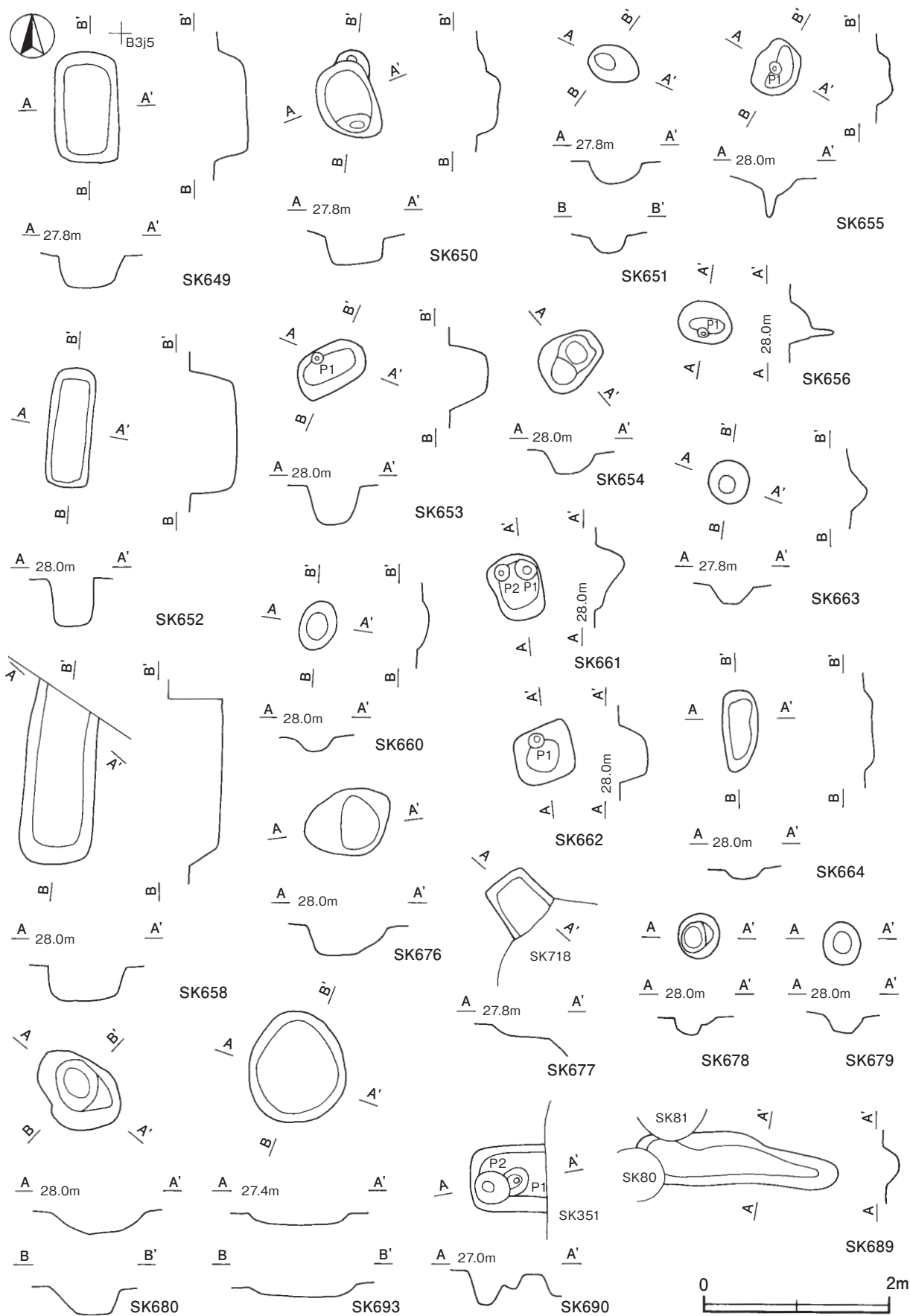
第279図 時期不明土坑実測図 (17)



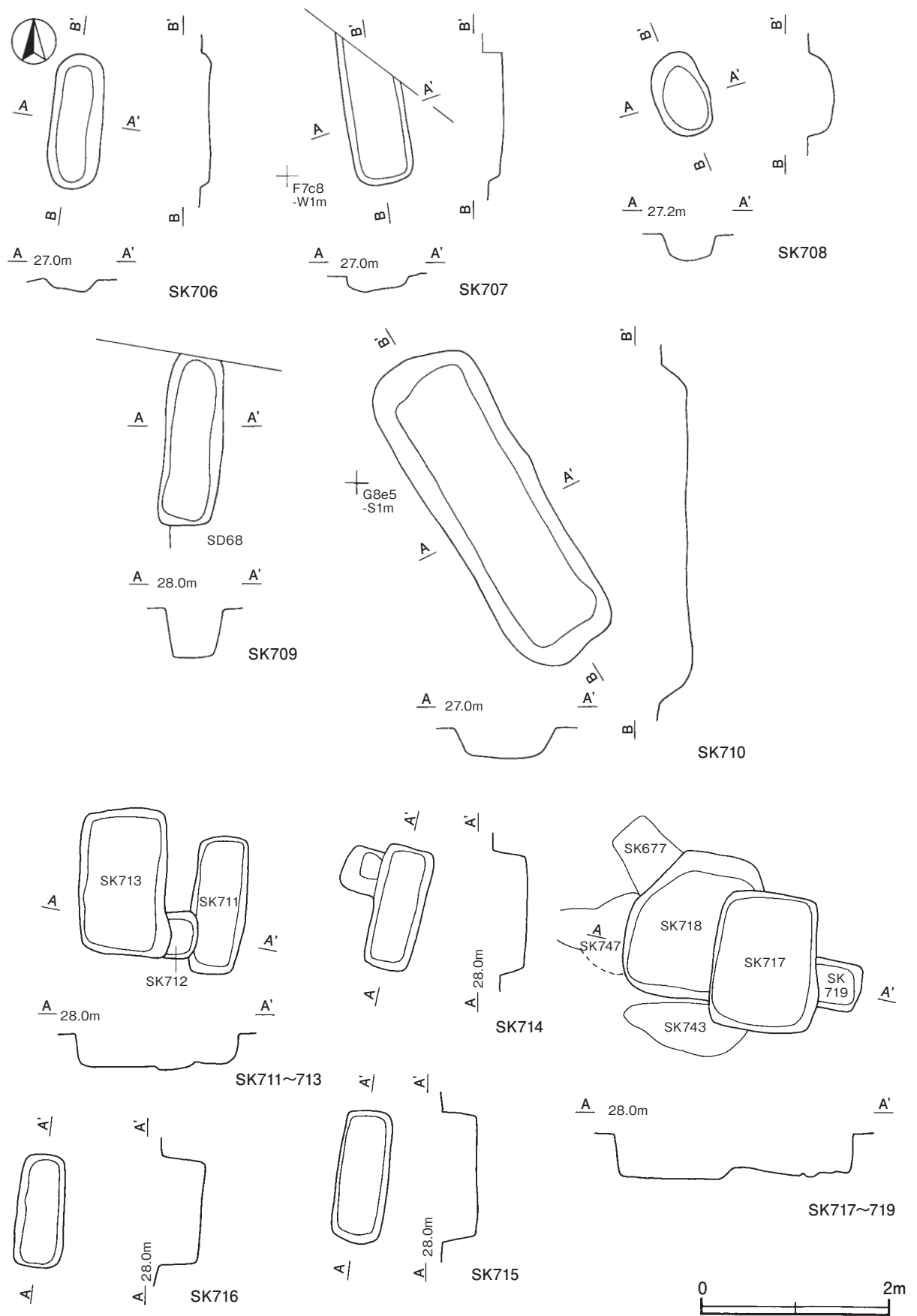
第280図 時期不明土坑実測図 (18)



第281図 時期不明土坑実測図 (19)

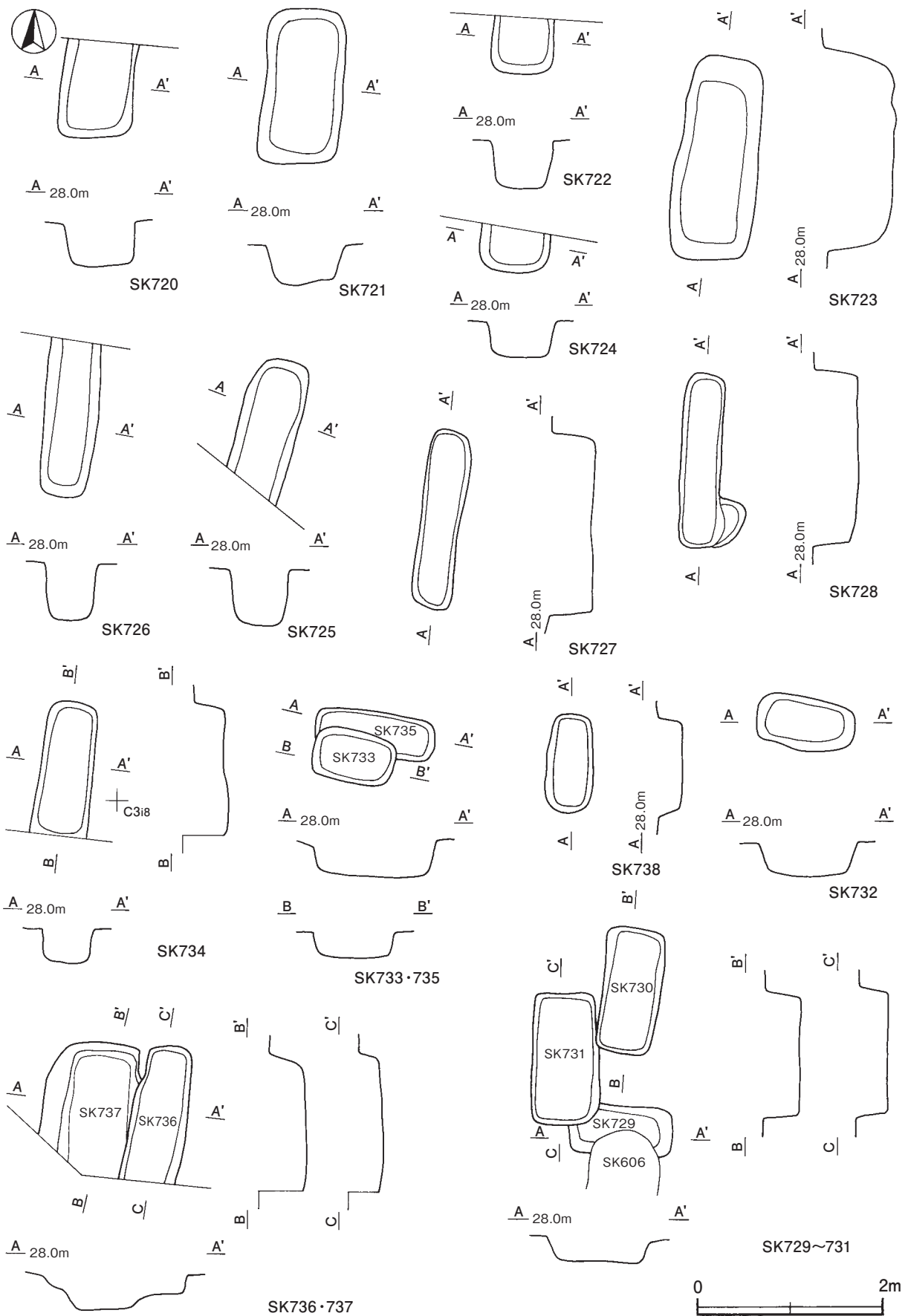


第282图 时期不明土坑实测图 (20)

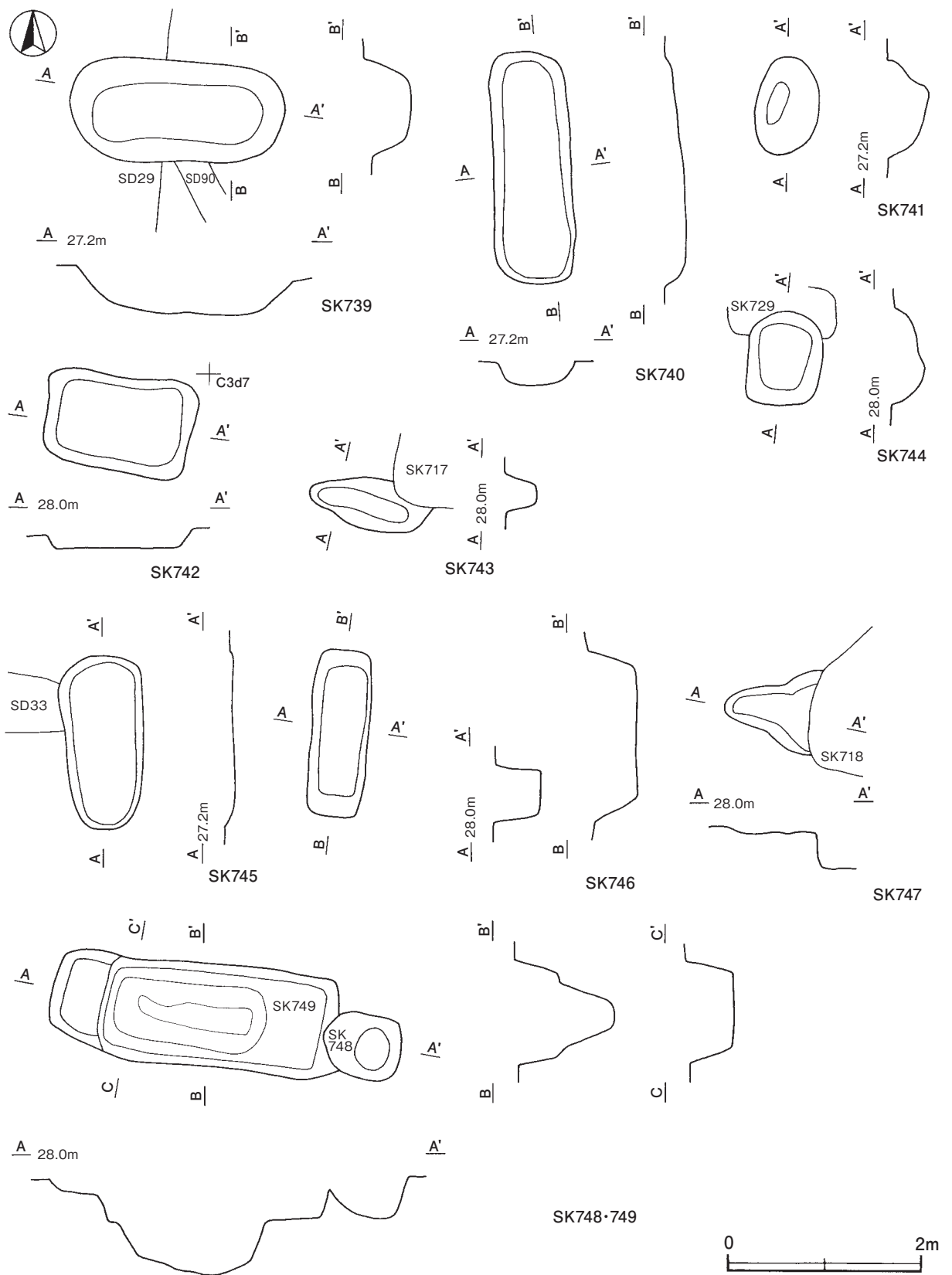


第283図 時期不明土坑実測図 (21)





第284図 時期不明土坑実測図 (22)



第285図 時期不明土坑実測図 (23)

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径)×短軸(径)(m)						重複関係(古→新)
80	H 9d8	—	円形	0.63 × 0.60	10	外傾	平坦	自然	—	SK689→本跡
81	H 9d8	—	円形	0.85 × 0.79	5	外傾	平坦	人為	—	SK689→本跡
83	H 9d0	—	円形	0.51 × 0.50	5	緩斜	皿状	自然	—	
88	G 9i2	—	円形	0.69 × 0.63	9	緩斜	平坦	自然	—	
92	G 8i0	N-19°-E	楕円形	1.28 × 0.67	5	緩斜	皿状	自然	—	
93	G 8i0	N-20°-W	楕円形	0.75 × 0.51	5	緩斜	皿状	自然	—	
94	G 8i0	N-7°-E	楕円形	0.92 × 0.56	8	緩斜	皿状	人為	—	
95	G 8i9	N-44°-E	不定形	0.97 × 0.82	26	緩斜	皿状	人為	—	
96	G 8i9	N-47°-E	楕円形	0.74 × 0.46	52	外傾	平坦	人為	—	
97	G 8i9	N-40°-E	不定形	1.01 × 0.92	9	緩斜	皿状	自然	—	本跡→PG3
98	G 8h0	—	[円形]	0.79 × (0.50)	33	外傾	平坦	人為	—	
99	G 8h0	—	—	1.18 × (0.54)	22	緩斜	皿状	自然	—	
100	G 8i0	—	円形	0.75 × 0.71	24	外傾	皿状	人為	—	
101	G 8h8	N-72°-E	楕円形	0.92 × 0.78	25	外傾	平坦	人為	—	
102	G 8h9	—	[円形]	1.06 × (0.48)	43	緩斜	皿状	人為	—	本跡→PG3
103	G 9i2	N-44°-W	楕円形	0.83 × 0.57	44	外傾	皿状	人為	—	
105	G 8j9	—	円形	0.97 × 0.95	28	緩斜	皿状	自然	—	本跡→PG3
110	H10e1	N-59°-W	楕円形	2.12 × 1.81	30	緩斜	皿状	自然	—	
111	H 9e9	N-22°-W	楕円形	0.86 × 0.75	31	外傾	皿状	自然	—	
117	G 9j2	N-70°-W	楕円形	0.63 × 0.53	8	緩斜	皿状	自然	—	
126	G 9e2	N-19°-E	楕円形	1.47 × 0.97	27	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK152
128	G 9e1	—	[円形]	0.97 × (0.87)	36	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SK129
129	G 9e1	N-90°	[長方形]	(0.62) × 0.54	14	緩斜	皿状	人為	—	SK128→本跡→SK130
130	G 9e1	N-0°	楕円形	1.13 × 1.00	32	緩斜	皿状	人為	—	SK129→本跡
131	G 9f1	N-11°-W	[長方形]	(1.39) × 1.14	15	外傾	平坦	人為	—	
132	G 9f1	—	円形	0.72 × 0.66	15	緩斜	皿状	人為	—	
133	G 9f2	N-79°-W	楕円形	1.167 × 0.88	50	外傾	皿状	人為	—	
138	G 8f0	—	[円形]	0.58 × (0.37)	37	外傾	皿状	人為	—	
142	G 8f9	N-84°-W	隅丸長方形	1.14 × 0.80	30	垂直	皿状	人為	—	SK167→本跡
143	G 8e9	N-6°-E	楕円形	1.65 × 0.79	20	外傾	皿状	人為	—	
146	G 9f1	—	—	(1.53) × (0.40)	29	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK148
147	G 8d9	—	円形	0.69 × 0.63	30	外傾・緩斜	皿状	—	—	
148	G 9f1	N-9°-E	[隅丸長方形]	(1.38) × 1.01	22	外傾	平坦	人為	—	SK146→本跡→SB21
152	G 9e2	—	円形	0.45 × 0.41	35	外傾	皿状	—	—	SK126→本跡
158	G 8d6	N-83°-W	楕円形	1.17 × 0.82	15	緩斜	平坦	人為	—	
165	G 8f8	N-90°	楕円形	0.79 × 0.44	23	外傾	皿状	自然	—	
166	G 8e5	N-16°-W	楕円形	1.38 × 0.81	15	外傾	皿状	人為	—	
167	G 8f9	—	—	0.96 × (0.33)	22	外傾	平坦	—	—	本跡→SK142
169	G 8e6	N-15°-E	長楕円形	1.42 × 1.02	30	外傾	平坦	人為	—	SK170→本跡
170	G 8d6	N-8°-E	[長楕円形]	(0.76) × 0.91	10	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK169
175	G 8f7	N-18°-W	楕円形	1.15 × 0.88	23	緩斜	平坦	人為	—	SK176→本跡
176	G 8f7	—	—	(1.77) × 0.80	5	—	平坦	自然	—	本跡→SK175
180	F 8i3	N-77°-W	隅丸長方形	2.10 × 0.65	72	垂直	平坦	人為	—	
190	G 8e7	N-41°-W	楕円形	1.33 × 1.18	59	外傾	皿状	人為	—	
202	F 7f2	N-57°-W	[楕円形]	(0.52) × 0.49	7	緩斜	皿状	—	—	SK203→本跡→SK204
203	F 7f2	N-27°-W	[隅丸長方形]	(0.67) × (0.60)	4	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK202・204・205
204	F 7f2	—	円形	0.86 × 0.79	17	緩斜	皿状	人為	—	SK202・203・207→本跡→PG2
205	F 7f2	—	円形	1.02 × 0.97	6	緩斜	平坦	自然	—	SK203→本跡→SK206
206	F 7f2	N-60°-E	楕円形	0.65 × 0.57	8	緩斜	皿状	自然	—	SK205→本跡
207	F 7f1	N-22°-W	[楕円形]	(0.50) × 0.41	7	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK204
209	F 7e2	N-10°-E	隅丸長方形	0.90 × 0.73	29	外傾	平坦	人為	—	
210	F 7e2	N-0°	隅丸長方形	1.94 × 0.96	10	緩斜	平坦	人為	—	SK213→本跡
212	F 7e2	N-10°-W	楕円形	0.90 × 0.71	10	緩斜	皿状	自然	—	
213	F 7e2	N-0°	[隅丸長方形]	0.91 × (0.70)	14	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SK210

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径)×短軸(径)(m)						重複関係(古→新)
214	F 7 c3	N-40°-W	楕円形	0.69 × 0.55	17	緩斜	皿状	人為	—	PG2→本跡
215	F 7 e4	N-42°-E	[楕円形]	[0.94] × 0.85	35	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK218
216	F 7 f3	N-83°-E	隅丸長方形	1.40 × 0.94	17	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK246
217	F 7 f5	N-22°-E	[楕円形]	0.80 × (0.50)	12	緩斜	皿状	自然	—	SK260→本跡→SK457
218	F 7 f4	N-6°-E	隅丸長方形	6.08 × 0.90	21	外傾	平坦	人為	—	SK215・237・246→本跡
223	F 7 e2	N-79°-W	隅丸長方形	1.20 × 0.90	23	外傾	平坦	人為	—	本跡→PG2
224	F 7 e4	N-63°-E	隅丸長方形	1.25 × 0.87	17	外傾	平坦	人為	—	本跡→PG2
228	F 7 e1	—	[円形]	0.58 × (0.28)	42	外傾	皿状	人為	—	SD58→本跡
229	F 7 f1	N-2°-W	[隅丸長方形]	0.80 × (0.50)	58	外傾	平坦	人為	土師質土器	SD58→本跡
230	F 7 e1	N-10°-E	[隅丸長方形]	0.76 × (0.30)	37	外傾	皿状	自然	—	SD58→本跡
232	F 7 f3	N-86°-E	隅丸長方形	1.89 × 1.00	15	外傾	平坦	人為	—	
237	F 7 f4	—	[楕円形]	0.87 × (0.54)	24	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK218
238	F 7 d3	N-0°	楕円形	1.42 × 0.55	10	緩斜	平坦	自然	—	
239	F 7 c5	N-13°-W	隅丸長方形	1.55 × 0.58	20	外傾	平坦	人為	—	
241	F 7 c5	N-65°-E	隅丸長方形	1.66 × 0.60	28	外傾	平坦	自然	—	
245	F 7 d4	N-3°-E	楕円形	1.32 × 0.78	9	緩斜	皿状	自然	—	本跡→PG2
246	F 7 e4	N-83°-E	[隅丸長方形]	(1.91) × 1.01	23	緩斜	平坦	人為	—	SK216→本跡→SK218
247	F 7 g4	N-7°-E	隅丸長方形	1.34 × 0.57	30	外傾	皿状	人為	—	
248	F 7 g4	N-24°-W	不定形	0.68 × 0.53	32	外傾	平坦	人為	—	
249	F 7 g4	—	円形	0.54 × 0.50	35	外傾	皿状	人為	—	
250	F 7 d5	N-17°-E	楕円形	1.03 × 0.89	34	外傾	皿状	人為	—	
252	F 7 d5	N-14°-E	長方形	3.41 × 0.71	16	外傾	平坦	自然	—	
253	F 7 e5	—	[円形]	0.56 × (0.43)	9	緩斜	皿状	自然	—	本跡→PG2
254	F 7 d7	N-4°-E	長方形	1.36 × 0.87	26	外傾	平坦	人為	—	
256	E 7 j4	N-90°	[楕円形]	(0.85) × 0.75	19	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK257
257	E 7 j4	N-90°	隅丸長方形	1.52 × 0.69	20	外傾	平坦	人為	—	SK256・351→本跡
258	F 7 g5	N-77°-E	楕円形	0.95 × 0.61	18	緩斜	皿状	自然	—	
260	F 7 f5	N-6°-E	楕円形	1.10 × 0.83	14	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SK217
261	F 7 f3	N-16°-W	楕円形	0.99 × 0.73	21	垂直	平坦	人為	—	
265	F 7 c3	N-69°-W	不定形	1.40 × 1.06	17	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SB13
267	E 7 j4	N-78°-W	不定形	1.58 × 0.71	30	外傾	平坦	人為	—	
272	F 7 f8	N-9°-W	[楕円形]	0.80 × (0.51)	15	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SK273
273	F 7 f8	N-6°-W	楕円形	1.24 × 0.76	20	緩斜	皿状	人為	—	SK272→本跡
284	F 7 d8	N-90°	[隅丸長方形]	1.22 × (0.83)	13	外傾	平坦	人為	—	本跡→SB11・SK285・PG2
285	F 7 d8	N-85°-W	隅丸長方形	2.10 × 1.07	32	緩斜	平坦	人為	—	SK284・288→本跡→PG2
286	F 7 d9	N-15°-E	[隅丸長方形]	(1.80) × 0.90	30	緩斜	平坦	人為	—	
287	F 7 d8	—	円形	0.80 × 0.75	18	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SK288
288	F 7 d8	N-0°	楕円形	1.53 × 0.76	30	外傾	平坦	人為	—	SK287→本跡→SK285
289	F 7 e9	N-84°-W	楕円形	1.38 × 0.80	9	緩斜	平坦	自然	—	
290	F 7 e0	N-8°-E	楕円形	1.11 × 1.00	25	外傾	皿状	人為	—	
295	F 7 e8	N-6°-W	隅丸長方形	0.65 × 0.29	27	外傾	皿状	人為	—	
296	F 7 g2	N-56°-W	[隅丸方形]	1.01 × (0.63)	17	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
298	F 7 f2	N-10°-E	楕円形	1.33 × 0.89	31	外傾	皿状	人為	—	
304	F 7 f9	N-24°-E	楕円形	1.82 × 0.71	29	外傾	皿状	人為	—	
306	F 7 d0	N-85°-E	[隅丸長方形]	(1.12) × 0.61	11	緩斜	皿状	自然	—	
313	F 7 e7	N-0°	楕円形	1.59 × 0.68	27	外傾	皿状	人為	—	SK441→本跡
314	F 7 d8	N-28°-E	[隅丸長方形]	1.43 × (1.18)	47	外傾	平坦	人為	—	SK458→本跡→SK315・316
315	F 7 d8	N-9°-W	[長方形]	(2.06) × 0.69	25	外傾	平坦	人為	—	SK314→本跡
316	F 7 d8	N-32°-W	楕円形	0.58 × 0.45	35	外傾	皿状	人為	—	SK314・458→本跡
319	F 7 i7	N-83°-E	隅丸長方形	1.45 × 0.74	20	緩斜	皿状	人為	—	
320	F 8 f2	N-64°-W	楕円形	0.90 × 0.77	48	垂直・緩斜	平坦	人為	—	
324	F 7 i7	N-80°-W	不定形	2.03 × 1.10	18	外傾	平坦	人為	—	
326	F 7 j7	N-26°-E	楕円形	1.01 × 0.70	9	緩斜	皿状	自然	—	
327	G 7 a7	N-72°-W	楕円形	1.90 × 1.11	26	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK382→本跡

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径)×短軸(径)(m)						重複関係(古→新)
328	F 7 j6	N-81°-W	隅丸長方形	1.30 × 0.63	20	外傾	平坦	人為	—	
331	F 7 f9	N-0°	隅丸長方形	1.33 × 0.51	9	緩斜	平坦	人為	—	
332	F 7 f0	—	円形	0.90 × 0.85	7	緩斜	平坦	人為	—	
333	F 7 e0	N-79°-W	楕円形	1.12 × 0.97	11	緩斜	平坦	人為	—	
334	F 8 f1	N-0°	[不整楕円形]	(1.05) × 0.86	45	外傾	皿状	人為	—	本跡→SK335
335	F 8 f1	N-8°-E	不定形	1.19 × 1.05	27	外傾	平坦	人為	—	SK334→本跡
336	F 8 f1	N-10°-E	楕円形	1.15 × 0.80	20	緩斜	凹凸	人為	—	本跡→PG2
337	F 7 f3	N-72°-E	楕円形	0.95 × 0.55	12	緩斜	皿状	自然	—	
339	F 7 f0	—	円形	0.73 × 0.67	56	垂直	皿状	自然	—	
343	F 7 i3	N-0°	楕円形	1.10 × 0.96	19	外傾	皿状	自然	—	
344	F 7 j6	N-6°-E	隅丸長方形	0.98 × 0.70	6	緩斜	皿状	自然	—	
347	F 7 i5	N-4°-E	隅丸長方形	1.60 × 1.28	35	外傾	平坦	人為	—	SD88→本跡
348	F 7 i5	N-90°	[楕円形]	(1.80) × (0.80)	11	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK350
350	F 7 i5	N-62°-E	楕円形	2.16 × 1.23	51	緩斜	皿状	人為	—	SK348, SD88→本跡
351	E 7 j4	N-4°-E	隅丸長方形	2.30 × 0.78	32	外傾	平坦	人為	—	SK690→本跡→SK257
352	F 7 e0	N-44°-E	不定形	1.26 × 1.25	29	外傾	平坦	人為	—	
357	F 8 e1	N-81°-W	楕円形	1.45 × 0.70	16	緩斜	皿状	自然	—	
358	F 7 e0	N-82°-W	[隅丸長方形]	(1.35) × 0.79	20	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK359
359	F 7 e0	N-12°-W	隅丸長方形	1.69 × 0.94	11	緩斜	皿状	人為	—	SK358→本跡
360	F 7 e6	—	—	1.04 × (0.45)	30	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK410
361	F 7 f7	N-11°-W	楕円形	1.05 × 0.60	12	緩斜	皿状	人為	—	本跡→PG2
363	E 7 j4	N-0°	楕円形	0.93 × 0.65	25	外傾	平坦	人為	—	PG2→本跡
364	E 7 i4	N-85°-W	不定形	2.49 × 0.78	—	—	—	—	—	本跡→SK444
365	F 7 j7	N-18°-E	楕円形	1.24 × 1.03	21	緩斜	皿状	人為	—	
366	F 7 g9	N-71°-E	楕円形	0.94 × 0.64	10	緩斜	皿状	人為	—	
367	F 7 g9	N-90°	楕円形	0.80 × 0.54	13	外傾	皿状	自然	—	
370	G 8 a1	N-22°-E	楕円形	0.65 × 0.56	20	外傾	皿状	自然	—	
371	G 7 a8	N-47°-W	楕円形	0.70 × 0.53	30	外傾	皿状	自然	—	
372	F 8 i3	N-46°-W	楕円形	1.66 × 1.20	12	緩斜	皿状	自然	—	
373	G 8 a3	—	円形	0.55 × 0.53	20	外傾	皿状	自然	—	
374	G 8 d4	N-76°-E	楕円形	0.97 × 0.43	10	緩斜	皿状	自然	—	
375	G 8 a2	N-8°-E	楕円形	1.43 × 0.99	18	外傾	皿状	人為	—	
377	F 7 c8	N-0°	[楕円形]	(1.15) × 1.03	13	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SK378
378	F 7 c7	N-62°-E	長方形	2.31 × 1.02	36	外傾	平坦	人為	—	SK377・379→本跡→PG2
379	F 7 c8	N-84°-E	不定形	2.76 × (1.05)	9	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK378, PG2
381	G 8 d4	N-57°-W	[楕円形]	1.36 × (1.09)	17	緩斜	平坦	人為	—	SK383・403→本跡→第3号方形竪穴遺構
382	G 7 a8	N-4°-W	楕円形	1.10 × 0.77	10	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SK327
383	G 8 d4	N-39°-E	[隅丸長方形]	(1.40) × 1.24	21	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK381, PG2
384	F 8 h5	N-0°	隅丸長方形	1.21 × 0.70	25	外傾	平坦	人為	—	
385	F 7 j6	N-12°-E	不定形	1.09 × 0.89	18	緩斜	皿状	人為	—	
386	F 7 i6	N-50°-E	不整楕円形	0.95 × 0.58	25	緩斜	有段	人為	—	
392	F 7 i5	—	—	(0.70) × (0.67)	45	外傾	皿状	人為	—	SD88→本跡
394	H 9 f0	N-12°-E	長楕円形	1.05 × 0.25	15	外傾	平坦	人為	—	
396	F 7 f9	N-0°	楕円形	0.71 × 0.54	18	緩斜	皿状	自然	—	
397	G 8 c2	N-23°-W	楕円形	1.40 × 0.85	30	外傾	平坦	人為	—	
398	C 8 c2	N-41°-E	楕円形	0.77 × 0.55	19	外傾	平坦	自然	—	
399	C 8 c2	N-28°-E	不整円形	1.07 × 1.02	24	緩斜	皿状	自然	—	
400	C 8 d2	—	円形	0.65 × 0.62	33	外傾	皿状	人為	—	
402	F 7 b4	N-32°-W	楕円形	1.18 × 0.70	14	緩斜	皿状	人為	—	
403	G 8 d4	N-75°-E	不明	1.47 × (1.12)	17	緩斜	平坦	—	—	本跡→SK381 第3号方形竪穴遺構
404	E 7 j5	N-4°-E	[長方形]	1.30 × (0.65)	10	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK406
405	F 7 f9	N-46°-E	楕円形	0.62 × 0.42	27	外傾	平坦	自然	—	
406	E 7 j5	N-6°-E	[長方形]	(1.84) × 0.62	29	緩斜	平坦	人為	—	SK404→本跡
407	F 7 b5	N-10°-W	隅丸長方形	1.69 × 0.67	22	垂直	平坦	人為	—	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)						
408	F 7 c6	N-39°-E	楕円形	1.48 × 1.12	13	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SK409
409	F 7 c7	N-83°-W	楕円形	2.00 × 0.84	18	緩斜・外傾	平坦	人為	—	SK408→本跡
410	F 7 e6	—	円形	0.82 × 0.75	40	垂直	平坦	—	—	SK360→本跡
411	F 7 a3	N-8°-E	隅丸長方形	2.49 × 0.75	14	外傾	平坦	人為	—	SD45→本跡
413	G 8 h7	—	円形	0.84 × 0.78	13	緩斜	皿状	人為	—	本跡→PG3
414	G 8 h8	N-10°-W	不定形	(0.96) × (0.85)	31	外傾	有段	人為	—	
424	H 9 b1	N-56°-E	不整楕円形	0.83 × 0.75	33	垂直・外傾	平坦	人為	—	本跡→PG3
425	F 7 b4	N-6°-E	楕円形	0.76 × 0.32	34	垂直	皿状	人為	—	
426	F 7 g6	N-90°	楕円形	1.08 × 0.88	17	外傾	皿状	自然	—	
427	F 7 f2	N-9°-W	楕円形	0.90 × 0.60	13	外傾	平坦	人為	—	
428	G 7 j7	—	円形	0.90 × 0.89	31	外傾	皿状	人為	—	
429	G 8 j9	N-62°-E	楕円形	0.73 × 0.70	17	緩斜	平坦	人為	—	
434	F 7 g3	N-0°	楕円形	0.70 × 0.63	19	外傾	皿状	人為	—	
436	F 7 b5	N-4°-E	楕円形	0.88 × 0.57	33	外傾	皿状	人為	—	
437	G 8 a7	N-45°-W	不整形	1.01 × 0.95	56	外傾	平坦	人為	—	
438	G 8 b8	N-88°-E	隅丸長方形	0.99 × 0.51	27	外傾	皿状	人為	—	
440	G 9 i2	—	円形	0.67 × 0.62	53	外傾	皿状	自然	—	SK443→本跡
441	F 7 e7	N-65°-W	[楕円形]	0.77 × (0.59)	22	緩斜	皿状	—	—	本跡→SK313
443	G 9 h2	—	[円形]	0.88 × (0.38)	25	—	平坦	人為	—	本跡→SK440
444	E 7 i4	N-6°-E	[楕円形]	(0.97) × 0.92	62	外傾	平坦	—	—	SK364→本跡
447	F 7 f6	N-0°	楕円形	0.75 × 0.46	17	外傾	皿状	人為	—	
449	E 7 j4	—	不定形	(2.25) × (0.78)	27	緩斜	平坦	人為	—	
451	F 7 c5	—	[楕円形]	0.75 × (0.56)	13	緩斜	平坦	—	—	本跡→SK452
452	F 7 c5	N-6°-E	楕円形	1.12 × 0.72	14	外傾	平坦	—	—	SK451→本跡
458	F 7 d8	N-4°-E	[楕円形]	(0.77) × 0.68	33	緩斜	平坦	—	—	本跡→SK314・316
459	E 5 g0	N-11°-E	[楕円形]	(1.99) × 2.21	59	緩斜	平坦	人為	—	
460	E 6 f2	N-78°-W	楕円形	0.93 × 0.72	8	緩斜	平坦	人為	—	
461	E 6 e2	N-87°-W	隅丸長方形	1.08 × 0.61	11	緩斜	平坦	人為	—	
462	E 6 g4	—	円形	1.14 × 1.09	12	緩斜	平坦	人為	—	
463	E 6 d5	—	円形	1.22 × 1.17	9	緩斜	平坦	自然	—	
465	E 6 d2	N-56°-W	楕円形	1.21 × 0.91	32	緩斜	平坦	自然	—	
466	E 6 c5	N-8°-W	楕円形	1.00 × 0.66	8	緩斜	平坦	自然	—	
467	E 6 d4	N-90°	隅丸長方形	1.15 × 0.64	80	外傾・垂直	平坦	自然	—	
468	E 6 g4	—	—	1.07 × 0.46	20	緩斜	平坦	—	—	本跡→SK469
469	E 6 g4	N-12°-E	長方形	1.31 × 0.79	64	外傾	平坦	人為	—	SK468→本跡
470	E 6 g4	N-0°	隅丸長方形	1.32 × 0.69	65	外傾	平坦	人為	—	SK471→本跡
471	E 6 g3	—	—	1.21 × (0.47)	16	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK470
472	E 6 h3	N-2°-W	不定形	(1.44) × 1.33	12	緩斜・外傾	平坦	自然	—	本跡→SK473
473	E 6 h3	N-84°-W	隅丸長方形	1.96 × 0.62	60	外傾	平坦	人為	—	SK472→本跡
474	E 6 b4	N-87°-W	隅丸長方形	1.83 × 0.88	43	緩斜・外傾	平坦	人為	—	SD71→本跡
475	E 6 e6	—	円形	0.99 × 0.98	7	緩斜	平坦	自然	—	
476	E 6 f6	—	円形	0.88 × 0.88	11	緩斜	平坦	自然	—	
477	E 6 c4	N-0°	楕円形	1.10 × 0.80	40	外傾	平坦	人為	—	
478	E 6 h4	N-18°-W	楕円形	1.35 × 1.28	34	垂直	平坦	人為	—	
479	E 6 g4	—	円形	1.15 × 1.10	12	緩斜・垂直	平坦	自然	—	
480	E 6 f4	N-3°-E	隅丸長方形	1.32 × 0.64	58	垂直	平坦	人為	—	
481	E 6 e4	N-3°-E	隅丸長方形	1.55 × 0.66	65	垂直	平坦	人為	—	
482	E 6 g5	—	円形	1.00 × 1.05	25	緩斜・外傾	平坦	人為	—	SK483→本跡
483	E 6 g5	—	[円形]	1.02 × (0.88)	18	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK482
485	E 6 e5	N-7°-E	隅丸長方形	1.17 × 0.83	19	緩斜	平坦	自然	—	
488	E 6 g6	—	円形	1.05 × 0.94	16	緩斜	平坦	自然	—	
489	E 6 c3	N-80°-W	隅丸長方形	1.11 × 0.85	37	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
490	E 6 i6	—	円形	0.92 × 0.93	8	緩斜	平坦	自然	—	
491	E 6 e7	—	円形	1.28 × 1.26	23	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK492

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径)×短軸(径)(m)						重複関係(古→新)
492	E 6 e7	N - 78° - W	楕円形	1.10 × 0.78	15	緩斜	平坦	自然	—	SK491→本跡
493	E 6 i5	N - 85° - W	楕円形	1.26 × 0.94	22	外傾・緩斜	平坦	人為	—	
494	E 6 h9	—	円形	1.13 × 1.12	12	緩斜	平坦	人為	—	
499	E 6 e3	N - 83° - W	不定形	(0.71) × 0.70	11	外傾	平坦	自然	—	本跡→SD71
501	E 6 h6	—	円形	1.10 × 1.05	40	外傾	平坦	人為	—	
502	E 6 g6	—	不定形	1.66 × 1.40	15	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK520
503	E 5 c8	N - 13° - E	隅丸長方形	1.29 × 0.74	41	緩斜	平坦	人為	—	
504	E 6 b4	N - 5° - E	隅丸長方形	1.33 × 0.72	48	外傾	平坦	人為	—	
505	E 6 j3	N - 83° - W	隅丸長方形	1.26 × 0.63	38	外傾	平坦	人為	—	
506	E 6 j3	N - 83° - E	隅丸長方形	2.42 × 0.64	60	外傾	平坦	人為	—	
507	E 6 i3	N - 4° - E	隅丸長方形	1.51 × 0.77	35	外傾	平坦	人為	—	SK508→本跡
508	E 6 i3	N - 83° - W	隅丸長方形	1.50 × 0.63	38	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK507
509	E 6 g0	—	円形	1.05 × 1.02	20	緩斜	皿状	人為	—	SK510・540→本跡
510	E 6 g9	N - 38° - E	[楕円形]	1.30 × (0.58)	17	緩斜	平坦	自然	—	SK540→本跡→SK509
511	E 6 g4	N - 82° - W	隅丸長方形	1.94 × 0.67	62	垂直	平坦	人為	土師質土器	
515	E 6 i0	—	[円形]	1.08 × (0.94)	14	緩斜	平坦	自然	—	
516	E 6 i9	N - 19° - E	隅丸長方形	1.17 × 0.86	24	外傾	平坦	自然	—	
520	E 6 g7	N - 76° - E	楕円形	1.16 × 0.73	28	緩斜	平坦	自然	—	SK502→本跡
526	E 6 c6	—	—	1.13 × (0.54)	21	緩斜	平坦	人為	—	
527	E 6 c4	N - 77° - W	隅丸長方形	1.14 × 0.84	48	垂直	平坦	自然	—	
528	F 6 d9	N - 8° - E	楕円形	1.48 × 0.94	13	外傾・緩斜	平坦	人為	—	
534	E 6 d6	N - 31° - W	隅丸長方形	0.70 × 0.50	15	緩斜	皿状	自然	—	
535	E 6 b4	N - 84° - E	楕円形	0.77 × 0.40	22	緩斜	平坦	—	—	
536	D 5 j9	N - 18° - W	楕円形	0.77 × 0.68	19	緩斜	平坦	人為	—	
537	E 6 f8	N - 4° - E	楕円形	1.16 × 0.72	15	緩斜	皿状	人為	—	
538	E 6 h0	N - 31° - E	楕円形	0.79 × 0.60	6	緩斜	皿状	人為	—	
540	E 6 g9	N - 12° - E	[楕円形]	(0.95) × 0.89	13	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK509・510
541	E 6 h9	N - 86° - W	不整楕円形	0.87 × 0.69	28	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
542	E 6 h9	N - 10° - E	不整楕円形	2.67 × 1.04	29	緩斜	平坦	人為	—	
548	F 6 a6	—	円形	0.70 × 0.67	25	緩斜	皿状	自然	—	
549	F 6 a5	N - 43° - E	楕円形	0.78 × 0.55	42	外傾	皿状	人為	—	
550	E 6 g0	N - 0°	楕円形	1.10 × 0.89	35	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
552	E 5 c8	N - 6° - E	隅丸長方形	1.80 × 1.05	74	外傾	平坦	自然	—	
553	D 5 j9	N - 81° - W	不整長方形	1.27 × 1.06	15	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
554	D 5 g7	N - 48° - E	楕円形	2.14 × 1.28	44	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
565	E 6 h1	N - 25° - W	[隅丸長方形]	(2.00) × 0.92	70	外傾	皿状	人為	—	
568	E 5 b3	N - 16° - E	円形	0.61 × 0.56	37	緩斜	皿状	自然	—	
569	D 5 j1	N - 87° - W	隅丸長方形	2.61 × 0.75	83	垂直	平坦	人為	土師質土器	
570	D 5 f1	N - 9° - E	楕円形	0.85 × 0.52	34	緩斜	平坦	人為	—	
571	D 4 b6	N - 4° - E	楕円形	1.12 × 0.67	50	外傾	平坦	人為	—	
572	D 4 b6	N - 79° - W	隅丸長方形	1.49 × 0.66	30	外傾	平坦	人為	—	
573	D 4 d5	N - 82° - W	楕円形	1.84 × 0.72	32	外傾・緩斜	平坦	人為	—	
576	D 4 a2	N - 10° - E	楕円形	0.65 × 0.44	24	外傾	皿状	自然	—	
577	D 6 b2	—	円形	0.75 × 0.69	20	緩斜	皿状	自然	—	
578	D 6 b2	N - 51° - W	楕円形	1.66 × 1.00	72	外傾・緩斜	皿状	人為	—	
580	C 4 i7	N - 4° - E	不定形	(1.05) × 0.88	45	外傾	平坦	人為	—	
590	D 4 b3	N - 24° - E	楕円形	0.84 × 0.65	48	外傾	凸凹	人為	—	
591	C 4 g1	N - 33° - W	楕円形	0.75 × 0.62	32	緩斜・外傾	皿状	自然	—	
592	C 4 g2	—	円形	0.71 × 0.65	21	緩斜	皿状	自然	—	
593	C 4 g2	N - 20° - E	不整楕円形	0.70 × 0.54	30	外傾	皿状	人為	—	
594	C 4 g1	N - 9° - E	楕円形	0.69 × 0.56	33	緩斜	皿状	自然	—	
595	C 4 g1	N - 64° - E	楕円形	0.74 × 0.63	40	外傾・緩斜	皿状	人為	—	
597	C 4 h1	N - 48° - W	楕円形	0.72 × 0.56	12	緩斜	平坦	人為	—	
602	C 3 h9	N - 3° - E	隅丸長方形	1.17 × 0.50	26	外傾	平坦	自然	—	

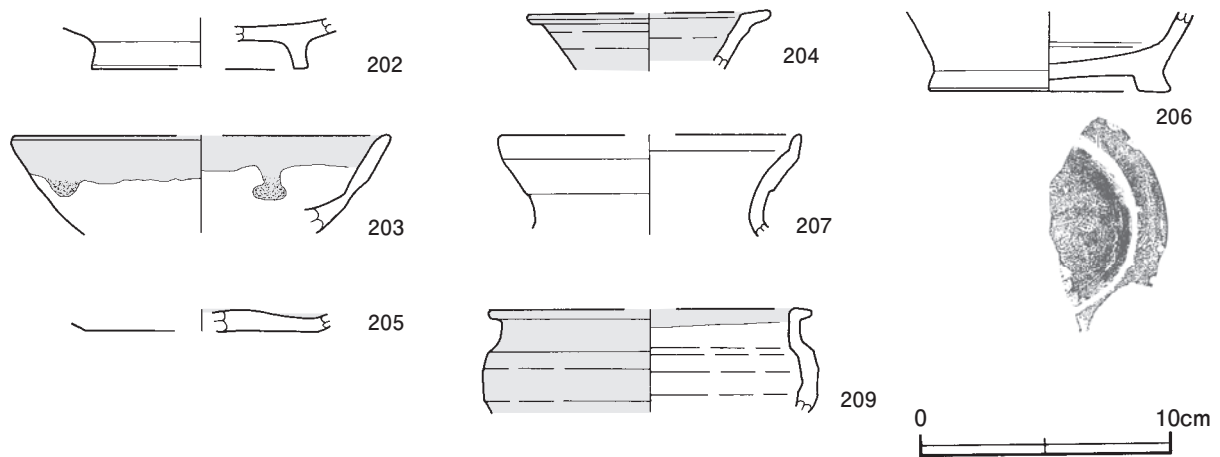


番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)						
604	C 3 h0	N-25°-E	楕円形	0.69 × 0.53	10	緩斜	平坦	自然	—	
611	C 3 h9	N-83°-W	隅丸長方形	1.23 × 0.47	42	外傾	平坦	自然	—	
612	C 3 g9	N-84°-W	長方形	1.35 × 0.42	44	垂直	平坦	人為	—	
629	C 3 g8	N-14°-E	楕円形	0.64 × 0.49	15	緩斜	平坦	自然	—	
633	C 3 d6	N-53°-E	楕円形	0.62 × 0.55	7	緩斜	平坦	自然	—	
634	C 3 d6	N-6°-E	隅丸長方形	1.94 × 1.09	25	外傾	平坦	人為	—	
636	C 3 c4	N-12°-E	楕円形	1.08 × 0.71	8	緩斜	平坦	自然	—	
638	C 4 g1	N-83°-E	不整楕円形	0.61 × 0.49	24	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
639	C 4 f1	N-35°-E	不整楕円形	0.65 × 0.44	28	外傾	平坦	人為	—	
641	C 3 e9	N-82°-W	楕円形	0.64 × 0.45	9	緩斜	平坦	自然	—	
642	C 3 e9	N-23°-E	楕円形	0.94 × 0.81	30	緩斜	平坦	人為	—	
643	C 3 b5	N-13°-E	隅丸方形	0.84 × 0.80	14	緩斜	平坦	人為	—	
645	C 3 b4	—	円形	0.72 × 0.73	49	外傾	平坦	自然	—	
646	C 3 c2	N-17°-E	不定形	1.16 × (1.02)	42	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
647	C 3 d2	N-74°-W	[楕円形]	(1.15) × 1.02	39	緩斜	皿状	人為	—	
648	B 3 j5	—	円形	0.50 × 0.47	17	緩斜	皿状	自然	—	
649	B 3 j4	N-0°	隅丸長方形	1.20 × 0.69	34	外傾	平坦	自然	—	
650	C 3 j3	N-28°-W	楕円形	0.88 × 0.66	33	外傾	平坦	人為	—	
651	C 3 b3	N-67°-W	楕円形	0.57 × 0.42	20	緩斜	皿状	自然	—	
652	C 3 f9	N-4°-E	隅丸長方形	1.30 × 0.48	51	外傾	平坦	自然	—	
653	C 3 f9	N-63°-E	楕円形	0.80 × 0.47	40	外傾	平坦	自然	—	
654	C 4 f1	N-50°-E	楕円形	0.73 × 0.53	22	外傾	皿状	自然	—	
655	C 3 c9	N-29°-E	楕円形	0.60 × 0.50	18	緩斜	皿状	人為	—	
656	C 3 c7	N-85°-W	楕円形	0.60 × 0.43	20	外傾・緩斜	皿状	自然	—	
658	C 4 g6	N-6°-E	[隅丸長方形]	(1.78) × 0.78	36	外傾	平坦	自然	—	
660	C 3 c7	N-12°-E	楕円形	0.53 × 0.40	14	緩斜	皿状	自然	—	
661	C 3 g0	N-6°-W	楕円形	0.65 × 0.50	29	外傾	皿状	自然	—	
662	C 3 f0	N-6°-W	隅丸方形	0.65 × 0.60	28	外傾	平坦	自然	—	
663	C 3 a5	—	円形	0.46 × 0.45	18	緩斜	皿状	自然	—	
664	C 3 a7	N-3°-W	楕円形	0.87 × 0.40	11	緩斜	平坦	人為	—	
676	C 3 d2	N-67°-E	楕円形	0.97 × 0.74	30	外傾・緩斜	平坦	自然	—	
677	C 3 g7	N-40°-E	[長方形]	0.63 × 0.54	15	緩斜	平坦	—	—	本跡→SK718
678	C 4 f2	—	円形	0.46 × 0.45	21	緩斜	皿状	自然	—	
679	C 4 f2	N-3°-W	楕円形	0.47 × 0.41	20	外傾	皿状	自然	—	
680	C 4 h2	N-50°-W	楕円形	1.03 × 0.74	28	緩斜・外傾	平坦	人為	—	
689	H 9 d8	N-84°-W	長楕円形	2.24 × 0.56	17	緩斜・外傾	皿状	自然	—	本跡→SK80・81
690	E 7 j4	N-90°	[隅丸長方形]	(0.82) × 0.72	6	外傾	凸凹	—	—	本跡→SK351
693	E 6 h5	N-8°-W	楕円形	1.19 × 1.04	19	緩斜	平坦	人為	—	
706	G 8 d0	N-8°-E	隅丸長方形	1.43 × 0.56	13	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
707	F 7 b7	N-8°-W	[隅丸長方形]	(1.55) × 0.64	16	外傾	平坦	人為	—	
708	F 7 a2	N-20°-W	楕円形	0.90 × 0.58	28	外傾	皿状	人為	—	
709	D 4 a3	N-5°-E	[隅丸長方形]	(1.80) × 0.52	53	垂直	皿状	—	磁器	SD68→本跡
710	G 8 e5	N-28°-W	隅丸長方形	3.67 × 1.23	35	緩斜	平坦	人為	陶器	
711	C 3 g8	N-5°-E	長方形	1.49 × 0.55	31	外傾・垂直	平坦	人為	—	本跡→SK712 芋穴カ
712	C 3 g8	—	—	(0.39) × 0.50	38	外傾	平坦	自然	—	SK711→本跡→SK713 芋穴カ
713	C 3 g8	N-0°	長方形	1.54 × 0.91	36	外傾	平坦	自然	土師質土器	SK712→本跡 芋穴カ
714	C 3 g9	N-11°-E	不定形	1.32 × 0.93	34	垂直	平坦	人為	—	芋穴カ
715	C 3 f9	N-7°-E	隅丸長方形	1.42 × 0.54	35	垂直	平坦	人為	—	芋穴カ
716	C 3 e0	N-6°-E	隅丸長方形	1.19 × 0.49	46	垂直	平坦	人為	土師質土器	芋穴カ
717	C 3 g8	N-6°-E	隅丸長方形	1.47 × 1.18	35	外傾	平坦	人為	鉄製品	SK718・719・743→本跡 芋穴カ
718	C 3 g7	N-6°-E	[不整長方形]	1.58 × (0.97)	45	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK677・747→本跡→SK717 芋穴カ
719	C 3 g8	—	—	(0.47) × 0.52	41	垂直	凸凹	自然	陶器	本跡→SK717 芋穴カ
720	D 4 a4	N-6°-E	[隅丸長方形]	(1.04) × 0.77	47	外傾・垂直	平坦	人為	—	芋穴カ
721	D 4 a4	N-6°-E	隅丸長方形	1.68 × 0.79	45	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ

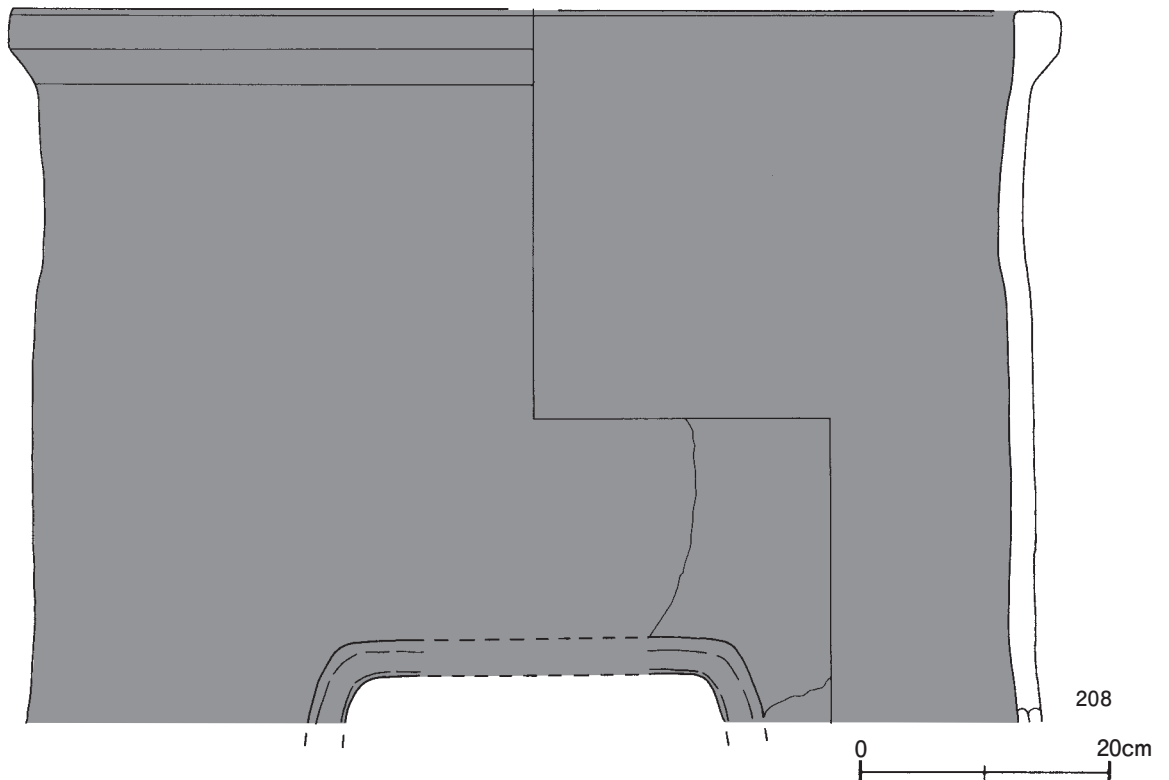
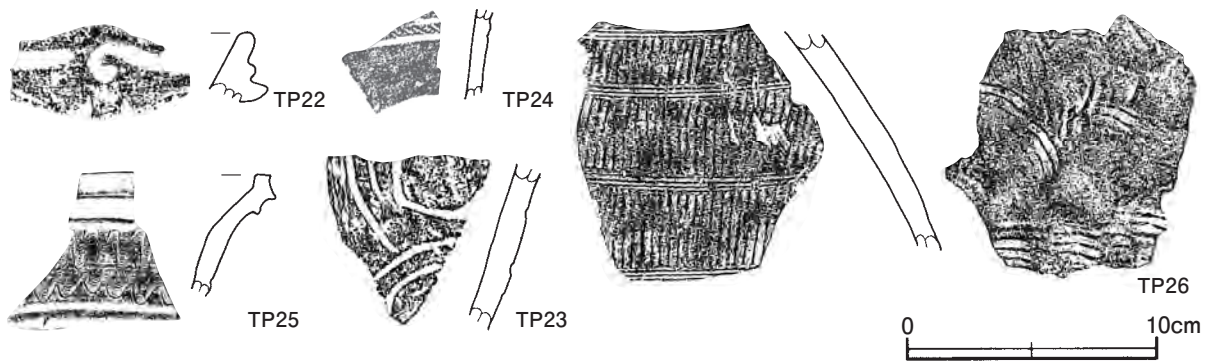
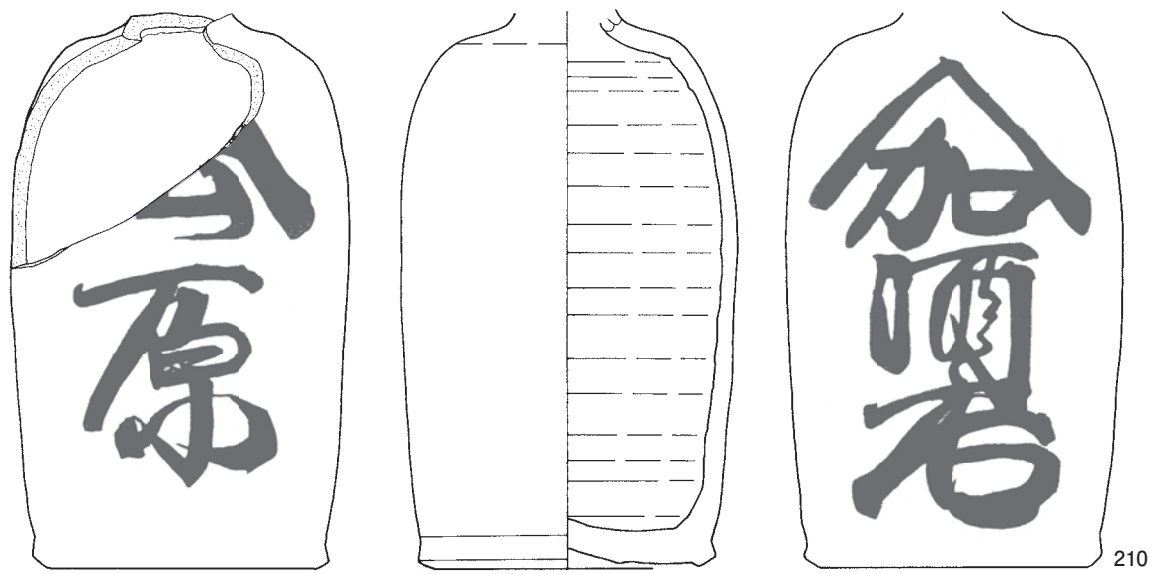
番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径) × 短軸(径) (m)						重複関係(古→新)
722	D 4 a2	N - 4° - E	[隅丸長方形]	(0.60) × 0.65	50	垂直	平坦	人為	—	芋穴カ
723	D 4 a1	N - 6° - E	隅丸長方形	2.19 × 0.88	71	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
724	C 4 j1	N - 3° - E	[隅丸長方形]	(0.47) × 0.74	35	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
725	D 3 a0	N - 13° - E	[隅丸長方形]	(1.48) × 0.66	62	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
726	C 3 j0	N - 5° - E	[隅丸長方形]	(1.70) × 0.61	60	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
727	C 3 h0	N - 4° - E	隅丸長方形	1.94 × 0.40	46	垂直	平坦	人為	陶器	芋穴カ
728	C 4 h1	N - 2° - E	不定形	1.88 × 0.72	48	垂直	平坦	人為	土師質土器	芋穴カ
729	C 3 h8	N - 84° - W	隅丸長方形	1.13 × 0.48	25	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK731・744 芋穴カ
730	C 3 h8	N - 5° - E	長方形	1.38 × 0.63	38	垂直	平坦	人為	土師質土器, 土師器	SK731→本跡 芋穴カ
731	C 3 h8	N - 2° - E	長方形	1.40 × 0.71	35	垂直	平坦	人為	—	SK729→本跡→SK730 芋穴カ
732	C 3 h8	N - 78° - W	隅丸長方形	1.08 × 0.56	36	外傾	平坦	人為	—	芋穴カ
733	C 3 h8	N - 81° - W	隅丸長方形	0.88 × 0.52	26	外傾	平坦	自然	土師質土器	SK735→本跡 芋穴カ
734	C 3 h7	N - 6° - E	[隅丸長方形]	(1.45) × 0.55	40	垂直	平坦	人為	土師質土器	芋穴カ
735	C 3 h8	N - 85° - W	隅丸長方形	1.28 × 0.47	36	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK733 芋穴カ
736	C 3 h7	N - 8° - E	[隅丸長方形]	(1.49) × 0.59	28	外傾	平坦	人為	—	SK737→本跡 芋穴カ
737	C 3 h7	N - 12° - E	[隅丸長方形]	(1.46) × 0.97	38	外傾	平坦	人為	磁器	本跡→SK736 芋穴カ
738	C 3 f8	N - 0°	隅丸長方形	1.06 × 0.52	23	外傾	平坦	自然	—	芋穴カ
739	G 7 c0	N - 87° - W	楕円形	2.21 × 1.07	45	外傾	平坦	人為	—	SD29・90→本跡
740	G 8 b6	N - 3° - W	隅丸長方形	2.41 × 0.80	25	緩斜	皿状	人為	—	
741	D 5 g8	N - 13° - E	楕円形	1.02 × 0.66	43	緩斜	皿状	人為	—	
742	C 3 d6	N - 84° - W	隅丸長方形	1.49 × 0.97	17	緩斜・外傾	平坦	自然	—	
743	C 4 g7	N - 76° - W	楕円形	1.30 × 0.53	31	外傾	皿状	自然	—	本跡→SK717
744	C 3 h8	N - 6° - E	隅丸長方形	0.99 × 0.76	33	緩斜	皿状	人為	土師質土器	SK729→本跡
745	G 8 a6	N - 4° - W	隅丸長方形	1.80 × 0.85	12	緩斜	皿状	自然	—	SD33→本跡
746	C 3 f7	N - 7° - E	隅丸長方形	1.73 × 0.60	50	外傾	平坦	人為	陶器	
747	C 3 g7	—	—	(0.90) × [0.90]	15	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK718
748	C 3 g6	N - 80° - W	楕円形	0.81 × 0.68	49	外傾・緩斜	皿状	人為	—	SK749→本跡
749	C 3 g6	N - 81° - W	隅丸長方形	2.93 × 1.08	100	外傾	皿状	人為	—	本跡→SK748

(2) 遺構外出土遺物 (第286~289図)

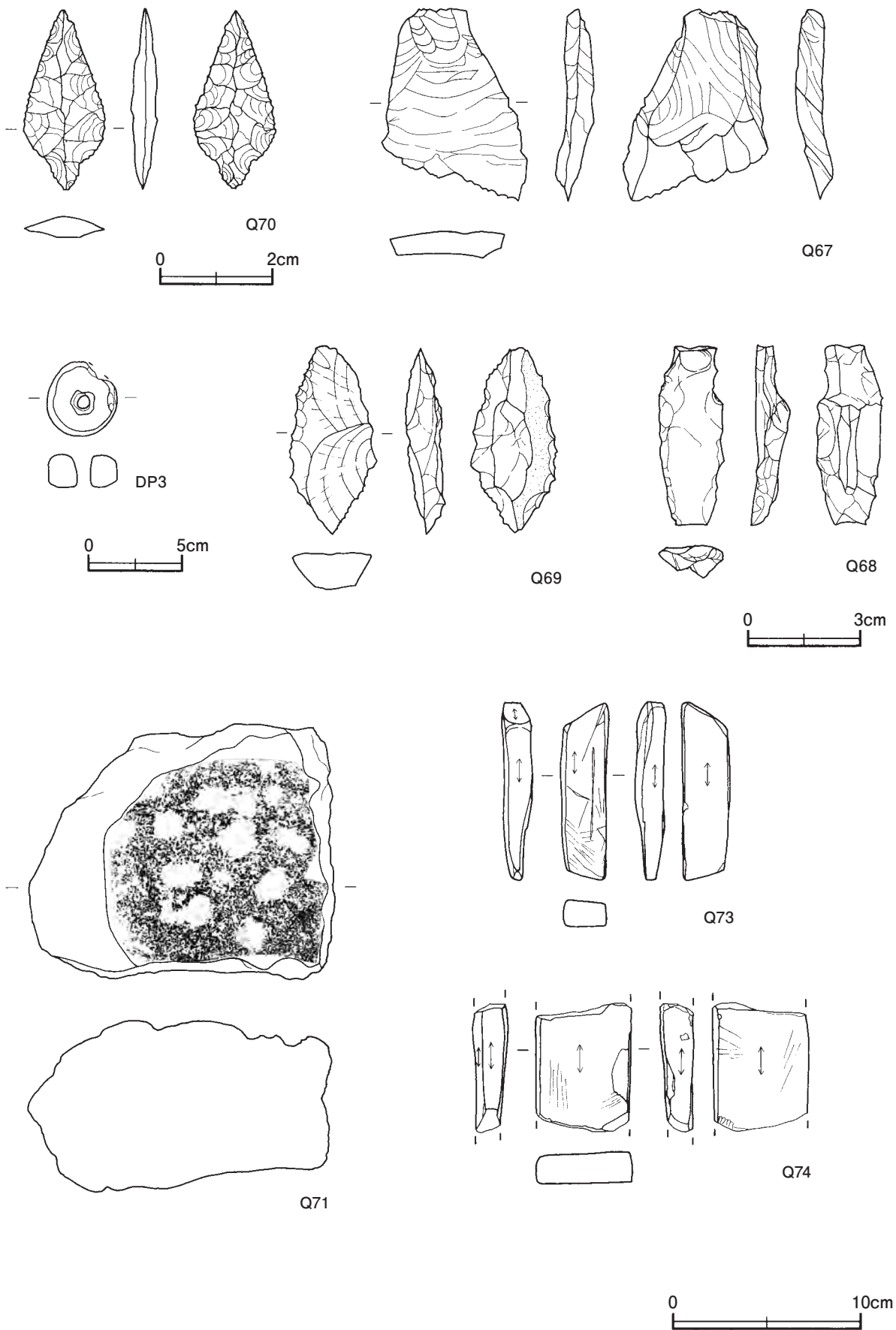
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを実測図と観察表で記載する。



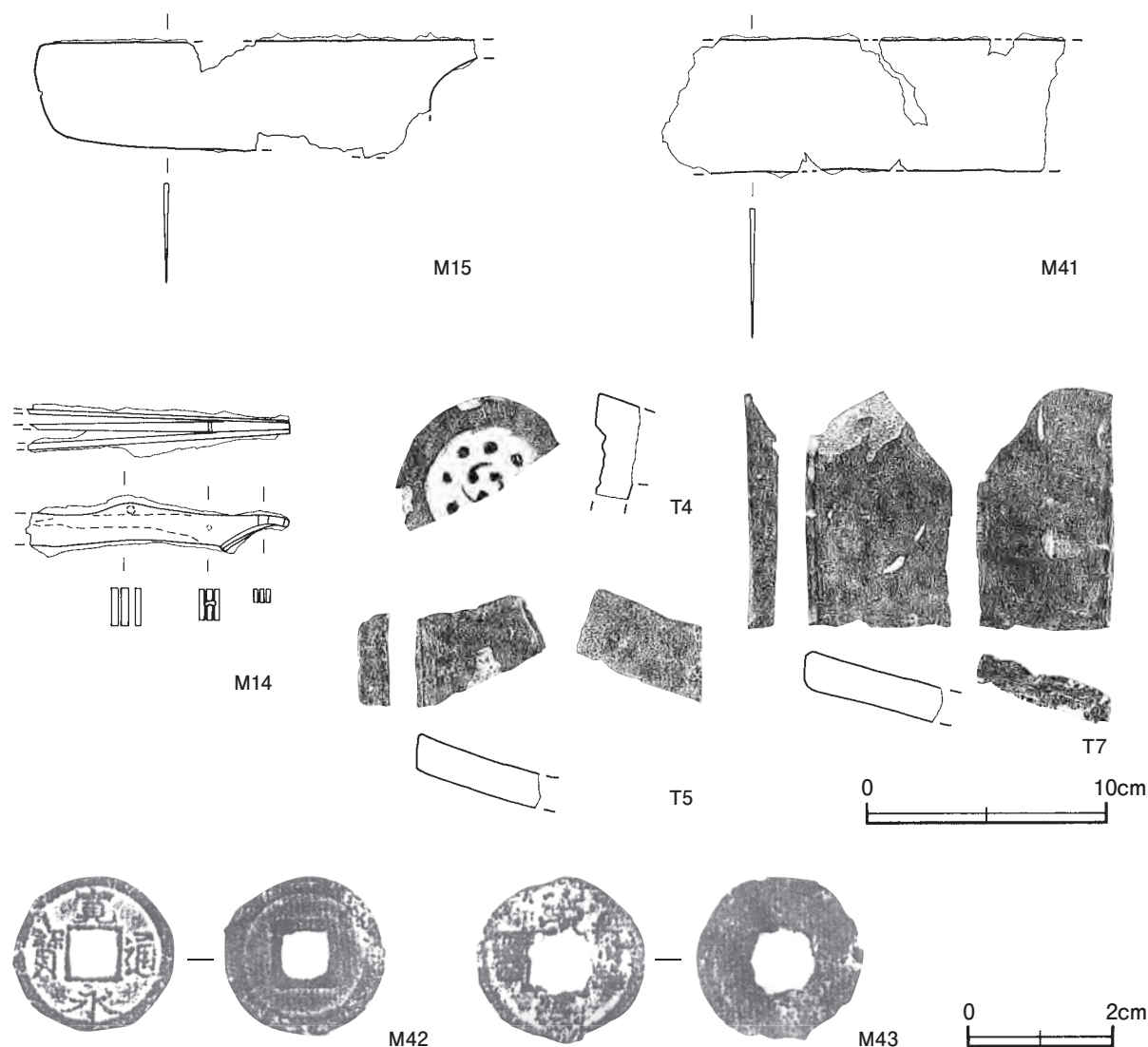
第286図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第287図 遺構外出土遺物実測図 (2)



第288図 遺構外出土遺物実測図 (3)



第289図 遺構外出土遺物実測図 (4)

遺構外出土遺物観察表 (第286~289図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法・文様の特徴ほか	出土位置	備考
202	須恵器	高台付坏	—	(2.1)	(8.8)	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロ成形	SE23覆土中	15%
203	陶器	皿	[9.6]	(2.2)	—	緻密 灰釉	にぶい黄	普通	折縁皿 内・外面施釉	表土中	15% 瀬戸 PL36
204	陶器	小皿	[15.0]	(3.9)	—	緻密 灰釉	オリーブ黄	普通	縁釉 口辺部内外面施釉	表土中	20% 瀬戸 PL36
205	陶器	皿	—	(0.9)	[9.4]	緻密 灰釉	にぶい黄	普通	底部内面施釉	表土中	15% 瀬戸
206	須恵器	瓶カ	—	(3.2)	9.6	長石・石英	灰黄	普通	ロクロ成形	SD7覆土中	30%
207	土師器	甕	[12.0]	(3.7)	—	長石・石英	明赤褐	普通	複合口縁 口辺部内・外面横ナデ	SD1覆土中	15%
208	土師質土器	置き甕	[84.0]	(57.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	内・外面煤付着 焚口一部残存	SK635・637覆土中	30%
209	陶器	香炉	[13.0]	(4.1)	—	緻密 灰釉	黄灰	普通	ロクロ成形 内外面施釉・付けがけ	表土中	15% 瀬戸 PL35
210	陶器	德利	—	(22.3)	12.0	緻密 透明釉	灰黄	普通	ロクロ成形 外面施釉 墨書2面「山加酒店」カ・「□原」	表土中	80% 瀬戸 PL34
TP22	縄文土器	深鉢	—	(2.9)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部に沈線による蕨手状文	SD18覆土中	後期後半
TP23	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線文	SD65覆土中	後期前半 PL26
TP24	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	頭部にLRの単節縄文施文後2条以上の平行沈線で区画	表土中	後期中葉
TP25	須恵器	甕	—	(4.8)	—	長石・石英	表面 灰断面 灰赤	堅緻	頭部2条の凹線で区画し11本と6本一条の櫛歯状工具による波状文	SD18覆土中	PL26
TP26	須恵器	甕	—	(8.8)	—	長石・石英・チャート	灰	普通	外面縦位の平行叩き後3本と4本の櫛歯状工具によるカキ目 内面同心円文の当て具痕	SD32覆土中	PL26

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP3	紡錘車	3.9	0.9	1.7	(27.2)	土製	ヘラ削り後ナデ 一方向からの穿孔	表土中	80% PL26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q67	剥片	5.1	3.9	0.7	12.5	頁岩	縦長薄片	表土中	PL27
Q68	石刃	4.8	1.7	1.1	7.1	頁岩	刃潰し加工1面	表土中	PL27
Q69	石刃	5.0	2.3	1.0	9.5	安山岩	刃潰し加工1面	表土中	PL27
Q70	石鏃	3.2	1.9	0.4	1.5	チャート	有茎石鏃 刃潰し加工2面	SI5覆土中	PL27
Q71	凹石	13.2	(16.4)	9.9	(2540.0)	安山岩	片面使用	覆土下層	PL28
Q73	砥石	9.5	2.4	1.4	58.2	粘板岩	砥面5面	表土中	PL27
Q74	砥石	(6.8)	5.1	1.7	(77.2)	ホルンフェルス	両端部欠損 砥面6面	表土中	PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M14	盗入金カ	(11.0)	1.7	1.2	(56.0)	鉄	先端部欠損 3枚重複 留め具痕2か所	SK609覆土中	PL31
M15	包丁	(18.5)	5.0	0.2	(58.8)	鉄	茎部欠損	SK621覆土中	PL31
M41	包丁	(17.0)	5.5	0.1	(43.6)	鉄	先端部・茎部欠損	SK692覆土中	

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M42	寛永通寶	2.2	0.7	2.2	1636	銅	日本 背無	表土中	PL30
M43	不明	2.4	0.8	2.2	—	銅	背無	表土中	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
T4	軒丸	(1.8)	7.5	—	(55.5)	細砂・雲母	青黒	普通	裏面ヘラ状工具による平行沈線 接合部 ナデ 巴文・珠文	SK675覆土中	PL31
T5	平瓦	(3.8)	(5.3)	1.5	(45.3)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	表面ヘラ状工具によるナデ	表土中	
T7	平瓦	(10.2)	(5.7)	1.6	(149.6)	長石・石英	灰黄褐	普通	表面側面ヘラ状工具によるナデ	表土中	PL31



## 第4節 まとめ

今回の調査で、炭焼戸東遺跡が中世を中心とする縄文時代、古墳時代、中世、近世の複合遺跡であることが確認された。ここでは、周辺遺跡との関連を踏まえて時代ごとの様相の概要をまとめ、特に中世期の当遺跡について、特徴のある遺構や遺物を取り上げ、若干の考察を加えてまとめとする。

### 1 各時代の様相について

#### (1) 縄文時代

当時代の遺構は、陥し穴5基、土坑1基が検出されている。第1～4号陥し穴は、調査区南東部の標高26.3～26.5mの台地平坦部に位置し、南北16m、東西15mの範囲にまとまって検出されている。主軸方向を東西及び北西方向に向け、3～10mの間隔で構築されており、規模や形状および隣接して配置されている状況から、同時期に機能していたと想定される。調査区からは、中期から後期にかけての土器が出土しているが、これらの遺構は、出土遺物がないため明確な時期判断は困難である。第5号陥し穴は、調査区中央部の標高27.0mの台地平坦部に位置しており、横断面形がV字状、縦断面形がフラスコ状であり、第1～4号陥し穴とは形状が異なっている。覆土中からは、中期と後期の土器が出土しており、後期中葉には機能を失ったと考えられる。当調査区内では、住居跡が検出されていないことから、この地域は狩猟場と推測される。また、当遺跡の80mほど南には、平成18年度に筑西市が調査した炭焼戸東遺跡（以下、「炭焼戸東遺跡（1次）」）が位置している。遺跡内からは、骨粉が検出された後期の埋甕が出土しており<sup>1)</sup>、この地区に縄文時代後期の墓域が形成されていた可能性がある。

#### (2) 古墳時代

当時代の遺構は、標高27.9mの調査区北西部に、後期の竪穴住居跡1軒が検出されている。出土遺物の中には、坏や甕のほか高坏やミニチュア土器も見られる。検出されたこの時代の遺構は本住居跡だけであることから、集落の中心は北に位置していたと考えられる。また、「炭焼戸東遺跡（1次）」では、前期から中期にかけての住居跡3軒が検出されている。さらに、当遺跡の北500mに位置する鍋山東原遺跡では、前・中期の集落跡が検出されている。この地域では後期になると集落は営まれなくなり、古墳が築造されている<sup>2)</sup>ことから、居住域が他の地域へ移動したと考えられ、一部がこの地域へ移住した可能性も考えられる。

#### (3) 中世

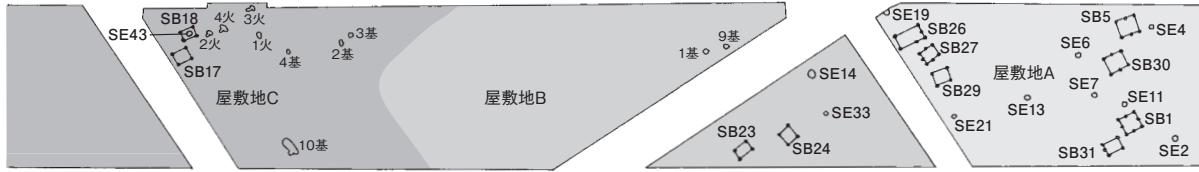
当時代は、当遺跡において中心となる時期である。検出された遺構は、掘立柱建物跡32棟、方形竪穴遺構4基、井戸跡43基、火葬土坑4基、墓坑13基、土坑247基、溝跡79条、柵跡2列、不明遺構4基、ピット群4か所である。ここでは、掘立柱建物跡や出土遺物、さらに海老ヶ島城と当集落の関連について考察を加える。

#### ア 集落の変遷と性格

集落については、「屋敷地A」（SD1内側・外側）、「屋敷地B」（SD32内側）、「屋敷地C」（SD



32外側)の3地区を想定して解説する。時期については、瀬戸産陶器の藤沢良祐編年<sup>3)</sup>と、常滑産陶器の中野晴久編年<sup>4)</sup>を基軸とし、時期区分をⅠ期(15世紀後半)、Ⅱ期(16世紀前半)、Ⅲ期(16世紀後半)、Ⅳ期(17世紀前半)とした。なお、集落の性格については、当遺跡の南に隣接する海老ヶ島城と関係から検討する。



第290図 Ⅰ期集落変遷図

(ア) Ⅰ期(15世紀後半)

表36 海老ヶ島城関連年表<sup>5)</sup>

年号	関連するできごと	領主
1467	海老ヶ島城築城(城主 結城秀千代)	結城方
1546	海老ヶ島城落城(城主 平塚山城守長信)	小田方
1556・4	海老ヶ島山王堂の合戦 結城政勝が小田氏治を破る	結城方
1556・8	小田氏治が海老ヶ島城を奪う	小田方
1560	平塚刑部大輔が城主となる	小田方
1569	宍戸四郎義長の弟外記(海老ヶ島新左衛門)が城主となる	佐竹氏
1597	宍戸義長が海老ヶ島城に入城する 新善光寺を小鶴荘宍戸より城内に移転する	佐竹方
1602	海老ヶ島城が廃城となる(佐竹氏国替え)	

屋敷地Aでは、倉庫を伴う小型の住居が建てられ、集落が形成され始める。溝は掘削されておらず、建物は東西方向に主軸をとるものが多い。建物の周囲には井戸が掘削され、定着した生活の痕跡が見られる。関連する第1・7・8号溝跡から出土した遺物は、84は袴腰形香炉で古瀬戸後Ⅱ期、57は口広有耳壺で古瀬戸後Ⅲ期、77は折縁深皿で古瀬戸後Ⅲ期、66は平碗で古瀬戸後Ⅱ期に比定される。

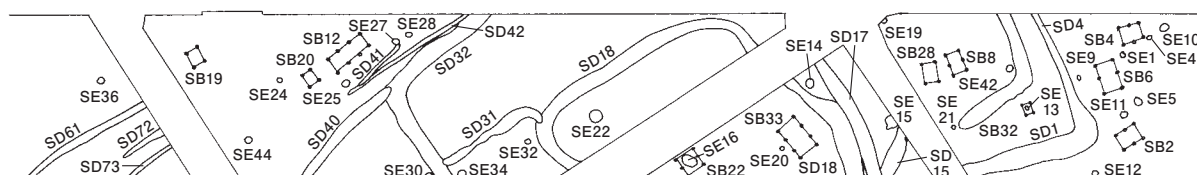
屋敷地Bでは、倉庫が建てられ井戸が掘削される。主たる屋敷は南にあると想定される。北側には、墓域が形成されており、

溝は掘削されていない。建物は、主軸を東西・南北方向を基準に建てたと考えられる。関連する第18号溝跡から出土した当時期の遺物は、93は平碗で古瀬戸後Ⅱ期、114は瓶子で古瀬戸後Ⅳ期、103は折縁深皿で古瀬戸後Ⅳ期古段階に比定される。115は11形式に比定される常滑産の甕である。117は枢府系と推定される青白磁の腰折れ碗で、15世紀中葉に流通したと考えられる。

屋敷地Cでは、火葬土坑と共に墓域が形成されていたと考えられる。原田信男氏は「中世期における上層農民層の屋敷墓は、村内のやや離れた場所に設けられている<sup>6)</sup>」と指摘しており、屋敷地Bの墓域も含めて類似が認められる。笹生衛氏の類型化<sup>7)</sup>によると、上層農民層主導型タイプの「D類型」に近い様相を示している。関連する第32号溝跡から出土した当時期の遺物は、古瀬戸後Ⅳ期古段階に比定される花瓶で、墓域に伴うものと推測される。埼玉県堂下山遺跡では、14世紀後半から16世紀初頭の集落が検出されている。方形区画内には、土坑墓や火葬施設が建物と併存する形で構築されており、隣接する寺院関連施設との密接な関連が考えられている<sup>8)</sup>。また、「炭焼戸東遺跡(1次)」からは、平安時代の住居跡や溝跡・掘立柱建物跡と共に、「院」「寺」といった墨書土器が検出されており、寺院関連施設が想定<sup>9)</sup>されている。当区周辺にも、これらの系譜をもつ遺構が存在したことを類推できる。

この時期海老ヶ島城は構築期にあたり、ここから16世紀前葉にかけて城主が安定することから、支配体制が確立する時期と考えられる。当時期の集落は、規則性をもって形成されていないことから、城主による支

配体制に移行する以前の形状と考えられる。陶器片からは、富裕層の存在がうかがえ、上層農民層という前述の類型化にも当てはまると考えられる。



第291図 II期集落変遷図

(イ) II期 (16世紀前半)

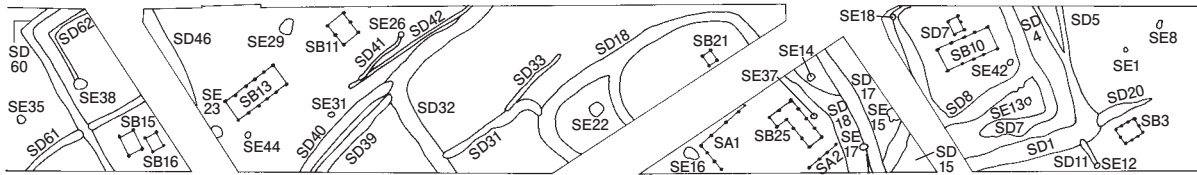
屋敷地Aでは、内側に第8号溝、外側に第1号溝がそれぞれL字状に掘削され、屋敷地が明確に区分けされる。建物は、主軸方向を溝に合わせているものが多く、南北棟の建物が増加する。井戸は、単位集団ごとに3基以上の使用が認められる。関連する第1・7・8号溝跡から出土した遺物の特徴は、土師質土器小皿（以下、小皿）が丁寧なロクロ成形がなされ体部にやや丸みをもつタイプ（70・74・75）で、74・75には底部に内面からの穿孔が見られる。また、底部から口縁部にかけて直線的に外反しながら薄くなるタイプ（67・69）と、器壁が一定で口縁部・体部にやや厚みをもつタイプ（49）も見られるが、これらは16世紀中葉に比定される。土師質土器内耳鍋（以下、内耳鍋）は、2対1で3か所に内耳をもち、口径30cm前後で器高が20cm前後の形状（54・79）を示している。当遺跡内出土の内耳鍋の大半は、同一の形状である。82は土師質土器播鉢（以下、播鉢）で、片口が付き内面には4条1単位の播り目が見られる。当時期には、生活雑器の出土が多くなり、集落の拡大化と関連していると考えられる。また、出土した底部穿孔の小皿は、夜間照明用具と考えられる。椀状滓や砥石の出土から、鉄製品の加工や修理が行われたことも推測され、海老ヶ島城に關係する家臣団・<sup>かせもの</sup>倅者<sup>10)</sup>の存在もうかがえる。

屋敷地Bでは、第18号溝が鍵の手状に掘削され、外側に第32号溝がL字状に掘削される。屋敷地は明確な区分がなされ、第18号溝内側には、主軸方向を溝に合わせて建物が建てられており、規模も大型化している。井戸の数は増加し、大形のものも散見される。第18号溝と第32号溝の間には、第31号溝が掘削されている以外は空白域が見られるが、性格は不明である。関連する第18号溝から出土した遺物の特徴は、小皿が底部から口縁部にかけて直線的に外反して、口縁部にやや厚みをもつタイプ（95）と、底部から口縁部にかけて直線的に外反しながら薄くなるタイプ（100・101）、さらに器壁が一定で外面に一段の稜をもち、見込みの外縁に環状の凹みが見られるタイプ（97）が見られる。これらは16世紀中葉に比定される。内耳鍋は2対1で3か所に内耳をもち、口径30cm前後で器高が20cm前後の形状（105）を示している。当時期には、生活雑器が出土するようになり、集団の増加は見られないものの、建物の拡大化との関連が想定される。二重に区画された内側に1棟だけが配備されている構造や、I期出土の国産陶器、輸入磁器などから、上層農民層またはやや上の階層の存在を考えたい。

屋敷地Cでは、第32号溝と連結する第39号溝や東西方向に主軸方向をもつ第61号溝が掘削される。I期に見られた墓域はなくなり、第32号溝に主軸方向を合わせた第12号掘立柱建物が建てられる。建物の大型化傾向は他の屋敷地と同様で、周囲には3基の井戸と1棟の倉庫を伴う。関連する第32号溝から出土した当時期の遺物の特徴は、小皿が器壁が一定で外面に1段の稜をもち、見込みの外縁に環状の凹みが見られるタイプ（129）と、丁寧なロクロ成形がなされ体部にやや丸みをもち、口径に対し底径が約3分の1と小形のタイプ（134～136）が見られる。内耳鍋は2対1で3か所に内耳をもち、口径30cm前後で器高が20cm前後の形状（150・152・154）を示している。口辺部の内側には、ヘラ記号「+」「×」「++」が見られる。内耳には

摩滅した痕跡が見られないことから、吊り下げて使用したとは考えにくい。また、内耳鍋の底部外面および体部外面下部には煤が付着していないことから、五徳を使用せずに囲炉裏に直接置いた状態で周囲から加熱して使用したと推測される。163は播鉢で、内面には4条1単位の播り目が見られる。当時期には、生活雑器の出土が多く見られるようになり、集落の構築期と連動している。

海老ヶ島城においては、16世紀前葉までが安定期である。Ⅱ期において集落が規則性をもって構築され、一気に拡大した状況は、支配が安定して知行地への影響力が増大したと連動していると推測される。中葉になると戦乱が多くなり、城主が頻繁に交代する時期となることから、集落も混迷期となる。



第292図 Ⅲ期集落変遷図

(ウ) Ⅲ期 (16世紀後半)

屋敷地Aでは、第8号溝が方形に巡るように掘削され、また第1号溝との間に第7号溝が掘削されることにより南側は三重の区画になる。第8号溝の内側には、当区で最大の床面積となる第10号掘立柱建物が建てられる。第1号溝の外側の建物は、第3号掘立柱建物だけとなり、集落の規模は縮小する。16世紀後葉の集落の消滅と共に、各溝は廃絶されたと考えられる。関連する第1・7・8号溝から出土した遺物の特徴は、小皿が底部から口縁部にかけて直線的に外反しながら薄くなるタイプ(68・71)と、見込みに渦巻き状のナデ痕が残り、器壁が底部から口縁部にかけて薄くなるタイプ(50)、器壁が一定で口縁部・体部にやや厚みをもつタイプ(51・64・72)が見られる。65の内耳鍋は、器壁が厚い点が他の内耳鍋と異なり、第21号井戸出土の内耳鍋に類似している。83は破片の上端部に外耳の痕跡が残っていることから、土師質土器茶釜(以下、茶釜)と考えられる。当時期もⅡ期と同様に生活雑器が多く見られる。この時期に集落は隆盛期を迎えるが、16世紀末には廃絶したと考えられる。茶釜や茶臼の出土から、白湯を飲む習慣や喫茶の習慣のある階層の存在が想定され、上層農民層や海老ヶ島城に関係する家臣団・倅者の存在がうかがえる。

屋敷地Bでは、第18号溝がさらに細分化する。建物は大型化し、第25号掘立柱建物のような張出し部をもつ建物が作られ、周囲には柵が巡っていたと想定される。関連する第18号溝から出土した遺物の特徴は、小皿が底部から口縁部にかけて直線的に外反しながら薄くなるタイプ(96・98・99)が見られる。110の播鉢には、6条1単位の播り目が見られ、112の茶釜は外耳部だけの出土である。

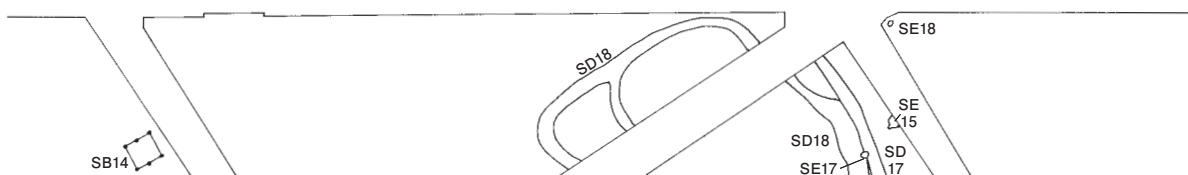
表37 各屋敷地遺構集計一覧

	SB (棟)	SE (基)	想定される 単位集団	ピット (基)
屋敷地A	16	17	3	641
屋敷地B	6	10	1	751
屋敷地C	10	14	3	598

表37から、当区のピット数は最も多いことが分かる。特に、第18号溝区画内の南部に集中しており、この区域が当遺跡内集落の中心であったと想定される。第18号溝から出土したⅠ期の遺物は、青磁や瓶子、天目茶碗などで、張出し部をもつ建物の存在とも合わせて考えると、在地領主層という想定も可能である。東京都南広間地遺跡では、①在地領主層、②下層武士・上層農民層、③一般農民・下層農民層と、村落内における階層での住み分けがなされていた<sup>11)</sup>と考えられており、その分類を参照すると当集落は、①および②に該当すると考えられる。

屋敷地Cでは、第40・46・60号溝が掘削され、第11・13号掘立柱建物が建てられる。第13号掘立柱建物は当区最大の床面積をもち、ここでも拡大化の傾向が見られる。また、第60・61号溝に囲まれた南東部には、倉庫を伴う小規模な第15号掘立柱建物が建てられ、当時期から集落が形成される。関連する第32・46・60号溝から出土した当時期の遺物の特徴は、小皿が底部から口縁部にかけて直線的に外反しながら薄くなるタイプ（123～128・130～132）と、底部から口縁部にかけて直線的に外反しながら薄くなるタイプ（133・178）が見られ、これらは16世紀中葉に比定される。138は土師質土器の高台付皿で、類似したものは、つくば市小泉館跡<sup>12)</sup>、同上野古屋敷遺跡<sup>13)</sup>、桜川市真壁城跡<sup>14)</sup>などで確認されているが、高台部が算盤玉状で、口縁部が底部と平行に外につまみ出される形状に相違が見られ、古瀬戸中期の仏供または後期の仏餉具に類似点が見い出せる。179は方形の土師質土器火鉢、185～187は円形の土師質土器火鉢で、底部に脚の痕跡が認められる。体部外面にはスタンプ文（雷文・花文）や円錐状の貼付が見られる。第32号溝から出土した遺物は、小皿や内耳鍋などの生活雑器が大半を占める。コーナー付近や南部では、一括投棄の様相が見られる。一括投棄は、覆土中層においても見られたが、底部から出土した遺物と時期差がほとんど見られないため、溝はあまり時間をかけずに埋められたと考えられる。また、二次焼成を受けた花瓶や高台付皿の出土から、集落が火災にあった可能性も考えられる。花瓶や高台付皿の出土は、硯や茶臼の出土とも合わせて富裕層や寺院関連施設の存在をうかがわせるものである。

16世紀中葉の戦乱期から、海老ヶ島城周辺の集落は混迷期となる。各屋敷地における細分化された溝の掘削は、区画のためだけではなく、外敵の侵入に備えた土塁の構築に供されたものと推測される。原田信男氏は「中世の在地領主の方形居館は、堀と土塁をともなっていた<sup>15)</sup>」と指摘している。16世紀後葉からは穴戸氏が城主となり、集落も再び安定期に入り、隆盛期を迎えたと考えられる。しかし、I期で多く見られた陶磁器類の出土は、II・III期になるとほとんど見られなくなる。この傾向から、II・III期には、①城主や領主による制約の厳格化、②戦乱期による集落の不安定化、③居住集団の生活の困窮化などの要因が考えられる。



第293図 IV期集落変遷図

(エ) IV期（17世紀前半）

屋敷地Bでは、第18号溝が17世紀初頭までに完全に埋没せずに残るが、集落は消滅していたと考えられる。この第18号溝から出土した遺物は、大窯初期に比定される志野焼の碗（91）および丸皿（92）であり、これらは覆土上層から出土したもので、溝の最終的な埋没時期を示すものである。

屋敷地Cは、この時期に第14号掘立柱建物だけが残ったと推測される。当区以西に集落が見られないことから、当区は集落の外縁部と考えられる。

海老ヶ島城は、17世紀初頭に佐竹氏の国替えと共に廃城となる。明野町史では、「周辺集落から人々が城内に移り住むようになった<sup>16)</sup>」と考えられているが、当集落から城内への移住については明確ではない。

(オ) 集落の性格について

当遺跡は、16世紀を中心とした、15世紀から17世紀にかけての集落である。溝で区画された内側には、多くのピットが検出され、当時の人々の生活の痕跡を見てとることができ、集落における建物の拡大化傾向は、集団の影響力の拡大を表すものと推測される。道路幅という限られた調査のため、十分ではないが、


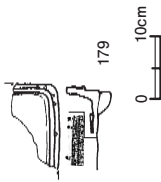



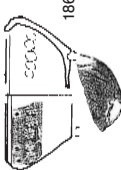

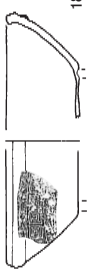



第1号溝跡出土遺物		第7号溝跡出土遺物		第8号溝跡出土遺物	
土師質土器 (小皿)	土師質土器 (内耳鍋)	土師質土器 (小皿)	土師質土器 (内耳鍋)	土師質土器 (小皿)	土師質土器 (内耳鍋・播鉢・茶釜)
国産陶器	国産陶器	国産陶器	国産陶器	国産陶器	国産陶器
<p>49</p>	<p>54</p>	<p>64</p>	<p>57</p>	<p>70 74 75 79</p>	<p>84 82 83</p>
<p>48</p>		<p>65</p>		<p>67</p>	
<p>50</p>				<p>69</p>	
<p>51</p>				<p>71</p>	
				<p>68</p>	
				<p>72</p>	
					<p>77</p>
					<p>0 10cm</p>

第294図 第1・7・8号溝跡出土遺物の変遷

第18号溝跡出土遺物		第32号溝跡出土遺物	
土師質土器 (小皿)	土師質土器 (内耳鍋・播鉢・茶釜)	土師質土器 (小皿)	土師質土器 (内耳鍋・播鉢)
I期 (15世紀代)			
II期 (16世紀前半)			
中葉			
III期 (16世紀後半)			
IV期 (17世紀前半)			

第295図 第18・32号溝跡出土遺物の変遷

第46号溝跡出土遺物		第60号溝跡出土遺物	
土師質土器 (小皿)	土師質土器 (火鉢)	土師質土器 (小皿)	土師質土器 (火鉢)
Ⅰ期(15世紀代)			
Ⅱ期(16世紀前半)			
中葉	 178  179	 181  182  183	 186  185  187 
Ⅲ期(16世紀後半)			
Ⅳ期(17世紀前半)			

第296図 第46・60号溝跡出土遺物の変遷



当遺跡において考えられる集落の性格は、溝を掘削して居宅を構えられる財力のある上層農民層または在地領主層の居住域、あるいは海老ヶ島城に関連した半農生活の家臣団の居住域、さらに村落内寺院関連施設の一部などと推測することができる。

#### イ 掘立柱建物の傾向

当遺跡内から32棟の掘立柱建物跡が検出された。建物の傾向を探るために、建物の向きと規模について検討する。なお遺構は、溝で区画されており、密接な関係が想定されることから、溝の主軸方向と関連づけて検討する。

##### (ア) 建物の向き

32棟の建物の向きは、東西棟が17棟（53.1%）で、南北棟が15棟（46.9%）である。そのうち居宅と想定される建物は、東西棟が9棟（60%）で、南北棟が6棟（40%）である。倉庫または作業小屋と想定される建物は、東西棟が7棟（50%）で、南北棟が7棟（50%）である。居宅は東西棟の割合が多く、南に広場（庭）を多くとるような構造と考えられる。倉庫のうち南北棟の割合が多いのは、居宅に直行するように配備された遺構があったためと考えられる。このような状況は、溝の内外にかかわらず各单位が各々の居住域を意識して集落を構成した結果と推測される。

##### (イ) 規模

表38 性格別掘立柱建物柱間数一覧

各建物の柱間数は、(表38)の通りである。梁行1間の建物は、倉庫的な利用が多く、梁行3間以上の建物は居宅としての利用が多いといえる。服部実喜氏は「中世前期には約九割が桁行三間以下の小型建物であったが、後期には大型化している<sup>17)</sup>」と指摘しており、当遺跡にも同様の傾向が見られる。また、第10・13・25号掘立柱建物跡のような大型の建物は

	居宅 倉庫・作業小屋 井戸の上屋			
	棟/割合 (%)	棟/割合 (%)	棟/割合 (%)	棟/割合 (%)
1×1	11 (34.38)	1 (9.09)	8 (72.73)	2 (18.18)
1×2	1 (3.12)	0	1 (100)	0
2×1	8 (25)	5 (62.5)	2 (25)	1 (12.5)
2×2	5 (15.63)	2 (40)	3 (60)	0
3×1	2 (6.25)	2 (100)	0	0
3×2	2 (6.25)	2 (100)	0	0
4×1	2 (6.25)	2 (100)	0	0
5×1	1 (3.12)	1 (100)	0	0

集落における権力者の居宅と推測され、一般農民層の中での富裕層、半農生活をしている裕富な家臣層、倅者などの存在がうかがえる。特に、第25号掘立柱建物跡は、張出し部を有していることから、当該期における集落内での中心的建物と推測される。茨城県内における張出し部をもつ構造の建物は、鹿嶋市春内遺跡第24号掘立柱建物跡<sup>18)</sup>、行方市今山遺跡第3号掘立柱建物跡<sup>19)</sup>、土浦市神出遺跡第9号掘立柱建物跡<sup>20)</sup>などに類例が見られるが、いずれも建物の性格は明確にされていない。

各建物の床面積は、表39・表40・表41に示したとおりである。10㎡未満の建物は、全体の46.9%で、主に倉庫・作業小屋や井戸の上屋などである。10㎡以上20㎡未満の建物は、全体の34.4%で、倉庫・作業小屋は僅か、居宅の割合が多くなる。20㎡以上の建物は、全体の18.7%で、主に居宅として利用されたと考えられる。前述したように、小～中規模の建物は主に倉庫・作業小屋、中～大規模の建物は主に居宅としての利用がなされたと考えられる。服部実喜氏は、統計資料から「中世後期の村落では、側柱建物の規模が大型化しており、居住施設としての機能が総柱建物から側柱建物に移行した<sup>21)</sup>」と指摘しており、当遺跡にも同様の傾向が見られる。

表39 掘立柱建物の床面積分布表

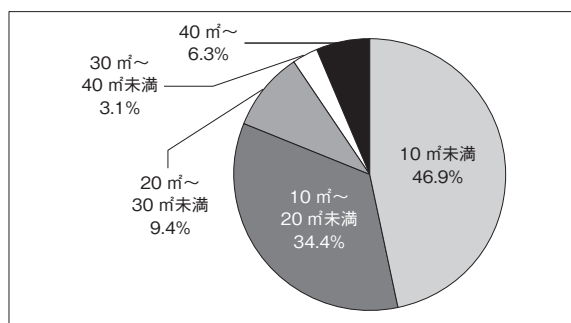


表40 掘立柱建物の床面積集計表

床面積	棟 (%)	居宅棟 (%)	倉庫・作業小屋棟 (%)	井戸の上屋棟 (%)
10㎡未満	15 (46.9)	0	13 (86.7)	2 (13.3)
10㎡以上20㎡未満	11 (34.4)	9 (81.8)	1 (9.1)	1 (9.1)
20㎡以上30㎡未満	3 (9.4)	3 (100)	0	0
30㎡以上40㎡未満	1 (3.1)	1 (100)	0	0
40㎡以上	2 (6.2)	2 (100)	0	0

(ウ) 主軸方向

建物の主軸方向については、区画のための溝との関連が不可分であると考え、関連する溝の主軸方向（南北方向）と比較する。建物の主軸方向が溝の主軸方向に対し、0°～9°西、または81°～90°東に主軸方向をもつものをA類、0°～9°東、または81°～90°西に主軸方向をもつものをB類、10°～19°東、または71°～80°西に主軸方向をもつものをC類とした。（表41※2・表42）。

表41 掘立柱建物跡一覧表 2

	屋敷地※1	主軸方向	柱間数 桁間 × 梁間	規模 (m) 桁行 × 梁行	面積 ㎡	桁行柱間寸法 (平均)	梁行柱間寸法 (平均)	建物の向き	対応する溝		類別※2	性格	時期※3
									番号	溝主軸方向 (南北方向)			
SB1	A	N-80°-W	2×2	3.4×3.0	10.2	1.70	1.50	東西棟	1	S-20°-W	C	居宅	I
SB2	A	N-84°-W	3×2	3.9×2.8	10.9	1.30	1.40	東西棟	1	S-20°-W	C	居宅	II
SB3	A	N-84°-W	3×2	4.2×3.0	12.6	1.40	1.50	東西棟	1	S-20°-W	C	居宅	III
SB4	A	N-70°-W	2×2	3.8×3.0	11.4	1.90	1.50	東西棟	1	S-20°-W	B	倉庫	II
SB5	A	N-70°-W	2×1	3.2×3.0	9.6	1.60	3.00	東西棟	1	S-20°-W	B	倉庫	I
SB6	A	N-18°-E	2×1	5.5×3.6	19.8	2.75	3.60	南北棟	1	S-20°-W	A	居宅	II
SB7	A	N-15°-E	2×1	2.6×2.1	5.5	1.30	2.10	南北棟	8	S-20°-W	A	倉庫	III
SB8	A	N-17°-E	2×1	3.9×2.7	10.5	1.95	2.70	南北棟	8	S-20°-W	A	居宅	II
SB10	A	N-74°-W	4×1	9.9×4.3	42.6	2.48	4.30	東西棟	8	S-20°-W	B	居宅	III
SB11	C	N-2°-E	2×1	4.5×3.6	16.2	2.25	3.60	南北棟	32	N-90°-W	B	居宅	III
SB12	C	N-86°-E	3×1	7.5×3.0	22.5	2.50	3.00	東西棟	32	N-90°-W	A	居宅	II
SB13	C	N-87°-W	5×1	11.0×4.1	45.1	2.20	4.10	東西棟	32	N-90°-W	B	居宅	III
SB14	C	N-80°-W	2×1	5.0×4.7	23.5	2.50	4.70	東西棟	60	S-9°-W	C	居宅	IV
SB15	C	N-12°-E	1×1	4.0×2.7	10.8	4.00	2.70	南北棟	60	S-9°-W	B	居宅	III
SB16	C	N-7°-E	1×1	2.7×2.1	5.7	2.70	2.10	南北棟	60	S-9°-W	A	倉庫	III
SB17	C	N-77°-W	1×1	2.7×2.2	5.9	2.70	2.20	東西棟	46	S-10°-W	C	倉庫・小屋	I
SB18	C	N-73°-W	1×1	2.4×1.6	3.8	2.40	1.60	東西棟	46	S-10°-W	C	上屋	I
SB19	C	N-10°-E	1×1	2.9×2.1	6.1	2.90	2.10	南北棟	46	S-10°-W	A	倉庫・小屋	II
SB20	C	N-5°-E	1×1	2.4×1.8	4.3	2.40	1.80	南北棟	32	N-90°-W	B	倉庫・小屋	II
SB21	B	N-5°-W	1×1	2.1×1.8	3.8	2.10	1.80	南北棟	18	N-0°	A	倉庫・小屋	III
SB22	B	N-7°-E	2×1	3.8×3.3	12.5	1.90	3.30	南北棟	18	N-0°	A	上屋	II
SB23	B	N-89°-W	1×1	2.6×1.8	4.7	2.60	1.80	東西棟	18	N-0°	A	倉庫・小屋	I
SB24	B	N-5°-W	1×1	2.6×2.2	5.7	2.60	2.20	南北棟	18	N-0°	A	倉庫・小屋	I
SB25	B	N-9°-E	4×1	8.6×5.0	30.0	2.15	3.00	南北棟	18	N-0°	A	居宅	III
SB26	A	N-79°-W	2×2	4.8×2.7	13.0	2.40	1.35	東西棟	8	S-20°-W	B	居宅	I
SB27	A	N-88°-W	2×2	3.0×2.2	6.6	1.50	1.10	東西棟	8	S-20°-W	C	倉庫	I
SB28	A	N-23°-E	2×2	3.6×2.7	9.7	1.80	1.35	南北棟	8	S-20°-W	A	倉庫	II
SB29	A	N-79°-W	1×1	3.2×2.2	7.0	3.20	2.20	東西棟	8	S-20°-W	B	倉庫	I
SB30	A	N-76°-W	2×1	3.4×3.2	10.9	1.70	3.20	東西棟	1	S-20°-W	B	居宅	I
SB31	A	N-79°-W	1×2	3.0×2.0	6.0	3.00	1.00	東西棟	1	S-20°-W	B	倉庫	I
SB32	A	N-16°-E	1×1	2.0×1.0	2.0	2.00	1.00	南北棟	8	S-20°-W	A	上屋	II
SB33	B	N-3°-W	3×1	6.4×3.8	24.3	2.13	3.80	南北棟	18	N-0°	A	居宅	II

表42 時期別建物類別集計表

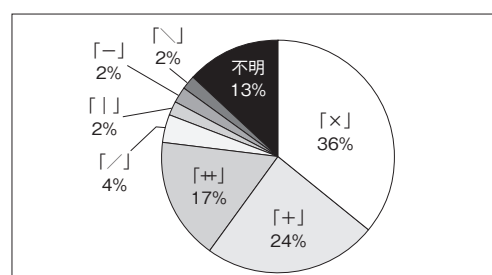
	A類				B類				C類					
	全体 棟(%)	内 訳			全体 棟(%)	内 訳			全体 棟(%)	内 訳				
		区	棟	性 格		区	棟	性 格		区	棟	性 格		
I 期	2 棟 (20.0)	屋敷地A	0		5 棟 (50.0)	屋敷地A	5	居宅2, 倉庫3	3 棟 (30.0)	屋敷地A	2	居宅, 倉庫		
		屋敷地B	2	倉庫・小屋			屋敷地B	0				屋敷地B	0	
		屋敷地C	0				屋敷地C	0				屋敷地C	1	倉庫・小屋
II 期	8 棟 (66.6)	屋敷地A	4	居宅2, 倉庫, 上屋	2 棟 (16.7)	屋敷地A	1	倉庫	2 棟 (16.7)	屋敷地A	1	居宅		
		屋敷地B	2	居宅, 上屋			屋敷地B	0				屋敷地B	0	
		屋敷地C	2	居宅, 倉庫・小屋			屋敷地C	1		倉庫・小屋		屋敷地C	1	上屋
III 期	4 棟 (44.4)	屋敷地A	1	倉庫	4 棟 (44.4)	屋敷地A	1	居宅	1 棟 (11.2)	屋敷地A	1	居宅		
		屋敷地B	2	居宅, 倉庫・小屋			屋敷地B	0				屋敷地B	0	
		屋敷地C	1	倉庫			屋敷地C	3		居宅3		屋敷地C	0	
IV 期		屋敷地A	0			屋敷地A	0		1 棟 (100)	屋敷地A	0			
	屋敷地B	0			屋敷地B	0				屋敷地B	0			
	屋敷地C	0			屋敷地C	0				屋敷地C	1	居宅		

表41・表42からI期は、溝と主軸方向が合わないC類の建物が多い傾向にある。まだ溝が構築されていなかったためと考えられる。各屋敷地では、第1・8・18・32号溝の構築後から、溝を主体とする集落が形成され始めたと推測される。II期は、各区の集落の増加と共に溝も構築され、屋敷地Aの1棟を除き、対応する溝に合わせて主軸方向をとるA類の建物が多く、集落を区画する溝をかなり意識していたと考えられる。III期は、溝に対して直交するように主軸方向をとるB類の居宅が多くなる。さらにIV期は建物が1棟となり、集落は消滅していったと推測される。

#### ウ ヘラ記号について

本跡内で出土したヘラ記号は46例あり、5種類に類別できる(表43)。内容は「×」が16例、「+」は11例、「++」は8例、「/」は2例、「|」は1例、「—」が1例、「\」は1例、不明は6例である。ヘラ記号を記す際の鍋の向きは、正位が17例(36.9%)、横位は13例(28.3%)、逆位は16例(34.8%)である。鍋類は主に溝跡や井戸跡からの出土で、15世紀後葉から16世紀前半の遺物と供伴している。ヘラ記号のある鍋類の出土例は、小泉館跡で「×」が1点、龍ヶ崎市屋代B遺跡で「×」が4点<sup>22)</sup>、「炭焼戸東遺跡」で「+」が2点、栃木県北の前遺跡で「×」が3点と「|」が1点<sup>23)</sup>出土している。ヘラ記号の性格として考えられることは、「+」「++」の例から「10」「20」といった数を表すもの、または数種類の記号の例から生産工人を識別するためのもの等が考えられる。また、これらの鍋類の生産地については、雲母片(遺物観察表中では「金雲母」と表記)が胎土に含まれているものは、真壁地方産と考えられていることから、当遺跡周辺にその産地が存在したことが推測される。

表43 類別ヘラ記号割合



#### (4) 近世以降

中世に画期をみた集落は急激に減少し、17世紀には他地域に移動したものと推測される。周辺住民は、佐竹氏の国替えによって廃城となった海老ヶ島城内に移り住む者もいたとされており、戦国末期の様相からは一変する。江戸時代になると、当遺跡を含む周辺の領地は、幕府の直轄地となる。近・現代において

は、田畑として耕作され、現在も豊かな田園風景が広がっている。

## 2 小結

炭焼戸東遺跡は、縄文時代・古墳時代・中世から現代にかけての複合遺跡であることが判明した。特に、中心となる時期は中世末で、16世紀を中心とした海老ヶ島城に関連する家臣団、あるいは上層農民層または在地領主層の居住域であったと考えられる。城とは密接な関係を持ち、城主の交代に伴って当集落も消滅したものと考えられる。今回の調査で、あまり明確にされていない中世集落跡の一部を調査したことは、稀少な事例となった。この成果が、今後の中世集落研究の手がかりとなり、さらに当地域の歴史解明の一助となることを期待したい。

### 註

- 1) 折原洋一・松田政基「炭焼戸東遺跡 県営ほ場整備事業（経営体）松原地区関連遺跡発掘調査報告書1」『筑西市埋蔵文化財調査報告書』第2集 2006年9月
- 2) 照山大作「鍋山東原遺跡 つくば明野北部工業団地地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第266集 2006年3月
- 3) 藤沢良祐「産地別による生産技術の展開からの編年－瀬戸系」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～発表要旨集』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会 2005年9月
- 4) 中野晴久「産地別による生産技術の展開からの編年－常滑・渥美系」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～発表要旨集』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会 2005年9月
- 5) 年表の作成にあつては、以下の資料から抜粋して作成した。
  - a 『明野町誌』明野町史編さん委員会 1985年7月
  - b 『結城市史 第4巻 古代中世通史編』結城市史編さん委員会 1980年10月
  - c 『友部町誌』友部町史編さん委員会 1990年3月
  - d 佐藤博信『続中世東国の支配構造』思文閣出版 1996年10月
- 6) 原田信男「村落景観と墓地」『中世村落の景観と生活－関東平野東部を中心として－』思文閣出版 1999年12月
- 7) 笹生衛「東国における中世墓地の諸相－房総の事例を中心に－」『研究紀要』16号 千葉県文化財センター 1995年1月笹生衛氏は次のような類型化をしている。A類型：武士層型墓域＝「蔵骨器を付随する火葬墓で集石遺構と石塔や板碑を伴う」B類型：供養塔・寺院型墓域＝「大型板碑・供養塔の周辺もしくは寺院内境内に蔵骨器を有する火葬墓を中心として土壙甕棺墓・土壙墓で構成され、被葬者は僧侶層やそれに帰した武士層で多くの板碑を伴う」C類型：土豪層主導型墓域＝「少数の火葬土坑もあるが多数の土壙墓に地下式壙が付随し、多数の石塔・板碑を伴う」D類型：上層農民主導型墓域＝「多数の土壙墓を中心に火葬土坑・地下式壙を伴うが板碑が極端に少ない」E類型：農民層屋敷・垣内墓型墓域＝「小規模で土壙墓の数が少なく板碑も極端に少ない」
- 8) 浅川滋男・箱崎和久「南関東地域における中近世建物遺構の変遷」『奈良国立文化財研究所シンポジウム報告 埋もれた中近世の住まい』同成社 2001年5月
- 9) 前掲1)
- 10) 石井進・石母田正・笠松宏至・勝俣鎮夫・佐藤新一「日本思想大系・中世政治社会思想 上」岩波書店 2001年12月の補注には、「<sup>かぜもの</sup>倅者とは、名字をもち侍身分の最下位、<sup>ちゆうげん</sup>中間の上位に位置付けられた身分の呼称とされている。」とある。
- 11) 前掲8)
- 12) 矢ノ倉正男「小泉館跡 一般県道高野筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第97集 1995年3月
- 13) 三谷正・大塚雅昭・桑村裕「上野古屋敷遺跡1 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第285集 2007年3月



- 14) a 宇留野主税「史跡真壁城跡Ⅱ－外曲輪中央部の調査概要－」『真壁城発掘調査報告』第2集 2005年3月  
b 宇留野主税・越田真太郎「史跡真壁城跡Ⅲ－外曲輪中央部・東部・北部の調査概要－」『真壁城発掘調査報告』第3集 2006年3月
- 15) 原田信男「中世の城館」『中世村落の景観と生活－関東平野東部を中心として－』思文閣出版 1999年12月には、「中世在地領主の方形居館には、堀と土塁がともない、小城郭の如きイメージが定着していた。一般に武家の屋敷地は、堀もしくは土塁などで囲まれて、その内部に屋敷や耕地などを包含して課税を除外されるなど、特別な空間であった。これは中世における武士が、農業を営みつつも軍事的な職能集団であったことの象徴で、そうした特殊な要素を持った居住空間が、中世村落には無数に存在していた。」と指摘している。
- 16) 前掲5a)
- 17) 前掲8)
- 18) 宮崎美和子「春内遺跡－一般国道124号線バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」『鹿島町の文化財』第89集 鹿島町文化・スポーツ振興事業団 1995年3月
- 19) 汀安衛『茨城県行方郡北浦村今山遺跡調査報告書』山田地区遺跡発掘調査会 1990年3月
- 20) 土生朗治『茨城県土浦市東出・神出・中居遺跡－宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』土浦市教育委員会 1999年10月
- 21) 前掲8)
- 22) 根本康弘「屋代B遺跡1 竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書13」『茨城県教育財団文化財調査報告』第33集 1986年3月
- 23) 今平昌子・杉浦昭博「北の前遺跡(中・近世編)－一般国道119号豊郷工区改良事業・宇都宮北道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第252集 2002年3月には、「この時期、北の前遺跡は宇都宮氏の支配を受けていたと考えられ、宇都宮氏は佐竹氏とのつながりがあり常陸との関わりは深いと考えられる。」と指摘している。また、佐竹義宣と宇都宮国綱は従兄弟であり、豊臣氏の小田原討伐に際して、共に参陣するなど政策面でのつながりも見られる。

## 参考文献

- ・「茨城の縄文土器」『茨城県立歴史館叢書9』茨城県立歴史館史料部 2006年3月
- ・川村満博「中世初期から中期の常陸国のかわけについて」『菟玖波－川井正一・齋藤弘道・佐藤正好先生還暦記念論集－』川井正一・齋藤弘道・佐藤正好先生還暦記念事業実行委員会 2007年2月
- ・石橋充・広瀬季一郎『史跡小田城－第45次調査(周辺曲輪確認調査Ⅱ)概要報告－』つくば市教育委員会 2003年3月
- ・石橋充・広瀬季一郎『史跡小田城－第48次調査(本丸跡確認調査Ⅳ)概要報告－』つくば市教育委員会 2004年3月
- ・広瀬季一郎『史跡小田城－第50次調査(本丸跡確認調査Ⅴ)概要報告－』つくば市教育委員会 2005年3月
- ・酒井雄一・渡邊浩実・齋藤貴史・清水哲「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第280集 2007年3月
- ・小野正敏『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会 2001年3月
- ・江戸遺跡研究会『図説江戸考古学研究辞典』柏書房 2001年4月
- ・中近世部会いわき事務局「東北地方南部における中近世集落の諸問題」福島県考古学会中近世部会 2000年9月
- ・稲田義弘「新善光寺跡 宍戸城跡 主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第256集 2006年3月
- ・田代隆・鈴木泰浩・山口耕一・藤田典夫・君島みどり「下古館遺跡－住宅・都市整備公団小山・栃木都市計画事業自治医科大学周辺地区埋蔵文化財発掘調査」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第166集 1995年3月

写 真 图 版

菰 冠 北 遺 跡



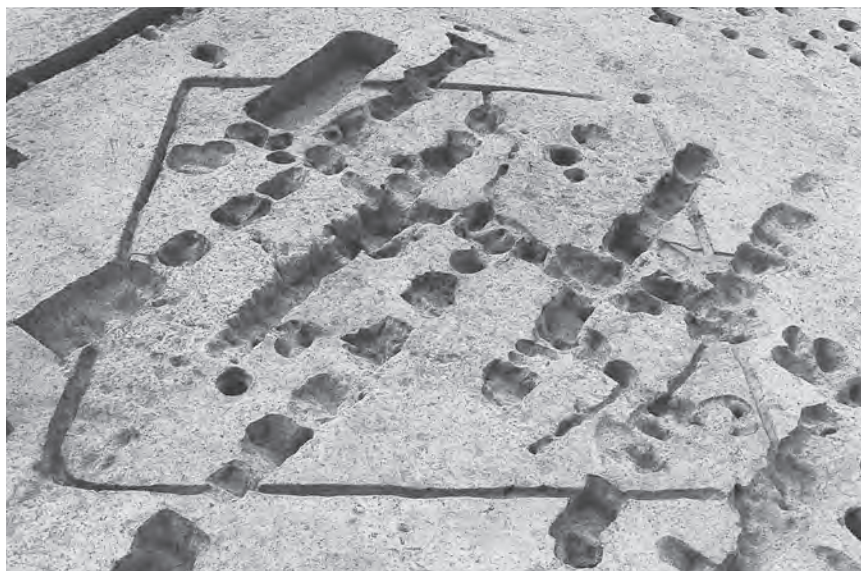
菰冠北遺跡完掘狀況



調査区全景  
完掘状況



第1号住居跡  
完掘状況



第2号住居跡  
完掘状況





PL 2



第 2 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 2 号 住 居 跡 竈  
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第1号掘立柱建物跡  
完掘状況



第2号掘立柱建物跡  
完掘状況

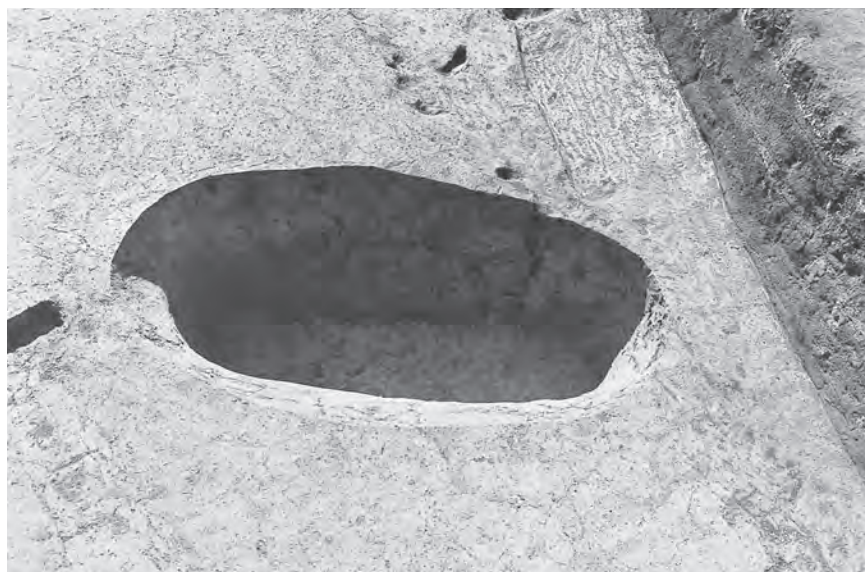


第1号陥し穴  
完掘状況





PL 4



第 2 号 陥 し 穴  
完 掘 状 況



第 1 号 溝 跡 北 西 部  
完 掘 状 況



第 1 号 道 路 跡  
完 掘 状 況



SI1 - 1



SI2 - 7



SI1 - 5



SI2 - 8



SI2 - 9



SI2 - 11

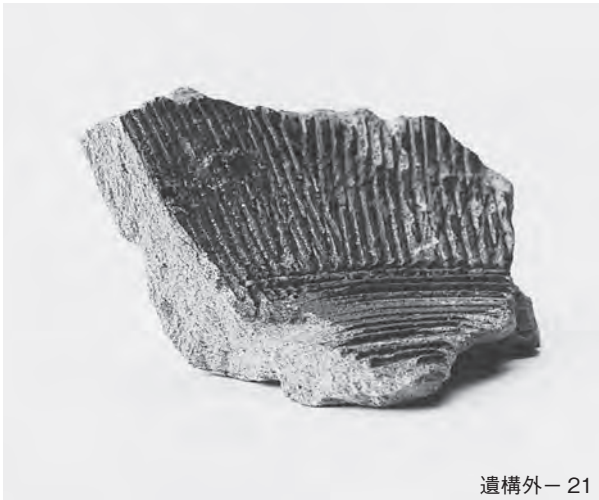




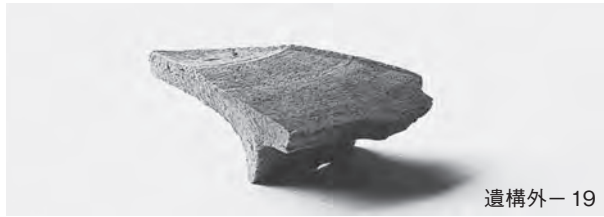
SI2 - 10



SI2 - 12



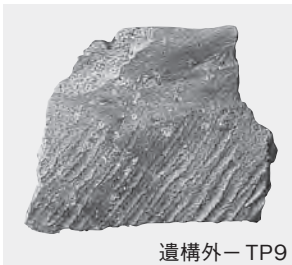
遺構外 - 21



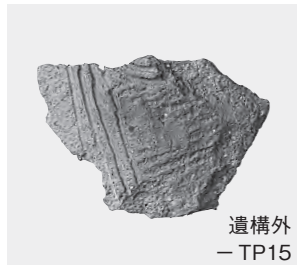
遺構外 - 19



遺構外 - 20



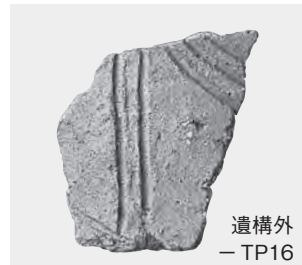
遺構外 - TP9



遺構外 - TP15



遺構外 - TP10



遺構外 - TP16



SI2 - DP1



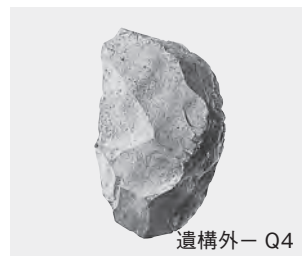
SK166 - Q1



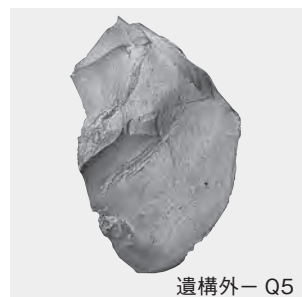
遺構外 - Q2



遺構外 - Q3



遺構外 - Q4



遺構外 - Q5

第2号住居跡, 第166号土坑, 遺構外出土土器  
出土土製品・石器

# 写真図版

## 炭焼戸東遺跡



炭焼戸東遺跡第2～4区完掘状況



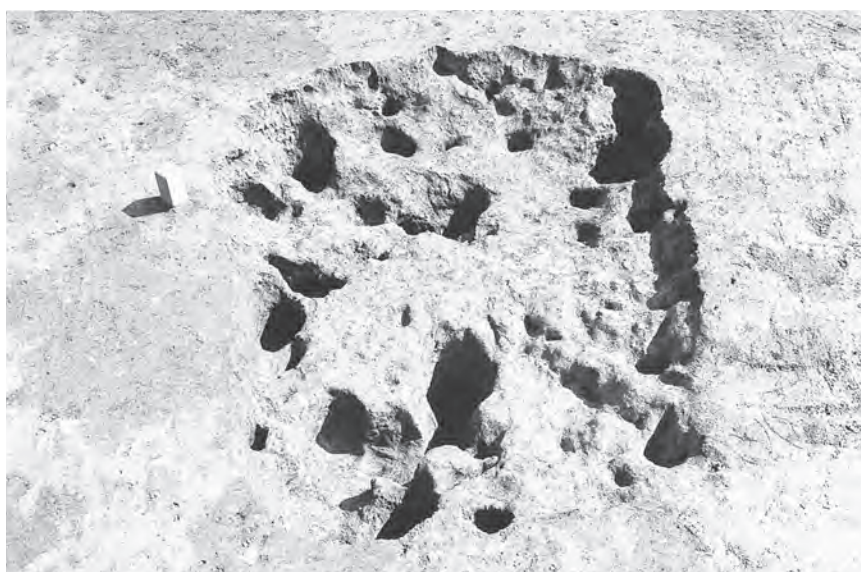
第 1 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



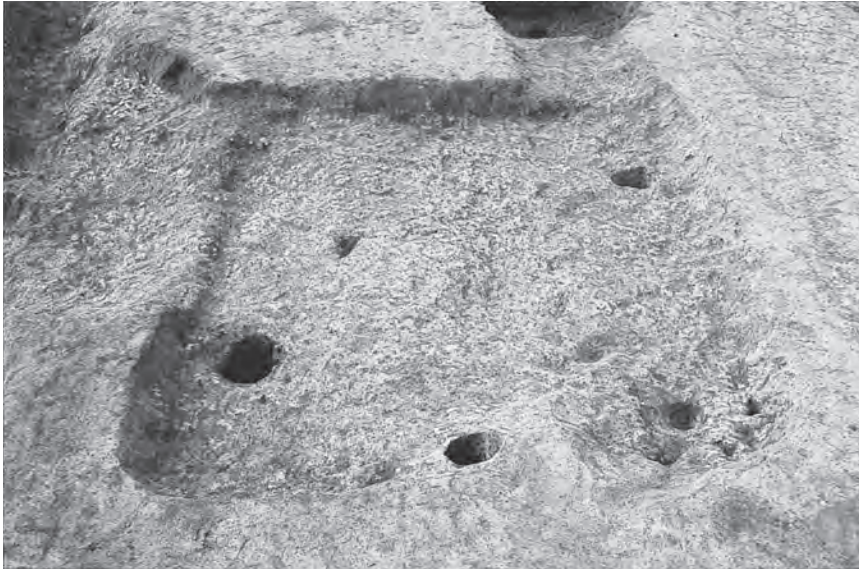
第 1 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



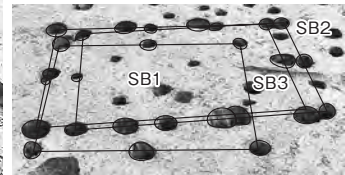
第 1 号 方 形 豎 穴 遺 構  
完 掘 状 況



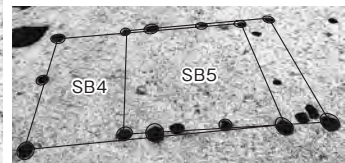




第4号方形竖穴遺構  
完掘状況

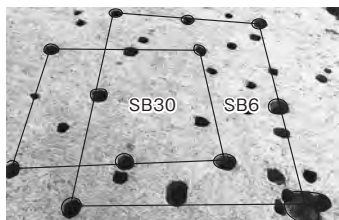


第1～3号掘立柱建物跡  
完掘状況(北から)

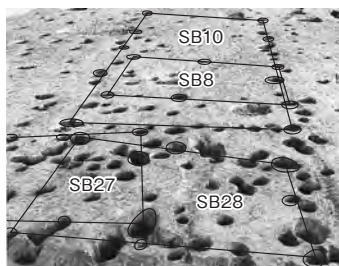


第4・5号掘立柱建物跡  
完掘状況(北から)





第6・30号掘立柱建物跡  
完掘状況(北から)



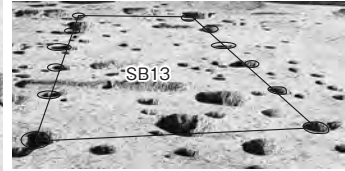
第8・10・28号掘立柱建物跡  
完掘状況(西から)



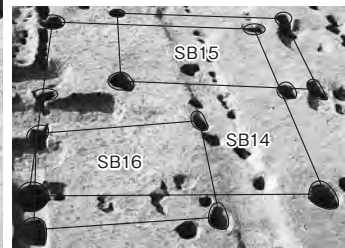
第11・12号掘立柱建物跡,  
第2号ピット群  
完掘状況(東から)



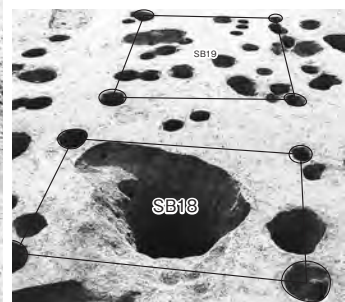




第13号掘立柱建物跡，  
第2号ピット群  
完掘状況(東から)



第14～16号掘立柱建物跡  
完掘状況(東から)

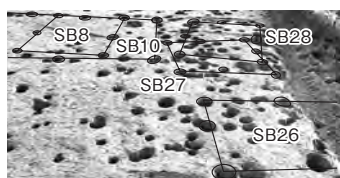


第18・19号掘立柱建物跡，  
第43号井戸跡  
完掘状況(北から)

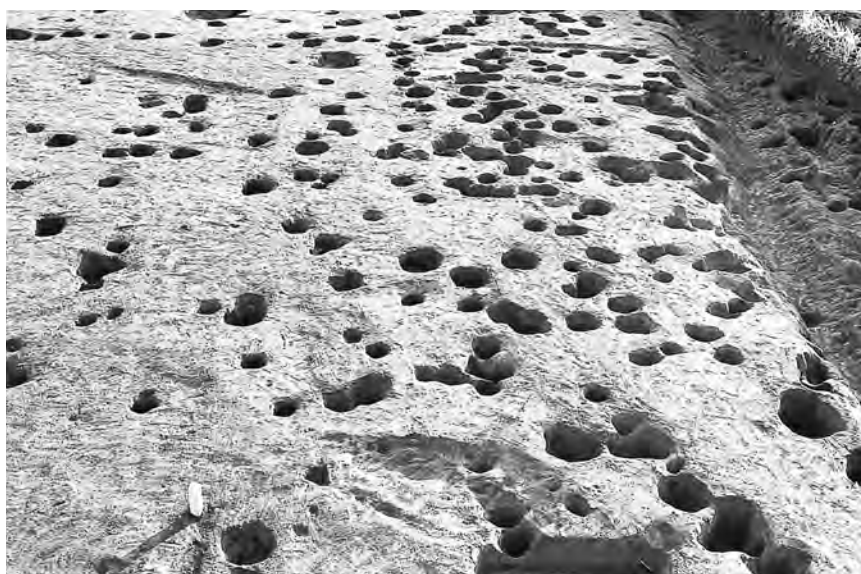




第26号掘立柱建物跡,  
第8号溝跡北西部  
完掘状況(北から)



第27・28号掘立柱建物跡  
完掘状況(北から)



第32号掘立柱建物跡,  
第13号井戸跡  
完掘状況(西から)

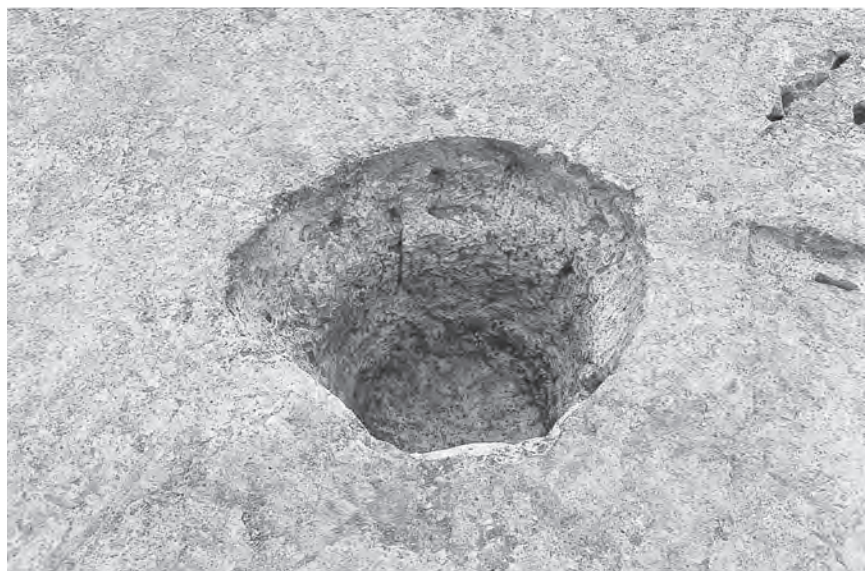




PL 6



第 1 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 3 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 4 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 5 号 井 戸 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 8・10 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 14 号 井 戸 跡  
遺 物 出 土 状 況





PL 8



第 15 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 18 号 井 戸 跡, 第 8 号 溝 跡  
完 掘 状 況



第 22 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 25 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 29 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 38 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況







第 42 号 井 戸 跡  
遺 物 出 土 状 況



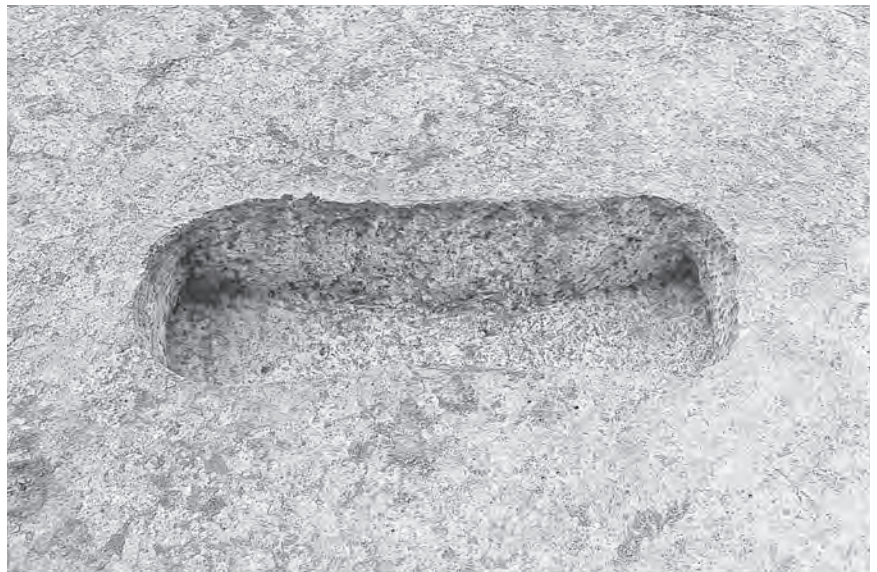
第 44 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 44 号 井 戸 跡  
遺 物 出 土 状 況



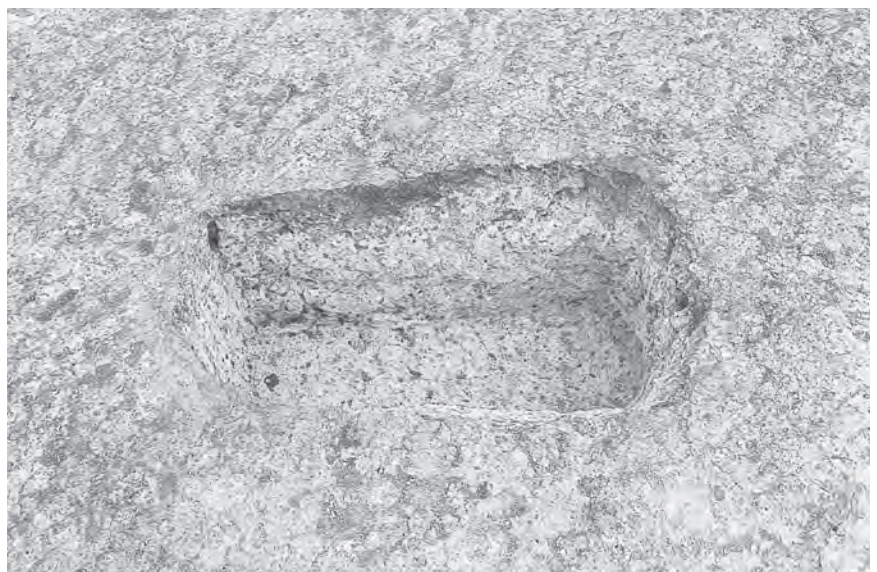
第 1 号 陥 し 穴  
完 掘 状 況



第 2 号 陥 し 穴  
完 掘 状 況



第 3 号 陥 し 穴  
完 掘 状 況







第 4 号 陥 し 穴  
完 掘 状 況



第 5 号 陥 し 穴  
完 掘 状 況



第 1 号 火 葬 土 坑  
完 掘 状 況



第 2 号 火 葬 土 坑  
遺 物 出 土 状 况 ( 人 骨 )



第 3 号 火 葬 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 4 号 火 葬 土 坑  
遺 物 出 土 状 况







第 1 号 墓 坑  
完 掘 状 况



第 1・4 ~ 6 号 溝 跡  
完 掘 状 况



第 1 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 况



第 7・8 号 溝 跡  
完 掘 状 況



第 7 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 8 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況







第 18 号 沟 迹 北 西 部  
完 掘 状 况



第 18 号 沟 迹 北 部 分 岐 点  
完 掘 状 况



第 18 号 沟 迹  
遗 物 出 土 状 况



第32号溝跡西側  
遺物出土状況



第32号溝跡北西コーナー付近  
遺物出土状況



第32号溝跡北西コーナー部  
遺物出土状況







第 33 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 46 号 溝 跡  
完 掘 状 況



第 60・62・63 号 溝 跡  
完 掘 状 況



第 60 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 炭 焼 窯 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 3 号 ピ ッ ト 群  
完 掘 状 況





SK186 - 1



SI1 - 2



SI1 - 3



SI1 - 7



SI1 - 9

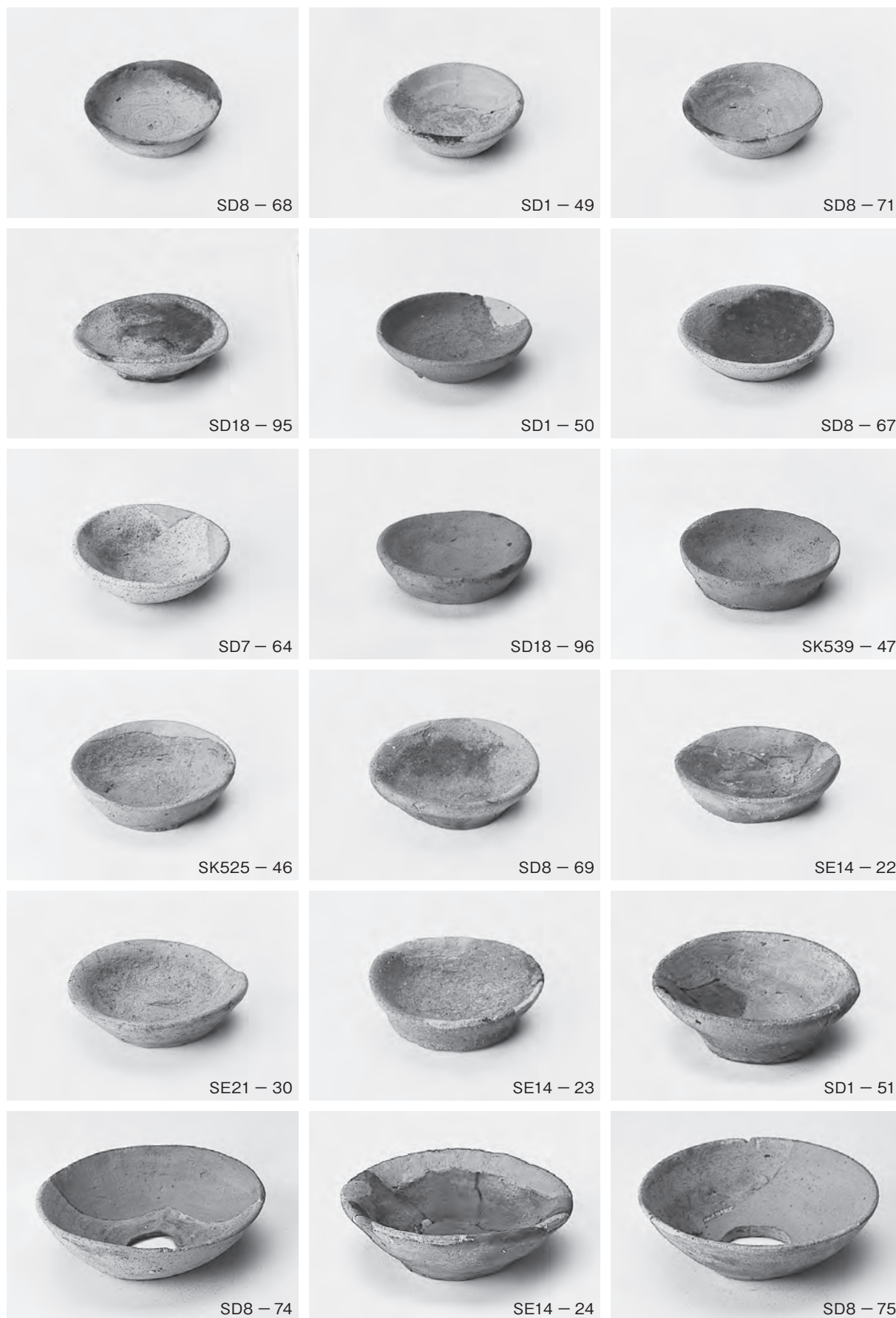


SI1 - 8

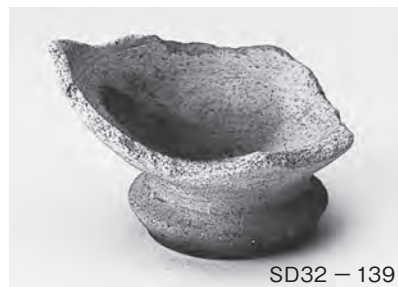
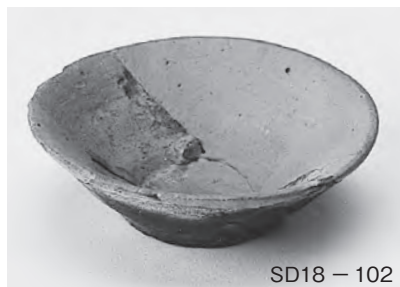
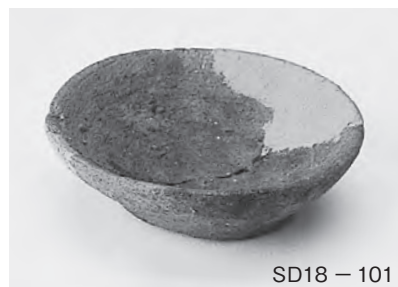


SI1 - 5





第14・21号井戸跡，第525・539号土坑，第1・7・8・18号溝跡出土土器





第21号井戸跡, 第32号溝跡出土土器







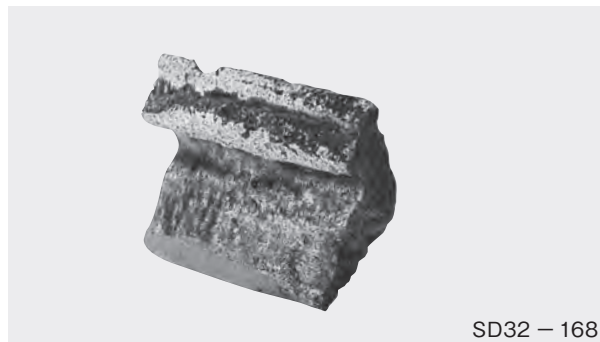
SD4 - 60



SD18 - 115



PG3 - 197



SD32 - 168



SD46 - 180



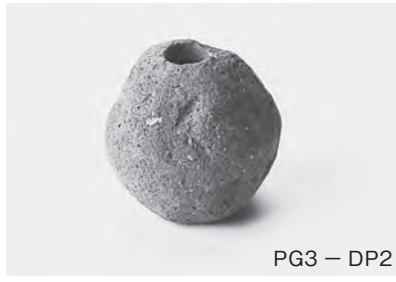
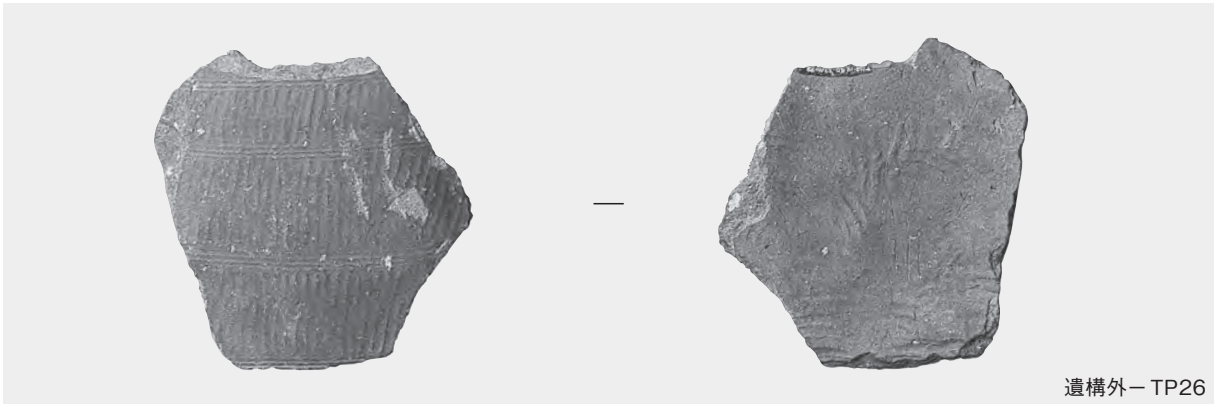
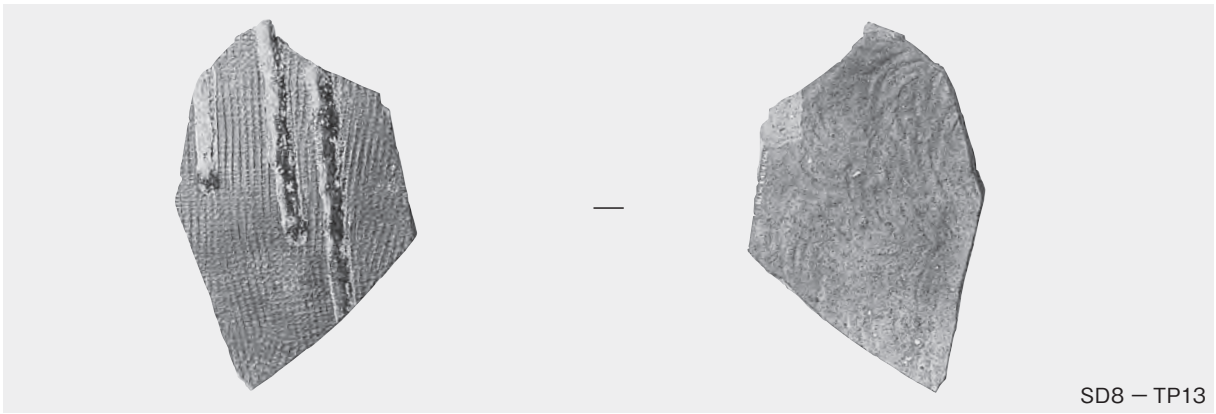
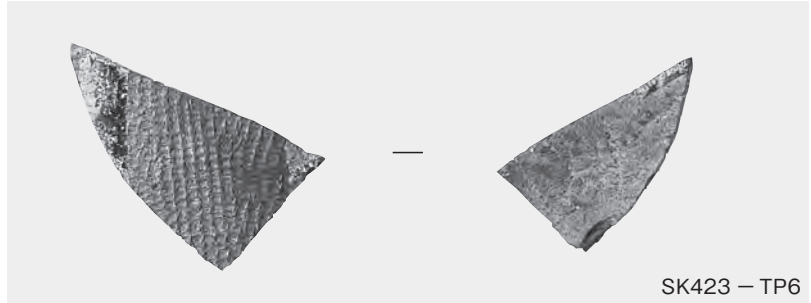
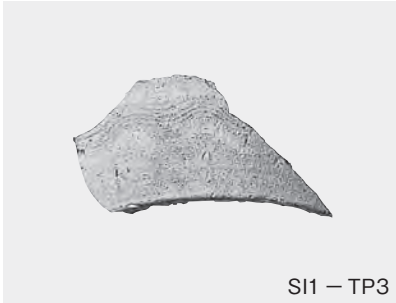
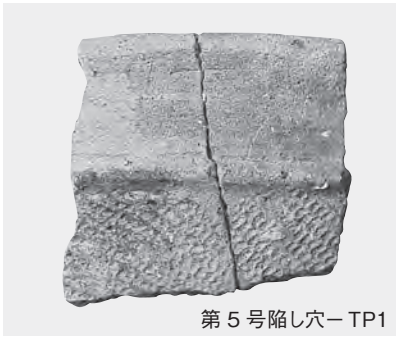
PG1 - 196



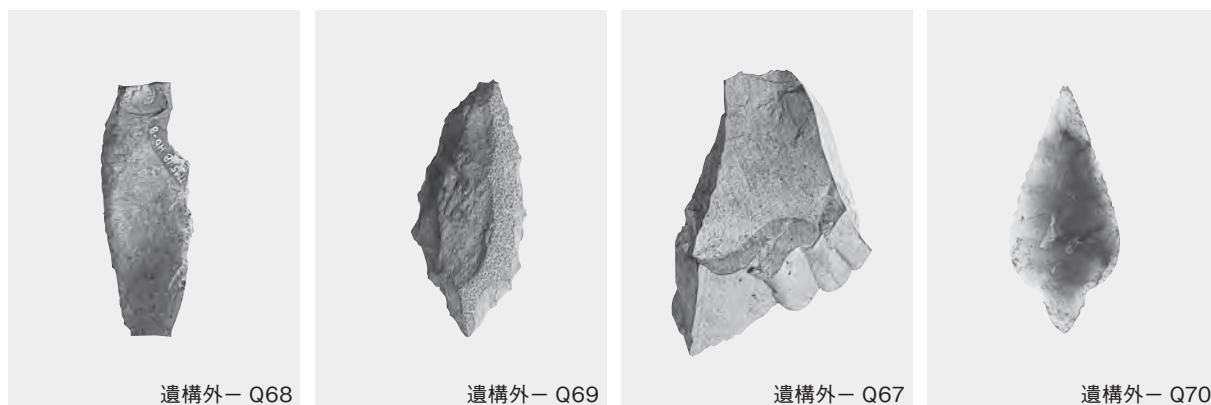
SD60 - 189



SD18 - 116





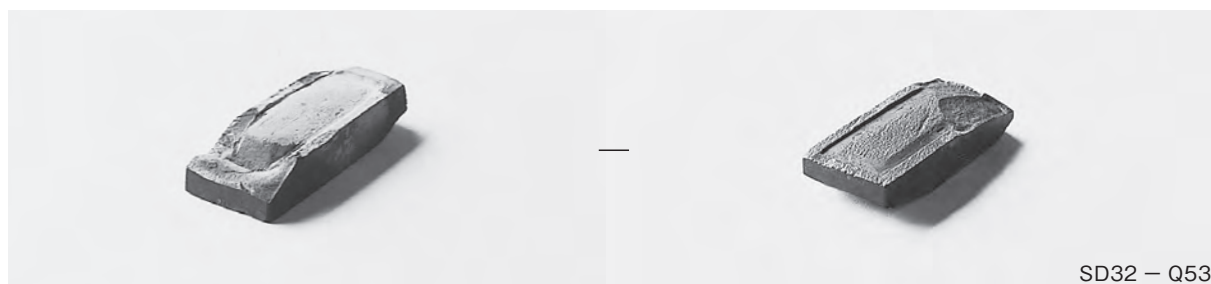


遺構外- Q68

遺構外- Q69

遺構外- Q67

遺構外- Q70



SD32 - Q53



SE16 - Q8

SE41 - Q13

SK498 - Q15



SK500 - Q16

SD1 - Q22

SD8 - Q33



SD60 - Q58

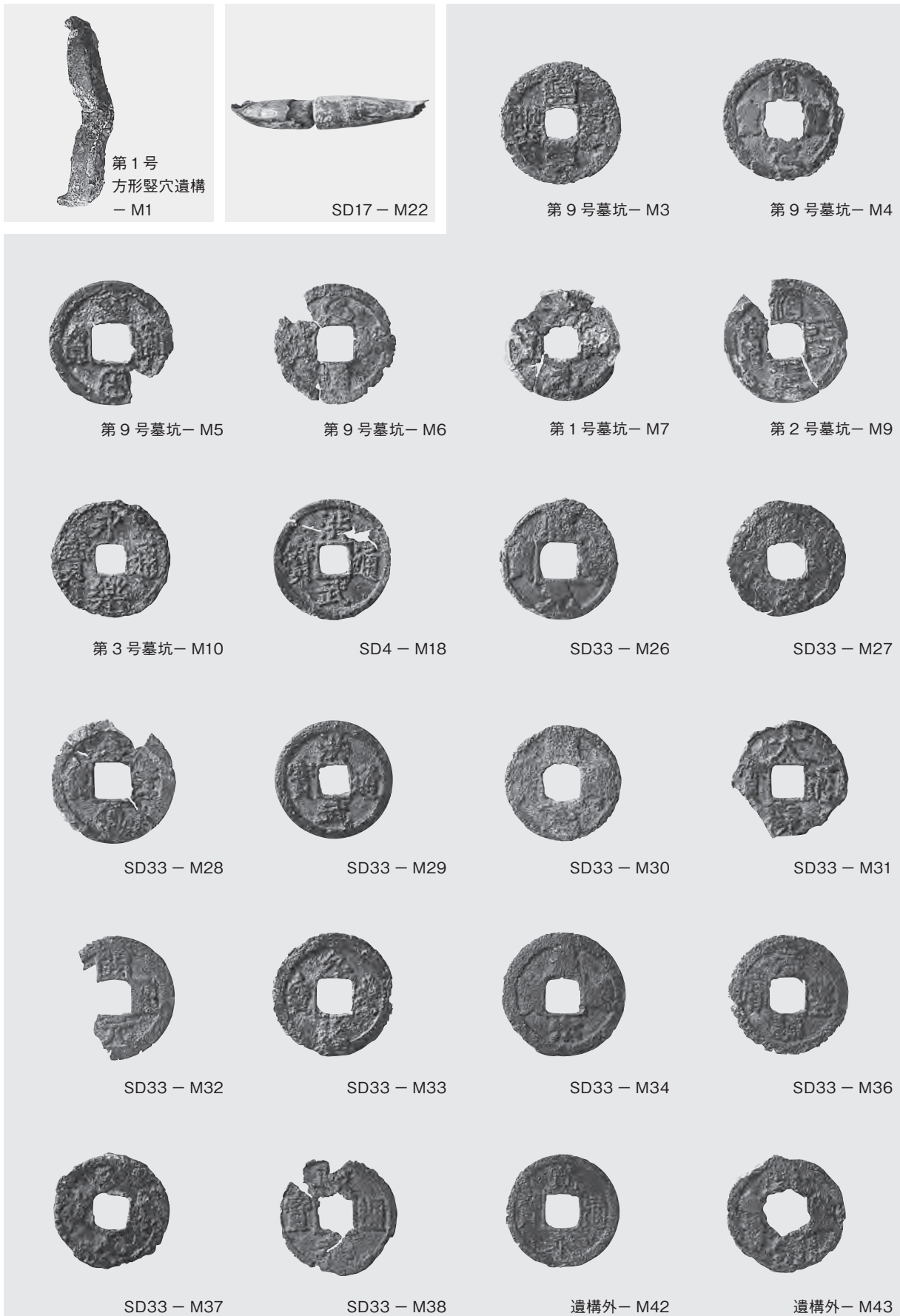
遺構外- Q73

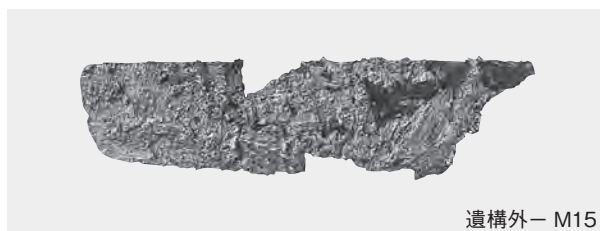
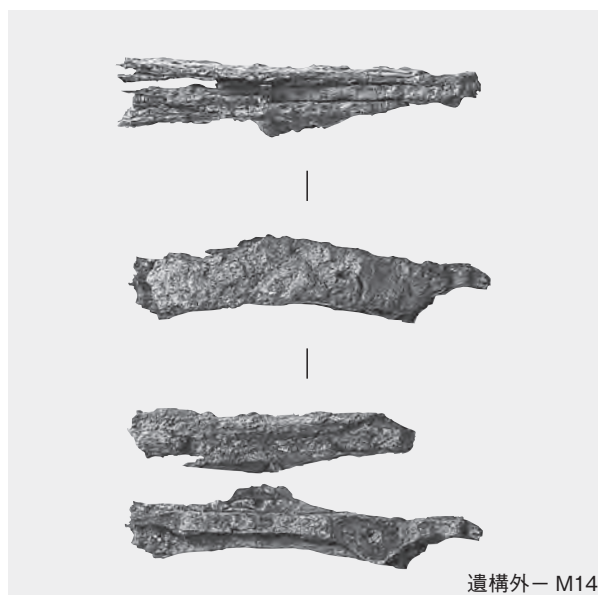
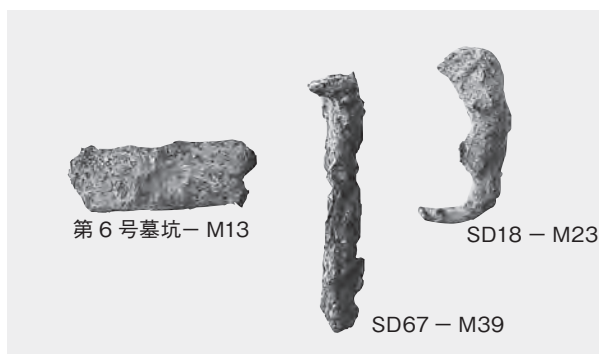
遺構外- Q74





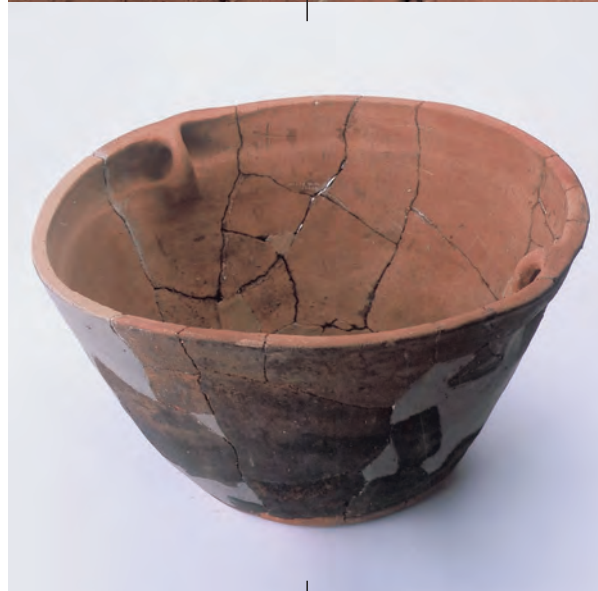












第32号溝跡出土土器







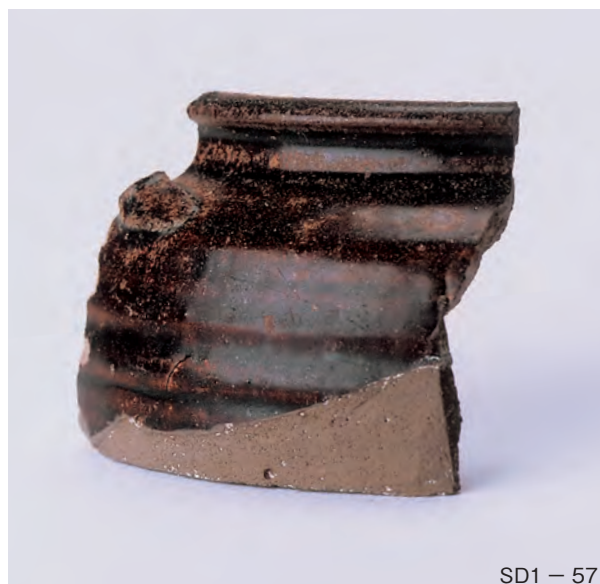
SD46 - 176



SD66 - 191



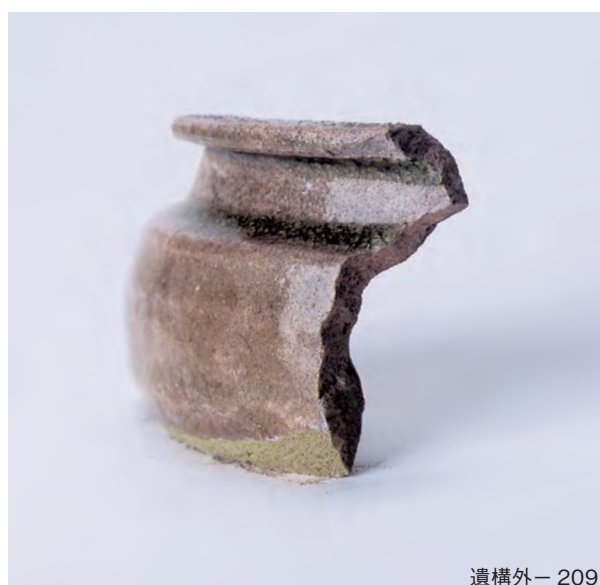
SD18 - 108



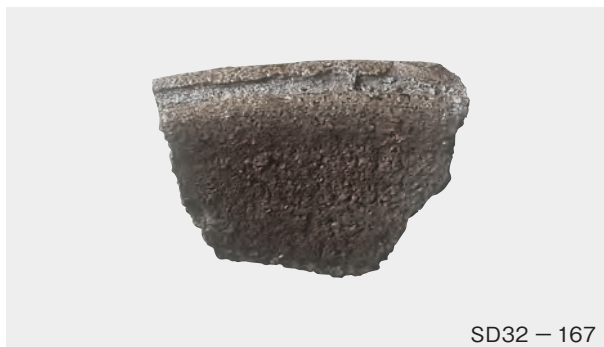
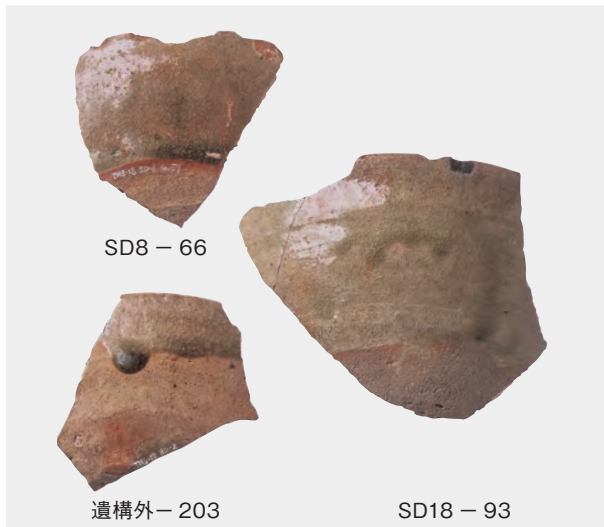
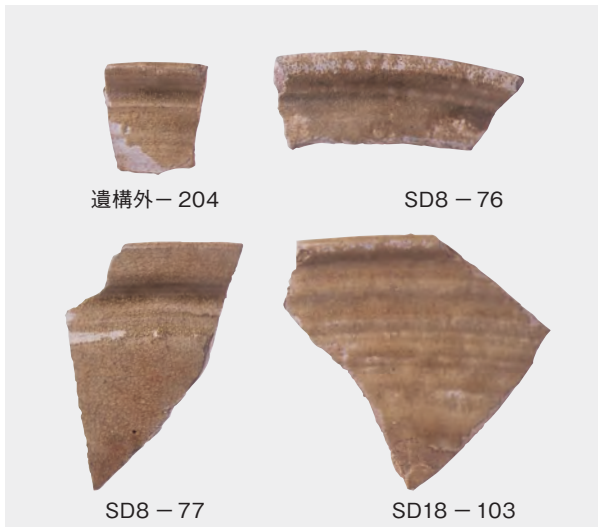
SD1 - 57



SD8 - 84



遺構外 - 209



第7・8・16・18号溝跡，遺構外出土土器



茨城県教育財団文化財調査報告第295集

**菰冠北遺跡**

**炭焼戸東遺跡**

主要地方道筑西つくば線バイパス道路  
改良事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成20(2008)年3月19日 印刷

平成20(2008)年3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2

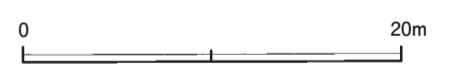
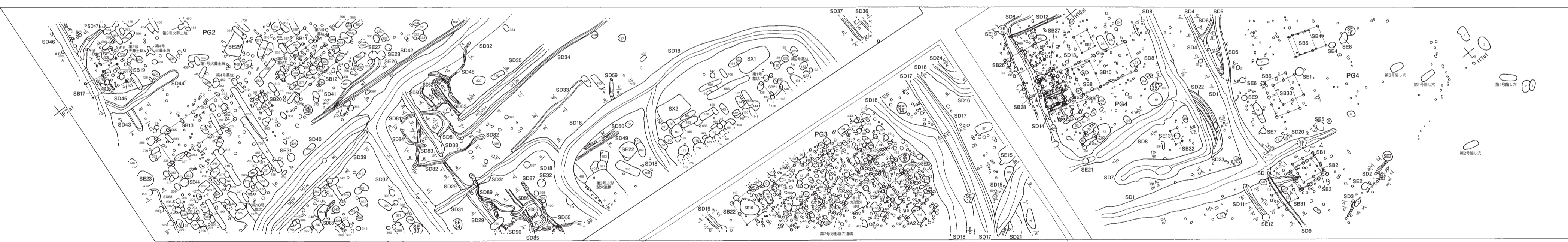
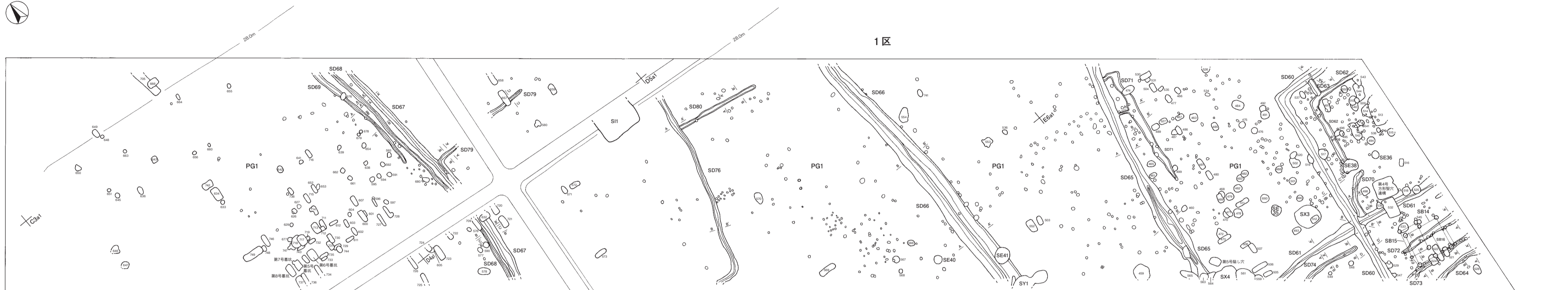
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 光和印刷

〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町1823-22

TEL 029-247-4362



付図 炭焼戸東遺跡 遺構全体図 茨城県教育財団文化財調査報告295集